

引切塚遺跡 青柳宿上遺跡

一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査（その3）報告書

2015. 3

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



引切塚遺跡全景（北から）



青柳宿上遺跡全景（南西から）

序

上武道路は、国道17号の混雑緩和と沿線地域における物流の促進のため、大規模バイパスとして埼玉県熊谷市から群馬県前橋市田口町に至る路線が計画され、これに伴う群馬県内での埋蔵文化財の調査が昭和48年度に開始されました。埼玉県寄りの部分区間が順次開通し、平成24年12月には前橋市上細井町までの区間が供用されています。

本書で報告する引切塚遺跡と青柳宿上遺跡は、赤城山の南西麓に位置する遺跡で、国土交通省からの委託を受けて、当事業団が平成24年度に発掘調査を実施したものです。

引切塚遺跡は、赤城白川の堤防西側にあり、縄文時代早期から古墳時代前期に至る各時代の埋蔵文化財が発見されました。

青柳宿上遺跡では、旧石器時代まで遡る石器の発見があり、縄文時代早期から古墳時代後期に至る各時代の埋蔵文化財が発見されました。

これらの遺跡は、赤城山南西麓を流下する赤城白川の扇状地にあつて、発見された河道跡からも河と原始・古代人の営みの関係を解き明かす貴重な歴史資料を提供することとなりました。

最後になりましたが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、国土交通省関東地方整備局、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、並びに地元関係者の皆様には、多大なご指導・ご協力を賜りました。本報告書の上梓に際し、関係者の皆様に心から感謝申し上げますと共に、本書が歴史研究の資料として広く活用されますことを願い、序と致します。

平成27年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 吉野 勉

例 言

1. 本書は、一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)による、引切塚遺跡と青柳宿上遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2. 引切塚遺跡は、前橋市青柳町880-3、880-5、883-8、883-10、883-5、883-20、883-16、883-15、883-14、883-18、883-17、883-2、883-24、883-25、883-19、886-2、883-21、883-1、884-4、884-5、884-3番地に所在する。調査対象面積は、1,543.12㎡である。

青柳宿上遺跡は、前橋市青柳町878-4、878-1、878-12、878-13、878-10、878-11、878-9、877-22、877-4、877-6、877-2、877-20、877-18、866-1、867-1、867-4、867-5、867-3、870、871、872-4、872-7、872-1、872-6、前橋市日輪寺町237、235、228-2、228-4、212-1、228-5番地に所在する。調査対象面積は、11,490.39㎡である。

3. 事業主体 国土交通省関東地方整備局

4. 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5. 調査期間と体制は次のとおりである。

調査委託契約履行期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日
調査期間	平成24年4月1日～平成24年11月30日
発掘調査担当	杉山秀宏(主任調査研究員)、長澤典子(主任調査研究員)
遺跡掘削請負工事	株式会社シン技術コンサル
地上測量・空中写真撮影	技研測量設計株式会社
テフラ分析業務委託	株式会社火山灰考古学研究所

6. 整理事業の期間と体制は次のとおりである。

整理委託契約履行期間	平成25年4月1日～平成27年3月31日
整理期間	平成26年1月1日～平成26年10月31日
整理担当	長澤典子(主任調査研究員)
放射性炭素年代測定業務委託	バリノ・サーヴェイ株式会社

7. 本書作成の担当者は以下のとおりである。

編集	長澤典子(主任調査研究員)	デジタル編集	齊田智彦(主任調査研究員)、佐藤元彦(補佐(総括))
執筆	第4章 第2節 石田典子(主任調査研究員)	第5章 第2節	二宮修治(東京学芸大学)
	第5章 第3節 宮崎重雄	第5章 第5節	熊原康博(広島大学)
	第5章 第6節 若井明彦(群馬大学)		田畑あすみ(群馬県桐生市土木事務所)
	上記以外		長澤典子(主任調査研究員)
遺物写真	石坂 茂(専門調査役)、石田典子(主任調査研究員)、長澤典子(主任調査研究員)		
保存処理	関 邦一(補佐(総括))		
遺物観察・観察表執筆			

縄文土器	谷藤保彦(上席専門員)、石坂 茂(専門調査役)	弥生土器	大木紳一郎(事業局長)
石器・石製品	石田典子(主任調査研究員)	土師器・須恵器・灰釉陶器	徳江秀夫(資料第二課長)
中世以降の土器・陶磁器	大西雅広(資料統括)	鉄製品	関 邦一(補佐(総括))

8. 出土石器の石器石材鑑定は、飯島静男氏(地質学者・群馬地質研究会会員)に依頼した。

9. 発掘調査および報告書の作成には、下記の諸機関・諸氏にご教示・ご指導をいただいた。記して感謝申し上げる次第である。(敬称略)

群馬県教育委員会 前橋市教育委員会 石田 真・橋本 淳(群馬県教育委員会) 増田 修(桐生市教育委員会)
下貴貴子(小松市教育委員会) 久田正弘(石川県埋蔵文化財センター) 藤田慎一
建石 徹(文化庁) 大工原豊(國學院大学) 林 克彦(石洞美術館)

10. 発掘調査の記録資料と出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

凡 例

1. グリッドの設定、座標値の表記は、国家座標第IX系(世界測地系)を用いた。また、図中のグリッド番号はXグリッド、Yグリッドの交点を示したもので、グリッド番号は、南東交点を基準とする。
2. 遺構断面図、等高線図に記した数値は標高を表し、単位はmである。
3. 遺構平面図の縮尺は、1/30・1/60を基本とした。
4. 遺物実測図ならびに遺物写真図版の縮尺は、1/1、1/2、1/3、1/4、1/6である。
5. 図中で使用したスクリーンパターンおよびマークは、以下のことを表す。

遺構図 炭・炭化物  焼土  灰  硬化面  カクラン  粘土 
弱硬化面  強化面 

遺物図 黒色  赤色塗彩  粘土  被熱 

6. 遺構の計測は、住居の場合はカマド主軸を基軸とし角度等の傾きを計測した。カマドを持たないものについては長軸を基軸とした。なお、計測値において全容が計測できない遺構については残存値()で表記してある。
7. 火山砕屑物の層層は、テフラの略称を使用した。略称の標記は以下のとおりである。
浅間Bテフラ[As-B] 榛名ニッ岳渋川テフラ[Hr-FA] 浅間Cテフラ[As-C] 浅間Dテフラ[As-D]
浅間宮前テフラ[As-Mm] 浅間総社テフラ[As-Sj] 浅間板鼻黄色テフラ[As-YP]
浅間大窪沢テフラ2 [As-OKP 2] 浅間大窪沢テフラ1 [As-OKP 1] 浅間白糸テフラ[As-SP]
浅間板鼻褐色テフラ[As-BP 3、As-BP 2、As-BP 1] 浅間室田テフラ[As-MP] 始良Tnテフラ[AT]
榛名三原田テフラ[HMP] 榛名八崎テフラ[Hr-HP]
8. 本書内で使用した色調は、『新版標準土色帳』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修)に準拠した。
9. 本書で使用した地形図は下記の通りである。

国土地理院：地勢図 1:200,000「宇都宮」(平成18年発行)

地形図 1:50,000「前橋」(平成10年発行)

地形図 1:25,000「渋川」(平成14年発行)

1:25,000「前橋」(平成22年発行)

前橋市役所：現形図 1:2,500(平成21年測図)

引切塚遺跡・青柳宿土遺跡 縄文土器胎土分類表

分類	特 徴
A	石英、長石、黒・白色粗砂を中量含む緻密な胎土。
B	多量の黒・白色粗砂礫と少量の石英、長石および微量の繊維を含むやや粗雑な胎土。
C	多量の黒・白色粗砂礫と少量の石英、長石含むやや粗雑な胎土。
D	多量の黒・白色粗砂礫と繊維及び少量の石英、長石含むやや粗雑な胎土。
E	石英、長石、黒・白色粗砂と雲母粒子を中量含む緻密な胎土。
F	石英、長石、黒・白色粗砂礫を多量に含むやや粗雑な胎土。
G	石英、長石、黒・白色粗砂を多量に含む緻密な胎土。

※各分類は肉眼観察による相対的なものである。

目 次

口絵
序
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
写真目次

第1章 調査に至る経過	
第1節 上武道路について	1
第2節 上武道路と埋蔵文化財	1
第3節 調査に至る経過	4
第4節 調査方法と経過	4
1 グリッドの設定	4
2 発掘調査の方法	4
3 発掘調査の経過	8
4 整理作業の経過	9
第2章 遺跡の概要	
第1節 遺跡の地理的環境	11
第2節 周辺遺跡	11
第3節 基本土層	21
第3章 引切塚遺跡の調査内容	
第1節 概要	29
第2節 縄文時代・弥生時代	29
第3節 古墳時代	37
第4章 青柳宿上遺跡の調査内容	
第1節 概要	47
第2節 旧石器時代	48
第3節 縄文時代	50
第4節 弥生時代	95
第5節 古墳時代	116
第6節 中世・近世・近代以降	219
第7節 地震痕跡	221
第5章 自然科学分析	
第1節 火山灰分析	224
第2節 青柳宿上遺跡出土黒曜石資料の産地分析	234
第3節 青柳宿上遺跡出土炭化材の放射性炭素年代測定	238
第4節 青柳宿上遺跡出土の馬歯	241
第5節 青柳宿上遺跡の地形と地震跡	242
第6節 青柳宿上遺跡で採取した砂質土の簡易液状化判定について	244
第6章 まとめ	
第1節 総括	247
遺構一覧表	249
遺物観察表	252
参考文献	291
写真図版	
報告書抄録	
付図 引切塚遺跡・青柳宿上遺跡全体図	1 : 400

挿図目次

第1図	上武道路と道跡の位置	1	第63図	道構外出上の縄文土器(7)	92
第2図	上武道路8工区の道跡	3	第64図	道構外出上の縄文土器(8)	93
第3図	引切塚道跡・青柳宿上道跡周辺図	5	第65図	道構外出上の縄文土器(9)	94
第4図	大・中グリッド設定図	6	第66図	平円形の窪地	96
第5図	中・小グリッド設定図	7	第67図	平円形の窪地上層断面(1)	97
第6図	道構全体図	10	第68図	平円形の窪地上層断面(2)	98
第7図	引切塚道跡・青柳宿上道跡周辺地形断面図	12	第69図	平円形の窪地上層断面(3)	99
第8図	周辺の道跡	13	第70図	平円形の窪地出土遺物(1)	100
第9図	基本土層	22	第71図	平円形の窪地出土遺物(2)	101
第10図	引切塚道跡・青柳宿上道跡旧石器トレンチ配置図	23	第72図	道構外出上の弥生土器	102
第11図	引切塚道跡・青柳宿上道跡縄文時代早期全体図	24	第73図	道構外出上の縄文・弥生時代の石器(1)	105
第12図	引切塚道跡・青柳宿上道跡縄文時代後期・晩期全体図	25	第74図	道構外出上の縄文・弥生時代の石器(2)	106
第13図	引切塚道跡・青柳宿上道跡古墳時代全体図	26	第75図	道構外出上の縄文・弥生時代の石器(3)	107
第14図	引切塚道跡・青柳宿上道跡トレンチ設定図	27	第76図	道構外出上の縄文・弥生時代の石器(4)	108
第15図	引切塚道跡縄文時代早期 遺物包含層全体図	30	第77図	道構外出上の縄文・弥生時代の石器(5)	109
第16図	縄文時代早期包含層出土遺物	32	第78図	道構外出上の縄文・弥生時代の石器(6)	110
第17図	4号ピットと出土遺物	33	第79図	道構外出上の縄文・弥生時代の石器(7)	111
第18図	道構外出上の縄文土器	34	第80図	道構外出上の縄文・弥生時代の石器(8)	112
第19図	道構外出上の弥生土器	35	第81図	道構外出上の縄文・弥生時代の石器(9)	113
第20図	道構外出上の縄文・弥生時代の石器	36	第82図	道構外出上の縄文・弥生時代の石器(10)	114
第21図	1号住居	38	第83図	道構外出上の縄文・弥生時代の石器(11)	115
第22図	1号住居上層断面	39	第84図	1号住居	117
第23図	1号住居掘方	40	第85図	1号住居カマド	118
第24図	1号住居出土遺物	41	第86図	1号住居出土遺物	119
第25図	2号住居	42	第87図	2号住居	120
第26図	2号住居出土遺物	43	第88図	2号住居掘方と出土遺物	121
第27図	1号井戸	44	第89図	2号住居カマド	122
第28図	1号溝	45	第90図	3号住居	123
第29図	1号・2号土坑、1号～3号ピット、道構外出上の古墳時代の遺物	46	第91図	3号住居カマド	124
第30図	旧石器トレンチ出土遺物	48	第92図	3号住居出土遺物	125
第31図	旧石器トレンチ詳細図	49	第93図	4号住居	126
第32図	30号住居と出土遺物	51	第94図	4号住居掘方	127
第33図	1号～3号集石	54	第95図	4号住居カマド	128
第34図	4号・5号集石と出土遺物	55	第96図	4号住居出土遺物	129
第35図	6号～8号集石	56	第97図	5号住居	130
第36図	9号～11号集石と9号・11号集石出土遺物	57	第98図	5号住居掘方と出土遺物	131
第37図	12号～14号集石と14号集石出土遺物	58	第99図	6号住居	132
第38図	縄文時代早期集石 構築石材(1)	59	第100図	6号住居掘方	133
第39図	縄文時代早期集石 構築石材(2)	60	第101図	6号住居カマド	134
第40図	1号河道全体図	62	第102図	6号住居出土遺物	135
第41図	1号河道(引切塚道跡側)	63	第103図	7号住居	136
第42図	1号河道(青柳宿上道跡側)	64	第104図	7号住居カマド	137
第43図	1号河道上層断面	65	第105図	8号住居	138
第44図	1号河道出土遺物(1)	66	第106図	8号住居カマド	139
第45図	1号河道出土遺物(2)	67	第107図	8号住居出土遺物	140
第46図	1号河道出土遺物(3)	68	第108図	9号住居	141
第47図	6号～8号土坑と6号土坑出土遺物	71	第109図	9号住居出土遺物	142
第48図	9号～15号土坑と14号・15号土坑出土遺物	72	第110図	10号住居	143
第49図	16号～19号土坑と16号・17号土坑出土遺物	73	第111図	10号住居カマド	144
第50図	27号～36号ピットと27号・28号・32号・36号ピット出土遺物	76	第112図	10号住居出土遺物	145
第51図	37号～45号ピットと37号・39号・40号ピット出土遺物	77	第113図	11号住居	146
第52図	1号・2号土器集中と出土遺物	79	第114図	11号住居掘方	147
第53図	3号・4号土器集中と出土遺物	80	第115図	11号住居カマド	148
第54図	5号～7号土器集中と出土遺物	81	第116図	11号住居出土遺物	149
第55図	1号～4号石器集中と1号・2号・4号石器集中出土遺物	82	第117図	12号住居	150
第56図	5号～7号石器集中と5号石器集中出土遺物	83	第118図	12号住居カマドと出土遺物	151
第57図	道構外出上の縄文土器(1)	86	第119図	13号住居	152
第58図	道構外出上の縄文土器(2)	87	第120図	13号住居掘方とカマド	153
第59図	道構外出上の縄文土器(3)	88	第121図	13号住居カマド掘方	154
第60図	道構外出上の縄文土器(4)	89	第122図	13号住居出土遺物	155
第61図	道構外出上の縄文土器(5)	90	第123図	14号住居	157
第62図	道構外出上の縄文土器(6)	91	第124図	14号住居掘方	158
			第125図	14号住居カマド	159

第126図	14号住居カマド掘方	160	第167図	15号集石出土遺物(1)	204
第127図	14号住居出土遺物	161	第168図	15号集石出土遺物(2)	205
第128図	15号住居	162	第169図	15号集石出土遺物(3)	206
第129図	15号住居掘方とカマド	163	第170図	15号集石出土遺物(4)	207
第130図	15号住居出土遺物(1)	164	第171図	2号河道	208
第131図	15号住居出土遺物(2)	165	第172図	2号河道土層断面と出土遺物	209
第132図	16号住居とカマド	166	第173図	1号～5号土坑	211
第133図	16号住居出土遺物	167	第174図	1号～20号ピット	215
第134図	17号住居	168	第175図	21号～26号ピット	216
第135図	17号住居カマドと出土遺物	169	第176図	遺構外出上の古墳時代の出土遺物(1)	217
第136図	18号住居と出土遺物	170	第177図	遺構外出上の古墳時代の出土遺物(2)	218
第137図	19号住居と出土遺物	171	第178図	群馬県勢多郡南橋村全国に見える1号道(昭和初期刊行)	219
第138図	20号住居	172	第179図	1号道	220
第139図	21号住居	173	第180図	遺構外出上の中世・近世の出土遺物	221
第140図	21号住居掘方と出土遺物	174	第181図	10号トレンチ断面図と33号トレンチ位置図、断面図	222
第141図	22号住居	175	第182図	8号トレンチ・セクションBの上層柱状図	225
第142図	22号住居カマドと出土遺物	176	第183図	13号トレンチ・セクションBの上層柱状図	225
第143図	23号住居と出土遺物	177	第184図	39号トレンチ北境の上層柱状図	229
第144図	24号住居	179	第185図	T10グリッドセクションC-C'の上層柱状図	229
第145図	24号住居掘方とカマド	180	第186図	39号トレンチ北壁軽石試料の重鉱物組成ダイヤグラム	231
第146図	24号住居出土遺物	181	第187図	T10グリッドセクションC-C'の火山ガラス比ダイヤグラム	231
第147図	25号住居	182	第188図	青柳窟上遺跡・西新井遺跡の分析資料	237
第148図	25号住居カマド	183	第189図	暦年較正結果	239
第149図	25号住居出土遺物	184	第190図	半円形の窪地出土炭化材の顕微鏡写真	240
第150図	26号住居	185	第191図	1号溝出土 白陶片	241
第151図	26号住居カマド	186	第192図	1号溝出土 切歯片	241
第152図	26号住居出土遺物(1)	187	第193図	地割れのような薄い板状の地変痕跡	245
第153図	26号住居出土遺物(2)	188	第194図	地割れの観察された位置	245
第154図	27号住居	189	第195図	地割れを充填していた材料	245
第155図	27号住居カマドと出土遺物	190	第196図	粒径加積曲線	245
第156図	28号住居と出土遺物	191	第197図	地震動の大きさに応じた F_v 値の変化(基本ケースにおいて、 x 値のみを変化)	246
第157図	28号住居カマド	192	第198図	地震動の大きさに応じた F_v 値の変化(基本ケースにおいて、 x 値のみを変化)	246
第158図	29号住居	193	第199図	地震動の大きさに応じた F_v 値の変化(基本ケースにおいて、 h 値のみを変化)	246
第159図	29号住居掘方とカマド	194	第200図	青柳窟上遺跡周辺の地形	249
第160図	29号住居出土遺物	195	第201図	遺跡内の地形・液状化跡・観察トレンチ壁面の位置	249
第161図	1号弩穴状遺構と出土遺物	196	第202図	32号トレンチ南壁面のモザイク写真	250
第162図	1号溝	198	第203図	33号トレンチ西壁面のモザイク写真	250
第163図	1号溝土層断面(1)	199	第204図	半円形の窪地内35号トレンチの西壁面(左)と東壁面(右)の写真	250
第164図	1号溝土層断面(2)	200			
第165図	1号溝土層断面(3)と出土遺物	201			
第166図	15号集石	203			

表 目 次

第1表	上武道路8工区調査遺跡一覧表	3	第14表	重鉱物組成分析結果	231
第2表	青柳窟上遺跡遺構名および遺構番号変更一覧表	9	第15表	火山ガラス比分析結果	231
第3表	周辺の遺跡一覧表	17	第16表	屈折率測定結果	232
第4表	引切塚・青柳窟上遺跡時代別遺構一覧表	28	第17表	青柳窟上遺跡出土黒曜石の産地分析結果	235
第5表	縄文時代早期包含層出土の石器 器種石材構成	32	第18表	西新井遺跡出土黒曜石の産地分析結果	235
第6表	遺構外出上の縄文・弥生時代の石器 器種石材構成	35	第19表	東日本の主な産地黒曜石の6元素組成	236
第7表	縄文時代早期30号住居出土石器 器種石材構成	50	第20表	放射性炭素年代測定および暦年較正結果	239
第8表	青柳窟上遺跡 未掘削遺構外出上縄文土器一覧表	85	第21表	1号溝出土 馬歯計測値	241
第9表	弥生時代の半円形の窪地出土の石器 器種石材構成	95	第22表	引切塚遺跡 遺構一覧表	249
第10表	遺構外出上の縄文・弥生時代の石器 器種石材構成	104	第23表	青柳窟上遺跡 遺構一覧表	249
第11表	テフラ検出分析結果	227	第24表	引切塚遺跡遺物観察表	252
第12表	屈折率測定結果	227	第25表	青柳窟上遺跡遺物観察表	255
第13表	テフラ検出分析結果	229			

写真目次

Pl. 1	1. 遺跡遠景(○印 引切塚遺跡・青柳宿上遺跡 南西から)	5. 1号ピット上層断面A-A' (西から)
	2. 遺跡遠景(○印 引切塚遺跡・青柳宿上遺跡 北から)	6. 1号ピット全景(南から)
Pl. 2	1. 引切塚遺跡全景(西から)	7. 2号ピット上層断面A-A' (南から)
	2. 引切塚遺跡全景(真上から上が東)	8. 2号ピット全景(南から)
Pl. 3	1. 青柳宿上遺跡全景(西から)	9. 3号ピット上層断面A-A' (南から)
	2. 青柳宿上遺跡全景(真上から上が北)	10. 3号ピット全景(南から)
Pl. 4	1. 縄文早期遺物包含層出土状況(北から)	11. 引切塚遺跡全景(南から)
	2. 縄文早期遺物包含層出土状況(北から)	12. 引切塚遺跡全景(東から)
	3. 縄文早期上層断面B-B' (南から)	Pl. 11
	4. 縄文早期包含層南壁上層断面(北から)	1. T-10グリッド旧石器出土状況(南から)
	5. 縄文早期上層断面D-D' (西から)	2. T-10グリッド旧石器出土状況(南から)
	6. 縄文早期上層断面I-I' (西から)	3. S-8・S-9・S-10・T-8・T-9・T-10グリッド旧石器トレンチ全景(南から)
	7. 縄文早期包含層東端 赤城白川(注)河道(南から)	4. T-10グリッド旧石器トレンチ上層断面A-A' (南から)
	8. 縄文早期遺物包含層調査風景(南西から)	5. T-10グリッド旧石器トレンチ上層断面C-C' (北から)
Pl. 5	1. 縄文早期遺物包含層出土遺物(南から)	6. 旧石器調査風景(南西から)
	2. 縄文早期遺物包含層出土遺物(北から)	7. N-19・O-17・P-15グリッド旧石器トレンチ全景(南から)
	3. 縄文早期遺物包含層出土遺物(東から)	8. R-12グリッド旧石器トレンチ全景(南から)
	4. 縄文早期遺物包含層出土遺物(東から)	9. E-14・E-17・F-16・G-14・H-18グリッド旧石器トレンチ全景(南から)
	5. 縄文早期遺物包含層出土遺物(南から)	10. L-10・M-8グリッド旧石器トレンチ全景(南から)
	6. 縄文早期遺物包含層調査風景(東から)	11. F-6・F-10・G-8・H-6グリッド旧石器トレンチ全景(南から)
	7. 縄文早期遺物包含層出土状況(南から)	12. F-4グリッド旧石器トレンチ全景(南から)
	8. 縄文早期遺物包含層調査風景(北から)	Pl. 12
	9. 縄文早期遺物包含層調査風景(北から)	1. 30号住居遺物出土状況(南から)
	10. 4号ピット注口上器出土状況(北から)	2. 30号住居全景(南から)
	11. 4号ピット注口上器出土状況(東から)	Pl. 13
	12. 4号ピット上層断面A-A' (北から)	1. 30号住居上層断面A-A' (南から)
Pl. 6	1. 1号河道全景(北東から)	2. 30号住居遺物出土状況(東から)
	2. 1号河道上層断面A-A' (東から)	3. 30号住居遺物出土状況(南から)
	3. 1号河道遺物出土状況(東から)	4. 30号住居遺物出土状況(南から)
	4. 1号河道遺物出土状況(東から)	5. 30号住居調査風景(南から)
	5. 1号河道遺物出土状況(北東から)	6. 30号住居調査風景(南から)
	6. 1号河道調査風景(北から)	7. 10号・11号集石全景(南から)
	7. 13号トレンチ上層断面B-B' (西から)	8. 12号・13号集石全景(東から)
	8. 13号トレンチフラ採取状況(北西から)	Pl. 14
Pl. 7	1. 1号住居全景(北から)	1. 1号集石上層断面A-A' (南から)
	2. 1号住居掘方全景(南から)	2. 1号集石全景(南から)
	3. 1号住居上層断面A-A' (南から)	3. 2号集石全景(南から)
	4. 1号住居上層断面B-B' (西から)	4. 3号集石全景(南から)
	5. 1号住居上層断面C-C' (西から)	5. 4号集石全景(南から)
	6. 1号住居遺物出土状況(北から)	6. 4号集石上層断面A-A' (南から)
	7. 1号住居遺物出土状況(北から)	7. 4号集石全景(西から)
	8. 1号住居遺物出土状況(北から)	8. 5号集石上層断面A-A' (西から)
Pl. 8	1. 2号住居全景(西から)	9. 5号集石全景(西から)
	2. 2号住居掘方全景(南から)	10. 6号集石全景(南から)
	3. 2号住居上層断面A-A' (西から)	11. 7号集石全景(南から)
	4. 2号住居上層断面B-B' (南から)	12. 8号集石全景(南から)
	5. 2号住居遺物出土状況(西から)	13. 9号集石全景(南から)
	6. 2号住居遺物出土状況(南から)	14. 10号集石全景(南から)
	7. 2号住居遺物出土状況(南から)	15. 10号集石上層断面A-A' (西から)
	8. 2号住居調査風景(南から)	Pl. 15
Pl. 9	1. 1号・2号住居掘方全景(北東から)	1. 11号集石全景(南から)
	2. 1号住居As-C混土上確認状況(南から)	2. 11号集石上層断面A-A' (西から)
	3. 1号住居調査風景(南西から)	3. 11号集石全景(南から)
	4. 1号溝全景(南東から)	4. 12号集石全景(南から)
	5. 1号溝上層断面A-A' (南から)	5. 12号集石全景(北から)
	6. 1号溝遺物出土状況(南東から)	6. 13号集石全景(北から)
	7. 1号井戸全景(南から)	7. 14号集石全景(南から)
	8. 1号井戸上層断面A-A' (東から)	8. 12号トレンチ(基本土層)上層断面A-A' (西から)
	9. 1号井戸全景(南東から)	9. 1号河道遺物出土状況(西から)
Pl. 10	1. 1号上坑上層断面A-A' (西から)	10. 1号河道遺物出土状況(北から)
	2. 1号上坑全景(西から)	11. 1号河道遺物出土状況(西から)
	3. 2号上坑上層断面A-A' (北から)	Pl. 16
	4. 2号上坑全景(西から)	1. 1号河道遺物出土状況(西から)
		2. 1号河道遺物出土状況(西から)
		3. 1号河道遺物出土状況(西から)

	4. 1号河道遺物出土状況(西から)		2. 41号ピット上層断面A-A'(南から)
	5. 1号河道遺物出土状況(西から)		3. 41号ピット全景(西から)
	6. 1号河道調査風景(北から)		4. 42号ピット上層断面A-A'(南西から)
	7. 1号河道遺物出土状況(西から)		5. 42号ピット全景(南西から)
	8. 1号河道遺物出土状況(西から)		6. 43号ピット上層断面A-A'(西から)
	9. 1号河道遺物出土状況(西から)		7. 43号ピット全景(南から)
	10. 1号河道遺物出土状況(西から)		8. 44号ピット上層断面A-A'(西から)
	11. 1号河道全景(西から)		9. 44号ピット全景(西から)
	12. 1号河道調査風景(北から)		10. 45号ピット遺物出土状況(南から)
PL. 17	1. 6号上坑周辺遺物出土状況(南から)		11. 45号ピット上層断面A-A'(西から)
	2. 6号上坑確認状況(南から)		12. 45号ピット全景(西から)
	3. 6号上坑上層断面A-A'(南から)		13. 1号土器集中(南から)
	4. 6号上坑遺物出土状況(南から)		14. 2号土器集中(南から)
	5. 6号上坑全景(南から)		15. 3号土器集中(南から)
	6. 7号上坑上層断面A-A'(西から)	PL. 22	1. 4号土器集中(南西から)
	7. 7号上坑全景(東から)		2. 5号土器集中(南から)
	8. 8号上坑上層断面A-A'(西から)		3. 6号土器集中(南から)
	9. 8号上坑全景(西から)		4. 7号土器集中(南から)
	10. 9号上坑上層断面A-A'(南西から)		5. 1号石器集中(南から)
	11. 9号上坑全景(北西から)		6. 2号石器集中(南から)
	12. 10号上坑上層断面A-A'(西から)		7. 3号石器集中(南から)
PL. 18	1. 10号上坑全景(南から)		8. 4号石器集中(東から)
	2. 11号上坑上層断面A-A'(南から)		9. 4号石器集中石蔵出土状況(東から)
	3. 11号上坑全景(南から)		10. 4号石器集中石蔵出土状況(東から)
	4. 12号上坑上層断面A-A'(南から)		11. 5号石器集中(東から)
	5. 12号上坑全景(南から)		12. 4号～7号石器集中(東から)
	6. 13号上坑上層断面A-A'(西から)	PL. 23	1. 97区北西部縄文早期遺物出土状況(南から)
	7. 13号上坑全景(南から)		2. 97区北西部縄文早期遺物出土状況(南から)
	8. 14号上坑上層断面A-A'(南西から)		3. 97区北西部縄文早期遺物出土状況(南から)
	9. 14号上坑遺物出土状況(南から)		4. 97区北東部縄文早期遺物出土状況(南から)
	10. 15号上坑上層断面A-A'(南西から)		5. 97区北東部縄文早期遺物出土状況(南から)
	11. 15号上坑遺物出土状況(南西から)		6. 97区北東部縄文早期遺物出土状況(南から)
	12. 16号上坑上層断面A-A'(北西から)		7. 97区北東部縄文早期遺物出土状況(南から)
	13. 16号上坑遺物出土状況(北西から)		8. 縄文早期調査風景(南西から)
	14. 17号上坑上層断面A-A'(北から)	PL. 24	1. 97区南西部縄文早期遺物出土状況(南から)
	15. 17号上坑遺物出土状況(北から)		2. 97区北東部縄文早期遺物出土状況(西から)
PL. 19	1. 17号上坑全景(北から)		3. 縄文早期調査風景(北から)
	2. 18号上坑上層断面A-A'(南西から)		4. 97区中央部縄文早期遺物出土状況(南西から)
	3. 18号上坑全景(南から)		5. 縄文早期調査風景(西から)
	4. 19号上坑上層断面A-A'(南から)		6. 97区中央部縄文早期遺物出土状況(南から)
	5. 19号上坑全景(南から)		7. 97区東部縄文早期遺物出土状況(南から)
	6. 27号ピット上層断面A-A'(西から)		8. 97区東部縄文早期遺物出土状況(南西から)
	7. 27号ピット全景(西から)		9. 縄文早期調査風景(南から)
	8. 28号ピット上層断面A-A'(西から)	PL. 25	1. 97区西部縄文早期遺物出土状況(南から)
	9. 28号ピット全景(西から)		2. 97区南東部縄文早期遺物出土状況(西から)
	10. 29号ピット全景(南から)		3. 縄文早期調査風景(南西から)
	11. 30号・31号ピット上層断面A-A'(南西から)		4. 97区南東部縄文早期遺物出土状況(西から)
	12. 30号・31号ピット全景(南西から)		5. 97区南東部縄文早期遺物出土状況(西から)
	13. 32号ピット遺物出土状況(北から)		6. 97区南東部縄文早期遺物出土状況(西から)
	14. 32号ピット全景(北から)		7. 97区南東部縄文早期遺物出土状況(西から)
	15. 33号ピット上層断面A-A'(南から)		8. 97区南東部縄文早期遺物出土状況(西から)
PL. 20	1. 33号ピット全景(北東から)		9. 97区南東部縄文早期遺物出土状況(西から)
	2. 34号ピット遺物出土状況(北から)	PL. 26	1. 97区南西部縄文早期遺物出土状況(北から)
	3. 34号ピット全景(北から)		2. 97区南西部縄文早期遺物出土状況(南東から)
	4. 35号ピット上層断面A-A'(東から)		3. 97区南西部縄文早期遺物出土状況(南から)
	5. 35号ピット全景(東から)		4. 97区南西部縄文早期遺物出土状況(南から)
	6. 36号ピット上層断面A-A'(西から)		5. 97区南西部縄文早期遺物出土状況(南から)
	7. 36号ピット遺物出土状況(東から)		6. 97区南西部縄文早期遺物出土状況(南から)
	8. 37号ピット上層断面A-A'(東から)		7. 97区南西部縄文早期遺物出土状況(南から)
	9. 37号ピット遺物出土状況(東から)		8. 97区南西部縄文早期遺物出土状況(南から)
	10. 37号・39号・35号・38号ピット全景(南から)		9. 調査風景(南から)
	11. 38号ピット上層断面A-A'(東から)	PL. 27	1. 平円形の窪地遺物出土状況(南から)
	12. 38号ピット全景(東から)		2. 赤生土器出土状況(北から)
	13. 39号ピット上層断面A-A'(東から)		3. 平円形の窪地上層断面A-A'(東から)
	14. 39号ピット全景(東から)		4. 平円形の窪地上層断面B-B'(南から)
PL. 21	1. 40号ピット全景(南西から)		5. 平円形の窪地上層断面B-B'(北から)

PL. 28	6. 半円形の窪地上層確認状況(南から)	PL. 36	7. 6号住居貯蔵穴遺物出土状況(西から)
	7. 半円形の窪地遺物出土状況(南から)		8. 6号住居遺物出土状況(西から)
	8. 半円形の窪地上層断面B-F(西から)		1. 7号住居全景(南西から)
	1. 半円形の窪地遺物出土状況(南から)		2. 7号住居方全景(南西から)
	2. 赤生土器遺出土状況(東から)		3. 7号住居上層断面A-A'(南東から)
PL. 29	3. 赤生土器遺出土状況詳細(東から)	PL. 37	4. 7号住居上層断面B-B'(南西から)
	4. 赤生土器遺出土状況詳細(東から)		5. 7号住居カマド方全景(南西から)
	5. 赤生土器遺・広口短頸遺出土状況(南から)		6. 7号住居溝状遺構土層断面D-F(南西から)
	6. 赤生土器遺出土状況(南から)		7. 7号住居溝状遺構全景(南西から)
	7. 赤生土器・灰化材出土状況(北から)		8. 調査風景(東から)
PL. 30	9. 半円形の窪地上層確認状況(南から)	PL. 38	1. 8号住居全景(南西から)
	1. 1号住居全景(南西から)		2. 8号住居方全景(南西から)
	2. 1号住居方全景(南西から)		3. 8号住居断面A-A'(南西から)
	3. 1号住居上層断面A-A'(南東から)		4. 8号住居方上層断面A-A'(南西から)
	4. 1号住居上層断面B-B'(南西から)		5. 8号住居カマド下層断面C-C'(南西から)
PL. 31	5. 1号住居カマド全景(西から)	PL. 39	6. 8号住居カマド下層断面C-C'(南西から)
	6. 1号住居カマド方全景(西から)		1. 8号住居貯蔵穴上層断面G-G'(南から)
	7. 1号住居貯蔵穴上層断面G-G'(南から)		2. 8号住居貯蔵穴遺物出土状況(南から)
	8. 1号住居貯蔵穴遺物出土状況(南から)		3. 8号住居遺物出土状況(南西から)
	1. 1号住居遺物出土状況(西から)		4. 8号住居遺物出土状況(南西から)
PL. 32	2. 2号住居全景(西から)	PL. 40	5. 8号住居遺物出土状況(北から)
	3. 2号住居方全景(西から)		6. 8号住居遺物出土状況(南西から)
	4. 2号住居上層断面A-A'(南から)		7. 9号住居全景(南西から)
	5. 2号住居上層断面B-B'(西から)		8. 9号住居方全景(南西から)
	6. 2号住居カマド遺物出土状況(西から)		1. 9号住居上層断面A-A'(南西から)
PL. 33	7. 2号住居カマド下層断面F-F'(西から)	PL. 41	2. 9号住居上層断面B-B'(北西から)
	8. 2号住居貯蔵穴上層断面I-I'(西から)		3. 10号住居全景(南西から)
	1. 2号住居貯蔵穴全景(西から)		4. 10号住居方全景(南西から)
	2. 2号住居遺物出土状況(南西から)		5. 10号住居上層断面A-A'(南西から)
	3. 3号住居全景(南西から)		6. 10号住居上層断面B-B'(南東から)
PL. 34	4. 3号住居方全景(南西から)	PL. 42	7. 10号住居カマド全景(南西から)
	5. 3号住居上層断面A-A'(南から)		8. 10号住居カマド方全景(南西から)
	6. 3号住居上層断面B-B'(西から)		1. 10号住居貯蔵穴上層断面E-E'(南西から)
	7. 3号住居カマド下層断面D-D'(西から)		2. 10号住居貯蔵穴全景(南西から)
	8. 3号住居カマド方全景(西から)		3. 10号住居遺物出土状況(南西から)
PL. 35	1. 3号住居カマド方全景(西から)	PL. 43	4. 10号住居遺物出土状況(南西から)
	2. 3号住居貯蔵穴上層断面F-F'(西から)		5. 11号住居全景(南西から)
	3. 3号住居貯蔵穴全景(西から)		6. 11号住居上層断面A-A'(南西から)
	4. 3号住居調査風景(東から)		7. 11号住居カマド全景(南西から)
	5. 3号住居遺物出土状況(西から)		1. 11号住居カマド下層断面B-B'(南東から)
PL. 36	6. 4号住居全景(南西から)	PL. 44	2. 11号住居カマド下層断面C-C'(南西から)
	7. 4号住居方全景(南西から)		3. 11号住居カマド方全景(南西から)
	8. 4号住居上層断面A-A'(南から)		4. 11号住居貯蔵穴遺物出土状況(南西から)
	1. 4号住居カマド全景(南西から)		5. 11号住居遺物出土状況(南西から)
	2. 4号住居カマド方全景(南西から)		6. 11号住居遺物出土状況(南から)
PL. 37	3. 4号住居貯蔵穴上層断面E-E'(南西から)	PL. 45	7. 11号住居遺物出土状況(南から)
	4. 4号住居貯蔵穴全景(南西から)		8. 12号住居全景(北西から)
	5. 4号住居遺物出土状況(南西から)		1. 12号住居方全景(北西から)
	6. 4号住居カマド遺物出土状況(南西から)		2. 12号住居上層断面A-A'(南西から)
	7. 4号住居紡輪出土状況(南西から)		3. 12号住居上層断面B-B'(北西から)
PL. 38	8. 4号住居紡輪出土状況(南西から)	PL. 46	4. 12号住居カマド方全景(北西から)
	1. 5号住居全景(南西から)		5. 12号住居カマド方全景(北西から)
	2. 5号住居方全景(南西から)		6. 12号住居貯蔵穴上層断面C-C'(南東から)
	3. 5号住居上層断面A-A'(南から)		7. 12号住居貯蔵穴全景(北西から)
	4. 5号住居上層断面B-B'(南西から)		8. 12号住居遺物出土状況(北西から)
PL. 39	5. 5号住居遺物出土状況(南西から)	PL. 47	1. 13号住居全景(南西から)
	6. 5号住居調査風景(北から)		2. 13号住居方全景(南西から)
	7. 6号住居全景(西から)		3. 13号住居上層断面A-A'(南西から)
	8. 6号住居方全景(西から)		4. 13号住居上層断面B-B'(北東から)
	9. 6号住居遺物出土状況(西から)		5. 13号住居カマド下層断面C-C'(南東から)
PL. 40	1. 6号住居貯蔵穴上層断面E-E'(西から)	PL. 48	6. 13号住居カマド下層断面D-D'(南西から)
	2. 6号住居貯蔵穴上層断面F-F'(西から)		7. 13号住居カマド方全景(南西から)
	3. 6号住居貯蔵穴遺物出土状況(西から)		8. 13号住居カマド方遺構出土状況(南西から)
	4. 6号住居貯蔵穴遺物出土状況(西から)		
	5. 6号住居貯蔵穴遺物出土状況(西から)		

PL. 44	<ol style="list-style-type: none"> 1. 13号住居貯蔵穴土層断面J-J' (南西から) 2. 13号住居貯蔵穴全景(南東から) 3. 13号住居貯蔵穴土層断面K-K' (北西から) 4. 13号住居カマド、貯蔵穴全景(南西から) 5. 13号住居遺物出土状況(南西から) 6. 13号住居P 2 土層断面M-M' (南西から) 7. 13号住居床下土層断面(南東から) 8. 13号住居床下硬化面(南西から) 	<ol style="list-style-type: none"> 3. 20号住居土層断面A-A' (西から) 4. 21号住居全景(南西から) 5. 21号住居掘方全景(南西から) 6. 21号住居土層断面A-A' (南西から) 7. 22号住居全景(南西から) 8. 22号住居掘方全景(南西から)
PL. 45	<ol style="list-style-type: none"> 1. 14号住居全景(南西から) 2. 14号住居掘方全景(南西から) 3. 14号住居土層断面A-A' (北西から) 4. 14号住居土層断面B-B' (南西から) 5. 14号住居1号カマド土層断面C-C' (南東から) 6. 14号住居1号カマド土層断面D-D' (南西から) 7. 14号住居カマド遺物出土状況(南西から) 8. 14号住居1号カマド全景(南西から) 	<ol style="list-style-type: none"> PL. 53 1. 22号住居土層断面A-A' (南西から) 2. 22号住居カマド土層断面B-B' (南から) 3. 22号住居貯蔵穴土層断面E-E' (西から) 4. 22号住居貯蔵穴全景(南西から) 5. 22号住居遺物出土状況(南西から) 6. 22号住居遺物出土状況(南西から) 7. 23号住居全景(西から) 8. 23号住居掘方全景(西から)
PL. 46	<ol style="list-style-type: none"> 1. 14号住居1号カマド掘方全景(南西から) 2. 14号住居2号カマド掘方全景(南西から) 3. 14号住居遺物出土状況(南西から) 4. 14号住居遺物出土状況(南西から) 5. 14号住居床下溝状遺構全景(南西から) 6. 15号住居第1床面全景(東から) 7. 15号住居第2床面全景(東から) 8. 15号住居掘方全景(東から) 	<ol style="list-style-type: none"> PL. 54 1. 23号住居掘方土層断面A-A' (西から) 2. 23号住居遺物出土状況(西から) 3. 23号住居貯蔵穴土層断面B-B' 全景(西から) 4. 23号住居貯蔵穴全景(西から) 5. 23号住居遺物出土状況(西から) 6. 23号住居P 3 土層断面E-E' 全景(西から) 7. 24号住居全景(西から) 8. 24号住居掘方全景(西から)
PL. 47	<ol style="list-style-type: none"> 1. 15号住居土層断面A-A' (南から) 2. 15号住居土層断面B-B' (西から) 3. 15号住居カマド土層断面C-C' (北から) 4. 15号住居カマド土層断面C-C' (北から) 5. 15号住居カマド土層断面D-D' (東から) 6. 15号住居カマド遺物出土状況(東から) 7. 15号住居カマド全景(東から) 8. 15号住居カマド掘方全景(東から) 	<ol style="list-style-type: none"> PL. 55 1. 24号住居土層断面A-A' (南から) 2. 24号住居土層断面B-B' (西から) 3. 24号住居カマド土層断面C-C' (南から) 4. 24号住居カマド土層断面C-C' (南から) 5. 24号住居カマド土層断面D-D' (西から) 6. 24号住居カマド掘方全景(西から) 7. 24号住居カマド掘方全景(西から) 8. 24号住居土坑全景(西から)
PL. 48	<ol style="list-style-type: none"> 1. 15号住居貯蔵穴土層断面F-F' (東から) 2. 15号住居貯蔵穴全景(東から) 3. 15号住居遺物出土状況(東から) 4. 15号住居遺物出土状況(北から) 5. 16号住居全景(南西から) 6. 16号住居掘方全景(南西から) 7. 16号住居土層断面A-A' (南東から) 8. 16号住居土層断面B-B' (南西から) 	<ol style="list-style-type: none"> PL. 56 1. 24号住居掘方土層断面B-B' (西から) 2. 24号住居掘方土層断面B-B' (西から) 3. 24号住居床下土坑全景(西から) 4. 24号住居遺物出土状況(西から) 5. 24号住居遺物出土状況(西から) 6. 24号住居遺物出土状況(西から) 7. 25号住居全景(北西から) 8. 25号住居掘方全景(北西から)
PL. 49	<ol style="list-style-type: none"> 1. 16号住居カマド全景(南西から) 2. 16号住居カマド掘方全景(南西から) 3. 16号住居遺物出土状況(南西から) 4. 16号住居遺物出土状況(南東から) 5. 17号住居全景(西から) 6. 17号住居掘方全景(西から) 7. 17号住居土層断面A-A' (西から) 8. 17号住居カマド土層断面C-C' (南から) 	<ol style="list-style-type: none"> PL. 57 1. 25号住居土層断面A-A' (西から) 2. 25号住居カマド土層断面E-C' (南から) 3. 25号住居カマド遺物出土状況(北西から) 4. 25号住居カマド全景(北西から) 5. 25号住居カマド掘方全景(北西から) 6. 25号住居掘方土層断面B-B' (北西から) 7. 25号住居掘方土層断面B-B' (北西から) 8. 25号住居P 1 土層断面D-D' (西から)
PL. 50	<ol style="list-style-type: none"> 1. 17号住居カマド遺物出土状況(西から) 2. 17号住居カマド全景(西から) 3. 17号住居カマド掘方全景(西から) 4. 17号住居貯蔵穴土層断面F-F' (南から) 5. 17号住居貯蔵穴全景(南から) 6. 17号住居遺物出土状況(西から) 7. 17号住居遺物出土状況(南から) 8. 18号住居全景(西から) 	<ol style="list-style-type: none"> PL. 58 1. 25号住居P 1 全景(西から) 2. 25号住居遺物出土状況(北西から) 3. 25号住居遺物出土状況(北西から) 4. 26号住居全景(東から) 5. 26号住居掘方全景(東から) 6. 26号住居土層断面A-A' (西から) 7. 26号住居カマド土層断面E-C' (北から) 8. 26号住居カマド掘方全景(東から)
PL. 51	<ol style="list-style-type: none"> 1. 18号住居掘方全景(西から) 2. 18号住居土層断面A-A' (西から) 3. 18号住居遺物出土状況(南から) 4. 19号住居全景(西から) 5. 19号住居掘方全景(西から) 6. 19号住居土層断面A-A' (西から) 7. 19号住居遺物出土状況(西から) 8. 19号住居遺物出土状況(西から) 	<ol style="list-style-type: none"> PL. 59 1. 26号住居カマド掘方全景(東から) 2. 26号住居貯蔵穴土層断面E-E' (北から) 3. 26号住居貯蔵穴全景(東から) 4. 26号住居掘方土層断面A-A' (西から) 5. 26号住居遺物出土状況(東から) 6. 26号住居遺物出土状況(東から) 7. 26号住居掘方遺物出土状況(東から) 8. 26号住居土玉出土状況(南から)
PL. 52	<ol style="list-style-type: none"> 1. 20号住居全景(南西から) 2. 20号住居掘方全景(南西から) 	<ol style="list-style-type: none"> PL. 60 1. 26号住居溝状遺構土層断面(西から) 2. 26号住居溝状遺構遺物出土状況(西から) 3. 26号住居溝状遺構遺物出土状況(南から) 4. 27号住居全景(南西から)

	5. 27号住居掘方全景(南西から)		12. 1号溝土層断面N-N' (東から)
	6. 27号住居土層断面A-A' (南から)	PL 69	1. 1号溝南端部門礫出土状況(南から)
	7. 27号住居カマド土層断面B-B' (南から)		2. 1号溝南端部門礫出土状況(東から)
	8. 27号住居カマド全景(南西から)		3. 1号溝遺物出土状況(北から)
PL 61	1. 27号住居カマド掘方全景(南西から)		4. 15号集石遺物出土状況(南から)
	2. 27号住居貯蔵穴土層断面D-D' (南西から)		5. 15号集石土層断面A-A' (西から)
	3. 27号住居貯蔵穴全景(南西から)		6. 15号集石遺物出土状況(南西から)
	4. 27号住居遺物出土状況(南西から)		7. 15号集石遺物出土状況(南西から)
	5. 28号住居遺物出土状況(南西から)		8. 15号集石遺物出土状況(南西から)
	6. 28号住居掘方全景(南西から)		9. 15号集石調査風景(東から)
	7. 28号住居土層断面A-A' (南から)	PL 70	1. 15号集石遺物出土状況(南西から)
	8. 28号住居カマド土層断面B-B' (南東から)		2. 15号集石遺物出土状況(南西から)
PL 62	1. 28号住居カマド土層断面B-B' (南から)		3. 15号集石遺物出土状況(南西から)
	2. 28号住居カマド土層断面B-B' (北西から)		4. 15号集石下層遺物出土状況(南から)
	3. 28号住居カマド土層断面C-C' (南から)		5. 15号集石下層遺物出土状況(南から)
	4. 28号住居カマド土層断面C-C' (南から)		6. 15号集石下層遺物出土状況(南から)
	5. 28号住居カマド全景(南西から)		7. 15号集石完掘状況(南から)
	6. 28号住居カマド掘方全景(南西から)		8. 15号集石構築石材
	7. 29号住居確認状況(北から)		9. 15号集石構築石材
	8. 29号住居全景(西から)		10. 15号集石調査風景(南から)
PL 63	1. 29号住居掘方全景(西から)		11. 15号集石構築石材
	2. 29号住居土層断面A-A' (東から)		12. 15号集石構築石材
	3. 29号住居土層断面B-B' (西から)	PL 71	1. 2号河道土層断面A-A' (西から)
	4. 29号住居カマド土層断面C-C' (南から)		2. 2号河道確認状況(北東から)
	5. 29号住居カマド全景(西から)		3. 2号河道調査風景(北から)
	6. 29号住居カマド掘方全景(西から)		4. 2号河道調査風景(西から)
	7. 29号住居貯蔵穴土層断面D-D' (南から)		5. 2号河道調査風景(南から)
	8. 29号住居貯蔵穴全景(西から)		6. 調査風景(北東から)
PL 64	1. 29号住居遺物出土状況(西から)		7. 1号土坑土層断面A-A' (西から)
	2. 29号住居遺物出土状況(西から)		8. 1号土坑全景(北西から)
	3. 29号住居遺物出土状況(西から)		9. 2号土坑土層断面A-A' (南から)
	4. 27号・28号住居土層断面(南から)	PL 72	1. 2号土坑全景(西から)
	5. 27号・28号住居全景(南東から)		2. 3号土坑土層断面A-A' (南西から)
PL 65	1. 97区整穴住居全景(南から)		3. 3号土坑全景(南西から)
	2. 1号住居周辺(南から)		4. 4号土坑土層断面A-A' (西から)
	3. 2号・3号住居周辺(南から)		5. 4号土坑全景(西から)
	4. 4号・5号・6号住居周辺(南から)		6. 5号土坑土層断面A-A' (西から)
	5. 7号・9号・10号住居周辺(南から)		7. 5号土坑全景(南から)
PL 66	1. 1号型穴状遺構全景(南西から)		8. 1号～8号ピット全景(南から)
	2. 1号型穴状遺構掘方全景(南西から)		9. 1号ピット土層断面A-A' (南から)
	3. 1号型穴状遺構土層断面A-A' (北西から)		10. 2号ピット土層断面A-A' (南から)
	4. 1号型穴状遺構土層断面B-B' (北から)		11. 3号ピット土層断面A-A' (南から)
	5. 1号型穴状遺構遺物出土状況(南西から)		12. 4号ピット土層断面A-A' (南から)
	6. 1号型穴状遺構遺物出土状況(西から)	PL 73	1. 5号ピット土層断面A-A' (南から)
	7. 1号溝全景(北西から)		2. 6号ピット土層断面A-A' (南西から)
	8. 1号溝全景(南東から)		3. 7号ピット土層断面A-A' (南西から)
PL 67	1. 1号溝全景(北から)		4. 8号ピット土層断面A-A' (南西から)
	2. 1号溝全景(北東から)		5. 9号ピット土層断面A-A' (南西から)
	3. 1号溝全景(北東から)		6. 10号ピット土層断面A-A' (西から)
	4. 1号溝全景(東から)		7. 10号ピット全景(西から)
	5. 1号溝全景(北から)		8. 11号ピット土層断面A-A' (西から)
	6. 1号溝全景(南から)		9. 11号ピット全景(西から)
	7. 1号溝全景(南から)		10. 12号ピット土層断面A-A' (西から)
	8. 1号溝全景(北から)		11. 12号ピット全景(西から)
	9. 1号溝・貯水池全景(東から)		12. 13号ピット土層断面A-A' (南西から)
PL 68	1. 貯水池全景(南から)		13. 13号ピット全景(南から)
	2. 1号溝土層断面A-A' (東から)		14. 14号ピット土層断面A-A' (南から)
	3. 1号溝土層断面B-B' (東から)		15. 14号ピット全景(南西から)
	4. 1号溝土層断面E-E' (西から)		1. 15号ピット土層断面A-A' (南から)
	5. 1号溝土層断面C-C' (東から)	PL 74	2. 15号ピット全景(南から)
	6. 1号溝土層断面H-H' (南東から)		3. 16号ピット土層断面A-A' (南から)
	7. 1号溝土層断面I-I' (南から)		4. 16号ピット全景(南から)
	8. 1号溝土層断面J-J' (北から)		5. 17号ピット土層断面A-A' (南から)
	9. 1号溝土層断面K-K' (東から)		6. 17号ピット全景(南から)
	10. 1号溝土層断面L-L' (南から)		7. 18号ピット全景(南から)
	11. 1号溝土層断面M-M' (東から)		8. 19号ピット全景(南から)

9. 20号ピット全景(南から)
 10. 21号ピット全景(南から)
 11. 22号ピット全景(南から)
 12. 23号ピット全景(南から)
 13. 24号ピット全景(南から)
 14. 25号ピット上層断面A-A' (南から)
 15. 25号ピット全景(南から)
- PL. 75
 1. 26号ピット上層断面A-A' (南から)
 2. 26号ピット全景(西から)
 3. 1号道北側全景(南から)
 4. 1号道上層断面A-A' (南から)
 5. 1号道石敷き検出状況(南から)
 6. 1号道上層断面B-B' (南から)
 7. 1号道南側全景(南から)
 8. 1号道上層断面C-C' (南から)
 9. 1号道南側全景(南から)
- PL. 76
 1. 32号トレンチ上層断面A-A' (北から)
 2. 10号トレンチ噴砂確認状況(北から)
 3. 33号トレンチ上層断面A-A' (東から)
 4. 35号トレンチ地割れ噴砂(西から)
 5. 24号住居調査風景(西から)
 6. 25号住居調査風景(西から)
 7. 26号住居調査風景(東から)
- PL. 77
 縄文時代早期確認面出土遺物、4号ピット出土遺物、遺構外出土の縄文土器
- PL. 78
 遺構外出土の弥生土器、遺構外出土の縄文・弥生時代の石器、1号住居出土遺物、2号住居出土遺物(1)
- PL. 79
 2号住居出土遺物(2)、旧石器トレンチ出土遺物、30号住居出土遺物、集石出土遺物(1)
- PL. 80
 集石出土遺物(2)、1号河道出土遺物(1)
- PL. 81
 1号河道出土遺物(2)
- PL. 82
 1号河道出土遺物(3)、縄文土坑出土遺物、縄文ピット出土遺物
- PL. 83
 土器集中出土遺物(1)
- PL. 84
 土器集中出土遺物(2)、石器集中出土遺物
- PL. 85
 遺構外出土の縄文土器(1)
- PL. 86
 遺構外出土の縄文土器(2)
- PL. 87
 遺構外出土の縄文土器(3)
- PL. 88
 遺構外出土の縄文土器(4)
- PL. 89
 遺構外出土の縄文土器(5)
- PL. 90
 遺構外出土の縄文土器(6)
- PL. 91
 半円形の窪地出土遺物(1)
- PL. 92
 半円形の窪地出土遺物(2)、遺構外出土の弥生土器
- PL. 93
 遺構外出土の縄文・弥生時代の石器(1)
- PL. 94
 遺構外出土の縄文・弥生時代の石器(2)
- PL. 95
 遺構外出土の縄文・弥生時代の石器(3)
- PL. 96
 遺構外出土の縄文・弥生時代の石器(4)
- PL. 97
 遺構外出土の縄文・弥生時代の石器(5)
- PL. 98
 遺構外出土の縄文・弥生時代の石器(6)
- PL. 99
 1号・2号・3号住居出土遺物
- PL. 100
 4号・5号・6号・9号住居出土遺物
- PL. 101
 8号・10号・11号住居出土遺物
- PL. 102
 12号・13号住居出土遺物
- PL. 103
 14号・15号住居出土遺物(1)
- PL. 104
 15号住居出土遺物(2)・16号・17号・18号・19号住居出土遺物
- PL. 105
 22号・24号・25号住居出土遺物・26号住居出土遺物(1)
- PL. 106
 26号住居出土遺物(2)・27号・28号・29号住居、1号整穴状遺構、1号溝出土遺物
- PL. 107
 15号集石出土遺物(1)
- PL. 108
 15号集石出土遺物(2)、2号河道出土遺物、遺構外出土の古墳時代の出土遺物、遺構外出土の中世・近世の出土遺物

第1章 調査に至る経過

第1節 上武道路について

上武道路は一般国道17号の交通混雑に対応するために計画された大規模バイパスで、埼玉県熊谷市で深谷バイパスから分岐、群馬県前橋市田口町で現道に接続する延長40.5kmの道路である。現道の西には、前橋洗川バイパス、その先には鯉沢バイパス、また計画では上信自動車道が続いて、県北西部の新たな交通幹線網整備事業として期待されている。平成10年には、前橋洗川バイパスを含めて地域高規格道路「熊谷洗川連絡道路」として計画路線の指定を受け、群馬県では「幹線交通乗り入れ3分構想」の中で主要幹線のひとつに位置づけられている。

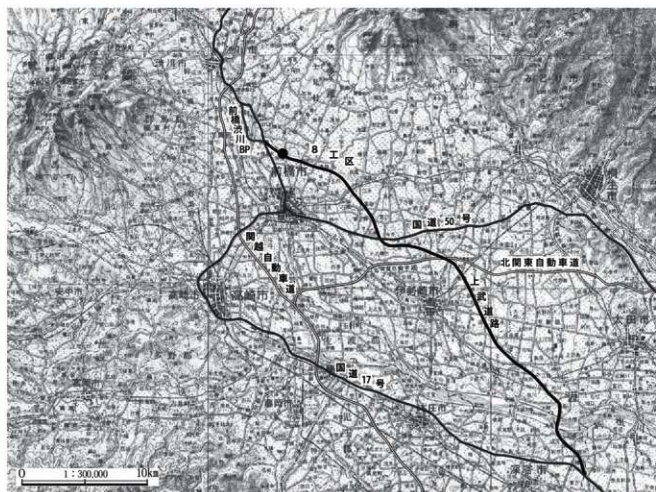
上武道路の建設事業は、昭和45年度から着手され、平成4年2月までには起点から国道50号までの延長27.4km

区間が供用された。その後、供用区間が延伸するとともに交通量は増大し、平成元年度に着手された国道50号から前橋市上泉町までの4.9km区間(7工区)が、平成20年6月に暫定2車線で供用された。

一般国道17号(上武道路)改築事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)が対象とする8工区は、平成17年度に事業が着手され、平成24年度に主要地方道前橋赤城線までの4.7km区間の暫定開通を果たし、全線開通までの最終3.5km区間の発掘調査と工事が進められている。

第2節 上武道路と埋蔵文化財

上武道路が通過する地域は、群馬県内でも有数の埋蔵文化財包蔵地の多い地域である。群馬県は、昭和48年に



第1図 上武道路と道跡の位置 国土地理院発行1/200,000地勢図「宇都宮」平成18年発行を縮小して使用

文化財保護室を文化財保護課に拡充して調査にあたり、昭和53年度からは財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団（現公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団）が調査事業を受託して、現在に至っている。

上武道路の建設事業は起点側から段階的に進められてきた。その工程は概ね①埼玉県境から国道50号まで、②国道50号から前橋市上泉町まで、③前橋市上泉町から前橋市田口町の現国道17号までの3つの区間に分けることができ、現在は③の中程まで供用が開始されている。

埼玉県境から国道50号までの区間では、35カ所の遺跡の発掘調査が行われ、調査の成果は26冊の発掘調査報告書として刊行されている。この区間の事業が完了した平成7年には、埋蔵文化財調査の成果をより広く公開するため、冊子総集編「地域をつなぐ 未来へつなぐ—上武道路埋蔵文化財22年の軌跡—」が刊行された。この総集編では、「弥生時代の開拓者」といった平野部での発掘調査や「芳郷」の墨書土器出土で話題となった古代勢多郡の芳賀郷、東山道駅路のひとつにも推定されていた「あずま道」など、この地域の歴史的課題に対する検討の結果がまとめられており、今後取り組むべき考古学的課題も特記されている。

国道50号から前橋市上泉町までは7工区にあたる。ここでは17カ所の遺跡が発掘調査の対象となり、16冊の発掘調査報告書が刊行されている。この区間の発掘調査では、荒砥川の東で検出された古墳時代の集落が周辺の今井神社古墳や大室古墳群の築造と関連する可能性があること、荒砥前田Ⅱ遺跡では県内でも希少な巴形銅器破片が出土したこと、女堀の調査では浅間粕川テフラが確認されたことで開削年代を特定する手がかりが得られたこと等が成果としてあげられている。荒砥川の西では、帯状低地に分断された台地ごとに縄文時代前期の集落が立地し、旧石器時代の遺物も暗色帯および上位の複数の土層から出土したことが注目されている。

前橋市上泉町から現国道17号までは8工区にあたり、31カ所の遺跡、約40万㎡が埋蔵文化財の調査対象となっている。工区名称は県道前橋赤城線を境界にして東が8-1工区、西が8-2工区と呼ばれている。調査は、平成18年度に8-1工区の東端から始められ、工事工程との調整により、平成23年度からは8-2工区の西端である終点の田口下田尻遺跡の調査も開始された。

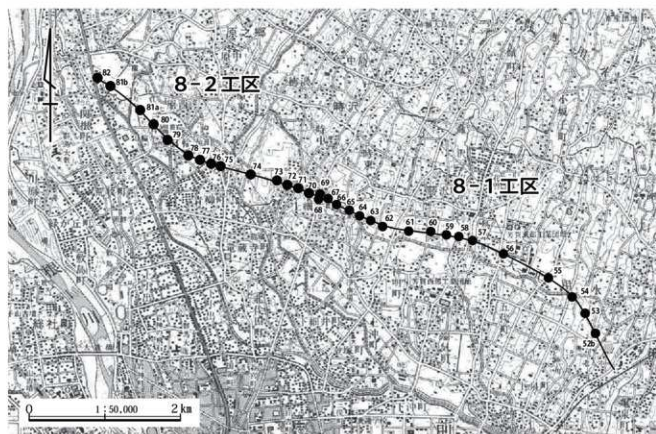
8-1工区は、これまでと同様に旧石器時代や縄文時代の遺構・遺物が多いのに対して、8-2工区では縄文時代より新しい遺跡の存在が続々と明らかになっている。遺跡の実態が未知数であった赤城白川流域の白川扇状地では、予想外の縄文時代の埋没谷や旧石器まで含まれていることが判明している。特に最西端の田口下田尻遺跡では整穴住居280棟が検出された大集落が調査され、従来の広瀬川低地帯の遺跡分布の理解を見直す資料が得られている。

これまで、群馬県内の上武道路関連で発掘調査を実施してきた遺跡には、J Kを冠した遺跡略号が付されている。Jが上武、Kが国道を指しており、南側の起点から順次算用数字を1から付している。8工区も、7工区の最終番号J K 52に続けて、この略号を記録類作成に際して使用している。J K 52は、上泉唐ノ堀遺跡が供用部分の関係で7工区と8工区で分割されたことから、8工区分の上泉唐ノ堀遺跡にはJ K 52bをつけて7工区と区別している。また、J K 59鳥取塚田遺跡・J K 77日輪寺諏訪前遺跡・J K 78諏訪遺跡には、試掘調査で遺構の無いことが判明し、発掘調査対象から除外したものの略号は欠番とせず、そのままとした(第1表・第2図)。さらに、当初関根遺跡群で一括されていた遺跡が、田口下田尻遺跡、関根細ヶ沢遺跡、関根赤城遺跡に細分されたことと、平成23年度に調査が開始された田口下田尻遺跡を先行して82としたことから、関根細ヶ沢遺跡は81a、関根赤城遺跡は81bとすることとした。

平成25年8月31日には、8-2工区の田口下田尻遺跡の調査が終わり、昭和48年から続いた上武道路建設に関わる発掘調査が終了した。これを記念して、平成26年9月14日～12月26日まで「発掘された赤城南麓の歴史」の展示を公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の発掘情報館にておこなった。赤城南麓地域の歴史を垣間見ることができるよう、国道50号線以北の上武道路の発掘調査で発見した、旧石器時代から室町時代に至る出土遺物や発掘調査時の写真などを展示した。

第1表 上武道路8工区調査遺跡一覧表

J K No.	遺跡名	所在地	市町村 遺跡番号	調査年度	報告書 発行年度
52b	上泉唐ノ廻道跡	前橋市 上泉町	00774	平成18・19・20年度	平成23年度
53	上泉新田塚道跡群	前橋市 上泉町	00775	平成18・19・20年度	平成23年度
54	上泉武田道跡	前橋市 上泉町	00773	平成19年度	平成24年度
55	五代砂留道跡群	前橋市 五代町	00772	平成19年度	平成23年度
56	芳賀東部市地遺跡	前橋市 五代町・鳥取町	00357	平成18・19・20年度	平成24年度
57	鳥取松合下道跡	前橋市 鳥取町	00776	平成20年度	平成23年度
58	駒城道跡	前橋市 鳥取町	00041	平成19・20・21年度	平成23年度
59	鳥取塚田道跡	前橋市 勝京町		調査除外	—
60	堤道跡	前橋市 勝京町	00034	平成20年度	平成24年度
61	小神明勝沢境道跡	前橋市 小神明町	00778	平成20年度	平成23年度
62	小神明富士塚道跡	前橋市 小神明町・上郷井町	00403	平成20・21年度	平成23年度
63	東田之口道跡	前橋市 上郷井町	00125	平成20年度	平成23年度
64	丸子道跡	前橋市 上郷井町	00134	平成20年度	平成24年度
65	上郷井五十嵐道跡	前橋市 上郷井町	00777	平成20・21年度	平成24年度
66	天王・東郷屋谷ノ道跡	前橋市 上郷井町	00131	平成20・21年度	平成25年度
67		前橋市 富士見町	90094	平成20・21年度	平成25年度
68		前橋市 上郷井町	00798	平成21年度	平成24年度
69	上町・時沢西組屋谷ノ道跡	前橋市 富士見町	90097	平成21年度	平成24年度
70	王久保道跡	前橋市 上郷井町・富士見町	00794	平成21・24年度	平成24年度
71	新田上道跡	前橋市 上郷井町	00128	平成24年度	平成26年度
72	上郷井中島道跡	前橋市 上郷井町	00787	平成21・24年度	平成25年度
73	上郷井獅子山道跡	前橋市 上郷井町	00786	平成21・24年度	平成24年度
74	山王・柴道跡群	前橋市 青柳町	00795	平成21・22・23・24・25年度	平成26年度
75	引切塚道跡	前橋市 青柳町	00434	平成24年度	平成26年度
76	青柳宿上道跡	前橋市 青柳町・日輪寺町	00325	平成24年度	平成26年度
77	日輪寺諏訪前道跡	前橋市 日輪寺町		調査除外	—
78	諏訪道跡	前橋市 日輪寺町	00144	調査除外	—
79	川端根岸道跡	前橋市 川端町	00807	平成24年度	
80	川端山下(道東)道跡	前橋市 川端町	00808	平成24・25年度	
81a	関根榎ヶ沢道跡	前橋市 関根町	00802	平成24年度	平成26年度
81b	関根赤城道跡	前橋市 関根町	00803	平成24年度	平成25年度
82	田口下田尻道跡	前橋市 田口町	00804	平成23・25年度	



第2図 上武道路8工区の遺跡 国土地理院1/50,000地形図「前橋」平成10年発行を使用

● 発掘調査遺跡

第3節 調査に至る経過

上武道路7工区の発掘調査は、上泉唐ノ堀遺跡を最後に平成16年度末で終了した。その後の工事は順調で、県道前橋大胡線までの供用が間近に迫っていた。さらに同16年度には、国道17号の現道から西の前橋渋川バイパスが着工されたことから、8工区は、開通部分と前橋渋川バイパスとの間に残された格好となり、早期着工を待ち望む声が一段と強まった。

8工区が建設に向けて動いたのは、平成18年度に入ってからである。国土交通省による路線測量、関係機関との調整や地元への協力要請を経て、用地取得等の工事前準備が起点側から始まった。これまでの調査状況からみて、埋蔵文化財が用地内にあることは明確であったことから、埋蔵文化財の発掘調査をするための調整がおこなわれた。

埋蔵文化財の発掘調査について実施に向けての協議が、国土交通省関東地方整備局長と群馬県教育委員会教育長、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長との間で行われ、平成18年2月16日付で「一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)の実施に関する協定書」(以下、「協定書」という。)が三者の間で締結された。これによって、群馬県教育委員会の調整を経て、埋蔵文化財の発掘調査を財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が受託することとなった。

協定書では、協定の適用区間、発掘調査の実施場所・対象面積が示され、平成18年10月1日～平成29年3月31日に発掘調査を完了させることが明記された。なお、「協定書」は、平成18年6月20日付で、調査期間の開始を3カ月前倒しとする変更のための「変更協定書」が締結されて、現在に至っている。この「変更協定書」に基づいて、平成18年7月から東端の上泉唐ノ堀遺跡・上泉新田塚遺跡群の発掘調査が開始された。

また、各遺跡が発掘調査に入る前には、調査範囲と調査面積の確定、調査期間や経費算定のため、群馬県教育委員会文化財保護課により、平成18年4月25日・26日、同年5月17日・18日、同年8月11日、同年12月5日～7日、平成19年8月16日～27日、同年12月10日～14日、平成21年1月6日～8日、同年4月20日～5月7日、同年9月25日～29日、平成22年12月6日～20日、平成23

年5月12日～23日、同年8月22日～24日、同年10月18日、の13回(23年度未現在)にわたって、8工区の試掘調査が実施された。

引切塚遺跡の試掘調査は、平成23年5月12日～23日に、青柳宿上遺跡の試掘調査は、平成23年5月12日～23日と同年10月18日に、群馬県教育委員会文化財保護課によって行われた。調査は、調査対象地内に1m幅のトレンチを14カ所設定して実施した。その結果、旧河道、古墳時代の住居と土坑、古代の溝と土坑が確認され、本調査が必要とされた。そして、平成24年4月1日より発掘調査が開始された(第3図)。

第4節 調査方法と経過

1 グリッドの設定

グリッドについては、国家座標系IX系(世界測地系)を用いて上武道路8工区全域がカバーできるように $X=45,000$ 、 $Y=-63,000$ (前橋市上泉地内)を起点に1km四方に区切った。それを大グリッドとして1～100の番号を振り、第〇地区と呼称した。引切塚遺跡と青柳宿上遺跡は、第8・9地区に含まれる。中グリッドは一つの地区の内部を100m四方で区画したもので、これを〇区とした。両遺跡は、第8地区86～88区・96～99区、第9地区7・8区にまたがる形になっている(第4図)。各区においては区の南東隅を起点に5m単位で分割し、これを小グリッドとした。なお、グリッド呼称については、区の南東隅を起点にX軸に1～20、Y軸にA～Tを付して、南東隅の交点と呼称することとした(第5図)。

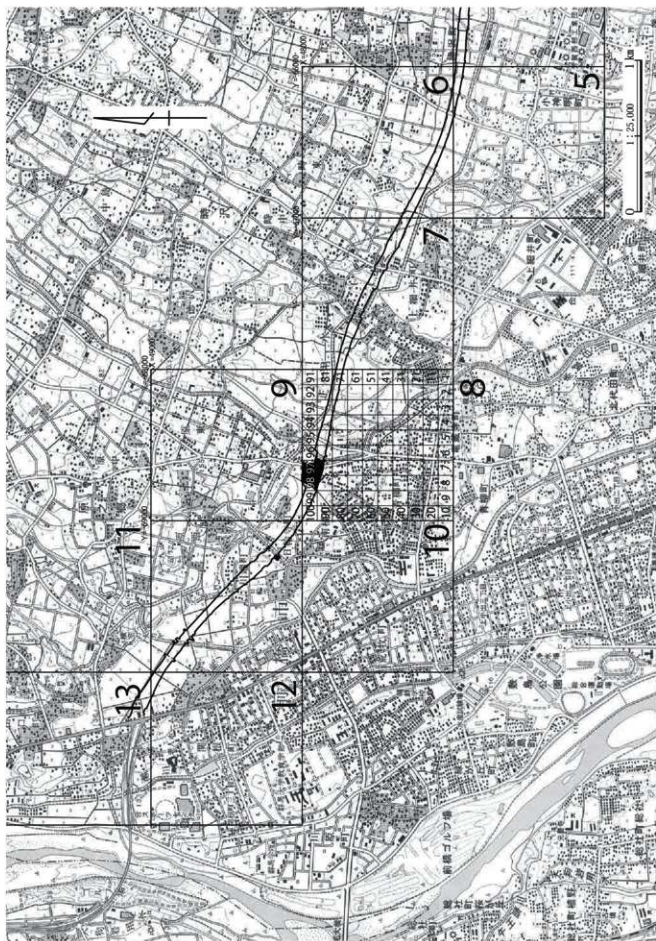
2 発掘調査の方法

発掘調査は、まず重機により表土を掘削し、表土除去後は、発掘作業員がジョレンを用いて表面精査を行った。その際、面的な遺構の把握に努めた。

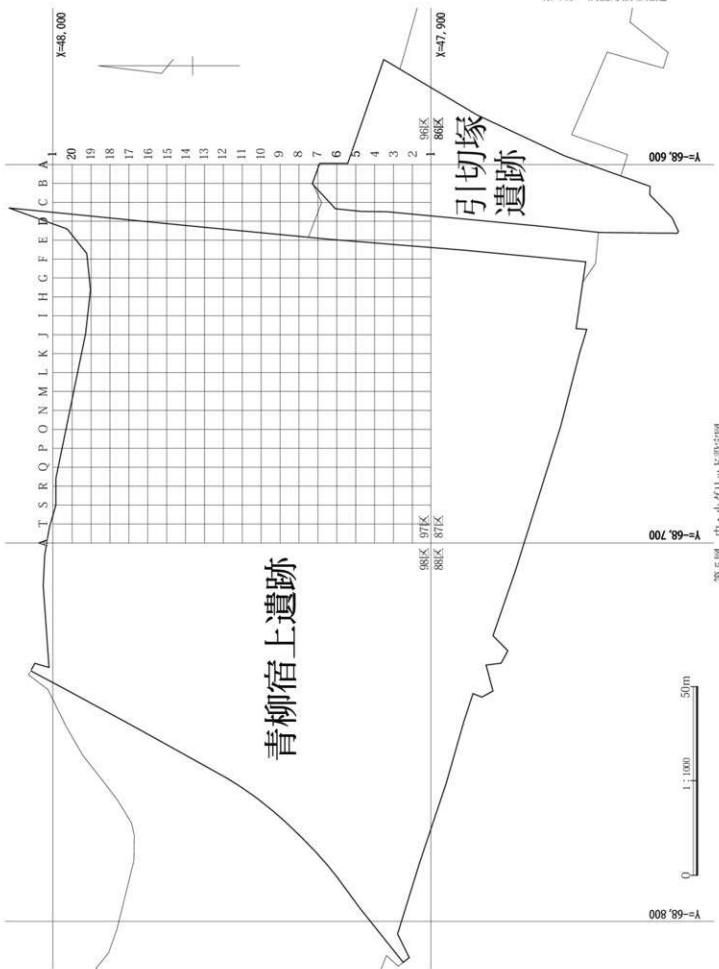
遺構確認は、引切塚遺跡、青柳宿上遺跡いずれも、基本土層II層を確認面として、古墳時代の遺構を検出した。古墳時代前の調査終了後、同一層位と考えられる引切塚遺跡の8号トレンチと青柳宿上遺跡の5号トレンチの洪水層下からそれぞれ石器を検出した。しかし、古墳時代確認面から2m程の深い地点からの出土であるため、再



第3図 引切塚遺跡・青柳宿上遺跡周辺図（前橋市役所 1:2,500 前橋市現形図（平成21年測図）を使用）



第4図 大・中グリッド設定図（国土院院1/25,000地形図「澁川」（平成14年発行）「前編」（平成22年発行）を使用）



第5圖 中・小グリッド設定図

第1章 調査に至る経過

度、重機で縄文早期面上の洪水層まで掘削をおこなった。縄文早期包含層調査終了後、旧石器時代を対象としたローム層へのトレンチ調査を行った。引切塚遺跡では、旧石器時代の遺物は、確認されなかったが、青柳宿上遺跡では、2点の剥片を発見した。

各遺構の調査は、住居は土層確認のために十字形にセクションラインを設定し、掘り下げ作図した。竪穴状遺構・井戸・土坑・ピットなどは半成して土層確認を行った。遺構名は、遺跡別に遺構の種類毎、各確認面毎に番号を用いて標記した。

遺構等の測量は、主に土層断面図を作業員による手実測とし、平面図と一部の断面図を測量業者に委託して調査期間の短縮を図った。縮尺は、1/10、1/20、1/40を基本とし、それぞれの遺構の性格に合わせて適宜使用した。

写真撮影は、中判カメラでの白黒フィルム、デジタルカメラでのデータ撮影の2種類で行った。調査区の全景写真等は、調査の進展に合わせて行い、ラジコンヘリによる空中写真撮影を業者に委託し、5月18日に引切塚遺跡で1回、10月24日に青柳宿上遺跡で1回、計2回実施した。引切塚遺跡では、古墳時代前期の2軒を撮影し、青柳宿上遺跡では、調査面は異なるが古墳時代住居・縄文時代晩期河道・縄文時代早期集石などをまとめて撮影した。なお、撮影した写真のデジタルデータは、HDやDVD-ROM等のメディアに保存し、データのファイル名は、遺構略号・番号・撮影方向・内容を数値化したものに置き換えるリネーム作業を行った。

3 発掘調査の経過

引切塚遺跡の発掘調査は、平成24年4月～8月まで5カ月、青柳宿上遺跡の発掘調査は、平成24年4月～11月まで8カ月を要した。以下それぞれ、調査概要を記していく。

引切塚遺跡 平成24年

- 4月2日 調査準備作業開始。
- 4月9日 県教委文化財保護課来跡。
- 4月12日 国交省、渋川土木事務所、県文化財保護課との現地打ち合わせ。
- 4月13日 現場作業開始。調査区範囲確認。
- 4月18日 調査区南側から重機により表土掘削開始。遺

構確認のための精査を行う。

- 4月20日 古墳時代前期の住居およびピット等の遺構調査を開始。
- 5月18日 古墳時代の空中写真撮影を実施。
- 5月22日 縄文時代遺構確認の為、トレンチを設定。調査区南側より掘り下げ開始。
- 5月29日 ピット埋設の注口土器の調査を実施。
- 6月7日 3号トレンチ縄文時代晩期の河道調査開始。
- 6月11日 8号トレンチ洪水層下から石器を検出。
- 6月12日 8号トレンチB-Bからテフラ分析試料採取。
- 6月27日 8号トレンチを拡張し、縄文時代早期調査を実施。燃糸文系、条痕文系土器片や石器出土。
- 7月18日 13号トレンチ(旧石器調査トレンチ) B-Bから自然科学分析(テフラ分析)試料採取。
- 7月20日 調査区北側を重機により表土掘削。
- 7月23日 調査区北側、遺構確認のための表面精査。
- 8月3日 調査区北側全景写真撮影終了後、埋め戻し。

青柳宿上遺跡 平成24年

- 4月2日 調査準備作業開始。
- 4月9日 県教委文化財保護課来跡。
- 4月12日 国交省、渋川土木事務所、県文化財保護課との現地打ち合わせ。
- 4月13日 現場作業開始。調査区範囲確認。
- 4月16日 現場プレハブ事務所用地整地開始。
- 4月17日 97区北側から重機により表土掘削開始。遺構確認のための精査を行う。
- 4月20日 97区北側の古墳時代後期の住居等の遺構調査を開始。
- 5月17日 5号トレンチ洪水層下から石器を検出。
- 6月13日 ハイライザー(高所作業車)で、古墳時代面の高所写真撮影を実施。
- 6月19日 97区北側、縄文時代中期～後期の遺構確認のためのトレンチ調査開始。
- 7月26日 97区北側、縄文時代早期面まで重機により掘削。縄文時代早期遺物包含層調査のため、表面精査を行う。燃糸文系、条痕文系土器片や石器出土。
- 7月30日 97区10号トレンチより噴砂跡検出。
- 8月8日 45号ピットより縄文時代早期尖底土器を検出。

- 8月9日 縄文時代早期の1号集石検出。
- 9月26日 97区南側、87区重機により表土掘削開始。遺構確認のための表面精査。
- 10月3日 97区南側、古墳時代の河川跡、集石遺構、住居等の遺構調査を開始。
- 10月4日 87区縄文時代晩期の河道調査開始。
- 10月10日 97区33号トレンチより地すべり跡を検出。
- 10月11日 87区縄文時代晩期の河道より縄文晩期の浮線文系土器、石器、耳栓など出土。
- 10月10日 87区32号トレンチより地すべり跡を検出。
- 10月25日 群馬大学教育学部准教授(当時)、熊原康博氏(現:広島大学大学院准教授)を指導者として招く。32号トレンチ、33号トレンチの地すべりについて教示を受ける。
- 11月5日 半円形の窪地に設定した34号トレンチから土器出土。
- 11月14日 半円形の窪地西半分、土器が出土した面まで重機にて掘削開始。97区T-4グリッドより旧石器の剥片2点出土。
- 11月15日 半円形の窪地西半分、土器が出土した面まで重機にて掘削開始。半円形の窪地北39号トレンチと旧石器出土の97区T-4グリッドにてテフラ分析試料採取。
- 11月20日 群馬大学工学部大学院教授(当時)、若井明彦氏(現:群馬大学理工学部大学院教授)、大学院生田畑あすみ氏(現:桐生土木事務所勤務)来跡。半円形の窪地内、および遺跡内の噴砂跡について、お話を伺う。
- 11月30日 重機による埋戻しを行い、現地調査を終了した。

4 整理作業の経過

整理事業は、平成26年1月1日から平成26年10月31日までの10カ月間行った。

まず、出土遺物の分類から開始し、土器の接合・復元・写真撮影、実測作業を行った。縄文土器や弥生土器も、接合・復元・写真撮影をし、その後拓本・断面実測作業をした。石器は分類・接合作業後、写真撮影をし、実測を進めた。これら遺物園のトレース作業後は、各遺物の観察表の執筆を行った。遺構図については、平面図と断

面図の確認と修正作業後にデジタル編集作業を進めた。併せて、遺構写真の選定、本文執筆を行った。最後に、報告書のレイアウト作成、全体のデジタル編集作業およびデジタル組版を行い、印刷・製本を業者に委託して発掘調査報告書を刊行した。

整理した遺物や写真等については、管理台帳を作成し、活用に備えて遺物や資料類の取納作業を行い、全ての業務を完了した。

なお、引切塚遺跡と青柳宿上遺跡を合わせた遺構全体図を第6図に示した。ただし、名称については、主な遺構のみ明記した。また、時代別の遺構分布については、第10図～第13図を参照のこと。

また、本報告書では、第2表のように青柳宿上遺跡では、遺構名や遺構番号の付け替えを行った。

第2表 青柳宿上遺跡遺構名および遺構番号変更一覧表

旧遺構番号	新遺構番号
縄文早期1号住居	30号住居
古墳1号集石	15号集石
縄文早期1号土坑	9号土坑
縄文早期2号土坑	10号土坑
縄文早期3号土坑	11号土坑
縄文早期4号土坑	12号土坑
縄文早期5号土坑	13号土坑
縄文早期6号土坑	欠番
縄文早期7号土坑	14号土坑
縄文早期8号土坑	15号土坑
縄文早期9号土坑	16号土坑
縄文早期10号土坑	17号土坑
縄文早期11号土坑	18号土坑
縄文早期12号土坑	欠番
縄文早期13号土坑	19号土坑
縄文中期1号土坑	6号土坑
縄文中期2号土坑	7号土坑
縄文中期3号土坑	8号土坑
縄文早期1号ピット	27号ピット
縄文早期2号ピット	28号ピット
縄文早期3号ピット	29号ピット
縄文早期4号ピット	30号ピット
縄文早期5号ピット	31号ピット
縄文早期6号ピット	32号ピット
縄文早期7号ピット	33号ピット
縄文早期8号ピット	34号ピット
縄文早期9号ピット	35号ピット
縄文早期10号ピット	36号ピット
縄文早期11号ピット	37号ピット
縄文早期12号ピット	38号ピット
縄文早期13号ピット	39号ピット
縄文早期14号ピット	欠番
縄文早期15号ピット	40号ピット
縄文早期16号ピット	41号ピット
縄文早期17号ピット	42号ピット
縄文早期18号ピット	43号ピット
縄文早期19号ピット	44号ピット
縄文早期20号ピット	45号ピット
円形凹地	半円形の窪地
旧石井親道	1号道



第6図 遺跡全体図

第2章 遺跡の概要

第1節 遺跡の地理的環境

引切塚遺跡と青柳宿上遺跡は、旧前橋市北部に位置し、大正用水を挟み、旧富士見村に接する所にある。前橋市は、平成16年12月に勢多郡大胡町、宮城村、粕川村と、平成21年5月には、勢多郡富士見村と合併した。これにより、古代から親しまれてきた勢多郡の名称は、地図から消え、前橋市域は赤城山頂付近まで含む311.64 km²となった。

前橋市は、関東平野の北部に位置し、市街地の中央を利根川が北から南東へ流れている。前橋市の地形は、沖積低地の広瀬川低地帯・洪積台地の前橋台地・第四紀火山である赤城山や榛名山などの斜面の3つから成り立っている。

日本百名山の一つでもある赤城山は、榛名山や妙義山と共に上毛三山と呼ばれ、群馬県紋章(大正15年10月1日告示)や群馬県旗(昭和43年10月25日告示)に使われている。県庁32階展望台から赤城山を眺めると、上毛カルタ「獣野は長し、赤城山」を実感することができる。赤城山の現在の標高は、黒檜山の1827.6mであるが、以前の赤城山は、標高2,500mにまで達していた大規模な成層火山であった。赤城山の火山活動は、約40～50万年前から約13万年前の【古期成層火山形成期】、約13万年前から4.5万年前の【新期成層火山形成期】、4.5万年前以降の【中央火口丘形成期】の3つに区分される。

【古期成層火山形成期】に、溶岩流出とスコリアの噴出により標高2,500mまで達したが、その後、山体崩壊により岩屑なだれが発生し、赤城南麓の多田山や赤城南西麓の桶山・箱田山などの流れ山が形成された。その後、長い活動停止期間があり、河川による山体の浸食が進んだ。

【新期成層火山形成期】には、流出溶岩と噴出テフラが、浸食の進んだ山体を覆っていった。火砕流を伴う噴火が多いのが特徴で、赤城南麓で大胡火砕流が発生した。

【中央火口丘形成期】には、カルデラの形成が進み大沼ができた。約3.1万年前～3.2万年前には大規模な軽石

噴火が起こり偏西風に乗って、軽石が遠く太平洋まで達している。現在、園芸用に販売されている「鹿沼土」がこれに当たる。その後、長七郎山(1578.9m)や地蔵岳(1673.9m)などの中央火口丘が形成された。また、長七郎山の西にある小沼は、小沼火山の形成の最後に発生した水蒸気爆発によって生じた火口湖である。小沼からは粕川が、地蔵岳の南面からは赤城白川が流れ出ている。その後、活発な火山活動は確認できておらず、現在に至るまで、粕川・荒砥川・赤城白川などの小河川により火山麓扇状地が形成され続けている。

白川扇状地は、旧富士見村大河原付近を扇頂として東端を藤沢川、西端を細ヶ沢川の広い範囲で緩斜面を形成している。白川扇状地は、新旧の二期に分けられると考えられ、新しい時期の白川扇状地は、広瀬川低地帯に張り出して形成されている。(第7図)

第2節 周辺遺跡

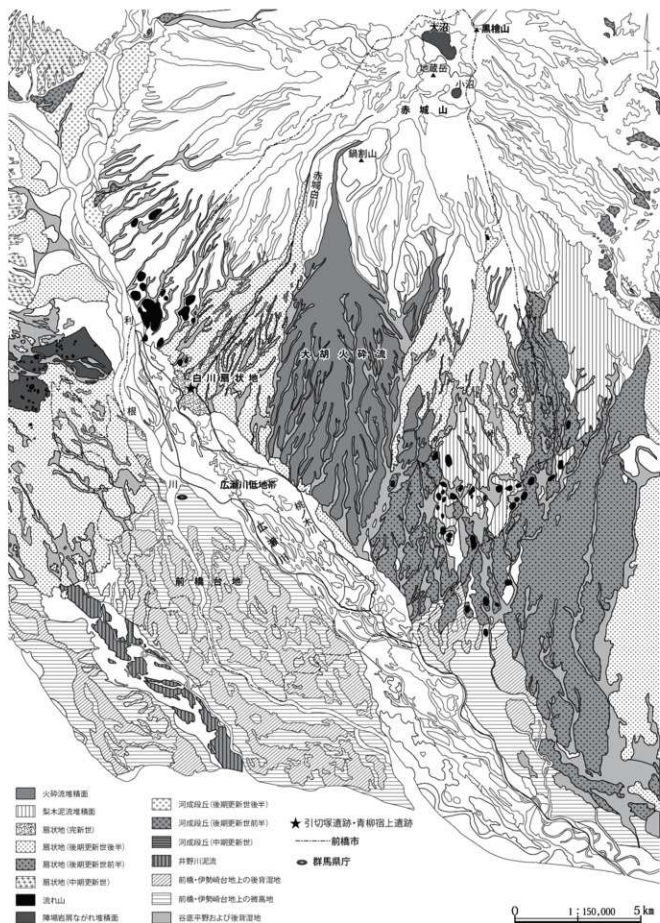
引切塚遺跡や青柳宿上遺跡の立地する赤城山南西麓には、およそ3万年前の旧石器時代以降、多くの遺跡が残されている。上武道路建設に伴う発掘調査によりその一端を垣間見ることができた。

以下、引切塚遺跡と青柳宿上遺跡の周辺遺跡について概要を記していく。

旧石器時代

179の周辺遺跡のうち、旧石器時代は5遺跡と数少ない。青柳宿上遺跡では、As-YP下から2点の剥片石器が出土した。旧石器トレンチを30カ所入れたが、その他に旧石器は見られなかった。また、引切塚遺跡にも旧石器トレンチを入れたが、旧石器は見られなかった。

新田上遺跡(12)では、As-YP下から100点あまりの石器が出土した。硬質頁岩製の細石刃・細石刃核・形器(荒屋型を含む)・スクレイパーなどと、在地の黒色安山岩製のスクレイパー・二次加工のある剥片、石核などである。山王・柴遺跡群(9)では、トレンチ調査で黒曜石製ナイフ形石器1点が出土した。上細井山遺跡(10)では、



第7図 引切塚遺跡・青柳宿上遺跡周辺地形分類図(群馬県「群馬県史通編1」付図2を改変)



第8図 周辺の遺跡(国土地理院1/25,000地形図「前橋」平成9年発行「渋川」平成14年10月発行を使用)

硬質頁岩製の削器と黒色頁岩製の剥片がAs-0kを含む層から出土している。上細井中島遺跡(11)では、As-0kより下から黒色頁岩製の剥片1点、縄文時代面のトレンチ調査で黒色頁岩製の剥片2点が出土した。

縄文時代

179の周辺遺跡のうち、縄文時代は86遺跡と比較的多い。引切塚遺跡と青柳宿上遺跡では、縄文時代早期の遺物包含層が検出された。特に青柳宿上遺跡では、早期の竪穴住居1軒、集石14基、土坑11基、ピット19基などが、洪水層下から確認された。引切塚遺跡では、高井戸式の注口土器が逆位の状態で発見され、青柳宿上遺跡の97区北側の6号土坑周辺からは、縄文後期の土器が発見された。また、引切塚遺跡と青柳宿上遺跡の両遺跡を流れる、同一と考えられる1号河道が発見され、As-C混土の下の黒色土から晩期千綱式期の土器や石器が数多く確認された。

草創期: 旧南橋村の芝山遺跡(25)で瓜形文土器が見つかっている。

早期: 旧南橋村の城山遺跡(22)で燃系文期の竪穴住居6軒、集石遺構6基が見つかっている。上細井五十嵐遺跡(18)で燃系文土器、丑子遺跡(19)と西壙遺跡(174)で条痕文系の土器、上細井北遺跡群No. 2(160)で井草式が1点出土している。上細井中島遺跡(11)では50cm以上の洪水層下から面的に早期遺物包含層が確認され、燃系文系から条痕文系などの土器が出土し、早期の竪穴住居を1軒と屋外炉と考えられる集石遺構を多数検出している。

前期: 旧南橋村の芝山遺跡(25)、旧富士見村の愛宕山遺跡(42)、陣馬遺跡(77)などで集落が確認されている。上細井五十嵐遺跡(18)で前期中葉～後葉(黒浜・有尾・諸磯a)1軒、久保田遺跡(93)で前期6軒、上細井蟬山遺跡(10)で前期後半1軒が見つかっている。

中期: 陣馬遺跡(77)で15軒、上細井中島遺跡(11)で加曾利E3式期6軒、新田上遺跡(12)で加曾利E3式期12軒を検出している。前期と比べ、遺跡が少ない。

後期: 陣馬遺跡(77)で2軒検出されているだけである。

晩期: 西新井遺跡(149)の2地点から設楽博己氏により耳栓や石皿を含む縄文後期初頭の称名寺I式(ただし1片のみ)～晩期終末の千綱式土器までの土器が採集され

ている。

弥生時代

179の周辺遺跡のうち、弥生時代は10遺跡と数少ない。このうち、遺構を確認できたものは、2遺跡に過ぎない。特筆すべき遺跡は、1983年に調査された田中田遺跡(88)である。法華沢川が火山麓扇状地から広瀬川低地帯へ注ぐ地点にある。古墳前期の32号住居と古墳後期の57号住居の覆土などから、弥生中期前半～後期の土器片(複数沈線で三角形モチーフの文様を描き区画内に刺突を充填するものや、地文の縄文の上に沈線で施文するものなど)が130点あまり出土している。弥生時代の遺構は確認されていないが、周辺に弥生時代の中でも早い時期の住居が営まれた可能性がある。群馬県内では、弥生時代の遺構は後期のものが多く、それ以前のものはあまり発見されていない。新田上遺跡(12)では弥生中期中葉～後葉の4軒の竪穴住居が検出され、丑子遺跡(19)では41号住居が後期樽の時期であった。また、川端根岸遺跡(4)では、弥生中期の土器が発見されている。青柳宿上遺跡の半円形の窪地から見つかった再葬墓の可能性のある、中期中葉の大型壺や広口短頸壺は周辺に居住区にあった可能性を示していると考えられる。

古墳時代

179の周辺遺跡のうち、古墳時代は115遺跡と数多く見つかっている。弥生時代、遺跡が極めて希薄だった地域に急激に遺跡が増加していることがわかる。『上毛古墳総覧』には、「南橋村」45基、「富士見村」29基の古墳が掲載されている。今回の調査で、赤城白川の西岸にある引切塚遺跡では古墳前期の竪穴住居2軒、青柳宿上遺跡では古墳後期6世紀後半の竪穴住居29軒を検出した。

前期(3世紀後半～4世紀代): 旧富士見村の上庄司原西遺跡(79)と下庄司原東遺跡(83)では、方形周溝墓が検出され、特に下庄司原東遺跡(83)では、前方後方形周溝墓が1基確認された。前期の竪穴住居1軒も見ついている。山王・柴遺跡群(9)では4群の高があり、そのうち1～3群ではAs-Cの純層が確認され、4群ではAs-Cが混じる黒褐色土となっており、周辺では珍しい古墳時代初頭の生産域を示すものとして注目される。丑子遺跡(19)は3世紀後半から4世紀後半にかけて5軒あり、そのう

ち12号住居の覆土の下層にAs-Cが一次堆積し、主柱穴の覆土上部まで入り込んでいる。山王・柴遺跡群(9)でも古墳初頭～前期にかけての住居13軒を検出しており、そのうち8軒でAs-Cの堆積が見られた。特に4号住居は、As-Cが床面直上に堆積しており噴火直前まで使用されていたと考えられる。田中田遺跡(88)では、S字状口縁台付裏や単口縁裏などを出土した竪穴住居を23軒、田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡(102)では、3世紀後半～4世紀後半までの竪穴住居を68軒検出している。

中期(5世紀代)：5世紀代の住居を壬子遺跡(19)では2軒、東田之口遺跡(20)では4軒、田中田遺跡(88)では14軒、上細井北遺跡群No. 2(160)では5世紀中頃から後半のH-3号住居、新田上遺跡(12)では5世紀中頃の1号住居を検出した。田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡(102)では、5世紀の竪穴住居を25軒検出している。また、上細井稲荷山古墳(147)は『上毛古墳綜覧』の南橋15号墳(円墳：直径約27m)であり、出土遺物は現在、東京国立博物館に収蔵されている。『南橋村誌』によれば、機織具(梭・^フ・ちきり・腰掛)、石製模造品(杖、刀子、案、埴、^カ・^カ・^カ)が出土したようである。石室は、竪穴式石塚で5枚の板石を蓋に用いたとあり、5世紀初頭のもと考えられる。壬子塚古墳(161)は、墳丘長約45mの前方後円墳であり、墳丘主軸が南北方向を取る。6世紀代の横穴式石室の場合、開口部を南にするため墳丘主軸は東西に取るので、壬子塚古墳は、上野に横穴式石室が導入される前の5世紀末のもと考えられる。山王・柴遺跡群(9)では、一辺が約9mの方墳1基と小石塚墓4基を確認した。方墳の主体部は、削平により失われていたが、周溝にはHr-FAの堆積が確認でき、5世紀後半～6世紀初頭のもと考えられる。また、小石塚墓は全て天井石を欠いていた。

後期(6世紀～7世紀代)：下庄司原東遺跡(83)で後期の竪穴住居、壬子遺跡(19)で6世紀17軒、7世紀4軒、田中田遺跡(88)で6世紀24軒検出している。東田之口遺跡(20)では、6世紀後半～7世紀後半の限られた短期間に61軒あったが、次の奈良・平安時代には継続していない。新田上遺跡(12)では7世紀後半の22号住居、引切塚遺跡(1)では前橋市の調査で27軒、山王・柴遺跡群(9)でも古墳後期の集落が見つかっている。田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡(102)では、7世紀代の竪穴住居を40軒検

出している。南橋東原遺跡(123)では、6世紀21軒、7世紀11軒が見つかっている。また、古墳は6世紀前半に前方後円墳の九十九山古墳(98)、山王・柴遺跡群(9)では石室の構築方法から6世紀後半から7世紀にかけての円墳の可能性のある横穴式石室の一部を調査した。赤城白川の西岸には、南橋40号墳である引切塚古墳(120)や引切塚遺跡(1)の引切1号墳(7世紀中頃の円墳径約10m：前橋市調査)があり、後期群集墳を形成していたと考えられる。

奈良・平安時代

179の周辺遺跡のうち、奈良時代は39遺跡、平安時代は、66遺跡である。田口八幡遺跡 I (73)、田口八幡遺跡 II (74)、旧富士見村の陣馬遺跡(77)、下庄司原東遺跡(83)、岩之下遺跡(91)などで平安時代の集落が確認されている。田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡(102)では、8世紀前半から10世紀までの竪穴住居134軒と8世紀代・10世紀代の鍛冶工房を検出した。新田上遺跡(12)では、8世紀後半から10世紀中頃までの集落が展開している。特に9世紀代は18軒と多く、9世紀末には集落の中心を道路状遺構が東西に走り、その後10世紀代には調査区東側に7軒が営まれた。壬子遺跡(19)では8世紀3軒、9世紀1軒、南橋東原遺跡(123)では、古墳後期から集落展開が続き、8世紀5軒、9世紀15軒が見つかっている。旭久保遺跡(118)では、古墳～平安にかけての住居が約100軒、掘立柱建物で50棟ほど調査されている。王久保遺跡(13)では、7世紀末から10世紀後半まで住居25軒、9世紀後半の鍛冶工房を1軒検出している。上町遺跡(14)では7世紀末から10世紀後半まで21軒、隣接する時沢西組屋谷戸遺跡(15)でも、7世紀末から10世紀後半まで26軒を検出している。山王・柴遺跡群(9)では、As-Bに一部覆われた水田とその下位の水田の2面検出された。引切塚遺跡(1)の前橋市調査では9世紀3軒を検出している。青柳寄居遺跡(128)で平安時代の水田とその下層から集落が検出されている。上細井五十嵐遺跡(18)でもAs-B(天仁元年：1108年の浅間山の噴火活動により降下)下から水田跡が見つかっている。

中世

179の周辺遺跡のうち、中世は32遺跡であり、箱田城

第2章 遺跡の概要

(21)、森山城(47)、金山城跡(96)など城郭に関わるものが多い。城山遺跡(22)で炭窯5基、上庄司原東遺跡(80)で土壇墓1基検出している。田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡(102)では、15～16世紀の屋敷遺構が確認されている。

この地域で注目されるのは、南北朝期(延文5年：1360年)に書き記された『神風抄』にある『青柳御厨』(内宮領)と『細井御厨』(伊勢二見の来迎院が領主)である。前橋市史によると、『青柳御厨』は、赤城白川が日利根川に注ぐところ、『細井御厨』は、藤沢川が日利根川に注ぐところにあったとあるが、相当する遺跡は発見されていない。青柳宿上遺跡(2)の調査では、『青柳御厨』に関わる遺構や遺物の検出はなかった。

近世以降

179の周辺遺跡のうち、近世は21遺跡である。愛宕遺跡(43)では、近世の採掘跡が確認された。田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡(102)では、天明3年(1783)の浅間山の大噴火による泥流被害後の復旧溝群や屋敷跡、近世の鍛冶工房が検出された。

第3表 周辺道跡一覧表

凡例: ● 遺構あり ○ 包蔵地・遺物のみ

番号	市町村 道跡 番号	道跡名	調査年度	旧 石器 器	弥 生	古 墳	奈良	中 世	近 世	概 要	文献番号
1	0013	引切塚	S60・H24		●	○	●	●	●	S60調査:古墳後期27軒、奈良3軒、引切1号墳:刀子・鉄鏡(上毛古墳群もれ)、取4調査:縄文早期(包含層・縄文晩期)の河道、古墳初期～前期2軒、井戸1基	2・15・21・22・59・60
2	0016	青柳塚上	S37・H24		●	●	○			縄文早期(包含層、縄文晩期の河道、弥生中期)の遺跡、古墳後期29軒	3・4・21・59・60
3		諏訪			○	○					3・4・5・7・59・60
4	0903	川端橋岸	H24		○		●	●	●	弥生中期の土器、古墳:溝9条、水田2面、平安:住居4軒、溝1条、中世:惣穴状遺構7軒、掘立2棟、溝37条、道1条、水田1面、近世:馬場5	21・59・60
5		川端山下(道東)	H24・25				●	●	●	平安:住居1軒、溝1条、中世:惣穴状遺構1基、溝2条、近世:溝1条	21・59・60
6		関根榎ヶ沢	H24				●	●	●	古墳水田、平安住居155、製鉄炉3	21・59・60
7		関根赤城	H24				●	●	●	古墳高、平安住居39	21・59・60・61
8	0008	田口下田尻(上武国道部分)	H23・25				●	●		田口下田尻	21・30・59・60
9	0014	山王・栗	H21～23・25		●	●	●	●	●	旧石器トレンチから、黒曜石製ナイフ形石器1点出土、古墳前期の高4層、古墳初期～前期の住居13軒、方墳1基、小石塚4基、横穴式石室1基、As-Bに覆われた水田とその下の水田Bの2面	18～20・59・60
10	0015	上編井岸山	H21・24		●	●	●	●	●	旧石器:As-0kを含む層から硬質頁岩製削器1点・黒色頁岩製削片1点出土、縄文前期後半住居1軒、9C中層～10C前半の住居25軒	17・59・60
11		上編井中島	H21・24		●	●	●	●	●	旧石器:黒色頁岩製削片3点出土、縄文早期の包含層(惣穴系・条塚系等)早期住居1軒、集石多数、加曾利E3の集落、9C後半の住居7軒	16・59・60
12	0034	新田上(新田・北新田)	H24		●	●	●	●	●	旧石器:As-p下より6ブロック検出、掘石1点、掘石対核4点、彫刻刀形石器6点(うち炭屋型2点)、縄文:諸磯c式1軒、加曾利E3式2軒、配石1、弥生:中期住居4軒、土坑墓、古墳:2軒(中期1・後期1)、平安31軒、9世紀後半の道路状遺構	2～4・5・7・59・60
13		王久保	H21・24		○		●	●	●	7C末～10C後半の住居25軒、9C後半の鍛冶工房1軒	23・59・60
14	0035	上町	H21		○		●	●	●	7C末～10C後半の住居21軒	24・59・60
15		時沢西蔵屋谷戸	H4・H12試掘 H21		○		●	●	○	7C末～10C後半の住居26軒	24・25・59・60
16	0037	天王	H20・21		○		●	●	●	7C末～10C後半の住居26軒	2～4・5・7・26・59・60
17	0037	東紺屋谷戸	H3・20・21		○		●	●	●	15・26・27・59・60	
18		上編井五十嵐	H20・21		●		●			縄文:前期中層～後葉1軒(黒沼・有尾36点、諸磯a式10点)、平安:4軒、溝:平安1条、近世2条、不明2条、水田1(As-B下)	28・59・60
19	0038	丑子	S29・H20		○	●	●	●	●	弥生:後期41号住居のみ、古墳:33軒、奈良:3軒、平安:1軒、不明2軒、惣穴状遺構:古墳1基、不明1基、井戸:中世1基、16世紀代之墓、近世3基、不明6基、中世の館跡(1号・2号堀)、溝:3条、不明3条	5・7・28・59・60
20	0039	東田之口	S28・H20		○	●	●	●	○	住居:古墳中期4軒、古墳後期63軒、奈良1軒、掘立柱建物:古墳後期6棟、中世1棟、平地式建物:古墳後期1棟、時期不明之棟、奈良・平安:粘土探掘坑1基、掘井1基、中世:竃2基、井戸6基、溝3条	29・59・60
21	H0128	箱田城						●			14・59・60
22	H0031	城山	S62・H13		●		●			縄文早期惣穴住居6軒、早期集石6基、早期:井岸・夏島、稲荷台出土	3・14・30・31・59・60
23	H0030	東雄	S63				●	●		縄文前期(黒沼・諸磯b)	14・32・59・60
24	H0104	遺跡名なし									14・59・60
25	H0028	芝山	H2・3		●		●			縄文早期(黒沼・諸磯)・中期(加曾利E)	14・33・59・60
26	0796	米野丸山			○	○					1・5・7・8・59・60
27	0723	米野芦沼	H24		●		●			縄文中期後半住居1、平安住居1	34・59・60
28	0922	新橋市0922								時代不明	59・60
29	0921	新橋市0921								時代不明	14・59・60
30	H0033	遺跡名なし			○		○				14・59・60
31	H0034	瓜山	S63・H12～14		●	●	●			縄文早期条塚系・前期(諸磯)・中期(勝坂2・3)	3・14・15・59・60
32	H0105	遺跡名なし					●				14・59・60
33	H0106	遺跡名なし					●				14・59・60
34	H0032	遺跡名なし			○					縄文前期・中期	14・59・60
35	H0035	遺跡名なし			○					縄文前期	14・59・60
36	H0036	橋峠			○		○			縄文前期・平安	14・59・60
37	0001	新橋市0001					○	○			59・60
38	0727	米野広町			○	○					5・7・8・59・60

第2章 遺跡の概要

番号	市町村 遺跡 番号	遺跡名	調査年度	縄 文 器	弥 生	古 墳	奈 良	中 世	近 世	概 要	文献番号
39		引田高塚			○	○					1・5・7・8・ 51・59・60
40	0725	引田宿原			○	○					3・5・7・8・ 59・60
41		引田諏訪				○					3・5・7・8・ 59・60
42		愛宕山	H2		●		●				15・53・59・60
43	0748	愛宕	H2						●	近世探掘跡	1・8・53・59・ 60
44		十二山裏				○					5・7・59・60
45	0591	初室古墳(富士見7号墳)	H2			●				直刀出土、石椀開口、群史研調査	5・7・53・59・ 60
46		日向	H2						●	近世館跡	53・59・60
47	0756	森山城(引田城)				●		●			1・5・7・8・ 59・60
48	0752	森山古墳(富士見6号墳)				●				埴輪出土、円墳、未発掘	5・7・59・60
49		道上古墳				●				羨道あり	5・7・59・60
50		赤城	H3		○	○					3・5・7・52・ 59・60
51		由森	S62		●		●			縄文前期住居2、平安住居23、擬立柱建物の10	15・37・59・60
52	0726	長泉寺	H3		●		●			縄文前期・中期住居各1、平安住居4	15・52・59・60
53		引田高橋			○	○					1・5・7・8・ 59・60
54		田島清水			○	○					3・5・7・8・ 59・60
55	0751	白川	S62		●		●			縄文住居前期後半1・後期1、古墳住居20、奈良・ 平安住居14、擬立柱建物11	8・37・59・60
56	0048 0732	新井(田島新井・ 新井D・新井路)	H4		●	○	●			縄文中期住居1、奈良・平安住居3、溝跡(館跡)	3・5・7・8・ 59・60
57	0747	田島切妻			○	○					3・5・7・59・ 60
58	0776	十二			○						5・7・59・60
59	0773	田島鉄砲林				○					5・7・8・59・ 60
60	0774	八幡古墳				●					1・8・59・60
61	0002	両市				○					3・5・7・59・ 60
62		塩原塚古墳				●					4・5・7・15・ 59・60
63		富士塚古墳				●				円墳、昭和初期開口直刀7本出土	4・5・7・59・ 60
64		田口冠木遺跡				●					59・60・62
65		南橋32号墳				●					3・5・7・59・ 60
66	0846	南橋33号墳				●				円墳、横穴式石室	3・5・7・59・ 60
67		諏訪古墳群A				●				円墳	5・7・59・60
68		諏訪古墳群B (南橋村34号・36号・37号墳)				●				円墳3基	3・5・7・59・ 60
69		冠木古墳群A (南橋村16号～22号墳)				●				円墳8基	3・4・5・7・ 59・60
70		冠木古墳群B (南橋村24号～26号墳)				●					3・4・5・7・ 59・60
71	0003	新橋市0003			○	○	○				59・60
72	0004	千手堂			○						3・4・5・7・ 59・60
73	0004 0847	田口八幡 I				●	●	●		平安住居14、円墳1	54・59・60
74		田口八幡 II				●	●			平安住居24	56・59・60
75	0004	天神塚			○						4・5・7・59・ 60
76		八幡			○	○					5・7・59・60
77	0004 0596 0847	障場			○						1・5・7・8・ 15・59・60
78	0004	下庄司原西			●	●	●	●		縄文住居前期4、終末期円墳1、平安住居20	3・8・15・57・ 59・60
79		上庄司原西				●	●	●		古墳前期方形周溝墓1、古墳住居終末期6、奈良・ 平安住居6	3・8・57・59・ 60
80	0004 0847	上庄司原東			●	●	●	●		縄文住居前期4、後期円墳2、平安住居7、土壇墓1、 中世墓1	3・8・57・59・ 60
81		上庄司原北			○	●				縄文前期・中期包含層、終末期円墳1	3・8・57・59・ 60
82	0004	米野下原			○	○					3・5・7・59・ 60

番号	市町村 道跡 番号	道跡名	調査年度	田 石 器	弥 生	古 墳	奈 良	平 安	中 世	近 世	概 要	文献番号
83	0004	下庄司原東			●	●	●	●			縄文住居前期5・中期1、古墳住居前期1・後期9、 前方後方形周溝溝墓1、奈良～平安住居41	3・15・57・59・ 60
84	0754	横室筋			○							3・5・7・8・ 59・60
85	0750	田中	S61		●	○					縄文前期・時期不明の配石遺構	5・7・8・15・ 35・59・60
86	0589	横室古墳(富士見13号墳)				●					円墳	5・7・8・59・ 60
87	0749	横室中			●	●						59・60
88	0749	田中田	S58		●	○	○				弥生中期前葉～中葉の上層片130点あまり出土	5・7・8・13・ 15・36・59・60
89	0596	寄居(横室の寄居)	S61		○		○	○	●	●	長尾氏に従った地侍の寄居跡、土居	6・8・10・12・ 35・59・60
90	0753	荒井古墳(富士見14号墳)				●					円墳	5・7・8・59・ 60
91	0758	岩之下	S61		●	●	●	●			縄文前期・墨書土器「在」	15・35・59・60
92	0758	横室東沢口				○						5・7・59・60
93	0751	久保田	S62		●	●	●	○	○		縄文前期6軒・早期墨系系系4点他前期・中期・後期 の土器 12住小畿治	37・59・60
94	0757	田島上の台						○				59・60
95	0757	原之郷磯塚			●		○					3・5・7・8・ 59・60
96	0766	金山城跡							●		天文年間(1532-55)・九十九山の砦を含む・西暦式	1・3・5・6・ 8・10・12・59・ 60
97	0763	原之郷山ノ後				○					弥生遺・群大史学研究家蔵	1・3・5・7・ 8・59・60
98	0764	九十九山古墳(富士見16号墳)	S26			●					前方後円墳・円筒埴輪・馬形埴輪・耳環・金環3・ 群大史蔵	1・5・7・8・ 11・59・60
99	0765	九十九山の砦							●			9・59・60
100	0761	原之郷善養寺	H4・H10試掘		○	●					土師器皿出土、散布多量	1・3・5・7・ 8・38・59・60
101	0901	新橋市0901								時代不明 永田		59・60
102	0008 0913	田口上田尻・田口下田尻				●	●	●	●			59・59・60
103	0009	関根内山							●			59・60・63
104	0010	関根の寄居							●		北側は二重堀構え、本廓の虎口は南一方	4・59・60
105	0865	新橋市0865								時代不明 散布地		59・60・64
106	0903	新橋市0903	H26			●	●					59・60
107	0063	八幡筋						○	○			59・60
108	0779	鎌塚古墳(富士見15号墳)				●					円墳・勾玉・管玉・金環・埴輪	5・7・8・59・ 60
109	0769	原之郷慶阿弥			●	●						59・60
110	0759	原之郷廻沢	H8試掘・H9		○			●			縄文前期土器片、平安住居2軒、整六状遺構1基、 掘立建物1棟、土坑、柱穴	39・40・59・60
111	0595	原之郷中子						●				59・60
112	0760	原之郷後原	H19現地調査		●		●	●				59・60
113	0760	原之郷東原	H8試掘		●	○	●	●			縄文前期土器片	1・39・59・60
114	0772	小沢金沢			●							59・60
115	0767	小沢釣堀	H8試掘・H9		○	●	●	○			1住(9世紀後半)より、刺書「×」のある須恵器片 墨書「□」が内外にある須恵器片	39・41・59・60
116	0599	原之郷白川	H10試掘		●	○	●	●				1・3・5・7・ 8・38・59・60
117	0012	原之郷下白川	H12・13試掘			○	○				土師器片・須恵器片・平安の上層片	5・7・8・25・ 42・59・60
118	0011	旭久保・旭久保B・旭久保C	H7～11		●	●	●	●			旭久保:古墳～平安時代の住居約100軒、掘立約50棟 旭久保B:縄文前期・中期土器・土製品円筒出土	1・3・38・43・ 59・60
119	0011	旭久保II・旭久保III	H7・8・13試掘		●	●	●				旭久保II:縄文前期(諸磯)の包含層	39・42・59・60
120	0858	引切塚古墳(南橋40号墳)				●					円墳	3・4・5・7・ 15・59・60
121	0013	引切塚II	H 4			●					古墳前期1軒、古墳後期1軒	44・59・60
122	0013	覆上	S27・S 37		○	●						2・4・5・7・ 59・60
123	0016	南橋東原	H19		○	●	●	●	●		縄文前期諸磯B	45・59・60
124	0014	神明A				○						3・5・7・59・ 60
125	0014	神明B				○						3・5・7・59・ 60
126	0126	神明古墳				●					直刀1振	2・3・5・7・ 59・60
127	0032	青柳宿前	H12					●				59・60
128	0033 0943	青柳寄居	S58					●	●		As-郡降下前の水田 永正6年宗長が訪れる。堀、土居、 戸口	9・10・12・46・ 59・60
129	0031	新橋市0031			○	○	○	○				59・60
130	0068	新橋市0068			○	○	○	○				59・60

第2章 遺跡の概要

番号	市町村 遺跡 番号	遺跡名	調査年度	旧 石器	弥 生	古 墳	奈良	中 古	近 世	概 要	文献番号
131	0910	新橋市0910				●				水田	59・60・64
132	0807	新橋市0807(富士見道2号墳)			●					踏査にて墳丘確認	59・60
133	0775	時沢六万坊		○							1・3・5・7・ 8・59・60
134	0777	時沢中島			●						59・60
135	0014	雲仏	H4試掘				●				59・60
136	0015	時沢西萩林	H18試掘				●				59・60
137	0770	時沢基太夫		○						縄文中期勝坂式・郡大史学研究室蔵	1・3・5・7・ 8・59・60
138	0770	時沢諏訪		○							8・59・60
139	0803	時沢庚東	H7試掘		●						59・60
140	0788	時沢猿	H8試掘	○				●●			39
141	0788	時沢猿B	H15試掘		●		●				59・60
142	0787	時沢中谷	H8試掘・H9	○			●			縄文前期中葉の上層片 平安初葉1軒	39・47・59・60
143	0034	時沢四ッ塚		○							5・7・8・59・ 60
144	-	時沢大角谷戸				○					5・7・8
145	-	時沢萩林				●					5・7・8
146	0860	新田上古墳(南橋43号墳)			●					円墳	2・3・5・7・ 59・60
147	-	上郷井稲荷山古墳(南橋15号墳)			●					円墳・石製模造品(機織具・枕・刀子他)・埴・刀身 国立博物館蔵	2・65
148	0036	八幡山の砦(八幡山遺跡)						●		五輪塔・砦碑	2・6・5・7・ 10・12・59・60
149	0070	西新井(上沖五反田)	H16工事立会	●							48・49・59・60
150	0037	時沢東諏訪				●				石製織器器出土	5・7・8・59・ 60
151	0037	時沢東諏訪II				●					59・60
152	0035	時沢宮東	H18試掘・現 地踏査				●				59・60
153	0035	時沢西高田・時沢西高田II	H10・13・18試 掘			●●	●			住居、土坑、溝、ピット他	38・42・59・60
154	0037	時沢中屋敷	H18試掘・現 地踏査	○	○	●●					5・7・8・59・ 60
155	0810	時沢吉田			○						1・3・5・7・ 8・59・60
156	0038	定福		○						紡績車出土	2・4・5・7・ 59・60
157	0854	南橋8号墳			●					円墳・埴輪片	2・4・5・7・ 59・60
158	0854	南橋12号墳			●					円墳・埴輪	2・4・59・60
159	0854	南橋13号墳			●					円墳・埴輪	2・4・59・60
160	0038 0854	上郷井北No2	H21	○	●	●				縄文前期の土器が多い。早期熊系の井草1点(車輪 器糸体片痕文)。古墳2基検出。	55・59・60
161	0854	丑子塚古墳(南橋6号墳)	W20_S29		●					前方後円墳・金環・刀剣・埴輪	2・4・5・7・ 55・59・60
162	0854	南橋5号墳			●					円墳・埴輪	2・4・59・60
163	0854	南橋7号墳			●					円墳・埴輪	2・4・59・60
164	0035	王間久保(正間久保)		○	○					天間久保遺跡とも、縄文中期・古墳後期	2・4・5・7・ 59・60
165	0861	狐塚古墳(南橋14号墳)			●					円墳・刀2振・埴輪片	2・4・5・7・ 59・60
166	0035	藁跡		○	○					縄文中期・古墳後期	2・5・7・59・ 60
167	0040	荒屋敷		○	○					多孔石・円石・縄文後期	2・4・5・7・ 59・60
168	0854	南橋9号墳			●					円墳	2・4・5・7・ 59・60
169	0854	南橋10号墳			●					円墳・人骨・刀剣	2・4・59・60
170	0854	南橋11号墳			●					円墳・勾玉	2・4・5・7・ 59・60
171	0040	灰塚		○	○						2・4・5・7・ 59・60
172	0041	南灰塚		○	●						5・7・59・60
173	0854	南橋4号墳			●					円墳	2・4・5・7・ 59・60
174	0041	西塚	S61		●	○				縄文早期鶴ヶ島台・前期諸儀 樽式土器	2・4・15・58・ 59・60
175	0854	南橋2号墳	W36_7号		●					円墳・人骨・歯・金環・刀剣	2・4・59・60
176	0854	南橋1号墳	W36_7号		●					円墳・人骨・歯・金環・刀剣15振	2・4・59・60
177	0755	田島城						●			9・59・60
178	0762	新橋市0762(富士見道1号墳)			●						59・60
179	0639	新橋市0639			●	●					59・60

※2013年度に新橋市内の遺構名は、旧富士見村・旧大胡町・旧宮城村・旧柏川村地域のものを含めて、番号記載に変更している。そのため、遺跡範囲が広くなるので、以前の遺跡名を踏襲し、第3表にまとめた。なお、新たに分布調査により見つかった遺跡については、「新橋市●●●●」とした。

参考文献

1. 富士見村役場1954『富士見村誌』
2. 南橋村誌編纂委員会1955『南橋村誌』
3. 群馬県教育委員会1963『群馬県の道跡』
4. 前橋市史編さん委員会1971『前橋市史第1巻』
5. 群馬県教育委員会1971『群馬県道跡台帳Ⅰ(東毛編)』
6. 山崎一1971『群馬県古城址の研究』上巻
7. 群馬県教育委員会1973『群馬県道跡地区』
8. 富士見村役場1979『富士見村誌 続編』
9. 山崎一1979『群馬県古城址の研究』補遺篇上巻
10. 山崎一1979『日本城郭大系第4巻』
11. 群馬県史編さん委員会1981『群馬県史資料編3 原始古代3古墳』
12. 群馬県教育委員会1988『群馬県中世城館址』
13. 群馬県史編さん委員会1990『群馬県史通史編1 原始古代Ⅰ』
14. 渋川市教育委員会2008『渋川市北橋地区埋蔵文化財分布地図』
15. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1999『群馬県道跡大辞典』
16. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『上細井中島道跡』
17. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『上細井神山道跡』
18. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2010『年報29』
19. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2011『年報30』
20. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『年報31』
21. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『年報32』
22. 前橋市教育委員会1988『引切塚道跡』
23. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『王久保道跡』
24. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『上町・時沢西組屋谷戸道跡』
25. 富士見村教育委員会2001『平成12年度村内道跡』
26. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『天王・東組屋谷戸道跡』
27. 富士見村教育委員会1992『東組屋谷戸道跡』
28. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『壬子道跡・上細井五十嵐道跡』
29. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2011『東田之口道跡』
30. 北橋村教育委員会1989『城山道跡』
31. 北橋村教育委員会2001『北橋村内道跡Ⅰ』
32. 北橋村教育委員会1990『北橋道跡群発掘調査報告書Ⅱ・東塚道跡・瓜山道跡』
33. 北橋村教育委員会1993『北橋道跡群発掘調査報告書Ⅲ・芝山道跡』
34. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『米野戸沼道跡』
35. 富士見村教育委員会1987『富士見道跡群 向吹張道跡、岩之下道跡、田中道跡、寄居道跡』
36. 富士見村教育委員会1986『田中田道跡窪谷戸道跡見取道跡』
37. 富士見村教育委員会1989『富士見地区道跡群白川道跡由森道跡久保田道跡』
38. 富士見村教育委員会1999『平成10年度村内道跡』
39. 富士見村教育委員会1997『平成8年度村内道跡』
40. 富士見村教育委員会1998『原之郷饗道跡』
41. 富士見村教育委員会1998『小沢の場道跡』
42. 富士見村教育委員会2002『平成13年度村内道跡』
43. 富士見村教育委員会1998『旭久保道跡』
44. 前橋市教育委員会1993『引切塚道跡Ⅱ』
45. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2008『南橋東原道跡』
46. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1984『青柳寄居道跡』
47. 富士見村教育委員会1998『時沢中谷道跡』
48. 設楽博己1984『前橋市上沖町西新井道跡の表面採集資料(上)』『群馬考古学通信第9号』
49. 設楽博己2013『前橋市上沖町西新井道跡の土製耳飾り』『日本先史考古学論集』
50. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『田口上田尻道跡・田口下田尻道跡』
51. 富士見村道跡調査会2001『引田高塚道跡』
52. 富士見村教育委員会1993『富士見地区道跡群 赤城道跡 長泉寺道跡』
53. 富士見村教育委員会1996『富士見地区道跡群愛宕山道跡・初室古墳・愛宕道跡・日向道跡』
54. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2000『田口八幡Ⅰ道跡』
55. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2010『上細井北道跡群 No.2』
56. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2000『田口八幡Ⅱ道跡』
57. 富士見村教育委員会1991『富士見地区道跡群 陣場・庄司原古墳群』
58. 前橋市教育委員会1987『西堀道跡』
59. 前橋市教育委員会2013『前橋市道跡分布地図・市内道跡詳細分布調査報告書』
60. マッピングぐんま 道跡・文化財 (2013年度版・2014年度版)
61. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2014『間根赤城道跡』
62. 前橋市教育委員会2004『文化財調査報告書』第35集
63. 前橋市教育委員会2007『市内道跡発掘調査報告書』
64. 前橋市教育委員会2008『市内道跡発掘調査報告書』
65. 東京国立博物館1983『東京国立博物館図録古遺物Ⅲ(関東Ⅱ)』

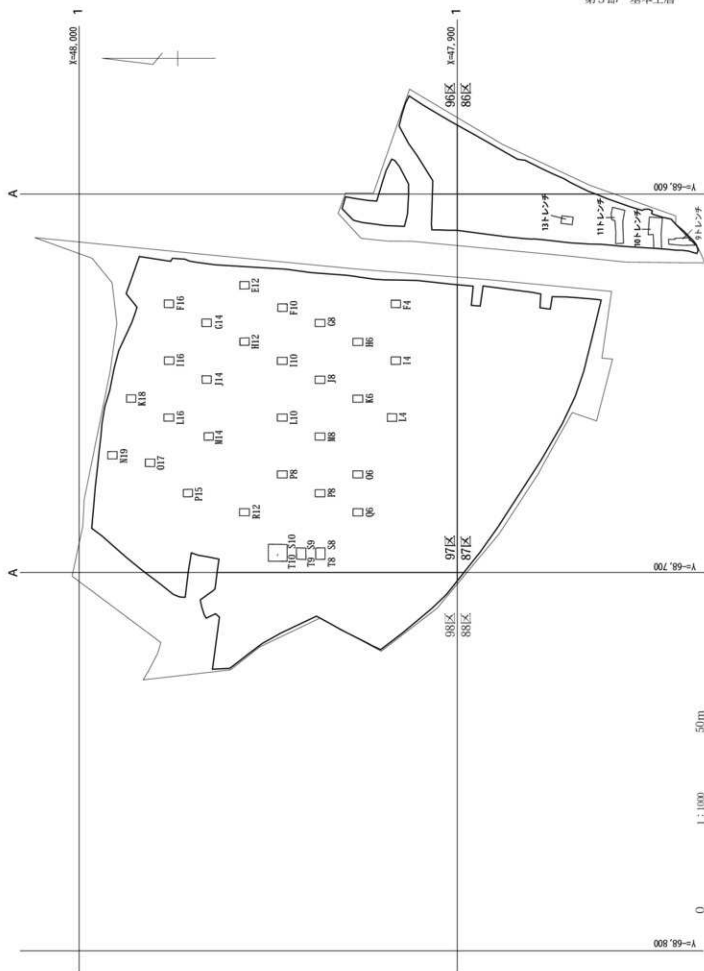
第3節 基本土層

表土以下の基本土層は第9図の通りである。表土下は、水成堆積の影響の見られるローム層が堆積していた。

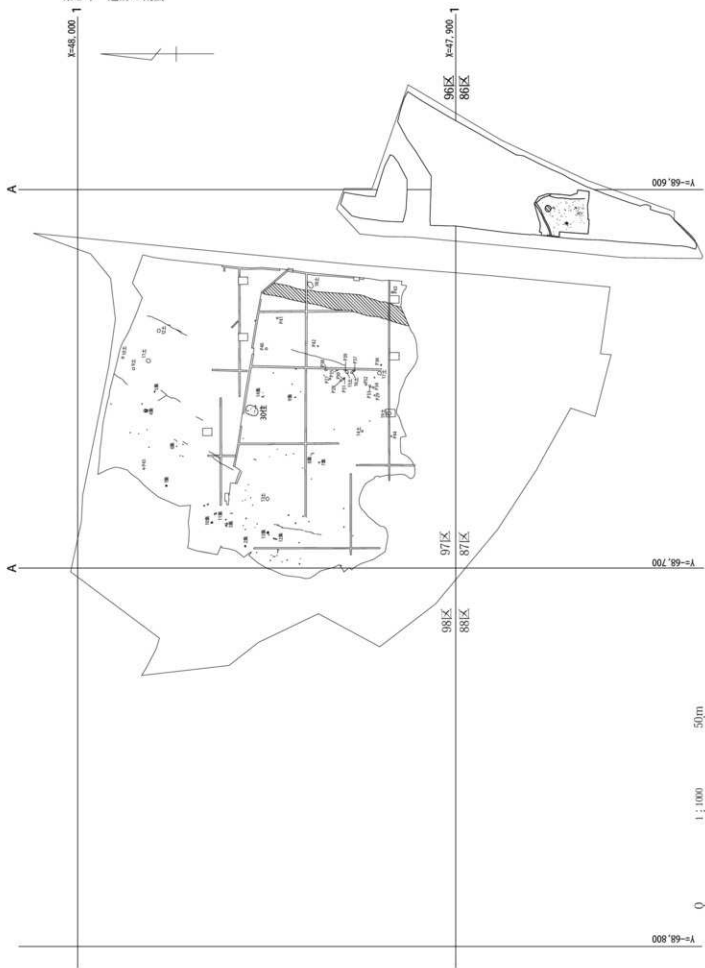
青柳宿上遺跡の12号トレンチ(第9図③)を元にして基本土層Ⅰ～Ⅺ層を設定し、12号トレンチより低い層位については、39号トレンチ(第9図④)にて堆積状況を確認した。(39号トレンチの注記は、P99参照)

また、引切塚道跡は、青柳宿上遺跡の基本土層を基準とし、8号トレンチB-B' (第9図①)、13号トレンチB-B' (第9図②)にて層位を確認した。(8号トレンチの注記は、P31参照)

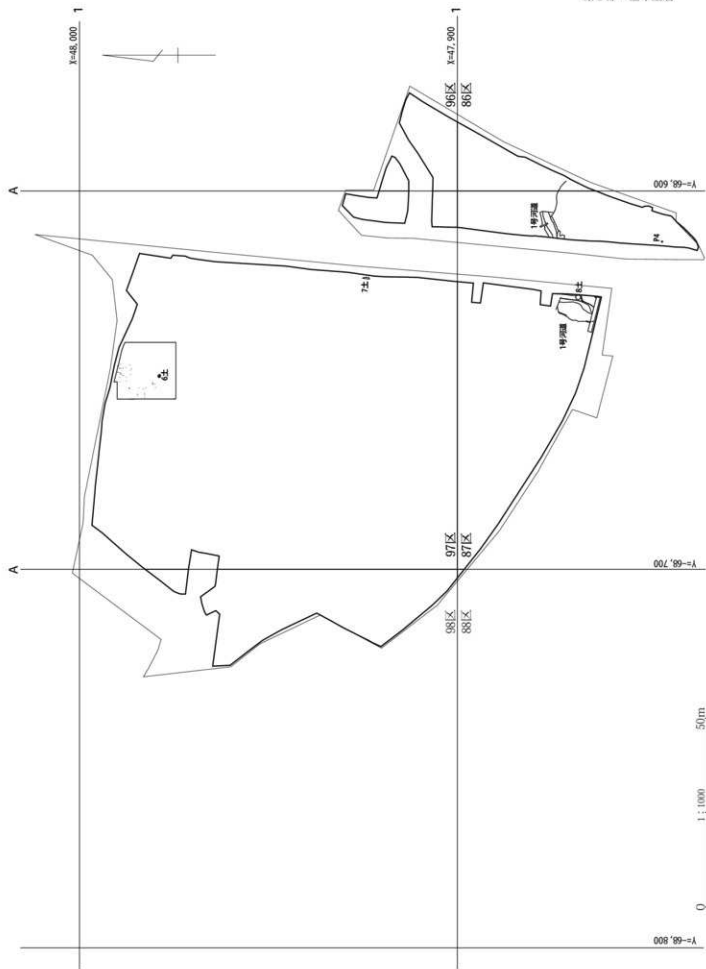
古墳時代遺構は、基本土層Ⅱ層で確認し、縄文時代早期遺物包含層については、基本土層Ⅶa層、Ⅶb層で確認した。



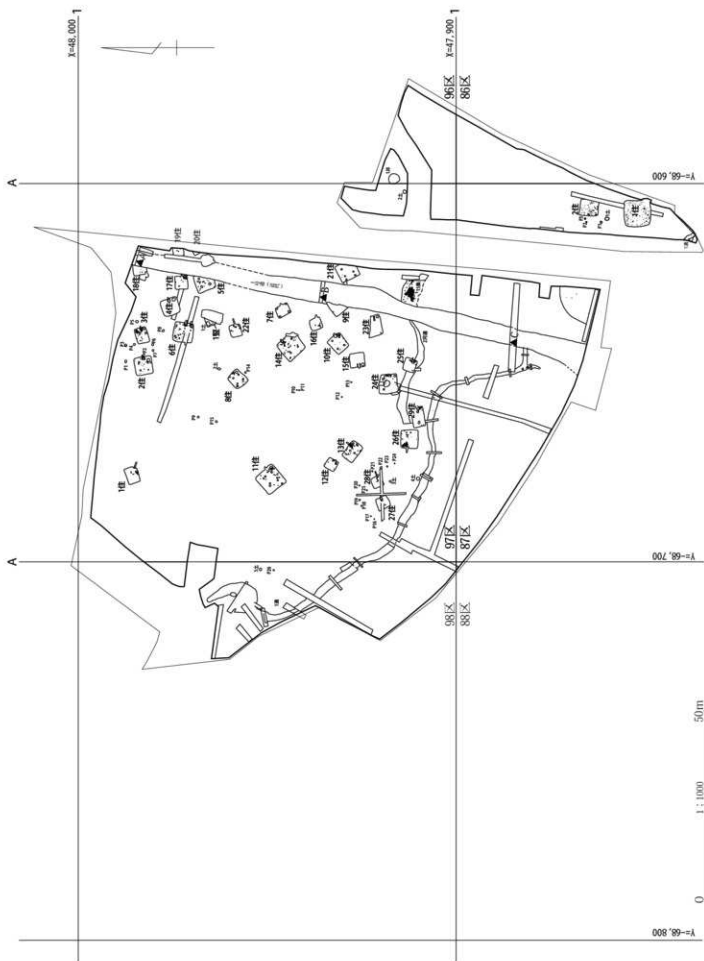
第10図 引切築道路・青柳宿上道跡旧右部トレンチ配置図



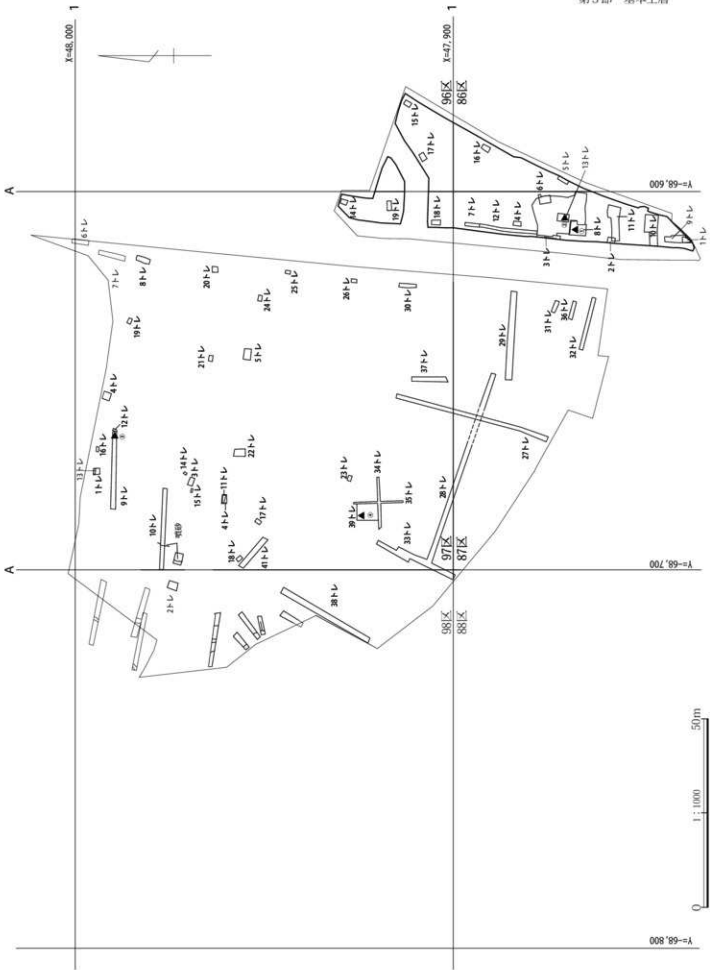
第111図 引切塚遺跡・青柳宿上遺跡縄文時代早期全体図(※青柳宿上遺跡の北東から南西に入る線は噴砂)



第122圖 引切塚遺跡・青柳宿上遺跡縄文時代後期・晩期全体図



第133図 引弓塚遺跡・青柳宿上遺跡古墳時代面全体図



第14図 引切塚遺跡・青柳沼上遺跡トレンチ設定図

第2章 遺跡の概要

第4表 引切塚・青柳宿上遺跡 時代別遺構一覧表

引切塚遺跡

時代	遺構種	遺構番号	遺構数
縄文時代	河道	1	1
	ピット	4	1
古墳時代	竪穴住居	1・2	2
	井戸	1	1
	溝	1	1
	土坑	1・2	2
	ピット	1・2・3	3

青柳宿上遺跡

時代	遺構種	遺構番号	遺構数
縄文時代	竪穴住居	30	1
	河道	1	1
	土坑	6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17・18・19	14
	ピット	27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45	19
	集石	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14	14
	土器集中	1・2・3・4・5・6・7	7
	石器集中	1・2・3・4・5・6・7	7
	弥生時代	半円形の窪地	
古墳時代	竪穴住居	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29	29
	竪穴状遺構	1	1
	溝	1	1
	河道	2	1
	土坑	1・2・3・4・5	5
	ピット	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26	26
	集石	15	1
近世以降	道	1	1

第3章 引切塚遺跡の調査内容

第1節 概要

引切塚遺跡では、竪穴住居2軒、井戸1基、溝1条、河道1条、土坑2基、ビット4基を検出した(第12・13図・第4表)。東側には、赤城白川が流れており、調査区の中央付近から赤城白川の堆積作用により、扇状地が南西に向けて形成されていた。(第10図～第14図)

旧石器時代 上面調査終了後、ローム層より下層の旧石器時代の調査を実施した(第10図)。旧石器の調査方法は、9号・10号・11号トレンチについては、重機で掘り下げ、壁面を精査し、13号トレンチは、ジョレンを用いて2×5mを注意深く掘り下げた。しかし、旧石器の発見にはつながらなかった。

縄文時代 8号トレンチを調査中に砂質土の下から、石器が検出された。遺構は全く検出されなかったが、縄文早期の破片や石器が、現在の地表面から2mほど深いレベルから約8m四方の範囲で出土した。縄文早期包含層は、東側を赤城白川の旧河道、北側を縄文晩期の1号河道に切られている。西隣の青柳宿上遺跡でも、砂質土の下から縄文早期の遺構や遺物が出土している。調査区南側の4号ビットから、注口土器が逆位で出土した。縄文後期高井東式のものであった。また、調査区87-B・C-15・16にかけて、1号河道を検出した。1号河道は、群馬県道151号津久田停車場前橋線をくぐり、西隣の青柳宿上遺跡へつながっていた。この河道縁の黒色土から縄文時代晩期千綱式土器が出土した。なお、1号河道については、青柳宿上遺跡の1号河道と同一のものと判断したため、同じ番号を振っており、青柳宿上遺跡の該当ページにまとめて掲載した。(第4章第3節)

弥生時代 調査当初、櫛歯文の土器が出土したことから、2号住居は弥生時代後期のものと考えられたが、整理作業中に遺物や図面を検証した結果、2号住居は、古墳時代前期のものとして確認された。弥生時代の遺構は検出されなかったが、遺構外出土の弥生土器として1号住居出土の弥生土器を2点掲載した。(未掲載の遺構外出土の弥生土器は16点である。)

古墳時代 調査区南側から、古墳時代前期の竪穴住居を2軒検出した。北側に位置する2号住居の方が、若干古く、南側の1号住居では、As-Cの純層が住居の角で確認されたことから古墳時代前期の時期と考えられる。調査区の96-T-4～97-A-4で、井戸を検出した。フク土にAs-C混土を含んでいた。また、調査区南端で、フク土にHr-FAを含む1号溝を検出した。群馬県道151号津久田停車場前橋線下を通過していると考えられたが、西隣の青柳宿上遺跡では、確認できなかった。確認面やフク土にAs-C・Hr-FAを含む土坑2基・ビット3基を検出した。

第2節 縄文時代・弥生時代

1. 調査の概要

河道1条、ビット1基を検出し、縄文時代早期包含層を確認した。なお、1号河道については、西へつながる青柳宿上遺跡とともに遺構図並びに実測図を掲載した。

2. 縄文早期包含層

縄文時代早期包含層は、約20cm～50cmの厚さの鉄分が斑紋状に入る青灰色シルト質土と鉄分が沈殿したにぶい黄褐色砂質土の下から約8m四方の範囲で検出した。赤城白川の洪水跡に覆われる形で確認された。遺構の検出はなかったが、接合できる可能性のある剥片や細密な条痕文の出土が目立った。

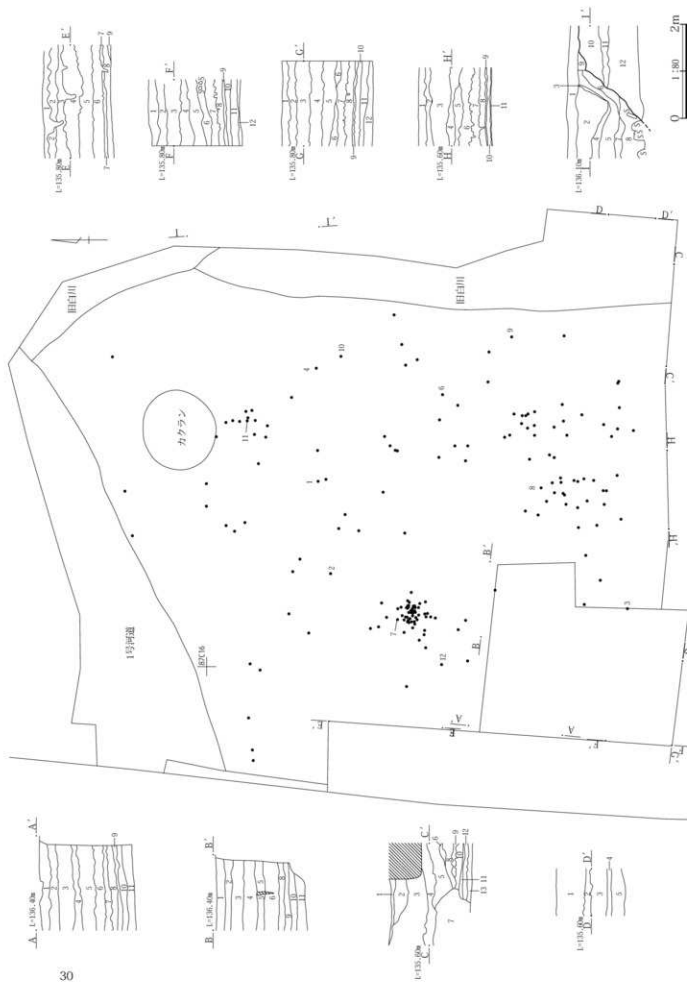
縄文早期包含層 (第16図、PL. 4・5・77)

位置 87-A-14～16・87-C-14～16

重複 早期確認面の北側を流れる縄文晩期の1号河道および、東側を流れる旧白川より古い。

確認範囲 8m四方

遺物 掲載した(1)～(4)の縄文土器は、やや粗雑や細密な条痕文が斜位に施された縄文早期の土器であり、鉄分の付着が多く、内面は風化により施文状況不明である。なお、未掲載土器については、早期条痕文9点、無



第15図 引切塚遺跡縄文時代早期遺物包含層全体図

縄文早期遺物包含層 A-A'・B-B' (8号トレンチB-B')・E-E'

1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 白色粒(ϕ 1~3mm)3%含む
2. にぶい黄褐色土(10YR5/2) 白色粒(ϕ 1~2mm)2%含む、鉄分沈着する
3. 青灰色シルト質土(SBG6/1) 鉄分沈着がある層、小円礫(ϕ 2~50mm)5%含む
4. 青灰色細砂質土(SBG6/1) 小円礫(ϕ 2~40mm)2%含む、5層に近い、やや細かい目の砂質土、3層と同じく鉄分沈着あり
5. 黄褐色砂質土(10YR5/6) 全体に鉄分が沈着している
6. 青灰色シルト質土(SBG6/1) 鉄分が塊状状に入る
7. にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 6層下に沈殿した砂質土層、鉄分が沈着している
8. 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性あり、灰白色粒(ϕ 1~3mm)2%、灰黄色粒(ϕ 1~2mm)1%含む
9. 灰黄褐色土(10YR5/2) やや粘性あり、灰白色粒(ϕ 1~3mm)1%、灰黄色粒(ϕ 1~2mm)1%含む
10. 明黄褐色土(10YR7/6) 灰白色粒(ϕ 1~2mm)1%含む
11. にぶい黄褐色土(10YR7/4)

C-C'

1. にぶい黄褐色土(10YR5/4)
2. にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4) 円礫(ϕ 1~5cm)1%含む
3. 灰黄砂質土(2.5Y6/2) 円礫(ϕ 1~8cm)80%含む
4. 黄褐色砂質土(2.5Y6/4)
5. 黄灰色砂質土(2.5Y6/1)
6. 黄灰色砂質土(2.5Y6/1) 5層と6層の間に一部礫(ϕ 1~5cm)含む
7. 暗灰黄色砂礫土(2.5Y5/2) 礫(ϕ 1~2mm)90%含む
8. 黄褐色砂質土(10YR5/6) 全体に鉄分が沈着している
9. 青灰色シルト質土(SBG6/1) 鉄分が塊状状に入る
10. にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 9層下に沈殿した砂質土層、鉄分が沈着している
11. 灰黄褐色土(10YR5/2) 非常にしまりの良いシルト質土
12. 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性あり、灰白色粒(ϕ 1~3mm)2%、灰黄色粒(ϕ 1~2mm)1%含む
13. 灰黄褐色土(10YR5/2) やや粘性あり、灰白色粒(ϕ 1~3mm)1%、灰黄色粒(ϕ 1~2mm)1%含む

H-H'

1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 白色粒(ϕ 1~3mm)3%含む
2. にぶい黄褐色土(10YR5/2) 白色粒(ϕ 1~2mm)2%含む、鉄分沈着する
3. 青灰色シルト質土(SBG6/1) 鉄分沈着がある層、小円礫(ϕ 2~50mm)5%含む、円礫(ϕ 0.5~3cm)2%含む
4. 青灰色細砂質土(SBG6/1) 小円礫(ϕ 2~40mm)2%含む、6層に近い、やや細かい目の砂質土、3層と同じく鉄分沈着あり
5. 灰黄褐色砂礫土(10YR5/2) 礫(ϕ 0.5~6cm)10%含む
6. 黄褐色砂質土(10YR5/6) 全体に鉄分が沈着している
7. 青灰色シルト質土(SBG6/1) 鉄分が塊状状に入る
8. にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 7層上下に沈殿した砂質土層、鉄分が沈着している
9. 灰黄褐色土(10YR5/2) やや粘性あり、しまりあり
10. 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性あり、灰白色粒(ϕ 1~3mm)2%、灰黄色粒(ϕ 1~2mm)1%含む
11. 灰黄褐色土(10YR5/2) やや粘性あり、灰白色粒(ϕ 1~3mm)1%、灰黄色粒(ϕ 1~2mm)1%含む

D-D'

1. にぶい黄褐色土(10YR5/3)
2. にぶい黄褐色砂質土(10YR5/2) 円礫(ϕ 1~5cm)1%含む
3. 灰黄砂質土(2.5Y6/2) 円礫(ϕ 1~8cm)80%含む
4. 黄褐色砂質土(2.5Y6/4)
5. 暗灰黄色砂礫土(2.5Y5/2) 礫(ϕ 1~2mm)90%含む

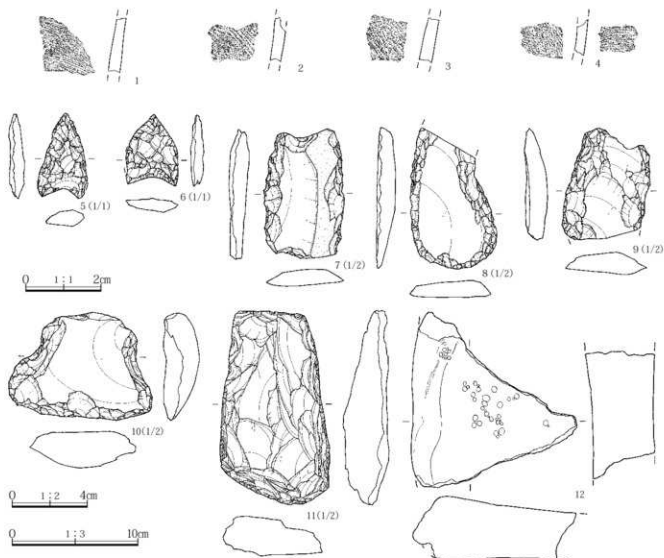
F-F'・G-G'

1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 白色粒(ϕ 1~3mm)3%含む
2. にぶい黄褐色土(10YR5/2) 白色粒(ϕ 1~2mm)2%含む、鉄分沈着する
3. 青灰色シルト質土(SBG6/1) 鉄分沈着がある層、小円礫(ϕ 2~50mm)5%含む
4. 灰黄褐色砂礫土(10YR5/2) 3層に円礫(ϕ 0.2~3cm)10%含んだ層
5. 青灰色細砂質土(SBG6/1) 小円礫(ϕ 2~40mm)2%含む、やや細かい目の砂質土、3層と同じく鉄分沈着あり
6. 黄褐色砂質土(10YR5/6) 白色粒(ϕ 1~2mm)2%含む、全体に鉄分が沈着している
7. 青灰色シルト質土(SBG6/1) 円礫(ϕ 2~8cm)極少量含む、鉄分が塊状状に入る
8. にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 7層下に沈殿した砂質土層、鉄分が沈着している
9. 灰黄褐色土(10YR5/2) やや粘性あり、しまりあり
10. 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性あり、灰白色粒(ϕ 1~3mm)2%含む、灰黄色粒(ϕ 1~2mm)1%含む
11. 灰黄褐色土(10YR5/2) やや粘性あり、灰白色粒(ϕ 1~3mm)1%、灰黄色粒(ϕ 1~2mm)1%含む
12. 明黄褐色土(10YR7/6) 灰白色粒(ϕ 1~2mm)1%含む

I-I'

1. にぶい黄褐色土(10YR6/4) 小円礫(ϕ 1~5cm)3%含む
2. 黄灰色砂質土(2.5Y6/1) 細かくサラサラしている、水成堆積の編状層が認められる
3. 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) シルト質土に近い
4. 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) シルト質土に近い、小円礫(ϕ 1~3cm)含む
5. 灰黄褐色土(10YR5/2) シルト質土に近い、小円礫(ϕ 1~3cm)1%含む
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) 小円礫(ϕ 1~8cm)10%含む
7. 灰黄褐色土(10YR4/2) 小円礫(ϕ 2~10cm)2%含む
8. 暗灰黄色砂礫土(2.5Y5/2) 円礫(ϕ 2~25cm)80%含む
9. 暗灰黄色砂礫土(2.5Y5/2) 円礫(ϕ 0.1~5cm)60%含む
10. にぶい黄褐色砂礫土(10YR5/4) 円礫(ϕ 0.1~8cm)80%含む
11. 黄褐色土シルト質土(10YR5/6) やや粘性あり、この段階で川の流れが落ち着き、沈滞化したものと思われる
12. にぶい黄褐色砂礫土(10YR5/4) 円礫(ϕ 0.2~20cm)70%含む

第3章 引切塚遺跡の調査内容



第16図 縄文時代早期包含層出土遺物

第5表 縄文時代早期包含層出土の石器 器種石材構成

石材名	打製石礮	スクレイパー	打製石斧	石核	二次加工ある剥片	石皿	剥片	計
黒色頁岩	2	7	1	1	3		76	90
頁岩		1						1
珪質頁岩					1			1
黒色安山岩				1	1		45	47
黒曜石					1		1	2
チャート	1							1
粗粒輝石安山岩					1	3	2	6
計	3	8	1	2	7	3	124	148

文土器12点である。いずれも、風化しており脆くなっていた。縄文時代早期包含層から出土した石器類は、計148点(第5表)であり、黒色頁岩の剥片が76点、黒色安山岩の剥片が45点と続く。掲載した石器は、打製石鏃2点、スクレイパー4点、打製石斧1点、石皿1点である。未掲載の石器は、打製石鏃1点、スクレイパー4点、二次加工ある剥片7点、石核2点、石皿2点、剥片124点である。

時期 出土土器から、縄文時代早期の時期と考えられる。

3. ビット

古墳時代確認面とほぼ同じレベルで、逆位の注口土器を発見した。地山と4号ビットフク土との色の差はほとんど確認できなかったが、注口土器の埋まっていた範囲を4号ビットとして調査した。

4号ビット(第17図、PL. 5・77)

位置 87-C-10 **重複** なし。

形状 円形

規模 長軸0.41m 短軸0.40m 残存深度0.5m

長軸方位 N-14°-W

埋没土 地山とほぼ同じ色の灰黄褐色土が堆積していた。

遺物 縄文後期の高井東式の注口土器(1)が出土した。

時期 出土土器から縄文時代後期とした。

4. 遺構外出土の縄文土器 (第18図、PL.77)

縄文時代の遺構に伴わない縄文土器23点を扱う。出土土器は、前期の諸磯a式・b式、後期の高井東式、晩期千網式など、限られた期間の範囲で確認された。遺構外出土の未掲載縄文土器は、165点(1,479.9g)にのぼる。内訳は、諸磯a式9点(59.4g)、高井東式13点(155.4g)、

安行3b式1点(9.8g)、大洞c2式1点(11.1g)、後・晩期の条痕文14点(107.7g)、晩期～弥生中期前半までの条痕文68点(616.1g)、晩期細密捺糸文8点(83.3g)、沈線文8点(59.4g)、沈線文+縄文5点(37.8g)、縄文晩期の浅鉢精製土器8点(52.1g)、深鉢精製土器5点(29.4g)、深鉢半精製土器12点(95.0g)、無文土器7点(93.7g)、不明6点(69.7g)である。以下、掲載した遺物についてまとめた。

前期：諸磯式土器(第18図1・2)

諸磯a式1点、諸磯b式1点出土。1は、1号住居から2は、87-A-14から出土した。前期の遺物の出土は少ない。

後期：高井戸式土器(第18図3～7)

調査区南側の1号住居や1号溝などから5点出土。4号ビットの注口土器も高井戸式土器であった。

晩期：千網式土器(第18図8～12・15～21・23)

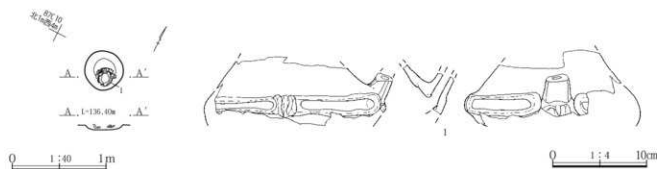
1号住居から9点、2号住居から1点、87-C-9・87-C-13・表土から1点ずつ、合計13点出土。器種は、浅鉢7点、深鉢5点、壺1点である。浅鉢は極めて丁寧な研磨を施す精製土器、深鉢は半精製土器であった。断面が楕円状の浮線によるレンズ状文や網状文を施す特徴が確認できた。

晩期：氷1式土器併行(第18図13・14)

1号住居から2点出土。精製の浅鉢で、小波状を呈す口唇部は短く外反し、断面三角状の浮線文を施す。内面は極めて丁寧な研磨を施している。

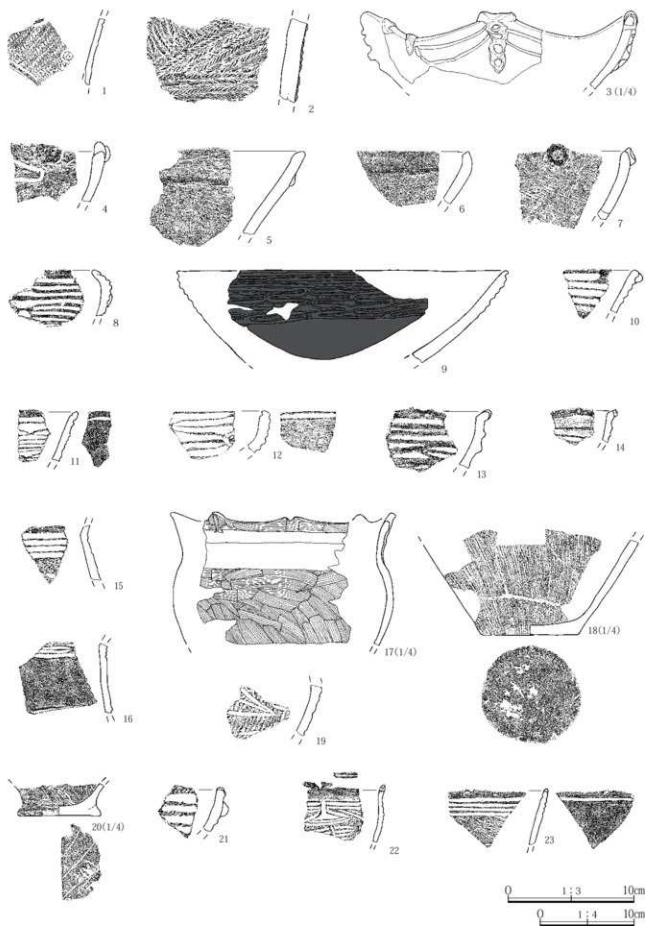
晩期：大洞A'式土器併行(第18図22)

1号住居から1点出土。精製の浅鉢で、口唇上にB字状の小突起があり、沈線による変形工字文を施している。



第17図 4号ビットと出土遺物

第3章 引切塚遺跡の調査内容



第18図 遺構外出土の縄文土器

5. 遺構外出土の弥生土器

(第19図、PL.78)

弥生時代の遺構に伴わない弥生土器2点を扱う。1は壺の肩部片であり、櫛歯波状文を巡らす弥生時代後期のものである。また、2は浅鉢の体部片と考えられ、縦位の細密条痕を地文に何らかの沈線文様を描く弥生時代中期前半のものである。いずれも、1号住居から出土している。遺構外出土の未掲載弥生土器は、5点であり、全て波状文であった。(縄文晩期～弥生中期前半の条痕文については、前項参照)

6. 遺構外出土の縄文・弥生時代の石器

(第20図、第6表、PL.78)

出土した石器は、剥片類も含めた総数139点である(第6表)。器種は、剥片石器として打製石鏃、石錐、スクレイパー、二次加工ある剥片、使用痕ある剥片、石核、打製石斧と剥片類があり、礫石器として磨石、多孔石がある。定形的な石器の中では、スクレイパーが6点と出土量が多く、続いて打製石斧4点、石核3点となっている。使用される石材は、剥片石器では黒色頁岩が14点と使用頻度が高く、次いで黒曜石と細粒輝石安山岩が2点であった。礫石器の石材は、粗粒輝石安山岩・変質安山岩が1点ずつである。剥片類については、118点の出土があり、黒色頁岩が94点と最も使用頻度が高く、次いで黒色安山岩12点、チャート5点、黒曜石4点、珪質頁岩2点、砂岩1点であった。

打製石鏃 2号住居から2点出土した。石材は、黒色安山岩、黒曜石である。形態はいずれも凸基有茎鏃である。

石錐 1号住居から1点出土した。石材は、黒色頁岩である。

スクレイパー 1号住居から1点、2号住居から1点、87-C-9グリッドから2点、87-C-10グリッドから1点、87-C-11グリッドから1点、計6点出土している。石材は、6点すべて黒色頁岩である。このうち4点を図示した。

二次加工ある剥片 1号住居から1点、2号住居から1点、計2点出土している。石材は黒色頁岩である。図示はしていない。

使用痕ある剥片 87-C-13グリッドから1点出土している。石材は黒色頁岩である。図示はしていない。

石核 1号住居から2点、表土から1点、計3点出土している。石材は黒色頁岩2点、黒曜石1点である。そのうち裏面が自然面の黒曜石のみ図示した。

打製石斧 1号住居から1点、2号住居から1点、87-B-12グリッド1点、表面採取で1点、計4点出土している。石材は、黒色頁岩2点、細粒輝石安山岩2点である。

剥片類 1号住居から63点、2号住居から67区から24点、1号溝から1点、グリッドから17点・表土から13点計118点出土している。図示はしていない。

磨石 1号住居から1点出土している。石材は、変質安山岩の楕円礫である。

多孔石 1号住居から1点出土している。石材は粗粒輝石安山岩である。



第19図 遺構外出土の弥生土器

第6表 遺構外出土の縄文・弥生時代の石器 器種石材構成

石材名	打製石鏃	石錐	スクレイパー	打製石斧	石核	二次加工ある剥片	使用痕ある剥片	磨石	多孔石	剥片	計
黒色頁岩		1	6	2	2	2	1			94	108
珪質頁岩										2	2
黒色安山岩	1									12	13
変質安山岩								1			1
黒曜石	1				1					4	6
チャート										5	5
細粒輝石安山岩				2							2
粗粒輝石安山岩									1		1
砂岩										1	1
計	2	1	6	4	3	2	1	1	1	118	139

第3章 引切塚遺跡の調査内容



第20図 道構外出土の縄文・弥生時代の石器

第3節 古墳時代

1. 調査の概要

竪穴住居2軒、井戸1基、溝1条、土坑2基、ピット3基を検出した。竪穴住居の時期は、フク土にAs-Cを含むことや出土遺物から、古墳時代前期3世紀末頃と考えられる。赤城白川を挟み東隣にある山王・柴遺跡群でも、フク土にAs-Cが堆積する竪穴住居が検出されており、同時期のものと考えられる。調査区の96-T-4～97-A-4で、フク土にAs-C混土を含む井戸を検出した。また、調査区南端で、フク土にHr-FAを含む1号溝を検出した。この1号溝は、西隣の青柳宿上遺跡では、確認されなかった。フク土にAs-C・Hr-FAを含む土坑2基・ピット3基を検出した。1号土坑と1号～3号ピットは2号住居周辺で、2号土坑は1号井戸の南西で検出された。

2号住居北側、縄文時代1号河道から1号井戸の間、40mには砂層が広がる。8カ所ほど土層確認のためのトレンチを掘ったが、古墳時代面でのローム層の堆積はなく遺構は一切確認できなかった。赤城白川の流れの変化点にあたるため、度々洪水を起こしていたと考えられる。西隣の青柳宿上遺跡で確認された古墳時代の2号河道については、以上のような理由から、引切塚遺跡内では確認できなかったと思われる。(第14図)

2. 竪穴住居

1号住居(第21～24図、PL. 7・9・78)

位置 87-A-C-10～12

重複 なし。

形状 南北方向にやや長いほぼ方形

規模 長軸7.09m 短軸6.87m 残存深度0.64m

主軸方位 N-1°-W **面積** 24.53㎡

炉 住居内では確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 壁から1.0～1.7mほど内側に均等に配置された柱穴(P1～P4)を検出した。主柱穴は、深さや位置関係からP1・P2・P3・P4である。柱穴の規模(直径×深さ)は、P1:49×64cm P2:41×66cm P3:70×64cm P4:51×75cmである。

周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。住居の四隅と中央部は浅い掘方が確認されるが、その他の部分は地山をそのまま床面としている。南西部分では硬化面が確認された。

掘方 四隅と中央は床面より10cmほど埋め戻されている。その他に小規模のピット状の落ち込みが確認できたが、床下土坑のような施設は確認できなかった。地山には礫が多い。

埋没状態 土層断面の観察では壁際の三角堆積やAs-Cの堆積が確認されることから自然堆積による埋没と見られる。

遺物 土師器14点を図示した。土師器器台か(1)と土師器器台(2)は北西角のそれぞれ床面4cm上、床面2cm上から、土師器支脚(14)は南西角床面3cm上からの出土である。その他の遺物は、床面から10cm以上、上からかフク土からの出土である。未掲載遺物は、土師器470点である。

時期 出土遺物や竪穴住居のフク土に4世紀初めのAs-C純層の堆積が確認できたことから、3世紀後半と考えられる。

2号住居(第25・26図、PL. 8・9・78・79)

位置 87-A-B-13・14

重複 なし。

形状 トレンチにより南東角を欠くため不明な点はあるが、南北方向にやや長い長方形

規模 長軸4.81m 短軸4.33m 残存深度0.27m

主軸方位 N-7°-E **面積** 17.35㎡

炉 確認されなかった。

貯蔵穴 南東角より検出、規模は径0.57m×0.53m、深さ0.31mを測る。

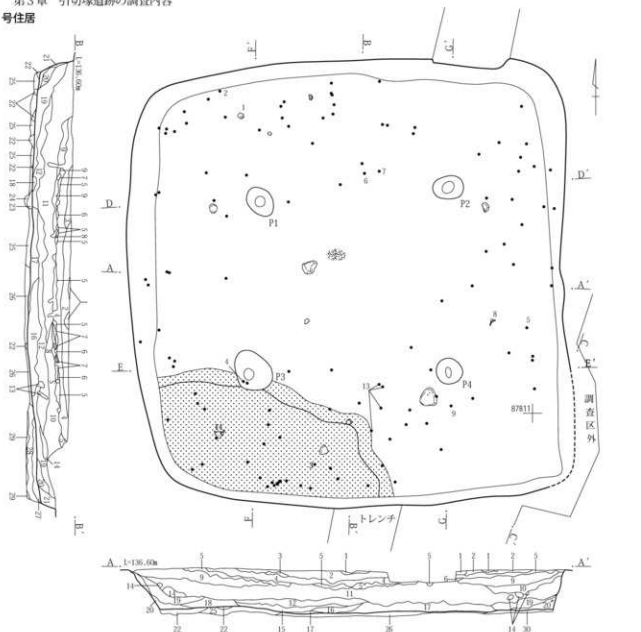
柱穴 主柱穴は、南北軸のほぼ中ほどと北辺から1.20mほどの北側に偏った位置で検出されたP1・P2・P3・P4である。柱穴の規模(直径×深さ)は、P1:25×27cm P2:46×29cm P3:24×22cm P4:25×26cmである。

周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。貯蔵穴付近から柱穴P4の西側にかけての狭い範囲で硬化面が確認された。住居の西側と東側に焼土と炭・炭化物の塊が確認された。

掘方 床面より10cmほど埋め戻されている。

1号住居

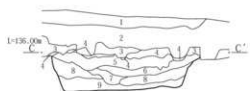


1号住居A-A'・B-B'

1. 灰黄褐色砂質土(10YR6/2) 新しい水成堆積層
2. にぶい黄褐色シルト質土(10YR7/3) 水成堆積層に伴う下層に堆積した土
3. にぶい黄褐色シルト質土(10YR7/2) 水成堆積層に伴う下層に堆積した土
4. にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) Hr-FA粒(φ1~2mm)1%含む
5. Hr-FA混土層 Hr-FAと4層の混土層、Hr-FA土30~60%含む
6. Hr-FA土 アッシュ、にぶい黄褐色土(2.5Y/3)
7. Hr-FA軽石(φ1~5mm)含む
8. Hr-FA土 アッシュ、にぶい黄褐色土(10YR6/3) Hr-FA内のS1か?
9. 黒褐色土(10YR3/1) 灰黄褐色土(10YR4/2)をブロック状に含み、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
10. 黒褐色土(10YR3/2) As-C粒(φ1~3mm)3%含む
11. 黒褐色土(10YR3/1) As-C粒(φ1~3mm)3%含む
12. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C粒(φ1~4mm)10%含む
13. にぶい黄褐色土(10YR5/4) ブロック状に入る
14. As-C層(φ1~4mm) As-C焼層 堆積する箇所は、家の縁辺部分で特に四隅に多い
15. にぶい黄褐色土(10YR5/4) As-C粒(φ1~2mm)極少量含む
16. にぶい黄褐色土(10YR5/3) As-C粒(φ1~5mm)1%含む
17. にぶい黄褐色土(10YR5/4) As-C粒(φ1~2mm)極少量含む
18. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C粒(φ1~2mm)3%含む
19. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C粒(φ1mm)極少量含む、ここまでは極少量ながらもAs-C粒を含む
20. 黒褐色土(10YR3/1) にぶい黄褐色土(10YR5/3) 10%含む
21. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 中心層 灰黄褐色土(10YR4/2) 10~20%含む
22. 灰黄褐色土(10YR4/2) 白色粒(φ10~20mm)、小円礫(φ10~30mm)極少量含む
23. 黒褐色土(10YR3/2) As-C粒(φ1~2mm)1%含む
24. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 黒褐色土(10YR3/2)をブロック状に含む
25. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 白色粒(φ1~2mm)1%、白色礫(φ10~30mm)1%含む
26. 灰黄褐色土(10YR4/2) 白色粒(φ1mm)1%、小円礫(φ1cm)極少量含む
27. 灰黄褐色土(10YR4/2) 白色粒(φ1mm)2%、にぶい黄褐色土(10YR4/3)をブロック状に含む
28. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒(φ1mm)1%、にぶい黄褐色土(10YR4/3)をブロック状に含む
29. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 白色粒(φ1mm)極少量含む
30. 灰黄褐色土(10YR4/2) 円礫(φ1~2cm)2%含む

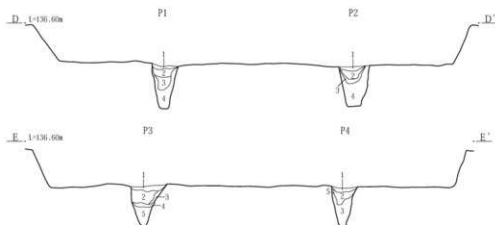
0 1:60 2m

第21図 1号住居



1号住居C-C'

1. 盛土 円礫(φ1~3cm) 20%含む
2. 灰黄褐色砂礫土(10YR5/2)水成堆積層
3. にぶい黄褐色シルト質土(10YR7/2)
4. Hr-FA混土層 Hr-FAと3層の混土層、Hr-FA土5~10%含む
5. 黒褐色土(10YR3/2) As-C粒(φ1~3mm)1%含む
6. As-C粒(φ1~20mm)ほぼ純層
7. 黒褐色土(10YR3/1) As-C粒(φ1~2mm)1%含む
8. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C粒(φ1mm)極少量含む
9. 黒褐色土(10YR3/1) 灰黄褐色土(10YR4/2)斑紋状に含む



1号住居P 1D-D'

1. にぶい黄褐色土(10YR5/4) As-C粒(φ1~7mm)2%含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) 小円礫(φ1~3cm)1%、As-C粒(φ1~2mm)極少量含む
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3) As-C粒(φ1mm)極少量、小円礫(φ1~3cm)1%含む
4. 灰黄褐色砂礫土(10YR5/2) 円礫(φ1~5cm) 10%含む

1号住居P 2D-D'

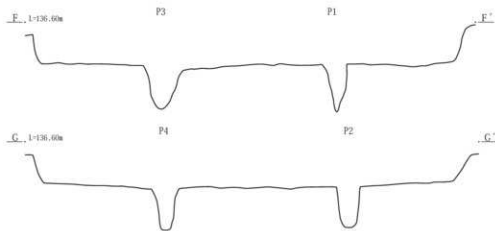
1. 黒褐色土(10YR3/1) As-C粒(φ1~5mm)2%含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C粒(φ1~3mm)1%、小円礫(φ1~3cm)極少量含む
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3) As-C粒(φ1~2mm)、小円礫(φ1cm)極少量含む
4. 灰黄褐色砂礫土(10YR5/2) 円礫(φ1~5mm) 10%含む

1号住居P 3E-E'

1. 黒褐色土(10YR3/1) As-C粒(φ1~3mm)2%、小円礫(φ1~7cm)極少量含む
2. 黒褐色土(10YR3/1) As-C粒(φ1~2mm)極少量、にぶい黄褐色土(10YR4/3)をブロック状に含む
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 小円礫(φ2~4cm)5%含む
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) 小円礫(φ1~2cm)1%含む
5. 灰黄褐色土(10YR5/2) 円礫(φ1~5cm) 10%含む

1号住居P 4E-E'

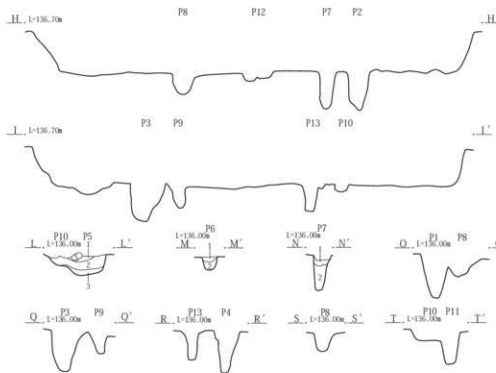
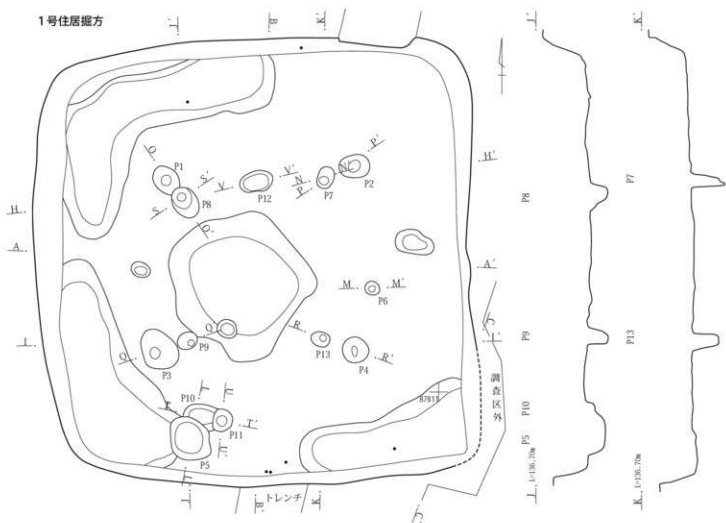
1. 黒褐色土(10YR3/1) As-C粒(φ1~3mm)1%含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C粒(φ1~2mm)1%含む
3. 灰黄褐色砂礫土(10YR5/2) 円礫(φ1~5mm) 10%含む



0 1:60 2m

第22図 1号住居土層断面

1号住居掘方



1号住居P 5I-I'

1. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒(φ1mm) 極少量含む
2. 黒褐色土(10YR3/1) 白色粒(φ1~2mm) 含み、にぶい黄褐色土(10YR4/3)をブロック状に5%含む
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) 黒褐色土(10YR3/1) 5%含む

1号住居P 6M-M'

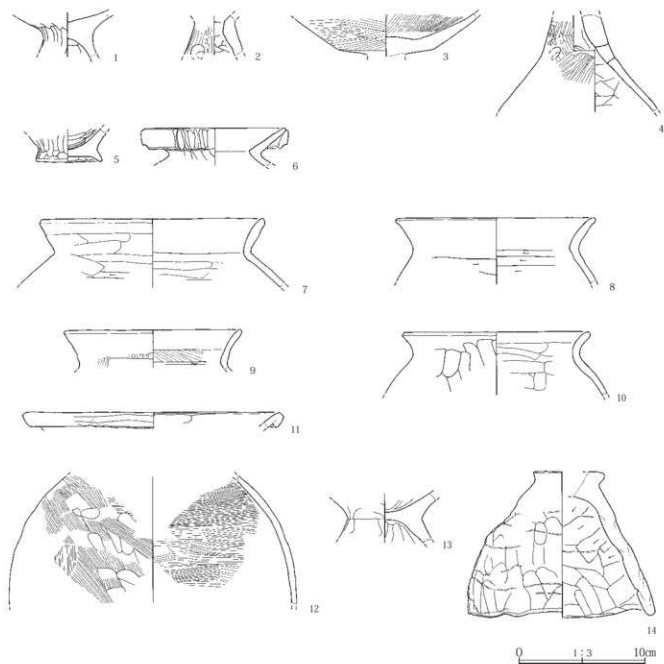
1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 黒褐色土(10YR3/2)をブロック状に含む
2. 黒褐色土(10YR3/1) 灰黄褐色土(10YR4/2)をブロック状に含む

1号住居P 7N-N'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) にぶい黄褐色土(10YR4/3)をブロック状に含む
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 灰黄褐色土(10YR4/2)をブロック状に含む

0 1:60 2m

第23図 1号住居掘方



第24図 1号住居出土遺物

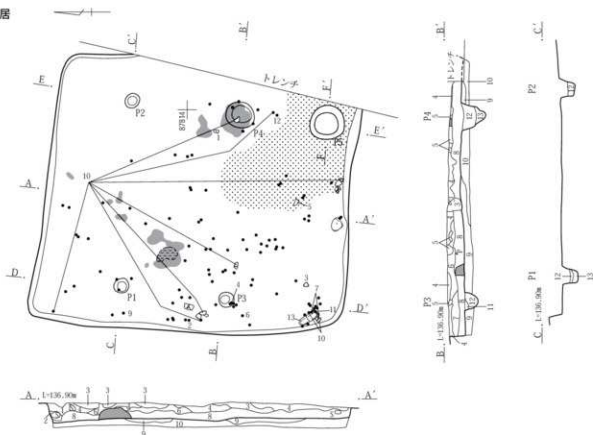
埋没状態 ブロック状の堆積が観察されることから人為的な埋め戻しが行われた可能性が窺える。

遺物 土師器12点、礫石器1点を図示した。床面直上の遺物はない。床面に一番近いものでも、床面から7cm上からの検出であった。特徴的な出土状態であったのは、南西角から出土した土師器壺(7)土師器甕(10)と石英閃緑岩の楕円礫(13)である。逆位の土師器壺(7)の中に楕円礫(13)を入れ、さらにこれを土師器甕(10)の中に入れ

ている。また、土師器壺(8)は、屋内の四方八方に散らばった形で検出された。未掲載遺物は、土師器296点である。

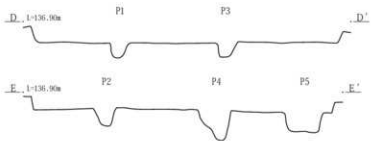
時期 出土遺物や竪穴住居のフク土に4世紀初めのAs-C純層の堆積が確認できたことから、3世紀後半と考えられる。

2号住居



2号住居A-A'・B-B'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) カケランの上、角礫(φ10cm)1個を含む
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) カケランの上、円礫(φ10cm)1個を含む
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C粒(φ1~8mm)3%含む
4. 黒褐色土(10YR3/1) As-C粒(φ2~8mm)5%含む
5. As-C純層に近いブロック
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C粒(φ1~7mm)10%含む
7. 黒褐色土(10YR3/2) As-C粒(φ1~3mm)、白色粒(φ1~2mm)極少量含む
8. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C粒(φ1~2mm)、白色粒(φ1mm)極少量含む
9. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 明黄褐色土(10YR6/6)をブロック状に含み、白色粒(φ1mm)1%含む
10. 灰黄褐色土(10YR4/2) 白色粒(φ0.5~1mm)3%含む
11. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 白色粒(φ0.5~1mm)1%含む
12. 灰黄褐色土(10YR4/2) 白色粒(φ0.5~1mm)1%含む
13. 灰黄褐色土(10YR4/2) にぶい黄褐色土(10YR4/3)をブロック状に含み、白色粒(φ0.5~1mm)極少量含む

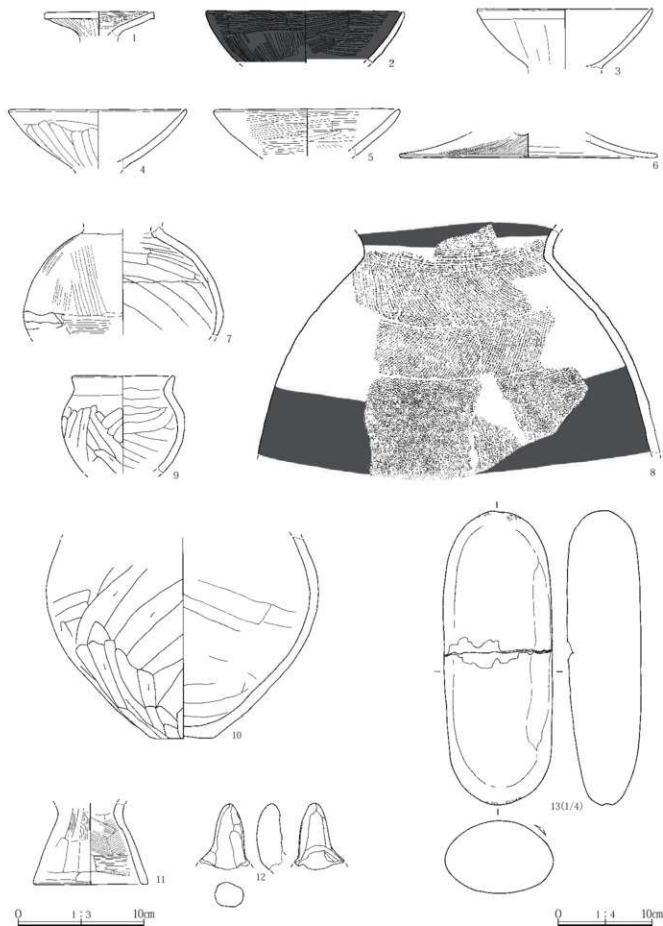


2号住居P 5 F-F'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 白色粒(φ0.5~1mm)2%含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) にぶい黄褐色土(10YR4/3)をブロック状に含む



第25図 2号住居



第26図 2号住居出土遺物

3. 井戸

1号井戸(第27図、PL. 9)

位置 96-T-4 ~ 97-A-4

重複 なし。

形状 平面は長軸2.94m 短軸2.75mの楕円形、断面は残存深度1.55mの半円状で中央に径0.40m、深さ0.40mのピット状の落ち込みを有する。

主軸方位 N-12°-E

埋没状態 壁際は周囲からの流れ込み、中央部は水平堆積が確認できることから、自然埋没の可能性が窺えた。

遺物 未掲載遺物は、土師器30点である。

時期 出土遺物から、古墳時代と考えられる。

4. 溝

調査区南端で、フク土にHr-FAを含む1号溝を検出した。古墳時代後期の遺構と考えられる。

1号溝(第28図、PL. 9)

位置 87-C・D-8 走行方向 N-36°-W

重複 なし。形状 走行はほぼ直線的、確認面での土幅1.02m、底面幅0.55 ~ 0.75m、調査長3.48m、断面は逆台形状、残存深度0.44 ~ 0.48m 埋没状態 ほぼ水平な堆積が確認できることから、短時間に埋没したことが窺える。

遺物 未掲載遺物は、土師器22点である。時期 出土遺物から、古墳時代と考えられる。所見 底部に砂粒などの堆積が確認されないことから水が流れたり、溜めていたことは考えられない。また、検出した範囲が一部であることから区画等の性格については言及できない。

5. 土坑

検出された古墳時代の土坑は2基である。1号土坑は1号住居と2号住居の間、2号土坑は1号井戸の南西側に位置している。

1号土坑(第29図、PL.10)

位置 87-B-12・13 重複 なし。

形状 隅丸方形、断面は逆台形状。

規模 長軸1.10m 短軸0.90m 残存深度0.23m

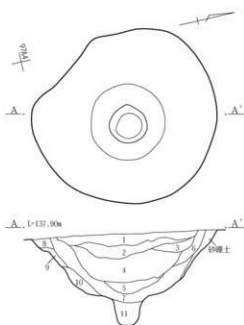
長軸方位 N-8°-W 埋没土 黒褐色土とHr-PP粒を含む灰黄褐色土と白色粒と灰黄褐色土を含む黒褐色土が堆積していた。遺物 未掲載遺物は、土師器1点である。時期 出土遺物や埋没土の状態から古墳時代と想定される。

2号土坑(第29図、PL.10)

位置 97-A-3 重複 なし。

形状 不整形円形

規模 長軸0.98m 短軸0.86m 残存深度0.22m

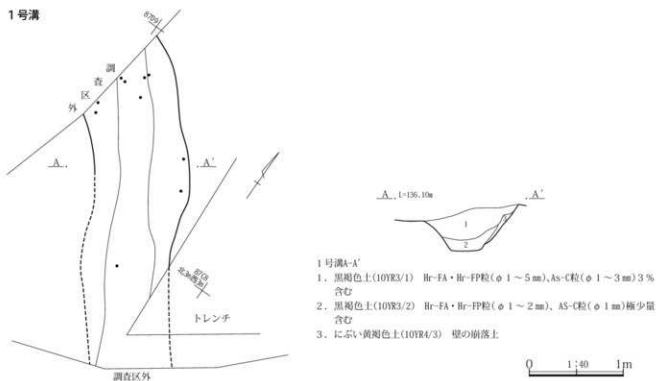


1号井戸A-A'

1. 灰褐色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-PP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)2%含む
2. 黒褐色土(10YR3/1) Hr-FA・Hr-PP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
3. 灰黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-PP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)極少量含む
4. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-PP粒(φ1~5mm)、As-C粒(φ1~3mm)3%、にぶい黄褐色土(10YR5/4)粒(φ1~5mm)1%含む
5. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-PP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
6. 灰黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-PP粒(φ1mm)、As-C粒(φ1mm)極少量含む
7. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-PP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
8. 黒褐色土(10YR3/2) As-C粒(φ1~2mm)極少量含む
9. 灰黄褐色土(10YR5/2) にぶい黄褐色土(10YR5/4)ブロック状に2%、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
10. 灰黄褐色土(10YR4/2) 炭化物粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~2mm)極少量含む、にぶい黄褐色土(10YR5/4)ブロック状に含む
11. 相灰色土(10YR4/1) Hr-FA・Hr-PP粒(φ1~20mm)、As-C粒(φ1mm)極少量含む、やや粘性あり

0 1;60 2m

第27図 1号井戸



第28図 1号溝

長軸方位 N-35°-W **埋没土** As-C粒、Hr-FP粒を含む灰黄褐色土、As-C粒、白色粒を含む黒褐色土が堆積していた。

遺物 未掲載遺物は、土師器1点である。

時期 出土遺物から、古墳時代と考えられる。

6. ピット

検出された古墳時代のピットは3基である。2号住居の西側に点在していた。

1号ピット(第29図、PL.10)

位置 87-B・C-13 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.58m 短軸0.52m 残存深度0.51m

長軸方位 N-43°-E **埋没土** Hr-FA・Hr-FP粒とAs-C粒を含む黒褐色土と灰黄褐色土が堆積していた。

遺物 なし。 **時期** 埋没土から、古墳時代と考えられる。

2号ピット(第29図、PL.10)

位置 87-C-14 **重複** なし。

形状 円形

規模 長軸0.34m 短軸0.30m 残存深度0.48m

長軸方位 N-89°-W **埋没土** 灰黄褐色土を含む黒褐色土が堆積していた。

遺物 なし。 **時期** 埋没土から、古墳時代と考えられる。

3号ピット(第29図、PL.10)

位置 87-B-14 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.42m 短軸0.37m 残存深度0.35m

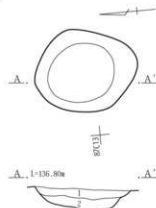
長軸方位 N-5°-W **埋没土** 灰黄色砂質土と黒褐色土が堆積していた。

遺物 なし。 **時期** 埋没土から、古墳時代と考えられる。

7. 遺構外出土の古墳時代の遺物(第29図)

古墳時代の遺構外出土遺物として4点を図示した。器種は、土師器環(1)、土師器甕(2~4)である。古墳時代の未掲載遺構外出土遺物は、197点にのぼる。その内訳は、全て土師器である。

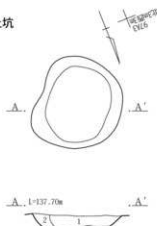
1号土坑



1号土坑A-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 黒褐色土(10YR3/2) 3%、Hr-FP粒(φ 1~2mm) 1%含む
2. 黒褐色土(10YR3/2) 灰黄褐色土(10YR4/2) 20%、白色粒(φ 1mm未満) 2%含む

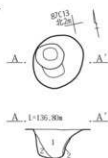
2号土坑



2号土坑A-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C粒(φ 1~2mm) 1%、Hr-FP粒(φ 2~3mm) 1%含む
2. 黒褐色土(10YR3/2) As-C粒(φ 1~2mm) 1%、白色粒(φ 1mm未満) 2%含む

1号ピット



1号ピットA-A'

1. 黒褐色土(10YR3/1) Hr-FA粒(φ 1~2mm)・As-C粒(φ 1~2mm) 1%含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) 白色粒(φ 1mm未満) 1%含む

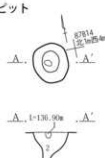
2号ピット



2号ピットA-A'

1. 黒褐色土(10YR3/2) 灰黄褐色土(10YR4/2) 10%含む
2. 黒褐色土(10YR3/2) しまりやや弱い

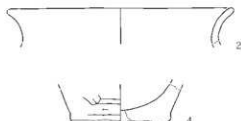
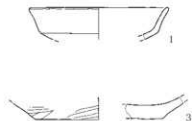
3号ピット



3号ピットA-A'

1. 灰黄色砂質土(2.5Y6/2)
2. 黒褐色土(10YR3/2)

0 1:40 1m



0 1:3 10cm

第298図 1号・2号土坑、1号~3号ピット、遺構外出土の古墳時代の遺物

第4章 青柳宿上遺跡の調査内容

第1節 概要

青柳宿上遺跡では、竪穴住居30軒、竪穴状遺構1基、溝1条、道1条、河道2条、土坑19基、ピット45基、旧石器時代の石器2点を検出した(第11～13・30図・第4表)。調査区のうち北側にはロームの堆積があり、南側は赤城白川による扇状地が形成されていた。

旧石器時代 本遺跡の調査区の北側には、ロームが比較的良好な状態で残っていたため、旧石器時代の調査を実施した(第10図)。ただし、調査区南側については、赤城白川の堆積作用による扇状地が形成され砂礫層となっていたため、調査対象から外した。旧石器の調査は、2×5mのトレンチを設け、ジョレンを用いて注意深く掘り下げていき、遺物や遺構を検出した段階で、随時トレンチの周囲を広げていく方法を採用した。97-T-10グリッドのロームから剥片が出土したためトレンチを拡張し、南側にも2つトレンチを設定したが、他に石器などの遺物の発見はなかった。

縄文時代 調査区中央やや北側の97-L-11・12から、竪穴住居を1軒検出した。出土遺物や検出状況から、縄文早期と確認した。さらに、縄文早期の遺構として14基の集石を確認した。その他に縄文早期の遺構は検出されなかったが、大量の縄文早期の破片が、現在の地表面から2mほど深いレベルから全面的に出土した。縄文時代早期を確認した面では、至るところに、褐色のローム層の中に白い噴砂跡が北東から南西にかけて何本も確認することができた。

調査区南端の87-F～H-13～15にかけて、1号河道を検出した。これは、群馬県道151号津久田停車場前橋線をくぐり、東隣の引切塚遺跡から続いている。河道縁の黒色土から縄文時代晩期千綱式土器や耳飾りが出土した。

弥生時代 調査区南西側、97-P～R-3～6で、半円形の窪地を検出した。現場調査段階では、円形凹地と称していたが、南西側は立ち上がらずに傾斜に合わせて広がるため、整理段階で半円形の窪地と名称変更した。遺構確認のため、南北・東西にトレンチを設け掘り下げた

ところ、カマドの焼土を確認し、古墳時代後期の竪穴住居2軒を検出した。竪穴住居調査終了後、さらにトレンチを掘り進めたところ、土器と石器が出土した。深さ3m以上の堆積のため、重機にて掘削した。土器の発見当初は、縄文施文が見られたことから、縄文時代後期の土器ではないかと推測されたが、その後、弥生時代の大型壺の破片と判明した。整理作業で復元すると、若干頸の太い弥生土器中期中葉の大型壺となった。(埋文冊：平成26年5月整理遺跡の最新情報参照)これは、再葬墓でよく使われるものと類似している。その他にも、広口短頸壺や炭化材も同じ層から発見された。弥生時代の遺構は、他にはないが、半円形の窪地周辺にその時代の人々が住んでいたと考えられる。また、半円形の窪地のトレンチセクションでは、噴砂跡と地割れが確認できた。

古墳時代 古墳時代後期の竪穴住居を29軒検出した。97区東側の南北ラインに21軒の住居が集中している。旧来、赤城白川だった場所や砂質土の扇状地内にも5軒(25号～29号住居)あり、壁の脆くなる場所に竪穴住居を造っていることから、人口増加の様子が窺える。29軒中カマドを確認したほとんどの竪穴住居が東カマドであったが、15号・26号住居の2軒だけ西カマドであった。また、13号・28号住居では、長い煙道を確認することができた。7号・26号住居の床下から溝状遺構が検出された。これは床下土坑とは異なり、溝を意識している。26号住居床面から土玉が発見された。28号住居の掘方から覆土にかけて、噴砂の痕跡を確認した。

調査区の98区から87区にかけて、北西から南東に下る1号溝を検出した。流路内には、水が流れた形跡があり、出土遺物から古墳時代後期の遺構と考えられる。分岐点には、大きめな礫を積んで水の流れを調整した痕跡が確認された。

中世・近世・近代以降 中世・近世の遺構は発見されなかったが、鍬矢・寛永通宝・陶磁器の破片などが出土している。また、調査区内南北に走る、近世～現代に至るまで利用されていた1号道を検出した。1号道により古墳時代の竪穴住居4軒が残念ながら壊されている。

地震痕跡 遺構ではないが、地震災害の痕跡を認めることができた。噴砂痕が、調査区のローム層内に、地割れ

の痕跡が半円形の窪地のセクションなどで確認された。また、32号・33号トレンチのセクションでは、地すべりの痕跡が発見された。特に、33号トレンチ内では、As-Cの軽石が何らかの力によって動いたことにより、上層がずれたことが観察できた。赤城南麓周辺の噴砂跡などが、818(弘仁9)年の地震痕跡と推定されることから、この地すべりも同時期と考えられる。

第2節 旧石器時代

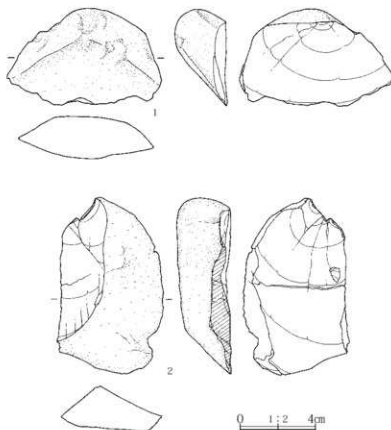
1. 概要

縄文時代早期確認面の調査終了後、2m×5mのトレンチを設け、旧石器時代の調査を実施した(第10図)。トレンチは計36カ所設定し、ジョレンを用いて注意深く掘り下げた。その結果、T10グリッドから剥片が2点出土した。この南側にも2カ所のトレンチを設け調査したが、ほかに遺物は発見されなかった。

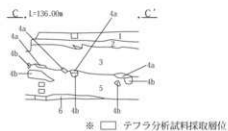
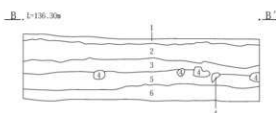
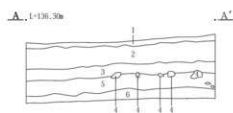
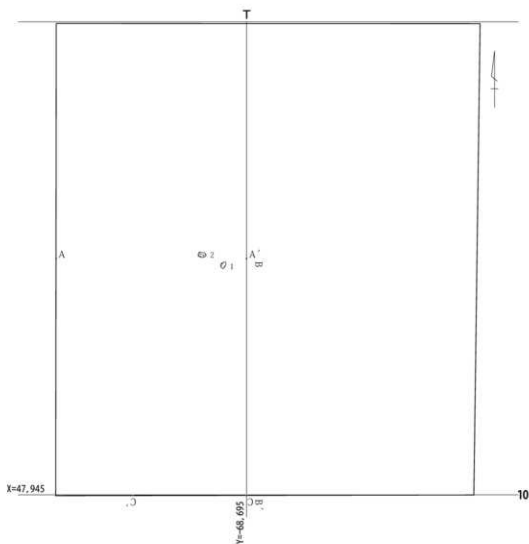
2. T10グリッド出土石器

As-YP(4層)より下位の5層から、黒色頁岩製の剥片2点が出土した。火山灰分析の結果から(第5章第1節参照)、石器包含層の5層でAs-0kGroup(浅間大窪沢軽石群)が検出されているという。そのため、これらの剥片は少なくともAs-0k1噴出より新しく、As-YPより古いと推定される。

2点の剥片は20cmほど離れて出土した。ともに黒色頁岩製で、接合はしないものの、石質は近似し同一母岩の可能性が高い。1・2(第30図)は自然面を打面として剥離を行い、背面に自然面を大きく残している。



第30図 旧石器トレンチ出土遺物



旧石器T-10トレンチA-A'・B-B'・C-C'

1. にぶい黄褐色土(10YR6/3) As-YP粒(ϕ 1~2mm)極少量、にぶい黄褐色土(10YR7/4)総社軽石粒(ϕ 1~2mm)1%含む、Ⅷb層
2. 灰黄色土(2.5Y6/2) As-YP粒(ϕ 1~7mm)3%含む
3. 灰黄色土(2.5Y6/2) As-YP粒(ϕ 1~10mm)10%含む
- 4 a. 灰黄褐色土(10YR6/2) As-YP上部層, As-YPアッシュ
- 4 b. 灰白色土(10YR8/1) As-YPアロック(ϕ 1~10mm)
5. 灰黄色土(2.5Y6/2) As-YP粒(ϕ 1~3mm)5%含む
6. にぶい黄褐色土(10YR5/4)

* □ テフラ分析試料採取層位

0 1:40 1m

第31図 旧石器トレンチ詳細図

第3節 縄文時代

1. 調査の概要

竪穴住居1軒、集石14基、河道1条、土坑14基、ピット19基を検出した。遺構は、97区から早期住居1軒を検出し、その周辺から膨大な量の縄文早期の土器と石器を検出した。特に早期条痕文系の土器出土が多い。

竪穴住居の時期は、遺物出土状況から、縄文早期子母口式期の時期と考えられる。縄文早期の住居の検出は珍しい。縄文早期遺物包含層の直上には灰黄褐色砂質土が約20cm～50cmの厚さで堆積していた。これは、赤城白川の洪水跡と考えられる。30号竪穴住居の床面は、酸化鉄分沈着の沈着が強くなっていた。が²の検出はなかった。

縄文時代後期の高井戸式土器の出土した6号土坑の周りから、後期の土器が出土していたが、他に遺構を検出することはなかった。

30号住居から出土した石器類は、計22点(第7表)である。スクレイパー4点と多く、打製石斧と加工痕ある剥片が各3点であり、打製石鎌が1点だけ出土した。

2. 竪穴住居

基本土層Ⅵ層(灰黄色砂質土)を重機にて取り除いた後、面的に縄文早期の遺物を包含する基本土層Ⅶa層(灰黄褐色土)・Ⅶb層(にぶい黄褐色土)の調査中に、黒褐色土の部分を検出した。遺物の出土状態から縄文早期の竪穴住居と認定した。

30号住居(第32図、PL.12・13・24・79)

位置 97-L-11・12

重複 なし。

形状 隅丸方形

規模 長軸3.35m 短軸2.48m 残存深度0.30m

主軸方位 N-20°-E 面積 7.21㎡

炉 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

床面 北東から南西にかけて6cmほど傾斜している。硬化面は確認されなかった。

埋没土 縄文早期面を覆った洪水層と考えられる暗黄色砂質土が、住居覆土である黒褐色土に部分的に入り込み、酸化鉄分沈着の強い褐灰色土、暗灰黄色砂質土の順に堆積していた。

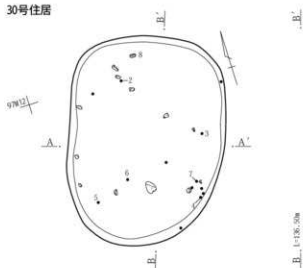
遺物 床面直上から出土したのは、子母口式の深鉢胴部片(3)である。その他の土器や石器は、床面より4cm～24cm上から出土している。掲載した土器は子母口式2点と土器片の観察から型式を決めかねる早期条痕文4点である。未掲載土器は、早期条痕文9点である。未掲載の石器は、打製石斧2点、彫器4点、加工痕ある剥片2点、剥片10点である。

時期 出土土器から、縄文時代早期の子母口式期と考えられる。

第7表 縄文時代早期30号住居出土の石器 器種石材構成

石材名	打製石鎌	スクレイパー	打製石斧	二次加工ある剥片	剥片	計
黒色頁岩		3	3	2	9	17
珪質頁岩		1				1
黒色安山岩					1	1
黒曜石				1	1	2
チャート	1					1
計	1	4	3	3	11	22

30号住居



30号住居A-K

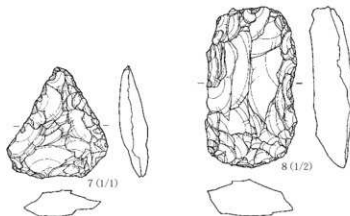
1. 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2)
2. 黒褐色土(10YR3/2) 縄文早期包含層Ⅷb層土が入る。炭化物粒($\phi 1 \sim 4$ mm)極少量、白色粒($\phi 1 \sim 2$ mm)1%含む
3. 褐灰色土(10YR4/1) 酸化鉄分の沈着強い層、白色粒($\phi 1 \sim 2$ mm)1%含む
4. 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) 灰色味の強い箇所と黄色味の強い箇所がある、白色粒($\phi 1 \sim 10$ mm)2%含む



0 1:60 2m



0 1:3 10cm



0 1:1 2cm

0 1:2 4cm

第32図 30号住居と出土遺物

3. 集石

縄文早期遺物包含層(基本土層VII a・VII b)の中から、14基の集石を検出した。97区西側に位置するものが多い。下部構造に掘込みをもつものや持たないもの、花卉状に礫を並べているもの、列をなすもの、角礫や扁平礫を点々と配置しているものなどいくつかの種類が見受けられる。被熱していると考えられる赤色化したもの、被熱していないものの両者が見られた。被熱していたものは、アースオープンの可能性が考えられる。

1号集石(第33図、PL.14・23)

位置 97-P-16

形状 板状礫5石を花卉状に配置し、中心の狭くなる底面部にも4石ほど敷いている。板状礫の内側は赤色化し被熱したようであり、脆くなっている。

規模 上端部 長軸0.52m 短軸0.40m
上端部から底石までの深さ0.20m

遺物 未掲載遺物は、早期条痕文1点である。

埋没土 酸化し鉄分沈着の多い灰白褐色土が堆積していた。

遺物 なし。

2号集石(第33図、PL.14・24)

位置 97-S-12

形状 掘込みの東側と西側に角礫を立て、内側に板状礫を数個入れている。

規模 上端部 長軸0.47m 短軸0.36m
上端部から底石までの深さ0.21m

埋没土 酸化し鉄分沈着の多い灰白褐色土が堆積していた。

遺物 なし。

3号集石(第33図、PL.14・24)

位置 97-R-13

形状 角礫が点在していた。

埋没土 掘込みは確認できなかった。

遺物 なし。

4号集石(第34図、PL.14・24・79)

位置 97-L-17

形状 粗粒輝石安山岩が3点使われ、亜円礫を東側に3個、西側に2個直立して並べている。

規模 上端部 長軸1.06m 短軸0.80m
上端部から底石までの深さ0.24m

埋没土 酸化し鉄分沈着の多い灰黄褐色土が堆積していた。

遺物 4号集石南側からの出土となるが、掲載遺物は、早期条痕文の深鉢胴部片(1~5)である。未掲載遺物は、早期条痕文19点、早期無文1点、打製石鏃1点、打製石斧1点、石核2点、加工痕ある剥片1点、剥片25点である。

5号集石(第34図、PL.14・79)

位置 97-K-16

形状 円礫2点、スクレイパー(1)を北側・東側・南側を囲むように配置していた。

規模 上端部 長軸0.35m 短軸0.29m
上端部から底石までの深さ0.09m

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

遺物 掲載遺物は、変質安山岩製のスクレイパー(1)である。未掲載遺物は、早期条痕文1点である。

6号集石(第35図、PL.14)

位置 97-N-15

形状 角礫2点が落ち込みにあった。

規模 上端部 長軸0.33m 短軸0.290m
上端部から底石までの深さ0.07m

埋没土 不明。

遺物 未掲載遺物は、早期条痕文1点である。

7号集石(第35図、PL.14)

位置 97-O-8

形状 角礫が点在していた。

埋没土 掘込みは確認できなかった。

遺物 未掲載遺物は、剥片1点である。

8号集石(第35図、PL.14)

位置 97-N-8

形状 角礫4点が点在していた。

埋没土 掘込みは確認できなかった。

遺物 なし。

9号集石(第36図、PL.14・24・80)

位置 97-K-8

形状 角礫2点が組み合わされていた。

埋没土 掘込みは確認できなかった。

遺物 掲載遺物は、粗粒輝石安山岩製の石皿(1)である。

未掲載遺物は、粗粒輝石安山岩製の石皿である。

10号集石(第36図、PL.13・14・25)

位置 97-R-13

形状 板状礫3石を掘込みの縁に配置し、亜円礫を8点ほど入れている。

規模 上端部 長軸0.59m 短軸0.54m

上端部から底石までの深さ0.15m

埋没土 灰黄褐色土が堆積していた。

遺物 未掲載遺物は、剥片2点である。

11号集石(第36図、PL.13・15・25・80)

位置 97-R-13

形状 板状礫3石を掘込みの縁に配置し、礫を数点ほど入れている。礫の下から押型文土器が非常に脆い状態で発見された。被熱の影響と考えられる。石の設置の方法は、10号集石と似ている。

規模 上端部 長軸0.83m 短軸0.73m

上端部から底石までの深さ0.11m

埋没土 灰黄褐色土が堆積していた。

遺物 掲載遺物は早期押型文の深鉢口縁部か〜胴部上半片(1)である。内側・外側ともに風化している。未掲載遺物は、剥片1点である。

12号集石(第37図、PL.13・15・26)

位置 97-S-10

形状 南北方向に一列に亜角礫、亜円礫が並んでいる。粗粒輝石安山岩が1点使われている。

埋没土 掘込みは確認できなかった。

遺物 未掲載遺物は、剥片2点である。

13号集石(第37図、PL.13・15・26)

位置 97-T-10

形状 掘込み内に角礫、亜円礫を充填し、中央には板状礫を1石置いている。

規模 上端部 長軸0.59m 短軸0.53m

上端部から底石までの深さ0.18m

埋没土 灰黄褐色土が堆積していた。

遺物 なし。

14号集石(第37図、PL.15・24・80)

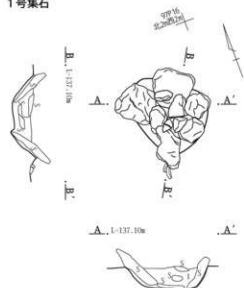
位置 97-L-11

形状 大きな円礫の周りに小さい礫が点在していた。

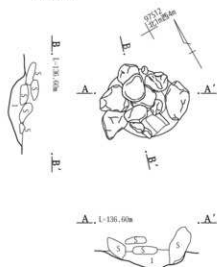
埋没土 掘込みは確認できなかった。

遺物 掲載遺物は、黒色頁岩製の石鏝(1)、粗粒輝石安山岩製の磨石(2)である。未掲載遺物は、早期条痕文1点、剥片1点である。

1号集石



2号集石



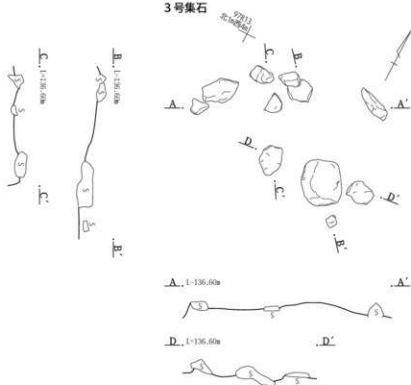
1号集石A-A' B-B'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 灰白色粒(As-YF粒) (φ 1~3mm) 2%含む
酸化して鉄分沈着の多い層

2号集石A-A'・B-B'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 酸化して鉄分沈着する層

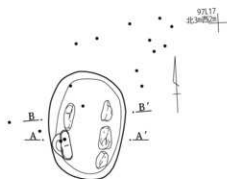
3号集石



0 1:20 50m

第33図 1号~3号集石

4号集石



A., l=137.20mm



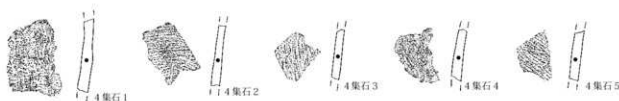
B., l=137.20mm



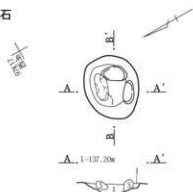
4号集石A-A'・B-B'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 酸化沈着した鉄分を含む層。縄文早期包含層下層の上とほぼ同じ
2. 褐灰色土(10YR4/1) 一部砂質土含む
3. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 酸化沈着した鉄分を含む層

0 1:40 1m



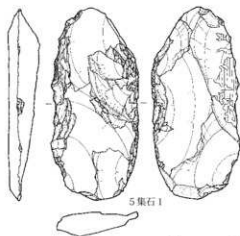
5号集石



A., l=137.20mm

A., l=137.20mm

B., l=137.20mm



5集石1

0 1:20 50cm

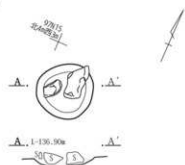
0 1:3 10cm

5号集石A-A'・B-B'

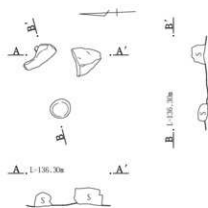
1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒(φ0.5~1mm)極少量含む

第34図 4号・5号集石と出土遺物

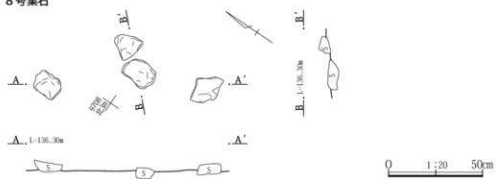
6号集石



7号集石

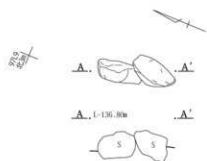


8号集石

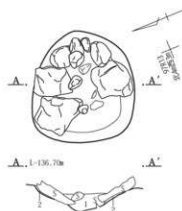


第35図 6号～8号集石

9号集石



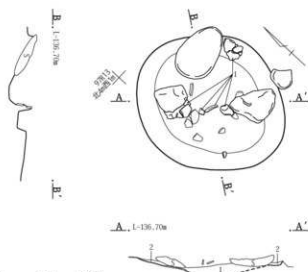
10号集石



10号集石A-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 円礫(φ 5~8cm) 5%含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2)

11号集石



0 1:3 10cm



0 1:4 10cm

11号集石A-A'

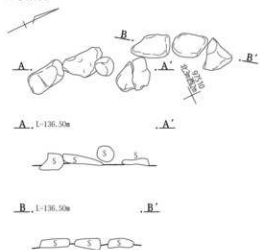
1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 円礫(φ 5~8cm) 5%含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2)

0 1:20 50cm

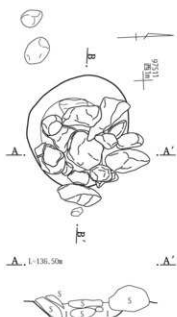
第36図 9号~11号集石と9号・11号集石出土遺物

第4章 青柳宿上遺跡の調査内容

12号集石



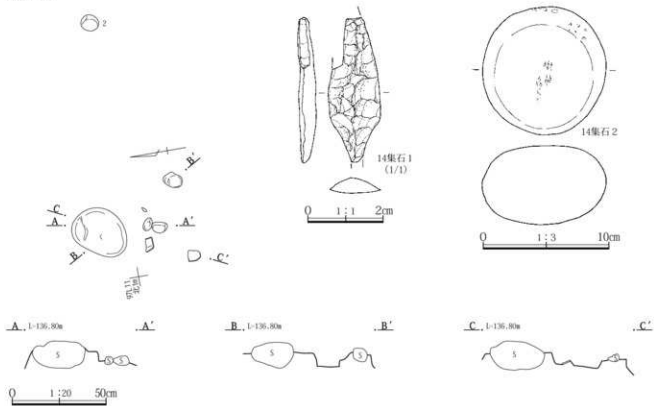
13号集石



13号集石A-A'・B-B'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) Ⅷ層上に近い層

14号集石



第37図 12号～14号集石と14号集石出土遺物



1号集石 構築石材



2号集石 構築石材



3号集石 構築石材



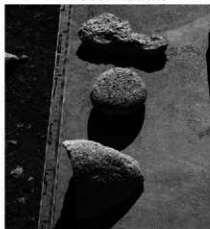
4号集石 構築石材



5号集石 構築石材



6号集石 構築石材



7号集石 構築石材



8号集石 構築石材



9号集石 構築石材



10号集石 構築石材



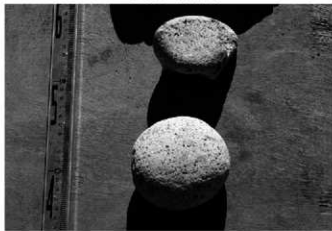
11号集石 構築石材



12号集石 構築石材



13号集石 構築石材



14号集石 構築石材

第39図 縄文時代早期集石 構築石材(2)

4. 河道

隣の引切塚遺跡から群馬県道151号津久田停車場前橋線の下をくぐり、青柳宿上遺跡の南端87区を通過する1号河道を検出した。赤城白川の旧河道と考えられる。上層からは、古墳時代前期の土器や弥生時代の土器を発見した。主として、下層から発見されたのは、縄文時代晩期の千網式土器である。黒色土の堆積層から多く発見された。土器片の縁は摩耗が見られず、赤城白川によって流されてきた形跡はない。1号河道周辺に竪穴住居など居住区があった可能性がある。青柳宿上遺跡の1号河道調査は10月から11月の過水期の調査であったが、水が湧き出していた。土製耳飾り(耳栓)が1点出土した。

両遺跡にまたがる遺構のため、青柳宿上遺跡にまとめて掲載することにした。

1号河道(第40～46図、PL. 6・80・81)

位置 87-B・C-15・16 (引切塚遺跡側)

87-F-H-13～15 (青柳宿上遺跡側)

重複 青柳宿上遺跡8号土坑と重複する。本遺跡の方が古い。

形状 左岸のみの検出で、右岸については、新しい河道の流路になっているため、立ち上がりは確認できなかった。そのため、流路面積は不明である。

埋没土 縄文晩期の土器が出土したのは、黒褐色土の層位からである。引切塚遺跡側では、土層断面A-A' 21層・23層・24層である。青柳宿上遺跡側では、土層断面D-D' 25層である。

上流(引切塚)の土層断面A-A' では、黒褐色土の堆積幅は20cmほど、下流(青柳宿上)の土層断面D-D' では、70cmほどであった。縄文晩期の土器が出土した黒褐色土は、新しい流れによって削られ、その後、砂層・小礫層が堆積している様子を確認した。

下流にはHr-FAを50%ほど含む黄褐色土の22層やAs-Cを10%ほど含む、所謂C混土の黒褐色土24層があるのに対して、上流ではHr-FAやAs-Cを特徴的に含む層は、見られない。現在の赤城白川に近く、幾度となく川の流れの影響を受けたからだと考えられる。

また、32号トレンチとして調査した青柳宿上遺跡側の1号河道土層断面D-D' では、地すべりの痕跡を確認した。

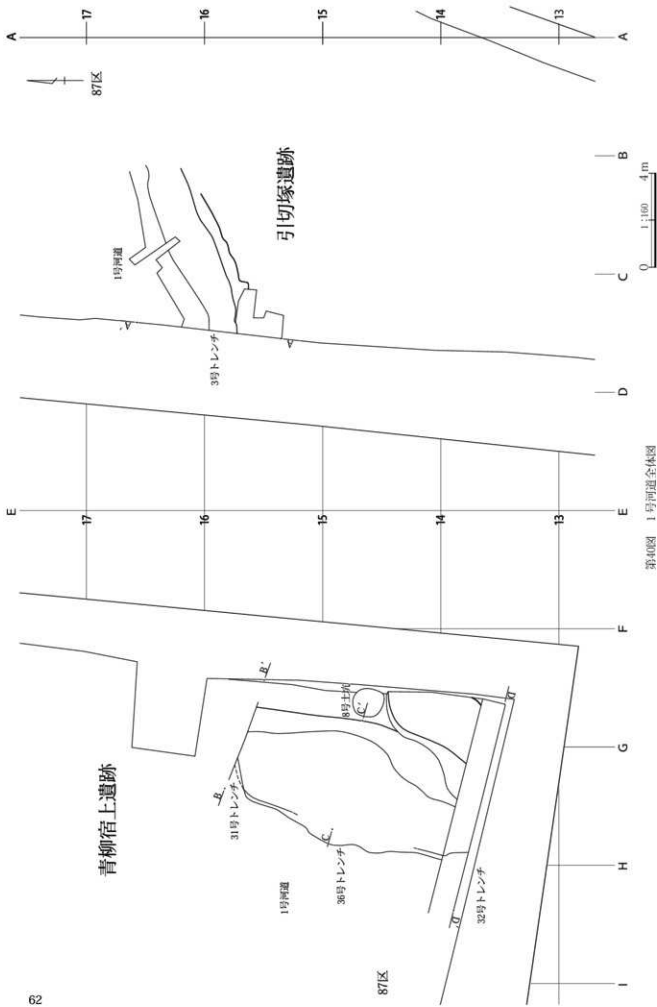
これについては、群馬大学教育学部准教授の熊原康博氏

(現広島大学大学院准教授)に調査現場に来ていただき指導を受けた。地すべりに関しては、第5章第5節を参照にしていきたい。

遺物 掲載したのは、縄文土器94点、耳飾り(耳栓)1点、打製石鏃1点、打製石斧1点、砥石1点である。縄文土器は1～3・6が後期中葉の高井東式、4・5が後期後葉の安行1式、7～91・93・94が晩期後半の千網式、92が千網式平行である。95の耳飾りは、千網式土器と同じ25層から出土した。千網式土器は、浮線網状文と呼ばれる精製土器であることが特徴である。千網谷戸遺跡を調査した桐生市教育委員会の増田修氏によれば、千網式土器の浮線網状文は他の浮線網状文と比べると断面形がかまぼこ状に丸まっており、胎土が緻密で色白くなめらかな感触だということである。1号河道から出土した掲載器種は、精製土器の浅鉢37点(7～35・37・38・40・42・63・65・81・91)、精製土器の鉢5点(36・43・80・85・86)、精製土器の深鉢11点(41・45・47・48・51・55・58・68・71・74・93)、精製土器の壺・壺? 5点(59・66・74・83・84)である。今回、精製土器とまではいえないが、粗製土器とするには丁寧なつくりのものと半精製土器と分類した。半精製土器は深鉢のみ20点(44・46・49・50・52・54・61・62・64・72・73・76～79・82・87・88～90)である。粗製土器は深鉢1点(70)である。また、精製・半精製・粗製いずれにも当てはまらない深鉢が7点(53・56・57・60・67・69・75)あった。

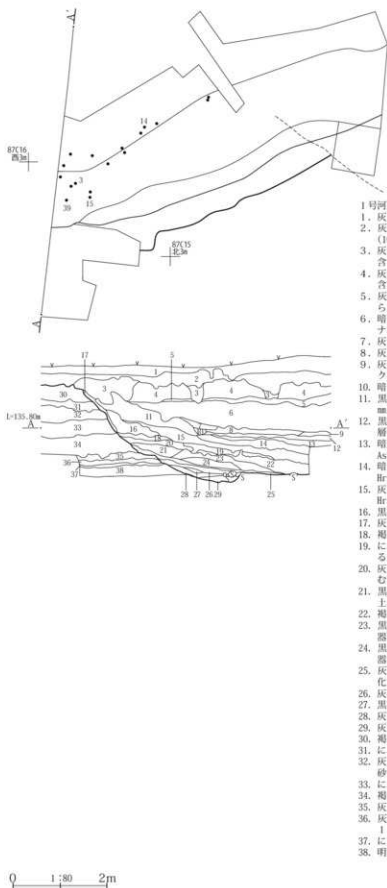
引切塚遺跡側、青柳宿上遺跡側のそれぞれの未掲載土器は、他時代から出土した遺構外出土の縄文土器や縄文早期の条痕文系土器などと混在した上、すでに注記が各すれ、再分類ができないため、次項の遺構外出土遺物とともに掲載した。未掲載の石器は、石核8点、二次加工ある割片2点、凹石1点、磨石3点、石皿1点、不明礫石器(台石?)1点、割片である。

所見 縄文時代晩期は、次の弥生時代との過渡期であり、群馬県内でも調査例は、千網谷戸遺跡(桐生市)、茅野遺跡(榛東村)、西新井遺跡(前橋市)などと少ない。今回、東京学芸大学教授二宮修治氏にご協力いただき、1号河道土から出土した黒曜石2点の原産地分析を行う機会を得た。その結果、2点とも長野県壺ヶ塔産ということが分かった。(第5章第2節参照)



第40図 1号河道全体図

1号河道(引切塚遺跡側)



1号河道A-A' (3号トレンチ)

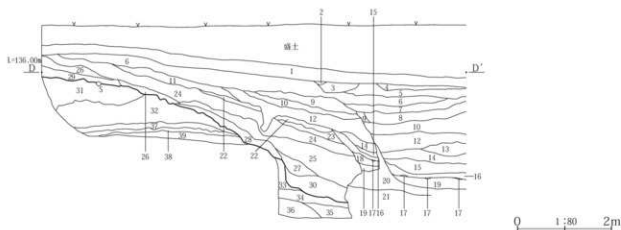
1. 灰白色砂質土(2.5Y7/1) 表土層
2. 灰黄褐色砂質土(10YR6/2) 灰白色砂質土(2.5Y7/1)、灰黄褐色土(10YR4/2)をブロック状に含む
3. 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 灰黄色砂質土(2.5Y6/2)をブロック状に含む
4. 灰黄色砂質土(2.5Y6/2) 灰黄色砂質土(2.5Y7/2)ブロックを層状に含む
5. 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 一部シルト質土、ラミナ状堆積が認められる層
6. 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) 上位に灰黄色細砂質土(2.5Y6/2)をラミナ状に含む 下位に11層をブロック状に極少量含む
7. 灰黄色土(2.5Y6/2) 下位に11層をブロック状に極少量含む
8. 灰白色細砂土(2.5Y7/2) やや粗めの砂もラミナ状に含む
9. 灰色粗砂土(7.5Y4/1) 灰黄色土(2.5Y6/2)シルト・細砂土をブロック状に5%含む
10. 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) シルト質土に上位上
11. 黒褐色土(10YR3/1) As-C粒($\phi 1 \sim 2$ mm)2%、HR-FP粒($\phi 1 \sim 20$ mm)極少量含む
12. 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性あり、水力停滞し湿地化した時期の層と考えられる
13. 暗灰黄色シルト・砂質土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-FP粒($\phi 1 \sim 2$ mm)、As-C粒($\phi 1 \sim 2$ mm)1%含む
14. 暗灰黄色砂礫土(2.5Y5/2) 小円礫($\phi 1 \sim 5$ mm)20%、Hr-FA・Hr-FP粒($\phi 2 \sim 8$ mm)極少量含む
15. 灰オリーブ砂質土(5Y6/2) 粗砂礫、小円礫($\phi 1 \sim 5$ mm)20%、Hr-FA・Hr-FP粒($\phi 1 \sim 3$ mm)極少量含む
16. 黒褐色土(10YR3/2) As-C粒($\phi 1 \sim 3$ mm)1%含む
17. 灰黄褐色土(10YR4/2) にふい黄褐色土(10YR6/3)3%含む
18. 褐灰色土(10YR4/1) 一部16層をブロック状に含む
19. にふい黄褐色砂質土(10YR7/3) 粗粒、黒褐色土(10YR3/2)一部混じる
20. 灰黄色土(2.5Y6/2) やや粘性あり、灰白色砂質土(2.5Y7/1)5%含む、黄褐色土(2.5Y5/3)がブロック状に入る
21. 黒褐色土(10YR3/1) As-C粒($\phi 1 \sim 2$ mm)極少量含む、縄文晩期の土器出土
22. 褐灰色細砂質土(10YR5/1)
23. 黒褐色土(10YR3/1) As-C粒($\phi 1 \sim 2$ mm)1%含む、縄文晩期の土器出土
24. 黒褐色土(10YR3/2) As-C粒($\phi 1 \sim 2$ mm)1%含む、縄文晩期の土器出土
25. 灰黄褐色土(10YR4/2) やや粘性あり、21層5%含む、洗脱し粘性化する
26. 灰黄褐色土(10YR4/2)
27. 黒褐色土(10YR3/1) やや粘性あり
28. 灰黄褐色土(10YR4/2) やや粘性あり
29. 灰色砂礫土(10Y6/1) 礫($\phi 2 \sim 20$ mm)60%含む
30. 褐灰色土(10Y4/1) 灰白色粒($\phi 1 \sim 3$ mm)3%含む
31. にふい黄褐色土(10YR5/3) 白色粒($\phi 1 \sim 3$ mm)含む
32. 灰黄褐色砂質土(10YR6/2) 全体に鉄分が沈着している、33層より砂の粒径が大き
33. にふい黄褐色砂質土(10YR6/4) 全体に鉄分が沈着している。
34. 褐灰色シルト質土(10YR6/1) 鉄分が斑状に入る
35. 灰白色シルト質土(N7/) 縄文早期面を覆う層
36. 灰黄褐色土(10YR4/2) やや粘性あり、灰白色粒($\phi 1 \sim 2$ mm)1%含む、縄文早期面相当層に相当する
37. にふい黄褐色土(10YR6/3) 白色粒($\phi 1 \sim 3$ mm)極少量含む
38. 明黄褐色土(10YR7/6) 灰白色粒($\phi 1 \sim 2$ mm)1%含む

第41図 1号河道(引切塚遺跡側)

第4章 青柳宿上遺跡の調査内容
1号河道(青柳宿上遺跡側)



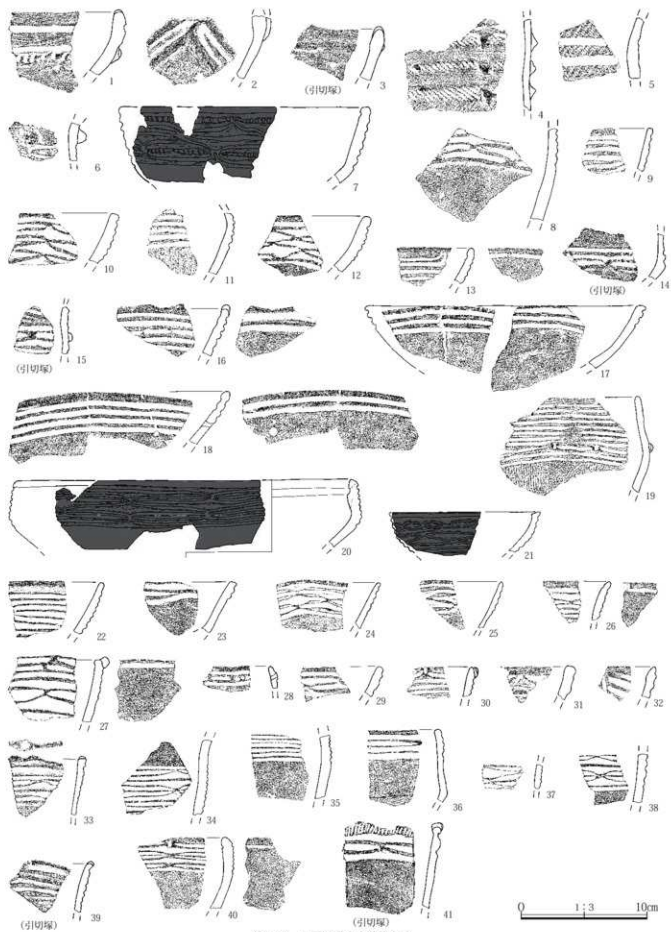
第42図 1号河道(青柳宿上遺跡側)



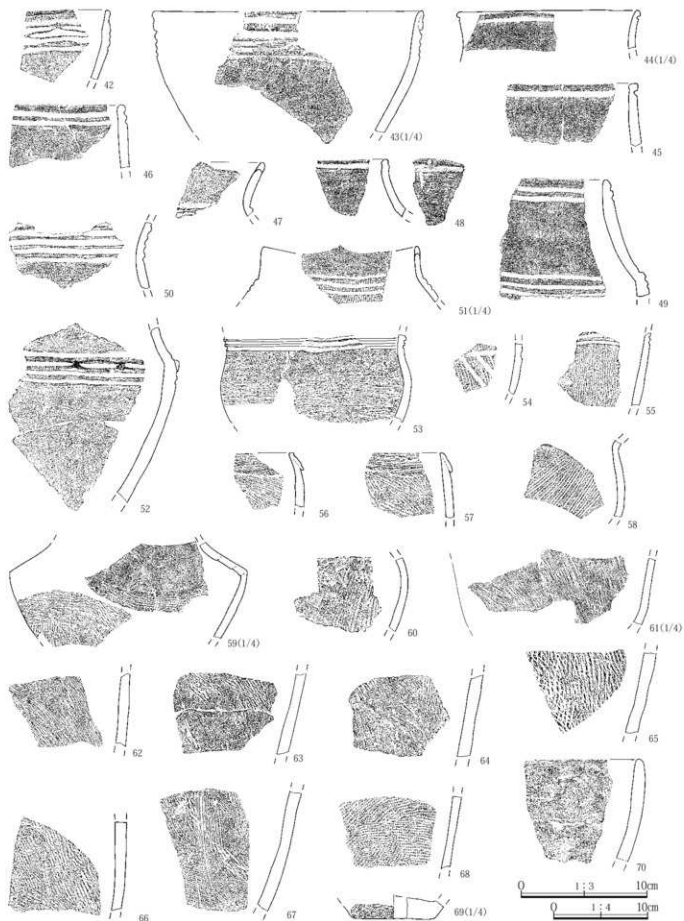
1号河道D-D' (32号トレンチA-A')

1. 黄灰色砂礫土(2.5Y5/1) 礫(ϕ 1 ~ 20mm) 5%含む
2. 黄灰色細砂質土(2.5Y6/1)
3. 灰黄色砂礫土(2.5Y6/2) 円礫(ϕ 1 ~ 30mm) 20%含む
4. 灰黄色シルト質土(10YR6/2)
5. 灰黄褐色土(10YR5/2) にぶい黄色土(2.5Y6/3)ブロック状に5%含む。
6. にぶい黄色砂質土(2.5Y6/3) 円礫(ϕ 1 ~ 10mm) 1%、にぶい黄色土(2.5Y6/3)ブロック状に20%含む
7. 灰黄褐色砂質土(10YR6/2) 円礫(ϕ 1 ~ 5mm) 2%、浅黄色土(2.5Y7/3)ブロック状に含む
8. 灰黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA粒(ϕ 1 ~ 3mm)、As-C粒(ϕ 1 ~ 3mm) 1%含む
9. にぶい黄色砂質土(2.5Y6/3) 円礫(ϕ 1 ~ 3mm) 5%含む
10. 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) Hr-FA粒(ϕ 1 ~ 2mm)・As-C粒(ϕ 1 ~ 2mm)極少量含む
11. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) Hr-FA粒(ϕ 1 ~ 3mm)・As-C粒(ϕ 1 ~ 2mm) 1%含む
12. 灰黄色砂質土(2.5Y6/2) Hr-FA粒(ϕ 1 ~ 5mm)・As-C粒(ϕ 1 ~ 3mm) 1%、円礫(ϕ 1 ~ 10mm) 2%含む
13. 黄灰色砂質土(2.5Y5/1) 円礫(ϕ 1 ~ 30mm) 30%含む
14. にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) やや粗砂、円礫(ϕ 1 ~ 5mm) 5%含む
15. 灰色砂質土(5Y5/1) 細砂
16. 灰黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA粒(ϕ 1 ~ 3mm) 1%含む
17. 灰白色シルト質土(5Y7/1) シルト質でHr-FAの可能性あり?
18. 灰黄褐色土(10YR5/2)
19. 灰黄褐色土(10YR5/2) やや暗い色調
20. 灰色砂質土(7.5Y4/1) 噴砂、やや粗砂
21. 黄褐色砂礫土(2.5Y5/3) 礫(ϕ 1 ~ 20mm) 80%含む
22. 黄褐色土(10YR5/6) Hr-FA土(ϕ 1 ~ 20mm)下層に50%含む
23. 灰黄褐色土(10YR5/2) As-C粒(ϕ 1 ~ 2mm)極少量含む
24. 黒褐色土(10YR3/1) As-C粒(ϕ 1 ~ 10mm) 10%含む
25. 黒褐色土(10YR3/1) 縄文晩期の土器出土
26. 暗灰黄色土(2.5Y5/2)
27. 暗灰黄色土(2.5Y4/2)
28. 灰黄色土(2.5Y6/2)
29. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA粒(ϕ 1 ~ 2mm)・As-C粒(ϕ 1 ~ 2mm)極少量含む
30. 黒褐色土(10YR3/2) 円礫(ϕ 1 ~ 3mm) 1%含む
31. 灰黄色砂礫土(2.5Y6/2) 円礫(ϕ 1 ~ 10cm) 40%含む
32. 灰黄色砂質土(2.5Y6/2) 円礫(ϕ 1 ~ 10cm) 1%含む
33. 灰黄色砂質土(2.5Y6/2) 明黄褐色土(2.5Y7/6)ブロック状に含む
34. 灰黄褐色土(10YR5/2)
35. 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性あり、灰白色土ブロック状に含む
36. 灰白色細砂質土(5Y7/1) シルト質に近い土
37. 暗褐色土(10YR3/3) やや粘性あり、縄文早期包層部に相当、VII層
38. 灰黄褐色土(10YR5/2) As-YP粒(ϕ 1 ~ 2mm) 1%含む、VIII層
39. にぶい黄褐色土(10YR6/4) As-YP粒(ϕ 1 ~ 3mm) 2%含む

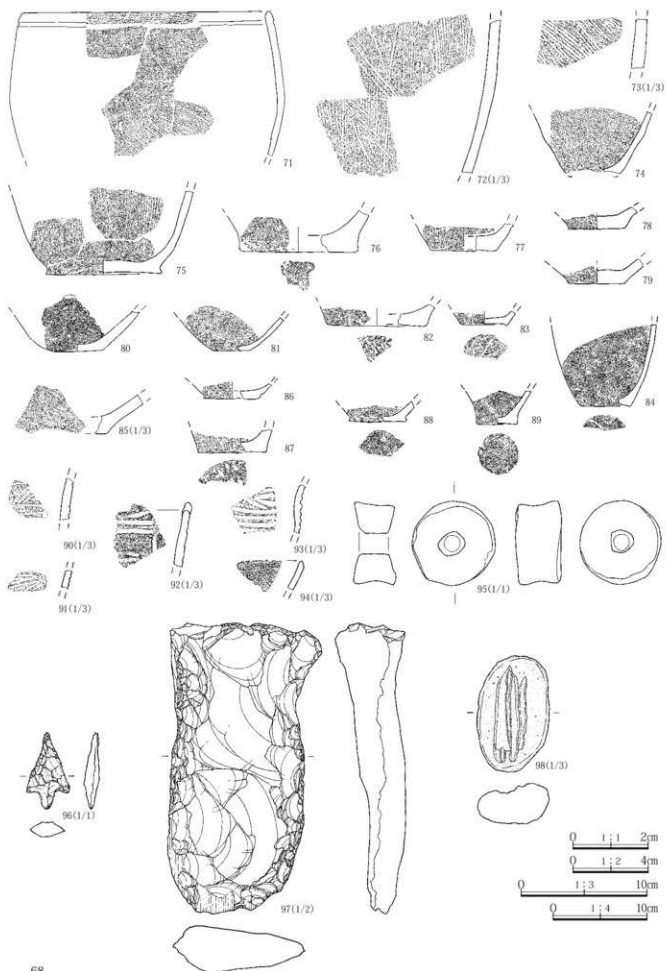
第43図 1号河道土層断面



第44図 1号河道出土遺物(1)



第45図 1号河道出土遺物(2)



第46图 1号河道出土遺物(3)

5. 土坑

検出された縄文時代の土坑は、14基である。早期より後の土坑3基(6号・7号・8号土坑)は、調査区北側・東側中央・南東角と離れているが、早期の土坑は、調査区北側と南側に集中する傾向が見られる。

6号土坑(第47図、PL.17・82)

位置 97-J-16 **重複** なし。
形状 楕円形
規模 長軸0.88m 短軸0.74m 残存深度0.22m
長軸方位 N-90° **埋没土** 上層は褐色土主体で炭化物2%、焼土粒極少量含む。下層は灰黄褐色土。遺物 高井東式の深鉢口縁片(1)と多孔石(2)が出土した。未掲載遺物は、高井東式1点である。時期 出土遺物から、縄文後期のものと考えられる。

7号土坑(第47図、PL.17)

位置 97-E-5・6 **重複** なし。
形状 不整形
規模 長軸(1.85m) 短軸(0.48m) 残存深度0.61m
長軸方位 N-7°-E **埋没土** 近年の畑のカケランが入る灰黄褐色土である。遺物 なし。
時期 検出状況から、縄文早期以降の縄文時代のものと考えられる。

所見 下層の縄文早期面を調査中に、壁でセクションとして検出したため、全体形状は不明である。

8号土坑(第47図、PL.17)

位置 87-F-14 **重複** なし。
形状 楕円形
規模 長軸1.28m 短軸1.18m 残存深度0.88m
長軸方位 N-7°-E **埋没土** 焼土粒極少量、にぶい黄色土をブロック状に、小円礫を含む黒褐色土、にぶい黄色土をブロック状に、小円礫を含む灰黄褐色砂質土が堆積していた。遺物 なし。時期 検出状況から、縄文早期以降の縄文時代のものと考えられる。

9号土坑(第48図、PL.17)

位置 97-J-17・18 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.66m 短軸0.61m 残存深度0.21m

長軸方位 N-50°-E **埋没土** 白色粒を含む黄灰色土と灰黄褐色土が堆積していた。酸化して鉄分の沈着が確認できる。遺物 なし。時期 埋没土から縄文時代早期とした。

10号土坑(第48図、PL.17・18)

位置 97-I-18 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.60m 短軸0.51m 残存深度0.22m

長軸方位 N-0° **埋没土** 白色粒を含む黄灰色土と灰黄褐色土が堆積していた。酸化して鉄分の沈着が確認できる。遺物 なし。時期 埋没土から縄文時代早期とした。

11号土坑(第48図、PL.18)

位置 97-I-J-17 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸1.14m 短軸1.05m 残存深度0.31m

長軸方位 N-0° **埋没土** 白色粒を含む黄灰色土と灰黄褐色土が堆積していた。酸化して鉄分の沈着が確認できる。遺物 なし。時期 埋没土から縄文時代早期とした。

12号土坑(第48図、PL.18)

位置 97-H-16 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.93m 短軸0.87m 残存深度0.28m

長軸方位 N-90° **埋没土** 白色粒を含む黄灰色土と灰黄褐色土が堆積していた。酸化して鉄分の沈着が確認できる。遺物 なし。時期 埋没土から縄文時代早期とした。

13号土坑(第48図、PL.18)

位置 97-Q-10・11 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸1.01m 短軸0.75m 残存深度0.19m

長軸方位 N-90° **埋没土** As-YP粒を含む、黒褐色土と灰黄褐色土が堆積していた。遺物 なし。

時期 埋没土から縄文時代早期とした。

14号土坑(第48図、PL.18・82)

位置 97-M-5 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.54m 短軸0.48m 残存深度0.23m

長軸方位 N-37°-W **埋没土** 白色粒、As-YP粒を含む灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** 早期無文(1)が出土した。未掲載遺物は早期無文1点、剥片1点である。**時期** 出土遺物から縄文時代早期とした。

15号土坑(第48図、PL.18)

位置 97-J-6 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.85m 短軸0.73m 残存深度0.11m

長軸方位 N-65°-E **埋没土** 灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** 早期無文(1)が出土した。未掲載遺物は剥片1点である。**時期** 出土遺物から縄文時代早期とした。

16号土坑(第49図、PL.18・82)

位置 97-J-6 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.76m 短軸0.53m 残存深度0.14m

長軸方位 N-58°-W **埋没土** 灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** 早期無文(1)と早期子母口式(2)が出土した。未掲載遺物は早期条痕文1点、剥片1点である。**時期** 出土遺物から縄文時代早期とした。

17号土坑(第49図、PL.18・19・82)

位置 97-J-4・5 **重複** なし。

形状 不整形

規模 長軸(0.94m) 短軸0.89m 残存深度0.18m

長軸方位 N-0° **埋没土** 灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** 早期子母口式(1・3)、縄文早期条痕文(2・4)、珪質頁岩製の打製石鏃(5)が出土した。未掲載遺物は早期子母口式1点、早期条痕文19点、剥片13点である。**時期** 出土遺物から縄文時代早期とした。

18号土坑(第49図、PL.19)

位置 97-E・F-8 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸1.84m 短軸1.16m 残存深度0.15m

長軸方位 N-51°-E **埋没土** As-YP粒を含む、灰黄褐色土と褐灰色土が堆積していた。**遺物** なし。

時期 埋没土から縄文時代早期とした。

19号土坑(第49図、PL.19)

位置 97-L-4 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸1.24m 短軸0.89m 残存深度0.44m

長軸方位 N-0° **埋没土** As-YP粒を含む、灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** 未掲載の石器は剥片1点である。**時期** 埋没土から縄文時代早期とした。

6. ビット

検出された縄文時代のビットは19基である。多くは、調査区南側に集中している。すべて、確認面から縄文早期のものと考えられる。

27号ビット(第50図、PL.19・82)

位置 97-J・K-7 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.47m 短軸0.41m 残存深度0.15m

長軸方位 N-78°-E **埋没土** 白色粒を含む灰黄褐色土とにぶい黄褐色土が堆積していた。**遺物** 早期条痕文(1・2・3)が出土した。未掲載遺物は早期条痕文4点、剥片3点である。**時期** 出土遺物から縄文時代早期とした。

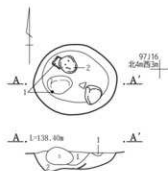
28号ビット(第50図、PL.19・82)

位置 97-K-7 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.53m 短軸0.48m 残存深度0.18m

6号土坑

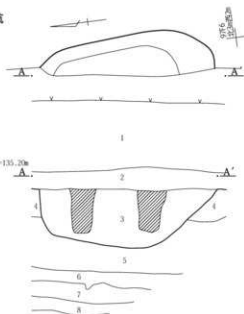


6号土坑A'-

1. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物2%、焼土粒(ϕ 1mm)極少量、円礫(ϕ 2.5cm) 1個含む、やや粘性あり
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) 円礫(ϕ 20cm) 1個含む



7号土坑

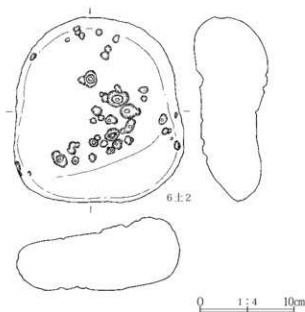


7号土坑A'-

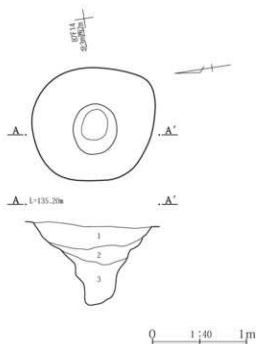
1. 盛り上 住居の盛り上
2. 旧表上面 攪乱受ける(住居の建設による)
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) 白色粒(ϕ 1~2mm)ややしまりあり、にぶい黄色土(2.5Y6/3)ブロック状に極少量含む
4. 灰黄褐色土(10YR5/2) やや粘性あり、V層
5. 灰黄色砂質土(2.5Y6/2) VI層
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) VIIA層
7. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) VIIB層
8. 灰黄色土(2.5Y6/2)

8号土坑A'-

1. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒(ϕ 1~3mm)極少量、にぶい黄色土(2.5Y6/4)ブロック状に、小円礫(ϕ 1~8mm) 3%含む
2. 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) にぶい黄色土(2.5Y6/4)ブロック状に、小円礫(ϕ 1~4cm) 2%含む
3. 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) にぶい黄色土(2.5Y6/4)ブロック状に、小円礫(ϕ 1~2cm) 1%含む

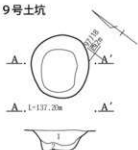


8号土坑



第47図 6号~8号土坑と6号土坑出土遺物

9号土坑



9号土坑A-A'

1. 黄灰色土(2.5Y4/1) 白色粒(φ1~3mm) As-YP粒1%含む
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) 白色粒(φ1~2mm) As-YP粒1%含む、酸化して鉄分がいくつか沈着する

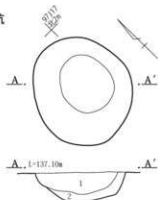
10号土坑



10号土坑A-A'

1. 黄灰色土(2.5Y4/1) 白色粒(φ1~3mm) As-YP粒1%含む
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) 白色粒(φ1~2mm) As-YP粒1%含む、酸化して鉄分がいくつか沈着する

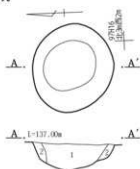
11号土坑



11号土坑A-A'

1. 黄灰色土(2.5Y4/1) 白色粒(φ1~3mm) As-YP粒1%含む
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) 白色粒(φ1~2mm) As-YP粒5%含む、酸化して鉄分がいくつか沈着する

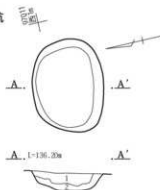
12号土坑



12号土坑A-A'

1. 黄灰色土(2.5Y4/1) 白色粒(φ1~3mm) As-YP粒1%含む
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) 白色粒(φ1~2mm) As-YP粒0.5%含む、酸化して鉄分がいくつか沈着する

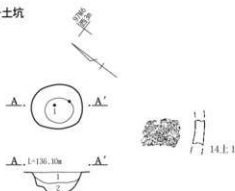
13号土坑



13号土坑A-A'

1. 黑褐色土(10YR3/2) As-YP粒(φ1~3mm)3%含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-YP粒(φ1~2mm)3%含む

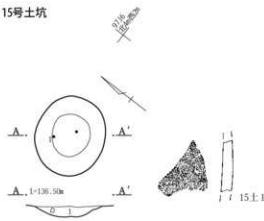
14号土坑



14号土坑A-A'

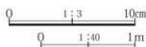
1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 白色粒(φ1~2mm)1%含む、Vla層中心層
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) As-YP粒(φ1~3mm)1%含む、Vlb層中心層

15号土坑



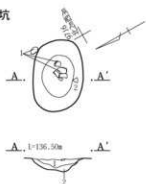
15号土坑A-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) Vla層



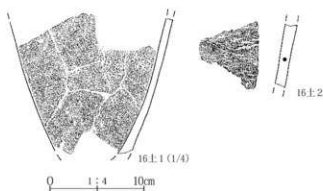
第48図 9号~15号土坑と14号・15号土坑出土遺物

16号土坑

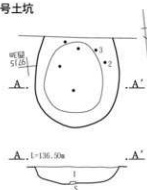


16号土坑A-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) VIA層
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) 色調やや明るい

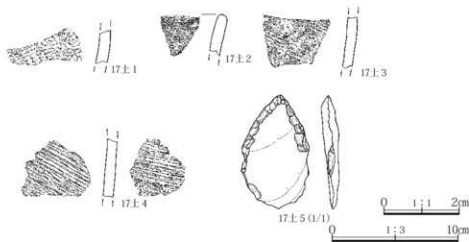


17号土坑

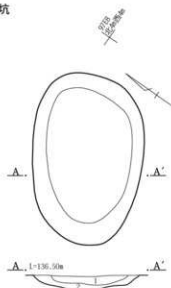


17号土坑A-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) VIA層土



18号土坑



18号土坑A-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) VIA層相当, As-YP粒(ϕ 1~5mm) 5%含む
2. 褐灰色土(10YR4/1) As-YP粒(ϕ 1~3mm) 2%含む

19号土坑



19号土坑A-A'

1. 灰黄褐色土(10YR5/2) As-YP粒(ϕ 1~5mm) 1%含む, VIA層と同じ層



第49図 16号~19号土坑と16号・17号土坑出土遺物

長軸方位 N-31°-W **埋没土** 白色粒を含む灰黄褐色土とにぶい黄褐色土が堆積していた。**遺物** 早期条痕文(1・2)が出土した。未掲載遺物は早期条痕文6点、剥片1点である。**時期** 出土遺物から縄文時代早期とした。

29号ピット(第50図、PL.19)

位置 97-K-5 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.31m 短軸0.29m 残存深度0.19m

長軸方位 N-90° **埋没土** 白色粒を含む灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** なし。**時期** 埋没土から縄文時代早期とした。

30号ピット(第50図、PL.19)

位置 97-J-K-6 **重複** 31号ピットと重複。新旧関係は不明。

形状 不整形

規模 長軸0.42m 短軸0.34m 残存深度0.20m

長軸方位 N-0° **埋没土** 灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** なし。**時期** 埋没土から縄文時代早期とした。

31号ピット(第50図、PL.19)

位置 97-J-K-6 **重複** 30号ピットと重複。新旧関係は不明。

形状 楕円形

規模 長軸0.39m 短軸0.31m 残存深度0.14m

長軸方位 N-73°-E **埋没土** 黄褐色土が混じる灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** なし。

時期 埋没土から縄文時代早期とした。

32号ピット(第50図、PL.19・82)

位置 97-K-5 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.42m 短軸0.40m 残存深度0.23m

長軸方位 N-23°-E **埋没土** 黄褐色土が混じる灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** 早期条痕文(1)が出土した。未掲載遺物は早期条痕文1点である。**時期** 出土遺物から縄文時代早期とした。

33号ピット(第50図、PL.19・20)

位置 97-K-5 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.60m 短軸0.52m 残存深度0.15m

長軸方位 N-58°-E **埋没土** 灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** 未掲載遺物は剥片1点である。

時期 埋没土から縄文時代早期とした。

34号ピット(第50図、PL.20)

位置 97-K-5 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.56m 短軸0.43m 残存深度0.11m

長軸方位 N-25°-E **埋没土** 灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** 未掲載遺物は早期条痕文5点、剥片1点である。**時期** 埋没土から縄文時代早期とした。

35号ピット(第50図、PL.20)

位置 97-J-7 **重複** なし。

形状 不整形

規模 長軸(0.52m) 短軸0.48m 残存深度0.35m

長軸方位 N-90° **埋没土** 灰黄褐色土とにぶい黄褐色土が堆積していた。**遺物** なし。

時期 埋没土から縄文時代早期とした。

36号ピット(第50図、PL.20・82)

位置 97-J-4 **重複** なし。

形状 円形

規模 長軸0.35m 短軸0.35m 残存深度0.13m

長軸方位 N-0° **埋没土** 灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** 早期条痕文(1)と石英閃緑岩製の磨石(2)が出土した。未掲載遺物は早期条痕文2点である。

時期 出土遺物から縄文時代早期とした。

37号ピット(第51図、PL.20・82)

位置 97-J-6 **重複** なし。

形状 不整形

規模 長軸0.58m 短軸(0.44m) 残存深度0.27m

長軸方位 N-0° **埋没土** 灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** 粗粒輝石安山岩製の磨石(1)が出土した。

未掲載の石器は剥片1点である。**時期** 出土遺物から縄文時代早期とした。

38号ピット(第51図、PL.20)

位置 97-J-7 **重複** なし。

形状 不整形

規模 長軸0.78m 短軸(0.45m) 残存深度0.26m

長軸方位 N-0° **埋没土** 灰黄褐色土とにぶい黄褐色土が堆積していた。**遺物** 未掲載遺物は早期条痕文1点である。**時期** 埋没土から縄文時代早期とした。

39号ピット(第51図、PL.20・82)

位置 97-J-6 **重複** なし。

形状 不整形

規模 長軸0.53m 短軸(0.40m) 残存深度0.23m

長軸方位 N-0° **埋没土** 炭化物粒を含む灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** 早期条痕文(1)が出土した。未掲載遺物は早期条痕文1点である。**時期** 出土遺物から縄文時代早期とした。

40号ピット(第51図、PL.21・82)

位置 97-I-10・11 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.63m 短軸0.52m 残存深度0.19m

長軸方位 N-26°-W **埋没土** As-YP粒を含む灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** 縄文前期の土器(1)が出土した。未掲載遺物は早期子母口式1点である。

時期 掲載遺物は前期だが、遺構確認面から縄文時代早期とした。

41号ピット(第51図、PL.21)

位置 97-G-10 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.53m 短軸0.37m 残存深度0.24m

長軸方位 N-7°-W **埋没土** As-YP粒、炭化物粒を含む灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** なし。

時期 埋没土から縄文時代早期とした。

42号ピット(第51図、PL.21)

位置 97-I-8 **重複** なし。

形状 円形

規模 長軸0.36m 短軸0.34m 残存深度0.15m

長軸方位 N-52°-E **埋没土** 白色粒を含む灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** なし。

時期 埋没土から縄文時代早期とした。

43号ピット(第51図、PL.21)

位置 97-F-4 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.58m 短軸0.56m 残存深度0.38m

長軸方位 N-0° **埋没土** As-YP粒を含む灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** なし。

時期 埋没土から縄文時代早期とした。

44号ピット(第51図、PL.21)

位置 97-M・N-4 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.35m 短軸0.31m 残存深度0.20m

長軸方位 N-0° **埋没土** As-YP粒を含む灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** なし。**時期** 埋没土から縄文時代早期とした。

45号ピット(第51図、PL.21・23)

位置 97-O-17 **重複** なし。

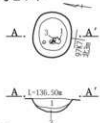
形状 楕円形

規模 長軸0.48m 短軸0.44m 残存深度0.11m

長軸方位 N-70°-W **埋没土** As-YP粒、炭化物粒を含む灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** なし。

時期 埋没土から縄文時代早期とした。

27号ビット



27ピット2

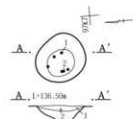


27ピット3

27号ビットA-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 白色粒(φ1~2mm)2%含む、VII層上に相当する
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 白色粒(φ1~2mm)1%含む

28号ビット



28ピット1



28ピット2

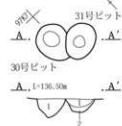
29号ビット



29号ビットA-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 白色粒(φ1~2mm)1%含む、縄文早期包含層VII層上に相当する

30号・31号ビット



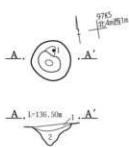
30号ビットA-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) VIIa層

31号ビットA-A'

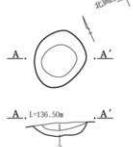
1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 30号ビットよりやや黒味強い、VIIa層
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) VIIa層と黄褐色土に混じる

32号ビット



32ピット1

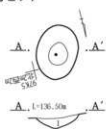
33号ビット



33号ビットA-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) VIIa層
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) 1層よりやや明るい

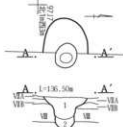
34号ビット



34号ビットA-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) VIIa層

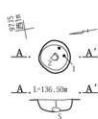
35号ビット



35号ビットA-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) VIIa層
2. にぶい黄褐色土(10YR5/4) VII層とVIIa層混じる

36号ビット

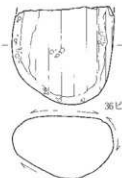


36号ビットA-A'

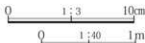
1. 灰黄褐色土(10YR4/2) VIIa層



36ピット1

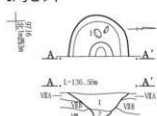


36ピット2



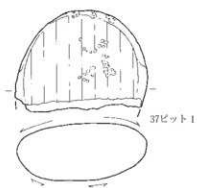
第50図 27号~36号ビットと27号・28号・30号・36号ビット出土遺物

37号ピット

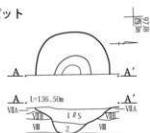


37号ピットA-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) VIIA層
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) VII層上混じる



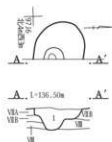
38号ピット



38号ピットA-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) VIIA層
2. にぶい黄褐色土(10YR5/4) VIIA層とVII層上混じる

39号ピット

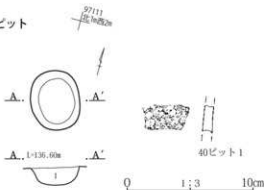


39号ピットA-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) VIIA層、炭化物粒(φ1~2mm)含む



40号ピット



40号ピットA-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) VIIA層、As-YP粒(φ1~2mm)1%含む

41号ピット



41号ピットA-A'

1. 黒褐色土(10YR3/2) As-YP粒(1~10mm)5%、VIIA層、炭化物粒(φ1~2mm)極少量含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-YP粒(φ1~3mm)3%含む

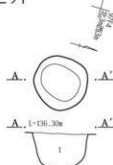
42号ピット



42号ピットA-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) VIIA層、白色粒(φ1~2mm)2%含む
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) 白色粒(φ1mm)極少量含む

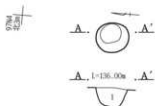
43号ピット



43号ピットA-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-YP粒(φ1~3mm)2%含む、VII層とはほぼ同じ

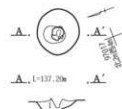
44号ピット



44号ピットA-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-YP粒(φ1~3mm)1%含む、VII層とはほぼ同じ

45号ピット



45号ピットA-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2)灰白色粒(As-YP粒)(φ1~3mm)2%含む



第51図 37号~45号ピットと37号・39号・40号ピット出土遺物

7. 土器集中 (第53・54図、PL.21・22・83・84)

土器が多く集中して出土したところについて1～7号の土器集中と命名して、遺物を取り上げた。

1号土器集中(第52図、PL.21・23・83)

位置 97-J-17 **分布** 1mほどの範囲に土器が散らばっていた。**遺物** 同一個体の早期条痕文の深鉢(1～4)が出土した。未掲載遺物は早期条痕文8点、剥片2点である。

2号土器集中(第52図、PL.21・23・83)

位置 97-M-15 **分布** 1mほどの範囲に土器が散らばっていた。**遺物** 早期条痕文の深鉢(1)が出土した。未掲載遺物は早期条痕文12点である。

3号土器集中((第53図、PL.21・83)

位置 97-J-14・15 **分布** 1.5mほどの範囲に土器が散らばっていた。**遺物** 早期条痕文の深鉢(1～5)が出土した。未掲載遺物は早期条痕文66点、早期無文3点である。

4号土器集中(第53図、PL.21・83)

位置 97-M-5 **分布** 1mほどの範囲に土器が散らばっていた。**遺物** 子母口式の深鉢(1)が出土した。未掲載遺物は子母口式2点、早期条痕文6点、剥片21点である。

5号土器集中(第54図、PL.21・83)

位置 97-K-5 **分布** 29号ピットの上でつぶれている土器を確認した。**遺物** 早期条痕文の深鉢(1～3)が出土した。未掲載遺物は早期条痕文30点、剥片1点である。

6号土器集中(第54図、PL.21・24・83)

位置 97-H-6 **分布** 1mほどの範囲に土器が散らばっていた。**遺物** 同一個体の早期条痕文の深鉢(1～3)と深鉢(4)が出土した。未掲載遺物は早期条痕文11点である。

7号土器集中(第54図、PL.21・83)

位置 97-H-6・7 **分布** 1mほどの範囲に土器が散らばっていた。**遺物** 早期条痕文の深鉢(1)が出土した。未掲載遺物は早期条痕文1点である。

8. 石器集中 (第55・56図、PL.22・84)

土器集中と同様に、何らかの遺構として確認できなかったが、石器が多く出土したところを1～7号の石器集中として、遺物を取り上げた。

1号石器集中(第55図、PL.22・84)

位置 97-J-17 **分布** 2mほどの範囲に石器が散らばっていた。**遺物** スクレイパー(1・2)と磨製石斧(3)が出土した。未掲載の石器は剥片15点である。

2号石器集中(第55図、PL.22・84)

位置 97-J-17 **分布** 1mほどの範囲に石器が散らばっていた。**遺物** 打製石斧(1)が出土した。未掲載遺物は早期条痕文1点、剥片4点である。

3号石器集中(第55図、PL.22・84)

位置 97-M-14 **分布** 2mほどの範囲に石器が散らばっていた。**遺物** 未掲載遺物は早期条痕文4点、剥片25点である。

4号石器集中(第55図、PL.22・84)

位置 97-0-4 **分布** 2mほどの範囲に石器が散らばっていた。**遺物** 打製石鎌(1・2)が出土した。未掲載の石器は剥片15点である。

5号石器集中(第56図、PL.22・84)

位置 97-0-4 **分布** 塊になっていた。**遺物** 接合した剥片(1～8)が出土した。未掲載の石器は剥片11点である。

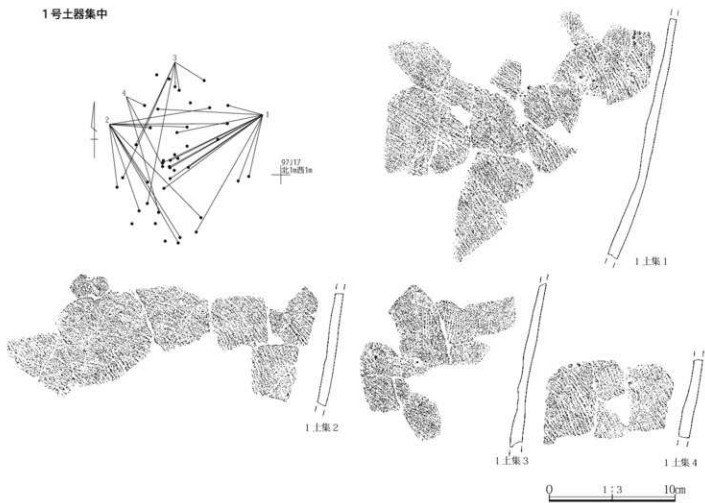
6号石器集中(第56図、PL.22)

位置 97-0-5 **分布** 50cmほどの範囲に石器が散らばっていた。**遺物** 未掲載の石器は剥片7点である。

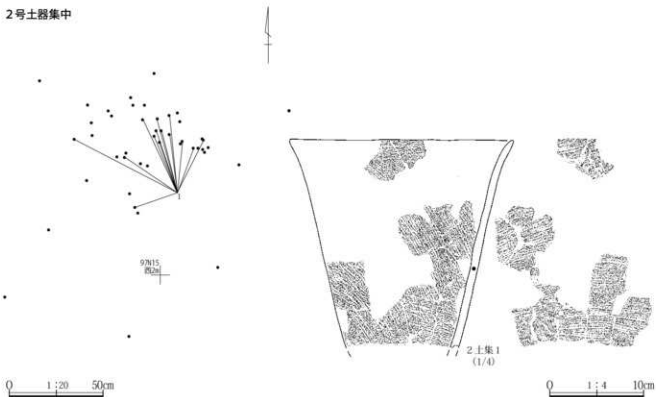
7号石器集中(第56図、PL.22)

位置 97-P-4・5 **分布** 1mほどの範囲に石器が散らばっていた。**遺物** 未掲載の石器は剥片5点である。

1号土器集中



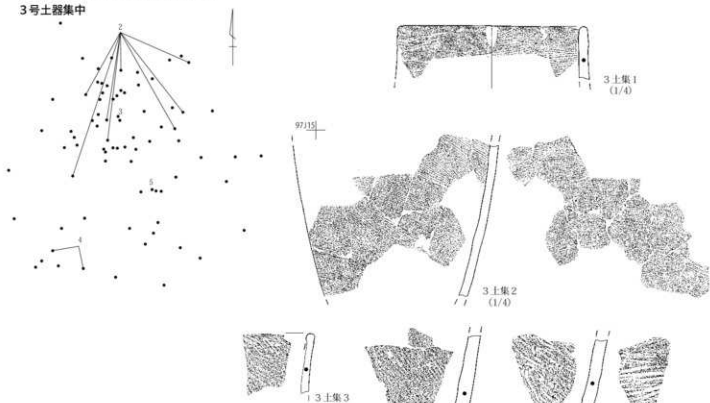
2号土器集中



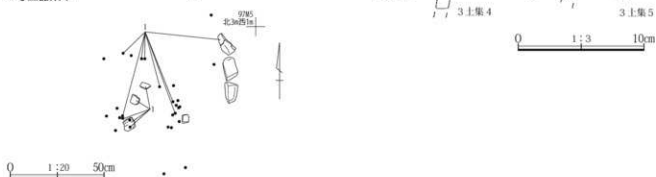
第52図 1号・2号土器集中と出土遺物

第4章 青柳宿上遺跡の調査内容

3号土器集中

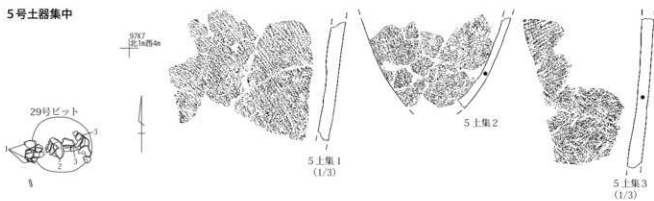


4号土器集中

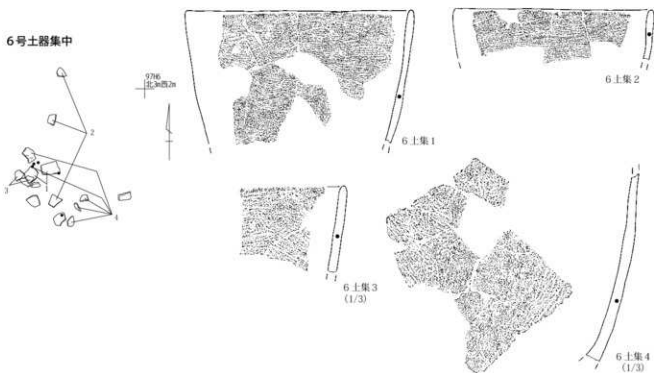


第53図 3号・4号土器集中と出土遺物

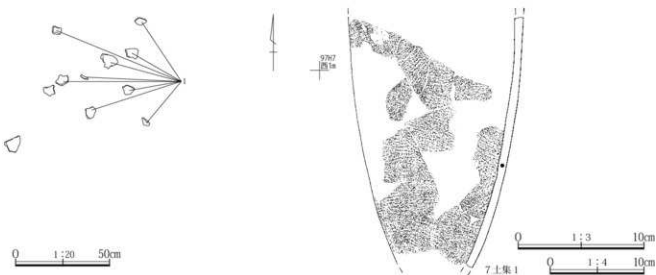
5号土器集中



6号土器集中



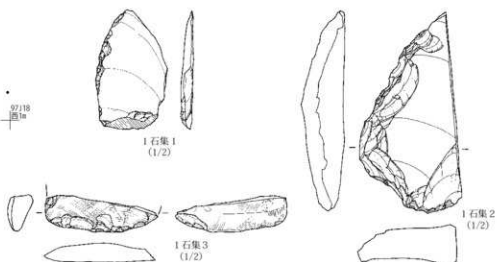
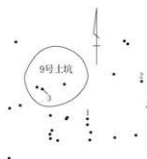
7号土器集中



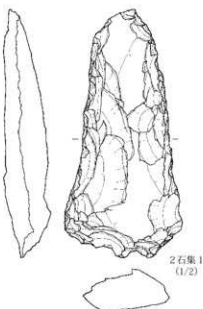
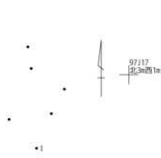
第54図 5号～7号土器集中と出土遺物

第4章 青柳宿上遺跡の調査内容

1号石器集中



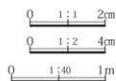
2号石器集中



3号石器集中

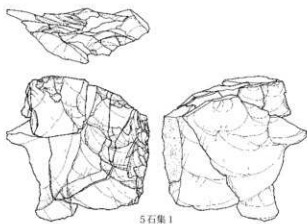
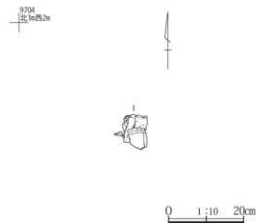


4号石器集中

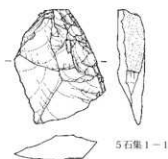


第55図 1号~4号石器集中と1号・2号・4号石器集中出土遺物

5号石器集中



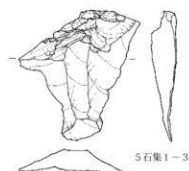
5号集1



5号集1-1



5号集1-2



5号集1-3



5号集1-4



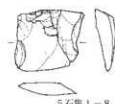
5号集1-5



5号集1-6



5号集1-7



5号集1-8



6号石器集中



7号石器集中



第56図 5号～7号石器集中と5号石器集中出土遺物

9. 遺構外出土の縄文土器

(第57～65図、PL.85～90)

縄文時代の遺構に伴わない縄文土器218点を扱う。なお、遺構外出土の石器は弥生時代の石器との判別が難しかったため、次節でまとめて取り上げる。

出土土器は、早期の燃糸文系～晩期大洞Aまで見られるが、早期の条痕文系の土器が最大の割合を占める。この条痕文土器は、大部分が子母口式に属すると推定されるが、被熱風化により施文の不明なものも多く、細分することは難しかった。

また、未掲載の遺構外出土の縄文土器は、6,902点(85,814.40g)であり、ここでも早期条痕文が4,946点と多く、子母口式の117点を合わせると5,063点となり、出土した縄文土器全体の73.3%を占めている(第8表参照)。縄文晩期の土器については、1号河道付近出土を合わせた数となっている。

早期：燃糸文系土器～条痕文系土器の144点を図示した。

燃糸文系土器では、井草Ⅰ式・井草Ⅱ式・井草式・夏島式・稲荷台式の11点を図示した。井草Ⅰ式は1・2の同一個体、井草Ⅱ式は4・5・7・12、井草式は9、夏島は8、稲荷台は6・11、他に早期燃糸文の尖底部10である。

沈線文土器では、三戸式・田戸下層式・田戸上層式・常世式・出流原式(?)の15点を図示した。三戸式は13で、口縁から胴部にかけて器形復原を行なった。田戸下層式は14・15・17・18・21、田戸上層式は3・20・28・30・31、常世式は36・37、出流原式は16・42(出流原式?)である。なお、常世式及び出流原式は、条痕文系土器の子母口式土器に併行するという研究もある。

押型文土器では、楕円押型文土器の22と山形押型文土器の23・24の3点を図示した。

条痕文系土器では、城ノ台式?・子母口式・野島式・鶴ヶ島台式および早期条痕文の106点を図示した。城ノ台式?は26・27、子母口式は29・38～41・43～72・77・80・81・86・91・94・99、野島式は19(野島式?)・32(野島式?)・35、鶴ヶ島台式は33・34、早期条痕文は76・78・79・85・87・88・90・92・93・95～98・100～140・142～144である。なお、72は子母口式の尖底部、142～144は条痕文系土器の尖底部である。

このほか、早期の土器として、早期縄文25・早期無文73～75・82～84・89・141を図示した。なお、82・141は早期無文土器の尖底部である。

前期：関山式・有尾式・諸磯a式・諸磯b式・諸磯c式・浮島式など23点を図示した。関山式は145～151、有尾式は155、諸磯a式は156～158、諸磯bは159～164・168、諸磯cは165、浮島式は167である。なお、前期縄文として152～154を図示した。

中期：五領ヶ台式169と加曾利E 3式166・170の3点を図示した。

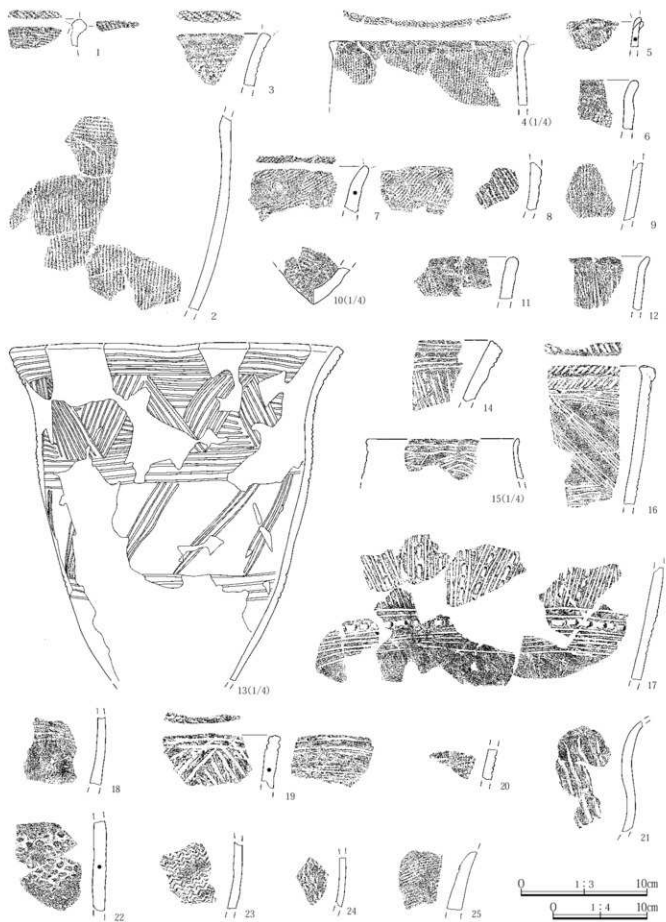
後期：加曾利B 2式・加曾利B 3式・高井東式・安行2式?など31点を図示した。加曾利B 2式は171～176、加曾利B 3式は178～184・187、加曾利B式は185、高井東式は177・186・188～193・199・200、安行2式?は201である。なお、後期後半の無文土器として194～198を図示した。

晩期：千網式・米1式併行・大洞A式併行の17点を図示した。千網式は202～209・211～214・216～218、米1式併行は210、大洞A式併行は215である。

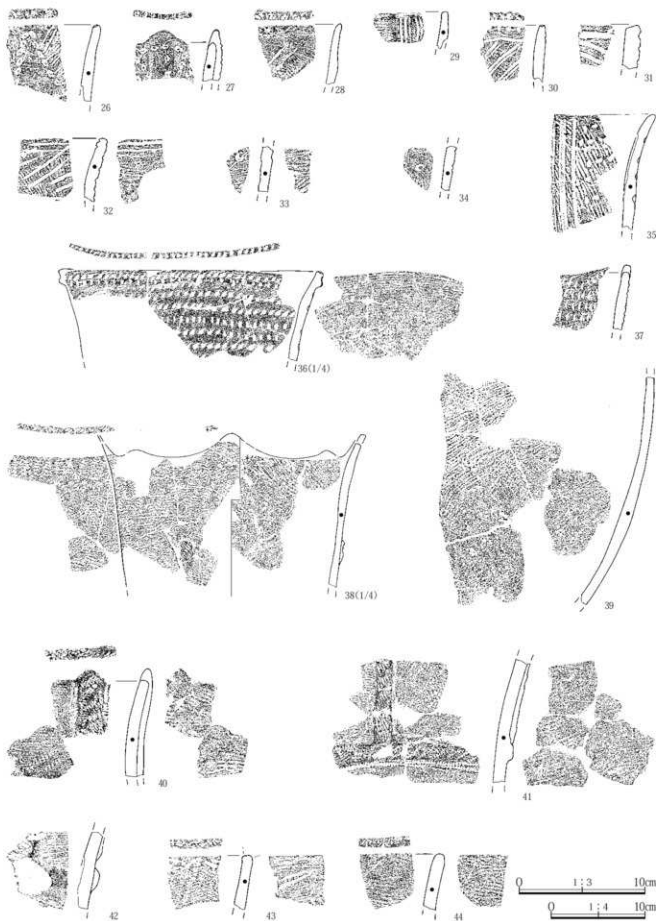
第8表 青柳宿上遺跡 未掘載遺構外出土縄文土器一覽表

時期	土器型式・土器の特徴	点数	重量(g)	備考
早期	器系文系			早期は、早期条痕文が一番多い。そのほとんどが、子母口式に属するものと考えられるが、土器の残存状態が悪く、細分することはできなかった。 また、三戸式も144点と多く出土している。
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
前期	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
中期	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
後期	器系文系			後期の土器は、97区北側の6号土坑周辺で出土している。 特に、加曾利B3式と高井束式の出土が多い。
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
晩期	器系文系			晩期については、細かい観察に基づき表にまとめた。 A種浮線文・・・大割A式の工字文の描き方由来 B種浮線文・・・米1式などに典型的なもの ※引切塚遺跡1号河道出土の晩期土器を含む。
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
晩期～弥生初頭	器系文系			
不明	器系文系			
	器系文系			
	器系文系			
合計		6,902	85,814.40	

第4章 青柳宿上遺跡の調査内容

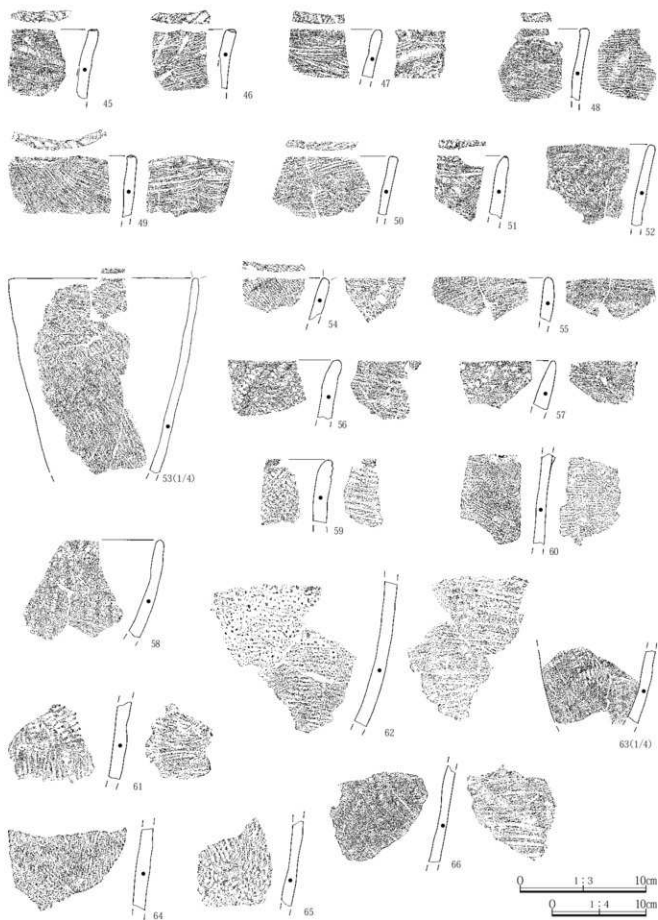


第57図 遺構外出土の縄文土器(1)

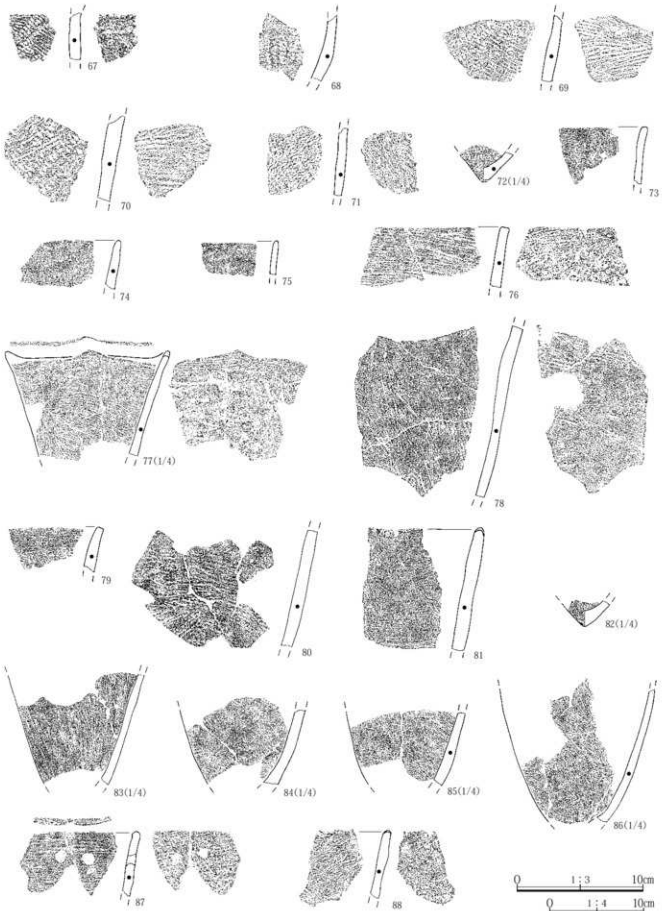


第58図 遺構外出土の縄文土器(2)

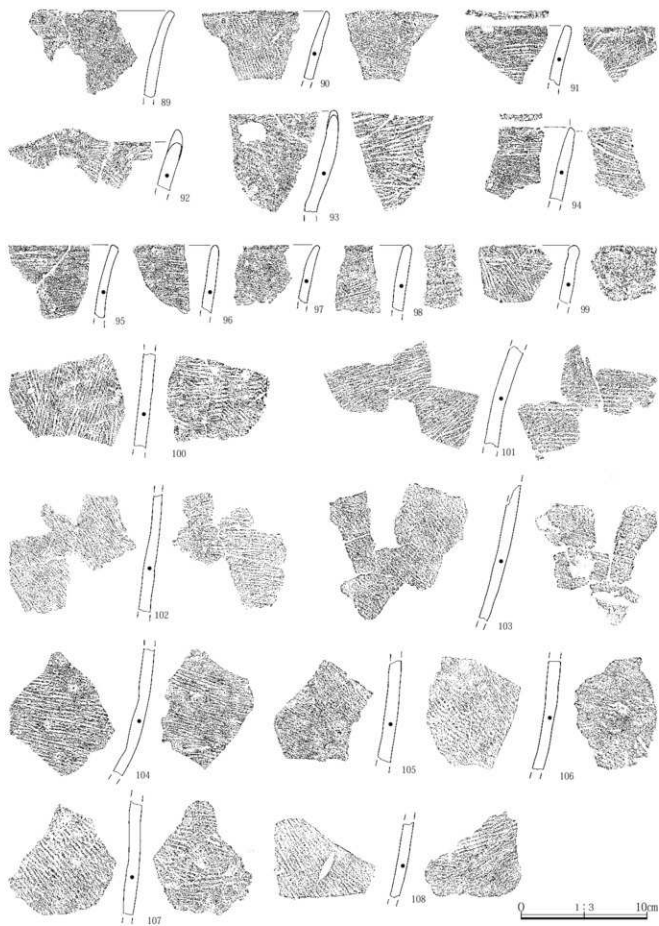
第4章 青柳宿上遺跡の調査内容



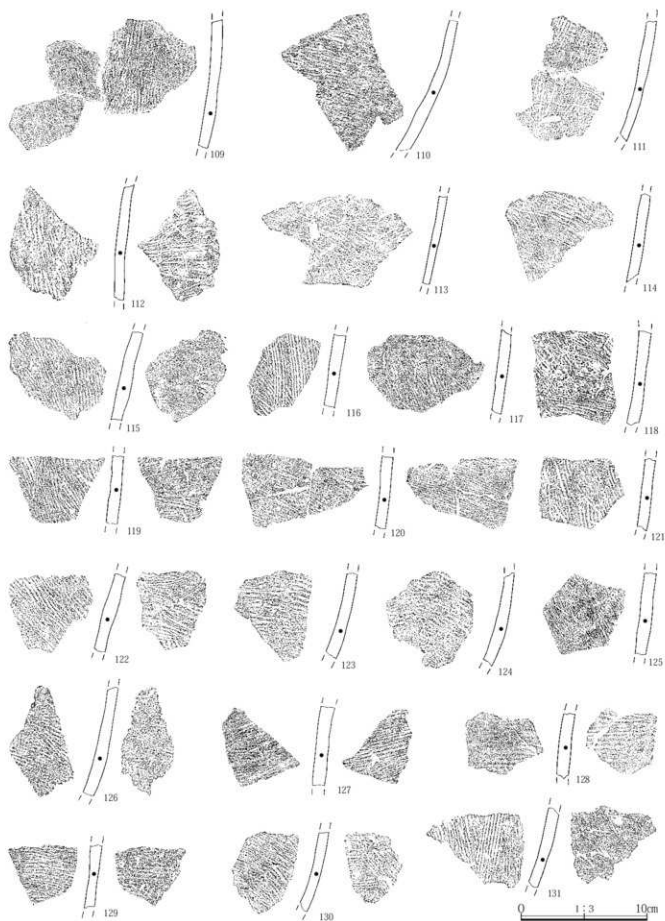
第59図 遺構外出土の縄文土器(3)



第60図 遺構外出土の縄文土器(4)

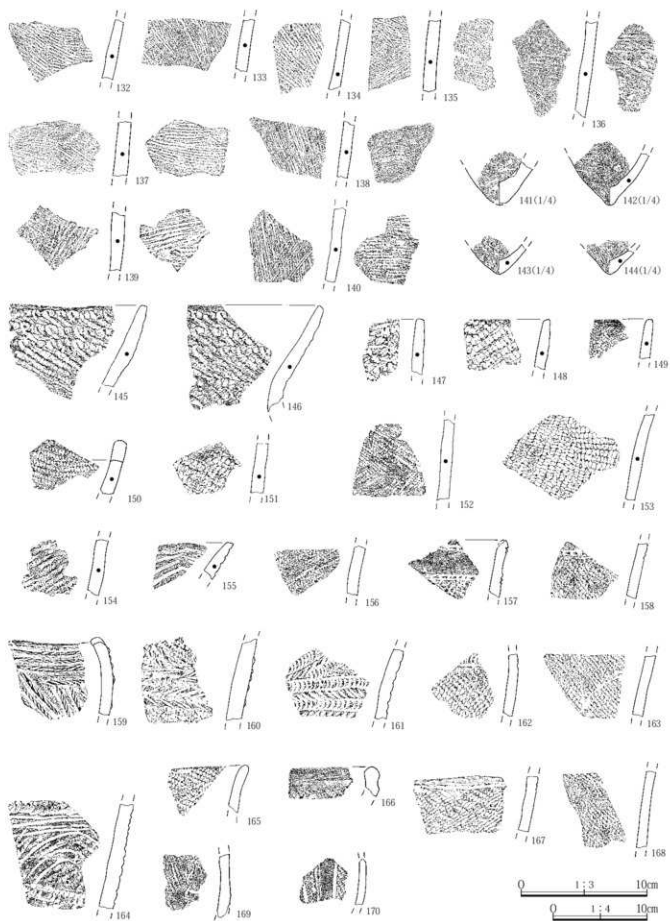


第61図 遺構外出土の縄文土器(5)

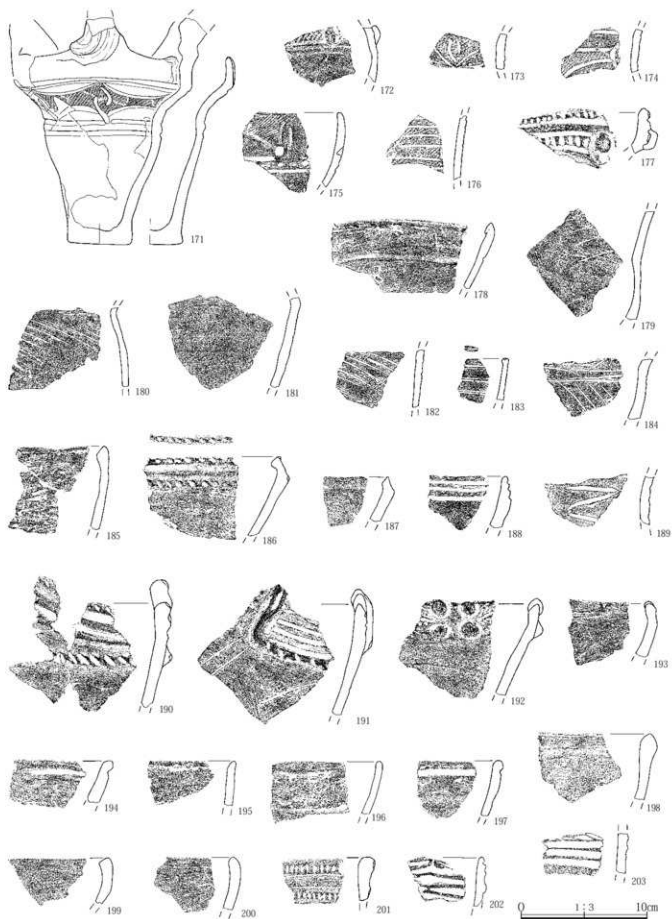


第62図 遺構外出土の縄文土器(6)

第4章 青柳宿上遺跡の調査内容

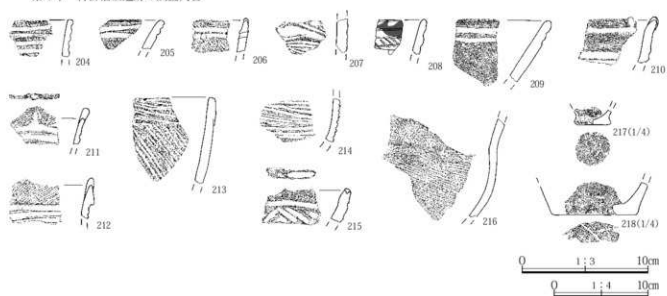


第63図 遺構外出土の縄文土器(7)



第64図 遺構外出土の縄文土器(8)

第4章 青柳宿上遺跡の調査内容



第65図 遺構外出土の縄文土器(9)

第4節 弥生時代

1. 調査の概要

半円形の窪地の黒色土から、弥生時代中期中葉の土器を発見した。弥生土器と同じ層位から、炭化材も検出した。自然科学分析の結果、この炭化材は弥生時代中期の頃のものと同判した(第5章第2節参照)。しかし、その他に弥生時代の遺構は、検出されなかった。

半円形の窪地は、97区南西部に位置し、北西～南東にかけて幅約17m、深さ約3mにも及ぶ巨大なものである。南西側は周囲と同様に砂やHr-FAなどが水平堆積をしていた。半円形の窪地の中程には、カマドをもつ古墳時代後期の竪穴住居が2軒造られており、この頃には水の影響を受けなくなっていたことが分かる。

発見された弥生時代中期中葉の土器の特徴は、頸の太い大型壺でよく再葬墓に使われるものである。また、赤彩のある広口短頸壺も発見されている。

弥生時代の半円形の窪地で出土した石器類は、計69点である(第9表)。割片の出土は47点と一番多い。半円形の窪地では、スクレイパー(14～17)・打製石斧(18)をそれぞれ図化した。

2. 半円形の窪地

半円形の窪地(第66～71図、PL.27・28・91・92)

位置 97-P～R-3～6

規模 幅 東西方向一約17m 残存深度 約3m

重複 古墳時代27号・28号住居と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。

形状 北東側が半円形の窪地で、南側は水の影響を受けた層が傾斜に合わせてなだらかに堆積する。

埋没土 古墳時代の2号河道と同様の堆積状況である。上層は赤城白川から運ばれた白い砂の間に黒褐色土が時々入り込み、水流があったときと一時止まったことを示す堆積をしている。だが、弥生土器の出土のあった黒色土は粘土質となっている。この黒色土の堆積はまだ続くが、調査期間の関係と安全性の面から考え、全て掘り抜くことはできなかった。ただし、一番北側のローム層と接する部分のみは、人力によりさらに深掘りを行った結果、粗い川砂が検出された。

遺物 壺(1・2)が半円形の窪地中央付近から、広口短頸壺(4)が焼土の北側から出土している。壺(1)の近くから黒色頁岩製のスクレイパー(14)が、土器の密集地点から南東の少し離れたところから、黒色頁岩製の打製石斧(18)が出土している。その他の弥生土器や石器が出土したのは、20層の黒色土からである。未掲載遺物は弥生土器114点、スクレイパー3点、二次加工ある割片6点、使用痕ある割片1点、凹石1点、磨石4点、割片47点である。

時期 出土遺物から、弥生時代中期中葉と考えられる。

所見 半円形の窪地の弥生土器が検出された層位から、炭化材が発見された。これをAMS年代測定にかけた結果、弥生時代中期の年代結果が出ている。また、半円形の窪地内には、地割れと噴砂の痕跡が見られた。噴砂跡は、中央の凹みに造られた古墳時代28号住居の掘方からフク土にかけて確認された。赤城南麓周辺の地震災害の痕跡の傾向から考えると、この噴砂跡は、818(弘仁9)年のものと推察される。地割れ並びに、噴砂(液状化跡)の詳細い内容については、第5章第5節(広島大学大学院准教授の熊原康博氏著)に自然地理学の立場から、第5章第6節(群馬大学大学院教授の若井明彦氏、群馬県桐生市土木事務所田畑あすみ氏共著)に工学的な立場からの考察を執筆していただいているので、参照していただきたい。

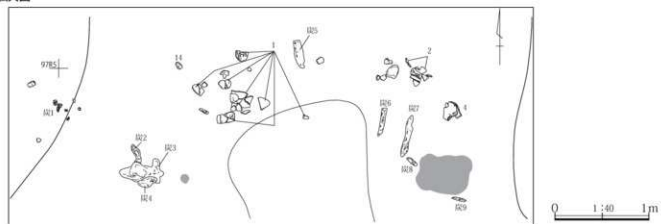
第9表 弥生時代の半円形の窪地出土の石器 器種石材構成

石材名	スクレイパー	打製石斧	二次加工ある割片	使用痕ある割片	凹石	磨石	石皿	割片	計
黒色頁岩	5	1	4			1		25	36
珪質頁岩	1		1						2
黒色安山岩			1	1				20	22
黒曜石								1	1
チャート	1							1	2
細粒輝石安山岩						4	1		5
デイサイト					1				1
計	7	1	6	1	1	5	1	47	69

半円形の窪地



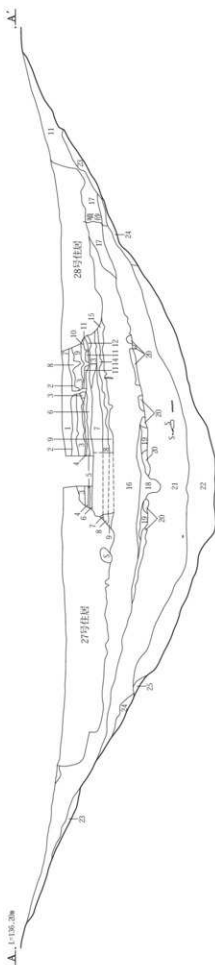
拡大図



第66図 半円形の窪地



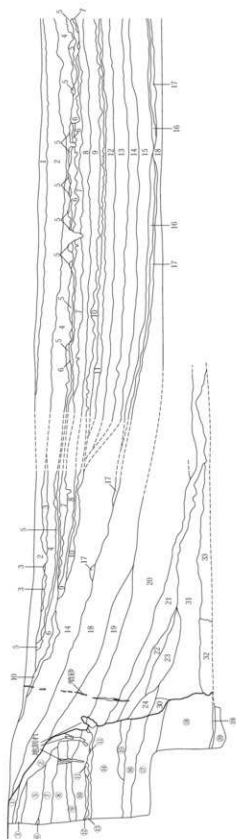
第57図 半円形の埴土土層断面(1)



半円形の埴土(34号トレンチ)

1. 灰黄褐色土(10785/2) 焼土粒($\phi 1 \sim 2$ mm)極少量, Hr-FA・Hr-PP粒($\phi 1$ mm), As-C粒($\phi 1$ mm) 1% 含む
2. 灰黄褐色土(10784/2) 焼土粒($\phi 1 \sim 3$ mm)極少量, Hr-FA・Hr-PP粒($\phi 1 \sim 2$ mm), As-C粒($\phi 1$ mm) 1% 含む
3. 灰黄褐色土(10784/2) Hr-FA・Hr-PP粒($\phi 1 \sim 2$ mm), Hr-FA・Hr-PP粒($\phi 1 \sim 5$ mm), As-C粒($\phi 1 \sim 2$ mm) 2% 含む
4. 灰黄褐色土(10784/2) Hr-FA・Hr-PP粒($\phi 1 \sim 2$ mm), As-C粒($\phi 1$ mm) 1% 含む
5. 灰黄褐色土(10784/2) 灰土粒($\phi 1 \sim 2$ mm)極少量, Hr-FA・Hr-PP粒($\phi 1$ mm) 1% 含む
6. 灰黄褐色土(10786/2) 灰土粒($\phi 1 \sim 3$ mm), Hr-FA・Hr-PP粒($\phi 1 \sim 3$ mm), As-C粒($\phi 1 \sim 2$ mm) 2% 含む
7. 灰黄褐色土(10784/2) Hr-FA・Hr-PP粒($\phi 1 \sim 4$ mm), As-C粒($\phi 1 \sim 2$ mm) 1% 含む
8. 灰黄褐色土(10785/2)
9. 灰黄褐色土(2.576/2) 粗砂土($\phi 0.5 \sim 2$ mm)
10. 灰黄褐色シルト質土(10786/2)
11. 灰黄褐色シルト質土(10784/2)

12. 灰黄褐色砂質土(10785/2)
13. 灰黄褐色シルト質土(10786/2)
14. 灰黄褐色シルト質土(10785/2)
15. 灰黄褐色土(10785/3) Hr-FA粒石, アツシユ, 軽石は下層に多い
16. 黒褐色土(10783/1) As-C粒($\phi 1 \sim 20$ mm) 20% 含む, 下層部にAs-C粒じり多い
17. 灰黄褐色土(10784/2) As-C粒($\phi 1 \sim 10$ mm) 20% 含む
18. 黄褐色土(2.574/1) As-C粒($\phi 1 \sim 10$ mm) 20% 含む
19. 暗黄褐色土(10784/1) As-C粒($\phi 1 \sim 20$ mm) 3% 含む
20. As-C粒石($\phi 1 \sim 20$ mm) 90%以上含む
21. 黒褐色土(10783/1) 灰黄褐色土(10787/3), 灰白色土粒(10787/1) ($\phi 1 \sim 5$ mm) 1% 含む, やや粘性あり(半円形の埴土層F 18層に相当)
22. 黒褐色土(10783/2) 灰黄褐色土(10787/3), 灰白色土粒(10787/1) ($\phi 1 \sim 5$ mm) 1% 含む, しまりやや良し(半円形の埴土層F 23層に相当)
23. 灰黄褐色土(10786/4)
24. 灰黄褐色土(10785/2)
25. 黄褐色砂質土(2.576/1)



半円形の窪地-B* (35号トレンチA-A')

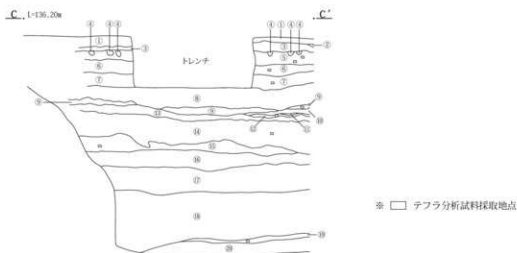
1. 灰黄褐色細砂質土(10785/2) 黄土粒極少量含む
2. 灰黄褐色土(10784/2) Hr-FA・Hr-PP粒、As-C粒砂礫2%含む
3. 灰黄褐色土(10785/2) Hr-FA・Hr-PP粒、As-C粒極少量含む
4. 灰黄褐色土(10785/2) Hr-FA・Hr-PP粒、As-C粒極少量含む
5. 黄褐色シルト質土(2.576/1) 円礫(φ1~4mm)30%含む
6. 灰黄褐色土(10784/2)
7. 黄褐色土(10784/2)
8. 灰黄褐色細砂質土(10785/2) 褐色砂質土(10786/1)ブロック状を含む
9. 灰黄褐色細砂質土(10785/2) 褐色砂質土(10786/1)20%ブロック状を含む
10. 灰黄褐色土(10785/4) Hr-FA中心層、Hr-FA粒石版(φ1~30mm)含む
11. 黄褐色土(10782/1) 小礫(φ1~3mm)1%含む
12. 灰黄褐色シルト質土(10784/2) 中粒より上位に黒褐色土(10782/1)の層が一部認められる
13. 黄褐色土(10782/2) As-C粒(φ1~2mm)1%含む
14. 黒褐色土(10782/1) As-C粒(φ1~4mm)5%含む
15. 灰黄褐色シルト質土(10785/2)
16. 黒褐色土(10782/2) As-C粒(φ1~5mm)80%含む
17. 明灰褐色土(2.575/2) As-C粒(φ1~10mm)中心層

18. 黒褐色土(10782/1) やや粘質あり(半円形の窪地A'21層に相当)
19. 灰黄褐色土(10785/2) 灰色粒(φ1~2mm)1%、細かい黄褐色土粒(10786/4)3%含む
20. 黒褐色土(10782/2) 細かい黄褐色土粒(10786/4)1%含む(半円形の窪地A'22層に相当)
21. 灰黄褐色土(10784/2) 黒化した鉄分が沈澱
22. 細かい黄褐色土(10785/3) 小円礫(φ1~3mm)1%含む
23. 細かい黄褐色土(10786/4)
24. 明灰褐色土(10786/6) As-PP粒(φ1mm)1%含む(上層に位置する)
25. 明灰褐色土(10785/6) しまり良い、円礫(φ1mm)下層に多く含む
26. 明灰褐色細砂質土(10786/6) しまり良い
27. 灰白色細砂土(10787/1) 礫(φ1~10mm)5%含む
28. 黄褐色細砂土(2.575/1) 互層となっている
29. 細かい黄褐色土(10785/3) 円礫(φ1~10mm)2%含む
30. 褐色土(10785/1) 円礫(φ0.5~5mm)1%含む(17層の崩壊土)
31. 細かい黄褐色土(10785/3)小円礫(φ1~5mm)1%含む
32. 褐色細砂質土(10784/1)粗砂土
33. 灰黄色砂質土(2.576/2) 一部シルト質土を含む
34. 灰黄色砂質土(2.576/2)

※①~③は、半円形の窪地-C'を参照のこと。

第68図 半円形の窪地土層断面(2)

0 1:60 2m

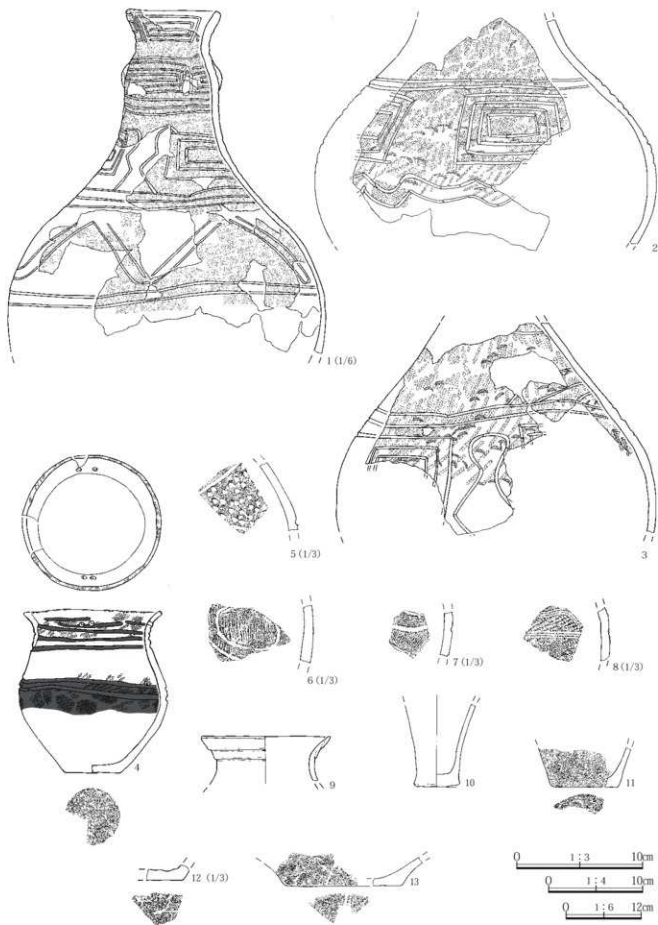


半円形の窪地C-C' (39号トレンチA-A')

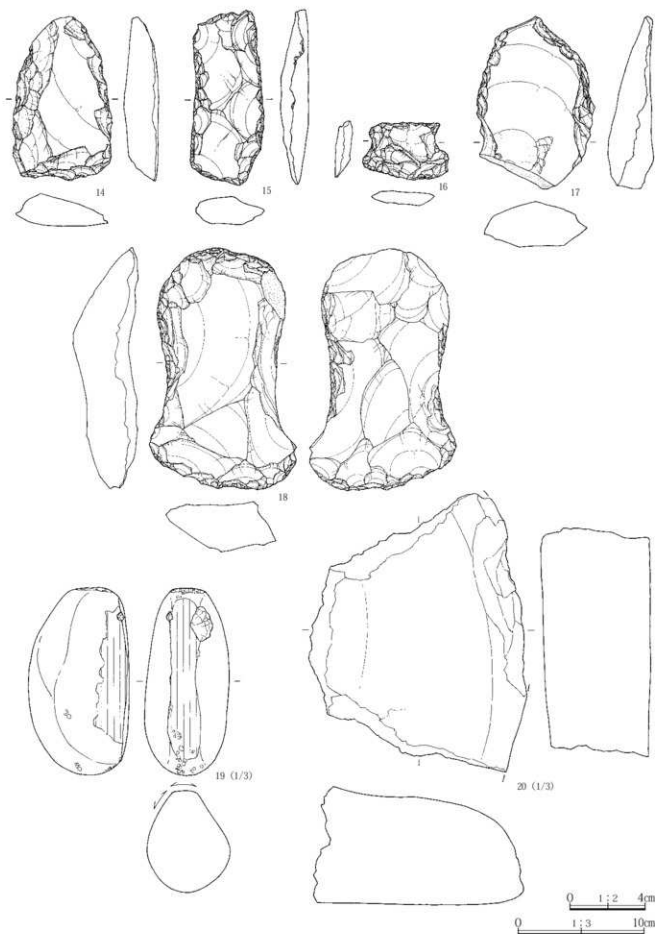
- ①. 灰黄褐色土(10YR6/1)
- ②. 灰黄褐色土(10YR6/2)
- ③. にぶい黄褐色土(10YR6/3)
- ④. As-YPブロック
- ⑤. にぶい黄褐色砂質土(10YR6/3) As-YP粒(ϕ 1~2mm) 2%含む
- ⑥. にぶい黄褐色砂質土(10YR6/3) As-YP粒(ϕ 1mm) 1%含む
- ⑦. 褐灰色砂質土(10YR6/1)
- ⑧. にぶい黄褐色砂質土(10YR6/3)
- ⑨. にぶい褐色砂質土(7.5YR5/4) 灰白色軽石粒・白色粒(ϕ 1~7mm) 5%含む。酸化して鉄分が沈着
- ⑩. 褐灰色砂質土(10YR5/1) しまり良い、酸化して一部鉄分が沈着
- ⑪. 褐灰色砂質土(10YR5/1)
- ⑫. 褐灰色砂質土(10YR5/1)
- ⑬. 黄灰色土(2.5Y5/1)
- ⑭. 灰色砂礫土(5Y4/1) 円礫・亜角礫(ϕ 1~5cm) 10%含む
- ⑮. 灰黄色土(2.5Y6/2) 円礫(ϕ 0.5~1cm) 2%、灰白色軽石粒(ϕ 1~8mm) 1%含む
- ⑯. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 黄灰色砂質土(2.5Y5/1)とシルト質土の互層
- ⑰. 灰色砂礫土(5Y5/1) 粗砂と円礫(ϕ 0.5~7cm) 10%含む
- ⑱. にぶい黄色細砂質土(2.5Y6/3) 縮状堆積
- ⑲. 灰黄色土(2.5Y7/2)粒(ϕ 1~2mm)中心層(As-BP?)
- ⑳. 灰色砂礫土(5Y5/1) 円礫(ϕ 1~7cm) 20%含む

0 1:60 2m

第69図 半円形の窪地土層断面(3)



第70図 半円形の窪地出土遺物(1)



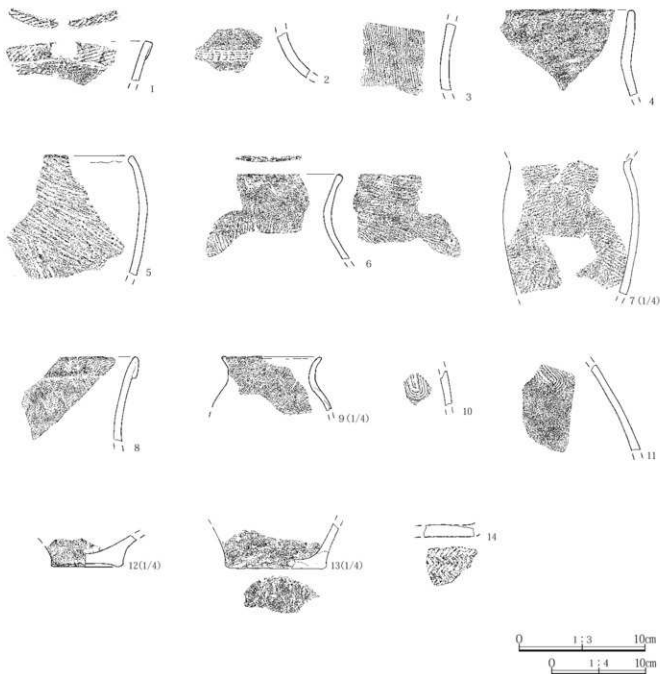
第71図 半円形の窪地出土遺物(2)

3. 遺構外出土の弥生土器(第72図、PL.92)

弥生時代の遺構に伴わない、遺構外から出土した弥生土器14点を扱う。ただし、弥生時代以降の遺構フク土から出土したものも、遺構外出土として取り扱っている。(遺構外出土の未掲載弥生土器は、128点(2,832.3g)である。)

弥生土器の器種内訳は、小型壺1点、壺6点、甕4点、壺か甕1点、深鉢1点である。なお、このうち深鉢5点については、縄文晩期末から弥生時代中期前半と考えられる。遺構外出土の弥生土器12点中7点、58%が壺である。

弥生土器の帰属年代は、例外はあるものの大きく2つに分けられる。中期中葉と後期樽式である。



第72図 遺構外出土の弥生土器

4. 遺構外出土の縄文・弥生時代の石器

(第73～83図、第10表、PL.93～98)

出土した石器は、剥片類も含めた総数7,780点である(第10表)。器種は、剥片石器として打製石鏃、尖頭器、石槍、石匙、石錐、楔形石器、スクレイパー、異形石器、打製石斧、石核、二次加工ある剥片、使用痕ある剥片、微小剥離痕ある剥片と大量の剥片類および磨製石鏃があり、礫石器として凹石、磨石、敲石、台石、石皿、三角錐形石器、スタンプ形石器、石錘、石製品、多孔石、不明礫石器、原石がある。剥片以外の定形的な石器の中では、スクレイパーが515点と最も出土量が多く、続いて二次加工ある剥片499点、石核170点、磨石124点、打製石斧103点、打製石鏃38点、使用痕ある剥片25点、石匙22点、スタンプ形石器21点、石皿19点、凹石・敲石各18点、石錐14点、石製品8点、不明礫石器6点、楔形石器・原石各4点、異形石器3点、微小剥離痕ある剥片2点と続き、磨製石鏃・尖頭器・石槍・三角錐形石器・石錘・多孔石が各1点となっている。

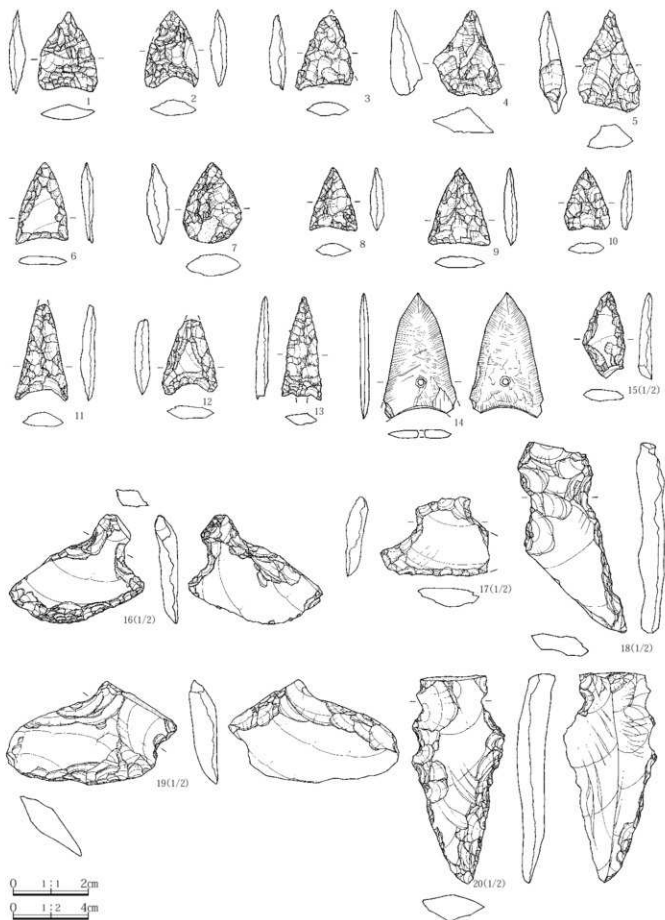
使用される石材は、剥片石器に黒色頁岩が1,046点と最も使用頻度が高く、次いで黒色安山岩が168点、黒曜石104点、珪質頁岩・チャート各24点、粗粒輝石安山岩・砂岩各7点、細粒輝石安山岩5点、ホルンフェルス・砂質頁岩各3点、変質玄武岩・赤碧玉各2点と続き、変質安山岩・玉ずい・珪質準片岩が各1点となっている。

礫石器の石材には、粗粒輝石安山岩が153点と最も多く、石英閃緑岩16点、文象斑岩5点、黒色頁岩・細粒輝石安山岩・溶結凝灰岩各4点、変質安山岩・アブライト・かこう岩各3点、珪質頁岩・砂岩・変質玄武岩・デイサイト・ひん岩各2点と続き、閃緑岩・デイサイト凝灰岩・変はんれい岩・流紋岩各1点となっている。

剥片石器・礫石器には、分類しないものとして、器種不明の石製品と原石がある。石製品の石材は、粗粒輝石安山岩4点、黒色頁岩3点、凝灰質砂岩1点であり、原石は、ホルンフェルス2点、赤碧玉・石英各1点である。

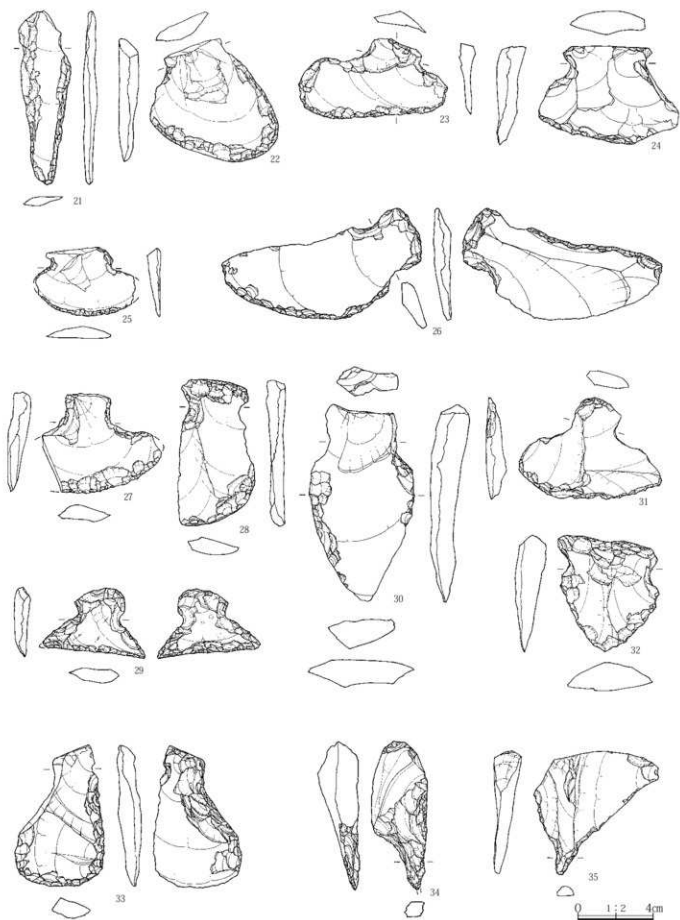
剥片については、6,161点の出土があり、黒色頁岩が4,531点と最も多く、次いで黒色安山岩963点、黒曜石433点、珪質頁岩89点、チャートが88点、細粒輝石安山岩14点、変質玄武岩12点、砂岩9点、ホルンフェルス・赤碧玉各5点、玉ずい2点と続き、粗粒輝石安山岩・デ

イサイト・石英・珪化凝灰岩・片状ホルンフェルス・珪質変質岩・黒色片岩・珪質安山岩・硬質泥岩・礫岩が各1点となっている。

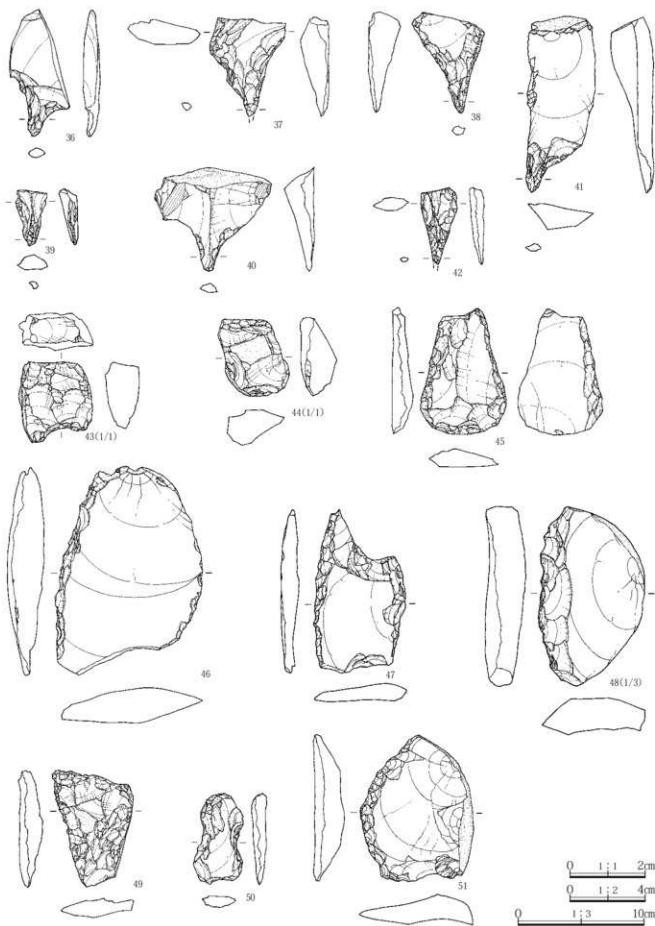


第73図 遺構外出土の縄文・弥生時代の石器(1)

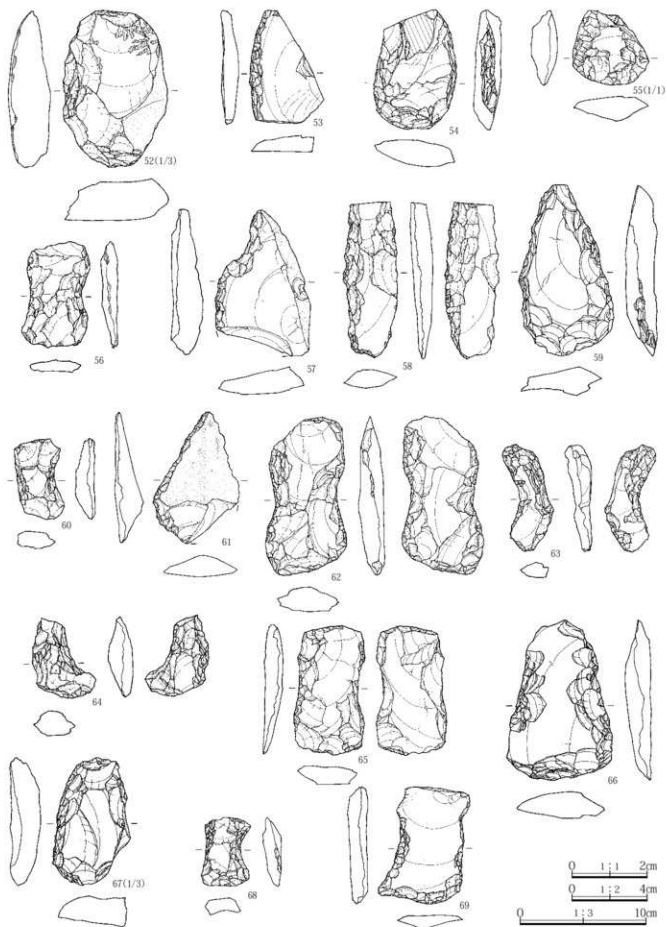
第4章 青柳宿上遺跡の調査内容



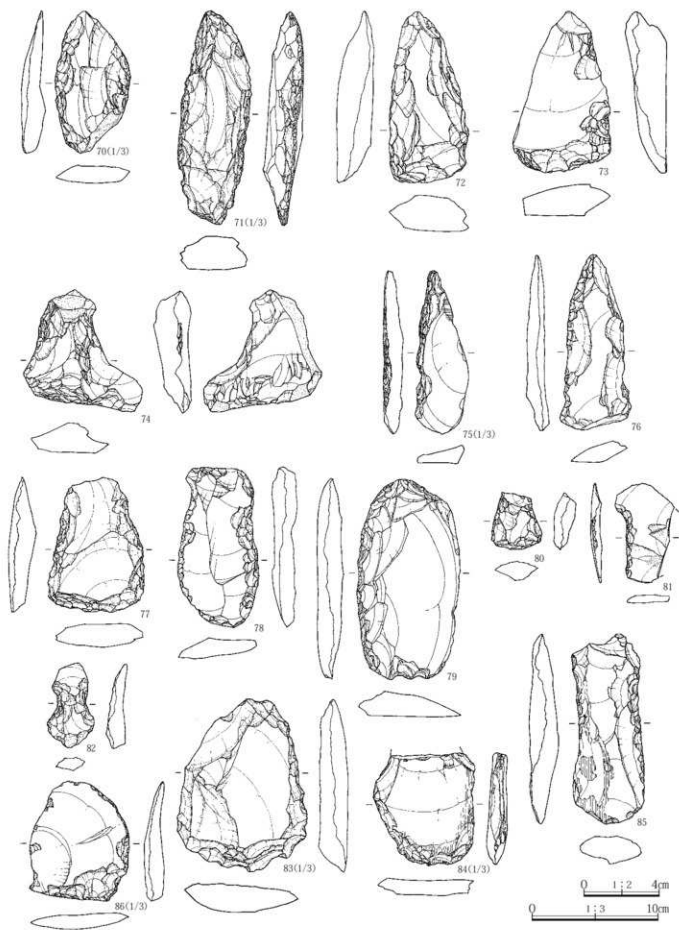
第74図 遺構外出土の縄文・弥生時代の石器(2)



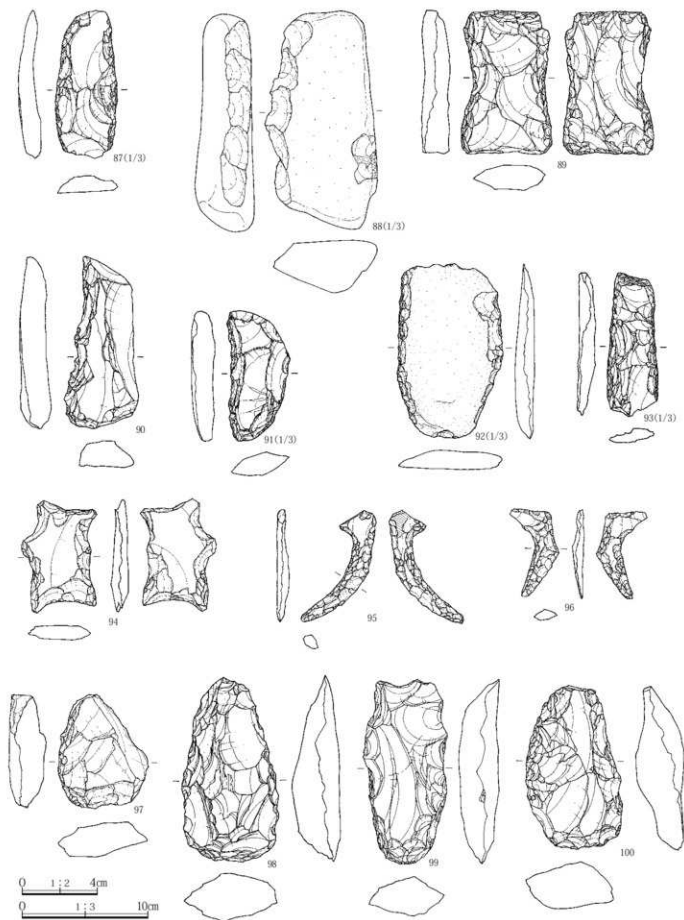
第75図 遺構外出土の縄文・弥生時代の石器(3)



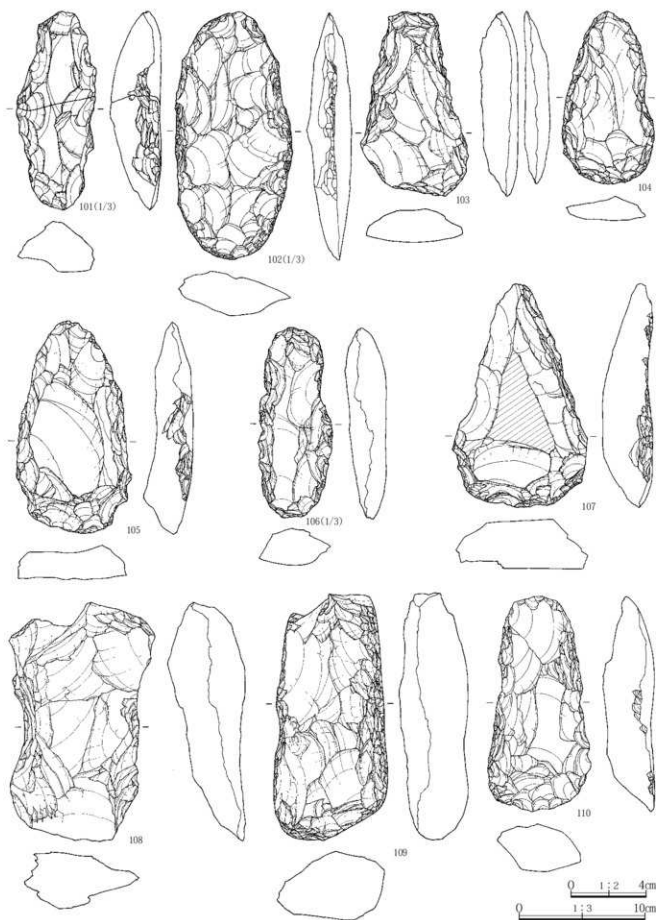
第76図 遺構外出土の縄文・弥生時代の石器(4)



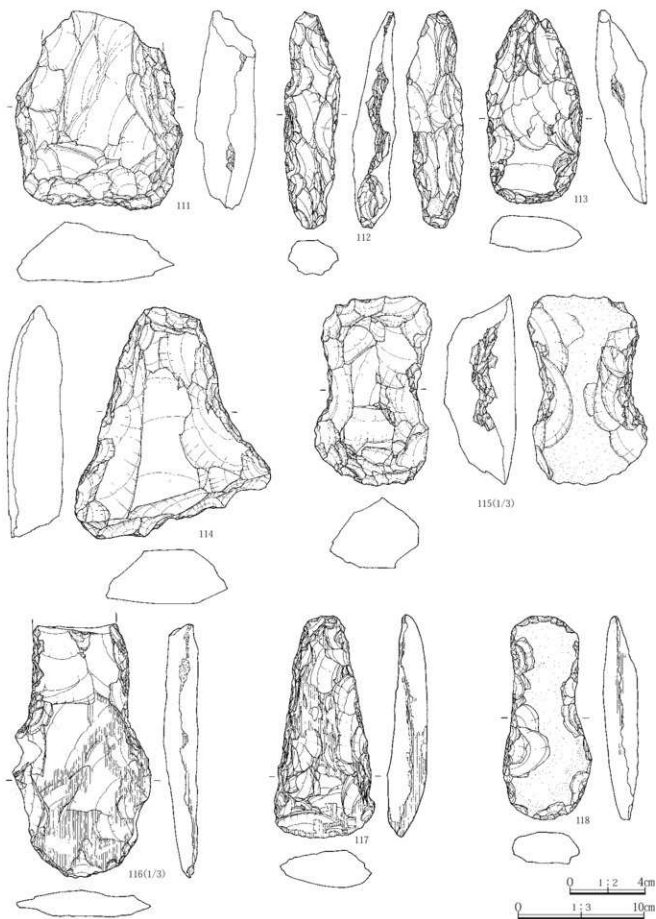
第77図 遺構外出土の縄文・弥生時代の石器(5)



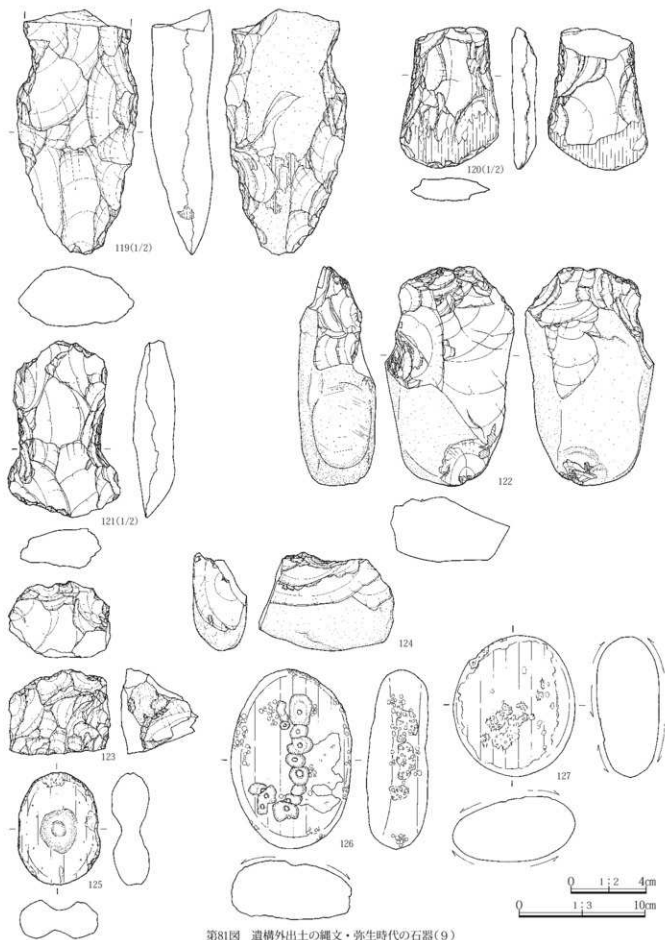
第78図 遺構外出土の縄文・弥生時代の石器(6)



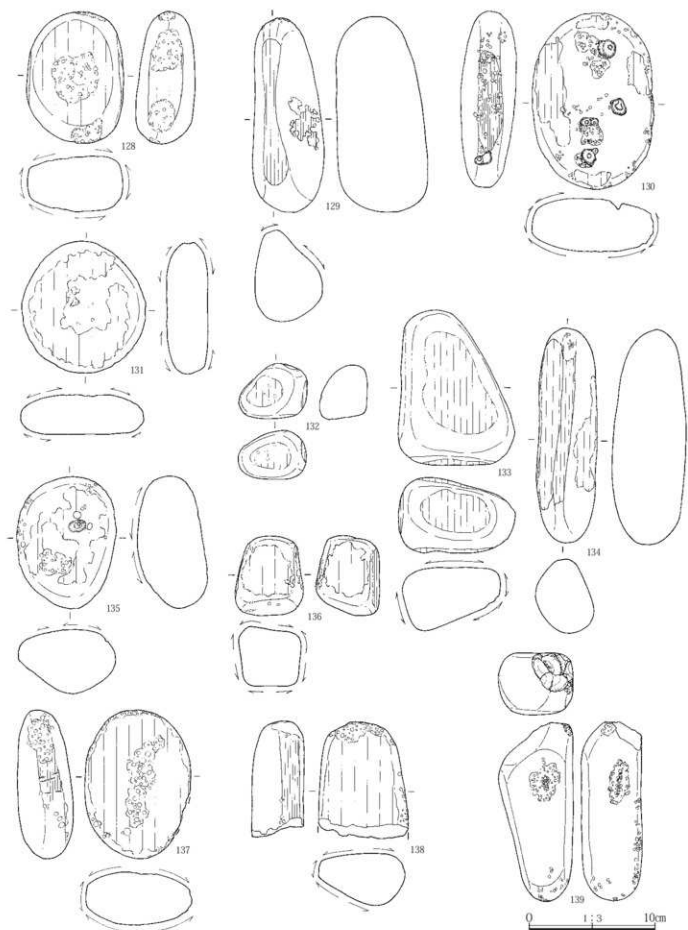
第79図 遺構外出土の縄文・弥生時代の石器(7)



第80図 遺構外出土の縄文・弥生時代の石器(8)



第81図 遺構外出土の縄文・弥生時代の石器(9)



第82図 遺構外出土の縄文・弥生時代の石器(10)



第83図 遺構外出土の縄文・弥生時代の石器(11)

第5節 古墳時代

1. 調査の概要

竪穴住居29軒、竪穴灶溝1基、河道1条、溝1条、土坑5基、ピット26基を検出した。竪穴住居の時期は、出土遺物から、29軒すべて6世紀後半のものだと判断した。調査区東側に竪穴住居が密集する傾向にある。特筆すべきは、半円形の窟地内に27号・28号住居の2軒と、2号河道内に29号住居を造っている点である。いずれもローム内ではなく川砂の堆積する脆い壁の中に竪穴住居を造っている。

2. 竪穴住居

1号住居(第84～66図、PL.29・30・65・99)

位置 97-0・P-17・18

重複 なし。

形状 長方形

規模 長軸4.35m 短軸3.28m 残存深度0.23m

主軸方位 N-110°-E **面積** 14.07㎡

カマド 一旦掘り上げた南東角を粘土で埋めて袖を構築し、さらに壁を掘込んで造られている。規模は、全長1.74m、幅0.20m、燃焼部0.36mを測る。両袖には角礫を補強に使用している。天井部は土層断面で崩落している状態が観察できる。燃焼部の奥側から煙道部にかけては壁外に110cmほど延びる。焚口よりやや奥に支脚と見られる円柱状の礫が立てられていた。

貯蔵穴 南辺中央より検出、規模は径0.58×0.55m、深さ0.59mを測る。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。床面の広い範囲で硬化面が確認された。

掘方 床面まで3～10cmほど埋め戻されている。ほぼ平坦であり、地山には礫が多くあまり掘込むことができなかったと考えられる。

埋没状態 土層断面の観察では壁際の三角堆積が確認されることから自然堆積による埋没と見られる。

遺物 土師器2点、磨石1点を図示した。土師器環(1)は貯蔵穴から、土師器環(2)は住居中央付近床面3cm上と貯蔵穴の出土のものが接合した。磨石(3)は、床面直上の貯蔵穴際からの出土である。未掲載遺物は、土師器141点である。

時期 共存する須恵器身の模倣環である土師器環(1)と前時代からの流れを引く土師器環(2)の出土遺物から、6世紀後半と考えられる。

2号住居(第87・88図、PL.30・31・65・99)

位置 97-J-17・18 97-K-17

重複 なし。

形状 正方形

規模 長軸4.70m 短軸4.60m 残存深度0.69m

主軸方位 N-78°-E **面積** 21.83㎡

カマド 東辺の中央に造られている。規模は、全長1.34m、幅0.22m、燃焼部0.55mを測る。燃焼部の奥側は地山を掘込み、手前側は袖を構築している。両袖には角礫を補強に使用している。天井部は土層断面で崩落している状態が観察できる。燃焼部の奥側から煙道部にかけては壁外に60cmほど延びる。土師器環(3)は、カマドから出土している。

貯蔵穴 南東角より検出、規模は径0.86×0.74m、深さ0.11mを測る。

柱穴 主柱穴は、深さや位置関係からP2・P3・P4・P6である。柱穴の規模(直径×深さ)は、P2:25×44cm P3:37×56cm・P4:27×55cm・P6:40×61cmである。

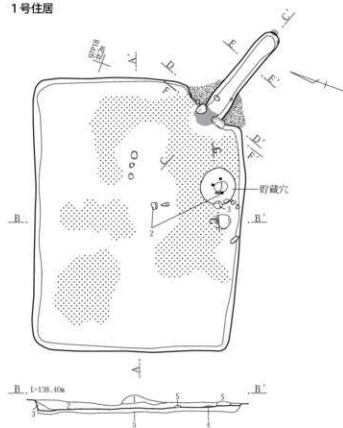
周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。床面の広い範囲で硬化面が確認された。北東と南東でピットが2基(P1・P7)検出された。P1は径0.25m×0.24m、深さ0.13m、P7は径0.26m×0.23m、深さ0.47mを測る。

掘方 床面まで5～31cmほど埋め戻されている。ほぼ平坦であるが、北西角と南西角に浅い落ち込みが見られた。床下土坑(長軸1.54m×短軸1.06m×深さ0.28m)が検出された。

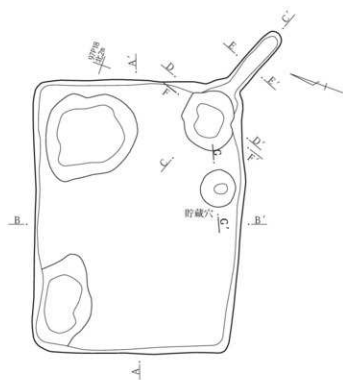
埋没状態 土層断面の観察では壁際の三角堆積、中央部の流れ込みなどが確認されることから自然堆積による埋没と見られる。

1号住居



1号住居A-A'・B-B'

1. 黑褐色土(10YR3/1) Br-FA粒(ϕ 1~4mm) 5%、As-C粒(ϕ 1~2mm) 2% 含む
2. 黑褐色土(10YR3/2) As-C粒(ϕ 1~3mm) 1%、小礫(1~5mm) 極少量含む
3. 暗褐色土(10YR3/3) As-C粒(ϕ 1~2mm) 極少量含む
4. 灰黄褐色土(10YR5/2)
5. 黑褐色土(10YR3/1) 小円礫(ϕ 1~5mm) 少量含む



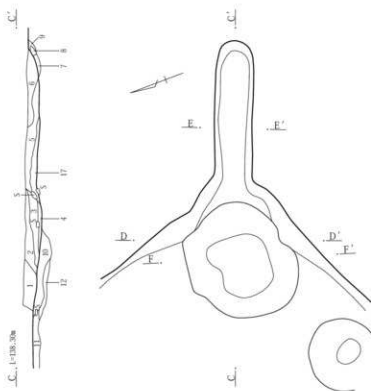
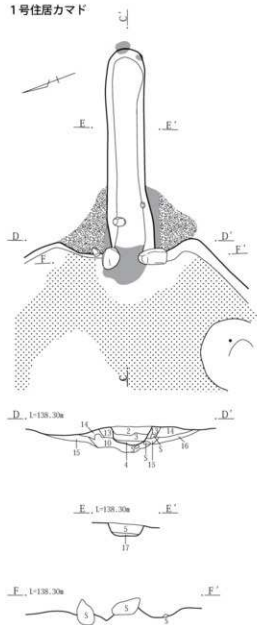
1号住居貯蔵穴G-G'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 小円礫(ϕ 2~3cm)、炭化物粒(ϕ 1~2mm) 極少量含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) 円礫(ϕ 4~5cm) 2%、暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) 10% 含む

0 1:60 2m

第84図 1号住居

1号住居カマド

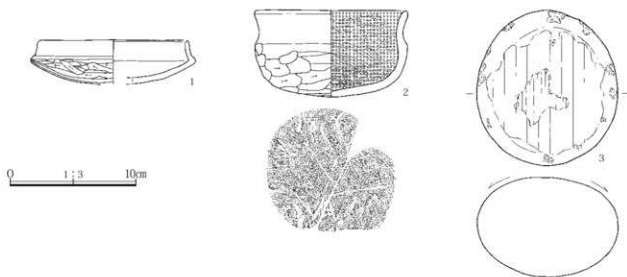


1号住居カマドC-C'～E-E'

1. 黒褐色土(10YR3/1) 焼土粒(φ 1～2mm)含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土まじり40%含む
3. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒(φ 1～3mm)2%, As-C粒(φ 1～2mm)1%含む
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) 下層に極薄い灰層あり
5. にぶい黄褐色土(10YR6/4) 砂質に近い土、焼土にしては赤味が弱く、天井部に使用した土が崩落したものか?
6. 橙色細砂質土(7.5YR7/6)
7. 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)
8. 焼土ブロック
9. 灰黄褐色土(10YR4/2)
10. 灰黄褐色土(10YR4/2) にぶい黄褐色土(10YR5/4)をブロック状に2%, 焼土粒(φ 1～2mm)1%含む
11. 灰黄褐色土(10YR4/2) 小円礫(φ 2～4cm)1%含む
12. 灰黄褐色土(10YR4/2) 小円礫(φ 1～2cm)2%含む
13. 焼土中心層 壁が焼けて焼土化している、小円礫(φ 2cm)極少量含む
14. 黄褐色土(10YR5/6) Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1～4mm)1%含む
15. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1～2mm)極少量含む
16. 灰黄褐色土(10YR4/2)
17. 灰黄褐色土(10YR4/2)

0 1:30 1m

第85図 1号住居カマド



第86図 1号住居出土遺物

遺物 土師器3点、石製品1点、砥石1点を図示した。土師器環(1)はカマド北側床面4cm上から、土師器環(2)は南辺中央やや東床面直上からの出土である。石製品(4)と砥石(5)はフク土からの出土である。未掲載遺物は、土師器22点、須恵器2点である。

時期 共存する模倣環である土師器環(1・2)や土師器甕(3)などの出土遺物から、6世紀後半と考えられる。

3号住居(第90～92図、PL.31・32・65・99)

位置 97-I-17 97-II-17・18

重複 なし。

形状 長方形

規模 長軸4.20m 短軸3.20m 残存深度0.65m

主軸方位 N-71°-E **面積** 13.16㎡

カマド 東辺のやや南東角寄りに造られている。規模は、全長1.20m、幅0.28m、燃焼部0.45mを測る。燃焼部の奥側は地山を掘込み、手前側は袖を構築している。両袖には角礫を補強に使用している。カマドから土師器環(1)、土師器甕(6・7・8)が出土した。燃焼部の奥側から煙道部にかけては壁外に45cmほど延びる。

貯蔵穴 南東角より検出、規模は径0.59×0.52m、深さ0.34mを測る。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。床面中央で硬化面、床面北東角で弱硬化面が確認された。南西角に焼土塊を検出した。

掘方 床面まで2～14cmほど埋め戻されている。全体に凹凸がある掘方である。床下土坑(長軸1.11m×短軸1.10m×深さ0.25m)が検出された。

埋没状態 土層断面の観察では、中央部の流れ込みなどが確認されることから自然堆積による埋没と見られる。

遺物 土師器8点、須恵器2点、敲石1点を図示した。土師器環(2・3)は南辺東側床面9cm上から、土師器高環(4)は北辺やや西側床面36cm上から、土師器高環(5)は住居中央やや北西付近の床面6cm上から、須恵器甕(9)は北東角床面24cm上から、敲石(11)は南辺中央やや東側床面7cm上からの出土である。提瓶(10)はフク土からの出土である。未掲載遺物は、土師器130点、須恵器1点、敲石1点、磨石1点、石皿1点である。

時期 共存する土師器環(1)や土師器甕(6・7)などの出土遺物から、6世紀後半と考えられる。

4号住居(第93～96図、PL.32・33・65・100)

位置 97-F-15、97-G-15・16、97-H-16

重複 なし。

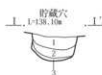
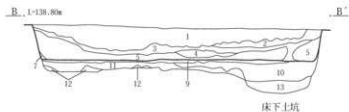
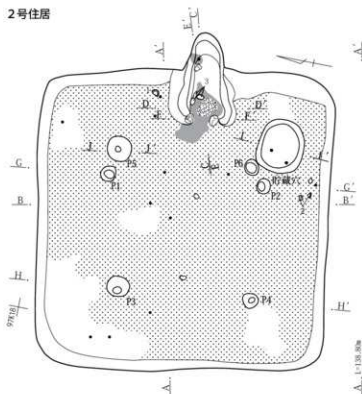
形状 正方形

規模 長軸4.68m 短軸4.44m 残存深度0.62m

主軸方位 N-71°-E **面積** 19.91㎡

カマド 東辺の中央に造られている。規模は、全長1.15m、幅0.38m、燃焼部0.50mを測る。燃焼部の奥側は地山を掘込み、手前側は袖を構築している。天井部は土層断面で崩落している状態が観察できる。カマドから土師

2号住居



2号住居P5 J-J'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)極少量含む、しまりやや弱い
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) 灰黄褐色土(10YR5/4)ブロック状に2%含む、しまりやや強い

2号住居貯蔵穴-I-I'

1. 灰黄褐色土(10YR4/3) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~4mm)、As-C粒(φ1~2mm)2%、にふい黄褐色土(10YR5/4)ブロック状に含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%、焼土粒(φ1~2mm)極少量含む
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)を2%、焼土粒(φ1~2mm)1%含む、しまり良

2号住居A-A'・B-B'

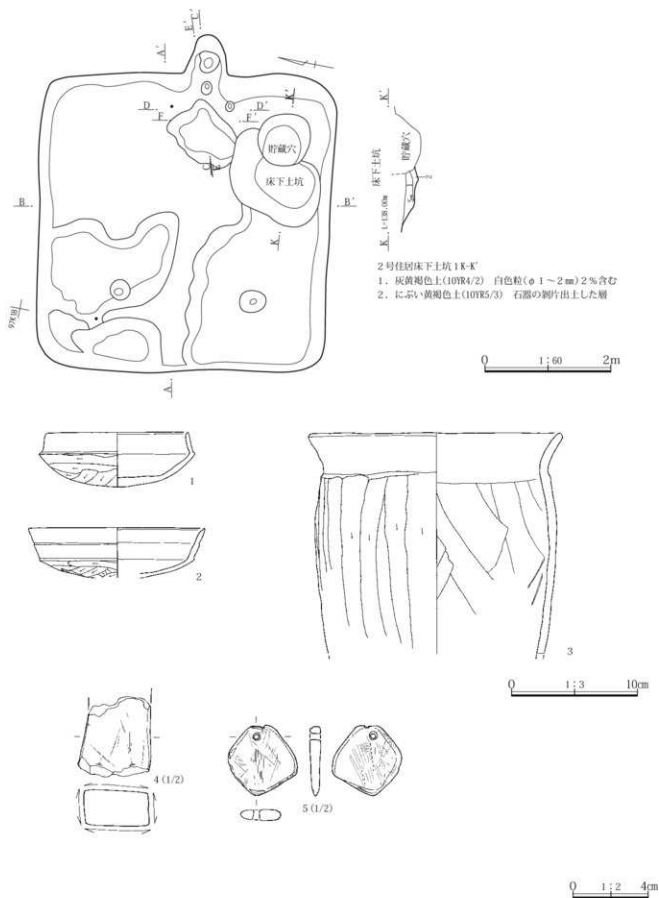
1. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA粒(φ0.5~3cm)3%、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
2. 暗褐色土(10YR3/3) As-C粒(φ1~2mm)、Hr-FA粒(φ0.5~1cm)1%含む、しまりあり
3. 暗褐色土(10YR3/3) As-C粒(φ1~2mm)、焼土粒(φ1mm)、炭化物粒(φ1~2mm)1%含む、土層のAs-C粒混じりの黒褐色土(φ3cm大)5%をブロック状に含む
4. 暗褐色土(10YR3/4) As-C粒(φ1~2mm)、ロームブロック(φ2~3cm)、焼土ブロック(φ2~3cm)1%含む、しまりあり
5. 暗褐色土(10YR3/4) As-C粒(φ1~2mm)、焼土粒(φ1mm)、炭化物粒(φ1mm)1%含む
6. 暗褐色土(10YR3/4) 壁の崩落土
7. 暗褐色土(10YR3/4) 地山粘性あり
8. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~8mm)、焼土粒(φ1~4mm)1%、As-C粒(φ1~7mm)2%含む
9. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)、焼土・焼土粒(φ1~2mm)、炭化物粒(φ1~2mm)1%含む、しまりの非常に硬い張り床層
10. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~4mm)1%含む、炭化物粒(φ1~2mm)、焼土粒(φ1~3mm)極少量含む、黒褐色土(10YR3/1)(φ4~10mm)ブロック状に含む
11. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%、焼土粒(φ1~3mm)極少量含む
12. にふい黄褐色土(10YR5/3) As-C粒(φ1~2mm)極少量、にふい黄褐色土(10YR5/4) (地山土)をブロック状に含む
13. 灰黄褐色土(10YR4/2) 白色粒(φ1~2mm)2%含む

2号住居P1~P4 G-G'・H-H'

1. にふい黄褐色土(10YR4/3) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C粒(φ1mm)極少量含む

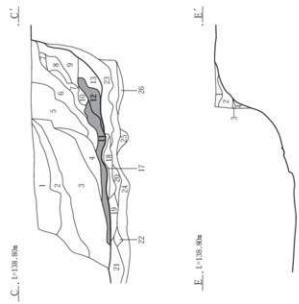
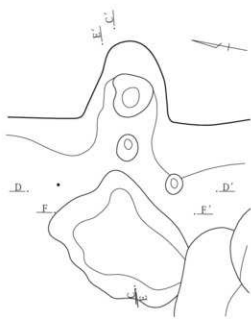
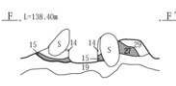
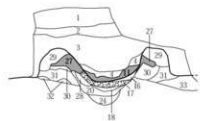
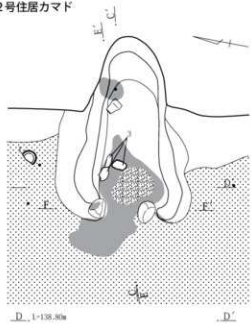


第87図 2号住居



第88図 2号住居掘方と出土遺物

2号住居カマド



2号住居カマドC-C'~F-F'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~5mm)2%, As-C粒(φ1~3mm)3%, にぶい黄褐色土(10YR5/5)ブロック状に含む
2. にぶい黄褐色土(11YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)1%, As-C粒(φ1~3mm), 焼土粒(φ1~8mm)2%含む
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~8mm), 焼土粒(φ1~4mm)1%, As-C粒(φ1~7mm)2%含む
4. にぶい黄褐色土(10YR6/4) カマド袖土の崩落土, 黒褐色土(10YR3/1)1%含む
5. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 明黄褐色土(10YR6/6)20%含む
6. 黄褐色土(2.5Y5/3) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~4mm)1%, As-C粒(φ1mm)極少量含む
7. にぶい黄色土(2.5Y6/4) As-C粒(φ1~2mm)1%含む
8. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 焼土30%含む
9. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土10%含む
10. 灰黄色土(2.5Y6/2) 焼土5%含む
11. 焼土中心層 焼土90%, 壁・天井からの崩落によるもの
12. 焼土中心層 80%含む
13. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土30%含む
14. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまりやや弱い
15. 焼土中心層
16. 黒褐色土(10YR5/6) 炭化物・炭の混じる層
17. 灰中心層
18. 黒褐色土(10YR3/1) 炭化物中心層, 焼土粒(φ1~5mm)5%含む
19. 黄褐色土(2.5Y5/3) 焼土粒(φ1~5mm)2%含む
20. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1~2mm)10%含む
21. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C粒(φ1~2mm)3%, 焼土粒(φ1~2mm), 炭化物粒(φ1~2mm)1%含む
22. 黒褐色土(10YR3/1) 炭化物中心, 焼土粒(φ1mm)極少量含む
23. 灰黄褐色土(10YR4/2) 炭化物・焼土5%含む
24. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 焼土粒(φ1~5mm)2%, 炭化物極少量含む
25. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒(φ1~2mm), 炭化物粒(φ1~2mm)1%含む
26. 黄褐色土(10YR5/3) 炭化物粒(φ1~2mm)極少量含む
27. 焼土中心層
28. にぶい黄褐色土(10YR5/4) しまり弱い
29. にぶい黄色土(2.5Y6/4) As-C粒(φ1~2mm)1%含む, しまり強い
30. 黄褐色土(2.5Y5/3) 焼土粒(φ1mm)1%含む, しまりやや強い, As-C粒(φ1~2mm)1%含む
31. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm), As-C粒(φ1~2mm)1%含む
32. にぶい黄色土(2.5Y6/3)
33. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 焼土粒(φ1~3mm)1%, As-C粒(φ1~2mm)極少量含む

第89図 2号住居カマド

器環(3)、土師器表(7)、カマドフク土から須恵器壺(6)が出土した。燃烧部の奥側から煙道部にかけては壁外に43cmほど延びる。

貯蔵穴 南東角より検出、規模は径0.88×0.80m、深さ0.32mを測る。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。床面の広い範囲で硬化面が確認された。カマド～中央～西辺にかけて粘土塊が検出され

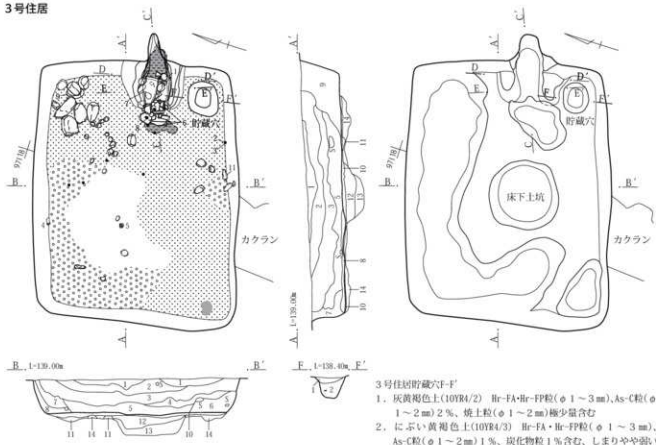
た。炭化物が南辺から2点出土した。

掘方 床面まで3～22cmほど埋め戻されている。全体に凹凸のある掘方である。床下土坑(長軸1.46m×短軸1.37m×深さ0.22m)が検出された。

埋没状態 土層断面の観察では壁際の三角堆積、中央部の流れ込みなどが確認されることから自然堆積による埋没と見られる。

遺物 土師器6点、須恵器1点、紡輪1点を図示した。土師器環(1)はカマド南側床面30cm上から、土師器環

3号住居

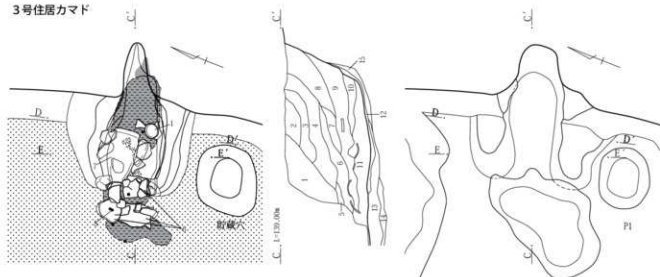


3号住居A-A'・B-B'

1. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA粒(φ0.5～3cm)3%、As-C粒(φ1～2mm)、炭化物粒(φ1mm)1%含む
2. 暗褐色土(10YR3/3) Hr-FA粒(φ5mm)3%、As-C粒(φ1～2mm)、焼土粒(φ1mm)1%含む
3. 暗褐色土(10YR3/3) Hr-FA粒(φ5mm)3%、As-C粒(φ1～2mm)・焼土粒(φ5mm)・炭化物粒(φ1～2mm)、にぶい黄褐色土(10YR4/3)(φ0.5～3cm大)1%、1層のAs-C粒混じりの黒褐色土(φ3～10cm)ブロック状に5%含む
4. 暗褐色土(10YR3/4) Hr-FA粒(φ5mm)・As-C粒(φ1～2mm)・焼土粒(φ1mm)・炭化物粒(φ1～2mm)、にぶい黄褐色土(10YR4/3)(φ2～3cm大)1%、As-C粒混土ブロック(φ3～5cm)3%含む
5. 暗褐色土(10YR3/3) にぶい黄褐色土(10YR4/3)(φ2～3cm大)、As-C粒(φ1mm)1%含む、しまりあり
6. 暗褐色土(10YR3/3) にぶい黄褐色土(10YR4/3)(φ3cm大)3%、As-C粒(φ1mm)、焼土粒(φ1mm)1%含む
7. 暗褐色土(10YR3/4) にぶい黄褐色土(10YR4/3)(φ1～5cm)、As-C粒(φ1mm)1%、焼土粒(φ1mm)1%含む
8. 暗褐色土(10YR3/4) 地山、粘性あり
9. 灰黄褐色土(10YR4/2) 黄褐色土をブロック状に含む
10. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1～2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む、炭化物粒(φ2～5mm)極少量含む
11. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C粒(φ1～2mm)極少量含む
12. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1mm)、As-C粒(φ1～2mm)、炭化物粒・焼土粒(φ1～2mm)極少量含む
13. 黒褐色土(10YR3/2) As-C粒(φ1～2mm)1%含む、やや粘性あり
14. にぶい黄褐色土(10YR5/3)

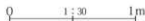
第90図 3号住居

3号住居カマド

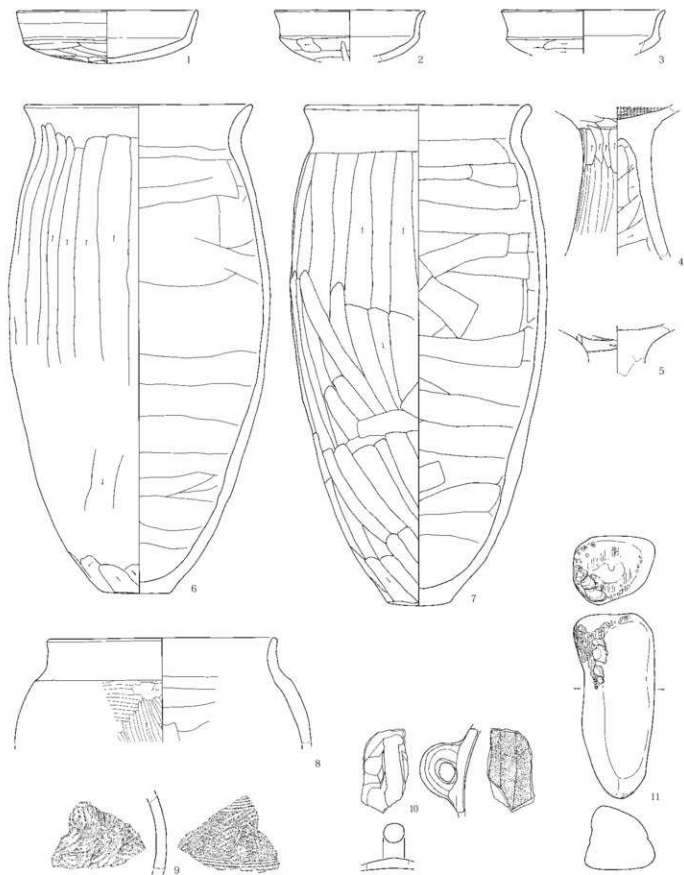


3号住居カマドC-C'~E-E'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~8mm)1%、As-C粒(φ1~2mm)2%含む
2. にぶい黄褐色土(10YR5/4) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)1%、As-C粒(φ1~2mm)2%含む
3. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 明黄褐色土(10YR5/6)40%含む、3層の下部に焼土化している部分があり、天井が崩落したものと考えられる
4. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)極少量、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
5. 黒褐色土(10YR3/1) 焼土粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
6. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 明黄褐色土(10YR5/6)10%、焼土5%含む
7. 灰黄褐色土(10YR4/2) にぶい黄褐色土(10YR5/4)ブロック状に含む、焼土粒(φ1~3mm)2%含む、しまりやや弱い
8. にぶい黄褐色土(10YR5/4) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)極少量、焼土粒(φ1~5mm)2%含む
9. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土粒(φ1~2mm)下層に10%含む、しまりやや弱い
10. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土30%含む
11. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり弱い、焼土60%含む
12. 黒褐色土(10YR3/1) 灰・炭化物中心層
13. 灰黄褐色土(10YR4/2) 炭化物粒(φ1~2mm)極少量含む
14. にぶい黄褐色土(10YR4/2) 地山土がブロック状に含まれる
15. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1~2mm)極少量含む
16. にぶい黄色土(2.5Y6/4) As-C粒(φ1~2mm)極少量含む
17. 褐色土(10YR4/1) As-C粒(φ1mm)1%含む
18. 焼土中心層 焼土80%
19. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
20. にぶい黄褐色土(10YR5/3) As-C粒(φ1~2mm)極少量含む
21. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
22. にぶい黄色土(2.5Y6/4) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)、焼土粒(φ1mm)、炭化物粒(φ1~2mm)1%含む
23. 灰黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1mm)、As-C粒(φ1mm)、焼土粒(φ1mm)極少量含む
24. 焼土中心のブロック
25. 灰黄褐色土(10YR4/2) 黄褐色土ブロック状に含む、地山土に近位した層



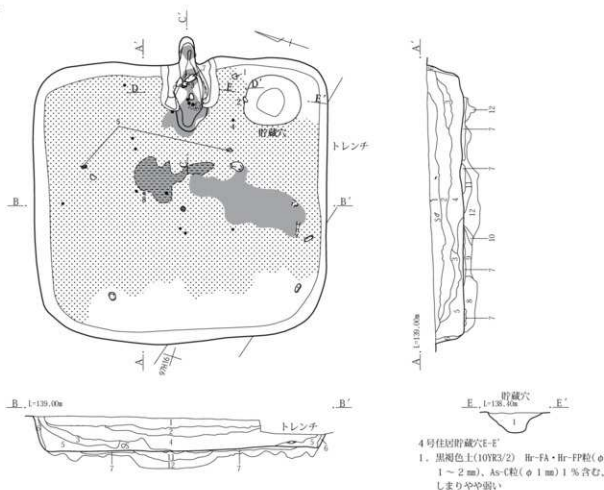
第91図 3号住居カマド



0 1:3 10cm

第92図 3号住居出土遺物

4号住居

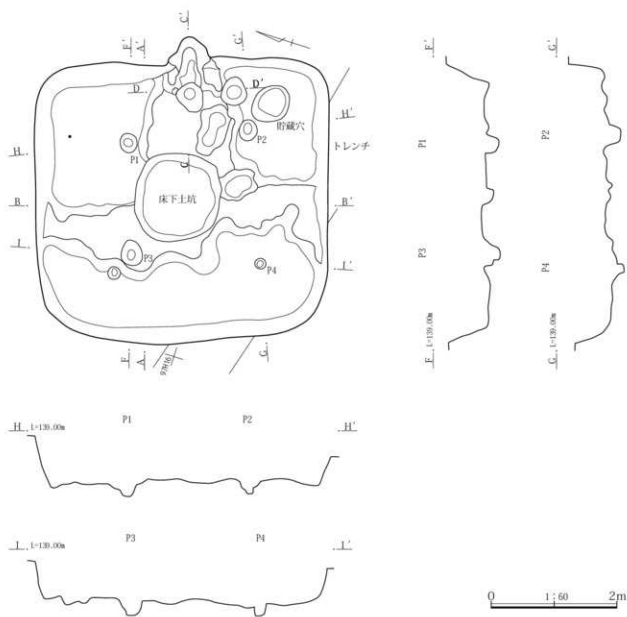


4号住居A-A'・B-B'

1. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA粒(φ0.5~1cm)・As-C粒(φ1~2mm)・焼土粒(φ1~2mm)1%、にぶい黄褐色ブロック(10YR4/2)(φ3~5cm大)1%含む
2. 暗褐色土(10YR3/3) As-C粒(φ1~2mm)、にぶい黄褐色土ブロック(10YR4/3)(φ3~5cm大)、1層のAs-C粒混じりの黒褐色土(φ3~5cm大)ブロック状に1%含む
3. 黒褐色土(10YR2/2) As-C粒(φ1~2mm)3%含む
4. 暗褐色土(10YR3/3) As-C粒(φ1~2mm)3%、焼土粒(φ1~2mm)1%含む
5. 暗褐色土(10YR3/4) As-C粒(φ1~2mm)・Hr-FA粒(φ0.5~3cm)・焼土粒(φ1~2mm)1%、にぶい黄褐色土ブロック(10YR4/3)(φ3cm大)1%含む
6. 暗褐色土(10YR3/4) 地山、粘性あり
7. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1~3mm)、炭化物粒(φ1~2mm)1%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~10mm)、As-C粒(φ1~2mm)2%含む
8. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~2mm)2%含む、しまりやや弱い
9. にぶい黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%、黄褐色土(2.5Y5/3)ブロック状に含む
10. にぶい黄褐色土(10YR6/4) ブロック状に含む
11. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む、褐色土(10YR4/1)、黄褐色土(10YR5/3)ブロック状に含む
12. にぶい黄褐色土(10YR4/1) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~6mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む、褐色土(10YR4/1)中心で、黄褐色土(2.5Y5/4)20%含む(地山)

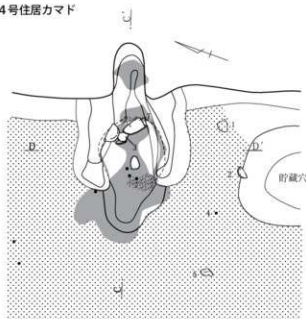
0 1:60 2m

第93図 4号住居

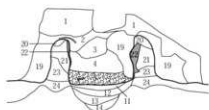


第94図 4号住居掘方

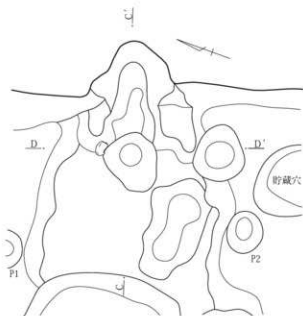
4号住居カマド



D., 1:130.0m



D'



D.,

D'

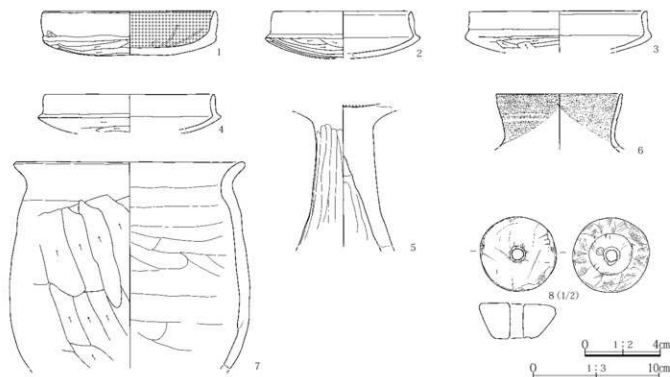


4号住居跡カマドC-C'・D-D'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~4mm)2%、にぶい黄褐色土(10YR5/4)ブロック状に含み、焼土5%含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)・焼土粒(φ1~8mm)1%含む、カマド崩落土、明黄褐色土(10YR6/6)20%含む
3. にぶい黄褐色土(10YR5/4) やや粘性あり、天井の上か袖土の一部が落下したもので、焼土粒(φ1mm)極少量含む
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)極少量、焼土粒(φ1~2mm)3%含む
5. 灰黄褐色土(10YR5/2) 灰中心層80%、焼土粒(φ1~10mm)5%含む、にぶい黄褐色土(10YR5/4)やや粘性あり、袖土の崩落したものか
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土5%含む
7. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 焼土5%含む
8. 焼土中心層
9. にぶい黄色土(2.5Y6/4) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~5mm)・As-C粒(φ1mm)1%含む
10. 焼土中心層 焼土70%含む
11. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 焼土・焼土粒(φ1~3mm)5%、灰、炭化物10%含む
12. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1~2mm)1%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~2mm)極少量含む
13. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)極少量含む
14. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1mm)極少量含む
15. 焼土中心層 焼土80%含む
16. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土粒(φ1~2mm)3%、炭化物2%含む
17. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 焼土粒(φ1mm)1%含む
18. 焼土中心層 煙道の壁が熱により焼土化したもの
19. にぶい黄褐色土(10YR6/4) カマド崩落土を40%含む
20. にぶい黄色土(2.5Y6/4) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、焼土粒(φ1~3mm)2%含む、カマド袖材
21. 黄褐色土(10YR5/3) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)2%含む
22. 焼土中心層 (90%)
23. 暗灰黄色土(2.5Y5/3) 黄褐色土(10YR5/3)ブロック状に含む
24. 黄褐色土(2.5Y5/3) 黒褐色土(10YR3/2)ブロック状に含む

0 1:30 1m

第95図 4号住居カマド



第96図 4号住居出土遺物

(2)は南東角床面直上から、土師器環(4)はカマド南東側床面15cm上から、土師器高坏(5)は住居中央と北辺やや東付近の床面直上から、紡輪(8)は住居中央やや北床面2cm上からの出土である。未掲載遺物は、土師器264点、敲石1点である。

時期 共存する土師器環(3)や土師器甕(7)などの出土遺物から、6世紀後半と考えられる。

5号住居(第97・98図、PL.34・65・100)

位置 97-E-14、97-F-13・14

重複 1号道と重複する。新旧関係は、本遺構の方が古い。

形状 正方形か。東辺は1号道に切られているため不明。

規模 長軸5.10m 短軸4.77m 残存深度0.47m

主軸方位 N-19°-W **面積** 17.87㎡

カマド 調査範囲内では、確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 主柱穴は、深さや位置関係からP1・P2・P3である。南東角の柱穴については、カクランの為確認できなかった。柱穴の規模(直径×深さ)は、P1:61×26cm P2:57×23cm・P3:53×43cmである。

周溝 確認されなかった。

床面 ほほ平坦である。床面の広い範囲で硬化面が確認された。

掘方 床面まで2~21cmほど埋め戻されている。中央は平坦で、周囲に浅い掘込みが見られる。

埋没状態 土層断面の観察では壁際の三角堆積、中央部の流れ込みなどが確認されることから自然堆積による埋没と見られる。

遺物 土師器2点、須恵器1点、敲石1点、磨石1点を図示した。土師器環(1)はフク土から、須恵器横瓶(2)は住居中央付近床面19cm上から、土師器甕(3)は床面直上から、敲石(4)は北辺やや東床面22cm上から、磨石(5)は北西角床面5cm上からの出土である。未掲載遺物は、土師器144点、須恵器3点、敲石1点である。

時期 共存する土師器環(1)や土師器甕(3)などの出土遺物から、6世紀後半と考えられる。

6号住居(第99~102図、PL.34・35・65・100)

位置 97-H-1-14・15

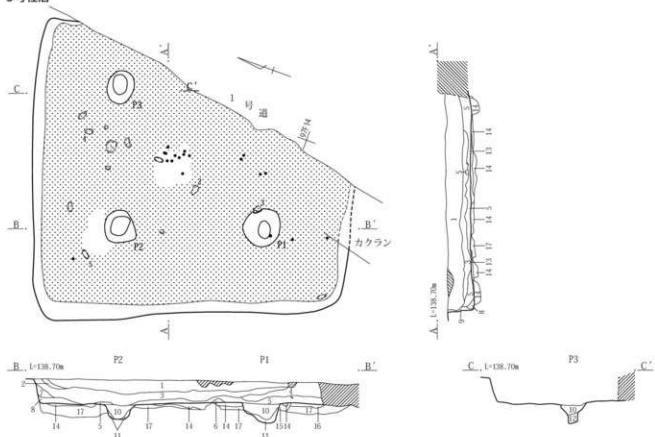
重複 なし。

形状 正方形

規模 長軸5.26m 短軸5.25m 残存深度0.69m

主軸方位 N-100°-E **面積** 26.66㎡

5号住居

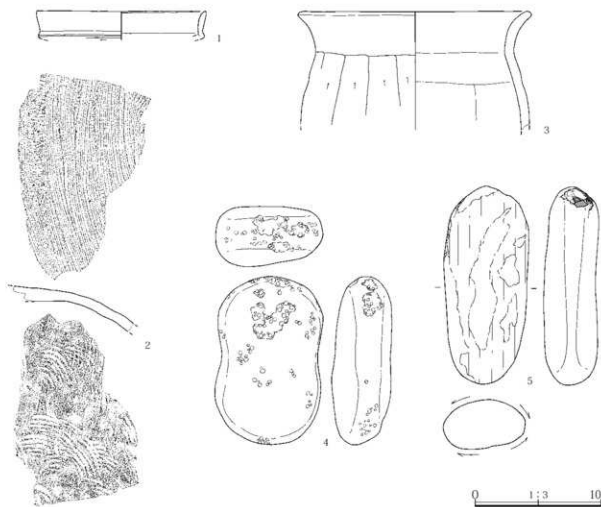
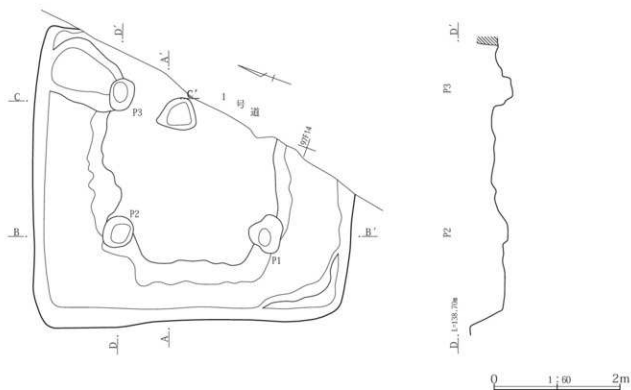


5号住居A'-A''-C'-C''

1. 灰黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~5mm) 1%, 小門礫(φ 1~10mm)極少量, As-C粒(φ 1~2mm) 1%含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) 3層よりやや黒味の強い土, As-C粒(φ 1~2mm) 1%含む
3. 灰黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~4mm)・As-C粒(φ 1~2mm) 1%含む, 黒褐色土(10YR3/2) 上部及びブロック状に含む
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~2mm)極少量, As-C粒(φ 1~2mm) 1%含む
5. 灰黄褐色土(10YR4/2) にふい黄褐色土(10YR5/4) 5%, Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~2mm), As-C粒(φ 1~2mm) 1%含む
6. にふい黄褐色土(10YR5/4) 地山上中心層
7. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~2mm), As-C粒(φ 1~2mm) 1%, 黒褐色土(10YR3/2) ブロック状に2%含む
8. にふい黄褐色土(10YR4/3) 壁の崩落土20%含む
9. にふい黄褐色土(10YR5/4) 壁の崩落土
10. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物粒(φ 1~2mm)極少量, Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~5mm), As-C粒(φ 1~2mm) 1%含む, しまりやや強い
11. 灰黄褐色土(10YR4/2) にふい黄褐色土(10YR4/2) 20%含む
12. 灰黄色土(2.5Y6/3) しまりやや弱い, 地山にふい黄色土(2.5Y6/3)と近似する層, 柱礎埋った後に地山が入り込んだと思われる
13. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~3mm), As-C粒(φ 1mm) 2%含む, しまり非常に良い
14. 灰黄褐色土(10YR4/2) 黒褐色土(10YR3/1) にふい黄褐色土(10YR5/4) ブロック状に, Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~2mm), As-C粒(φ 1~2mm) 1%含む
15. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~2mm), As-C粒(φ 1mm)極少量含む
16. にふい黄褐色土(10YR4/3) Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~3mm), As-C粒(φ 1mm) 1%含む
17. 灰黄褐色土(10YR4/2) にふい黄褐色土(10YR5/4), 黒褐色土(10YR3/1) ブロック状に, Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~2mm), As-C粒(φ 1mm) 1%含む

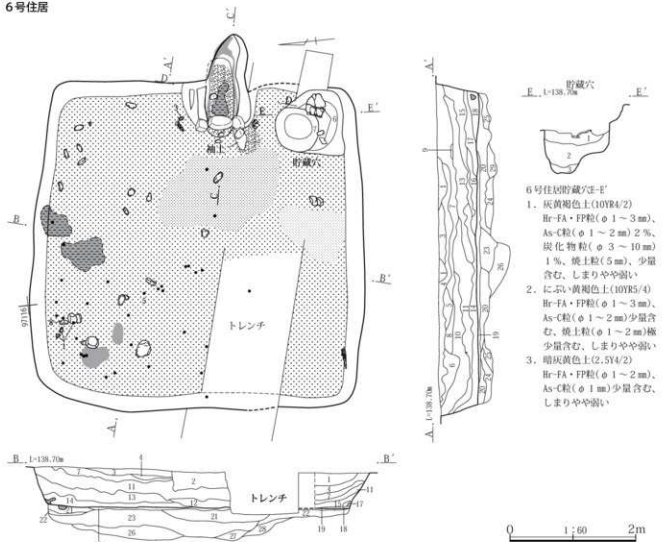
0 1:60 2m

第97図 5号住居



第98図 5号住居掘方と出土遺物

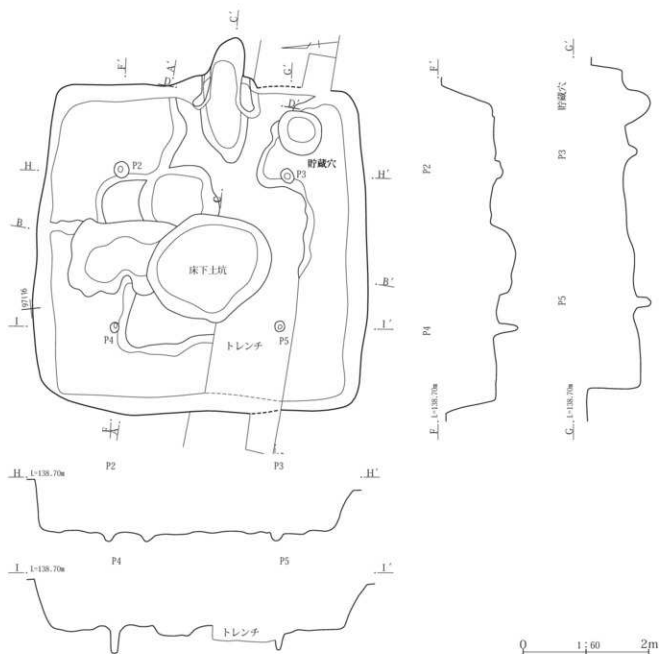
6号住居



6号住居 A-A'・B-B'

1. 暗褐色土(10YR3/3) As-C粒(φ1~2mm)・Hr-FA粒(φ1cm)1%含む
2. 黒褐色土(10YR3/2) にぶい黄褐色土(10YR5/4) (φ5cm大)5%、Hr-FA粒(φ0.5~1cm)1%含む
3. 暗褐色土(10YR3/4) As-C粒(φ1~2mm)2%、Hr-FA粒(φ5mm)1%含む
4. 暗褐色土(10YR3/4) As-C粒(φ1~2mm)・Hr-FA粒(φ5mm)1%含む、にぶい黄褐色土(10YR5/4) (φ2~3mm大)をブロック状に含む
5. 黒褐色土(10YR3/2) As-C粒(φ1~2mm)1%、Hr-FA粒(φ5~20mm)2%含む
6. 黒褐色土(10YR3/2) As-C粒(φ1~2mm)・Hr-FA粒(φ5mm)極少量含む
7. 黒褐色土(10YR2/2) As-C粒(φ1~2mm)・Hr-FA粒(φ5~8mm)、焼土粒(φ1cm)1%、にぶい黄褐色土(10YR5/4) (φ3cm大)ブロック状に含む
8. 暗褐色土 As-C粒(φ1~2mm)・Hr-FA粒(φ5mm)1%、焼土粒(φ1cm)極少量、黒褐色土(10YR2/2)ブロック状に2%含む
9. 暗褐色土(10YR3/4) 焼土塊(赤褐色土5YR4/8)を50%以上、にぶい黄褐色土(10YR5/4) (φ2~3cm大)25%含む
10. 暗褐色土(10YR3/4) Hr-FA粒(φ3~50mm)・As-C粒(φ1~2mm)2%、焼土粒(φ5~10mm)1%、にぶい黄褐色土(10YR5/4) (φ3~5cm大)30%含む
11. 暗褐色土(10YR3/3) As-C粒(φ1~2mm)2%、焼土粒(φ1cm)、Hr-FA粒(φ5~10mm)極少量、炭化物粒(φ1~10mm)1%、にぶい黄褐色土(10YR5/4) (φ3cm大)ブロック状に含む
12. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物粒(φ1cm)・焼土粒(φ1mm)、にぶい黄褐色土(10YR5/4) (φ3~5cm大)1%含む
13. 暗褐色土(10YR3/4) As-C粒(φ5~10mm)3%、炭化物粒(φ1mm)、焼土粒(φ1mm)1%、Hr-FA粒(φ5~10mm)極少量含む
14. 暗褐色土(10YR3/4) As-C粒(φ1~10mm)・炭化物粒(φ1mm)1%、にぶい黄褐色土(10YR5/4) (φ3~5cm大)10%含む
15. 暗褐色土(10YR3/4) Hr-FA粒(φ5~10mm)極少量含む
16. 暗褐色土(10YR3/4) 黒褐色土(10YR2/2)ブロック状に30%、焼土粒(φ1mm)1%含む、にぶい黄褐色土(10YR5/4) (φ3~5cm大)をブロック状に20%含む
17. 黒褐色土(10YR2/3) As-C粒(φ1mm)極少量、にぶい黄褐色土(10YR5/4) (φ3cm大)をブロック状に5%、Hr-FA粒(φ5mm)極少量含む
18. 暗褐色土(2.5Y3/2) 焼土粒(φ1cm)・炭化物粒(φ1cm)1%、As-C粒(φ1mm)極少量含む
19. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) しまり強い硬化石、黄褐色土(2.5Y5/3)ブロック状に含む、Hr-FA・Hr-FF粒(φ1~5mm)、As-C粒(φ1~3mm)3%、炭化物・焼土1%含む
20. 黄褐色土(2.5Y5/3) Hr-FA・Hr-FF粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)極少量含む
21. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) Hr-FA・Hr-FF粒(φ1~5mm)、As-C粒(φ1~4mm)2%、炭化物・焼土を極少量含む
22. 黄褐色土(2.5Y5/3) Hr-FA・Hr-FF粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
23. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C粒(φ1~2mm)1%、黄褐色土(10YR5/4)ブロック状に5%含む
24. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FF粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)2%含む
25. 黄褐色土(2.5Y5/3) As-C粒(φ1mm)1%含む
26. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C粒(φ1~2mm)1%、黄褐色土(10YR5/4)ブロック状に10%含む
27. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C粒(φ1mm)1%含む
28. 黄褐色土(2.5Y5/3) As-C粒(φ1~2mm)2%含む
29. 黄褐色土(2.5Y5/3)

第99図 6号住居



第100図 6号住居掘方

カマド 東辺の中央に造られている。規模は、全長1.50m、幅0.43m、燃焼部0.46mを測る。燃焼部の奥側は地山を掘込み、手前側は袖を構築している。両袖には磔を埋め込んで天井部の磔を支える補強に使用している。燃焼部の奥側から煙道部にかけては壁外に78cmほど延びる。

貯蔵穴 南東角より検出。規模は径1.08×1.02m、深さ0.50mを測る。土師器甕(6)と磨石(7)が出土した。

柱穴 主柱穴は、深さや位置関係からP2・P3・P4・P5である。床面では確認できず、掘方で確認した。

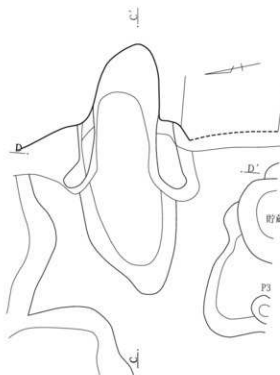
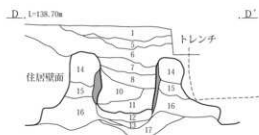
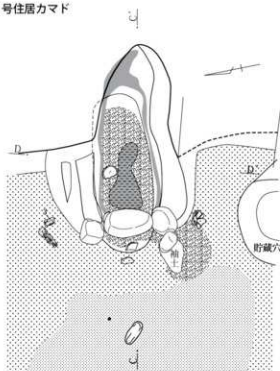
柱穴の規模(直径×深さ)は、P2:26×31cm・P3:24×30cm・P4:17×58cm・P5:16×51cmである。

周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。床面の広い範囲で硬化面が確認され、カマドの前や南辺中央付近は強硬化面となっていた。北辺中央から北西角にかけて焼土や炭化物が検出された。

掘方 床面まで8～52cmほど埋戻されている。全体に凹凸がある掘方であり、西側半分には浅い落ち込みが見られる。

6号住居カマド

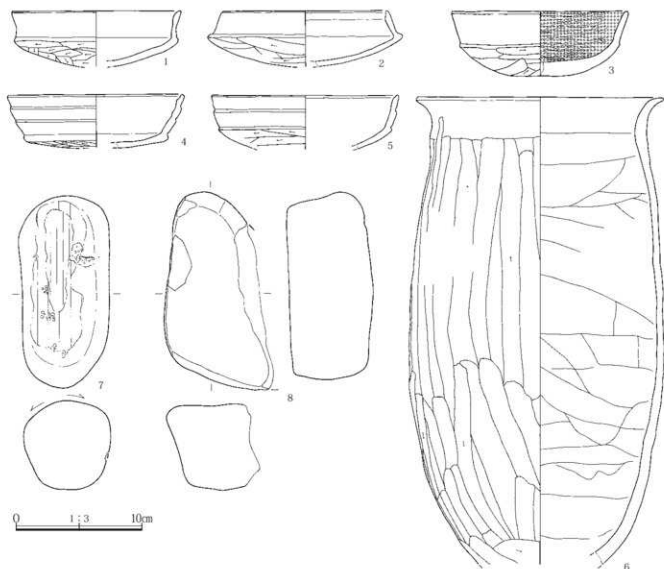


6号住居カマドC-C'・D-D'

1. 褐色土(10YR4/4) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~8mm)、As-C粒(φ1~2mm)2%、焼土粒(φ5mm)、炭化物粒(φ5mm)1%含む
2. 暗褐色土(10YR3/4) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~8mm)、焼土粒(φ1~2mm)1%、As-C粒(φ1~2mm)2%含む、木の根の跡
3. 暗褐色土(10YR3/4) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~8mm)極少量、As-C粒(φ1~2mm)1%含む、にぶい黄褐色土(10YR5/4)ブロック1%含む
4. 暗褐色土(10YR3/4) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~8mm)極少量、As-C粒(φ1~2mm)、にぶい黄褐色土(10YR5/4)ブロック1%含む、木の根の跡
5. 褐色土(10YR4/4) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~8mm)極少量、As-C粒(φ1~2mm)1%、にぶい黄褐色土(10YR5/4)ブロック10%含む、焼土粒(φ5mm)1%、炭化物粒(φ5mm)1%含む
6. 暗褐色土(10YR3/4) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~8mm)・As-C粒(φ1~2mm)1%、にぶい黄褐色土(10YR5/4)ブロック、焼土粒(φ1cm)、炭化物ブロック(φ3~5cm)5%含む
7. にぶい黄褐色土(10YR5/3) しまりやや弱い、焼土粒(φ1cm)5%含む、土器含む
8. にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまりやや弱い、焼土ブロック(φ3cm)3%含む
9. 暗褐色土(10YR3/4) 焼土粒(φ5mm)2%含む
10. にぶい黄褐色土(10YR5/3) しまり弱い、焼土60%含む
11. にぶい黄褐色土(10YR5/3) しまり弱い、焼土粒(φ1cm)3%、にぶい黄褐色土(10YR5/4)ブロック2%含む
12. 暗灰色土(10YR3/1) 灰中心部、しまり弱い
13. 暗灰色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)2%、焼土粒(φ1~2cm)1%含む
14. 黄褐色土(2.5Y5/3) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~5mm)、As-C粒(φ1~2mm)2%含む
15. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1mm)、As-C粒(φ1mm)2%含む
16. 黄褐色土(10YR5/3) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)2%含む
17. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む

0 1:30 1m

第101図 6号住居カマド



第102図 6号住居出土遺物

埋没状態 土層断面の観察では壁際の三角堆積、中央部の流れ込みなどが確認されることから自然堆積による埋没と見られる。

遺物 土師器6点、磨石1点、石皿1点を図示した。土師器環(1)は北西角床面16cm上から、土師器環(3)はカマド北側床面直上から、土師器環(5)は住居中央やや北西床面11cm上から、土師器環(2・4)はフク土から、石皿(8)は北西角床面22cm上からの出土である。未掲載遺物は、土師器302点、須恵器13点、敲石2点、カマド袖石に転用された石皿?1点である。

時期 共伴する土師器環(3)や土師器甕(6)などの出土遺物から、6世紀後半と考えられる。

7号住居(第103・104図、PL.36)

位置 97-G-9・10、97-H-10

重複 なし。

形状 長方形

規模 長軸3.67m 短軸2.86m 残存深度0.07m

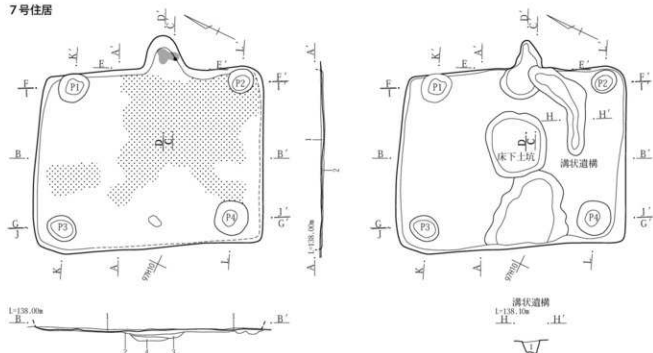
主軸方位 N-63°-E **面積** 10.35㎡

カマド 東辺の中央に造られている。規模は、全長0.64m、幅0.58m、燃烧部0.60mを測る。燃烧部の奥側は地山を掘込んでいるが、検出時点では袖の有無は確認できなかった。燃烧部の奥側から煙道部にかけては壁外に55cmほど延びる。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 主柱穴は、深さや位置関係からP1・P2・P3・P4である。その位置は他の竪穴住居と異なり、四隅に

7号住居



7号住居A'-B'-F'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C粒(φ1~2mm)1%含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~4mm)、As-C粒(φ1~2mm)2%含む、しまり良好
3. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物粒(φ1~3mm)極少量、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~3mm)2%含む
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む

7号住居溝状遺構H-H'

1. 灰黄色土(10YR4/2) 灰黄褐色土(10YR5/2) (地山)ブロック状に10%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)含む、しまりやや弱い

7号住居P1・P2-F'

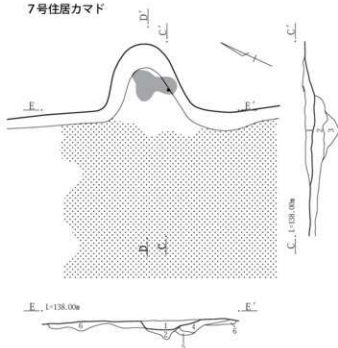
1. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1mm)、As-C粒(φ1mm)極少量含む
2. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 灰黄色土(2.5Y6/2)ブロック状に含む、壁の地山と近似するがしまりやや弱い、理上と考えられる
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり強い、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)極少量含む

7号住居P3・P4-C'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)極少量含む
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) 暗灰黄色土(2.5YR5/2)ブロック状に含む

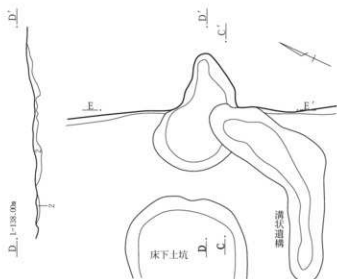


7号住居カマド



7号住居跡カマド

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm) 1%、炭化物極少量含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1mm)、炭化物粒(φ1~2mm)、にぶい黄褐色土(10Y5/4) 1%含む
3. 灰黄褐色土(10YR5/2) 灰黄褐色土(10YR5/2)ブロック状に20%、As-C粒(φ1~2mm)極少量含む(溝状遺構の覆土)



4. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm) 2%含む、しまりあり
5. 灰黄褐色土(10YR5/2) しまりやや強い
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm) 1%含む

0 1:30 1m

第104図 7号住居カマド

配置された状態であった。柱穴の規模(直径×深さ)は、P 1:42×34cm・P 2:52×32cm・P 3:48×21cm・P 4:53×32cmである。

周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。辛うじて床面中央から南東側と北辺中央付近で硬化面が確認された。

掘方 床面まで1~8cmほど埋め戻されている。ほぼ平坦であるが、中央から西辺にかけて浅い落ち込みが見られる。床下土坑(長軸1.03m×短軸0.94m×深さ0.12m)と床下に溝状遺構(幅0.27~0.43×残存深度0.12~0.26m×調査長1.75m)が検出された。

埋没状態 検出時点で床面が若干残っている程度であり、詳細は不明である。

遺物 未掲載遺物は、床面直上から出土した平らな礫1点である。

時期 時期の分かる遺物はないが、周辺の住居と同様に6世紀後半と考えられる。

8号住居(第105~107図、PL.37・38・101)

位置 97-J-12、97-K-12・13

重複 なし。

形状 長方形

規模 長軸4.55m 短軸3.85m 残存深度0.52m

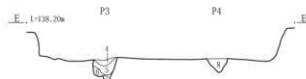
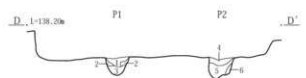
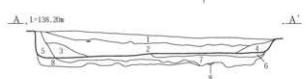
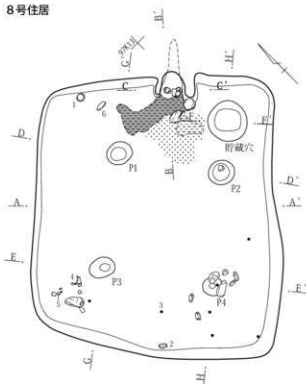
主軸方位 N-45°-E **面積** 16.22㎡

カマド 東辺の中央に造られている。規模は、全長1.05m、幅0.37m、燃焼部0.35mを測る。燃焼部の奥側は地山を掘込み煙道を作り、手前側は袖を構築している。袖には角礫を補強に使用している。天井部は土層断面で崩落している状態が観察できる。燃焼部の奥側から煙道にかけては壁外に62cmほど延びる。

貯蔵穴 北東角より検出、規模は径0.65×0.63m、深さ0.41mを測る。

柱穴 主柱穴は、深さや位置関係からP 1・P 2・P 3・P 4である。柱穴の規模(直径×深さ)は、P 1:42×28cm・P 2:42×36cm・P 3:42×44cm・P 4:32×22cmである。

8号住居

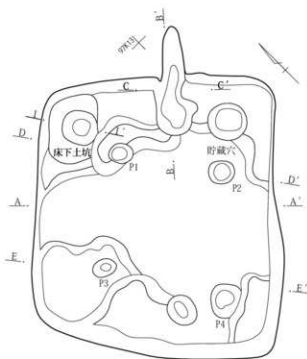


8号住居A-A'

1. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~8mm)2%, As-C粒(φ1~2mm)1%含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~5mm)3%, As-C粒(φ1~2mm)1%含む
3. 灰黄褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)1%含む
4. 黒褐色土(10YR3/2) にふい黄色土(2.5YR6/4)ブロック状に含む
5. 灰黄褐色土(10YR4/2) にふい黄色土(2.5Y6/4)ブロック状に含む
6. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒(φ1~3mm)1%, Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~2mm)2%含む
7. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
8. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) 黄褐色土(2.5Y5/4)ブロック状に含む

8号住居貯蔵穴F-F'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1mm)、焼土粒(φ1mm)極少量含む
2. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~2mm)極少量含む

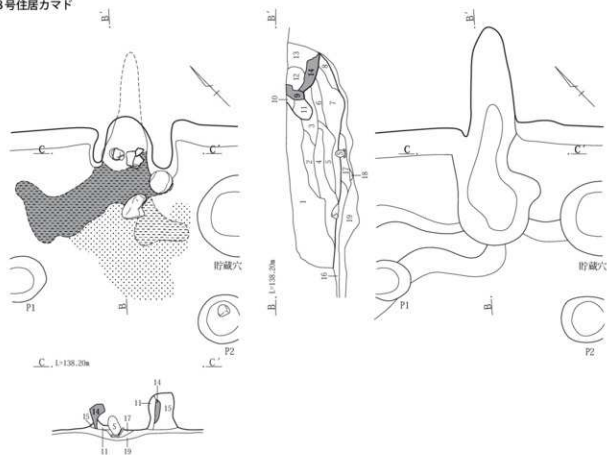


8号住居P1~P4 D-D'・E-E'

1. にふい黄褐色土(10YR5/3) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~2mm)極少量含む
2. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~2mm)極少量含む
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)極少量含む
4. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ2mm)極少量含む
5. 褐色土(10YR4/1) しまりやや強い
6. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 粘土粒(φ4mm)極少量含む
7. 黒褐色土(10YR3/2)
8. 黄褐色土(2.5Y5/3)

0 1:60 2m

8号住居カマド

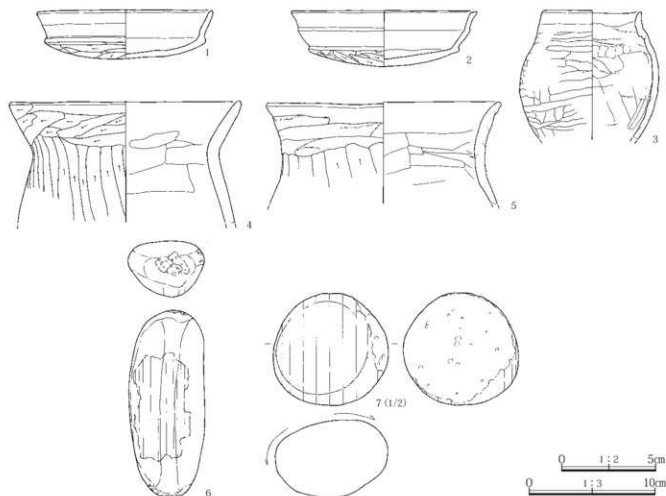


8号住居カマドB-B'・C-C'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(ϕ 1~4mm) 2%、炭化物粒(ϕ 1~2mm) 1%、HR-FA・HR-FP粒(ϕ 1~15mm) 2%、As-C粒(ϕ 1~2mm) 1%含む
2. 褐灰色土(10YR4/1) 焼土粒(ϕ 1~3mm) 極少量、Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm)、As-C粒(ϕ 1mm) 1%含む
3. 灰黄色土(2.5Y6/2) 焼土を10%含む、天井崩落土
4. 褐灰色土(10YR4/1) 焼土粒(ϕ 1~2mm) 1%、Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm) 極少量含む
5. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(ϕ 1~2mm) 20%含む
6. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 焼土粒(ϕ 1~20mm) 20%含む
7. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 焼土粒(ϕ 1~3mm) 2%含む
8. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 焼土粒(ϕ 1~4mm) 3%含む
9. 焼土中心層 天井崩落土
10. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~3mm) 2%、As-C粒(ϕ 1mm) 1%含む
11. にぶい・橙色土(10YR6/4) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~3mm)、As-C粒(ϕ 1mm) 1%、焼土ブロック(ϕ 10mm) 30%含む
12. にぶい・橙色土(10YR6/4) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~3mm)、As-C粒(ϕ 1mm) 極少量、焼土ブロック(ϕ 10mm) 20%含む
13. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(ϕ 1~2mm) 2%含む
14. 焼土中心層 天井崩落土、暗灰黄色土(2.5Y5/2) 2%含む
15. にぶい・黄色土(2.5Y6/4) 焼土粒(ϕ 1~5mm) 2%含む
16. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(ϕ 1~2mm) 10%、炭化物粒(ϕ 1~2mm) 1%含む
17. にぶい・褐色土(7.5YR5/4) 焼土30%含む
18. 黄灰色土(2.5Y4/1)
19. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) にぶい・黄色土(2.5Y6/3) ブロック状に含む

0 1:30 1m

第106図 8号住居カマド



第107図 8号住居出土遺物

周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。カマド前で硬化面が確認された。

掘方 床面まで10～22cmほど埋め戻されている。ほぼ平坦であるが、四隅に浅い落ち込みが見られた。床下土坑(長軸1.09m×短軸0.76m×深さ0.27m)が検出された。

埋没状態 土層断面の観察では壁際の三角堆積、中央部の流れ込みなどが確認されることから自然堆積による埋没と見られる。

遺物 土師器5点、敲石1点、磨石1点を図示した。土師器環(1)は北角床面10cm上から、土師器環(2)は西辺中央床面35cm上から、土師器壺(3)は西辺中央床面25cm上から、土師器甕(4)は西角床面直上、土師器甕(5)は西角床面19cm上から、敲石(6)はカマド北側床上7cm上から、磨石(7)はフク土からの出土である。未掲載遺物は、土師器126点、敲石1点である。

時期 共存する土師器環(1・2)や土師器甕(4・5)な

どの出土遺物から、6世紀後半と考えられる。

9号住居(第108・109図, PL.38・39・65)

位置 97-G-6・7、97-II-7

重複 1号道と重複する。新旧関係は、本住居のほうが古い。

形状 方形か。東辺は1号道に切られているため不明。

規模 長軸(4.73m) 短軸(4.10m) 残存深度0.25m

主軸方位 N-39°-W **面積** (10.83㎡)

カマド 調査範囲内では確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

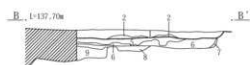
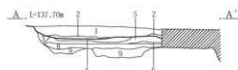
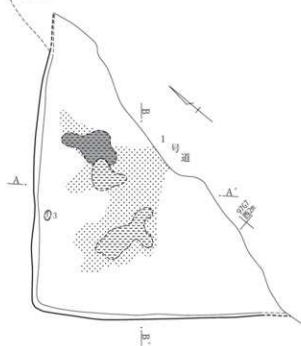
柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。中央より北西側で硬化面が確認された。中央やや北側から焼土や炭化物が検出された。

掘方 床面まで13～35cmほど埋め戻されている。全体に凹凸がある掘方である。床下土坑(長軸2.18m×短軸

9号住居

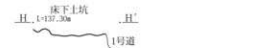
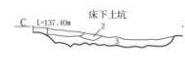
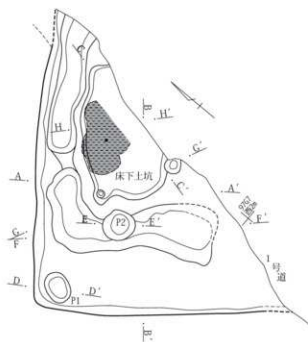


9号住居A-A'・B-B'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~5mm)、As-C粒(ϕ 1~3mm) 3%、焼土粒(ϕ 1~2mm)・炭化物1%含む
2. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物30%、焼土粒(ϕ 1~2mm)極少量、Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm)・As-C粒(ϕ 1~2mm) 1%含む
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm)・As-C粒(ϕ 1mm) 1%含む、硬溝か?
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(ϕ 1~2mm)極少量、炭化物2%含む
5. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(ϕ 1mm)、炭化物極少量含む
6. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 焼土粒(ϕ 1mm)、Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1mm)、As-C粒(ϕ 1mm)極少量含む
7. 灰黄色土(2.5Y6/2) シルト質土に近い土、地上土崩落層
8. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(ϕ 1~3mm)極少量、Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~5mm)、As-C粒(ϕ 1~2mm) 2%含む
9. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(ϕ 1~3mm)極少量、Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~3mm)、As-C粒(ϕ 1~5mm) 1%含む、しまりや弱い

9号住居床下土坑C-C'

1. 灰黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~3mm)、As-C粒(ϕ 1~2mm) 3%含む
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) 灰黄色土(2.5Y6/2)ブロック状に3%、Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm)、As-C粒(ϕ 1mm) 2%含む
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) 灰黄色土(2.5Y6/2)ブロック状に5%、Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm)、As-C粒(ϕ 1mm) 1%含む



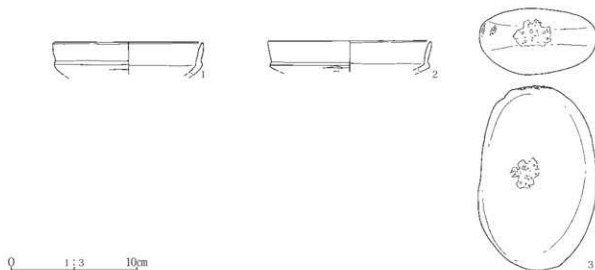
9号住居P1-D-D'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(ϕ 1mm)、As-C粒(ϕ 1mm)極少量含む
2. 灰黄色土(2.5Y6/2) 地山崩落土

9号住居路P2-E-E'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm) 1%、焼土粒(ϕ 1mm)極少量含む
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土粒(ϕ 1mm)極少量、Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm) 1%含む

0 1:60 2m



第109図 9号住居出土遺物

1.33m×深さ0.16m)が検出された。

埋没状態 上層がすでに削られており、埋没状態を詳しく観察することができなかつたため自然堆積なのか不明である。

遺物 土師器2点、敲石1点を図示した。土師器環(1・2)はブク土から、敲石(3)は住居北辺床面3cm上からの出土である。未掲載遺物は、土師器54点である。

時期 共存する土師器環(1・2)などの出土遺物から、6世紀後半と考えられる。

10号住居(第110～112図、PL.39・40・65・101)

位置 97-II・J-7、97-I-6・7

重複 なし。

形状 長方形

規模 長軸4.67m 短軸4.06m 残存深度0.27m

主軸方位 N-51°-E **面積** 18.50㎡

カマド 東辺のやや南東角寄りに造られている。規模は、全長0.67m、幅0.89m、燃焼部0.90mを測る。燃焼部の奥側は地山を掘込んでいる。燃焼部の奥側から煙道部にかけては壁外に50cmほど延びる。土師器甕(4)は貯蔵穴出土のものとカマド出土のものが接合した。

貯蔵穴 南東角より検出、規模は径0.75×0.70m、深さ0.30mを測る。

柱穴 主柱穴は、深さや位置関係からP1・P2・P3・P4である。柱穴の規模(直径×深さ)は、P1:41×55cm P2:42×56cm P3:42×61cm P4:38×52cm

である。

周溝 確認されなかつた。

床面 ほぼ平坦である。床面南側半分で硬化面が確認された。南辺中央に焼土塊を検出した。

掘方 床面まで9～28cmほど埋戻されている。全体にやや凹凸がある掘方である。北辺・南辺・西辺に浅い落ち込みが見られた。

埋没状態 土層断面の観察では周囲からの流れ込みによる埋没の可能性が確認できるが、層位の間に凹凸がみられることから確実な自然堆積による埋没とは断定できない。

遺物 土師器4点を図示した。土師器環(1)は住居内のカクランから、土師器環(2)はP3北側床面9cm上から、土師器環(3)は貯蔵穴と南辺中央付近床土4cm上からの出土である。未掲載遺物は、土師器146点、須恵器4点である。

時期 共存する土師器環(2・3)や土師器甕(4)などの出土遺物から、6世紀後半と考えられる。

11号住居(第113～116図、PL.40・41・101)

位置 97-0～Q-10・11

重複 なし。

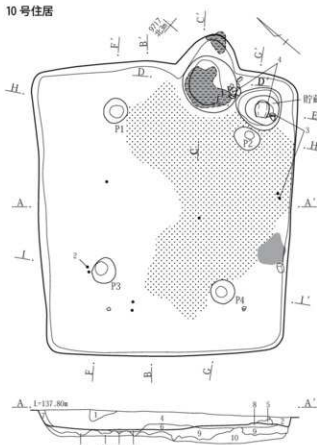
形状 正方形

規模 長軸5.96m 短軸5.87m 残存深度0.66m

主軸方位 N-50°-E **面積** 35.90㎡

カマド 東辺のやや南東角寄りに造られている。規模は、

10号住居



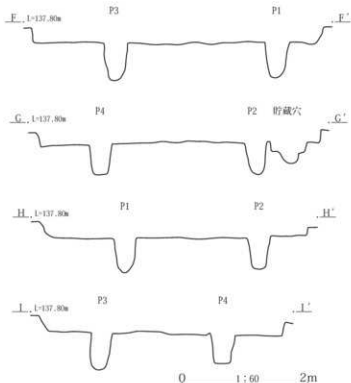
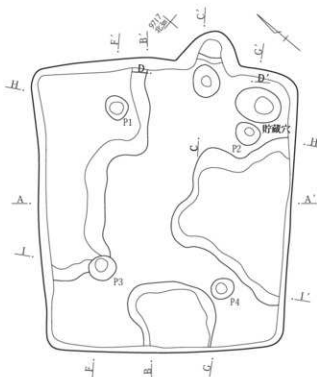
10号住居A'-B'-E'

1. 灰黄色土(2.5Y5/1) 攪乱層
2. 灰黄色土(10YR4/2) 新しい時期のカクランの可能性あり。Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
3. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)3%含む
4. 灰黄色土(10YR4/2) 俵土粒(φ1~10mm)極少量、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~5mm)、As-C粒(φ1~3mm)2%含む
5. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 焼土20%含む
6. 灰黄色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
7. にぶい黄褐色土(10YR4/3) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)極少量含む
8. 灰黄色土(10YR4/2) しまり非常に硬い、たたき掃めている土。Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)2%含む
9. 灰黄色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1~2mm)極少量、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)As-C粒(φ1~2mm)1%含む
10. にぶい黄褐色土(10YR6/4) 地山



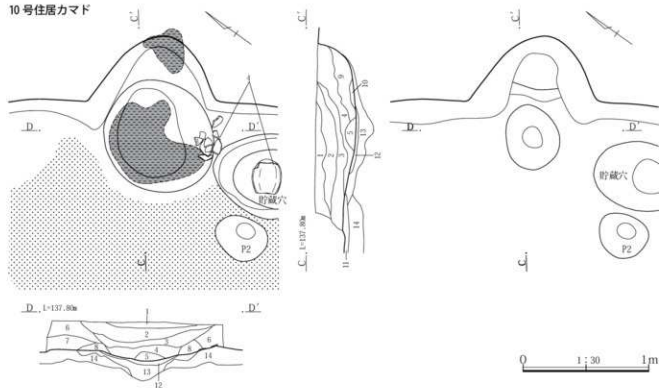
10号住居貯蔵穴E'-E'

1. 灰黄色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
2. 灰黄色土(10YR6/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1mm)、As-C粒(φ1mm)極少量含む
3. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む



第110号 10号住居

10号住居カマド



10号住居跡カマドC'-C'・D-D'

1. 灰黄色土(10YR5/3) 焼土粒(φ1~10mm)4%, Hr-FA・Hr-PP粒(φ1~5mm), As-C粒(φ1~2mm)2%含む
2. 灰黄色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1~10mm)10%, Hr-FA・Hr-PP粒(φ1~3mm), As-C粒(φ1~2mm)1%含む
3. 灰黄色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1~5mm)3%, Hr-FA・Hr-PP粒(φ1~2mm), As-C粒(φ1mm)2%含む
4. 灰黄色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1~5mm)20%含む
5. 黒褐色土(10YR3/1) 炭化物中心層80%
6. 灰黄色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-PP粒(φ1~5mm), As-C粒(φ1~2mm)2%, 焼土粒(φ1~3mm)1%含む
7. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-PP粒(φ1~3mm), As-C粒(φ1~2mm), 焼土粒(φ1~3mm)1%含む
8. 灰黄色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-PP粒(φ1~2mm), As-C粒(φ1~2mm)1%含む、しまりあり、袖と考えられる
9. 灰黄色土(10YR5/2) 焼土粒(φ1~20mm)20%, Hr-FA・Hr-PP粒(φ1~2mm), As-C粒(φ1mm)1%含む
10. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒(φ1~5mm)10%, As-C粒(φ1mm)1%含む
11. 灰黄色土(10YR4/2) しまり極めて良い(硬い床面を構成する層), Hr-FA・Hr-PP粒(φ1~4mm), As-C粒(φ1~3mm)3%含む
12. 灰黄色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1~2mm), Hr-FA・Hr-PP粒(φ1~4mm), As-C粒(φ1~3mm)2%含む、ややしまりあり
13. 灰黄色土(10YR4/2) 灰黄色土(10YR6/3)ブロック状に2%, Hr-FA・Hr-PP粒(φ1~5mm), As-C粒(φ1~2mm)1%含む
14. 灰黄色土(10YR5/2) 灰黄色土(10YR5/3)ブロック状に2%, Hr-FA・Hr-PP粒(φ1~2mm), As-C粒(φ1mm)1%含む

第111図 10号住居カマド

全長1.50m、幅0.40m、燃焼部0.43mを測る。燃焼部の奥側は地山を掘込み、手前側は袖を構築している。両袖には角礫を補強に使用している。天井部は土層断面で崩落している状態が観察できる。燃焼部の奥側から煙道部にかけては壁外に58cmほど延びる。

貯蔵穴 南東角より検出、規模は径0.93×0.88m、深さ0.86mを測る。

柱穴 主柱穴は、深さや位置関係からP1・P2・P3・P4である。柱穴の規模(直径×深さ)は、P1:40×49cm・P2:42×66cm・P3:49×50cm・P4:42×56cmである。また、古い主柱穴P5・P6・P7・P8も掘

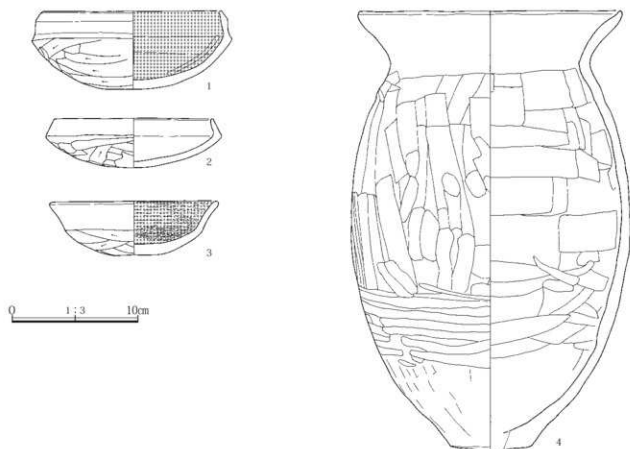
方から検出されている。柱穴の規模(直径×深さ)は、P5:43×54cm・P6:31×39cm・P7:37×54cm・P8:35×52cmである。

周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。床面の広い範囲で硬化面が確認された。また、南辺周辺には、焼土や炭化物が多く確認された。

掘方 床面まで8~24cmほど埋め戻されている。ほぼ平坦であるが、浅い落ち込みがいくつか見られた。

埋没状態 土層断面の観察では壁際の三角堆積、中央部の流れ込みなどが確認されることから自然堆積による埋



第112図 10号住居出土遺物

没と見られる。

遺物 土師器9点、須恵器2点、磨石1点を図示した。土師器環(5)は北西角床面2cm上から、土師器高杯(6)はP3とP4の中間地点よりやや南西の床面直上から土師器壺(9)は北西角床面8cm上から、土師器甕(10)はカマドと貯蔵穴の間床面5cm上から、土師器甕(11)は中央やや南東床面1cm上から、磨石(12)は貯蔵穴の底面直上からの出土である。その他の掲載遺物は、床面から高い位置で確認された。未掲載遺物は、土師器358点、須恵器4点、敲石3点である。

時期 共存する土師器環(5)や土師器高杯(6)や土師器甕(11)などの出土遺物から、6世紀後半と考えられる。

12号住居(第117・118図, PL.41・42・102)

位置 97-0-P-7

重複 なし。

形状 正方形

規模 長軸3.20m 短軸2.90m 残存深度0.34m

主軸方位 N-120°-E **面積** 85.81㎡

カマド 東辺のやや南東角寄りに造られている。規模は、全長0.55m、幅0.30m、燃焼部0.32mを測る。燃焼部の奥側は地山を掘込み、手前側は袖を構築している。袖には礫を補強に使用している。天井部は土層断面で崩落している状態が観察できる。カマドから土師器環(3)と土師器小型壺(4)の一部が出土した。燃焼部の奥側から煙道部にかけては壁外に28cmほど延びる。

貯蔵穴 南東角より検出、規模は径0.34×0.30m、深さ0.11mを測る。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

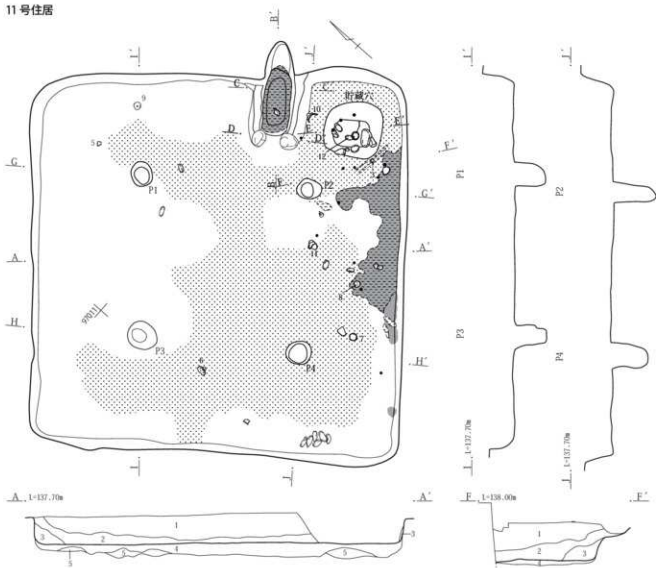
床面 ほぼ平坦である。カマド前で硬化面が確認された。

掘方 床面まで3～15cmほど埋め戻されている。ほぼ平坦であるが、浅い落ち込みがいくつか見られた。

埋没状態 土層断面の観察では壁際の三角堆積、中央部の流れ込みなどが確認されることから自然堆積による埋没と見られる。

遺物 土師器4点を図示した。土師器環(1)は貯蔵穴上から出土したものと北西角の床面直上から出土したものと

11号住居

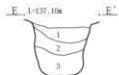


11号住居 A-A'・F-F'

1. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒(φ 1mm)、炭化物極少量、Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~5mm)、As-C粒(φ 1~2mm) 2%含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ 1mm)極少量、Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~2mm)、As-C粒(φ 1~2mm) 1%含む
3. 灰黄褐色土(10YR5/2) 黒褐色土(10YR3/1) 5%、にぶい黄褐色土(10YR7/2) 7%含む
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~3mm)、As-C粒(φ 1mm) 1%、灰黄色土(2.5Y6/2)ブロック状に2%含む
5. 灰黄褐色土(10YR4/2) 灰黄色土(2.5Y6/2)ブロック状に10%含む

11号住居貯蔵穴E-E'

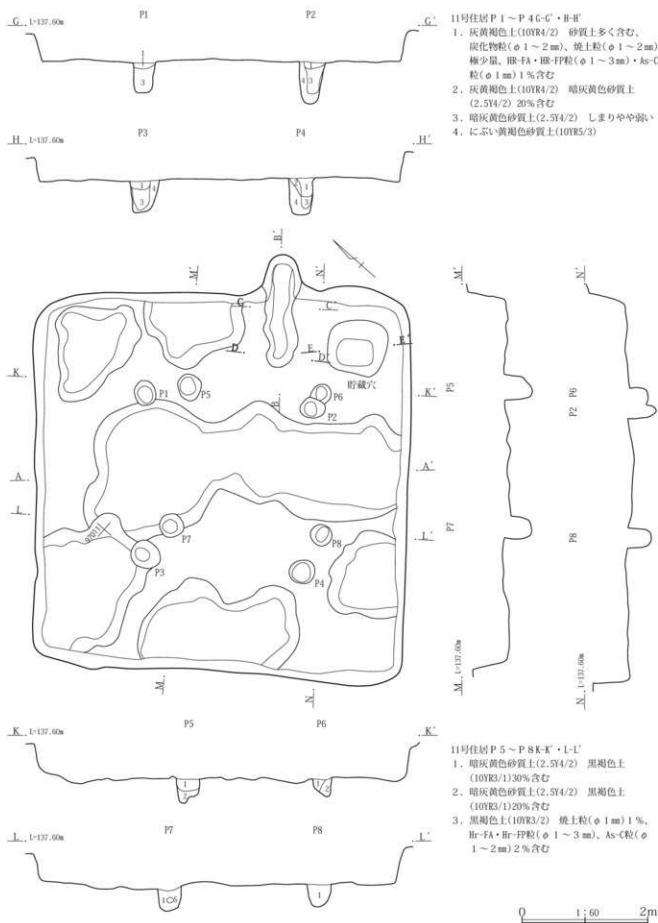
1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ 1~4mm)、炭化物粒(φ 1~3mm) 1%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~5mm)、As-C粒(φ 1~2mm) 3%含む、しまりやや弱い
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ 1~2mm)、炭化物粒(φ 1~2mm) 1%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~4mm)、As-C粒(φ 1~3mm)、灰黄色土(2.5Y6/2) (φ 2~10mm) 2%含む、しまりやや弱い(地山土)
3. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒(φ 1~5mm)、炭化物、Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~3mm)、As-C粒(φ 1~2mm) 1%含む、しまりやや弱い



0 1:60 2m

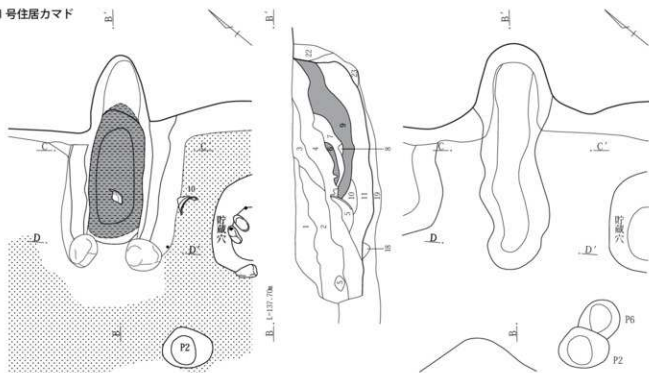
第113図 11号住居

第5節 古墳時代

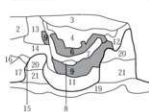


第114図 11号住居掘方

11号住居カマド



C, 1:137.70m C'



D, 1:137.40m D'

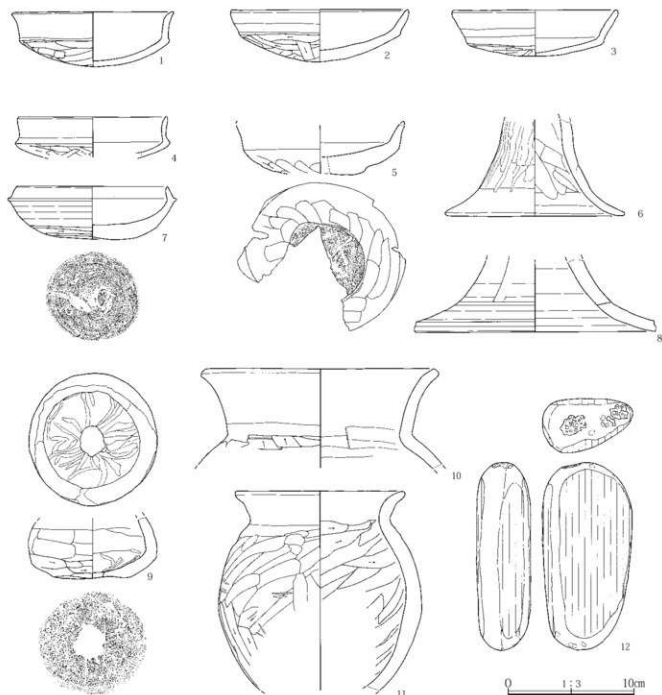


11号住居カマドB-B'・C-C'

1. 褐灰色土(10YR5/1) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~5mm), As-C粒(ϕ 1~2mm)2%, 焼土粒(ϕ 1~2mm)極少量含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(ϕ 1~2mm), Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~3mm), As-C粒(ϕ 1~2mm)2%含む, 円礫(ϕ 10mm)1個含む
3. 黄褐色土(2.5Y5/3) 焼土粒(ϕ 1~3mm)5%, 炭化物粒(ϕ 1~7mm), Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm), As-C粒(ϕ 1~2mm)1%含む
4. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒(ϕ 1~20mm)20%, 炭化物粒(ϕ 1~3mm), Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1mm), As-C粒(ϕ 1mm)1%含む
5. 灰黄色土(2.5Y6/2) 灰黄色土(2.5Y6/2)中心層, 焼土粒(ϕ 1~2mm), 炭化物粒(ϕ 1mm)1%含む
6. 焼土中心層 天井焼土化面崩壊土
7. 灰黄色土(2.5Y6/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~5mm)1%含む
8. 灰黄褐色土(10YR4/2) ブロック状に含む
9. 焼土中心層 天井焼土面あるいは壁の焼土面崩壊土
10. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土10%含む
11. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒(ϕ 1~2mm)極少量含む
12. 灰黄褐色土(10YR4/2) にぶい黄色土(2.5Y6/4)
13. にぶい黄色土(2.5Y6/4) 天井か袖上の一部と考えられる, 7層に近似する
14. 灰黄褐色土(10YR4/2) にぶい黄色土(2.5Y6/4)3%含む
15. にぶい黄色土(2.5Y6/4) 袖上の一部, 崩壊したもの
16. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~3mm)3%, As-C粒(ϕ 1~2mm)1%, 焼土粒(ϕ 1~3mm)極少量含む
17. 灰黄褐色土(10YR4/2) 小円礫(ϕ 1~3cm), Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm), As-C粒(ϕ 1mm)1%含む
18. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 焼土粒(ϕ 1~3mm)2%含む
19. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(ϕ 1mm)極少量, 白色粒(ϕ 1mm)2%含む
20. にぶい黄色土(2.5Y6/4) カマド壁の近くは焼土化している
21. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒(ϕ 1mm)極少量, 白色粒(ϕ 1mm)2%, にぶい黄色土(2.5Y6/3)極少量含む
22. 灰黄褐色土(10YR4/2)
23. にぶい黄褐色土(10YR5/3) にぶい黄褐色土(10YR6/3)焼土粒(ϕ 1~3mm)2%含む

0 1:30 1m

第115図 11号住居カマド



第116図 11号住居出土遺物

が接合した。土師器小型壺(4)は、貯蔵穴上から出土したものとカマド出土の2点が接合した。未掲載遺物は、土師器41点である。

時期 共存する土師器坏(1・2)や土師器小型壺(4)などの出土遺物から、6世紀後半と考えられる。

13号住居(第119～122図、PL.43・44・102)

位置 97-N・0・5・6

重複 なし。

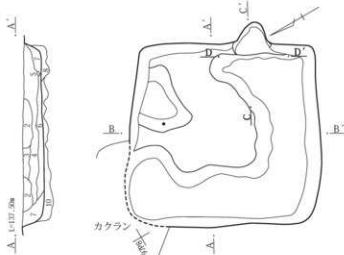
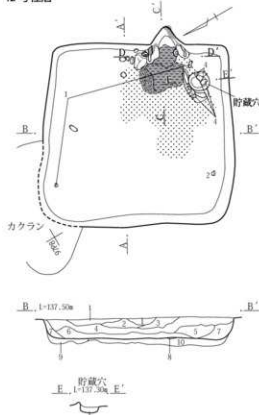
形状 長方形

規模 長軸5.10m 短軸3.40m 残存深度0.50m

主軸方位 N-37°-E **面積** 17.85㎡

カマド 東辺の南東角寄りに造られている。規模は、全長1.74m、幅0.44m、燃焼部0.45mを測る。燃焼部の奥側は地山を掘込み煙道を作り、手前側は袖を構築している。両袖には礫を埋め込んで天井部の礫を支える補強に

12号住居



12号住居A'-B-B'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1~2mm)極少量、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~3mm)1%含む、新しい層(ごく最近のカクランによるものか)
2. 褐灰色砂質土(10YR5/1)
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) 黒褐色土(10YR3/2)20%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)2%、炭化物粒(φ1~3mm)極少量含む
5. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)5%含む
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C粒(φ1~3mm)1%含む
7. にぶい黄褐色土(10YR4/3) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
8. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~4mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む、焼土粒(φ1mm)極少量含む
9. 灰黄褐色土(10YR4/2) にぶい黄褐色土(10YR6/3) (地山土)をブロック状に3%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)、1%含む
10. 灰黄褐色土(10YR4/2) にぶい黄褐色土(10YR6/3) (地山土)一部2%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~2mm)極少量含む

12号住居貯蔵穴E-E'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)極少量含む、しまりやや弱い

第117図 12号住居

使用していた。天井部は土層断面で崩落している状態が観察できる。カマドから土師器甕(9)が出土した。燃焼部の奥側から煙道部にかけては壁外に100cmほど延びる。

貯蔵穴 北東角より検出、規模は径1.00×0.83m、深さ0.51mを測る。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。床面中央付近で硬化面が確認され、貯蔵穴南西側にも弱硬化面が確認された。

掘方 床面まで4~15cmほど埋め戻されている。全体に凹凸がある掘方である。床下で2カ所硬化面を確認した。また、床下から検出したP1には、粘土・焼土・炭化物が混在していた。

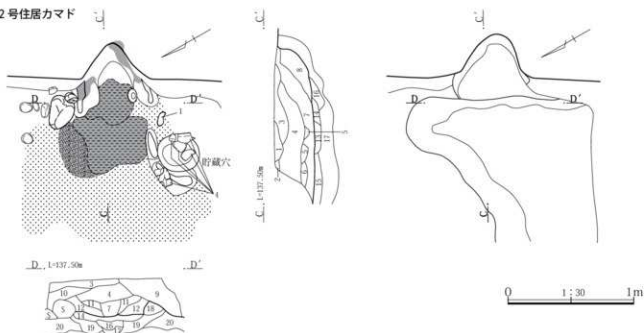
埋没状態 土層断面の観察では壁際の三角堆積、中央部

の流れ込みなどが確認されることから自然堆積による埋没と見られる。

遺物 土師器9点を図示した。土師器環(2)は南辺中央床面直上から、土師器環(3)は南東角床面3cm上から、土師器鉢(4)はカマド前床面直上から、土師器甕(5)はカマド前と住居中央と南東角の破片が接合し床面直上から、土師器甕(6)は北東角と南東角と住居中央とカマド前の破片が接合し床面2cm上から出土した。その他の掲載遺物は、床面から高い位置で確認された。未掲載遺物は、土師器296点、敲石1点、磨石1点である。

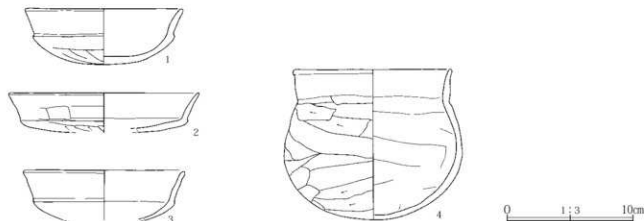
時期 共存する土師器(2)や土師器甕(5)などの出土遺物から、6世紀後半と考えられる。

12号住居カマド



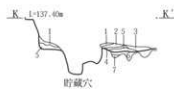
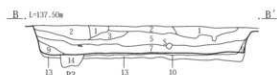
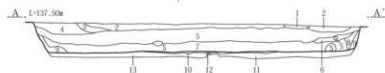
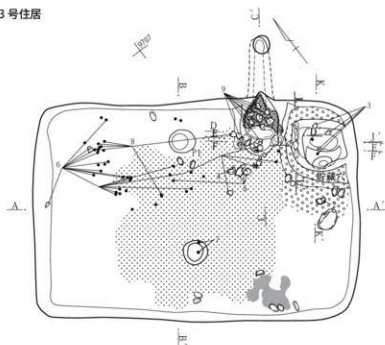
12号住居カマドC-C'・D-D'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 灰黄褐色土(10YR5/2)ブロック状に、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~2mm)、1%含む
2. 黒褐色土(10YR3/2) As-C粒(φ1mm)1%含む
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1mm)、As-C粒(φ1mm)2%含む
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%、にぶい黄褐色土(10YR5/4)粒(φ1~3mm)5%含む
5. 灰黄褐色土(10YR4/2) にぶい黄褐色土(10YR7/2)20%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1mm)、As-C粒(φ1mm)極少量含む
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1mm)、As-C粒(φ1mm)極少量含む
7. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒(φ1~3mm)、炭化物3%、にぶい黄褐色土(10YR7/2)5%含む
8. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1~5mm)2%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~5mm)、As-C粒(φ1mm)極少量含む
9. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1~10mm)、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
10. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)2%含む
11. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 焼土粒(φ1~3mm)、焼土5%、にぶい黄褐色土(10YR7/3)10%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
12. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土粒(φ1~10mm)2%、炭化物極少量、にぶい黄褐色土(10YR7/2)5%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
13. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒(φ1~10mm)、炭化物粒(φ1~3mm)1%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)極少量含む
14. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土5%含む
15. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまりあり
16. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土粒(φ1~2mm)極少量含む
17. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
18. にぶい黄褐色土(10YR7/3) 袖土、シルト質土
19. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~5mm)、As-C粒(φ1~3mm)1%含む
20. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む



第118図 12号住居カマドと出土遺物

13号住居



13号住居A-A'・B-B'

1. 暗灰黄色土(2.SY3/2) 新しい耕作上層
2. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~5mm)、As-C粒(φ1mm)3%含む、暗灰黄色土(2.SY3/2)上層に一部ブロック状に入る
3. 暗灰黄色土(2.SY3/2) 耕作上、1層に近似、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~5mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
4. 黒褐色土(10YR3/1) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~2mm)3%含む
5. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~4mm)、As-C粒(φ1~3mm)3%含む
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1~5mm)2%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む、円礫(φ7cm)1個含む
7. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1~2mm)極少量、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~5mm)、As-C粒(φ1~2mm)2%含む、円礫(φ8~40cm)数個含む
8. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまりやや弱い、木根の可能性あり
9. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%、炭化物極少量含む
10. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり非常に良い、たたき締めている。にぶい黄褐色土(10YR5/4)地山土を10%含む
11. にぶい黄褐色土(10YR7/2) やや粘性あり
12. 灰黄褐色土(10YR5/2) にぶい黄褐色土(10YR7/2) 20%含む、しまりあり
13. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
14. 灰黄褐色土(10YR4/2)

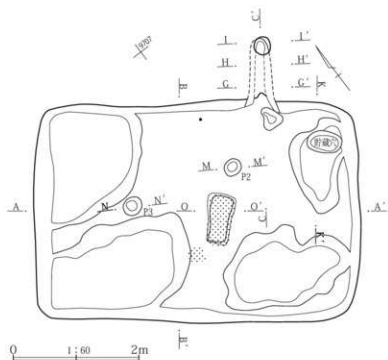
13号住居貯蔵穴J-J'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1~2mm)、炭化物粒(φ1~3mm)・Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)・As-C粒(φ1~2mm)1%含む、しまりやや弱い
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 黄褐色土(10YR5/3) (地山土)5%、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
3. 暗灰黄色土(2.SY3/2) 黄褐色土(10YR5/3) (地山土)10%含む、しまりやや弱い
4. 暗灰黄色土(2.SY3/2) 黄褐色土(10YR5/3) (地山土)20%含む

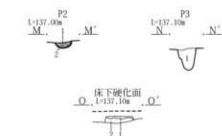
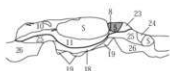
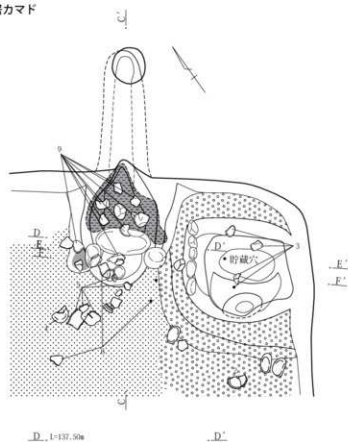
13号住居(貯蔵穴)土手K-K'

1. にぶい黄褐色土(10YR7/3) 貯蔵穴を掘り起こした時の地山土を利用、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
2. にぶい黄褐色土(10YR6/3) にぶい黄褐色土(10YR7/3)、灰黄褐色土(10YR4/2)混じる、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1mm) As-C粒(φ1mm)1%含む
3. にぶい黄褐色土(10YR7/3) 貯蔵穴掘り起こした時の地山土中心、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)2%、炭化物粒(φ1~2mm)極少量含む
4. 灰黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
5. にぶい黄褐色土(10YR6/3) にぶい黄褐色土(10YR7/3)ブロック状に10%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
7. 灰黄褐色土(10YR5/2) にぶい黄褐色土(10YR7/3)ブロック状に含む

0 1:60 2m



13号住居カマド



13号住居 P 2 M-M'

1. 焼土中心層 焼土30%、炭化物5%含む、ピットの周りに、にぶい黄褐色土(10YR7/2)粘性土が一層する。穴を掘削した後粘性土を張り込んだものと考えられる。その穴の中に、カマドから出た焼土や炭化物を何らかの要因で埋めたものと考えられる

2. にぶい黄褐色土(10YR7/2) やや粘性のある土。床下の硬化面に使用した土と同じ土がピットの上にコーティングしている

13号住居 P 3 M-M'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 炭化物粒(φ 1~2mm)極少量含む。しまりやや弱い

13号住居内床下硬化面0-0'

1. にぶい黄褐色土(10YR7/2) やや粘性あり。硬め、床下で硬化面を形成している

2. 灰黄褐色土(10YR4/2) 1層を2%程含む

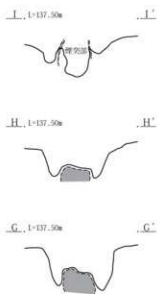
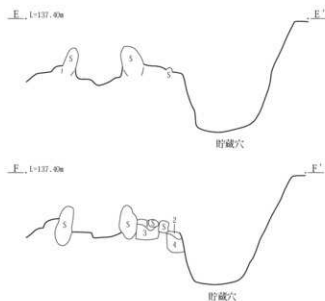
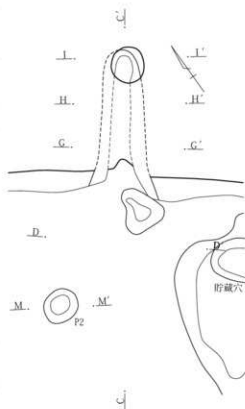


第120図 13号住居掘方とカマド

第4章 青柳宿上遺跡の調査内容

13号住居カマドC-C'・D-D'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 地山上、地山崩落土
2. 明黄褐色土(10YR6/6) 火を受けてオレンジ化した層
3. 灰黄褐色土(10YR6/2) 明黄褐色土(10YR6/6)ブロック状に含む、2層の崩落土、焼土粒(ϕ 1~3mm)1%含む
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(ϕ 1~10mm)2%、Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1mm)、As-C粒(ϕ 1mm)1%含む
5. 焼土中心層 焼土90%
6. 褐色土(10YR4/1) 焼土粒(ϕ 1~2mm)極少量含む
7. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒(ϕ 2~5mm)2%、Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1mm)、As-C粒(ϕ 1mm)1%含む
8. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(ϕ 1~2mm)1%含む、しまりやや弱い
9. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 天井あるいは袖の崩落土、おそらく天井石とともに崩落したものと考えられる
10. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(ϕ 1~2mm)、Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~10mm)、As-C粒(ϕ 1mm)1%含む
11. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土30%含む
12. にぶい褐色土(7.5YR5/4) 被熱により焼土化したものの30%含む
13. にぶい褐色土(10YR5/4) 被熱により焼土化したものの20%含む
14. 灰褐色土(7.5YR5/2) 焼土5%含む
15. 褐色土(10YR4/1) 焼土極少量含む
16. にぶい褐色土(7.5YR5/4) 焼土40%含む
17. 灰褐色土(7.5YR4/2) 焼土10%含む
18. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土粒(ϕ 1mm)2%、炭化物粒(ϕ 1~2mm)1%含む
19. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土粒(ϕ 1mm)、Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm)1%含む
20. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm)、焼土粒(ϕ 1mm)極少量含む
21. にぶい黄褐色土(10YR6/3) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm)1%含む
22. 褐色土(10YR4/1) シルト質土に近い土、焼土粒(ϕ 1mm)極少量含む
23. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 袖石残存
24. 灰黄色土(2.5Y6/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm)、As-C粒(ϕ 1mm)2%、灰黄色土(2.5Y7/2)30%含む
25. 黄褐色土(2.5Y5/3) 黄褐色土(10YR5/6)5%、灰白色粘質土2%含む
26. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm)、As-C粒(ϕ 1mm)、焼土粒(ϕ 1mm)1%含む

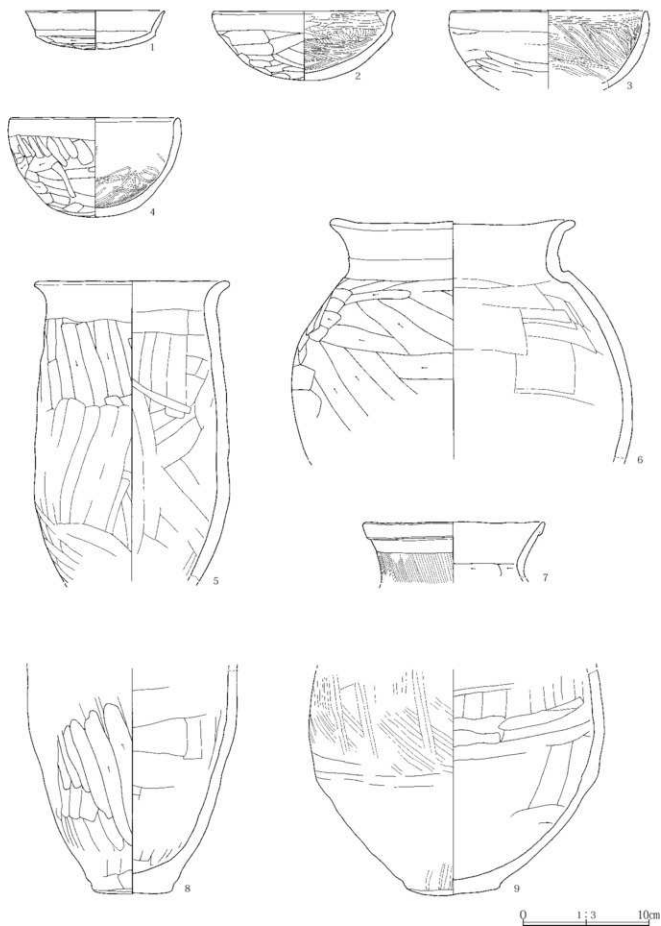


13号住居カマド袖石F-F'

1. にぶい黄褐色土(10YR7/3) 土堤(貯蔵穴)の露土、下層の地山上を掘削して盛り上げたもの、Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm)、As-C粒(ϕ 1mm)1%含む、しまりあり
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) 1層を20%含む
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) 炭化物粒(ϕ 1~2mm)極少量、Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm)1%含む
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) にぶい黄褐色土(10YR7/3)5%含む

0 1:30 1m

第121図 13号住居カマド掘方



第122図 13号住居出土遺物

14号住居(第123～127図、PL.45・46・103)

位置 97-1-8～10、97-1-9・10

重複 なし。

形状 正方形

規模 長軸5.90m 短軸5.76m 残存深度0.59m

主軸方位 N-40°-E **面積** 33.76㎡

カマド カマドは東辺より2基検出された。2基は同時に存在したのではなく、2号カマドから1号カマドへ造り替えが行われたと想定される。1号カマドは東辺の北東角寄りに造られている。規模は、全長1.08m、幅0.26m、燃焼部0.38mを測る。燃焼部の奥側は地山を掘込み、天井部は土層断面で崩落している状態が観察できる。1号カマドから土師器(6)が出土した。燃焼部の奥側から煙道部にかけては壁外に42cmほど延びる。2号カマドは東辺の中央やや南東寄りに造られている。規模は、全長1.40m、幅0.60m、燃焼部0.60mを測るが、ほぼその面影はなく掘方で確認できたのみである。燃焼部の奥側は地山を掘込んである。燃焼部の奥側から煙道部にかけては壁外に50cmほど延びる。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 主柱穴は、深さや位置関係からP1・P2・P3・P4の組み合わせとP5・P6・P7・P8である。柱穴の規模(直径×深さ)は、P1:0.40×0.67cm・P2:0.33×0.60cm・P3:0.32×0.51cm・P4:0.42×0.52cm・P5:0.20×0.19cm・P6:0.22×0.64cm・P7:0.21×0.52cm・P8:0.24×0.59cmである。

周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。床面の大部分で硬化面が確認された。

掘方 床面まで4～24cmほど埋め戻されている。全体に凹凸が激しい掘方である。床下に溝状遺構(幅0.88～1.00×残存深度0.19～0.22m×調査長3.59m)が検出された。

埋没状態 土層断面の観察では壁際の三角堆積、中央部の流れ込みなどが確認されることから自然堆積による埋没と見られる。

遺物 土師器7点を図示した。土師器環(1)は南東角の床面4cm上から出土した破片とカマド出土の破片が接合した。土師器(5)はカマド前床面直上から出土した。土師器(6)はカマドと住居中央の破片が接合した。土

師器(7)は北辺中央と住居中央床面4cm上から出土した破片が接合した。その他の掲載遺物は、床面から高い位置で確認された。未掲載遺物は、土師器287点、敲石1点である。

時期 共存する土師器(5・6)などの出土遺物から、6世紀後半と考えられる。

15号住居(第128～131図、PL.46～48・103・104)

位置 97-1-1-5・6

重複 なし。

形状 長方形

規模 長軸3.97m 短軸3.75m 残存深度0.53m

主軸方位 N-100°-W **面積** 14.63㎡

カマド 西辺の南西角寄りに造られている。規模は、全長1.30m、幅0.37m、燃焼部0.46mを測る。燃焼部の奥側は地山を掘込み、手前側は袖を構築している。袖には礫を補強に使用している。天井部は土層断面で崩落している状態が観察できる。燃焼部の奥側から煙道部にかけては壁外に36cmほど延びる。

貯蔵穴 南西角より検出、規模は径0.84×0.75m、深さ0.44mを測る。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。床面の中央付近で硬化面が確認された。

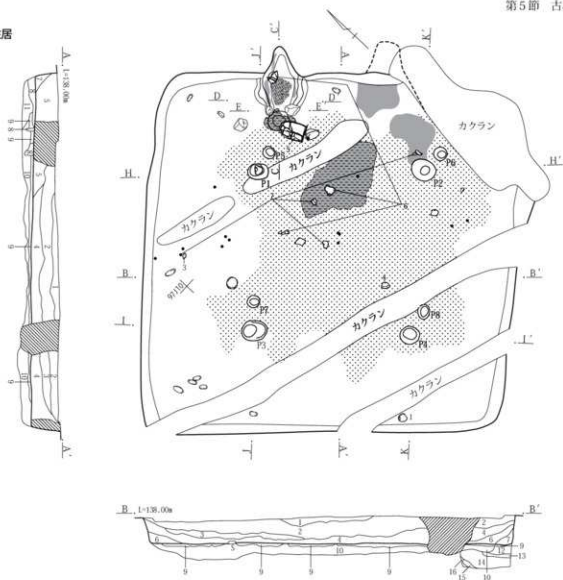
掘方 床面まで13～22cmほど埋め戻されている。ほぼ平坦であるが、北側と貯蔵穴周辺に浅い落ち込みが見られた。

埋没状態 土層断面の観察では壁際の三角堆積、中央部の流れ込みなどが確認されることから自然堆積による埋没と見られる。

遺物 土師器11点、須恵器1点を図示した。土師器環(3)はカマド前床面11cm上から、土師器(5)はカマド前床面8cm上から土師器(6)は床面7cm上から土師器(8)はカマド前床面8cm上から土師器(9)はカマド前床面9cm上から土師器(11)は中央やや南床面6cm上からの出土である。未掲載遺物は、土師器184点、須恵器3点である。

時期 共存する土師器(6・11)などの出土遺物から、6世紀後半と考えられる。

14号住居



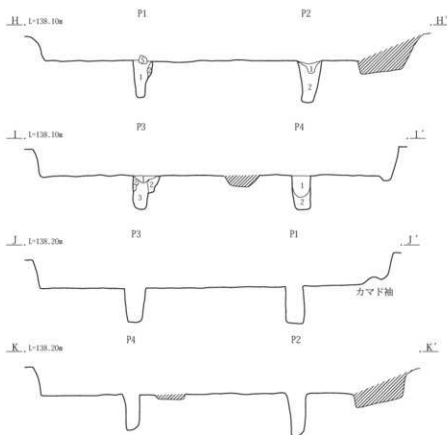
14号住居A'-B'

1. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~4mm)、As-C粒(ϕ 1~2mm)3%、焼土粒(ϕ 1~2mm)極少量含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~10mm)、As-C粒(ϕ 1~5mm)5%、焼土粒(ϕ 1~2mm)、炭化物粒(ϕ 2~4mm)極少量含む
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~7mm)、As-C粒(ϕ 1~3mm)2%、焼土粒(ϕ 1~4mm)極少量含む
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(ϕ 1~5mm)、Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~30mm)3%、As-C粒(ϕ 1~3mm)2%、炭化物粒(ϕ 1mm)、小円礫(ϕ 3~5cm)極少量含む
5. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(ϕ 1~30mm)10%、Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm)、As-C粒(ϕ 1~2mm)1%含む
6. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm)、As-C粒(ϕ 1mm)1%含む
7. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm)、As-C粒(ϕ 1mm)極少量含む
8. 黒褐色土(5YR4/2) 焼土・炭化物を10%、Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm)、As-C粒(ϕ 1mm)2%含む
9. 灰黄褐色土(10YR4/2) 炭化物粒(ϕ 1~2mm)、焼土粒(ϕ 1~3mm)、Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~5mm)1%、As-C粒(ϕ 1~3mm)2%含む、しまりあり
10. 灰黄褐色土(10YR5/2) 黒褐色土(10YR3/2)、暗灰黄色土(2.5Y5/2)ブロック状に、Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm)、As-C粒(ϕ 1~2mm)1%含む、しまりあり
11. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 焼土粒(ϕ 1mm)1%含む
12. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(ϕ 1mm)極少量、As-C粒(ϕ 1mm)1%含む、しまりややらい
13. 黒褐色土(10YR3/2) As-C粒(ϕ 1mm)1%含む
14. 灰黄褐色土(10YR4/2) 暗灰黄色土(2.5Y5/2)ブロック状に含む
15. 黒褐色土(10YR3/2) As-C粒(ϕ 1mm)極少量含む
16. にふい黄褐色土(10YR5/4) 灰黄褐色土(10YR4/2)1%含む

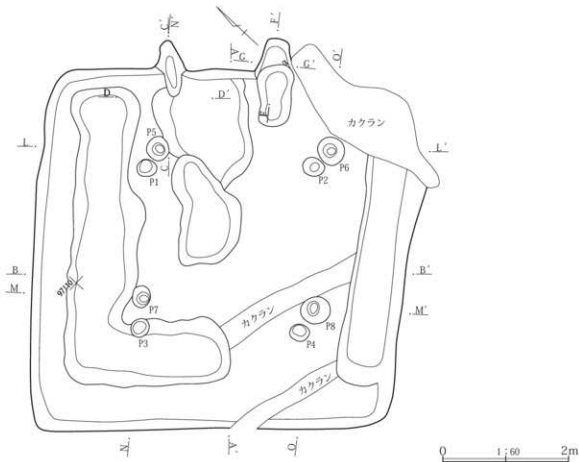
0 1:60 2m

第123図 14号住居

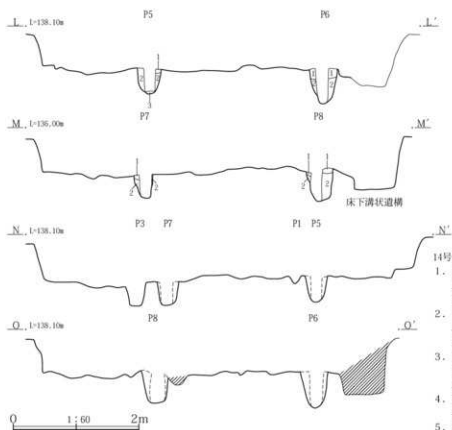
第4章 青柳宿上遺跡の調査内容



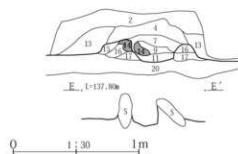
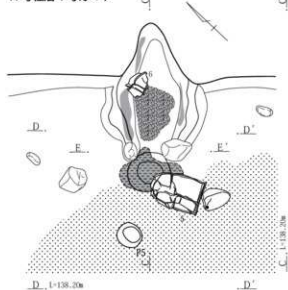
- 14号住居 P 1B-H'
1. 灰黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1 ~ 2mm)、As-C粒(φ 1mm) 1%含む、しまりやや弱い
 2. 灰黄褐色土(10YR6/2) にふい黄褐色土(10YR7/3) 5%含む
- 14号住居 P 2H-H'
1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ 1 ~ 2mm) 3%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1 ~ 5mm)、As-C粒(φ 1 ~ 2mm) 5%含む
 2. 灰黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1 ~ 2mm)、As-C粒(φ 1mm) 1%含む、しまりやや弱い
- 14号住居 P 3I-I'
1. 黒褐色土(10YR3/2) P 2の1層に近似する層、焼土は含まず、Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1 ~ 5mm)、As-C粒(φ 1 ~ 2mm) 5%含む
 2. 灰黄褐色土(10YR6/2) 地上土(灰黄色土)を中心とする層、ブロック状に40%含む
 3. 灰黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1 ~ 2mm)、As-C粒(φ 1mm) 1%含む、しまりやや弱い
- 14号住居 P 4I-I'
1. 黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1 ~ 2mm)、As-C粒(φ 1mm) 1%含む、しまりやや弱い
 2. 灰黄褐色土(10YR4/2) 1層よりやや暗い色調



第124図 14号住居掘方



14号住居1号カマド



14号住居P5～P8 L・M

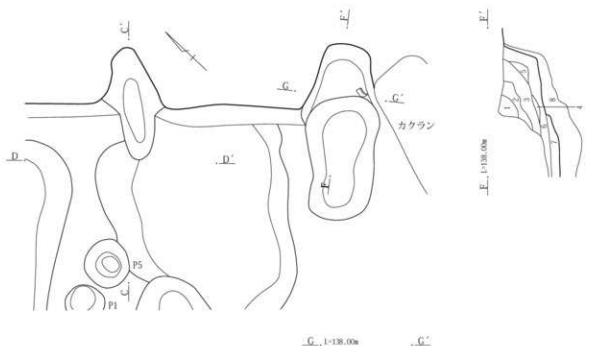
1. にぶい黄褐色土(10YR6/4) 中心層、地山土を掘削して採取した上で柱を押しさえる上として使用。灰黄褐色土(10YR4/2)ブロック状に含む、しまりやや良い
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) にぶい黄褐色土(10YR6/4)ブロック状に含む
3. 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性あり、柱根の下にあるやや粘性のある土

14号住居1号カマド(新) C-C'・D-D'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(1～3mm)、As-C粒(φ1～2mm)2%、焼土粒(φ1～2mm)極少量含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1～5mm)、As-C粒(φ1～2mm)、黄褐色土(10YR5/6) (袖・天井の上)3%、焼土粒(φ1～5mm)1%含む
3. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 黄褐色土(10YR5/6)80%含む、袖・天井の崩落土、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1～2mm)、As-C粒(φ2mm)1%含む
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1～4mm)2%、黄褐色土(10YR5/6)3%含む
5. 黄褐色土(10YR5/6) シルト質土に近い、天井の一部崩落土と考えられる
6. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 黄褐色土(10YR5/6)天井土20%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1～2mm)、As-C粒(φ1～2mm)2%含む
7. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1～2mm)、炭化物粒(φ1mm)1%含む
8. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 焼土10%、黄褐色土(10YR5/6)30%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1～2mm)、As-C粒(φ1～2mm)2%含む
9. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土を30%、黄褐色土(10YR5/6)ブロック状に10%含む
10. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土2%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1～2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
11. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土・灰5%、炭化物粒(φ2～4mm)、黄褐色土(10YR5/6)袖土1%含む
12. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 黄褐色土(10YR5/6)30%含む、天井あるいは部の袖土の崩落
13. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1～8mm)、黄褐色土(10YR5/2)袖土2%含む
14. 焼土中心層
15. 黄褐色土(10YR5/6) 袖土の崩落土・焼土20%含む
16. 明黄褐色土(10YR6/6) シルト質土、下層のローム相当2次堆積土を袖土上使用
17. 黄褐色土(10YR5/6) 焼土5%、炭化物粒(φ1mm)極少量含む
18. 灰黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1～5mm)1%、灰黄色土(2.5Y6/2) (下の地山土)3%含む
19. にぶい黄褐色土(10YR6/3) 袖土30%含む
20. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1～2mm)、炭化物粒(1～3mm)2%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1～2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
21. 灰黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1～2mm)極少量、灰黄色土(2.5Y6/2) (下の地山土)30%含む
22. 褐灰色砂質土(10YR4/1) 地山土に近い層、しまりやや弱い

第125図 14号住居カマド

14号住居カマド掘方



14号住居2号カマド(ED) F-F'・G-G'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1~10mm)5%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)2%含む
2. 暗黄褐色土(2.5Y5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)1%含む
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土20%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土30%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)1%含む
5. 褐灰色土(10YR4/1) 焼土粒(1~3mm)2%含む
6. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土粒(1~3mm)5%含む、しまりやや強い
7. 褐灰色土(10YR4/1) シルト質に近い土、しまりやや弱い
8. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(1~10mm)10%含む、しまりやや弱い

第126図 14号住居カマド掘方

16号住居(第132・133図、PL.48・49・104)

位置 97-G-H-8

重複 なし。

形状 正方形

規模 長軸3.16m 短軸3.14m 残存深度0.45m

主軸方位 N-69°-E 面積 9.39㎡

カマド 東辺の南東角寄りに造られている。規模は、全長0.92m、幅0.53m、燃焼部0.50mを測る。燃焼部の奥側は地山を掘込んでいる。燃焼部の奥側から煙道部にかけては壁外に78cmほど延びる。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。床面中央やや南側で硬化面が確

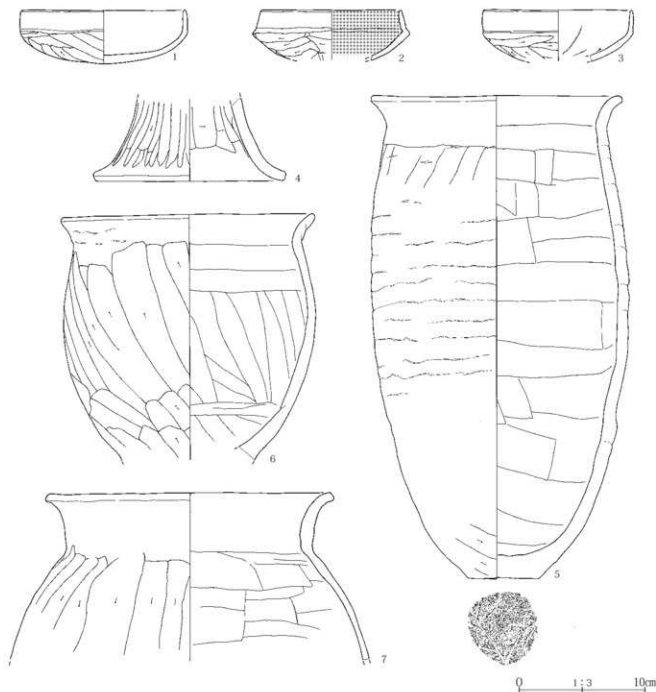
認された。

掘方 床面まで1~10cmほど埋め戻されている。全体に凹凸がある掘方である。

埋没状態 土層断面の観察では周囲からの流れ込みによる埋没の可能性が確認できるが、層位の間に凹凸がみられることから確実な自然堆積による埋没とは断定できない。

遺物 土師器3点を図示した。土師器環(1)は南西角床面直上から、土師器小型壺(2)は南西角床面14cm上から、土師器甕は南西角床面直上からの出土である。未掲載遺物は、土師器191点、須恵器1点、敲石1点である。

時期 共存する土師器環(1)や土師器甕(3)などの出土遺物から、6世紀後半と考えられる。



第127図 14号住居出土遺物

17号住居(第134・135図、PL.49・50・104)

位置 97-E・F-15

重複 1号道と重複する。新旧関係は、本住居のほうが古い。

形状 正方形

規模 長軸3.53m 短軸3.29m 残存深度0.40m

主軸方位 N-87°-E 面積 11.82㎡

カマド 東辺の中央に造られている。規模は、全長1.03

m、幅0.34m、燃烧部0.35mを測る。燃烧部の奥側は地山を掘込み、手前側は袖を構築している。カマドから土師器环(1)が出土した。燃烧部の奥側から煙道部にかけては壁外に52cmほど延びる。

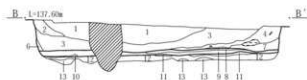
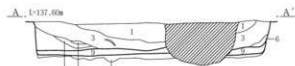
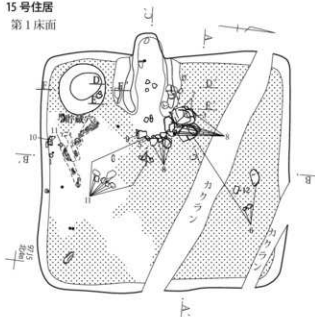
貯蔵穴 南東角より検出、規模は径0.76×0.66m、深さ0.36mを測る。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

15号住居

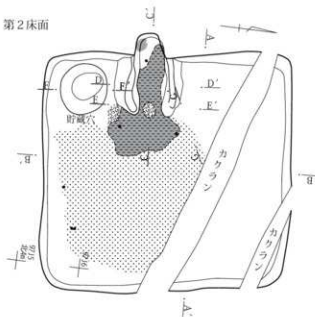
第1床面



15号住居A'-A'・B-B'

1. 灰黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~10mm)、As-C粒(φ1~5mm) 8%、黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~7mm) 3%、に赤い黄褐色土(10YR7/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm) 2%ブロック状に含む
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~2mm) 1%含む
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1~2mm) 1%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~7mm)、As-C粒(φ1~3mm) 3%、炭化物 1%含む
4. 灰黄褐色土(10YR5/2) 炭化物、に赤い黄褐色土(10YR7/3)ブロック状に 2%含む
5. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土粒(φ1~2mm)、炭化物 2%含む。カマドの崩落に伴う焼土・炭化物と考えられる
6. 灰黄褐色土(10YR5/2) As-C粒(φ1~2mm) 1%含む
7. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C粒(φ1mm) 1%含む
8. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~4mm) 2%、炭化物粒(φ1~3mm)、焼土粒(φ1~2mm) 1%含む。しまり非常に良い、第2次床面
9. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1mm)、炭化物粒(φ1mm)極少量、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm) 1%含む
10. 灰黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1mm)極少量含む
11. 灰黄褐色土(10YR4/2) 灰黄色土(2.5Y6/2)ブロック状に 2%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm) 1%、炭化物粒(φ1~2mm)極少量含む、しまり非常に良い
12. 灰黄褐色土(10YR4/2) 灰黄色土(2.5Y6/2)ブロック状に 10%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C(φ1mm) 1%含む
13. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 灰黄褐色土(10YR4/2) 20%、Hr-FA・Hr-FP粒・As-C粒極少量含む

第2床面

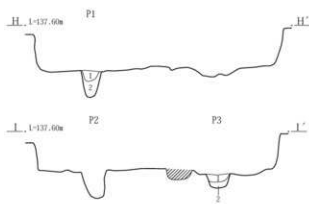
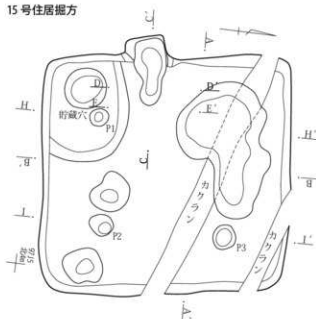


15号住居貯蔵穴E-E'

1. 暗褐色土(10YR3/4) As-C粒(φ1~5mm) 3%、黒褐色土(10YR3/2)、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、に赤い黄褐色土(10YR5/4) (φ3cm大)ブロック状に、焼土粒(3~5mm)、炭化物粒(φ1~2cm) 2%含む
2. 黒褐色土(10YR2/3) 焼土粒(φ3~5mm) 1%、に赤い黄褐色土(10YR5/4) (φ3cm大)少量、As-C粒(φ1~5mm)、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)・炭化物粒(φ1mm)極少量含む

0 1:60 2m

15号住居掘方



15号住居P 1H-H'

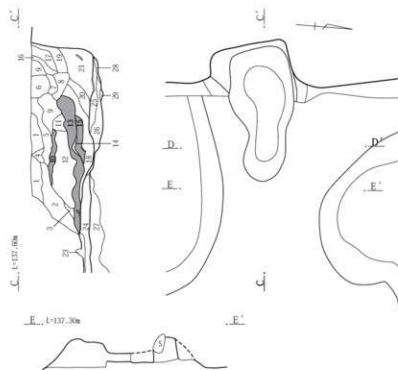
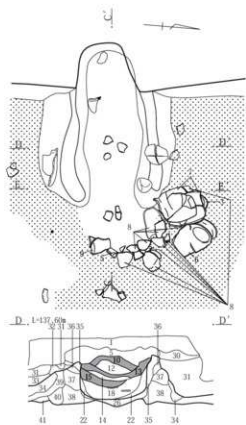
1. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) 円礫(φ2~5cm)、炭化物2%含む
2. にぶい黄褐色砂質土(10YR4/2)

15号住居P 3I-I'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 円礫(φ1~5cm)40%含む
2. にぶい黄褐色砂質土(10YR4/2)

0 1:60 2m

15号住居カマド



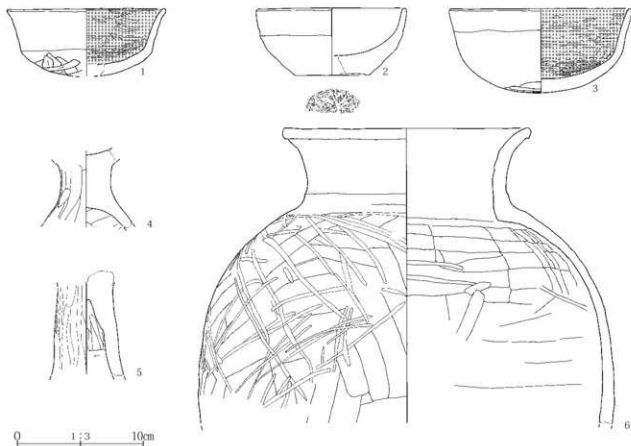
0 1:30 1m

第129図 15号住居掘方とカマド

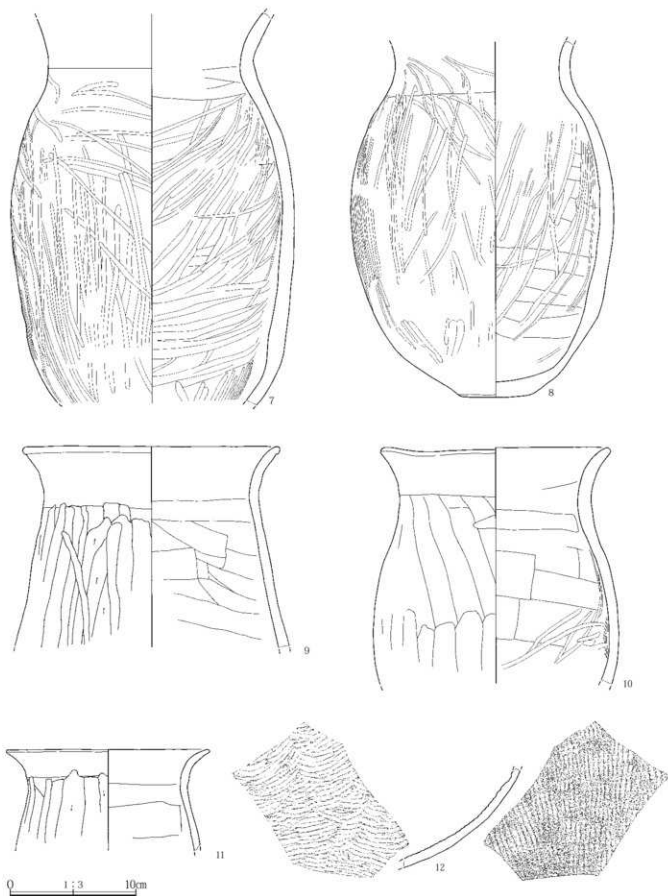
第4章 青柳宿上遺跡の調査内容

15号住居カマドC-C'・D-D'

1. ぶい・黄褐色土(10YR5/3) 焼土粒(φ1~2mm)、炭化物粒(φ1~5mm)、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~2mm)2%、黒褐色土(10YR3/1)ブロック状に含む
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土粒(φ1~2mm)、炭化物粒(φ1~4mm)1%含む
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土2%、浅黄色土(2.5Y7/3)天井の崩落土をブロック状に含む
4. ぶい・黄褐色土(10YR6/4) 焼土粒(φ1~4mm)1%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~5mm)、As-C粒(φ1~2mm)2%含む
5. 浅黄色土(2.5Y7/4) 焼土30%含む、カマド天井の崩落土
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)2%含む
7. 灰黄褐色土(10YR5/2) ぶい・黄褐色土(10YR7/4) 10%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
8. 灰黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む、しまりやや弱い
9. ぶい・黄褐色土(10YR7/4) 焼土20%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む、カマド天井土と考えられる
10. 焼土中心層
11. 灰黄褐色土(10YR5/2) ぶい・黄褐色土(10YR7/4)、焼土3%含む
12. 浅黄色土(2.5YR7/4) 白色粒(φ2~3mm)1%含む、カマドの天井の崩落土
13. 焼土中心層
14. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土10%、灰2%含む
15. 焼土中心層
16. 灰黄褐色土(10YR5/2) ぶい・黄褐色土(10YR7/4)5%含む
17. ぶい・黄褐色土(10YR6/4) 炭化物粒・焼土粒(φ1~2mm)極少量含む
18. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土20%、炭化物5%含む
19. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土2%を主に下層に含む
20. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土3%含む
21. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土5%含む
22. 灰褐色土(5YR4/2) 焼土10%、灰5%含む
23. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり良好、焼土2%、炭化物粒(φ1~3mm)1%含む
24. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)1%、焼土粒(φ1~3mm)、炭化物粒(φ2mm)2%含む
25. 灰黄褐色土(10YR5/2) 灰5%、焼土・炭化物2%含む
26. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土・炭化物1%含む
27. 黒褐色土(10YR3/1) 炭化物・焼土粒(φ1mm)、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)極少量含む、2次床土
28. 灰黄褐色土(10YR4/2) ぶい・黄褐色土ブロック状に含む
29. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土5%含む
30. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1~5mm)・Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)・As-C粒(φ1mm)1%含む
31. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土2%、ぶい・黄褐色土(10YR7/4)10%含む
32. ぶい・黄褐色土(10YR5/3) 焼土1%含む
33. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
34. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 焼土粒(φ1~2mm)2%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
35. ぶい・黄褐色土(10YR7/4) シルト質土、焼熟し、焼土化している
36. 褐灰色土(10YR5/1) 白色粒(φ1mm)1%含む
37. 褐灰色土(10YR4/1) 白色粒(φ1mm)2%含む
38. 黄灰色土(2.5Y4/1) シルト質土、小円礫(φ1~3mm)・白色粒(φ1mm)1%含む
39. 灰褐色土(7.5YR4/2) 焼土3%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
40. 灰褐色土(7.5YR4/2) 小円礫(φ1~5mm)、ぶい・黄褐色土(10YR6/4)極少量含む
41. 灰黄褐色土(10YR4/2) 小円礫(φ1~10mm)1%含む

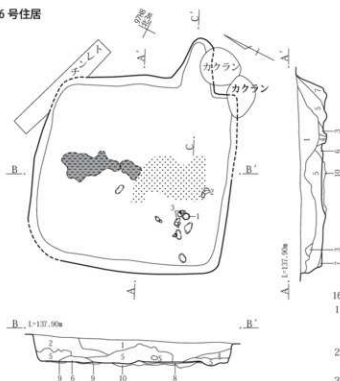


第130図 15号住居出土土遺物(1)



第131圖 15号住居出土遺物(2)

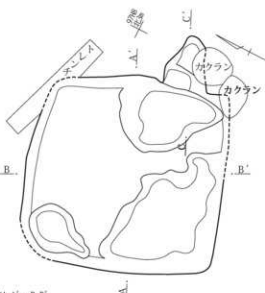
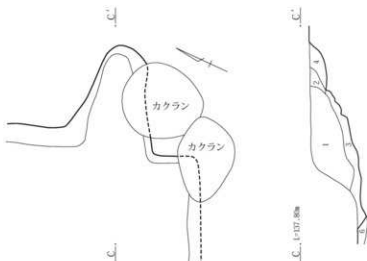
16号住居



16号住居カマドC-C'

1. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土ブロック(φ1~3cm)、黄褐色土(10YR5/6)ブロック(φ1~3cm)、As-C粒(φ1mm)1%、にぶい黄褐色土(10YR5/4)ブロック(φ3cm)2%含む
2. にぶい赤褐色土(5YR4/4) 焼土ブロック(φ1~3cm)30%含む
3. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒(φ5~10mm)、黄褐色土(10YR5/6)(φ5~10mm)2%、にぶい黄褐色土(10YR5/4)ブロック(φ3cm)3%、炭化物粒(φ5mm)少量含む
4. 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色土(10YR5/6)ブロック(φ3~10cm)50%、焼土ブロック(φ3cm)30%含む
5. にぶい黄褐色土(10YR7/4) 地山
6. 灰暗褐色土(10YR5/2) As-C粒(φ1~2mm)2%含む

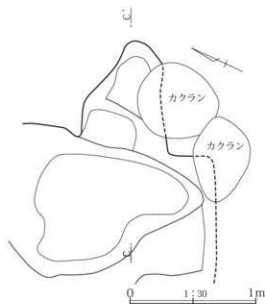
16号住居カマド



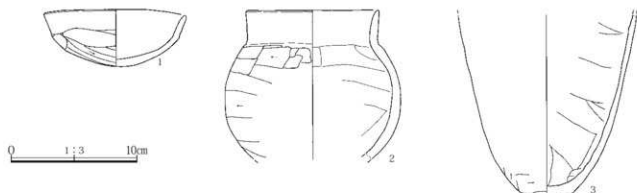
16号住居跡A-A'・B-B'

1. 暗褐色土(10YR3/3) にぶい黄褐色土(10YR4/3)(φ3cm大)ブロックを2%、黄褐色土(10YR5/6)(φ1cm大)を1%、As-C粒、Hr-FA・Hr-FP粒(φ2mm大)少量含む
2. 黒褐色土(10YR3/2) As-C粒(φ1~5mm大)2%、にぶい黄褐色土(10YR4/3)(φ2cm大)ブロック1%含む
3. 黒褐色土(10YR2/3) As-C粒(φ1~5mm大)1%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1mm)極少量含む
4. 暗褐色土(10YR3/3) にぶい黄褐色土(10YR4/3)(φ3cm大)ブロック2%含む
5. 暗褐色土(10YR3/4) にぶい黄褐色土(10YR4/3)(φ1~5cm)ブロック3%、黄褐色土粒(10YR5/6)(φ1~10cm)2%、As-C粒、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1mm)極少量含む
6. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒(φ1~10mm)10%、黄褐色土(10YR5/6)(φ1~20mm)30%、炭化物粒(φ1~10mm)3%含む
7. 暗褐色土(10YR3/3) As-C粒(φ1mm)極少量含む
8. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物粒(φ1~4mm)、焼土粒(φ1~2mm)極少量含む、しまり非常にあり
9. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物粒5%、焼土粒(φ1~2mm)1%含む、8層に比べしまり弱い
10. 灰黄褐色土(10YR4/2) 炭化物粒(φ1~3mm)極少量、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)1%含む

0 1:60 2m



第132図 16号住居とカマド



第133図 16号住居出土遺物

床面 ほぼ平坦である。床面南側で硬化面が確認された。

掘方 床面まで4～22cmほど埋め戻されている。中央と北東角、南東角、南西角に浅い落ち込みが見られた。全体に凹凸がある掘方である。

埋没状態 土層断面の観察では壁際の三角堆積、中央部の流れ込みなどが確認されることから自然堆積による埋没と見られる。

遺物 土師器2点を図示した。土師器環(2)は北辺中央床面4cm上からの出土である。未掲載遺物は、土師器35点、須恵器1点である。

時期 共存する(1)や(2)などの出土遺物から、6世紀後半と考えられる。

の流れ込みなどが確認されることから自然堆積による埋没と見られる。

遺物 土師器2点を図示した。土師器甕(2)は西辺やや南床面7cm上からの出土である。未掲載遺物は、土師器34点である。

時期 共存する土師器環(1)や土師器甕(2)などの出土遺物から、6世紀後半と考えられる。

18号住居(第136図、PL.50・51・104)

位置 97-E-17・18

重複 なし。

形状 方形か

規模 長軸3.60m 短軸(2.88m) 残存深度0.34m

主軸方位 N-8°-W 面積 8.07㎡

カマド カクランにより壊されているので、詳細は不明である。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。床面中央付近で硬化面が確認された。

周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。

掘方 床面まで3～19cmほど埋め戻されている。全体に凹凸がある掘方である。

埋没状態 土層断面の観察では壁際の三角堆積、中央部

19号住居(第137図、PL.51・104)

位置 97-D-15・16

重複 なし。

形状 方形か

規模 長軸2.88m 短軸2.43m 残存深度0.27m

主軸方位 N-5.5°-W 面積 6.81㎡

カマド 調査区外にある東辺に造られていると考えられるが、詳細は不明である。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

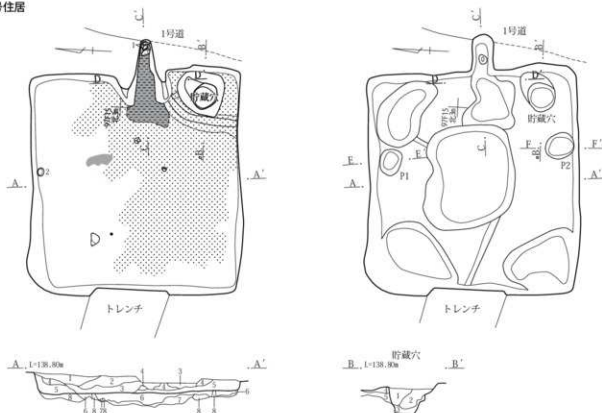
床面 ほぼ平坦である。床面中央付近で硬化面が確認された。

掘方 床面まで1～9cmほど埋め戻されている。床下土坑(長軸1.95m×短軸1.30m×深さ0.14m)が検出された。

埋没状態 土層断面の観察では壁際の三角堆積、中央部の流れ込みなどが確認されることから自然堆積による埋没と見られる。

遺物 土師器1点を図示した。土師器環(1)は住居確認範囲中央からの出土である。未掲載遺物は、土師器14点

17号住居



17号住居A-A'

1. 暗褐色土(10YR3/4) Hr-FA・Hr-FP粒(φ 3~5mm)、As-C粒(φ 5mm)、にぶい黄褐色土粒(10YR4/3) (φ 2~3mm) 1%含む、しまりなし
2. 暗褐色土(10YR3/4) にぶい黄褐色土(10YR4/3)ブロック(φ 10cm大) 30%、As-C粒(φ 1mm)極少量含む
3. 暗褐色土(10YR3/4) 黒褐色土(10YR2/2)とAs-C粒の混土30%、にぶい黄褐色土(10YR4/3)ブロック(φ 5~10cm大) 10%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ 3mm) 1%含む
4. にぶい黄褐色土(10YR4/3) Hr-FA・Hr-FP粒極少量含む
5. 暗褐色土(10YR3/4) As-C粒(φ 2cm)、にぶい黄褐色土(10YR4/3)ブロック(φ 5~10cm) 3%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ 2~3mm) 1%含む
6. 黒褐色土(10YR2/3) にぶい黄褐色土(10YR5/4) (φ 3~5cm大)ブロック状に20%含む、As-C粒(φ 5mm大)、Hr-FA・Hr-FP粒(φ 2mm) 2%含む
7. 黒褐色土(10YR2/3) にぶい黄褐色土(10YR5/4) (φ 3~5cm) ブロック状に5%、As-C粒(φ 2~3mm)、Hr-FA・Hr-FP粒(φ 2mm)極少量含む
8. 褐色土(10YR4/6) As-C粒(φ 1mm)極少量含む

17号住居貯蔵穴B-B'

1. 暗褐色土(10YR3/4) にぶい黄褐色土(10YR5/4) (φ 3cm)ブロック状に10%、黒褐色土(10YR2/3) (φ 5cm)ブロック状に1%含む、As-C粒(φ 2~3mm)極少量含む
2. 暗褐色土(10YR3/3) Hr-FA・Hr-FP粒(φ 2~3mm) 2%、黒褐色土(10YR2/3) (φ 3cm)とAs-C混土をブロック状に1%含む
3. 暗褐色土(10YR3/4) にぶい黄褐色土(10YR5/4) (φ 3cm)ブロック状に極少量、Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1mm) 1%含む
4. 褐色土(10YR4/6) As-C粒(φ 2mm) 2%含む、貼り床か?
5. 黒褐色土(10YR2/3) にぶい黄褐色土(10YR5/4) (φ 3~5cm)ブロック状に20%、As-C粒(φ 2mm大) 1%含む



17号住居床下P1 E-E'

1. 黒褐色土(10YR3/2) 小白粒(φ 1~2mm) 1%、しまりやや良い、白色粒(φ 1mm)含む



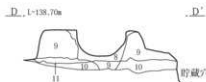
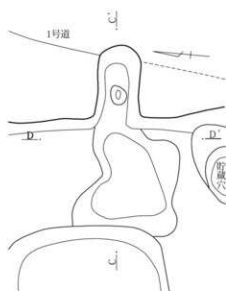
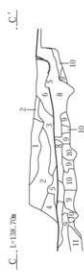
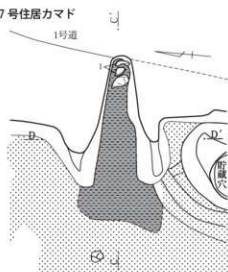
17号住居床下P2 F-F'

1. 黒褐色土(10YR3/2) 小白粒(φ 1~2mm) 1%、しまりやや良い、白色粒(φ 1mm)含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) 白色粒(φ 1~2mm) 1%含む

0 1:60 2m

第134図 17号住居

17号住居カマド

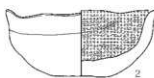
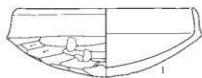


17号住居カマドC-C'

1. 黒褐色土(10YR2/2) As-C粒(φ2~3mm)2%, Hr-FA・Hr-FP粒(φ1mm)1%含む
2. 暗褐色土(10YR3/3) しまりなし、1層をブロック状に(φ5cm大)5%含む
3. 暗褐色土(10YR3/3) にふい黄褐色土(10YR5/4)ブロック状に(φ5~10cm)50%、焼土粒(φ1~2mm)極少量含む
4. 暗褐色土(10YR3/3) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1cm)2%、焼土粒(φ5mm)・As-C粒(φ1mm)1%含む
5. 暗褐色土(10YR3/3) にふい黄褐色土(10YR5/4)ブロック状に(φ5~10cm)50%、焼土粒(φ1~2cm)・炭化物粒(φ5~10mm)2%含む

6. 暗褐色土(10YR3/3) 赤褐色土(2.5YR4/6)50%以上、にふい黄褐色土(10YR5/4)極少量含む
7. 暗褐色土(10YR3/4) 焼土粒(φ1cm大)極少量、黒褐色土(10YR2/3)ブロック状に(φ3~5cm大)30%、にふい黄褐色土(10YR5/4)(φ3mm)ブロック10%、As-C粒(φ2~10mm大)3%含む
8. 暗褐色土(10YR3/3) 3層と同質
9. 褐色土(10YR4/6) As-C粒(φ2mm大)2%含む、器床か?
10. にふい黄褐色土(10YR5/4) 炭化物粒(φ5mm)、焼土粒(φ1~10mm)1%、As-C粒極少量含む
11. 黒褐色土(10YR2/3) にふい黄褐色土(10YR5/4)ブロック状に(φ3~5cm)20%、As-C粒(φ2mm)1%含む

0 1:30 1m



0 1:3 10cm

第135図 17号住居カマドと出土遺物

第4章 青柳宿上遺跡の調査内容

18号住居



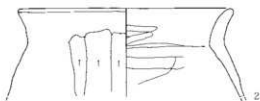
18号住居 P 1 B-B'

1. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) しまりやや弱い、にぶい
黄橙色土(10YR6/3) 5%含む

18号住居跡A-A'

1. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒(φ1~3mm)極少量、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~4mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1~2mm)極少量、円礫(φ1~15mm)2%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
3. 灰黄褐色土(10YR5/2) As-C粒(φ1mm)1%含む
4. にぶい黄褐色土(10YR5/3) にぶい黄橙色(10YR6/3)しまりのよい土を一部上面に残るが、硬化面となる所、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~5mm)、As-C粒(φ1~2mm)2%、小円礫(φ1~4mm)極少量含む
5. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
6. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 灰黄褐色土(10YR4/2) 10%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~20mm)、As-C粒(φ1~2mm)2%含む

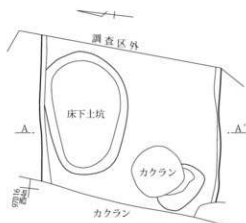
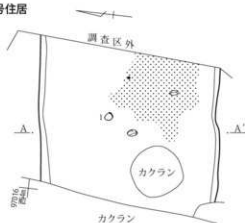
0 1:60 2m



0 1:3 10cm

第136図 18号住居と出土遺物

19号住居



19号住居A-A'

1. 褐灰色土(10YR4/1) Hr-FA-Hr-FP粒(φ 1~10mm)、焼土粒(φ 1~3mm) 2% 含む、襷瓦層
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~5mm) 1%、As-C粒(φ 1~2mm) 2% 含む、礫(φ 5~10cm) 2個含む
3. にふい黄褐色土(10YR5/3) 地山土の土含む
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) にふい黄褐色土(10YR5/3)ブロック状に含む、地山土
5. にふい黄褐色土(10YR5/3) 灰黄褐色土(10YR5/2)ブロック状に20%ほど含む
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) にふい黄褐色土(10YR5/4)ブロック状に5%ほど含む

第137図 19号住居と出土遺物

である。

時期 出土した土師器環(1)から、6世紀後半と考えられる。

20号住居(第138図、PL.52)

位置 97-D-14

重複 なし。

形状 方形か

規模 長軸(2.48m) 短軸(1.98m) 残存深度0.13m

主軸方位 N-28°-W 面積 2.44㎡

カマド 調査区外に造られていると考えられるので、詳細は不明である。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。北片中央付近で硬化面が確認された。

掘方 床面まで7~21cmほど埋め戻されている。全体に凹凸がある掘方である。

埋没状態 土層断面の観察では壁際の三角堆積が確認でき自然堆積による埋没と考えられるが、検出面が浅いため判断しかねる。

遺物 未掲載遺物は、土師器2点である。

時期 未掲載遺物から、6世紀後半と考えられる。

21号住居(第139・140図、PL.52)

位置 97-E・F-6・7

重複 なし。

形状 正方形

規模 長軸5.20m 短軸4.80m 残存深度0.09m

主軸方位 N-25°-W 面積 (21.20㎡)

カマド 調査区外にある東辺に造られていると考えられるので、詳細は不明である。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 主柱穴は、深さや位置関係からP1・P2・P3・P4・P5・P6である。柱穴の規模(直径×深さ)は、P1:43×54cm・P2:37×55cm・P3:35×46cm・P4:38×42cm・P5:44×67cm・P6:50×56cmである。

周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

掘方 床面まで1~21cmほど埋め戻されている。全体に凹凸がある掘方である。北東角から床下土坑(長軸1.06m×短軸0.82m×深さ0.23m)が検出された。

埋没状態 検出時点で床面が若干残っている程度であり、詳細は不明である。

遺物 土師器1点を図示した。土師器環(1)はフク土からの出土である。未掲載遺物は、土師器76点である。

時期 土師器環(1)や未掲載遺物などから、6世紀後半と考えられる。

22号住居(第141・142図、PL.52・53・105)

位置 97-H-12・13、97-1-12

重複 なし。

形状 長方形

規模 長軸3.27m 短軸2.98m 残存深度0.21m

主軸方位 N-76°-E 面積 9.88㎡

カマド 東辺の中央に造られている。規模は、全長2.02m、幅0.47m、燃焼部0.34mを測る。燃焼部の奥側は地山を掘込んでいる。天井部は土層断面で崩落している状態が観察できる。燃焼部の奥側から煙道部にかけては壁外に164cmほど延びる。

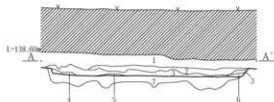
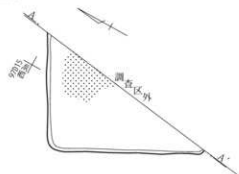
貯蔵穴 南東角より検出、規模は径0.52×0.41m、深さ0.31mを測る。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。カマド前で硬化面が確認された。

20号住居



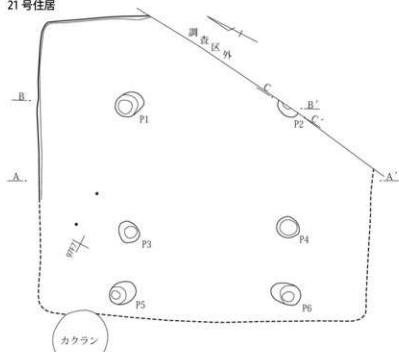
20号住居A-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 目土上、炭化物2%ほど含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)2%含む
3. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒(φ1mm)、炭化物粒(φ1mm)極少量、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~22mm)、As-C粒(φ1~2mm)2%含む
4. 黒褐色土(10YR3/1) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
5. 黒褐色土(10YR3/1) 炭化物30%含む、床面に散いたもの痕跡か?
6. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 灰黄色土(10YR4/2)20%含む
7. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 灰黄色土(10YR4/2)30%含む

0 1;60 2m

第138図 20号住居

21号住居



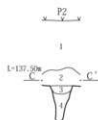
21号住居A-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(ϕ 1~2mm) 2%, Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~3mm) 極少量, As-C粒(ϕ 1~2mm) 1%, 炭化物粒(ϕ 1~2mm) 極少量含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(ϕ 1~2mm) 5%, Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~5mm) 2%, As-C粒(ϕ 1~2mm) 1%, 炭化物粒(ϕ 1mm) 極少量含む
3. 灰黄褐色土(10YR5/2) しまりやや良い, 焼土粒(ϕ 1mm), Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm), As-C粒(ϕ 1mm) 1% 含む
4. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 地山上混じり60%の層



21号住居P 1 B-B'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~3mm), As-C粒(ϕ 1~2mm) 2%, 炭化物粒(ϕ 1~3mm), 焼土粒(ϕ 1mm) 極少量含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm), As-C粒(ϕ 1~2mm) 1% 含む
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm), As-C粒(ϕ 1mm), 小円礫(ϕ 3cm) 1個含む
4. 灰黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm) 1% 含む



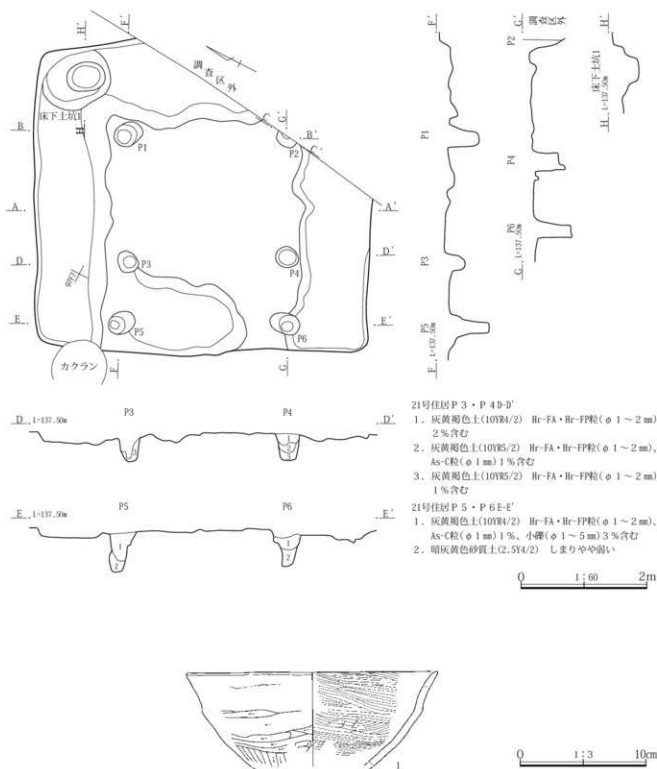
21号住居P 2 C-C'

1. 盛土・埋土・ブロック等入る
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm) 2% 含む
3. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 酸化・鉄分沈着多い層, As-C粒(ϕ 1mm) 1% 含む
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm), As-C粒(ϕ 1mm) 極少量含む

0 1:60 2m

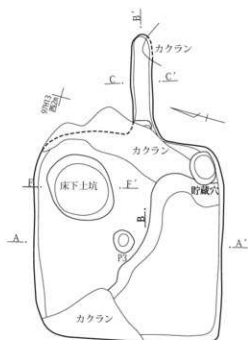
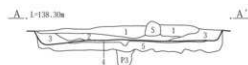
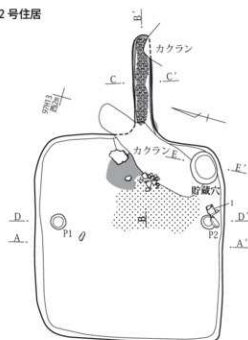
第139図 21号住居

第4章 青柳宿上遺跡の調査内容



第140図 21号住居掘方と出土遺物

22号住居



22号住居A-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~7mm)5%, As-C粒(φ1~2mm)1%, 灰黄色土(2.5Y6/2)ブロック状に2%含む、川原石(φ30cm)1個含む
2. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
5. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) にぶい黄色土(2.5Y6/4)ブロック状に含む

22号住居 P1・P2 D-D'

1. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) Hr-FP粒(φ1~3mm)、ローム土2%含む
2. 灰黄色土(2.5Y6/2) ローム土20%含む

22号住居貯蔵穴E-E'

1. 浅黄色土(2.5Y7/3) ローム土中心層
2. 灰黄色土(2.5Y7/2) ローム土20%含む
3. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) ローム土1%、Hr-FP粒(φ1~4mm)含む
4. 浅黄色土(2.5Y7/3) ローム土80%含む
5. 灰黄色土(2.5Y6/2) ローム土3%含む

0 1:60 2m

第141図 22号住居

掘方 床面まで5~18cmほど埋め戻されている。全体に凹凸がある掘方である。床下土坑(長軸1.13m×短軸0.91m×深さ0.26m)とピット3(直径0.36m×深さ0.26m)が検出された。

埋没状態 土層断面の観察では壁際の三角堆積、中央部の流れ込みなどが確認されることから自然堆積による埋没と見られる。

遺物 土師器1点を図示した。土師器(1)は南辺やや東からの出土である。未掲載遺物は、土師器102点、葎石1点である。

時期 土師器(1)や未掲載遺物から、6世紀後半と考えられる。

23号住居(第143図、PL.53・54)

位置 97-G~H-5、97-H-4

重複 なし。

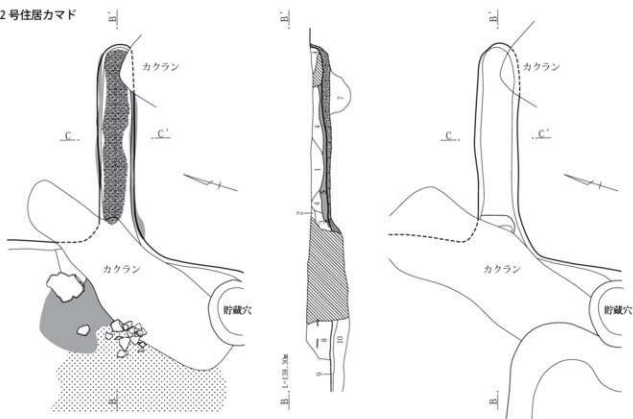
形状 方形

規模 長軸5.38m 短軸(3.97m) 残存深度0.03m

主軸方位 N-77°-E 面積 16.43㎡

カマド 東辺にあったようであるが、カクランにより壊され、かすかに縁を確認したのみで、詳細は不明である。

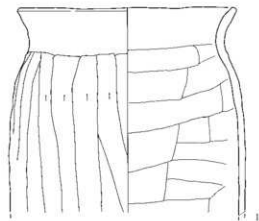
22号住居カマド



22号住居カマドB-B'・C-C'

1. 灰黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)2%含む
2. 灰黄色土(2.5Y7/2) 焼土5%含む、天井の焼土部分の崩落
3. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土粒(φ1~3mm)1%、炭化物2%含む
4. にぶい赤褐色土(5YR5/4) 焼土中心層、天井の焼土部分が崩落したもの、この下に灰層が出てくる
5. 焼土中心層
6. 焼土・灰中心層
7. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) にぶい黄色土(2.5Y6/3)5%含む
8. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~7mm)5%、As-C粒(φ1~2mm)1%、灰黄色土(2.5Y6/2)ブロック状に2%含む、川原田(φ30cm)1個含む
9. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土・焼土粒(φ1~2mm)10%含む
10. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) にぶい黄色土(2.5Y6/4)ブロック状に含む

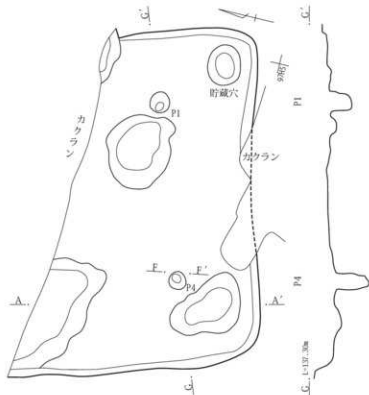
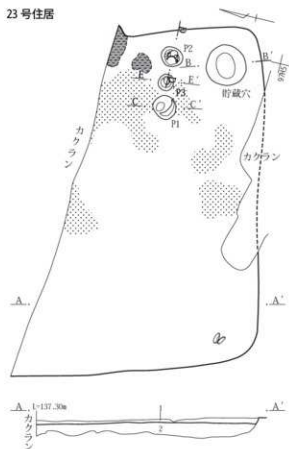
0 1:30 1m



0 1:3 10cm

第142図 22号住居カマドと出土遺物

23号住居



23号住居A-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-PP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~3mm) 1%、灰黄色土(2.5Y7/2)ブロック状に含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) 掘方土



23号住居貯蔵穴B-B'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1~2mm)、炭化物粒、Hr-FA・Hr-PP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)極少量含む
2. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒(φ1~2mm)、Hr-FA・Hr-PP粒(φ1~5mm)、As-C粒(φ1~2mm)極少量含む

23号住居P1・P2 C'-C'・D-D'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1mm)極少量含む

23号住居P3 E-E'

1. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) Hr-FA・Hr-PP粒(φ1mm)、As-C粒(φ1mm) 極少量含む

23号住居P4 F-F'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 炭化物粒(φ1mm)極少量、As-C粒(φ1~2mm) 1%含む



第143図 23号住居と出土遺物

貯蔵穴 南東角より検出、規模は径0.64×0.63m、深さ0.58mを測る。

柱穴 主柱穴は、深さや位置関係からP1・P4である。柱穴の規模(直径×深さ)は、P1:38×48cm P4:30×60cmである。北側にも柱穴があったと考えられるが、重機にて掘り下げてしまったため確認できなかった。

周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。東側半分で部分的に硬化面が確認された。

掘方 床面まで11～24cmほど埋め戻されている。全体に凹凸がある掘方である。

埋没状態 検出時点で床面が若干残っている程度であり、詳細は不明である。

遺物 土師器1点を図示した。土師器高杯(1)はフク土からの出土である。未掲載遺物は、土師器37点である。

時期 土師器高杯(1)や未掲載遺物から、6世紀後半と考えられる。

平坦である。北側に長方形の床下土坑(長軸1.45m×短軸0.94m×深さ0.91m)が検出された。

埋没状態 土層断面の観察では壁際の三角堆積、中央部の流れ込みなどが確認されることから自然堆積による埋没と見られる。

遺物 土師器7点、須恵器1点、磨石?1点を図示した。土師器環(1)はカマド北側床面下から出土した。土師器環(2)は北東側の床面上2cm上と南辺中央床下から出土したものが接合した。土師器環(3)は南辺中央床面3cm上から、土師器鉢(6)はカマド北側床面2cm上から、須恵器蓋(7)は、南東側床面4cmから、土師器小型甕(8)はカマド北側床面直上からの出土である。未掲載遺物は、土師器443点、須恵器1点、敲石1点、磨石1点である。

時期 共存する土師器環(1)や須恵器蓋(7)などの出土遺物から、6世紀後半と考えられる。

24号住居(第144～146図、PL.54～56・105)

位置 97-K・L-4・5

重複 なし。

形状 正方形

規模 長軸5.15m 短軸(4.75m) 残存深度0.65m

主軸方位 N-85°-E **面積** 23.86㎡

カマド 東辺のやや南東角寄りに造られている。規模は、全長1.00m、幅0.27m、燃焼部0.34mを測る。燃焼部の奥側は地山を掘込み、手前側は袖を構築している。天井部は土層断面で崩落している状態が観察できる。燃焼部の奥側から煙道部にかけては壁外に延びるが、カクランにより壊され、詳細は不明である。

貯蔵穴 確認されなかった。

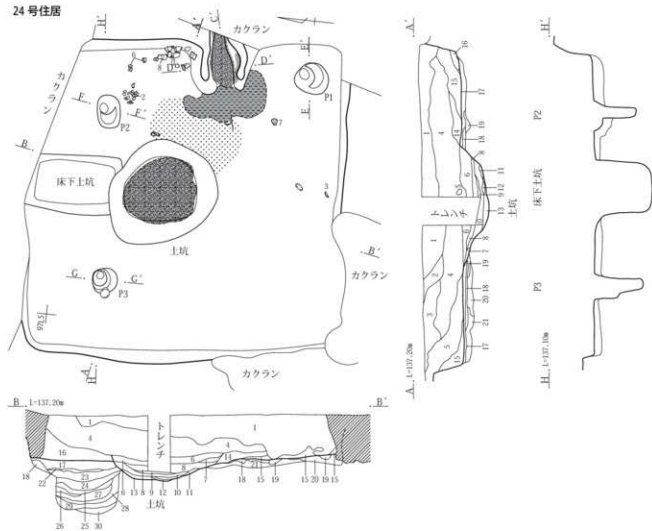
柱穴 主柱穴は、深さや位置関係からP2・P3である。柱穴の規模(直径×深さ)は、P2:53×66cm P3:43×79cmである。

周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。カマド前で硬化面が確認された。中央に円形の土坑(長軸1.84m×短軸1.52m×深さ0.23m)が検出された。土坑の底には、灰・炭化物・焼土が固まっていた。

掘方 床面まで4～17cmほど埋め戻されている。ほぼ

24号住居



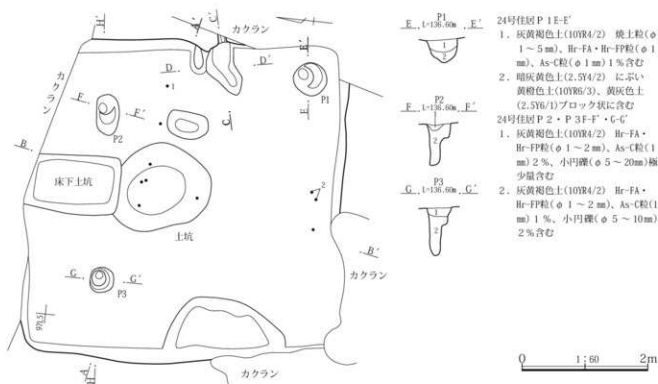
24号住居A-A'・B-B'

1. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~5mm)2%、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
2. 黒褐色土(10YR3/1) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~10mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%、黄褐色土(10YR5/6)ブロック状に含む
5. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~5mm)、As-C粒(φ1mm)1%、黄褐色土(10YR5/6)ブロック状に含む
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) 炭化物2%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
7. 灰黄褐色土(10YR4/2) 炭化物粒、焼土粒(φ1~2mm)2%含む
8. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物・灰・焼土10%含む
9. 褐灰色土(10YR4/1) 灰中心層、炭化物、焼土10%含む
10. 黒褐色土(10YR3/1) 灰中心層、焼土粒(φ1~2mm)1%含む
11. にぶい赤褐色土(5YR5/4) 焼土中心層、焼土60%含む
12. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物中心、にぶい黄褐色土(10YR6/4)5%、焼土10%含む
13. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物中心、にぶい黄褐色土(10YR6/4)10%含む
14. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1~2mm)、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
15. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) 炭化物粒(φ1~2mm)極少量、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
16. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1~3mm)1%含む
17. 黄褐色土(2.5Y5/3) 床上、にぶい黄褐色土(10YR6/4)10%含む
18. 灰黄褐色土(10YR6/2) 灰黄色砂質土(2.5Y6/2)10%含む
19. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
20. 灰黄色土(2.5Y6/2) シルト質に近い土、にぶい黄褐色土(10YR7/4)2%含む
21. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
22. 灰黄色土(2.5Y6/2)
23. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
24. 灰黄色土(2.5Y6/2)
25. 黄灰色土(2.5Y4/1)
26. 黄褐色土(2.5Y4/4)
27. 黄灰色土(2.5Y4/1)
28. 暗灰黄色土(2.5Y5/2)
29. 黄灰色土(2.5Y4/1)
30. 暗灰黄色土(2.5Y5/2)

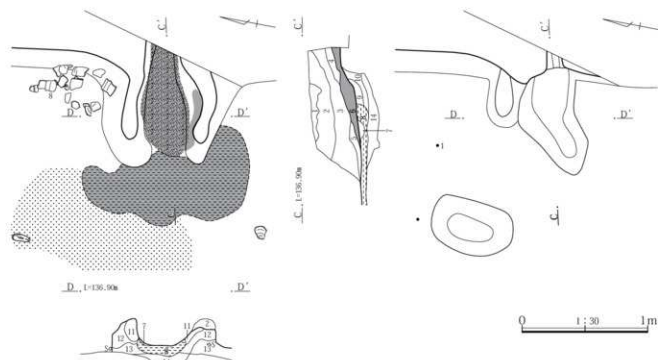
0 1:60 2m

第144図 24号住居

第4章 青柳宿上遺跡の調査内容



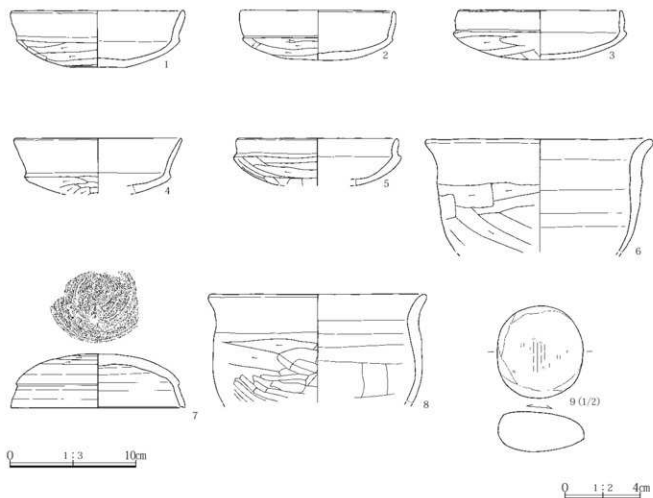
24号住居カマド



24号住居カマドC'-C'・D-D'

1. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~2mm)、As-C粒(φ 1mm) 1%含む
2. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 焼土粒(φ 1~3mm)極少量、Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~5mm)、As-C粒(1~2mm) 1%含む
3. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) 焼土粒(φ 1~2mm) 1%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~3mm)、As-C粒(φ 1mm) 1%含む
4. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土粒(φ 1~20mm) 10%含む
5. にふい黄色土(2.5Y6/3) シルト質土、カマドの天井土崩落したもの
6. 褐灰色土(10YR4/1) 焼土中心層、焼土60%、炭化物・灰10%含む
7. 褐灰色土(5YR5/2) 灰10%、焼土5%、炭化物2%含む、カマド使用面
8. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物中心層(30%)、焼土・灰5%含む
9. 灰褐色土(5YR5/2) 灰20%、焼土2%含む
10. にふい赤褐色(5YR5/3) 灰10%、焼土8%含む
11. にふい赤褐色(2.5Y5/4) カマドの内壁の焼けた部分
12. にふい黄色土(2.5Y6/3) 灰黄褐色土(10YR5/2)ブロック状に含む
13. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土粒(φ 1~3mm) 3%含む
14. 灰黄褐色土(10YR4/2) 灰黄褐色土(10YR4/2) 10%含む

第145図 24号住居掘方とカマド



第146図 24号住居出土遺物

25号住居(第147～149図、PL.56～58・105)

位置 97-J・K-3

重複 なし。

形状 正方形

規模 長軸3.67m 短軸3.34m 残存深度0.86m

主軸方位 N-110°-E 面積 11.87㎡

カマド 東辺の中央に造られている。規模は、全長0.52m、幅0.35m、燃焼部0.34mを測る。燃焼部の奥側は地山を掘込み、手前側は袖を構築している。カマドから土師器高杯(4)が出土した。支柱として使われていた可能性がある。燃焼部の奥側から煙道部にかけては壁外に40cmほど延びる。

貯蔵穴 南東角より検出、規模は径0.54×0.50m、深さ0.11mを測る。土師器杯(1)と土師器甕(8)が出土した。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。カマド前で硬化面が確認された。

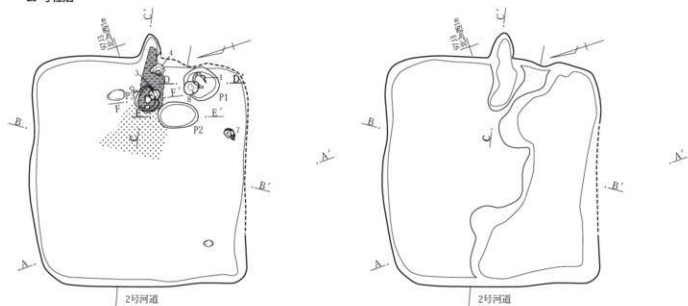
掘方 床面まで2～25cmほど埋め戻されている。ほぼ平坦であるが、南側は河川跡にあたり砂層となっており、掘方をはっきり確認できなかった。

埋没状態 土層断面の観察では中央部の流れ込みなどが確認されることから自然堆積による埋没と見られる。

遺物 土師器7点、須恵器2点を図示した。土師器杯(3)はカマド前床面直上から、土師器甕(7)は南辺やや東床面直上からの出土である。未掲載遺物は、土師器163点、須恵器3点である。

時期 共存する土師器杯(1)や土師器高杯(4)などの出土遺物から、6世紀後半と考えられる。

25号住居



25号住居A-A'・B-B'

1. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~8mm)2%, As-C粒(φ 1~2mm)1%含む
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 炭化物粒(φ 1~2mm)極少量, Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~5mm), As-C粒(φ 1~2mm)1%含む
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~7mm), As-C粒(φ 1~2mm)1%含む
4. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 炭化物粒(φ 1~8mm), Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~10mm), As-C粒(φ 1~2mm)1%含む
5. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 炭化物粒(φ 1~2mm)極少量, 明黄褐色土(10YR6/5)ブロック状に, Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~2mm), As-C粒(φ 1~2mm)1%含む
6. 黄灰色土(2.5Y5/1) やや粘性あり, 床土構成土
7. 褐灰色土(10YR5/1) やや粘性あり, Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~2mm), As-C粒(φ 1mm)1%, にぶい黄褐色土(10YR6/4)10%含む
8. 灰黄褐色土(10YR4/2) にぶい黄褐色土(10YR6/4)3%, Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~2mm), As-C粒(φ 1~2mm)1%含む
9. 黒褐色土(10YR3/2) As-C粒(φ 1~2mm)2%含む
10. にぶい黄褐色土(10YR5/2)

25号住居P 1D-B'

1. 灰白色土(10YR7/1) シルト質~砂質土, 焼土粒(φ 1~2mm)極少量含む
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) にぶい黄褐色土(10YR6/4)ブロック状に, Hr-FA・Hr-FP粒(φ 1~2mm), As-C粒(φ 1mm)1%含む

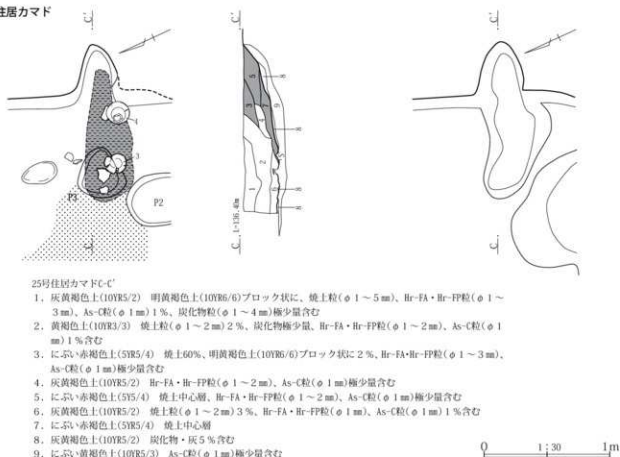
25号住居P 2・P 3E-E'・F-F'

1. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒(φ 1~10mm)5%, にぶい黄褐色土(10YR6/4)ブロック状に含む



第147図 25号住居

25号住居カマド



第148図 25号住居カマド

26号住居(第150~153図、PL.58~60・105・106)

位置 97-N・0-3

重複 2号河道と重複する。新旧関係は、本住居の方が新しい。

形状 正方形

規模 長軸4.92m 短軸4.57m 残存深度0.35m

主軸方位 N-86°-W 面積 22.20㎡

カマド 西辺のやや北西角寄りに造られている。規模は、全長1.83m、幅0.46m、燃焼部0.45mを測る。燃焼部の奥側は地山を掘込み、手前側は袖を構築している。袖には礎を補強に使用している。天井部は土層断面で崩落している状態が観察できる。カマドから土師器甕(7・9・12)が出土した。燃焼部の奥側から煙道部にかけては壁外に120cmほど延びる。

貯蔵穴 北西角より検出、規模は径0.76×0.58m、深さ0.20mを測る。

柱穴 確認されなかった。

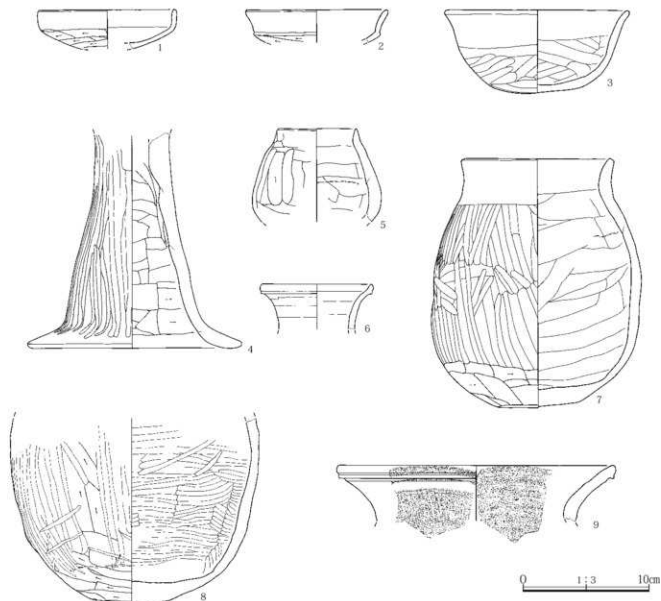
周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。カマド前で硬化面が確認された。掘方 床面まで1~10cmほど埋め戻されている。北側のローム層は凹凸ある掘方であるが、南側は25号住居と同じように河川跡にあたり砂層となっており、掘方をはっきり確認できなかった。床下に溝状遺構(幅0.60~0.94×残存深度0.19~0.29m×調査長4.36m)が検出された。

埋没状態 土層断面の観察では壁際の三角堆積、中央部の流れ込みなどが確認されることから自然堆積による埋没と見られる。

遺物 土師器12点、須恵器1点、土玉1点、磨石1点を図示した。カマド前から出土した土師器環(3)・土師器小型壺(6)・土師器甕(7・9・10・11)はいずれも粉々な状態で出土している。さらに、床下にある溝状遺構の遺物と接合するものも多い。土師器環(1)は中央やや南東の床面直上から、土師器環(3)はカマド前床面2cm上から、土師器鉢(5)は中央やや北東床面3cm上から、土師器甕(10)はカマド前2cm上から、土師器甕(11)はカマ

第4章 青柳宿上遺跡の調査内容



第149図 25号住居出土遺物

下前と貯蔵穴床面直上から、須恵器小型甕(13)は南辺中央床面3cm上からの出土である。未掲載遺物は、土師器608点、須恵器2点、敲石1点、磨石1点である。

時期 共存する土師器坏(3)や土師器甕(7)などの出土遺物から、6世紀後半と考えられる。

27号住居 (第154・155図、PL.60・61・64・106)

位置 97-Q-R-4・5

重複 半円形の窟地と重複する。新旧関係は、本住居の方が新しい。

形状 正方形

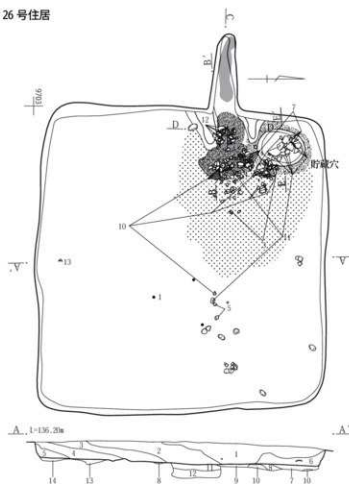
規模 長軸3.33m 短軸3.18m 残存深度0.57m

主軸方位 N-63°-E **面積** 10.45㎡

カマド 東辺の中央に造られている。規模は、全長1.04m、幅0.30m、燃焼部0.45mを測る。燃焼部の奥側は地山を掘込み、手前側は袖を構築している。両袖には礫を補強に使用している。天井部は土層断面で崩落している状態が観察できる。燃焼部の奥側から煙道部にかけては壁外に47cmほど延びる。

貯蔵穴 南東角より検出、規模は径0.56×0.53m、深さ

26号住居



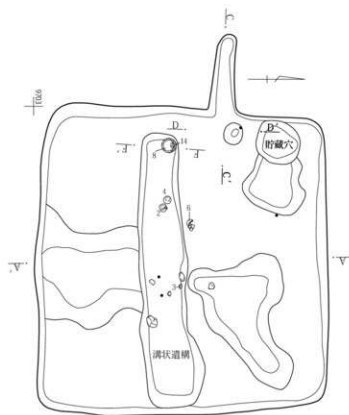
26号住居・溝状遺構A'-F-F'

1. 黒褐色土(10YR3/1) にぶい黄色土(2.5Y6/2)粒(ϕ 2~4mm)、Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~5mm)、As-C粒(ϕ 1~2mm) 1%含む
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) にぶい黄色土(2.5Y6/3)ブロック状に10%、Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~10mm)、As-C粒(ϕ 1~2mm) 1%含む
3. 灰黄褐色土(10YR5/2) にぶい黄色土(2.5Y6/3)ブロック状に少量、Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~3mm)、As-C粒(ϕ 1~2mm) 1%含む
4. 灰黄褐色土(10YR5/2) 灰黄褐色土(10YR6/2)層状に、Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~20mm)、As-C粒(ϕ 1~2mm) 1%含む
5. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~3mm)、As-C粒(ϕ 1~2mm) 1%含む
6. 黒褐色土(10YR3/2) 砂質土 5%、Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~3mm)、As-C粒(ϕ 1~2mm) 1%含む
7. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm)、As-C粒(ϕ 1mm) 1%含む
8. 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2)
9. 黒褐色土(10YR3/1) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~3mm)、As-C粒(ϕ 1~2mm) 1%含む
10. 灰白色砂質土(2.5Y7/1)
11. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm)、As-C粒(ϕ 1mm) 1%含む
12. 灰黄褐色土(10YR5/2) 灰黄色土(2.5Y7/2)の粘性土極少量含む
13. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~4mm)、As-C粒(ϕ 1~3mm) 1%、灰白色土(2.5Y7/1)の粘性土極少量含む
14. 褐灰色土(10YR4/1) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm)、As-C粒(ϕ 1~2mm)極少量含む



26号住居貯蔵穴E-E'

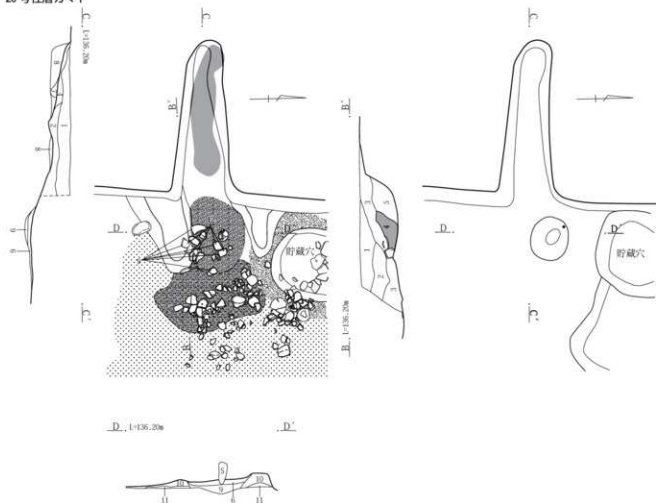
1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(ϕ 1~2mm)極少量、Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm)、As-C粒(ϕ 1~2mm) 1%含む
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) にぶい黄色土(10YR6/4)ブロック状に、Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~4mm)、As-C粒(ϕ 1mm)極少量含む



第150図 26号住居

0 1:60 2m

26号住居カマド



26号住居カマドB-B'・C-C'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1~5mm)、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
2. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~8mm)、As-C粒(φ1~2mm)2%含む
3. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土粒10%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~2mm)極少量含む
4. 焼土中心層 焼土80%、天井の壁の焼土転落したもの
5. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土粒(φ1~3mm)極少量含む

6. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物中心層30%、焼土10%、灰白色土(10YR7/1)の粘質土極少量含む
7. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土粒(φ1~2mm)2%含む
8. 黄灰色土(2.5Y5/1) 焼土2%、炭化物1%含む
9. 灰黄褐色土(10YR4/2) にぶい黄褐色土5%含む
10. 灰黄褐色土(10YR5/2) 灰色粘質土含む
11. 灰黄褐色土(10YR5/2)

0 1:30 1m

第151図 26号住居カマド

0.22mを測る。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。カマド前で硬化面が確認された。

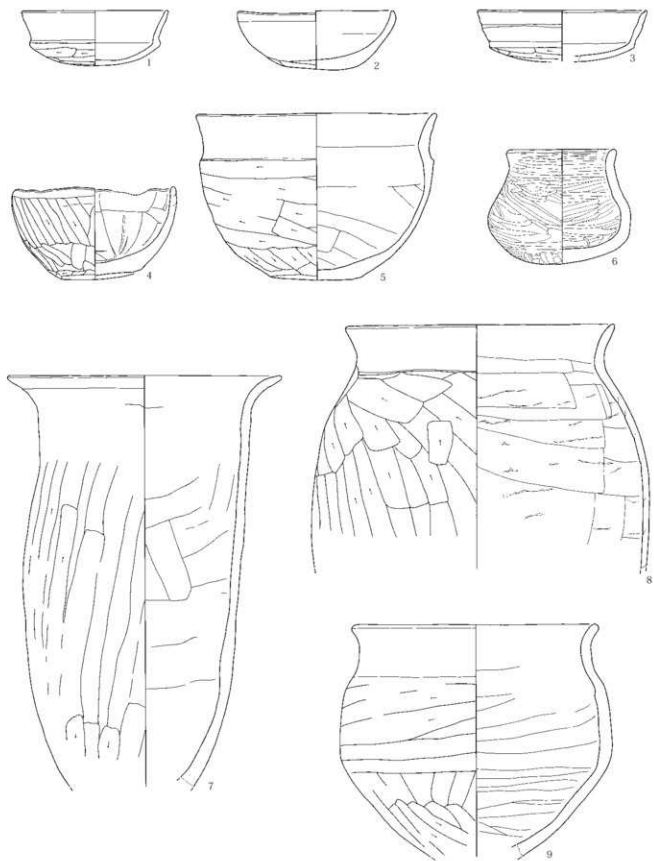
掘方 床面まで2~13cmほど埋め戻されている。半円形の窪地内を掘っており、ほぼ平坦である。

埋没状態 土層断面の観察では壁際の三角堆積、中央部の流れ込みなどが確認されることから自然堆積による埋

没と見られる。

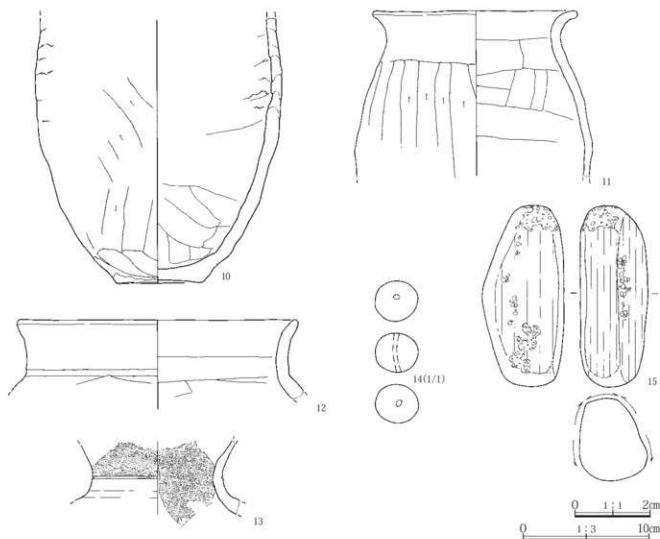
遺物 土師器2点を図示した。土師器(1)はカマドから、土師器(2)はフク土からの出土である。未掲載遺物は、土師器26点、敲石1点である。

時期 出土遺物から、6世紀後半と考えられる。



0 1:3 10cm

第152図 26号住居出土遺物(1)



第153図 26号住居出土遺物(2)

28号住居(第156・157図、PL.61・62・64・106)

位置 97-P・Q-4・5

重複 半円形の窪地と重複する。新旧関係は、本住居の方が新しい。

形状 正方形

規模 長軸2.90m 短軸2.89m 残存深度0.56m

主軸方位 N-60°-E **面積** 8.22㎡

カマド 東辺の南東角寄りに造られている。規模は、全長1.70m、幅0.26m、燃焼部0.25mを測る。燃焼部の奥側は地山を掘込み、手前側は袖を構築している。両袖には礫を埋め込んで天井部の礫を支える補強に使用している。天井部は土層断面で崩落している状態が観察できる。カマドから土師器環(1)が出土した。燃焼部の奥側から煙道部にかけては壁外に122cmほど延びる。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。カマド前で硬化面が確認された。

掘方 床面まで3~23cmほど埋め戻されている。半円形の窪地内を掘っており、ほぼ平坦である。

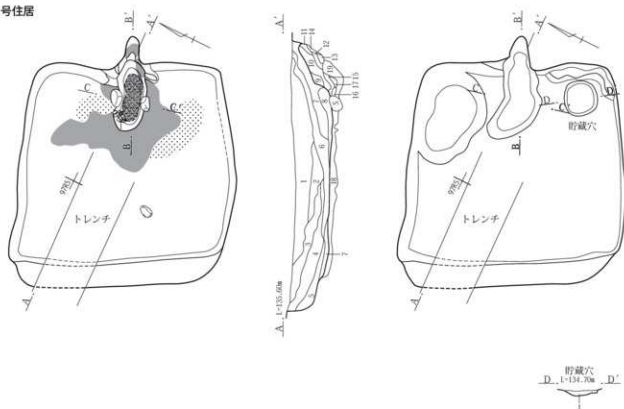
埋没状態 土層断面の観察では壁際の三角堆積が確認されることから自然堆積による埋没と見られる。

遺物 土師器3点、磨石1点を図示した。土師器環(1)はカマドから、その他はフク土からの出土である。未掲載遺物は、土師器20点である。

時期 共存する土師器環(1・2)などの出土遺物から、6世紀後半と考えられる。

所見 掘方からフク土にかけて、液状化現象の痕跡と見られる噴砂跡が検出された。

27号住居



27号住居A-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(ϕ 1~2mm) 1%, Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~5mm), As-C粒(ϕ 1~2mm) 2%含む
2. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~4mm), As-C粒(ϕ 1mm) 1%含む
3. 灰黄褐色土(10YR6/2) 褐灰色砂質土(10YR5/1) 5%, Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~3mm), As-C粒(ϕ 1mm) 1%含む
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~20mm), As-C粒(ϕ 1~3mm) 2%含む
5. 灰黄褐色土(10YR5/2) 褐灰色砂質土(10YR5/1) 20%, Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm), As-C粒(ϕ 1~2mm) 1%含む
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(ϕ 1~2mm) 極少量, Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~20mm), As-C粒(ϕ 1mm) 1%含む
7. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~3mm), 焼土粒(ϕ 1~3mm) 含む
8. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土粒(ϕ 1mm) 1%, 褐灰色砂質土(10YR5/1) 5%含む
9. にぶい黄褐色土(10YR5/4) やや粘性あり, カマドの袖土
10. にぶい黄褐色土(10YR6/3) 焼土粒(ϕ 1~30mm) 20%, 炭化粒(ϕ 2~4mm) 1%含む
11. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土粒(ϕ 1~2mm) 1%含む
12. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土粒 20%, 灰 10%含む
13. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒 10%含む
14. 褐灰色土(10YR5/1) 焼土粒 30%含む
15. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土・灰 3%含む
16. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒 5%含む
17. 褐灰色土(10YR6/1) 灰中心部 80%含む
18. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土粒(ϕ 1~2mm) 極少量, Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~3mm), As-C粒(ϕ 1mm) 含む
19. 褐灰色土(10YR4/1) 黒褐色土(10YR3/1)と褐灰色土(10YR6/1)の混土

27号住居貯蔵穴D-D'

1. 黄灰色砂質土(2.5Y5/1) 焼土粒(ϕ 1~2mm) 極少量含む

0 1:60 2m

第154図 27号住居

29号住居(第158~160図、PL.62~64・106)

位置 97-I-M-2・3

重複 2号河道と重複する。新旧関係は、本住居の方が新しい。

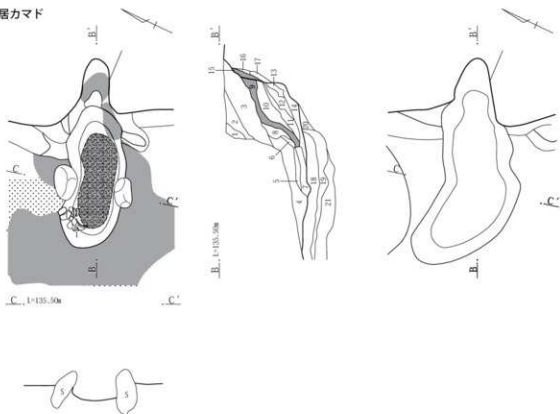
形状 長方形

規模 長軸5.08m 短軸3.26m 残存深度0.98m

主軸方位 N-80°-E 面積 17.16㎡

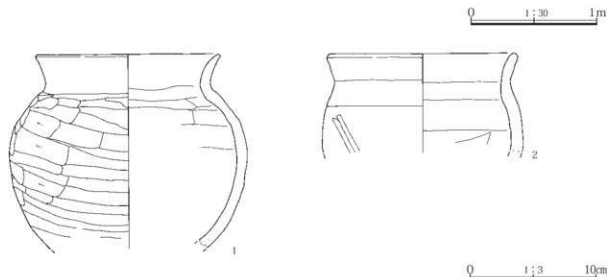
カマド 東辺の中央に造られている。規模は、全長0.39

27号住居カマド



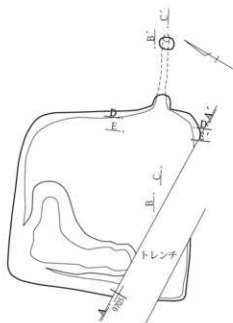
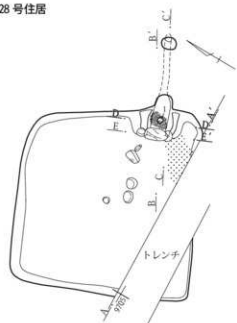
27号住居カマドB-B'・C-C'

1. 灰黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA-Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm) 1%含む
2. 灰黄色砂質土(2.5Y6/2)
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm) 1%、焼土粒(φ1~3mm) 2%含む
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1~2mm) 2%含む
5. 褐灰色土(10YR4/1) 灰白色(10YR7/1)シルト質土 5%含む
6. 褐灰色土(10YR4/1) 焼土・灰白色(10YR7/1)シルト質土 2%含む
7. 灰白色シルト質土(10YR7/1) 灰白色シルト質土中心層
8. にぶい黄色土(2.5Y6/3) 砂質土に近い層、天井に使用した土が崩落したもの
9. にぶい赤褐色土(5YR5/3) 焼土中心層(70%)
10. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 焼土10%、炭化物1%含む
11. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土5%、炭化物10%含む
12. 灰黄褐色土(10YR4/2) 明褐色土(7.5YR4/2)ブロック状に含む
13. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土、炭化物1%含む
14. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土40%、炭化物30%含む
15. にぶい赤褐色土(5YR5/4) 焼土中心層(90%)崩壊した焼土
16. 褐灰色土(5Y4/1) 焼土5%含む
17. にぶい赤褐色土(5YR5/4) 焼壁、焼土化した壁
18. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土粒(φ1~2mm) 2%、炭化物20%含む
19. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土粒(φ1~10mm) 5%、灰白色シルト質土(10YR8/1)
20. 褐灰色シルト質土(10YR5/1)
21. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 灰白色シルト質土(10YR7/1) 30%、焼土粒(φ1~3mm)、炭化物2%含む



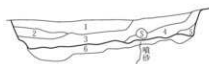
第155図 27号住居カマドと出土遺物

28号住居



A, 1-136.0m

A'



28号住居A-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)2%含む
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土粒(φ1~3mm)極少量、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒(φ1~2mm)極少量、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~5mm)、As-C粒(φ1~2mm)2%含む
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
5. 灰黄褐色土(10YR6/2) にふい黄褐色土(10YR6/4)5%含む
6. 灰黄褐色土(10YR6/2) にふい黄褐色土(10YR6/3)30%、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)2%含む

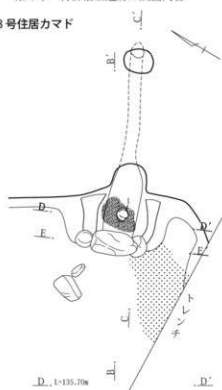
0 1:60 2m



0 1:3 10cm

第156図 28号住居と出土遺物

28号住居カマド



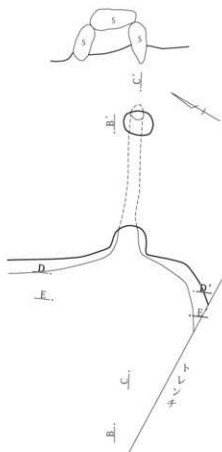
D, 1:135.70m

B, 1:135.70m

D'

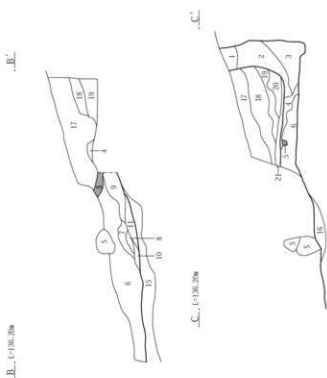
E, 1:135.70m

E



B, 1:135.70m

D'



B, 1:136.30m

C, 1:136.30m

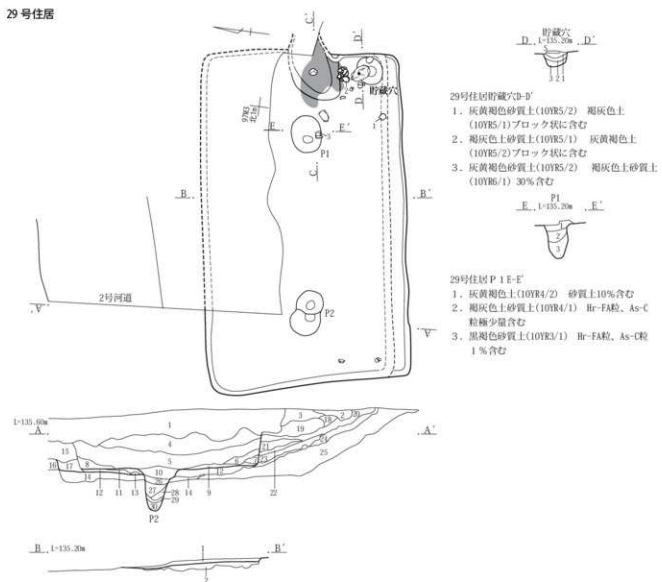
28号住居カマドB-B'～D-D'

1. にぶい黄褐色シルト質土(10YR7/2)
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-PP粒(φ1～2mm)、As-C粒(φ2mm)、焼土粒(φ1～3mm)極少量含む
3. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-PP粒(φ1～2mm)、As-C粒(φ2mm)、焼土粒(φ1～3mm)2%含む
4. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 焼土2%含む
5. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 焼土中心層、煙突の天井の一部
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-PP粒(φ1～2mm)、As-C粒(φ2mm)2%、灰黄褐色土(10YR6/2)ブロック状に含む
7. 明黄褐色土(2.5Y6/8) ブロック状に入ったもの
8. 灰黄褐色土(10YR4/2)
9. 黄灰色土(2.5Y4/1) 焼土粒(φ1～2mm)2%、As-C粒(φ1～4mm)3%含む
10. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物10%含む
11. 灰黄褐色土(10YR4/2) にぶい黄褐色土(10YR5/4)ブロック状に含む、灰5%含む
12. 焼土面
13. 灰黄褐色土(10YR4/2) にぶい黄褐色土(10YR7/2)ブロック状に含む
14. にぶい黄褐色土(10YR7/2) シルト質土、袖土
15. 灰黄褐色土(10YR4/2) にぶい黄褐色土(10YR5/4)ブロック状に、As-C粒(φ1～2mm)、Hr-FA・Hr-PP粒(φ1～2mm)1%含む
16. 黒褐色土(10YR3/1) にぶい黄褐色土(10YR5/2)5～20%、左袖は5%、右袖は20%で混じり多い
17. 黒褐色土(10YR3/2) As-C粒(φ1～8mm)20%含む
18. 灰黄褐色土(10YR5/2) 白色粒(φ1～2mm)1%含む
19. にぶい黄褐色土(10YR6/4) 白色粒(φ1～2mm)極少量含む
20. 暗灰黄色土(2.5Y5/2)
21. 明赤褐色土(2.5YR5/6)

0 1:30 1m

第157図 28号住居カマド

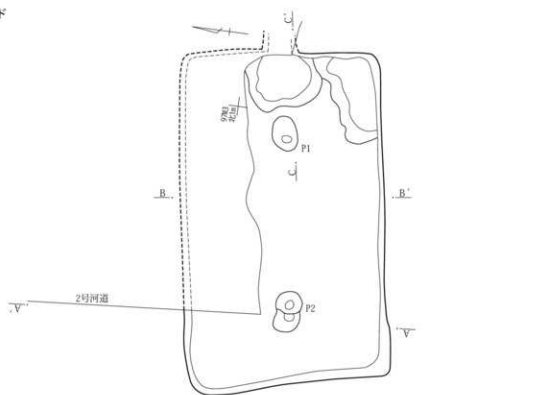
29号住居



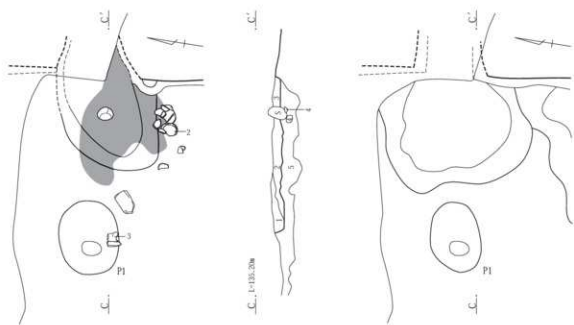
29号住居A-A'

1. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-珪粒(ϕ 1~10mm)、As-C粒(ϕ 1~3mm) 3%含む
 2. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-珪粒(ϕ 1~2mm)、As-C粒(ϕ 1mm) 1%含む
 3. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-珪粒(ϕ 1~3mm)、As-C粒(ϕ 1~2mm) 1%含む
 4. 灰黄褐色土(10YR4/2) 砂質系土、焼土粒(ϕ 1~3mm)極少量、Hr-FA・Hr-珪粒(ϕ 1~4mm)、As-C粒(ϕ 1~2mm) 1%含む
 5. 褐灰色土(10YR4/1) 砂質系土、褐灰色砂質土(10YR5/1) 20%、にぶい黄褐色シルト質土(10YR6/4) 5%含む
 6. 褐灰色砂質土(10YR4/1) にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3) 30%含む
 7. 黄灰色砂礫土(2.5Y5/1) 円礫(ϕ 1~3cm) 5%含む
 8. 褐灰色土(10YR4/1) 砂質系土、にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3) 5%含む
 9. 灰黄褐色土(10YR4/2) 砂質系土、褐灰色砂質土(10YR5/1) 20%含む
 10. 黄灰色砂質土(2.5Y5/1)
 11. 暗灰黄色シルト質土(2.5Y5/2)
 12. 灰白色シルト質土(10YR7/1)
 13. 灰色砂質土(N5/) 粗砂土
 14. 灰白色砂質土(10YR7/1) 褐灰色土(10YR4/1)を10%含む
 15. 黒褐色土(10YR3/2) As-C粒(ϕ 1~3mm) 2%含む
 16. 灰白色シルト質土(10YR7/1)
 17. 褐灰色砂質土(10YR4/1)
 18. 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 砂礫土 5%含む
 19. 灰白色砂礫土(10YR7/1) 円礫(ϕ 1~5mm) 10%含む
 20. 灰黄褐色土(10YR4/2) 灰黄色シルト質土(2.5Y7/2) 20%含む
 21. 黄灰色砂礫土(2.5Y6/1) 円礫(ϕ 1~3mm) 10%含む
 22. 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) にぶい黄褐色シルト質土(10YR7/2) 30%含む
 23. にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3)
 24. Hr-FA中心層 Hr-FA粒(ϕ 1~30mm)下層に多く含む
 25. 黒褐色土(10YR3/1) As-C粒(ϕ 1~5mm) 5%、Hr-AA(棒名有馬)粒(ϕ 1~4mm) 1%含む
 26. 黒褐色土(10YR3/2) 砂質系土
 27. 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) 粗砂
 28. 黄灰色砂質土(2.5Y4/1)
 29. 黄灰色土(2.5Y4/1) にぶい黄褐色土(10YR6/3) Hr-FA土10%含む
 30. 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性あり
- 29号住居B-B'
1. 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 褐灰色砂質土(10YR5/1)ブロック状に含む
 2. 灰白色砂質土(10YR7/1) 褐灰色土(10YR4/1) 10%含む
- 0 1:60 2m

29号住居カマド



0 1:60 2m



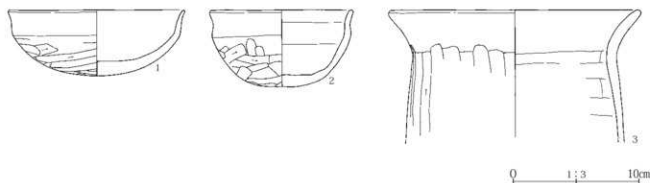
29号住居カマドC-C'

1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 炭化物(φ 1~10mm)極少量含む
2. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒(φ 1~20mm) 3%含む
3. 黄灰色砂質土(2.5Y5/1) 焼土粒(φ 1~10mm) 2%含む

4. にぶい黄褐色砂質土
5. 灰白色砂質土(10YR7/1) 褐灰色土(10YR4/1) 10%含む
6. にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) 地山

0 1:30 1m

第159図 29号住居掘方とカマド



第160図 29号住居出土遺物

m、幅0.64m、燃焼部0.55mを測る。燃焼部の奥側は旧河道である砂層を掘込み、手前側は袖を構築していたようであるが詳細は不明である。

貯蔵穴 南東角より検出、規模は径0.46×0.40m、深さ0.25mを測る。

柱穴 主柱穴は、深さや位置関係からP1・P2である。柱穴の規模(直径×深さ)は、P1:59×81cm・P2:72×73cmである。

周溝 確認されなかった。

床面 ほぼ平坦である。硬化面は確認されなかった。

掘方 床面まで1～21cmほど埋め戻されている。2号河道内を掘っており、ほぼ平坦である。

埋没状態 土層断面の観察では壁際の三角堆積、中央部の流れ込みなどが確認されることから自然堆積による埋没と見られる。

遺物 土師器3点を図示した。土師器環(1)はフク土から、土師器環(2)と土師器甕(3)は、床面直上からの出土である。未掲載遺物は、土師器56点である。

時期 共伴する土師器環(2)や土師器甕(3)などの出土遺物から、6世紀後半と考えられる。

所見 2号河道内を掘込んで、竪穴住居を造っている。

3. 竪穴状遺構

「竪穴状遺構」とは、竪穴住居とするには、炉・カマド・柱穴といった施設がないため人の居住の痕跡が乏しい。また、土坑とするには、規模が大きいためである。1号竪穴状遺構は、6号住居の南側に位置し、大きなカクランにより壊されていた。

1号竪穴状遺構(第161図、PL.66・106)

位置 97-II-13・14

重複 1号土坑と重複する。新旧関係は、1号土坑の方が新しい。

形状 方形か。カクランにより北辺、東辺、南辺を欠く。

規模 長軸(2.70m) 短軸(2.20m) 残存深度0.55m

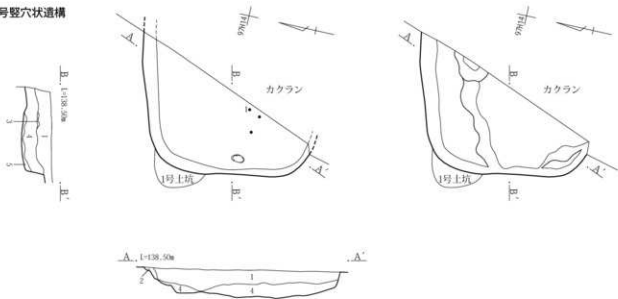
主軸方位 N-9-W* 面積 3.42㎡

埋没土 Hr-FA・Hr-FP、As-Cを含む灰黄褐色土、にぶい黄褐色土を斑紋状に含むにぶい黄褐色土が水平堆積していた。

遺物 土師器1点を図示した。カクランに接する中央やや南西23cm上から土師器環(1)が出土した。未掲載遺物は、土師器1点である。

時期 出土した土師器環(1)から、6世紀後半と考えられる。

1号竪穴状遺構



1号竪穴状遺構A-A'・B-B'

1. 灰黄褐色土(10/R4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)2%含む、しまりやや弱い
2. にぶい黄褐色土(10/R5/4) 壁の崩落土
3. 灰黄褐色土(10/R4/2) にぶい黄褐色土(10/R5/3)ブロック(φ5cm大)含む
4. にぶい黄褐色土(10/R5/3) にぶい黄褐色土(10/R6/4)斑紋状に含む
5. にぶい黄褐色土(10/R5/4) にぶい黄褐色土20%含む



第161図 1号竪穴状遺構と出土遺物

4. 溝

調査区の98区から87区にかけて、北西から南東に下る1号溝を検出した。溝内には、水が流れた形跡があり、出土遺物から古墳時代後期の遺構と考えられる。分岐点には、大きめな礫を積んで水の流れを調整した痕跡が確認された。

1号溝 (第162～165図、PL.66～69・106)

位置 87-I-17 87-J-16～19 87-K-17～20
97-K・L-1・2 97-M・N・O-2 97-P・Q-2・3
97-R・S-3・4 97-T-4～6 98-A-5
～7 98-B-7・8・11～14 98-C-8～14
98-D-10～14

走行 N-63°-W

重複 2号河道と1号道と重複する。新旧関係は、本道構の方が2号河道より新しく、1号道より古い。

形状 走行は北西部のはじめの部分は地形の傾斜に直交し、98区から97区にかけては直線的に北西から南東へ、97区から87区にかけては途中急激に角度を直角に曲げ南へ、98区でも直角に曲げ東に向かう。この先は1号道の重複により確認できなかった。確認面での上幅2.70m、底面幅0.50m、調査長129.8m、断面は逆台形状、残存深度1.0mである。

埋没状態 埋没土は砂が主体であり、水の流れた形跡が確認できる。また、水の流れにより砂が溜まると再び、溝を掘り返して水が流れるようにしている様子が土層断面より確認できた。

遺物 土師器鉢(1・2)、土師器台付甕(3)を図示した。土師器鉢(1)は、98-A-6グリッドから、土師器鉢(2)は、87-K-19・20から、土師器台付甕(3)は、97-M-2から出土した。未掲載遺物は土師器201点、須恵器6点、磨石?1点である。また、フク土より馬歯が出土した。

時期 出土遺物から、古墳時代と考えられる。

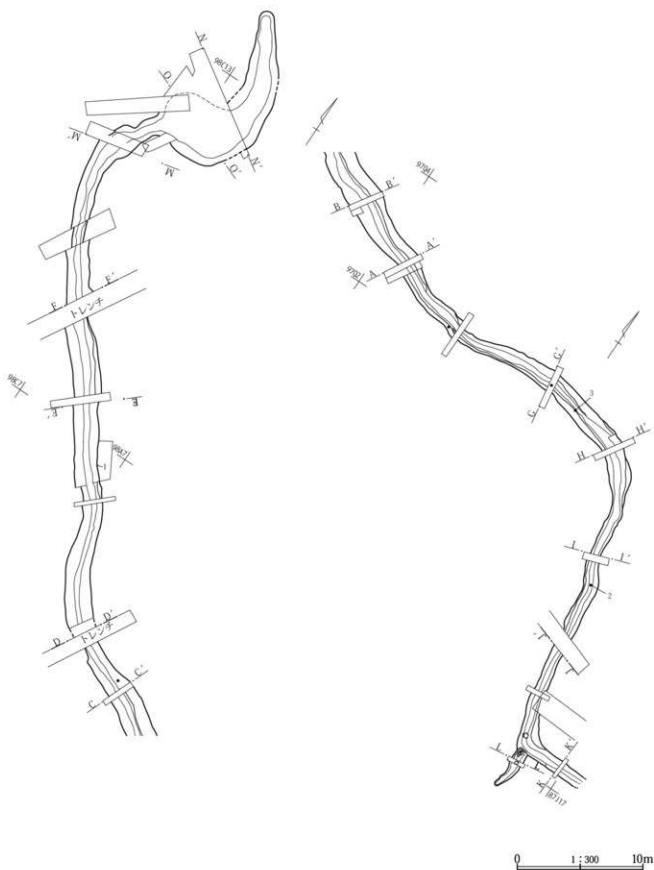
所見 1号溝の土層断面では、川砂の堆積により埋没している様子が観察された。これは、水路として利用されている間は何度も掘り返して使用していたが、ある時期から使われなくなり埋没した結果と考えられる。調査区内北端の98区には1号溝が若干広がっている所があり、貯水池とも考えたが詳細は不明である。

また、南側の土層断面L-L'周辺の流路の変換点では意図的に1号溝の中へ、円礫を入れ水の流れを調整している。

出土遺物から1号溝を古墳時代のもつと判断したが、この時代の遺構との重複関係はない。しかしAs-Cの地すべりが確認された33号トレンチにおいて、Hr-FAが堆積したあと、1号溝が掘込まれていた。このことから古墳時代の後期以降のものであると考えられる。

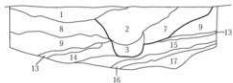
なお、1号溝から出土した馬歯は、分析結果より9歳～10歳の牡馬のものであり、馬格は日本の中型在来馬相当であることが判明している。ただし性別については、不明である。(第5章第4節参照)

1号溝

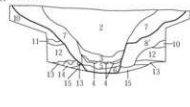


第162図 1号溝

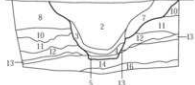
A, I=135.60m, A'



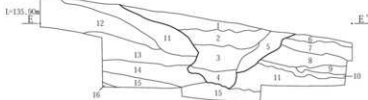
B, I=135.60m, B'



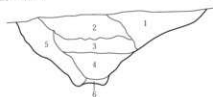
C, I=135.60m, C'



D, I=136.00m, D'



E, I=136.30m, E'



1号溝E-E'

1. 灰黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~3mm), As-C粒(ϕ 1~2mm) 1%含む
2. 灰黄色砂質土(2.5Y6/2)
3. 黄灰色砂質土(2.5Y5/1) 粗砂, 特に上層の砂が粗い
4. 暗灰黄色砂礫土(2.5Y5/2) 小円礫(ϕ 0.5~7cm) 20%含む
5. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~3mm), As-C粒(ϕ 1~2mm) 2%含む
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~4mm), As-C粒(ϕ 1~3mm) 1%含む
7. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~50mm), As-C粒(ϕ 1~3mm) 2%含む
8. 灰黄褐色砂礫土(10YR4/2) 円礫(ϕ 1~10mm) 5%含む
9. 灰黄褐色土(10YR4/2)
10. 黄褐色土(10YR5/6) Hr-FA中心層, 明瞭なユニットなし
11. 黒褐色土(10YR3/1) As-C粒(ϕ 1~3mm) 3%含む
12. にぶい黄色土(2.5Y6/4) 円礫(ϕ 1~3mm) 3%含む
13. 黄褐色土(10YR5/6) 礫(ϕ 1~5cm) 1%含む
14. 灰色砂質土(5Y5/1) 円礫(ϕ 1~3cm) 1%含む, 洪水層
15. 灰黄褐色土(10YR4/2) 縄文早期包含層が下りてきた層に対応する可能性あり(VII・VIII層に対応する可能性あり)
16. 黄灰色砂質土(2.5Y5/1)

1号溝A'-C'

1. 灰黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~3mm), As-C粒(ϕ 1~4mm) 2%含む
2. 灰黄色砂礫土(2.5Y6/2) 砂質土中心, 場所により, 円礫混じりの比率異なる円礫(ϕ 1~50mm) 5~30%含む
3. 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) 灰黄色砂質土(2.5Y6/2) 10%含む
4. 灰黄褐色シルト質土(10YR3/2) 一部砂質土含む
5. にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4) FA粒(ϕ 1~3mm) 1%含む
6. 褐灰色土(10YR4/1) 砂質土とブロック状にやや粘性味のある土が混じる
7. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm), As-C粒(ϕ 1~2mm) 1%含む
8. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~3mm), As-C粒(ϕ 1~2mm) 1%含む
8. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm), As-C粒(ϕ 1~2mm) 1%, 砂礫(ϕ 1~3mm) 極少量含む
9. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C粒(ϕ 1~2mm), 黄灰色土(2.5Y6/1) 極少量含む
10. 黒褐色土(10YR3/3) ブロック状に含み, Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~5mm) 1%含む
11. 黄灰色砂礫土(2.5Y5/1) 小円礫(ϕ 1~5mm) 10%含む
12. 暗灰褐色細砂質土(2.5Y5/2)
13. にぶい黄褐色土(10YR5/4) Hr-FA軽石粒(ϕ 1~5mm) 20%含む
14. 黒褐色土(10YR3/1) As-C粒(ϕ 1~3mm) 2%含む
15. 褐灰色土(10YR4/1) やや粘性あり, 灰黄褐色土(10YR6/2) ブロック状に含む
16. 黄灰色砂質土(2.5Y5/1)
17. 灰黄褐色土(10YR5/2) にぶい黄色土(2.5Y6/3) ブロック状に含む

1号溝D-D'

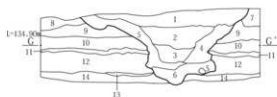
1. 灰黄色砂質土(2.5Y6/2)
2. 黄灰色砂礫土(2.5Y6/1) 小円礫(ϕ 1~5mm) 30%含む
3. 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm)・As-C粒(ϕ 1mm) 1%含む
4. 褐灰色砂質土(10YR4/1) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~3mm) 1%含む
5. 黄灰色砂質土(2.5Y5/1) 灰白色シルト質土(10YR7/1) 5%含む

1号溝F-F'

1. 黒褐色土(10YR3/2) 円礫(ϕ 1~50mm) 5%含む
2. 黒褐色土(10YR3/2)
3. 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)
4. 褐灰色砂質土(10YR5/1)
5. 灰黄褐色土(10YR4/2) 円礫(ϕ 1~20mm) 2%含む
6. にぶい黄褐色砂礫土(10YR5/4) 円礫(ϕ 1~20mm) 2%含む

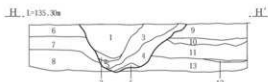
0 1:60 2m

第4章 青柳宿上遺跡の調査内容



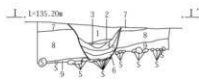
1号溝G-G'

1. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~4mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
2. 灰黄色砂質土(2.5Y6/2) 炭化粒(φ2mm)極少量、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
3. 黄灰色砂質土(2.5Y5/1) 粗砂
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) にぶい黄褐色土(10YR7/2)2%含む
5. 灰黄褐色土(10YR5/2) 砂質系土
6. 黄灰色砂質土(2.5Y5/1) 円礫(φ0.5~5.5mm)2%含む
7. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)2%含む
8. 灰黄褐色土(10YR5/2) にぶい黄褐色シルト質土(10YR7/2)ブロック状に含む
9. 灰黄色シルト質土(2.5Y7/2)
10. 灰色砂質土(7.5Y6/1)
11. にぶい黄色土(2.5Y6/4) Hr-FA中心層、As-C粒(φ1~10mm)含む
12. 灰色土(5Y5/1) 細砂上、中に黒褐色土(10YR3/2)が帯状に入る
13. 黒褐色土(10YR3/1) やや粘性あり
14. 黄灰色砂質土(2.5Y4/1) 湿りあり



1号溝H-H'

1. 灰黄色砂質土(10YR6/2) 円礫(φ1~5mm)5%含む
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) 細砂質土
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒、As-C粒極少量含む
4. 灰黄褐色土(10YR5/2) 細砂質土、3層が10%程度混じる
5. 褐灰色土(10YR5/1) 灰黄褐色土(10YR4/2)20%含む
6. 灰黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
7. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~5mm)、As-C粒(φ1mm)極少量、にぶい黄褐色土(10YR7/2)シルト質ブロック状に含む
8. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~5mm)、As-C粒(φ1mm)極少量、砂質土・砂礫土20%含む
9. 灰白シルト質土(10YR7/1)
10. にぶい黄色土(2.5Y6/4) Hr-FA中心層
11. 灰色細砂土(5Y5/1) 中に黒褐色土(10YR3/2)帯状に入る
12. 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性あり
13. 黄灰色砂質土(2.5Y4/1) 湿りあり



1号溝I-I'

1. 褐灰色土(10YR5/1) 粗砂土、礫含む、円礫(φ1~3mm)20%含む
2. 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)
3. 灰色砂質土(5Y5/1)
4. 灰黄色砂質土(2.5Y6/2)
5. 灰黄褐色シルト質土(10YR6/2)
6. 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 円礫(φ1~5cm)5%含む
7. 灰黄褐色砂礫土(10YR5/2) 円礫(φ1~2cm)10%含む
8. 灰黄褐色砂質土(10YR5/2)
9. 灰黄褐色砂礫土(10YR5/2) 円礫(φ1~20cm)40%含む



1号溝J-J'

1. 黄灰色砂質土(2.5Y5/1) 粗砂
2. 暗灰黄色細砂土(2.5Y5/2)
3. 暗灰黄色シルト質土(2.5Y5/2)
4. 灰黄色細砂質土(2.5Y7/2)
5. 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 小円礫(φ1~3mm)5%含む
6. 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2)
7. 黄褐色砂質土(2.5Y5/3)
8. 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2)
9. 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) 灰黄色シルト質土(2.5Y6/2)20%含む
10. 灰黄褐色細砂土(10YR4/2)
11. 黒褐色シルト質土(10YR3/2)
12. 灰黄色砂質土(2.5Y6/2)
13. 黄灰色砂質土(2.5Y6/1) 円礫(φ1~10cm)5%含む



1号溝K-K'

1. 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) 粗砂
2. 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) 細砂
3. にぶい黄色砂質土(2.5Y6/3)
4. 灰黄色砂質土(2.5Y6/2)
5. 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2)
6. 暗灰黄色砂礫土(2.5Y5/2) 円礫(φ1~4mm)20%含む
7. にぶい黄色砂質土(2.5Y6/3) 粗砂
8. 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) 灰黄色砂質土(2.5Y7/2)ブロック状に含む
9. 黄灰色シルト質土(2.5Y6/1)
10. 灰黄色シルト質土(2.5Y6/2)
11. 暗灰黄色シルト質土(2.5Y5/2)
12. 黄灰色シルト質土(2.5Y6/1)

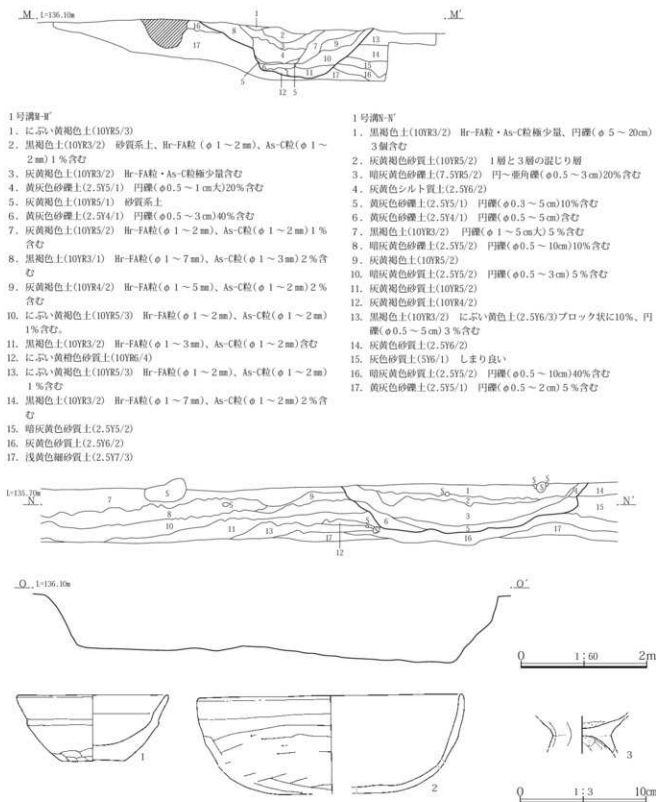


1号溝L-L'

1. 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) 粗砂
2. 暗灰黄色砂質土(2.5Y4/2)
3. 黄灰色砂質土(2.5Y5/1) 粗砂、円礫(φ30cm)1個含む
4. にぶい黄褐色砂質土
5. 暗灰黄色土(2.5Y4/2)
6. 黄灰色砂質土(2.5Y4/1) 円礫(φ1~5cm)1%含む
7. 黄灰色砂質土(2.5Y5/1)
8. 黄灰色砂質土(2.5Y4/1)

0 1:60 2m

第164図 1号溝土層断面(2)



第165図 1号溝土層断面(3)と出土遺物

5. 集石

2号河道の砂質土の上から、大量の河原石とそれに伴う土師器・須恵器を発見した。この15号集石の中には、炭化物が残り、2号河道の際での祭祀跡の可能性が考えられる。

15号集石 (第166～170図、PL.69・70・107・108)

位置 97-F-G-3

規模 2号河道の右岸側、長軸6m、短軸3mの範囲に円礫・亜円礫とともに、土師器や須恵器の破片が散乱していた。礫集中部より北西側の2号河道右岸の立ち上がり付近では長軸1.00m、短軸0.50mの範囲で炭化物が確認された。

埋没土 遺物の多くは、3層の灰黄褐色土中に確認された。

遺物 図示したのは、土師器環(1～16)16点、土師器高環(17)1点、須恵器壺(18)1点、土師器台付甕(19・20)2点、土師器甕(21～49)29点、須恵器甕(50)1点、磨石(51)1点である。土師器・須恵器いずれも、完形のものではなく、破片のみの出土であった。また、台付甕など若干古い時期のものも紛れていた。未掲載遺物は、土師器207点、須恵器25点、円礫と亜円礫80個以上である。

6. 河道

現在の赤城白川の旧河道と考えられる2号河道を検出した。縄文晩期の1号河道より新しいと考えられる。2号河道についても、1号河道と同様に東隣の引切塚遺跡から群馬県道151号津久田停車場前橋線の下をくぐり、青柳宿上遺跡を通過すると考えられた。しかし、引切塚遺跡側では、2号河道の立ち上がりを確認することはできなかった。これは、更に新しい時代の河道によって壊された結果と考えられる。引切塚遺跡では、南側と北側に古墳時代の遺構が残されていたが、中央付近は川砂の堆積ばかりで、ローム土はなかった。この川砂の堆積は、2.5m以上にもなり、これ以上の掘削は崩壊の恐れがあるため中止した。

この2号河道の砂質土の上から、15号集石を確認している。なお、北側は、28号・30号トレンチで立ち上がりを確認できたが、南側については扇状地となり、広がっていくため、範囲を確定することはできなかった。

2号河道 (第171・172図、PL.71・108)

位置 北側のみ検出 87-P-20

97-E～K・M～O-3 97-L・M-4

97-O・P-2 97-P-1

※南側には立ち上がりが見えなかった。

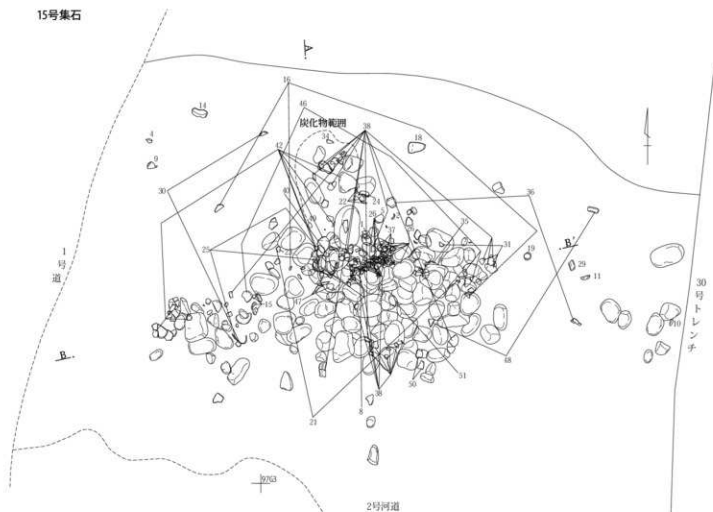
重複 1号河道の上に2号河道が広がっている可能性があるが、はっきりとした新旧関係を確認することはできなかった。2号河道が川砂で埋没したあと、15号集石が造られている。また、2号河道を掘込んで25号・26号・29号住居を造っている。2号河道より1号溝、1号道の方が新しい。

形状 引切塚遺跡側から西に向かって流れ、途中南西から北東へ蛇行し、その後また、南西へカーブを描いて流れている。なお、北側は検出できたが、南側は水平堆積となっており、2号河道範囲を掴むことはできなかった。

埋没土 灰黄褐色土と黄灰色砂質土の堆積中に黒褐色土を2層確認した。これは、川の流れの停滞を示すものと考えられる。また、土層断面A-A'の4層には灰黄褐色土(10YR6/2)のシルト質中心層が確認できるが、この上に15号集石が形成されている。また、現場では未確認であったが、土層断面A-A'の17～20層にかけての不自然な土層断面は、半円形の窪地同様、地割れの痕跡と考えられる。

遺物 土師器2点を図示した。土師器環(1)、土師器甕(2)はフク土の黒色土から出土している。未掲載遺物は、土師器33点、須恵器3点である。

15号集石

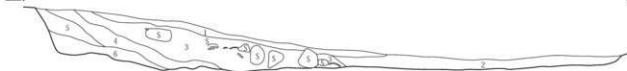


15号集石A-A'

1. 黒褐色土(10YR3/2) As-C粒(φ 1~4mm) 2%, 円礫(φ 2~50cm) 5%含む
2. 黄灰色砂質土(2.5Y5/1) 円礫(φ 2~30cm) 2%含む
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C粒(φ 1~2mm) 3%, 円礫(φ 2~30cm) 30%, 焼土粒(φ 1mm)極少量含む
4. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物、As-C粒(φ 1~4mm) 2%, 円礫(φ 2~20mm) 10%含む
5. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土粒(φ 1~2mm)、炭化物1%含む
6. 灰黄褐色土(10YR5/2) 焼土粒(φ 1~2mm)、炭化物極少量含む

A, L-136.4m

A'



B, L-136.4m

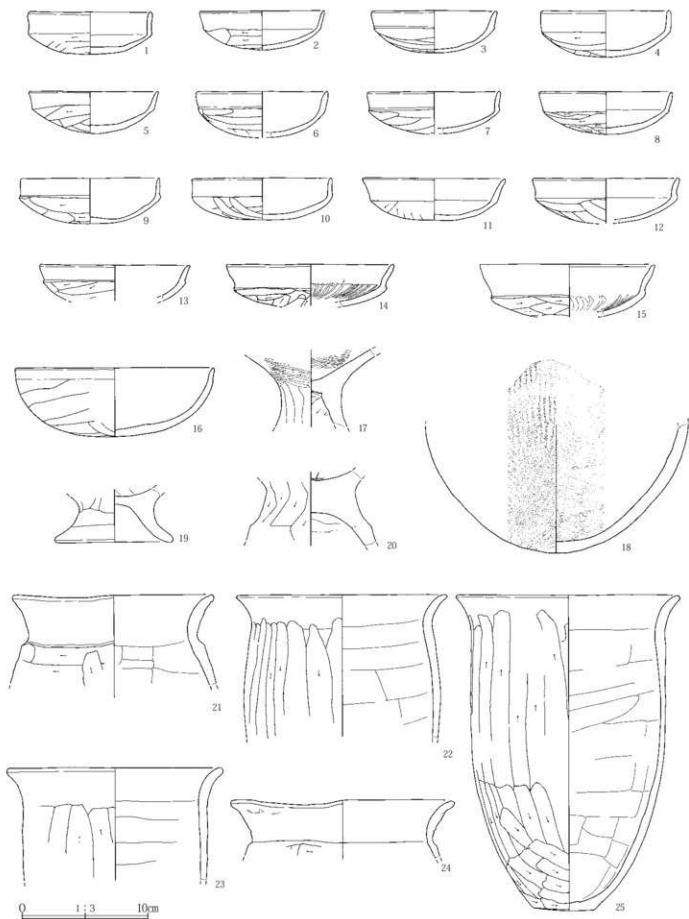
B'



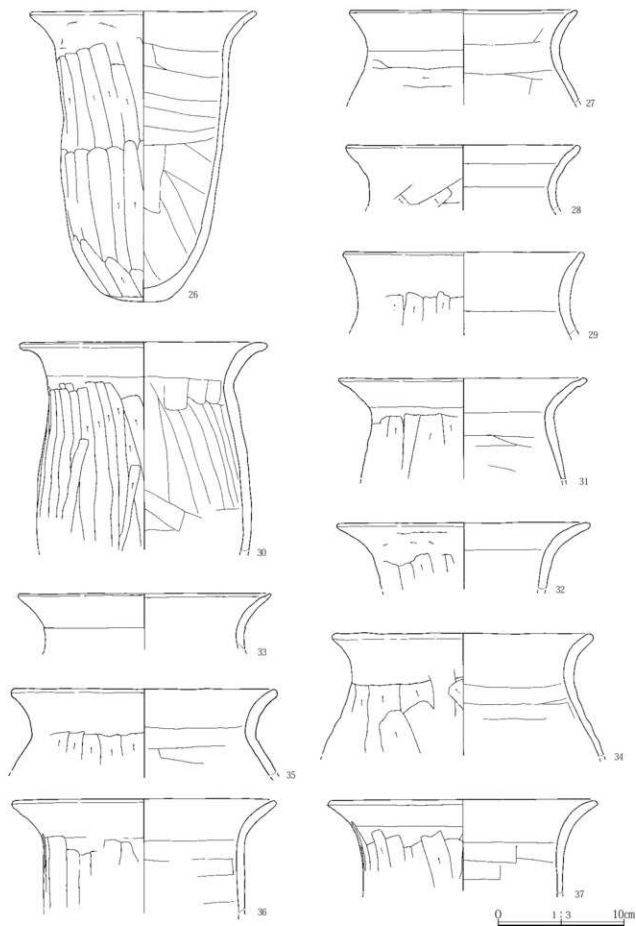
0 1:40 1m

第166図 15号集石

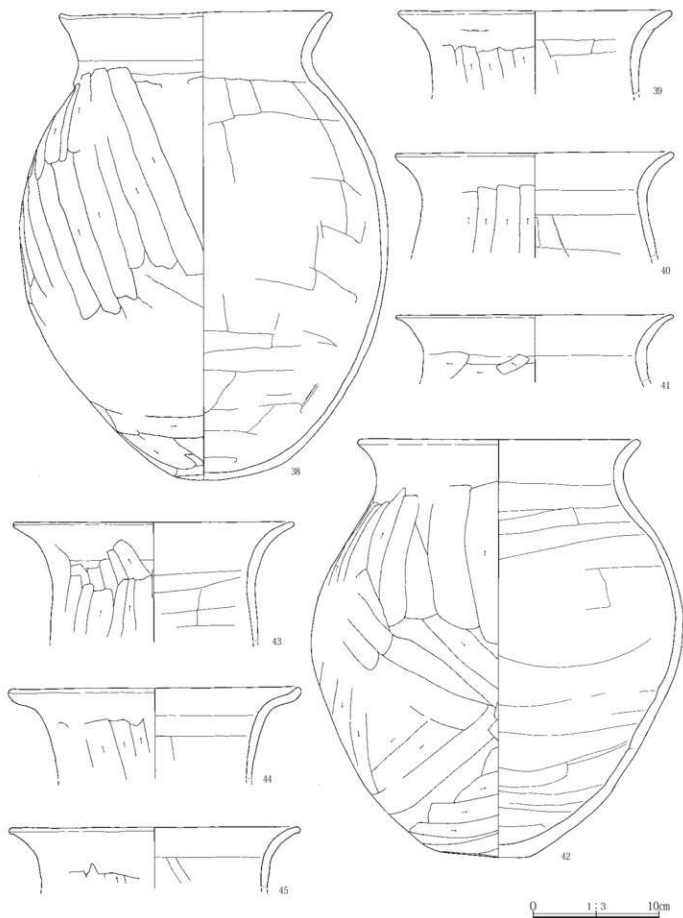
第4章 青柳宿上遺跡の調査内容



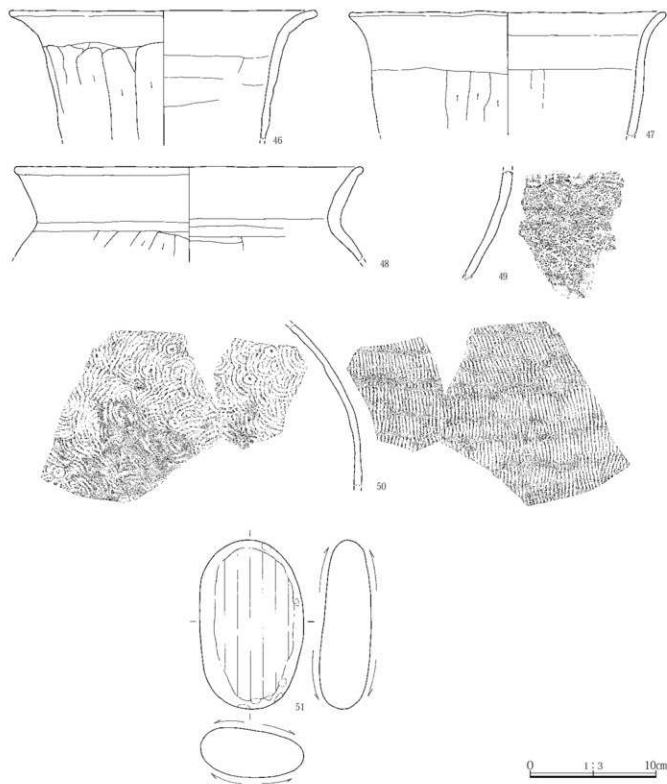
第167図 15号集石出土遺物(1)



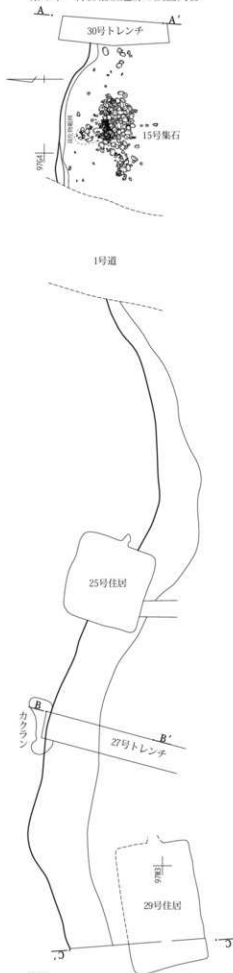
第168图 15号集石出土遺物(2)



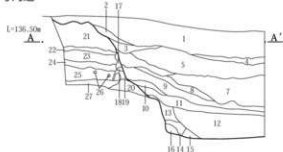
第169図 15号集石出土遺物(3)



第170图 15号集石出土遺物(4)

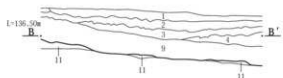


2号河道



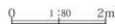
2号河道A-A' (30号トレンチ)

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)2%含む
2. 灰黄褐色土(10YR6/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
4. 灰黄褐色土(10YR6/2) シルト質土中心層
5. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物極少量、Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~8mm)、As-C粒(φ1~2mm)3%含む
6. 灰黄褐色土(10YR5/2) にふい黄褐色土(10YR6/3)ブロック状に含む
7. 灰黄色砂質土(2.5Y6/2) 円礫(φ1~40mm)場所により縮状に層をなす、砂質土の縮状堆積
8. 黒褐色土(10YR3/52) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~10mm)、As-C粒(1~2mm)1%含む
9. 灰黄褐色土(10YR5/2) As-C粒(φ1~3mm)1%、にふい黄褐色土(10YR6/3)ブロック状に含む
10. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C粒(φ1~2mm)1%、にふい黄褐色土(10YR6/3)ブロック状に含む
11. 灰黄褐色土(10YR5/2) にふい黄褐色土(10YR6/3)ブロック状に含む、にふい黄褐色土(10YR7/2)縮状に堆積
12. 黄灰色砂質土(2.5Y5/1) 円礫(φ1~30mm)部位により20%含む、基本的に砂質土、縮状堆積
13. 黄灰色砂質土(2.5Y6/1) にふい黄色シルト質土(2.5Y6/3)含む
14. 黒褐色土(10YR3/2)
15. 褐灰色砂質土(10YR5/1)
16. 灰黄褐色土(10YR5/2)
17. 灰黄褐色土(10YR5/2)
18. にふい黄褐色土(10YR5/3) 地割れ
19. 灰黄褐色土(10YR5/2)
20. にふい黄褐色土(10YR5/3) にふい黄褐色土(10YR6/3)ブロック状に含む
21. 灰黄色砂質土(2.5Y6/2)
22. 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) 21層と23層の混土層
23. 灰黄褐色土(10YR5/2) As-YP粒(φ1~3mm)1%含む、VIII層
24. 灰黄色土(2.5Y6/2) As-YP粒(φ1~3mm)1%含む、VIII層
25. 灰黄色シルト質土(2.5Y7/2) 地割れ
26. As-YP粒(φ1~4mm)ブロック状に含む
27. 灰黄色シルト質土(2.5Y7/2)



2号河道B-B' (27号トレンチ)

1. 灰黄褐色砂質土(10YR5/2)
2. 灰黄砂質土(2.5Y6/2) やや粗砂、小円礫(φ1~10mm)2%含む
3. にふい黄褐色砂質土(10YR4/3) 酸化鉄分沈着した層
4. 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2)
5. 褐灰色土(10YR4/1)
6. 灰黄色砂質土(2.5Y6/2)
7. 褐灰色シルト質土(10YR4/1)
8. 灰黄色シルト質土(2.5Y6/2)
9. 黒褐色土(10YR3/1) As-C粒(φ1~8mm)2%含む
10. 黒褐色土(10YR3/2) As-C粒(φ1~3mm)1%含む
11. 灰黄色砂質土(2.5Y6/2) 小円礫(φ1~5mm)1%含む



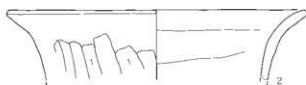
第171図 2号河道



2号河道C-C'

1. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FF粒(φ1~10mm)、As-C粒(φ1~3mm)3%含む
2. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FF粒(φ1~2mm)、As-C粒(φ1mm)1%含む
3. 灰褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FF粒(φ1~3mm)、As-C粒(φ1~2mm)1%含む
4. 黒褐色土(10YR3/2) As-C粒(φ1~3mm)2%含む
5. 灰白色シルト質土(10YR7/1)
6. 灰黄褐色土砂質土(10YR5/2) 砂礫土5%含む
7. 灰白色砂礫土(10YR7/1) 円礫(φ1~5mm)10%含む
8. 灰黄褐色土(10YR4/2) 灰黄色シルト質土(2.5Y7/2)20%含む
9. 黄灰色砂礫土(2.5Y6/1) 円礫(φ1~3mm)10%含む
10. 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2) にぶい黄褐色シルト質土(10YR7/2) 30%含む
11. にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3)
12. Hr-FA中心層 Hr-FA粒(φ1~30mm)下層に特に多く含む
13. 黒褐色土(10YR3/1) As-C粒(φ1~5mm)5%、有馬?粒(φ1~4mm)1%含む

0 1:80 2m



0 1:3 10cm

第172図 2号河道土層断面と出土遺物

7. 土坑

検出された古墳時代の土坑は、5基である。調査区内に単独でそれぞれ点在している。

1号土坑(第173図、PL.71)

位置 97-H-14 **重複** 1号竪穴状遺構と重複する。新旧関係は、土坑のほうが新しい。

形状 隅丸長方形

規模 長軸1.42m 短軸0.87m 存深度0.53m

長軸方位 N-78°-E **埋没土** Hr-FA・Hr-FP粒とAs-C粒を含むにぶい黄褐色土と褐灰色土が堆積していた。**遺物** 未掲載遺物は、土師器4点である。**時期** 出土遺物から、古墳時代と考えられる。

2号土坑(第173図、PL.71・72)

位置 97-J-13 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.81m 短軸0.49m 残存深度0.22m

長軸方位 N-12°-E **埋没土** As-C粒を含む灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** なし。**時期** 埋没土から、古墳時代と考えられる。

3号土坑(第173図、PL.72)

位置 97-P-4 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.73m 短軸0.46m 存深度0.25m

長軸方位 N-28°-E **埋没土** Hr-FA・Hr-FP粒とAs-C粒を含む黒褐色土とAs-C粒を極少量含む灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** なし。**時期** 埋没土から、古墳時代と考えられる。

4号土坑(第173図、PL.72)

位置 97-P-2・3 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.91m 短軸0.86m 残存深度0.22m

長軸方位 N-62°-W **埋没土** As-C粒を含むにぶい灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** なし。**時期** 埋没土から、古墳時代と考えられる。

5号土坑(第173図、PL.72)

位置 98-A-11 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.72m 短軸0.59m 残存深度0.32m

長軸方位 N-87°-W **埋没土** 直径10cm大の円礫を30%含む灰黄褐色砂質土が堆積していた。**遺物** なし。

時期 埋没土から、古墳時代と考えられる。

1号土坑



1号土坑A-A'

1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~10mm)・As-C粒(φ1~2mm)1%含む
2. 褐灰色土(10YR4/1) しまりやや弱い
3. にぶい黄褐色土(10YR5/4) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)極少量含む、しまりやや弱い

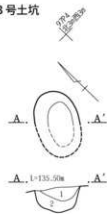
2号土坑



2号土坑A-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C粒(φ1~7mm)5%含む

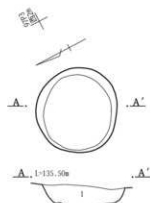
3号土坑



3号土坑A-A'

1. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(φ1~2mm)・As-C粒(φ1~2mm)1%含む
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C粒(φ1~2mm)極少量含む

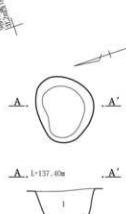
4号土坑



4号土坑A-A'

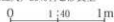
1. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C粒(φ1~2mm)1%含む

5号土坑



5号土坑A-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 円礫(φ10cm大)30%含む砂質土



第173図 1号~5号土坑

8. ピット

検出された古墳時代のピットは26基である。多くは、調査区北側の2号・3号住居周辺と半円形の窪地周辺で検出されている。

1号ピット(第174図、PL.72)

位置 97-J-19 重複 なし。

形状 不整形

規模 長軸0.69m 短軸0.44m 残存深度0.63m

長軸方位 N-90°-E 埋没土 Hr-FA・Hr-FP粒とAs-C粒を含む黒褐色土と灰黄褐色土が堆積していた。

遺物 未掲載遺物は、土師器8点、須恵器2点である。

時期 出土遺物から古墳時代とした。

2号ピット(第174図、PL.72)

位置 97-J-1-17 重複 なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.36m 短軸0.32m 残存深度0.32m

長軸方位 N-73°-E 埋没土 Hr-FA・Hr-FP粒とAs-C粒を含む黒褐色土と灰黄褐色土が堆積していた。

遺物 なし。 時期 埋没土から、古墳時代と考えられる。

3号ピット(第174図、PL.72)

位置 97-I-18 重複 なし。

形状 円形

規模 長軸0.64m 短軸0.64m 残存深度0.61m

長軸方位 N-0° 埋没土 Hr-FA・Hr-FP粒とAs-C粒を含む黒褐色土と灰黄褐色土が堆積していた。 遺物

未掲載遺物は、土師器1点である。 時期 出土遺物から古墳時代とした。

4号ピット(第174図、PL.72)

位置 97-I-17・18 重複 なし。

形状 円形

規模 長軸0.53m 短軸0.53m 残存深度0.53m

長軸方位 N-0° 埋没土 Hr-FA・Hr-FP粒とAs-C粒を含む黒褐色土と灰黄褐色土が堆積していた。 遺物

未掲載遺物は、土師器1点である。 時期 出土遺物か

ら古墳時代とした。

5号ピット(第174図、PL.72・73)

位置 97-H-17 重複 なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.73m 短軸0.65m 残存深度0.35m

長軸方位 N-26°-E 埋没土 Hr-FA・Hr-FP粒とAs-C粒を含む黒褐色土と灰黄褐色土が堆積していた。

遺物 なし。 時期 埋没土から、古墳時代と考えられる。

6号ピット(第174図、PL.72・73)

位置 97-I-16・17 重複 なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.56m 短軸0.52m 残存深度0.55m

長軸方位 N-56°-W 埋没土 Hr-FA・Hr-FP粒とAs-C粒を含む黒褐色土と灰黄褐色土が堆積していた。

遺物 未掲載遺物は、土師器2点である。 時期 出土遺物から古墳時代とした。

7号ピット(第174図、PL.72・73)

位置 97-I-16・17 重複 なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.49m 短軸0.46m 残存深度0.41m

長軸方位 N-68°-E 埋没土 Hr-FA・Hr-FP粒とAs-C粒を含む黒褐色土と灰黄褐色土が堆積していた。

遺物 未掲載遺物は、土師器1点である。 時期 出土遺物から古墳時代とした。

8号ピット(第174図、PL.72・73)

位置 97-H-16 重複 なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.67m 短軸0.48m 残存深度0.31m

長軸方位 N-32°-W 埋没土 Hr-FA・Hr-FP粒とAs-C粒を含む黒褐色土と灰黄褐色土が堆積していた。

遺物 なし。 時期 埋没土から、古墳時代と考えられる。

9号ピット(第174図、PL.73)

位置 97-M-14 重複 なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.52m 短軸0.46m 残存深度0.23m

長軸方位 N-36°-W **埋没土** Hr-FA・Hr-FP粒とAs-C粒を含む黒褐色土と灰黄褐色土が堆積していた。

遺物 なし。**時期** 埋没土から、古墳時代と考えられる。

10号ピット(第174図、PL.73)

位置 97-K-9 **重複** なし。

形状 円形

規模 長軸0.23m 短軸0.23m 残存深度0.29m

長軸方位 N-0° **埋没土** Hr-FA粒とAs-C粒を含む黒褐色土、黒褐色土ブロックとAs-C粒を含む暗褐色土が堆積していた。**遺物** なし。**時期** 埋没土から、古墳時代と考えられる。

11号ピット(第174図、PL.73)

位置 97-K-9 **重複** なし。

形状 円形

規模 長軸0.30m 短軸0.28m 残存深度0.33m

長軸方位 N-67°-W **埋没土** Hr-FA粒とAs-C粒を含む黒褐色土、黒褐色土ブロックとAs-C粒を含む暗褐色土が堆積していた。**遺物** なし。**時期** 埋没土から、古墳時代と考えられる。

12号ピット(第174図、PL.73)

位置 97-L-7 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.28m 短軸0.25m 残存深度0.22m

長軸方位 N-41°-E **埋没土** Hr-FA粒とAs-C粒を含む黒褐色土、黒褐色土ブロックとAs-C粒を含む暗褐色土が堆積していた。**遺物** なし。**時期** 埋没土から、古墳時代と考えられる。

13号ピット(第174図、PL.73)

位置 97-K-6 **重複** なし。

形状 隅丸方形

規模 長軸0.30m 短軸0.30m 残存深度0.25m

長軸方位 N-0° **埋没土** Hr-FA粒とAs-C粒を含む黒褐色土、黒褐色土ブロックとAs-C粒を含む暗褐色土が

堆積していた。**遺物** なし。**時期** 埋没土から、古墳時代と考えられる。

14号ピット(第174図、PL.73)

位置 97-J・K-12 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.47m 短軸0.39m 残存深度0.27m

長軸方位 N-60°-E **埋没土** Hr-FA粒とAs-C粒を含む黒褐色土、黒褐色土ブロックとAs-C粒を含む暗褐色土が堆積していた。**遺物** なし。**時期** 埋没土から、古墳時代と考えられる。

15号ピット(第174図、PL.74)

位置 97-M-13 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.52m 短軸0.49m 残存深度0.26m

長軸方位 N-0° **埋没土** Hr-FA粒とAs-C粒を含む灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** なし。**時期** 埋没土から、古墳時代と考えられる。

16号ピット(第174図、PL.74)

位置 97-R-5 **重複** なし。

形状 円形

規模 長軸0.24m 短軸0.23m 残存深度0.15m

長軸方位 N-0° **埋没土** Hr-FA・Hr-FP粒とAs-C粒を含む灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** なし。**時期** 埋没土から、古墳時代と考えられる。

17号ピット(第174図、PL.74)

位置 97-R-5 **重複** なし。

形状 円形

規模 長軸0.26m 短軸0.25m 残存深度0.29m

長軸方位 N-35°-E **埋没土** Hr-FA・Hr-FP粒とAs-C粒を含む灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** なし。**時期** 埋没土から、古墳時代と考えられる。

18号ピット(第174図、PL.74)

位置 97-R-5・6 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.29m 短軸0.24m 残存深度0.23m

長軸方位 N-90° **埋没土** Hr-FA・Hr-FP粒とAs-C粒を含む灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** なし。
時期 埋没土から、古墳時代と考えられる。

19号ピット(第174図、PL.74)

位置 97-Q-6 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.41m 短軸0.36m 残存深度0.11m

長軸方位 N-87°-E **埋没土** Hr-FA・Hr-FP粒とAs-C粒を含む灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** なし。

時期 埋没土から、古墳時代と考えられる。

20号ピット(第174図、PL.74)

位置 97-P-6 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.29m 短軸0.25m 残存深度0.09m

長軸方位 N-66°-W **埋没土** Hr-FA・Hr-FP粒とAs-C粒を含む灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** なし。

時期 埋没土から、古墳時代と考えられる。

21号ピット(第175図、PL.74)

位置 97-P-5 **重複** なし。

形状 円形

規模 長軸0.39m 短軸0.36m 残存深度0.11m

長軸方位 N-0° **埋没土** Hr-FA・Hr-FP粒とAs-C粒を含む灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** なし。

時期 埋没土から、古墳時代と考えられる。

22号ピット(第175図、PL.74)

位置 97-O・P-4・5 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.62m 短軸0.48m 残存深度0.18m

長軸方位 N-29°-W **埋没土** Hr-FA・Hr-FP粒とAs-C粒を含む灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** なし。

時期 埋没土から、古墳時代と考えられる。

23号ピット(第175図、PL.74)

位置 97-O-4 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.43m 短軸0.32m 残存深度0.19m

長軸方位 N-55°-E **埋没土** Hr-FA・Hr-FP粒とAs-C粒を含む灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** なし。

時期 埋没土から、古墳時代と考えられる。

24号ピット(第175図、PL.74)

位置 97-O-4 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.28m 短軸0.21m 残存深度0.26m

長軸方位 N-83°-W **埋没土** Hr-FA・Hr-FP粒とAs-C粒を含む灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** なし。

時期 埋没土から、古墳時代と考えられる。

25号ピット(第175図、PL.74)

位置 97-Q-5 **重複** なし。

形状 円形

規模 長軸0.29m 短軸0.29m 残存深度0.08m

長軸方位 N-0° **埋没土** Hr-FAを含むふい褐色土が堆積していた。**遺物** なし。**時期** 埋没土から、古墳時代と考えられる。

26号ピット(第175図、PL.75)

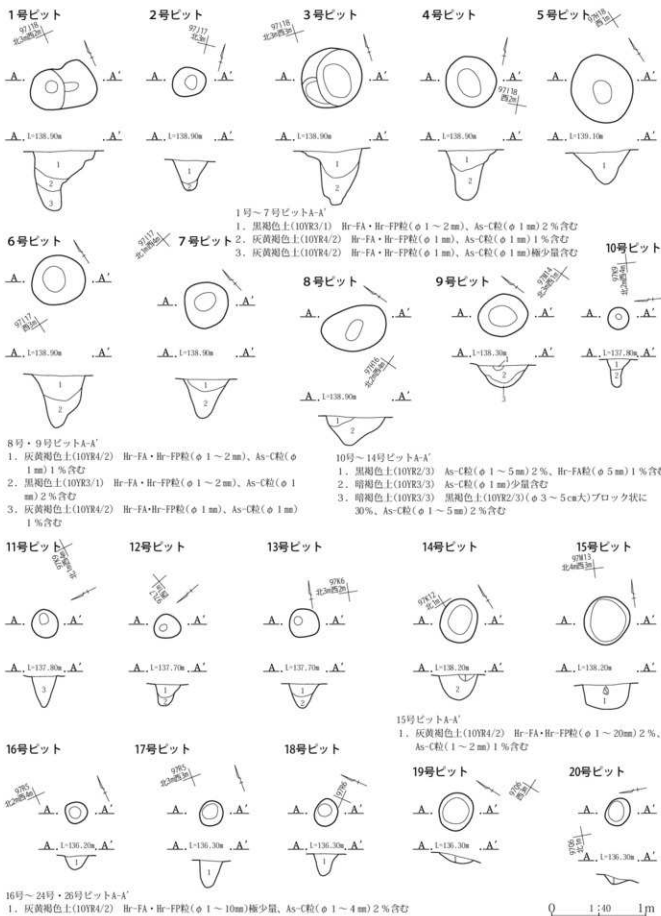
位置 97-A-10 **重複** なし。

形状 楕円形

規模 長軸0.43m 短軸0.31m 残存深度0.37m

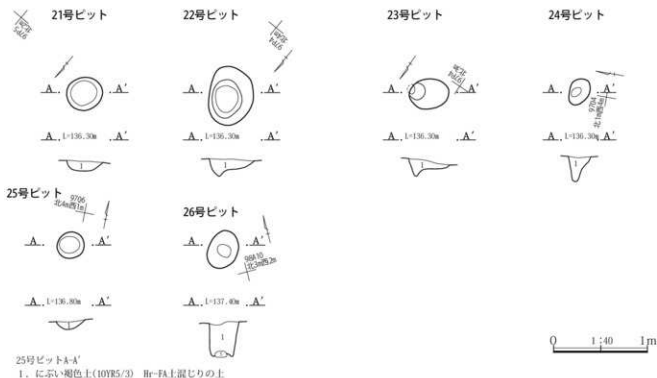
長軸方位 N-38°-E **埋没土** Hr-FA・Hr-FP粒とAs-C粒を含む灰黄褐色土が堆積していた。**遺物** なし。

時期 埋没土から、古墳時代と考えられる。



第174図 1号~20号ピット

第4章 青柳宿上遺跡の調査内容



第175図 21号～26号ビット

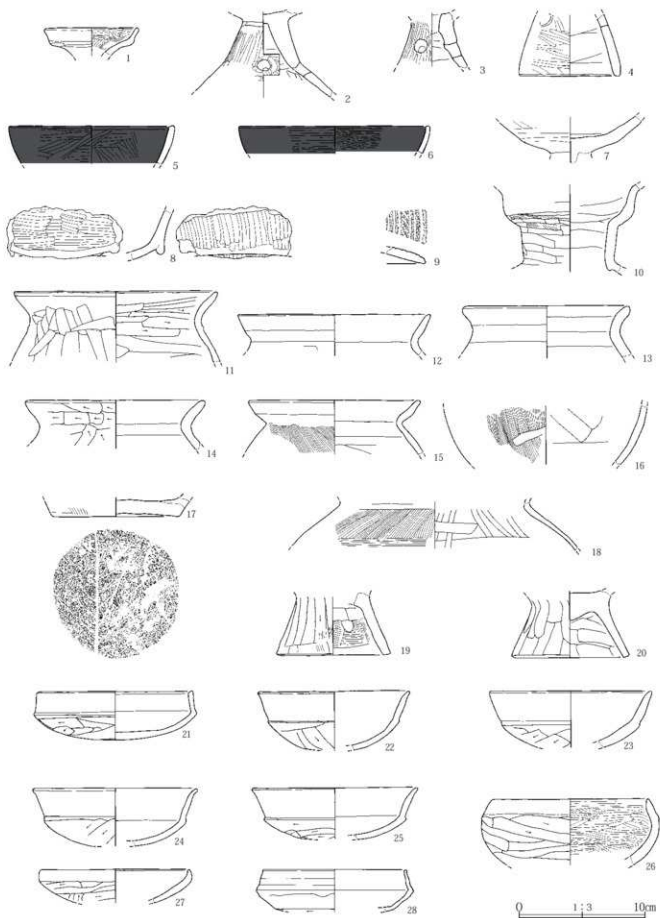
9. 遺構外出土の古墳時代の遺物

(第176・177図, PL. 108)

古墳時代の遺構外出土遺物として30点を図示した。古墳時代前期と古墳時代後期に分け、並べている。(ただし石器については、時期不明)古墳前期の遺物は、調査区南側87区縄文晩期1号河道調査面上層や1号河道にかかるトレンチから、古墳後期の遺物は、97区南側のトレンチやカクランなどから出土している。1号河道は、縄文時代晩期の遺物が多く出土しているが、上層のAs-C混土の黒色土では古墳時代前期の土器が多く出土したので、古墳前期まで水が流れ使われていた可能性が考えられる。

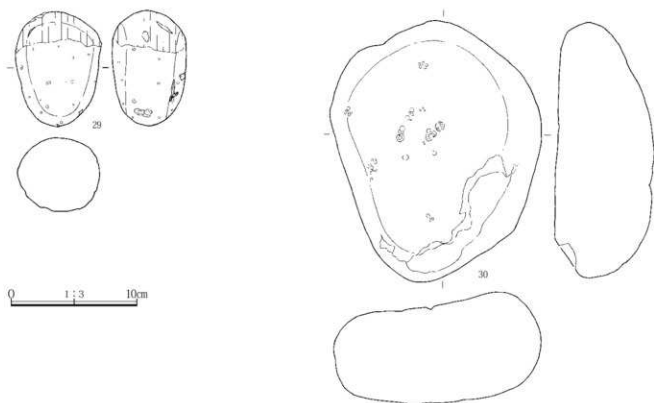
古墳前期の遺物として、土師器器台(1～4)、土師器高坏(5～9)、土師器壺(10)、土師器甕(11～17)、土師器台付甕(18～20)があり、古墳後期の遺物として、土師器坏(21～27)、須恵器坏(28)、石製品(29)、石皿(30)を図示した。9の高坏は、東海系の可能性がある。

古墳時代の未掲載遺構外出土遺物は、1,624点にのぼる。その内訳は、土師器1,603点、須恵器20点、不明1点である。



第176図 遺構外出土の古墳時代の出土遺物(1)

第4章 青柳宿上遺跡の調査内容



第177図 遺構外出土の古墳時代の出土遺物(2)

第6節 中世・近世・近代以降

1. 概要

県道津久田停車場前橋線に並行する形で、利用されていた1号道を検出した。青柳宿上遺跡内の区画された番地の様子から、その位置を復元することができる。

2. 道

1号道(第178・179図、PL.75)

位置 97-D・E-18～87-1・J-14

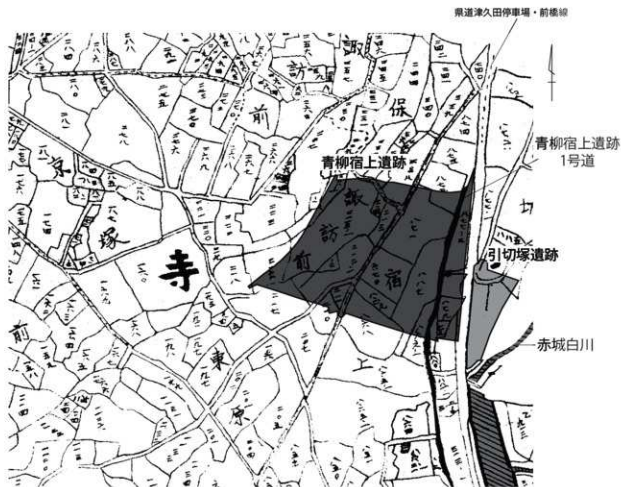
走行方向 N-62°-W 重複 5号・9号・17号・18号住居、1号溝、2号河道と重複する。新旧関係は、1号道が一番新しい。規模 幅1.50～3.47m 残存深度0.25m 調査長128.0m 埋没土 酸化鉄沈着のあるにぶい黄褐色土が道路面になっており、その下に暗灰黄褐色土・にぶい黄褐色土・暗灰黄褐色土が交互に堆積し

ている。遺物 未掲載遺物は、国産磁器1点・国産施釉陶器1点である。時期 上限は不明だが、下限は近所の方々の話から昭和20年代まで、使用されていたようである。所見 昭和初期に作成された群馬県勢多郡南橋町地図には、現在の県道津久田停車場前橋線に並行する形で記録が残っている。地表面から、1mほど掘込み両側溝を備えている。河床礫や砂利を敷いて通行しやすいように舗装している様子が見える。また、側溝を備えた道路面が少なくとも2面以上確認できた。

3. 中世・近世の遺構外遺物(第181図、PL.108)

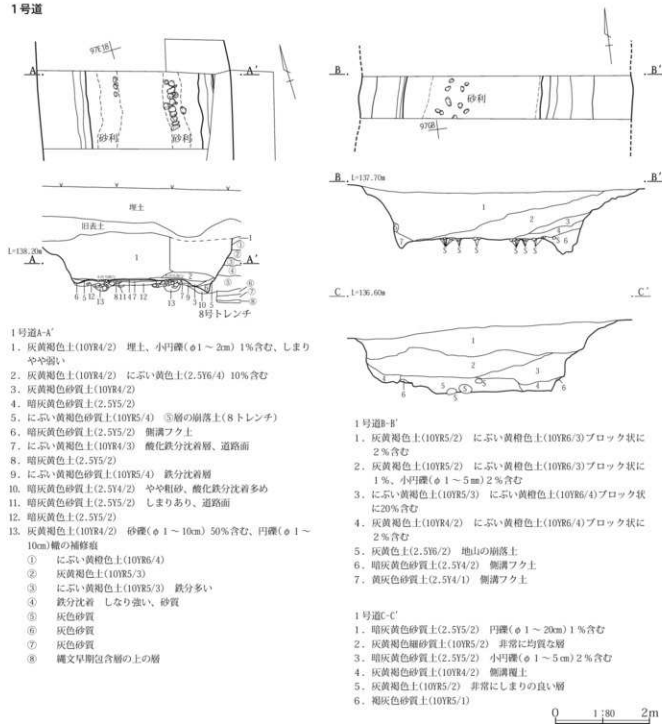
中世・近世の遺構外遺物として、5点を図示した。中世の鎌矢に使われた鎌(4)、寛永通寶(5)や時期不明のヤスリ(1)と用途不明の鉄製品2点(2・3)である。

遺構外出土の未掲載陶磁器類は、近世の33点である。その内訳は、国産施釉陶器18点、国産焼締陶器8点、在地系焙烙・鍋7点であり、ほぼ全てが細片であった。

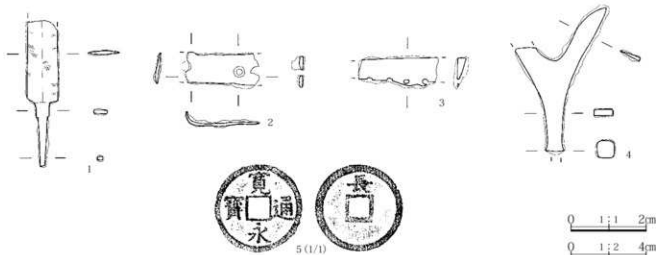


第178図 群馬県勢多郡南橋村全図に見える1号道(昭和初期刊行)

1号道



第179図 1号道



第180図 遺構外出土の中世・近世の出土遺物

第7節 地震痕跡

1. 概要

青柳宿上遺跡では、地震災害の痕跡が認められた。地震痕跡とは、噴砂、地割れ、地すべりである。

今まで、群馬県内での発掘調査で発見された黄褐色ローム層を貫いて、一定の走行ラインで確認された砂質土を噴砂と呼んでいる。(※しかし、工学の立場では噴砂とは呼ばないとのことである。第5章第6節参照)よほどの何らかの力が加えられないと、硬いロームがひび割れるとは考えられない。噴砂は、ひび割れた所に液状化した砂が入った結果と想定される。以下、噴砂、地割れ、地すべりについて記していく。

2. 噴砂・地割れ・地すべり

噴砂(第67・68・156・181図、PL.11・13・15・27・61・76)

青柳宿上遺跡では、古墳時代面、縄文時代早期面で、平面的に調査を行った。はじめの古墳時代面では、半円形の窪地内に位置する28号住居の覆土に噴砂が確認された。古墳時代面調査後、下層状態を確認するために、トレンチ調査を行ったところ、97区北西部10号トレンチにおいて2m以上の噴砂が発見された。

縄文時代早期面の調査では、地形の斜面と並行走行の、噴砂を11カ所ほど確認した。(1号河道や半円形の窪地

でも発見されていたが、平面図の記録はない。)発見された噴砂は、いずれも白身を帯びたシルト質土であった。(※噴砂に関する分析結果は、第5章第6節を参照。)

97区南西隅にある、半円形の窪地東西セクションA-A'(34号トレンチ)で30cmほど、南北セクションB-B'(35号トレンチ)で3mほどの噴砂を確認した。

地割れ(第68・171図、PL.27・71)

地割れは、半円形の窪地南北セクションB-B'(35号トレンチ)で確認された。土層断面には、硬いローム塊が割がれ落ちるように残されていた。

さらに、2号河道A-A'内において、2カ所ローム塊が、2号河道フク土の中に入り込んでいる様子が確認された。これも地割れと考えられる。

地すべり(第43・181図、PL.15・76)

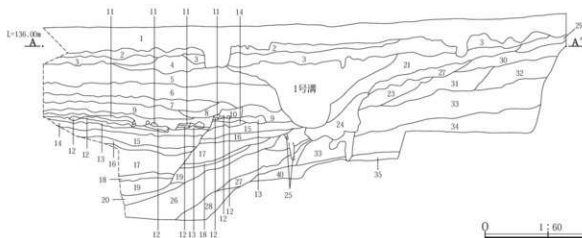
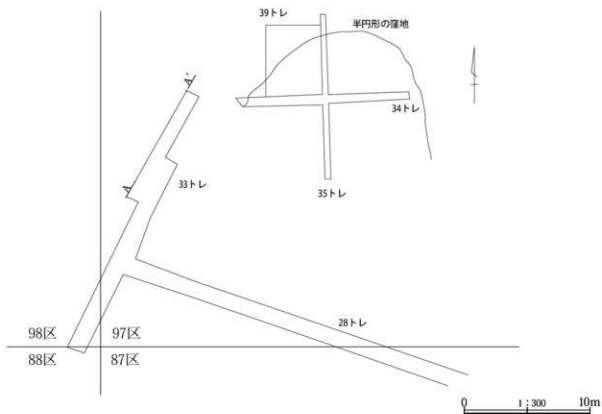
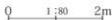
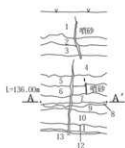
地すべりは、1号河道セクションD-D'(32号トレンチ)と33号トレンチで確認された。この地すべりについては、群馬大学教育学部准教授の熊原康博氏(現在は、広島大学大学院准教授)に来ていただき指導を受けた。

2カ所の地すべりは何らかの力により下層が動き、地すべりを起こしたようである。特に、33号トレンチの地すべりは、下層の水を多く含んでいたAs-C層が動いた結果によるものと考えられる。詳しくは、熊原氏の執筆された第5章第5節をご覧ください。

10号トレンチ

10号トレンチA-A'

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 円礫(φ1~8cm)3~10%含む
2. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 円礫(φ1~5cm)20%含む
3. 灰色砂質土(7.5Y7/1) 円礫(φ1~20mm)70%含む
4. 灰色砂質土(5Y6/1) 円礫(φ1~5cm)10%含む
5. 黄灰褐色砂質土(2.5Y5/1) 酸化鉄分沈着、細砂質土
6. 暗灰黄色シルト質土(2.5Y5/2)
7. 暗灰黄色砂質土(2.5Y7/2)
8. 灰黄褐色砂質土(10YR5/2)
9. 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) 粗砂10%、砂礫(φ5~20mm)5%含む
10. 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) シルト質土
11. 暗灰黄色シルト質土(2.5Y5/2)
12. 褐灰色シルト質土(10YR4/1)
13. 黒褐色砂質土(10YR3/2)



第181図 10号トレンチ断面図と33号トレンチ位置図、断面図

33号トレンチA-A'

1. 灰黄褐色土(10YR5/2) 表土
2. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 酸化鉄分沈着
3. 黒褐色土(10YR3/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~5mm)・As-C粒(ϕ 1~2mm)2%含む
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm)・As-C粒(ϕ 1~2mm)1%含む
5. 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~5mm)・As-C粒(ϕ 1~2mm)2%含む
6. 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) Hr-Fa・Hr-FP粒(ϕ 1~3mm)・As-C粒(ϕ 1~2mm)1%含む
7. 灰黄褐色土(10YR5/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~2mm)・As-C粒(ϕ 1~2mm)極少量含む
8. 灰黄褐色砂礫土(10YR5/2) 小円礫(ϕ 1~3mm)3%含む
9. 黄灰色砂質土(2.5Y5/1) 粗砂、一部小円礫(ϕ 1~20mm)含む
10. 灰黄褐色土(10YR4/2)と灰黄褐色土(10YR5/2)の混土
11. 黄灰色砂質土(2.5Y5/1)
12. 灰黄色シルト質土(2.5Y6/2)
13. 暗灰黄色土(2.5Y5/2)
14. にぶい黄褐色土(10YR6/4) Hr-FA中心層、FA軽石(ϕ 1~10mm)下層を中心にある
15. 黒褐色土(10YR3/1) As-C粒(ϕ 1~4mm)5%、有馬?粒(ϕ 0.1~5mm)極少量含む
16. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C粒(ϕ 1~3mm)2%含む
17. 黄灰色砂質土(2.5Y5/1)

18. 黒褐色土(10YR3/2) As-C粒(ϕ 1~8mm)60%含む、As-C降下後、沈殿して黒色土入る
19. 明褐色土(7.5YR5/6) As-C軽石粒
20. 黄灰色砂質土(2.5Y5/1)
21. 灰黄褐色土(10YR4/2) Hr-FA・Hr-FP粒(ϕ 1~4mm)2%・As-C粒(ϕ 1~2mm)1%含む
22. 灰黄褐色土(10YR4/2) 26層よりやや明るめの上、Hr-FA・Hr-FP粒・As-C粒1%含む
23. 暗灰黄色砂質土(2.5Y5/2) 小円礫(ϕ 1~30mm)40%含む
24. 灰黄褐色土(10YR4/2) As-C粒(ϕ 1~5mm)2%含む
25. 灰黄褐色土(10YR4/2) 砂質系土、噴砂の可能性あり、にぶい黄褐色土(10YR6/4)ブロック状に含む
26. 黄褐色土(10YR4/2) やや粘性あり
27. 灰黄褐色土(10YR4/2) 黄褐色土(10YR5/6)ブロック状30%に含む
28. 黄灰色土(2.5Y4/1) やや粘性あり、灰白色土(2.5Y7/1)、極少量ブロック状に含む
29. にぶい黄褐色土(10YR6/3) 白色粒(ϕ 1~2mm)1%含む
30. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 白色粒(ϕ 1~2mm)1%、As-YP粒(ϕ 1~3mm)極少量含む
31. 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 白色粒(ϕ 1~2mm)2%、As-YP粒(ϕ 1~3mm)1%含む
32. にぶい黄褐色土(2.5Y6/4) 白色粒(ϕ 1~2mm)2%含む
33. にぶい黄褐色砂質土(2.5Y6/3)
34. 黄灰色砂質土(2.5Y5/1) 粗砂層
35. 黄灰色砂礫土(2.5Y5/1) 小円礫(ϕ 1~7mm)10%含む

第5章 自然科学分析

分析の目的

引切塚遺跡・青柳宿上遺跡の発掘調査、整理事業を実施する中で両遺跡で火山灰分析(株式会社火山灰考古学研究所)、青柳宿上遺跡では出土黒曜石の産地分析(東京学芸大学二宮修治教授)、出土炭化材による年代測定(パリオ・サーヴェイ株式会社)、出土獣歯の同定(宮崎重雄氏)などの分析を実施した。各分析については下記の報告のとおりである。

火山灰分析は土層中に含まれるテフラの分析を行うことにより、両遺跡での各層位における堆積年代を検討する上での資料とした。

青柳宿上遺跡での出土黒曜石の産地分析は縄文時代における地域間交流を検討する上での資料になりえると考へて実施し、相当の成果を得ることができた。

出土炭化材による年代測定は炭化材が出土した窪地の形成年代やそこから出土した弥生時代中期の土器群との整合性等を検討する上で必要な資料となった。

出土獣歯の同定については出土状態からウマと判断されたが、さらにウマの性別や年齢などの情報を得るために同定を実施した。

また、青柳宿上遺跡では、直接遺構に関わっていないが、縄文早期確認面で、多くの噴砂痕を確認した。さらにトレンチ調査の中で、地すべりや地割れの痕跡を検出したため、専門家からの指導、教示を受ける機会を得た。「青柳宿上遺跡の地形と地震跡について」を広島大学大学院熊原康博准教授に、「青柳宿上遺跡で採取した砂質土の簡易液状化判定について」を群馬大学大学院若井明彦教授と群馬県桐生市土木事務所の田畑あすみ氏にまとめていただいた。

第1節 火山灰分析

○引切塚遺跡

1. はじめに

関東地方北西部に位置する前橋市とその周辺には、赤城、榛名、浅間など北関東地方に分布する火山のほか、中部地方や中国地方さらには九州地方など遠方に位置す

る火山から噴出したテフラ(火山砕屑物、いわゆる火山灰)が数多く降灰している。後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログ(町田・新井, 1992, 2003)などに収録されており、考古遺跡などで調査分析を行って、とくに層位や年代が明らかにされているテフラを検出することで、地形や地層の形成年代さらには遺物や遺構の年代などに関する研究ができるようになっている。

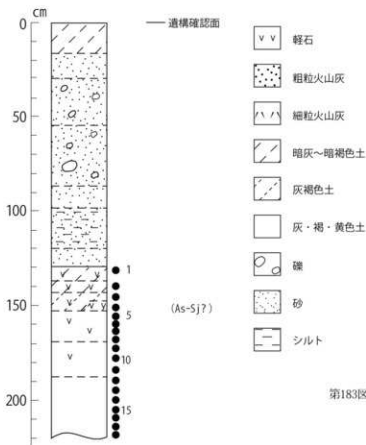
赤城山南西麓に位置する前橋市引切塚遺跡の発掘調査でも、層位や年代が不明な縄文時代の遺物などが検出されたことから、地質調査とテフラ分析を実施して、遺構や遺物包含層の層位や年代に関する資料を得ることになった。調査分析の対象は、8号トレンチ・セクションBおよび13号トレンチ・セクションBの2地点である。

2. 土層の層序

(1) 8号トレンチ・セクションB

8号トレンチ・セクションBでは、下位より固結した灰色土(層厚33cm以上)、黄白色軽石を少量含む黄色がかかった灰色土(層厚17cm, 軽石の最大径6mm)、黄白色軽石を含む黄灰色土(層厚18cm, 軽石の最大径5mm)、黄色～黄白色軽石に富む灰褐色土(層厚5cm, 軽石の最大径5mm)、黄～黄白色軽石を多く含む灰褐色土(層厚5cm, 軽石の最大径6mm)、下半部に灰白色軽石や灰色粗粒火山灰を含む暗灰褐色土(層厚12cm, 軽石の最大径4mm)、成層した細粒砂質堆積物層(層厚32cm)、黄褐色砂層(層厚12cm)、亜円礫混じりでわずかに黄色がかかった灰色砂層(層厚30cm, 礫の最大径103mm)、亜円礫混じり灰色砂層(層厚26cm, 礫の最大径12mm)、砂混じりで鉄分を多く含む褐色土(層厚13cm)、暗灰褐色土(層厚16cm)が認められた(第182図)。

これらのうち、成層した砂質堆積物は、下位のわずかに黄色がかかった灰色砂層と、上位の逆級化構造をもつ灰色シルト質砂層(層厚22cm)からなる。発掘調査では、この堆積物の直下の土層から、縄文時代の遺物が検出されている。

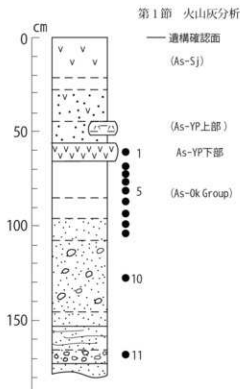


第182図 8号トレンチ・セクションBの土層柱状図
●：テフラ分析試料の層位。数字：テフラ分析試料番号

(2) 13号トレンチ・セクションB

旧石器トレンチとも称される13号トレンチ・セクションBでは、下位より若干色調が暗い粒径が良く揃った灰色砂層(層厚7cm以上)、比較的細粒の黄灰色砂礫層(層厚7cm、礫の最大径5mm)、若干色調が暗く、層理をもつ粒径が良く揃った灰色砂層(層厚12cm)、硬い灰色泥流堆積物(層厚46cm)、砂を多く含む灰色土(層厚12cm)、砂混じりの黄灰白色粘質土(層厚11cm)、砂混じり灰白色粘質土(層厚20cm)、正の級化構造をもつ黄白色軽石層(層厚10cm、軽石の最大径10mm、石質岩片の最大径2mm)、成層した桃灰色砂質細粒火山灰層ブロックや黄白色軽石を含む黄灰色砂質土(層厚9cm、軽石の最大径5mm)、黄白色軽石混じりでわずかに黄色がかった灰色砂質土(層厚16cm、軽石の最大径7mm)、若干黄色がかった灰色土(層厚7cm)、黄灰白色軽石混じりで色調がわずかに暗い灰褐色土(層厚21cm、軽石の最大径4mm)が認められる(第183図)。

これらのうち、硬い灰色泥流堆積物の基底部には、やや桃色がかった灰色砂質シルト層(層厚7cm)が認められ



第183図 13号トレンチ・セクションBの土層柱状図
●：テフラ分析試料の層位。数字：テフラ分析試料番号

る。その上位の主体部(層厚39cm、礫の最大径31mm)はやや砂質で、粗粒の灰白色軽石(最大径68mm)も少量含まれている。

この地点で認められた正の級化構造をもつ黄白色軽石層は、その層相と、直上の土層の中に本来はセットであったと考えられる成層桃色砂質細粒火山灰層がブロック状に認められることを合わせると、約1.3～1.4万年前⁹⁾に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP、新井, 1962, 町田・新井, 1992, 2003)に同定される。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

引切塚遺跡の発掘調査で検出された縄文時代の遺物の層位や年代に関する資料を得るために、8号トレンチ・セクションBおよび13号トレンチ・セクションBにおいて、テフラ層や土層ごとに、また土層が厚い場合には厚さ約5cmで設定採取された試料のうちの14点を対象に、テフラ粒子の量や特徴などを定性的に把握するテフラ検出分析を実施した。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 試料8gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 恒温乾燥器により80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を第11表に示す。いずれの試料からも、粗粒の軽石やスコリアは検出されなかった。

8号トレンチ・セクションBでは、試料16から試料12にかけて、また試料8より上位の試料から火山ガラスを検出した。前者に含まれる火山ガラスは、スポンジ状に発泡した白色の軽石型ガラスや無色透明のバブル型ガラスで、いずれも量が非常に少ない。試料12より下位の試料には、斜方輝石や単斜輝石のほか、角閃石が含まれる傾向にある。

一方、前者では、スポンジ状や繊維束状に発泡した軽石型ガラスのほか、分厚い中間型ガラスが含まれている。とくに、試料6や試料4では、スポンジ状軽石型ガラスや中間型ガラスがより多い傾向にある。これらの火山ガラスの色調は、白色、無色透明、淡灰色などである。また、これらの試料には、赤褐色や桃色の岩片が認められる。なお、試料10より上位では、斜方輝石や単斜輝石が多い傾向にある。

このようなテフラ粒子の産状に層相などを合わせると、8号トレンチ・セクションBでは、試料4付近に、スポンジ状軽石型ガラスや中間型ガラス、さらに桃色があった岩片を特徴的に含む、いわゆる両輝石型のテフラの降灰層準のある可能性が指摘される。

13号トレンチ・セクションBでは、いずれの試料からも火山ガラスを検出することができた。そのうち、試料10、試料9、試料7には、白色のスポンジ状軽石型ガラスが少量含まれており、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石のほかは角閃石が含まれる傾向にある。試料5と試料3には、淡灰色や無色透明の中間型や、無色透明や白色のスポンジ状軽石型の火山ガラスが比較的多く含まれている。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が多い。

以上のテフラ粒子の産状から、13号トレンチ・セクションBでは、試料5付近に、中間型ガラスやスポンジ状軽石型ガラスを特徴的に含む、いわゆる両輝石型のテフラの降灰層準のある可能性が指摘される。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

野外での層相観察と室内でのテフラ検出分析の結果、テフラの降灰層準のある可能性が指摘された8号トレンチ・セクションBの試料4、13号トレンチ・セクションBの試料5、さらに縄文時代の遺物を含む土層から採取された8号トレンチ・セクションBの試料2の合計3点について、試料に含まれる火山ガラス(1/8-1/16mm)を対象に、温度変化型屈折率測定装置(京都フィッション・トラック社製RIMS2000)を用いて屈折率測定を行い、指標テフラとの同定精度の向上を図った。

(2) 測定結果

屈折率測定結果を第12表に示す。この表には、群馬県域の後期旧石器時代の代表的な指標テフラに含まれる火山ガラスの屈折率特性も記載した。8号トレンチ・セクションBの試料4に含まれる火山ガラス(34粒子)の屈折率(n)は、1.501-1.504である。その上位の試料2に含まれる火山ガラスの屈折率(n)はbimodalで、1.500-1.503(30粒子)と、1.509-1.510(2粒子)である。

13号トレンチ・セクションBの試料5に含まれる火山ガラス(34粒子)の屈折率(n)は、1.501-1.504である。

5. 考察

8号トレンチ・セクションBの試料4に含まれるテフラは、火山ガラスの色調、形態、屈折率特性、重鉱物の組み合わせ、さらに桃色があった岩片を含むことなどから総合的に考えると、約1.1万年前¹⁾に浅間火山から噴出した浅間総社軽石(早田, 1990, 1996など)に由来する可能性が高い。ただ、軽石の岩相や火山ガラスの屈折率特性を厳密に検討すれば、As-YPの二次堆積物の可能性を完全に否定はできない。しかしながら、縄文時代の遺物を含む土層(試料2)には、As-Sjに含まれている比較的高屈折率(n: 1.509-1.510)の火山ガラスも検出されており、いずれにしても、この遺物包含層の層位はAs-Sjより上位と推定される。

一方、As-YPより下位から採取された13号トレンチ・セクションBの試料5に含まれるテフラ粒子は、火山ガラスの形態、色調、屈折率、また重鉱物の組み合わせなどから、約1.7万年前¹⁾と約1.6万年前²⁾に浅間火山から

噴出した浅間大窪沢第1軽石(As-0k1, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996)と浅間大窪沢第2軽石(As-0k2, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996, As-0k1と合わせて仮に浅間大窪沢テフラ群: As-0k Groupとする)に由来する可能性が高い。したがって、ここでは、試料5付近にAs-0k Groupの降灰層準のある可能性が指摘される。このことから、この地点で検出された泥流堆積物の層位は、As-0k Groupよ

り下位であると推定される。

なお、今回の分析で少量検出された無色透明のバブル型ガラスについては、その層位や特徴などから、約2.4～2.5万年前¹⁾に南九州地方の始良カルデラから噴出した始良Tn火山灰(AT, 町田・新井, 1976, 2003, 松本ほか, 1986, 村山ほか, 1991, 池田ほか, 1995)に由来すると考えられる。その顕著な濃集層準が認められないことから、

第11表 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス			重鉱物
		量	色調	最大径	量	形態	色調	
8号トレンチ・セクションB	2	*	透明, 白	量	ps (sp), md	透明, 白	opx, cpx	
	4	**	白, 透明		ps (sp), md	白, 透明	opx, cpx	
	6	**	白, 透明		ps (sp, fb), md	白, 透明	opx, cpx	
	8	*	淡灰		md	淡灰	opx, cpx	
	10						opx, cpx	
	12	(*)	透明		bw	透明	opx, cpx, am	
	14	(*)	透明		bw	透明	am, opx	
	16	*	白		ps(sp)	白	am, opx, cpx	
18						opx, (am, cpx)		
13号トレンチ・セクションB	3	**	透明, 白, 淡灰		ps (sp), md	透明, 白, 淡灰	opx, cpx	
	5	**	透明, 白		md, ps (sp)	淡灰, 透明, 白	opx, cpx	
	7	*	白		ps (sp)	白	(opx, cpx, am)	
	9	*	白		ps (sp)	白	opx, cpx, am	
	10	*	白		ps (sp)	白	opx, cpx	

****: とくに多い, ***: 多い, **: 中程度, *: 少ない, (): とくに少ない, 最大径の単位は μm .

bw: バブル型, md: 中間型, ps: 軽石型, sp: スポンジ状発泡, fb: 繊維束状発泡.

opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石, (): 量が少ないことを示す.

第12表 屈折率測定結果

試料・テフラ	試料	火山ガラス		斜方輝石	文献
		屈折率(n)	測定点数		
8号トレンチ・セクションB	2	1.500-1.503, 1.509-1.510	30, 2		本報告
	4	1.501-1.504	34		本報告
13号トレンチ・セクションB	5	1.501-1.504	34		本報告

<群馬地域の指標テフラ-AT以降>

浅間A (As-A, 1783年)	1.507-1.512	1)
浅間A' (As-A')	1.515-1.521	3)
浅間柏川(As-Kk, 1128年)	未報告	3)
浅間B (As-B, 1108年)	1.524-1.532	1)
榛名二ツ岳伊香保(Hr-FP, 6世紀中葉)	1.501-1.504	3)
榛名二ツ岳渋川(Hr-FA, 6世紀初頭)	1.500-1.502 1.499-1.504	3) 4)
榛名有馬(Hr-AA, 5世紀)	1.500-1.502	2)
浅間C (As-C, 3世紀後半)	1.514-1.520	1)
浅間D (As-D)	1.513-1.516	1)
草津白根熊倉(KS-Ka)	未報告	3)
浅間六合(As-Kn)	未報告	3)
鬼界アカホヤ(K-Ah, 約7,300年前)	1.506-1.513	1)
浅間藤岡(As-Fo)	未報告	3)
浅間姫社(As-Sj)	1.501-1.518	4)
浅間津津(As-K)	1.501-1.503	1)
浅間板蕨黄色(As-YP, 約1.5～1.65万年前)	1.501-1.505	1)
浅間大窪沢2 (As-0k2)	1.502-1.504	1)
浅間大窪沢1 (As-0k1)	1.500-1.502	1)
浅間白糸(As-Sr)	1.506-1.510	1)
浅間萩生(As-Hg)	1.500-1.502	3)
浅間板蕨褐色(群) (As-BP Group) 上部	1.515-1.520	1)
中部	1.508-1.511	1)
下部	1.505-1.515	1)
始良Tn (AT, 約2.8～3万年前)	1.499-1.500	1)

1): 町田・新井(1992, 2003), 2): 町田ほか(1984), 3): 早田(1996), 4)早田(未公表), 本報告および3): 温度変化型屈折率測定装置(RIMS2000).

1)～2): 放新井房大群馬大学名誉教授の温度一定型屈折率測定法.

8号トレンチ・セクションBや13号トレンチ・セクションBで認められた堆積物は、ATより上位と考えられる。

6. まとめ

前橋市引切塚遺跡において地質調査を行いテフラを含む土層層序の記載を実施するとともに、テフラ検出分析と火山ガラスの屈折率測定により、テフラの降灰層準の把握と指標テフラの同定を行った。その結果、浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.3～1.4万年前^{*)})の主体部の一次堆積層のほか、始良Tn火山灰(AT, 約2.4～2.5万年前^{*)})、浅間大窪沢テフラ群(As-Ok Group, 約1.6～1.7万年前^{*)})、浅間総社軽石(As-Sj, 約1.1万年前^{*)})などに由来するテフラ粒子を検出できた。発掘調査で検出された縄文時代の遺物包含層は、As-Sjより上位にあると推定される。

*1 いずれも放射性炭素(¹⁴C)年代。ATおよびAs-YPの暦年較正年代は、約2.8～3.0年前と約1.5～1.65万年前と考えられている(町田・新井, 2003, 早田, 2010)。なお、本地区における後期旧石器時代の指標テフラの年代推定に関する諸問題については、関口ほか(2011)に詳しい。

○青柳宿上遺跡

1. はじめに

青柳宿上遺跡の発掘調査でも、層位や年代が不明な堆積物や考古遺物が認められたことから、地質調査を実施して土層やテフラの記載を行うとともに、採取した試料を対象にテフラ検出分析、重鉱物組成分析、火山ガラス比分析、さらに火山ガラスおよび鉱物の屈折率測定を行って、すでに噴出年代が明らかにされている指標テフラの検出同定を実施し、それとの層位関係から堆積物や考古遺物の層位および年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象は、39号トレンチ北壁およびT10グリッドセクションC-C'の2地点である。

2. 土層層序

(1) 39号トレンチ北壁

39号トレンチ北壁では、亜円礫層(層厚20cm以上、礫の最大径122mm)の上位に、下位より桃色がかかった灰白色シルト層(層厚11cm)、円磨された黄色軽石を含む灰色砂層(層厚5cm、軽石の最大径8mm)、桃色がかかった灰白色

シルト層(層厚6cm)、葉理が発達した黄色がかかった灰色砂層(層厚51cm)、亜円礫混じりで葉理が発達した灰色砂層(層厚46cm、軽石の最大径62mm)、亜円礫層(層厚10cm、礫の最大径88mm)、葉理が発達した灰色砂層(層厚16cm)、砂混じり桃灰白色シルト層(層厚4cm)、白色軽石を多く含む灰白色泥流堆積物(最大層厚26cm、軽石の最大径44mm)、灰～白色軽石混じりで青みがかかった灰色砂質泥流堆積物(層厚34cm、軽石の最大径18mm、礫の最大径66mm)が認められる(第184図)。これらのうち、灰白色泥流堆積物については、層相から火砕流堆積物の可能性もある。

さらに、その上位には、砂混じり灰色シルト層(層厚7cm)、砂混じり灰色シルト層(層厚7cm)、黄灰色砂層(層厚5cm)、黄白色シルト層(層厚1cm)、灰色砂層(層厚9cm)、黄白色軽石混じり褐色砂層(層厚10cm、軽石の最大径13mm)、鉄分を多く含む固結した褐色砂層(層厚24cm)が堆積する。

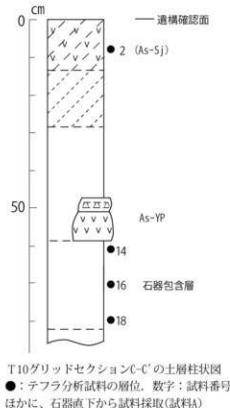
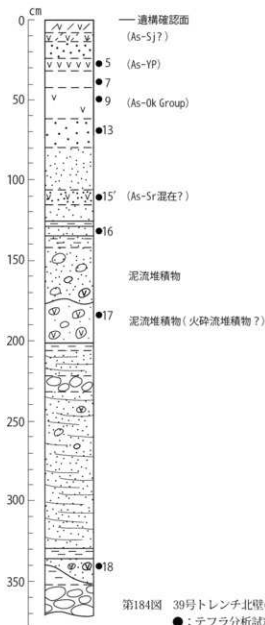
一連の水成堆積物の上位には、風成堆積物があり、それは遺構確認面まで、下位より灰色砂質土(層厚19cm)、黄色細粒軽石混じりで灰色がかかった黄色土(層厚20cm、軽石の最大径2mm)、黄白色軽石質粗粒火山灰を多く含む黄褐色土(層厚11cm)、黄色細粒軽石に富む黄褐色土ブロック混じり褐色土(層厚8cm、軽石の最大径3mm)、黄白色軽石質粗粒火山灰混じりで灰色がかかった褐色土(層厚11cm)、灰色粗粒火山灰を多く含む灰褐色土(層厚6cm)、灰色粗粒火山灰を多く含む暗灰色土(層厚7cm)からなる。

(2) T10グリッドセクションC-C'

後期旧石器時代の遺物が検出されたT10グリッドセクションC-C'では、下位より黄色がかかった褐色土(層厚23cm)、成層したテフラ層(ブロック状)、褐色土(層厚19cm)、灰褐色土(層厚15cm)、黄白色細粒軽石を多く含む暗灰色土(層厚13cm、軽石の最大径4mm)が認められる。これらのうち、最下位の黄色がかかった褐色土から石器が検出されている。石器の直下の土壌(厚さ4cm)についても試料の採取を実施した(第185図)。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法



第13表 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス			重鉱物
		量	色調	最大径	量	形態	色調	
39号トレンチ北壁	5			**	nd, pm (fb)	淡灰, 透明	opx, cpx	
	7			*	nd, pm (sp)	透明, 淡灰	opx, cpx, (am)	
	9			*	nd, pm (sp)	淡灰, 透明	opx, cpx, (am)	
	13			*	nd, pm (sp, fb)	淡灰, 透明	opx, cpx, (am)	
	15'	(軽石を粉砕)			pm (fb)	白～灰白	opx, cpx, (am)	
	16						opx, (cpx, am)	
	17	(軽石を粉砕)			pm (sp)	白	am, opx, (cpx)	
	18	(軽石を粉砕)			pm (sp)	白	opx, cpx, (am)	

****：とくに多い，***：多い，**：中程度，*：少ない，最大径の単位は，mm, bc：バブル型，pm：軽石型，nd：中間型。

sp：スポンジ状発泡，fb：繊維束状発泡。

opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石，am：角閃石，○は量が少ないことを示す。

39号トレンチ北壁で採取された試料のうちの試料18(軽石)、試料17(軽石)、試料16、試料15'(軽石)、試料13、試料9、試料7、試料5の8点を対象に、テフラ粒子の量や特徴などを定性的に把握するテフラ検出分析を実施した。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 土壌・堆積物試料6gを秤量。
- 2) 軽石試料を軽く粉砕。
- 3) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 恒温乾燥器により80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を第13表に示す。試料16(砂層)では火山ガラスは検出されなかったものの、軽石試料および試料13以上の試料では火山ガラスを認めることができた。

試料13から試料5にかけては、分厚い中間型ガラスが多く含まれている。ほかに、スポンジ状軽石型ガラスが含まれているが、試料3では繊維束状軽石型ガラスが目立つ。火山ガラスの色調は淡灰色や無色透明である。試料16および試料13から試料7にかけては、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石のほか、少量の角閃石が認められる。

軽石試料のうち、試料18および試料17は白色でスポンジ状に発泡している。これらの重鉱物組成は後述するが、前者は斜方輝石および単斜輝石、後者は角閃石で特徴づけられる。試料15'の軽石に含まれる重鉱物は、斜方輝石や単斜輝石のほか、少量の角閃石である。

4. 重鉱物組成分析・火山ガラス比分析

(1) 分析試料と分析方法

39号トレンチ北壁で認められた軽石試料のうちの試料18および試料17について、含まれる重鉱物を定量的に調べるために重鉱物組成分析を実施した(第186図)。また、後期旧石器時代遺物が検出されたT10グリッドセクションC-C'において採取された試料の5点について、火山ガラスの形態色調別含有率を定量的に求める火山ガラス比分析を行い、火山ガラス質テフラの降灰層準を求め、テフラの降灰層準の把握を行った。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 石器検出区の試料6gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 恒温乾燥器により80℃で恒温乾燥。
- 4) 試料ならびにテフラ検出分析後の軽石試料について、分析節により1/4-1/8mmおよび1/8-1/16mmの粒子を篩別。
- 5) 軽石試料のうち、1/4-1/8mm粒径の重鉱物250粒子について偏光顕微鏡下で観察を行い、重鉱物組成を求める(重鉱物組成分析)。
- 6) 石器検出区の試料から得られた1/4-1/8mm粒径の250粒子について偏光顕微鏡下で観察を行い、火山ガラスの形態色調別含有率を求める(火山ガラス比分析)。

(2) 分析結果

重鉱物組成分析の結果をダイアグラムにして第186図に、その内訳を第14表に示す。試料18に含まれる重鉱物は、含有率が高い順に斜方輝石(47.2%)、不透明鉱物(おもに磁鉄鉱:38.4%)、単斜輝石(9.6%)、角閃石(3.6%)である。一方、試料17に含まれる重鉱物は、含有率が高い順に角閃石(43.6%)、不透明鉱物(おもに磁鉄鉱:33.2%)、斜方輝石(22.8%)、単斜輝石(0.4%)である。このように両者の間には顕著な違いが認められる。

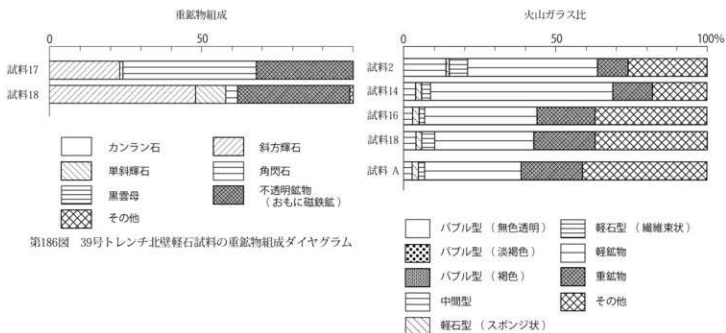
T10グリッドセクションC-C'についての火山ガラス比分析の結果をダイアグラムにして第187図に、その内訳を第15表に示す。

火山ガラスは2をのぞいて、ほぼ同じような含有率で含まれている。これらの含まれる火山ガラスは、分厚い中間型、繊維束状軽石型、そしてスポンジ状軽石型である。石器直下の試料Aでは、含有率が高い順に、中間型(2.8%)、繊維束状軽石型(2.0%)、スポンジ状軽石(1.6%)が認められる。また、より多くの火山ガラスが含まれる試料2では、これらのうち、中間型(13.6%)や繊維束状軽石型ガラスの含有率が高い。

5. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

指標テフラとの同定精度を向上させる方法としては、全国的に火山ガラスや鉱物の屈折率測定が行われている。そこで、39号トレンチ北壁軽石試料のうち試料の火山ガラスが特徴的に認められる1区南壁深堀地点の試料17と試料18に含まれる火山ガラスを対象に、屈折率測定



第186図 39号トレンチ北壁軽石試料の重鉱物組成ダイヤグラム

第187図 T10グリッドセクションC-C'の火山ガラス比ダイヤグラム

第14表 重鉱物組成分析結果

地点	試料	ol	opx	cpx	am	bl	opq	その他	合計
39号トレンチ北壁	17	0	57	1	109	0	83	0	250
	18	0	118	24	9	0	96	3	250

ol: カンラン石, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石, bl: 黒雲母, opq: 不透明鉱物(おもに磁鉄鉱).
数字は粒子数.

第15表 火山ガラス比分析結果

試料	bw (cl)	bw (pb)	bw (br)	nd	pm (sp)	pm (fb)	軽鉱物	重鉱物	その他	合計
	2	0	0	34	1	14	107	24	70	250
T10グリッドセクションC-C'	14	0	0	13	4	8	150	33	42	250
	16	0	0	7	6	6	93	48	90	250
	18	0	0	9	6	9	85	51	90	250
(石器直下)	(A)	0	0	7	4	5	81	50	103	250

bw: バブル型, nd: 中間型, pm: 軽石型, cl: 無色透明, pb: 淡褐色, br: 褐色, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状.
数字は粒子数.

第16表 屈折率測定結果

試料・テフラ(噴出年代)	火山ガラス		斜方輝石		角閃石		文献
	屈折率(n)	測定点数	屈折率(γ)	測定点数	屈折率(n2)	測定点数	
青柳宿上遺跡・39号トレンチ・試料17	1.503-1.505	33	1.704-1.708	30	1.677-1.684	30	本報告
青柳宿上遺跡・39号トレンチ・試料18	1.501-1.506	40	1.701-1.708	40			本報告
青柳宿上遺跡・試料A(石路直下)	1.502-1.506	40					本報告
《代表的な赤城・榛名系指標テフラ》							
榛名ニツ岳伊香保(Hr-FP, 6世紀中葉)	1.501-1.504		1.707-1.711		1.672-1.677		1)
榛名ニツ岳渋田(Hr-FA, 6世紀初頭)	1.500-1.502		1.707-1.711		1.671-1.695		1)
	1.499-1.504						4)
浅間神社(As-S1)	1.501-1.518		1.706-1.711				2), 3)
浅間草津(As-K)	1.501-1.503		1.707-1.712				1)
浅間板鼻黄色(As-YP, 約1.5-1.65万年前)	1.501-1.505		1.707-1.712				1)
浅間大窪沢2(As-Ok2)	1.502-1.504		1.704-1.709				1)
浅間大窪沢1(As-Ok1)	1.500-1.502		1.704-1.709				1)
浅間白糸(As-Sr)	1.506-1.510		1.702-1.708		1.675-1.680		1)
浅間萩生(As-Hg)	1.500-1.502		1.703-1.709		1.673-1.679		2)
浅間板鼻褐色(群) (As-BP Group)	上部 1.515-1.520		1.704-1.714				1)
	中部 1.508-1.511		1.700-1.709				1)
	下部 1.505-1.515		1.710-1.725				1)
始良Tn (AT, 約2.8-3万年前)	1.499-1.500						1)
榛名箱田(Hr-BA)			1.709-1.712		1.670-1.677		2)
赤城鹿沼(Ag-KP)	1.504-1.508		1.707-1.710		1.671-1.678		1)
榛名八崎(Hr-HP)	1.505-1.508		1.708-1.712		1.670-1.677		1)
赤城函の江(Hg-HP)			1.700-1.705		1.675-1.679		1)
赤城大沼(Ag-Op)	1.509-1.511		1.707-1.713				1)

1) : 町田・新井(1992, 2003), 2) : 早田(1996), 3) 早田・青木(未公表),

1) ~ 2) : 故新井房夫群馬大学名誉教授の温度一定型屈折率測定法。

本報告ならびに3) : 温度変化型屈折率測定法(RIMS2000)。

を行って指標テフラとの同定精度の向上を図った。測定対象は1/8-1/16mmの火山ガラスで、温度変化型屈折率測定装置(京都フィッション・トラック社製RIMS2000)を用いて測定を実施した。

(2) 測定結果

屈折率測定結果を第16表に示す。この表には、北関東地域の後期旧石器時代以降の代表的な指標テフラに含まれる火山ガラスの屈折率特性も記載した。

試料18に含まれる火山ガラス(40粒子)の屈折率(n)は、1.501-1.506である。また、斜方輝石(40粒子)の屈折率(γ)は、1.701-1.708である。一方、やはり軽石の試料17に含まれる火山ガラス(33粒子)の屈折率(n)は、1.503-1.505である。斜方輝石(30粒子)および角閃石(30粒子)の屈折率(γ , n2)は、それぞれ1.704-1.708と1.677-1.684である。

T10グリッドセクションC-C'の試料Aに含まれる火山ガラス(40粒子)の屈折率(n)は、1.502-1.506である。

6. 考察—指標テフラとの同定と石器包含層の層位について

39号トレンチでは、従来知られていない明色で軽石を多く含む泥流堆積物(試料18)が検出された。従来、赤城

南麓一帯における考古遺跡の調査の際に、榛名火山の6世紀の二度の噴火(新井, 1979, 早田, 1989など)の前に、同じようないわゆる「角閃石安山岩」質軽石がすでに存在し、遺物の材料となっている可能性が話題となってきた。そこで、新鮮な状態で検出される軽石は、本遺跡の背景に関する試料以外にも重要なことから、この泥流堆積物中の軽石も分析の対象となった。

青柳宿上遺跡において、泥流堆積物を挟在する水成堆積物については、白川扇状地上に広がる比較的広い地形面を構成していると考えられることから、ふつう後期更新世後半の堆積物と推定される。泥流中の軽石(試料17)には角閃石が多く、また斜方輝石も比較的多く含まれていて、榛名火山の古墳時代の軽石によく似ている。ただし、試料17の軽石に含まれる斜方輝石の屈折率はやや低く、角閃石の屈折率は下限がやや高い傾向にある。また、泥流堆積物中の軽石には斜長石の斑晶が多く含まれる傾向にある。

この泥流堆積物の層位をあきらかにするために、下位の試料18の軽石について分析が実施された。当初、この軽石は約1.9-2.4万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 新井, 1962, 町田・新井, 1992, 2003)起源の可能性が考えられた。しかしながら、

軽石試料中にわずかながら角閃石が含まれていること、火山ガラスの屈折率が低いことなどから、As-BP Groupの可能性は低く、赤城火山の噴火に由来するようと思われる。

一方、上位をみると、試料15'の軽石の中には、浅間白系軽石(As-Sr, 町田ほか, 1984など)に由来するものが含まれている。また、その上位の風成堆積物中の顕著なテフラの濃集層準に含まれるテフラは、岩相や火山ガラスの形態などから、約1.3～1.4万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992, 2003)と考えられる。そして、その下位の土層中の黄白色粗粒火山灰と、上位の灰色火山灰は、層位や岩相から、それぞれ約1.7万年前と約1.6万年前に浅間火山から噴出した浅間大窪沢第1軽石(As-Ok1, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996)および浅間大窪沢第2軽石(As-Ok2, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996, As-Ok1と合わせて仮に浅間大窪沢テフラ群: As-Ok Groupとする)と、約1.1万年前に浅間火山から噴出した浅間総社軽石(As-Sj, 早田, 1996など)に由来すると推定される。

このように、今回発見された泥流堆積物は、これらのテフラとの関係からも、やはり後期更新世後半の堆積物と考えられる。より多くの層位学的情報を収集するために、さらに分析を実施するとともに、本遺跡周辺の考古遺跡の発掘調査の成果を含めて検討を行う必要がある。

T10グリッドセクションC-C'で検出された石器の本来の層位については、土層観察の結果から、As-YPより下

位にあることは明らかである。石器直下や石器包含層の分析では、中間型ガラスが検出された。火山ガラスの屈折率特性を合わせると、これらの試料の中には、As-Ok Groupに由来する火山ガラスが含まれていると考えられる。このことから、発掘調査で検出された石器の層位は、少なくともAs-Ok1より上位で、As-YPより下位にあると推定される。

7. まとめ

青柳宿上遺跡において、地質調査、テフラ検出分析、重鉱物組成分析、火山ガラス比分析、火山ガラスの屈折率測定を実施した。その結果、下位より浅間大窪沢テフラ群(As-Ok Group, 約1.6～1.7万年前)、浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.3～1.4万年前)、浅間総社軽石(As-Sj, 約1.1万年前)などを検出できた。石器検出区で検出された石器の層位は、As-Ok1より上位で、As-YPより下位にあると推定される。また、本遺跡において、風成堆積物の下位にある白川扇状地を構成する水成堆積物中に、軽石を多く含む白色の泥流堆積物が挟在されていることが明らかになった。一般的に、群馬県域における考古学研究分野では、白色で角閃石を多く含む軽石を、榛名火山二ツ岳系と考えることが多いようであるが、この泥流堆積物中の軽石の岩相や重鉱物の組み合わせは、それとよく似ている。今後、同様な岩質の石製品が出土した際には、石材の由来について慎重に検討を行う必要がある。

文献

- 新井房夫(1962)関東盆地北西部地域の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
- 池田見子・奥野 充・中村俊夫・小林哲夫(1995)南九州, 始良カルデラ起源の大噴降下軽石と入戸火砕流 中の炭化樹木の加速器¹⁴C年代。第四紀研究, 34, p.377-379.
- 町田 洋・新井房夫(1976)広域に分布する火山灰-始良Tn火山灰の発見とその意義一。科学, 46, p.339-347.
- 町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス, 東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫(2003)新編火山灰アトラス, 東京大学出版会, 336p.
- 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫(1984)テフラと日本考古学-考古学研究と関係する テフラのカタログ。古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学-総括報告書」, p.865-928.
- 松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史郎(1987)始良Tn火山灰(AT)の14C年代。第四紀研究, 26, p.79-83.
- 村山雅之・松本英二・中村俊夫・岡村 真・安田高登・平 朝彦(1993)四国沖ビストンアトラス試料を用いた AT火山灰噴出年代の再検討-タンデロン加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の14C年代。地質雑報, 99, p.787-798.
- 中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦(1984)浅間火山, 風相-前掛期のテフラ層序。日本第四紀学会講演要旨 集, no.14, p.69-70.
- 間口博幸・早田 勉・下田順直(2011)群馬の旧石器編年のための基礎的研究-関東地方北西部における石器群の出上層位, テフラ層序, 数値年代の整理と検討-。群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要, 29, p.1-20.
- 早田 勉(1989)6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害。第四紀研究, 27, p.297-312.
- 早田 勉(1990)群馬県の自然と風土。群馬県史編さん委員会編「群馬県史通史編1原始古代1」, p.37-129.
- 早田 勉(1996)関東地方-東北地方南部の示標テフラの諸特徴-とくに御宿第1テフラより上位のテフラ について-。名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p.256-267.
- 早田 勉(2010)更新世堆積物とテフラ。稲田孝司・佐藤宏之編「講座日本の考古学1 旧石器時代上」, 青木書店, p.77-102.

第2節 青柳宿上遺跡出土黒曜石資料の産地分析

1. はじめに

青柳宿上遺跡(群馬県前橋市青柳町)より出土した黒曜石資料の産地分析を実施したので、その方法と得られた結果について報告する。

2. 黒曜石の産地分析

2-1. 資料(試料)

産地分析に供した資料は、青柳宿上遺跡より出土した黒曜石資料2点である。調査所見より、いずれの資料も縄文時代晩期大洞A式期に帰属するものと考えられる。

また、比較資料として、西新井遺跡(群馬県前橋市幸塚町)より出土した黒曜石資料10点の産地分析も実施した。帰属時期は、いずれも縄文時代晩期大洞C1式期と考えられる(前橋市教育委員会所蔵)。第17表、第18表、第188図に分析資料を示した。

2-2. 産地分析の方法

産地分析に用いる各元素の測定には、エネルギー分散型蛍光X線分析(非破壊法)を用いた。測定条件を以下に示す。

分析装置：セイコーインスツルメント製エネルギー分散型蛍光X線分析装置SEA-5120S、線源ターゲット：モリブデン(Mo)管球、電圧：45kV、X線照射径：φ1.8mm、測定雰囲気：大気、測定時間：100秒、定量分析の計算法：FP法、標準試料：なし

黒曜石の主成分元素であるケイ素(Si)、チタン(Ti)、アルミニウム(Al)、鉄(Fe)、マグネシウム(Mg)、カルシウム(Ca)、ナトリウム(Na)、カリウム(K)の8元素のうち、Fe、Ca、Kの3元素は、黒曜石の産地間の識別・分類に特に有効であり、産地分析の指標元素となる。これら3元素と、これらと挙動に相関性のある微量元素であるマンガン(Mn)、ストロンチウム(Sr)、ルビジウム(Rb)を加えた6元素による検討が東日本の黒曜石の産地分析に有効であることを示してきた。本研究においても、この6元素の測定をおこなった。

測定に際しては機器に備えられたCCDカメラの画像観

察により、X線照射範囲(分析範囲)をなるべく平滑かつ(原礫面等でない)新鮮な面とすることを心がけた。

産地分析のための基準資料として、東日本の代表的な黒曜石産地に鳥根県隠岐を加え、北海道白滝・置戸・十勝三股・赤井川、青森県小泊・出来島・鶴ヶ坂・深浦、岩手県平石・折居・花京、秋田県金ヶ崎・脇本、宮城県湯の倉・色麻・秋保、山形県月山、新潟県板山・上石川・佐渡、栃木県高原山・日光、長野県小深沢・男女倉・星ヶ塔・麦草峠、神奈川県畑宿、静岡県上多賀・柏峠、東京都神津島(恩馳島)、鳥根県隠岐(久見)の各産地黒曜石を使用した。各産地黒曜石の分析値(代表値)を第3表に示した。

産地分析は、先の6元素の測定の結果をもとに、Word法によるクラスター分析を実施し、分析資料(1点ずつ)と産地資料群の併合距離を検討し、産地資料と分析資料の類似性(非類似性)を検討した。クラスター分析には、IBM社製SPSS Statistics 20を用いた。

2-3. 産地分析の結果

第17表に青柳宿上遺跡出土黒曜石資料の6元素組成(岩石学の慣例に従い酸化物の形で表記、以下同様)を、第18表に西新井遺跡出土黒曜石資料の6元素組成を示した。いずれも、個々の分析資料と産地資料群の分析値をクラスター分析した結果、最も類似性の高い(非類似性の低い)産地資料との併合距離が比較的小さい(0.1以下)場合は、これを推定産地とし、それぞれ第17表、第18表に示した。

本分析により得られた青柳宿上遺跡出土黒曜石の産地構成は、星ヶ塔産2点と推定された。同様に、西新井遺跡出土黒曜石の産地構成は、星ヶ塔8点、小深沢産1点、麦草峠産1点と推定された。

晩期大洞A式期の青柳宿上遺跡の資料は2点と少ないため、全体的な傾向を把握することはできないが、星ヶ塔産が卓越するのは、晩期から弥生時代前期末葉にかけての群馬地域における一般的傾向であり(建石ほか2011、鈴木ほか1988等)、本遺跡の資料もそれを追認するデータとなった。これに対し、比較のために実施した晩期大洞C1式期の西新井遺跡の資料において星ヶ塔産が卓越する傾向は、やはり晩期の一般的傾向を追認するものである。また、麦草峠産は本遺跡以外では、極

東村茅野遺跡(晩期前葉)、藤岡市中栗須滝川Ⅱ遺跡(後期中葉～晩期前葉)で確認されている(建石ほか 前掲)。後・晩期の黒曜石資料については、時期が限定できる資料が少ないので、時期が特定できる今回の分析資料は重要な意味をもつものである。

文献

國學院大學研究開発推進機構考古学資料館編 2008『國學院大學考古学資料館要覧2007 吉谷昭彦博士寄贈黒曜石資料』國學院大學研究開発推進機構考古学資料館
鈴木正男・戸村健児・金山喜昭・福岡久 1988『注連引原遺跡・注連引原Ⅱ遺跡出土の黒曜石の産地推定』『注連引原Ⅱ遺跡』安中市教育委員会
建石 徹・三浦麻衣子・村上夏希・井上麗子・朴 嘉瑛・津村宏臣・二宮修治 2011『栃木県・群馬県内諸遺跡出土黒曜石の産地分析』『日本考古学協会2011年度栃木大会 研究発表資料集』日本考古学協会2011年度栃木大会実行委員会編

第17表 青柳宿上遺跡出土黒曜石の産地分析結果(6元素の酸化物の総和を100としたときの百分率)

分析No	MnO	Fe ₂ O ₃	SrO	CaO	Rb ₂ O	K ₂ O	推定産地	併合距離
1	3.0	25.2	0.3	15.6	1.0	54.8	星ヶ塔	0.007
2	3.5	25.6	0.3	14.7	1.1	54.9	星ヶ塔	0.016

第18表 西新井遺跡出土黒曜石の産地分析結果(6元素の酸化物の総和を100としたときの百分率)

分析No	MnO	Fe ₂ O ₃	SrO	CaO	Rb ₂ O	K ₂ O	推定産地	併合距離
1	3.4	25.4	0.2	14.4	1.0	55.6	星ヶ塔	0.003
2	2.7	20.1	0.2	12.2	0.7	54.2	星ヶ塔	0.020
3	3.3	26.0	0.2	17.1	0.9	52.6	星ヶ塔	0.016
4	3.6	25.3	0.3	14.3	1.0	55.6	星ヶ塔	0.011
5	4.3	25.3	0.0	14.0	1.7	54.7	小深沢	0.020
6	3.5	25.8	0.3	12.8	1.0	56.6	星ヶ塔	0.010
7	3.3	25.4	0.2	14.3	1.0	55.9	星ヶ塔	0.001
8	3.5	25.2	0.2	13.4	1.0	56.7	星ヶ塔	0.005
9	1.7	31.8	0.7	18.7	0.7	46.4	麦草峠	0.003
10	3.8	25.2	0.2	13.5	0.9	56.4	星ヶ塔	0.011

第5章 自然科学分析

第19表 東日本の主な産地黒曜石の6元素組成
(6元素の酸化物の総和を100としたときの百分率)

都道府県	産地	MnO	FeO	SrO	CaO	Rb ₂ O	K ₂ O
北海道	白滝	1.5	38.9	0.2	11.8	1.0	46.7
	置戸	1.3	37.6	0.4	18.2	0.9	41.7
	十勝三股	1.6	36.1	0.3	16.6	1.0	44.4
	赤井川	1.5	36.2	0.3	18.0	0.8	43.1
青森	小泊	0.9	38.4	0.4	20.8	0.9	38.7
	出来島	4.9	32.7	0.7	19.6	0.6	41.4
	鶴ヶ坂	1.7	36.6	0.4	15.1	1.0	45.2
	深浦	1.4	55.9	0.0	4.1	0.6	37.9
岩手	零石	2.0	44.9	0.6	23.1	0.5	28.8
	折居	2.0	45.7	0.6	20.6	0.6	30.5
	花泉	2.1	45.7	0.6	22.3	0.5	28.7
秋田	金ヶ崎	1.9	39.1	2.1	26.9	0.6	29.4
	脇本	5.4	24.1	0.5	22.3	1.1	46.6
宮城	湯の倉	1.9	56.0	1.0	27.3	0.2	13.6
	色麻	3.8	55.3	1.1	24.3	0.2	15.2
	秋保	2.3	58.4	0.9	29.0	0.2	9.3
山形	月山	4.3	30.0	0.6	17.4	0.8	46.8
新潟	板山	3.3	29.0	0.4	17.7	1.1	48.5
	上石川	1.7	34.5	0.6	19.9	0.9	42.4
	佐渡	0.9	36.7	0.3	14.7	1.1	46.3
栃木	高原山	1.4	48.5	0.6	20.7	0.6	28.2
	日光	1.7	62.1	0.8	27.5	0.1	7.8
長野	小深沢	3.7	28.2	0.1	14.7	1.8	51.5
	男女倉	2.5	32.0	0.4	16.1	1.0	48.0
	星ヶ塔	3.1	27.3	0.2	13.8	0.9	54.6
	麦草峠	1.6	33.8	0.7	17.2	0.6	46.0
神奈川	畑宿	2.4	61.4	1.0	23.9	0.1	11.3
静岡	上多賀	1.7	53.1	0.9	24.2	0.2	19.9
	柏峠	1.4	51.1	0.6	24.0	0.3	22.7
東京	神津島	3.2	33.8	0.5	19.1	0.6	42.8
島根	隠岐	1.6	45.1	0	10.2	1.1	42.1



青柳宿上No.1
星ヶ塔

青柳宿上No.2
星ヶ塔



西新井No.1
星ヶ塔

西新井No.2
星ヶ塔

西新井No.3
星ヶ塔

西新井No.4
星ヶ塔



西新井No.5
小深沢

西新井No.6
星ヶ塔

西新井No.7
星ヶ塔

西新井No.8
星ヶ塔



西新井No.9
麦草峠

西新井No.10
星ヶ塔

第3節 青柳宿上遺跡出土炭化材の放射性炭素年代測定

はじめに

青柳宿上遺跡(群馬県前橋市青柳町・日輪寺町地内)は、赤城山西南麓に形成された山麓扇状地(白川扇状地)の扇端付近に位置する。周辺には白川扇状地を流下する河川により形成された小規模扇状地の分布が認められ、本遺跡はいわゆる白川扇状地末端と小規模扇状地とが接する付近にあたる。

青柳宿上遺跡の発掘調査では、旧石器時代、縄文時代、弥生時代および古墳時代の遺構や遺物が確認されている。本報告では、調査区南側より検出された谷頭とみられる半円形の窪地を埋積する黒色土の年代観の検討を目的として、同堆積物中より出土した炭化材を対象に放射性炭素年代測定を実施した。

1. 試料

放射性炭素年代測定の対象とされた試料は、97区半円形の窪地を埋積する黒色土より出土した炭化材(炭1~9)であり、半円形の窪地内の奥部(北側)に多く確認されている。また、出土状況は、棒状を呈するものや小破片が集中するなど、区々である。

炭化材試料は、担当者により測定対象の候補が複数抽出されていたことから、さらにこれらの詳細観察により2点を選択した。選択した炭化材は、炭3と炭5の2点であり、炭3が横断面の接線面(板目)が約6cm、放射面(柾目)が約2.5cmを測る分割材(板目板)状を呈する破片、炭5が不定形な割材状を呈する残存半径が約4cmを測る破片である。いずれも観察範囲内には樹皮等は確認されなかったため、それぞれ残存する最外年輪部を含む3~5年輪分を測定に供した。なお、本分析では試料の履歴(樹種)に関わる情報を得るため、炭化材の樹種の確認も行った。各試料の樹種は、結果とともに第20表に記したので参照されたい。

2. 分析方法

測定試料に土壌や根等の目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗

浄等により物理的に除去する。その後HClによる炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHによる腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う(酸・アルカリ・酸処理)。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(II)と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃(30分)850℃(2時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。

測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-II)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に¹³C/¹²Cの測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}C$ を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1,950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma:68%)に相当する年代である。暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.0.1 (Copyright 1986-2014 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い(¹⁴Cの半減期5,730±40年)を較正することである。暦年較正は、CALIB 7.0.1のマニュアルにしたがい、1年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値および北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正結果は $\sigma \cdot 2 \sigma$ (σ は統計的に真の値が68.2%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95.4%の確率で存在する範囲)の値を示す。また、表中の相対比は、 $\sigma \cdot 2 \sigma$ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。な

お、較正された暦年代は、将来的に暦年較正曲線等の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表された値を記す。

3. 結果および考察

出土炭化材の同位体効果による補正を行った測定年代(補正年代)は、炭3が2,250±30yrBP、炭5が2,220±30yrBPである。これらの補正年代に基づく暦年較正結果(1σ)は、炭3がcal BC 381 - cal BC 234、炭5がcal BC 360 - cal BC 210である(第20表、第189図)。

以上の結果を参考とすると、97区半円形の窪地の黒色土中より出土した炭化材の較正暦年代(1σ)は、いずれも紀元前4世紀後半から3世紀前半頃までの範囲を示す。

また、測定に供した炭化材の樹種は、炭3がキハダ(*Phellodendron amurense Ruprecht*)、炭5がカエデ属(*Acer*)に同定された(第190図)。キハダは河原等に生育

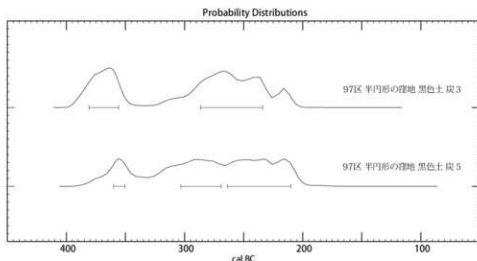
する落葉高木である。また、カエデ属は二次林や河原等に生育する小高木~高木であり、属としては常緑の種類も含まれるが、各種類の分布状況などを考慮すれば、本地域におけるカエデ属は落葉性が主と考えられる。いずれも現在の赤城山麓にも比較的普通に見られる種類であることから、炭化材に認められた樹種は、当時の遺跡周辺に生育した樹木に由来する可能性がある。

<参考文献>

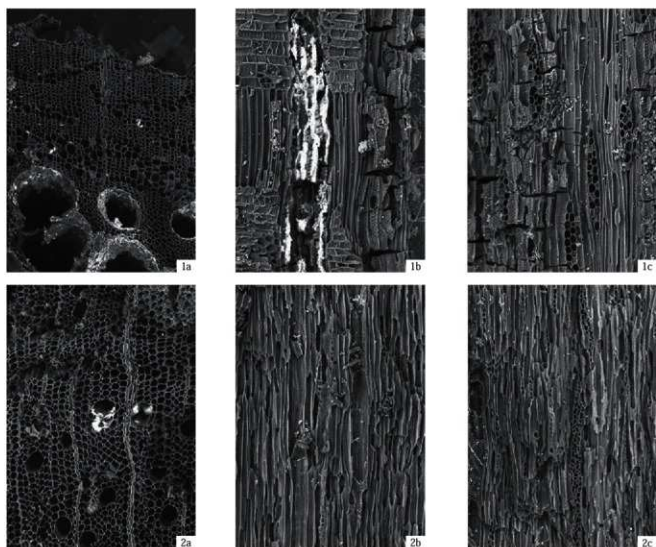
- 小林謙一 2009 「近畿地方以東の地域への拡散、弥生農耕のはじまりとその年代」 西本豊弘編「新石器時代のはじまり」第4巻 巻山閣 55-82。
小谷 昌・金塚敏知 1956 「前橋岡原地形説明書、土地分類基本調査地形・表層地質・土じょう 前橋国土調査 5万分の1」 経済企画庁・群馬県 1-30。
矢口裕之 2011 「関東平野北西部、前橋堆積盆地の上部更新統から完新統に関する諸問題」 「研究紀要 第29号」 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 21-40

第20表 放射性炭素年代測定および暦年較正結果

試料	測定年代 (yrBP)	δ ¹³ C (‰)	補正年代 (暦年較正用) (yrBP)	暦年較正結果				相対比	測定機関 CodeNo.
				1σ	2σ	cal BP	cal BC		
97区 半円形の窪地 黒色土炭3 炭化材(キハダ)	2,250±30	-25.70±0.37	2,249±26	σ	cal BC 381 - cal BC 356	cal BP 2,330 - 2,305	0.347	IAAA- 140475	
					cal BC 286 - cal BC 234	cal BP 2,235 - 2,183	0.653		
				2σ	cal BC 392 - cal BC 349	cal BP 2,341 - 2,298	0.326		
					cal BC 314 - cal BC 208	cal BP 2,263 - 2,157	0.674		
97区 半円形の窪地 黒色土炭5 炭化材(カエデ属)	2,220±30	-28.97±0.54	2,220±26	σ	cal BC 360 - cal BC 350	cal BP 2,309 - 2,299	0.101	IAAA- 140476	
					cal BC 303 - cal BC 269	cal BP 2,252 - 2,218	0.343		
				2σ	cal BC 264 - cal BC 210	cal BP 2,213 - 2,159	0.555		
					cal BC 372 - cal BC 334	cal BP 2,321 - 2,283	0.176		
					cal BC 330 - cal BC 204	cal BP 2,279 - 2,153	0.824		



第189図 暦年較正結果(1σ)



1. キハダ (97区 半円形の窪地 黒色土;炭3)
2. カエデ属 (97区 半円形の窪地 黒色土;炭5)
a:木口,b:柎目,c:板目

100 μ m: a
100 μ m: b, c

第190図 半円形の窪地出土炭化材の顕微鏡写真

第4節 青柳宿上遺跡出土の馬歯

1号溝

ウ マ

出土層位：覆土

時代：古墳時代

現状では、2本分の右上顎白歯片と1本分の左上顎白歯片および切歯片が確認される(第191図・第192図)。いずれの歯も分離し破片化しているが、2本の右上顎白歯片では頬側面のエナメルがほぼ完存し、歯冠近遠心径(推定値)、頬側歯冠高、中附鐘幅、咬合面の傾斜が計測可能で(第21表)、歯種及び年齢の推定に役立った。

これらの計測値をもとに歯種と推定すると、2本の右上顎白歯片は第3前臼歯と第4前臼歯であり、得られた歯冠高から西中川・松元(1991)の方法で年齢を推定すると、9歳～10歳の牡馬であることがわかる。

歯の計測値(大きさ)は、日本の中型在来馬相当の馬格であったことを示している。性別は判断基準となる部位が見いだされないため不明である。

左上顎白歯片は小窩部が残存していて、高さが39.5mmで、近心径が小さめであることから、第2後臼歯又は第3後臼歯と考えられる。切歯は細片になりすぎて、詳細を知るのは困難である。

主な参考・引用文献

西中川駿・松元(1991)遺跡出土骨同定のための基礎的研究

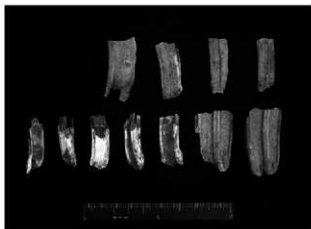
「西中川駿編：古代遺跡から見たわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究」平成2年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書 164-188

野村晋一(1977)「概説馬学」西川書店

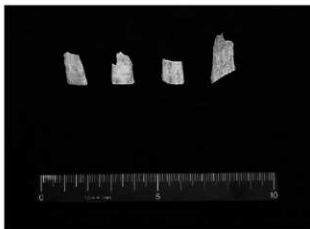
第21表 1号溝出土 馬歯計測値

	右上顎第3前臼歯	右上顎第4前臼歯
歯冠近遠心径(現状)	26.7+	25.0+
歯冠近遠心径(推定)	28.0±	26.0±
頬側歯冠高	37.3	43.1
咬合面の傾斜	85°	90°
中附鐘幅	5.1	4.5

単位：mm



第191図 1号溝出土 白歯片



第192図 1号溝出土 切歯片

第5節 青柳宿上遺跡の地形と地震跡

(1)はじめに

青柳宿上遺跡では、強い震動によって生じた地すべり、地割れ、液状化跡(以後、総称して地震跡と呼ぶ)が同じ遺跡内で観察できた珍しい遺跡である。本稿では、本遺跡周辺の地形と表層地質について述べた後、地震跡の特徴を記載し、これらの現象が生じた時期と原因について検討する。なお、テフラに関する文献は、テフラ分析の項を参照いただきたい。

(2)遺跡周辺の地形・表層地質

早田(1990)の地形分類図によると、赤城山南西麓は多数の谷に開析された後期更新世後半に形成された火山麓扇状地(以下、古期扇状地)に区分される。扇状地の末端は、現在の広瀬川低地帯にあたる旧利根川の側方浸食により削り取られ、その結果、比高約5mの北西-南東走向の浸食崖が連続する。ただし、本遺跡周辺では明瞭な浸食崖は認められず、赤城白川や遺跡の西側にある川の堆積作用による完新世の扇状地(以下新期扇状地)が広がる。本遺跡は、遺跡の北西と南東に認められる浸食崖の延長線上にあたることから(第200図)、遺跡周辺にも浸食崖が当初連続していたものの、赤城白川や遺跡西側の川(以下開析谷)の堆積作用により浸食崖の基部が埋積される一方、浸食崖上部の地層が一部浸食され、あるいは崖上部に新しい砂礫が崖を覆うように堆積することにより、浸食崖が見かけ上なくなってしまうといえる。

遺跡内の中央より北東部では、古期扇状地を構成する砂礫層および、約1.3～1.4万年前に噴出した板鼻黄色軽石(以下As-YP)以前のローム層が認められるのに対して、中央より南西部ではこれらの地層が欠落し、新期の堆積層が認められていることは、上述の地形発達を裏付ける。

本論の趣旨からはやや外れるが、遺跡内の特異な地形・地質である半円形の窪地(第201図)と、扇状地では通常堆積しにくい細粒層の堆積の成因について以下のように推定する。半円形の窪地は、その位置と形状から透水性の高い古期扇状地堆積層を流れる地下水が浸食崖から湧

出する地点であったとみられる。また、細粒層は、遺跡周辺の開析谷がもたらした扇状地性堆積物の塞ぎ止めにより、湧水地点周辺で一時的な池や湿地が生じ、それらの底に堆積したものであろう。

(3)地震跡の記載

1. 32号トレンチの地すべり・液状化跡(第202図)

本トレンチは遺跡の南端に位置し、トレンチの走向はN75°Wである(第201図)。ここではトレンチの南壁面を観察した。壁面西側下部からAs-YPを含むローム層、上位に縄文晩期の遺物包含層を含む有機質黒色土が整合的に堆積していることから、古期扇状地面上で長期にわたり開析谷の影響を受けない環境であったことを示す。一方、壁面中央の下部では、黒色土の側面がオーバーハング状に浸食され、円礫や砂からなる新期扇状地堆積物や土壌により充填されている。両者の地層の不整合面を第202図に示す(破線は推定)。

地すべり跡は、新期扇状地堆積物あるいは土壌中で発生している。すべり面の走向は計測できなかった。トレンチ壁面の見かけ上の傾斜は、西に向かって最大40°で下部に向かって緩傾斜(約15°)となる。すべり面が緩傾斜となる部分は、層厚20cmの淘汰の良いルースな中砂層である。なお、緩傾斜の部分ではすべり面の認定は難しい。すべり面上での見かけの変位量は、壁面上部の有機質土壌の下面、壁面中部の砂層の下面を基準とするとそれぞれ約23cm、約18cmであった。すべり面の上部は不明瞭ではあるが、土壌層が低下側を埋積するように堆積していることから、この土壌層以下まですべり面による変位を受けているとみられる。

また、中砂層中では液状化跡が認められる。この液状化跡の形状は逆さび形で、東境界がほぼ垂直に対して西境界は地すべりのすべり面となる。砂層が約50cm上方へ上っているのが観察できる。地すべりと液状化の発生の前後関係を検討すると、中砂層内で液状化が発生したことで、地層に間隙が発生し、それより上位の地層で地すべりが発生したと考えられる。地すべりと液状化跡の発生時期は、6世紀初頭に噴出した榛名二ツ岳流川テフラ(以下Hr-FA)を含む地層に変形を与えていることから、6世紀初頭以降である。

2. 33号トレンチの地すべり・液状化跡(第203図)

本トレンチは遺跡の南西端付近に位置し、走向はN35°Eである(第201図)。ここではトレンチの西壁面を観察した。北から南に向かって緩やかに傾斜する礫混じりの砂層が認められ、上部ではAs-YP粒を含み、火山麓扇状地堆積層上部とみられる。その上位には同じく傾斜する有機質シルト層とAs-Cが認められる。As-Cより上位の砂層は上方細粒化を示すことから流水による堆積とみられるが、砂層より上位のFAを含む地層は土壌化している。さらに上位では、チャンネル状に浸食を受けて新期扇状地の砂礫層が堆積している。

本トレンチでの地震跡は、地すべりと液状化跡である。このトレンチでは、東壁面でもすべり面が認められ、走向・傾斜の計測は、両壁面で現れたすべり面を投影して行うことができたため、真の値に近い。すべり面の走向はN50°W、傾斜は壁面の中央部では南に向かって45°であるが、トレンチの南端では5°とほぼ水平となる。傾斜が急変する部分の地層は、粒径1.5cm(粗砂)のAs-C層であり、水平な部分ではAs-C層直下の層理面を利用しているとみられるが詳細は不明である。As-C層の上面、砂層の上面、FAを含む地層の下面を基準としてすべり量をみると、いずれも15~16cmと変化がほとんどない。すべり面の先端は、河川の浸食による不整合面下まで認められる。

トレンチ中央付近では、古期扇状地堆積層の上部から約50cm上方にあがる幅6cmの液状化跡が認められ、古期扇状地堆積層中の砂層から生じ、すべり面と同じく不整合面によって切断されている。

地すべり跡および液状化跡は、Hr-FAを含む地層の上位にある不整合面の下面まで変形を与えていることから、6世紀初頭以降に発生したといえる。

3. 半円形の窪地内35号トレンチの地割れ・液状化跡(第204図)

本トレンチは、古期扇状地堆積層が半円状に浸食された箇所を横切って掘割された南北走向のトレンチである。ここでは、東壁面と西壁面を観察することができた。壁面北側の下部にはほぼ水平な褐色を呈する固結した砂層があり、火山灰分析によると、この地層の下部には、約1.5~2万年前に噴出した浅間白糸軽石やAs-YPなどや

泥流堆積物が認められることから、本地層は古期扇状地堆積層上部やそれを覆うローム層である。この地層は、南に向かって連続が絶たれる。それにかわり、南へ緩く傾斜する新期の細粒層が厚く堆積する。この細粒の下部はシルト質砂層であるが、それより上位は有機質シルト層、焼土粒を含む砂層からなり、古期扇状地堆積層まで覆っている。

ここでの地震跡は、東壁面の古期扇状地堆積層上部で認められる地割れと、両方の壁面の新期の細粒層中に認められる液状化跡である。地割れは、古期扇状地堆積層と新期の細粒層との不整合面付近で生じており、開口した部分に細粒層が充填していることから、細粒層の堆積以後に生じた地割れである。この地割れは細粒層の上面には続いておらず、当時の地表に達していたかどうかは不明である。液状化跡は、最大直径約8mmで、有機質シルト層の下部にあるシルト質砂層からAs-Cを含む地層まで少なくとも1.5m以上上昇している。両壁面で認められた液状化跡をつなげると、ほぼ東西走向の液状化跡といえる。

4. 遺跡全体に広がる液状化跡

本遺跡では、遺跡中央から北東部にかけて液状化跡が認められた(第201図)。液状化が発生したのは、古期扇状地地上とみられる。最も長いもので15mに及ぶ。走向はN12~30°Eである。数mの短い液状化跡のトレースであっても、その延長線上には、同じ走向の別の液状化跡のトレースが認められることから、もう少し掘り下げると連続している可能性がある。筆者が観察できた液状化跡は、最も西にある長さ13mのものである。ここでは、古期扇状地堆積物を貫いて生じており、最大幅18cmの細砂~シルト層であった。液状化跡のトレースは、南に開く形状の分岐パターンが多く、このことは北から南に向かって液状化が進行した可能性がある。液状化跡は、新期の扇状地堆積物によって切られているが、発生年代を特定する情報はない。

(4) 考察と結論

1. 遺跡の地震跡と818(弘仁九)年地震との対応について
赤城南麓から群馬県南東部、埼玉県北部にかけては、Hr-FA降下と1108年に噴出した浅間Bテフラ降下の間に

発生した地割れ、液状化跡、土石なだれなどが多数の遺跡から発見され、平安時代の文書である「類聚国史」に記載されている818年に発生した関東一門の大地震と対応すると考えられてきた(能登ほか、1990、早川ほか、2002、田中、2012など)。本遺跡の地震跡では、発生年代の上限についての情報は得られなかったが、Hr-FA降下以降に発生したことは確実であり、818年地震によってこれらの地震跡が生じた可能性がある。

2. 遺跡の地震跡と地形との関係

32号・33号トレンチで認められた地すべりには以下のような共通性がある。1)古期扇状地堆積物と新期堆積物の境界域にあること、2)扇状地の低下側に向かってすべり面が発達すること、3)すべり面の傾斜の急変部は、透水性の高い中砂や粗砂で生じていることである。以上の共通点からは、古期扇状地堆積物中の地下水が、新期堆積物中の砂層に浸透している状況下で、強い震動により地すべりが発生したと考えられる。

地割れは、半円形の窪地内35号トレンチで見つかっている。震動が生じた当時、地割れは浸食崖の末端で数多く発生したものと推定されるが、遺跡の地点は浸食崖を覆う新期堆積層(おそらく当時は未固結な状態)があったため、現在まで保存されていたとみられる。

液状化跡は、扇状地の傾斜に対してほぼ平行する向きに形成されている。特徴的な分布の原因としては、扇状地での土砂の堆積は土石流のように扇頂から扇端にむかって放射状に堆積することから、液状化に適した堆積物が帯状に分布しており、当時そこに地下水が浸透していた可能性が考えられる。

青柳宿上遺跡は、古期扇状地末端において、二つの開析谷により形成された新期の扇状地堆積物に覆われているという地形条件であったことで、多様な地震跡が観察することができたといえる。

参考文献(紙面の都合で著者名、年代、掲載誌の引用にとどめる)

- 早田 勉(1990)『群馬県史通史編1』
田中広昭(2012)埼玉県埋蔵文化財調査事業団26号
能登 健ほか(1990)信濃第42巻
早川由紀夫ほか(2002)歴史地壇18号

第6節 青柳宿上遺跡で採取した砂質土の簡易液状化判定について

(1)地割れ跡とその充填物質

青柳宿上遺跡の地表面下150cmほどの深さに堆積するローム層中には、同層を鉛直方向に貫く数条の地割れのような薄い楔状の地変痕跡(第193図)が観察された。母層の色調が褐色なのに対して、地割れを充填する材料の色調は乳白色から灰色であり、非常に視認性が高い。地割れが観察されたのは半円形の窪地の付近(第194図)であり、水平面内の伸展方向は、当時の地表面の局所的な最急勾配方向にそれぞれほぼ直交している。このことから、何らかの原因で地層に作用した大きな滑動力が地表部を傾斜方向にせん断変形させ、その引張り亀裂が開口および連続して、これらの長い地割れとなった可能性がある。

地割れの開口幅を充填材料の幅から測定すると、約5mmから20mm程度と、地割れ毎にやや異なる。充填材料を指で磨り潰した時の感触に基づいて粒度を概略推定したところ、開口幅の狭い地割れ部分を充填する材料の方が幅広い地割れに比べてやや粘性がある、すなわち粒径が小さく、色調はより乳白色に近いことがわかった。一方、開口幅の広い地割れの方は砂により近い手触り感があり、色調は灰色に近かった。これらの材料は一見すると別種の土のようにも見えるが、むしろ同種の土が物理的要因によって淘汰されたと考える方が自然である。仮に、元々の土が何らかの原因によって流動性が増した状態で地下水とともに地割れの中に浸入してきたのだとすれば、亀裂内の閉塞した環境下で徐々に重力沈降に基づく鉛直方向の分級が生じうる。あるいは、地表面の開口亀裂に浸入する際に開口幅の小さな溝では細粒分だけが選択的に充填されたとも考えられる。

ところで、この充填物質の由来についての手掛かりを探すため、開口幅の広い地割れ部位の一箇所において、地割れの溝を成す楔状領域を前後に挟む土塊を剥がすとともに、その下位層を掘削した。その結果、楔状領域の最下部のさらに下位ならびに側方隣接部は、いずれも地割れの充填物質とは異なる土質の地層で構成されていることが確認された。以上の事実から、地割れを充填した物質は(この箇所においては)亀裂の上部から下方へ浸入



第193図 地割れのような薄い楔状の地変痕跡



第195図 地割れを充填していた材料

したことが考えられる。ちなみに、楔状領域の下位隣接部に充填材料と同質の給源層が確認され、かつその地層が砂質土の場合には、同層が地震動によって液状化現象を生じ、土被り圧に押し出される形で上方へ噴砂した痕跡である可能性がある。本遺跡では、他に数条存在する地割れ部位においていずれも隣接部の掘削等の確認作業を行っていないため、このような箇所、すなわち地震時の液状化と噴砂による亀裂内への砂質材料の浸入箇所が、この遺跡内にあったかどうかは不明である。

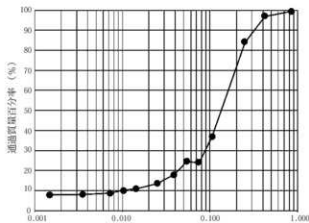
いずれにせよ、地割れの発生した直後、何らかの原因で流動性を増した均質性の高い土が地割れ内に浸入したのだとすれば、これらの地割れが地震動によるものであり、かつ地割れ内に浸入した土が液状化現象によって流動性を増した状態で斜面上方から移送されてきた可能性も考えられる。

(2) 採取した砂質土の粒度分布と簡易液状化判定

以上の観点に基づき、第193図の地割れ箇所の充填材



第194図 地割れの観察された位置



第196図 粒径加積曲線

料の試料を少量採取(第195図)し、その粒度を測定することで、この土が地震動によって液状化する土質であるかどうかを簡易に判定(亀山他, 2013)する。通常より少量の試料を用いた粒度分析の補正手順については、田畑他(2013)の検討で得られた知見を参考とした。

採取した試料を用いて測定した粒度分布を第196図に示す。平均粒径が0.15mm、細粒分含有率が28%、10%粒径が0.010mmの細粒分質砂であり、土木構造物の耐震設計の際に広く参照される「道路橋示方書V(耐震設計編)・同解説(2002)」の方法に基づくと、この土は液状化の発生する可能性のある土質であることが判明した。なお、実際に液状化が発生するかどうかは、一般にその土の置かれた地層の状態(力学的条件)ならびに入力地震動の大きさなどに依存する。本稿では、いくつかの仮定の条件を前提とした液状化判定を行うことで、仮にこの土が液状化したとすれば、どのような条件下に置かれていたのかを概略的に推定する。

液状化判定においては、液状化に対する抵抗率 R_f 、す

なわち、式(1)で表されるように、液状化に対する抵抗を表す動的せん断強度比 N と、地震外力を表す地震時せん断応力比 L との比、が安全率として用いられる。

$$F_l = \frac{N}{L} \quad (1)$$

地盤内の各地層の中で F_l が1.0未満の地層が液状化すると判定される。

詳細な計算手順は省略するが、ここで必要な定数は、当該地層において標準貫入試験から得られる N 値(値が大きいほど堅固な土である)、細粒分含有率、平均粒径、地表面からの深さ x (m)、地下水水位より浅い位置での土の単位体積重量 γ_{s1} 、地下水水位より深い位置での土の単位体積重量 γ_{s2} 、地下水水位の深さ h_w (m)の7つである。ここで土の単位体積重量 γ_{s1} および γ_{s2} については、一般的なゆるい細砂の値($\gamma_{s1} = 17.5\text{kN/m}^3$ 、 $\gamma_{s2} = 19.5\text{kN/m}^3$)を仮定した。すでに述べたように、細粒分含有率と平均粒径は測定済みなので、残された未知定数は、 N 値、 x (m)、 h_w (m)の3つである。これらの各定数の値を変化させた時の一連の条件下において F_l 値を計算したのが第197図～第199図である。今回の対象現場において考えられそうな条件として、 $N=5$ 、 $x=1.5\text{m}$ 、 $h_w=1.0\text{m}$ 基本とし、これらの中の一つの値のみを変化させた。各図において、横軸は地震動の大きさ(すなわち地表面の地震加速度)である。同じ条件下であれば、地震動が大きくなるほど F_l 値が低下、つまり液状化の危険度が増大することがわかる。

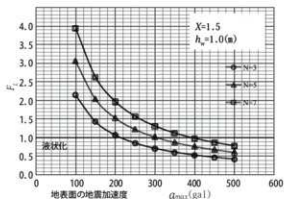
全体的な傾向から判断すると、地盤条件が良くない場合には200galの地表面地震動でも液状化しうることが示された一方、今回の定数の変動範囲内においては、400gal以上の地震動で全ケースが液状化した。以上より、採取試料である細砂は、おおむね300～400gal程度以上の地震動によって液状化する可能性が示唆された。今回観察の対象とした地割れを含む斜面がかつて地震時に変状を生じ、かつ地盤内の砂層が液状化したとすれば、少なくともその地震動の規模はこの程度以上であったことが推定される。

なお、仮に液状化する土であると判定されたからと言って、地割れへの充填が液状化現象によりもたらされた流動性の高い砂の移動による結果であるかどうかは即断できない。前述のように、堆積過程での淘汰が粒度組成に影響を与えているのだとすれば、その影響を加味し

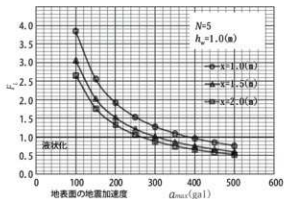
なくてはならないであろうし、その土が移動してきた径路とともに、その運動を可能とする斜面全体の変状機構について詳細な考察とともに、最終的な結論が得られるべきであろう。

参考文献

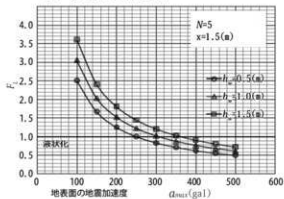
- 道路橋示方書V(耐震設計編)・同解説(2002):日本道路協会, pp.121-123
 亀山ひろみ、田畑あすみ、若井明彦(2013):発掘された自然災害遺構で採取した砂質土の液状化判定,第52回日本地すべり学会研究発表会講演集, pp.52-53
 田畑あすみ、亀山ひろみ、若井明彦(2013):発掘された自然災害遺構調査のための少量の上試料を用いた比降分析法による粒度分析,第52回日本地すべり学会研究発表会講演集, pp.217-218



第197図 地震動の大きさに応じた F_l 値の変化(基本ケースにおいて、 N 値のみを変化)



第198図 地震動の大きさに応じた F_l 値の変化(基本ケースにおいて、 x 値のみを変化)



第199図 地震動の大きさに応じた F_l 値の変化(基本ケースにおいて、 h_w 値のみを変化)

第6章 まとめ

第1節 総括

はじめに

本章では、引切塚遺跡・青柳宿上遺跡について、各時代の特徴的な事柄についてまとめた。

1. 旧石器調査について

引切塚遺跡では、旧石器時代の遺構の有無を確認するため、ローム堆積が認められた南側調査区を重機にて掘削したが、砂層や礫層が厚く旧石器の発見には至らなかった。また、縄文早期包含層調査後に調査した13号トレンチからも、旧石器の発見はなかった。

青柳宿上遺跡では、31カ所の旧石器トレンチ、38カ所のトレンチを旧石器出土の想定層位まで掘削した。その結果、97-5・T-10トレンチにおいて、2点の黒色頁岩製の剥片が出土したに過ぎなかった。

両遺跡が立地する白川扇状地において、新田上遺跡、上細井山遺跡、山王・柴遺跡群と同様に旧石器時代の遺物が確認されたことが成果である。

2. 縄文早期遺物包含層について

縄文時代早期の遺物包含層は、引切塚遺跡と青柳宿上遺跡の両遺跡で確認された。そのうち、青柳宿上遺跡について簡単に述べていく。

青柳宿上遺跡での出土層位は、赤城白川の洪水層下のⅦ層 a・Ⅶ層 bで認められ、縄文早期の土器6,039点が出土している。

この中で主体を占めるのが子母口式159点である。また、条痕文系土器(子母口式の胴部片と考えられるものが主体)が5,003点を数え、合わせて5,162点となり出土総量の85.4%を占めている。そして、残り877点が早期諸型式である(第32・34・36・48・49・50・51・52・53・54・57～63図及び未掲載遺物)。

このことは、出土遺物の多くを占める子母口式土器が示す時期に、青柳宿上遺跡周辺が生活の場所として選ばれる条件が整っていた結果と推察される。さらに、30号住居(子母口式)の発見は、単に遺物包含層としての遺跡

の在り方とは異なり、定住の痕跡としての意義がある。今後この地域における縄文時代早期後半の遺跡の在り方について資料の提示できたと考える。

3. 縄文時代早期の集石について

青柳宿上遺跡では、早期土器群に伴い集石が14基発見されている。集石が検出された遺物包含層中の土器には、撫糸文系・沈線文・条痕文系の三者があり、厳密にどの時期に帰属するかは明言することは困難である。

今回集石に関して、詳細な検討はできなかった。青柳宿上遺跡から、東に位置する上細井中島遺跡では、ほぼ同時期の早期の集石が発見されており、分類も行われている。この上細井中島遺跡で行われた分類と対比させると、青柳宿上遺跡1号集石と13号集石が、上細井中島遺跡4号集石の板状垂角礫4石を花卉状に配置するものと同類と判断できる。今後さらなる検討を加えなければならないが、現段階では類似例として挙げておきたい。

4. 1号河道について

青柳宿上遺跡の1号河道では、縄文晩期終末の土器群が破片化した状態で、350点以上出土している。そして、1号河道の東側延長部分を引切塚遺跡の3号トレンチ土層断面で確認した。この1号河道の存在が示すように、縄文晩期の時期、白川扇状地では小河川が流れ、赤城山南麓末端を浸食していた。これは、縄文晩期の遺跡立地を考える上で貴重な例と言える。

1号河道出土の縄文晩期終末の土器群は、浮線網状文に代表される千網式と同じ群である。詳細な検討については今後の資料増加を待ちたい。なお、1号河道出土の縄文晩期土器群については、増田修氏(桐生市教育委員会)に出土遺物を実見して頂き、浮線網状文の施文方法と表出方法について貴重なご助言を得ている。

5. 弥生時代中期の出土遺物について

赤城山南麓における弥生時代の遺跡は、利根川以西の西毛より少ないことが特徴である。また、群馬県下の弥生時代の集落遺跡は、中期後半以降継続していくと考え

られるが、それ以前の中期前半までは、神保植松遺跡・神保富士塚遺跡などの再葬墓のような断片的な痕跡しか見つかっていない。

青柳宿上遺跡では、弥生土器が再葬墓や竪穴住居ではなく、自然地形の半円形の窪地からまとまって出土した。この半円形の窪地は赤城南麓の古期扇状地が古利根川により浸食された地点に、新たに赤城白川により造られた新期扇状地の上に位置すると考えられる(第5章第5節参照)。

出土した弥生土器壺(第70図-1)の復原できた高さは55cmほどであるが、欠損している胴下半から底部を推定すると70cmを超える大型の壺と考えられる。他にも複数の大型の壺の破片を確認している。また、大型の壺の破片の近くでは、ほぼ完形の広口短頸壺(第70図-4)も出土している。大型の壺は、弥生時代中期の再葬墓を想起させるものであるが、掘込みなど遺構の検出はなく断定することは難しい。

弥生土器の出土した周辺では、焼土と複数の炭化材が確認された。炭化材については、放射性炭素年代測定を実施した(第5章第3節参照)。この結果、炭化材の年代は、紀元前4世紀後半から3世紀前半頃までの数値結果が判明した。弥生土器の時期を推定する一つの根拠と考えたい。

6. 古墳時代の竪穴住居について

引切塚遺跡では、古墳時代前期の竪穴住居2軒、青柳宿上遺跡では、古墳時代後期の竪穴住居29軒を検出した。

引切塚遺跡の竪穴住居の覆土にはAs-Cの純層の堆積が確認されている。これは、赤城白川を挟み東隣にある山王・柴遺跡群で検出された竪穴住居と同時期と推定され、両遺跡は同一遺跡であったと考えられる。

青柳宿上遺跡の竪穴住居29軒は、いずれも6世紀後半の時期のものである。これは、北東方向約100mに位置する引切塚遺跡(S60前橋市調査)・引切塚遺跡Ⅱ(H4前橋市調査)と同時期の集落であり、同一の集落であった可能性も考えられる。

また、周辺遺跡を見ると、西方向約500mに位置する南橋東原遺跡では、6世紀代21軒、7世紀代11軒が調査されている。さらに、北西方向約2kmに位置する田口上田尻遺跡・下田尻遺跡(前渋バイパス部分)では、6世紀

代の竪穴住居はなく、7世紀代に入り40軒もの竪穴住居が見つまっている。その後平安時代まで集落の展開が見られる。

古墳時代の集落遺跡は、時期毎に集落立地に特徴があり、赤城山南西麓では、古墳時代後期に集落展開が顕著に見られる。今後、調査事例の増加により、集落展開の要因等が明らかにされることで、青柳宿上遺跡についても、より明確にされることを期待したい。

おわりに

この引切塚遺跡や青柳宿上遺跡を残した人々は、赤城白川の恵みを得て生活し、時には氾濫する赤城白川に負けずに生きていた。今回の発掘調査を通じて、赤城白川とその周辺に暮らす人々の関係の一部を明らかにできたと考え、結びの言葉としたい。

第22表 引切塚遺跡 遺構一覧表

敷六住居一覧表

番号	位置(グリッド)			重複関係	形状	規模(m)				主軸方位	炉	時期	
	区	-	-			長軸	短軸	残存深度	面積(m ²)				
1	87	-	A-C	-	なし	正方形	7.09	6.87	38~64	24.53	N-1°-E	確認されず	古墳 前期: 3世紀後半
2	87	-	A・B	-	なし	正方形か	4.81	4.33	15~27	17.35	N-7°-E	確認されず	古墳 前期: 3世紀後半

井戸一覧表

番号	位置(グリッド)			重複関係	形状	規模(m)			主軸方位	時期		
	区	-	-			長軸	短軸	残存深度				
1	96・97	-	T・A	-	4	なし	楕円形	2.94	2.75	1.55	N-12°-E	古墳時代

溝一覧表

番号	位置(グリッド)			重複関係	断面形	規模(m)				走行	時期		
	区	-	-			上幅	底面幅	調査長	残存深度				
1	87	-	C・D	-	8	なし	逆台形	1.02	0.55~0.75	3.48	0.44~0.48	N-36°-W	古墳時代

河道一覧表

番号	位置(グリッド)			重複関係	形状	規模(m)			走行	時期		
	区	-	-			調査長	短軸	残存深度				
1	87	-	B・C	-	15・16	なし	-	(7.35)	(2.31)	1.41	N-74°-E	縄文時代晩期

土坑一覧表

番号	位置(グリッド)			重複関係	形状	規模(m)			主軸方位	時期		
	区	-	-			長軸	短軸	残存深度				
1	87	-	B	-	12・13	なし	楕円形	1.10	0.90	0.23	N-8°-W	古墳時代
2	97	-	A	-	3	なし	不整形円形	0.98	0.86	0.22	N-35°-E	古墳時代

ピット一覧表

番号	位置(グリッド)			重複関係	形状	規模(m)			主軸方位	時期		
	区	-	-			長軸	短軸	残存深度				
1	87	-	B・C	-	13	なし	楕円形	0.58	0.52	0.51	N-43°-E	古墳時代
2	87	-	C	-	14	なし	円形	0.34	0.30	0.48	N-89°-W	古墳時代
3	87	-	B	-	14	なし	楕円形	0.42	0.37	0.35	N-5°-W	古墳時代
4	87	-	C	-	10	なし	楕円形	0.41	0.40	0.50	N-14°-W	縄文 後期: 高井東式

第23表 青柳宿上遺跡 遺構一覧表

敷六住居一覧表

番号	位置(グリッド)			重複関係	形状	規模(m)				主軸方位	炉	カマド			時期	硬化面			
	区	-	-			長軸	短軸	残存深度	面積(m ²)			位置	全長	幅			燃焼部幅		
1	97	O・P	-	17-18	なし	長方形	4.35	3.28	23	14.07	N-110°-E		南東角	1.74	0.20	0.36	古墳	6世紀後半	あり
2	97	J・K	-	17-18	なし	正方形	4.7	4.6	69	21.83	N-78°-E		東辺	1.34	0.22	0.55	古墳	6世紀後半	あり
3	97	H・I	-	17-18	なし	長方形	4.2	3.2	65	13.16	N-71°-E		東辺	1.20	0.28	0.45	古墳	6世紀後半	あり
4	97	F・H	-	15-16	なし	正方形	4.68	4.44	62	19.91	N-71°-E		東辺	1.15	0.38	0.50	古墳	6世紀後半	あり
5	97	E・F	-	13-14	1号道	正方形	5.10	4.77	47	17.87	N-19°-W			確認されず			古墳	6世紀後半	あり
6	97	H・I	-	14-15	なし	正方形	5.26	5.25	69	26.66	N-100°-E		東辺	1.50	0.43	0.46	古墳	6世紀後半	あり
7	97	C・H	-	9-10	なし	長方形	3.67	2.86	7	10.35	N-63°-E		東辺	0.64	0.58	0.60	古墳	6世紀後半	あり
8	97	J・K	-	12-13	なし	長方形	4.55	3.85	52	16.22	N-45°-E		東辺	1.06	0.37	0.35	古墳	6世紀後半	あり
9	97	C・H	-	6-7	1号道	方形	(4.73)	(4.10)	25	(10.83)	N-39°-W			確認されず			古墳	6世紀後半	あり
10	97	H・J	-	6-7	なし	長方形	4.67	4.06	27	18.50	N-51°-E		東辺	0.67	0.89	0.90	古墳	6世紀後半	あり
11	97	O・Q	-	10-11	なし	正方形	5.96	5.87	66	35.90	N-50°-E		東辺	1.50	0.40	0.43	古墳	6世紀後半	あり
12	97	O・P	-	7	なし	正方形	3.20	2.90	34	85.81	N-120°-E		東辺	0.56	0.30	0.32	古墳	6世紀後半	あり
13	97	N・O	-	5・6	なし	長方形	5.10	3.40	50	17.85	N-37°-E		東辺	1.74	0.44	0.45	古墳	6世紀後半	あり
14	97	I・J	-	8-10	なし	正方形	5.90	5.76	59	33.76	N-40°-E		東辺	1.08	0.26	0.38	古墳	6世紀後半	あり
15	97	I・J	-	5・6	なし	長方形	3.97	3.75	53	14.63	N-100°-W		西辺	1.30	0.37	0.46	古墳	6世紀後半	あり
16	97	C・H	-	8	なし	正方形	3.16	3.14	45	9.39	N-69°-E		東辺	0.92	(0.53)	0.50	古墳	6世紀後半	あり
17	97	E・F	-	15	1号道	正方形	3.53	3.29	40	11.82	N-87°-E		東辺	1.03	0.34	0.35	古墳	6世紀後半	あり
18	97	E	-	17-18	1号道	方形	3.60	(2.88)	34	8.07	N-8°-W			確認されず			古墳	6世紀後半	あり
19	97	D	-	15-16	なし	方形	2.88	2.43	27		N-55°-W			確認されず			古墳	6世紀後半	あり
20	97	D	-	14	なし	方形	(2.48)	(1.98)	13	2.44	N-28°-W			確認されず			古墳	6世紀後半	あり
21	97	E・F	-	6-7	なし	正方形	5.20	4.80	9	(21.2)	N-25°-W			確認されず			古墳	6世紀後半	なし
22	97	H・I	-	12-13	なし	長方形	3.27	2.98	21	9.88	N-76°-E		東辺	2.02	(0.47)	0.34	古墳	6世紀後半	あり
23	97	C・I	-	4・5	なし	方形	5.38	(3.97)	3	16.43	N-77°-E			確認されず			古墳	6世紀後半	あり
24	97	K・L	-	4・5	なし	正方形	5.15	(4.75)	65	23.88	N-85°-E		東辺	(1.00)	0.27	0.34	古墳	6世紀後半	あり
25	97	J・K	-	3	2号河道	正方形	3.67	3.34	86	11.87	N-110°-E		東辺	0.52	(0.35)	0.34	古墳	6世紀後半	あり
26	97	N・O	-	3	2号河道	正方形	4.92	4.57	35	22.20	N-86°-W		西辺	1.83	0.46	0.45	古墳	6世紀後半	あり
27	97	Q・R	-	4・5	半円形の窪地	正方形	3.33	3.18	57	10.45	N-63°-E		東辺	1.04	0.30	0.45	古墳	6世紀後半	あり
28	97	P・Q	-	4・5	半円形の窪地	正方形	2.90	2.89	56	(8.22)	N-60°-E		東辺	1.70	0.26	0.25	古墳	6世紀後半	あり
29	97	L・M	-	2・3	2号河道	長方形	5.08	3.26	98	17.16	N-80°-E		東辺	(0.39)	0.64	0.55	古墳	6世紀後半	なし
30	97	L	-	11-12	なし	隅丸方形	3.35	2.48	33	7.21	N-20°-E			確認されず			縄文	早期: 子母口式	

遺構一覧表

型穴状遺構一覧表

番号	位置(グリッド)			重複関係	形状	規模(m)				主軸方位	時期		
	区	-	-			長軸	短軸	残存深度	面積(m ²)				
1	97	-	H	-	13・14	1号土坑	方形	(2.7)	(2.2)	0.39～0.55	3.42	N-9°-W	古墳時代

溝一覧表

番号	位置(グリッド)			重複関係	断面形	規模(m)				主軸方位	時期		
	区	-	-			土幅	底面幅	調査長	残存深度				
1	97	-	1～T A～D	-	17～20 1～14	1号溝	逆台形			129.8	0.45～1.08	N-63°-E	古墳時代

河道一覧表

番号	位置(グリッド)			重複関係	形状	規模(m)				主軸方位	時期			
	区	-	-			調査長	短軸	残存深度	底面幅					
1	97	-	F・G	-	13～15	なし	-			9.41	7.00	2.61	N-18°-E	縄文時代晩期
2	97	-	F～M	-	2～4	25号・26号・29号住居、15号集石、1号道	-			19.78	0.32～2.15	2.07	N-65°-W N-70°-E	古墳時代

半円形の埋地

番号	位置(グリッド)			重複関係	形状	規模(m)				主軸方位	時期			
	区	-	-			長軸	短軸	残存深度	底面幅					
1	97	-	P～R	-	3～5	2号・28号住居	半円形			8.26		3.01	N-0°	弥生時代

道一覧表

番号	位置(グリッド)			重複関係	形状	規模(m)				主軸方位	時期				
	区	-	-			調査長	短軸	残存深度	底面幅						
1			87-1-14 - 97-E-18	-	5号・9号・17号・18号住居	-				128				N-13°-E	近世～近代・現代

集石一覧表

番号	位置(グリッド)			重複関係	形状	規模(m)				主軸方位	時期				
	区	-	-			長軸	短軸	残存深度	底面幅						
1	97	-	P	-	36	なし	楕円形	0.44	0.36	0.13	N-33°-W	縄文 早期			
2	97	-	S	-	12	なし	楕円形	0.41	0.34	0.08	N-28°-W	縄文 早期			
3	97	-	R	-	13	なし	-	-	-	0.04	N-60°-E	縄文 早期			
4	97	-	L	-	17	なし	楕円形	1.14	0.80	0.09	N-0°	縄文 早期			
5	97	-	K	-	36	なし	楕円形	0.32	0.29	0.05	N-61°-W	縄文 早期			
6	97	-	N	-	15	なし	楕円形	-	0.30	0.29	0.04	N-66°-E	縄文 早期		
7	97	-	O	-	8	なし	-	-	-	-	-	-	-	縄文 早期	
8	97	-	N	-	8	なし	-	-	-	-	-	-	-	縄文 早期	
9	97	-	K	-	8	なし	-	-	-	-	-	-	-	縄文 早期	
10	97	-	R	-	13	なし	楕円形	0.59	0.53	0.13	N-70°-W	縄文 早期			
11	97	-	R	-	13	なし	楕円形	0.77	0.72	0.09	N-43°-W	縄文 早期			
12	97	-	S	-	30	なし	-	-	-	-	-	-	-	N-30°～35°-E	縄文 早期
13	97	-	T	-	30	なし	楕円形	0.61	0.52	0.10	N-84°-W	縄文 早期			
14	97	-	L	-	11	なし	-	-	-	-	-	-	-	N-27°-E	縄文 早期
15	97	-	F・G	-	3	2号河道	-	5.90	3.48	0.40	-	-	-	-	古墳 後期

土坑一覧表

番号	位置(グリッド)			重複関係	形状	規模(m)				主軸方位	時期	
	区	-	-			長軸	短軸	残存深度	底面幅			
1	97	-	H	-	14	1号型穴状遺構	楕円長方形	1.42	0.87	0.53	N-78°-E	古墳時代
2	97	-	J	-	13	なし	楕円形	0.81	0.49	0.22	N-12°-E	古墳時代
3	97	-	P	-	4	なし	楕円形	0.73	0.46	0.25	N-28°-E	古墳時代
4	97	-	P	-	2・3	なし	楕円形	0.91	0.86	0.22	N-62°-W	古墳時代
5	98	-	A	-	11	なし	楕円形	0.72	0.59	0.32	N-87°-W	古墳時代
6	97	-	J	-	16	なし	楕円形	0.88	0.74	0.22	N-90°	古墳時代
7	97	-	E	-	5・6	なし	不整形	(1.85)	(0.48)	0.61	N-7°-E	古墳時代
8	87	-	F	-	14	なし	楕円形	1.28	1.18	0.88	N-7°-E	古墳時代
9	97	-	J	-	17・18	なし	楕円形	0.66	0.61	0.21	N-50°-E	縄文時代
10	97	-	I	-	18	なし	楕円形	0.60	0.51	0.22	N-0°	縄文時代
11	97	-	I・J	-	17	なし	楕円形	1.14	1.05	0.31	N-0°	縄文時代
12	97	-	H	-	16	なし	楕円形	0.93	0.87	0.28	N-90°	縄文時代
13	97	-	Q	-	10・11	なし	楕円形	1.01	0.75	0.19	N-90°	縄文時代
14	97	-	M	-	5	なし	楕円形	0.54	0.48	0.23	N-37°-W	縄文時代
15	97	-	J	-	6	なし	楕円形	0.85	0.73	0.11	N-65°-E	縄文時代
16	97	-	J	-	6	なし	楕円形	0.76	0.53	0.14	N-58°-W	縄文時代
17	97	-	J	-	4・5	なし	不整形	(0.94)	0.89	0.18	N-0°	縄文時代
18	97	-	E・F	-	8	なし	楕円形	1.84	1.16	0.15	N-51°-E	縄文時代
19	97	-	L	-	4	なし	楕円形	1.24	0.89	0.44	N-0°	縄文時代

ピット一覧表

番号	位置(グリッド)			重なり関係	形状	規模(m)			主軸方位	時期		
	区	-	-			長軸	短軸	残存深度				
1	97	-	J	-	19	なし	不整形	0.69	0.44	0.63	N-90°	古墳時代
2	97	-	I・J	-	17	なし	楕円形	0.36	0.32	0.32	N-73°-E	古墳時代
3	97	-	I	-	18	なし	円形	0.64	0.64	0.61	N-0°	古墳時代
4	97	-	I	-	17・18	なし	円形	0.53	0.53	0.53	N-0°	古墳時代
5	97	-	H	-	17	なし	楕円形	0.73	0.65	0.35	N-26°-E	古墳時代
6	97	-	I	-	16・17	なし	楕円形	0.56	0.52	0.55	N-50°-W	古墳時代
7	97	-	I	-	16・17	なし	楕円形	0.49	0.46	0.41	N-68°-E	古墳時代
8	97	-	H	-	16	なし	楕円形	0.67	0.48	0.31	N-32°-W	古墳時代
9	97	-	M	-	14	なし	楕円形	0.52	0.46	0.23	N-36°-W	古墳時代
10	97	-	K	-	9	なし	円形	0.23	0.23	0.29	N-0°	古墳時代
11	97	-	K	-	9	なし	円形	0.30	0.28	0.33	N-67°-W	古墳時代
12	97	-	L	-	7	なし	楕円形	0.28	0.25	0.22	N-41°-E	古墳時代
13	97	-	K	-	6	なし	楕円形	0.30	0.30	0.25	N-0°	古墳時代
14	97	-	J・K	-	12	なし	楕円形	0.47	0.39	0.27	N-60°-E	古墳時代
15	97	-	M	-	13	なし	楕円形	0.52	0.49	0.26	N-0°	古墳時代
16	97	-	R	-	5	なし	円形	0.24	0.23	0.15	N-35°-E	古墳時代
17	97	-	R	-	5	なし	円形	0.26	0.25	0.29	N-35°-E	古墳時代
18	97	-	R	-	5・6	なし	楕円形	0.29	0.24	0.23	N-90°	古墳時代
19	97	-	Q	-	6	なし	楕円形	0.41	0.36	0.11	N-87°-E	古墳時代
20	97	-	P	-	6	なし	楕円形	0.29	0.25	0.09	N-66°-W	古墳時代
21	97	-	P	-	5	なし	円形	0.39	0.36	0.11	N-0°	古墳時代
22	97	-	O・P	-	4・5	なし	楕円形	0.62	0.48	0.18	N-29°-W	古墳時代
23	97	-	O	-	4	なし	楕円形	0.43	0.32	0.19	N-55°-E	古墳時代
24	97	-	O	-	4	なし	楕円形	0.28	0.21	0.26	N-83°-W	古墳時代
25	97	-	Q	-	5	なし	円形	0.29	0.29	0.08	N-0°	古墳時代
26	98	-	A	-	10	なし	楕円形	0.43	0.31	0.37	N-38°-E	古墳時代
27	97	-	J・K	-	7	なし	楕円形	0.47	0.41	0.15	N-78°-E	縄文時代
28	97	-	K	-	7	なし	楕円形	0.53	0.48	0.18	N-31°-W	縄文時代
29	97	-	K	-	5	なし	楕円形	0.31	0.29	0.19	N-90°	縄文時代
30	97	-	J・K	-	6	31号ピット	不整形	0.42	0.34	0.20	N-0°	縄文時代
31	97	-	J・K	-	6	30号ピット	楕円形	0.39	0.31	0.14	N-73°-E	縄文時代
32	97	-	K	-	5	なし	楕円形	0.42	0.40	0.23	N-23°-E	縄文時代
33	97	-	K	-	5	なし	楕円形	0.60	0.52	0.15	N-58°-E	縄文時代
34	97	-	K	-	5	なし	楕円形	0.56	0.43	0.11	N-25°-E	縄文時代
35	97	-	J	-	7	なし	不整形	(0.52)	0.48	0.35	N-90°	縄文時代
36	97	-	J	-	4	なし	円形	0.35	0.35	0.13	N-0°	縄文時代
37	97	-	J	-	6	なし	不整形	0.58	(0.44)	0.27	N-0°	縄文時代
38	97	-	J	-	7	なし	不整形	0.78	(0.45)	0.26	N-0°	縄文時代
39	97	-	J	-	6	なし	不整形	0.53	(0.40)	0.23	N-0°	縄文時代
40	97	-	I	-	10・11	なし	楕円形	0.63	0.52	0.19	N-36°-W	縄文時代
41	97	-	G	-	10	なし	楕円形	0.53	0.37	0.24	N-7°-W	縄文時代
42	97	-	I	-	8	なし	円形	0.36	0.34	0.15	N-52°-E	縄文時代
43	97	-	F	-	4	なし	楕円形	0.58	0.56	0.38	N-0°	縄文時代
44	97	-	M・N	-	4	なし	楕円形	0.35	0.31	0.20	N-0°	縄文時代
45	97	-	O	-	17	なし	楕円形	0.48	0.44	0.11	N-70°-W	縄文時代

遺物観察表

第24表 引切塚遺跡遺物観察表

縄文時代早期遺物包含層

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第166回 PL.77	1	縄文土器 深鉢	87区 B15 胴部片				C	細密な条痕文を斜位に施文。内面は風化により施文状況不明。	早期条痕	
第166回 PL.77	2	縄文土器 深鉢	87区 B15 胴部片				C	やや粗雑な条痕文を斜位に施文。内面は風化により施文状況不明。	早期条痕	
第166回 PL.77	3	縄文土器 深鉢	87区 B14 胴部片				C	やや粗雑な条痕文を斜位に施文。内面は風化により施文状況不明。	早期条痕	
第166回 PL.77	4	縄文土器 深鉢	87区 A15 胴部片				C	細密な条痕文を斜位に施文。内面は風化により施文状況不明。	早期条痕	
第166回 PL.77	5	割片石器 石鏝	87区 B16 略定形	長 幅	(2.3) (1.3)	厚 重	0.4 1.08	チャート	内面全面に押圧刻離による二次加工を施し整形。右返し部欠損。	凹基無茎鏝
第166回 PL.77	6	割片石器 石鏝	87区 A15 略定形	長 幅	1.9 1.4	厚 重	0.4 0.78	黒曜石	内面全面に押圧刻離による二次加工を施し整形。	凹基無茎鏝
第166回 PL.77	7	割片石器 スクレイパー	87区 B15 完形	長 幅	6.8 4.3	厚 重	1.1 35.39	黒色頁岩	上下端部は両面に二次加工を施し、ノッチ状に作り出している。	
第166回 PL.77	8	割片石器 スクレイパー	87区 B14 略定形	長 幅	(7.4) 4.6	厚 重	1.0 39.07	黒色頁岩	背面両面の周縁に二次加工を施し整形している。	
第166回 PL.77	9	割片石器 スクレイパー	87区 A14 略定形	長 幅	(5.9) 4.7	厚 重	1.3 35.62	黒色頁岩	下部折れ。上端部は腹面側に二次加工を入れノッチ状に仕上げている。	
第166回 PL.77	10	割片石器 スクレイパー	87区 A15 完形	長 幅	5.7 7.6	厚 重	1.9 77.45	黒色頁岩	背面自然面の割片を素材とし、腹面周縁に二次加工を施す。左右側縁にはノッチを入れている。	
第166回 PL.77	11	割片石器 打製石斧	87区 A15 完形	長 幅	10.2 5.8	厚 重	2.4 156.71	黒色頁岩	両面に二次加工を施し整形。対部の一部に摩滅が見られる。	
第166回 PL.77	12	礫石器 石皿	87区 B15 破片	長 幅	(13.8) (13.1)	厚 重	5.7 807.35	粗粒舞石安山岩	無縁の石皿の破片。磨面は浅く凹む。	

4号ピット

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第178回 PL.77	1	縄文土器 注口土器	口縁～胴上半 1/3				F	胴肩折部に隆帯杵状文を4単位に施文。注口は先端部1/2を欠損。内面に幅15前後の輪痕を残し、一部に煤状炭化物付着。	高井東式

遺構外出土の縄文土器

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第188回 PL.77	1	縄文土器 深鉢	87区 1号住居 口縁片				E	口縁文を横位施文し、半截竹管による沈線文や凹形竹管文を施す。	講義a式	
第188回 PL.77	2	縄文土器 深鉢	87区 田層 胴部片				F	刻目浮線文を横・斜位に施文。	講義b式	
第188回 PL.77	3	縄文土器 深鉢	87区 1号住居 口縁片				F	波状口縁の波底部に小突起を付す。口縁部は沈線により杵状区画文を施し、波頂下に指頭状の圧痕をもつ短隆帯を垂下。地文はないがケズリ調整痕を残す。外面に煤状炭化物付着。	高井東式	
第188回 PL.77	4	縄文土器 深鉢	87区 表土 口縁片				F	口縁波底部に小突起を付し、沈線による杵状区画文を施す。外面に煤状炭化物付着。	高井東式	
第188回 PL.77	5	縄文土器 深鉢	87区 田層 口縁片				F	口縁部に隆帯を横位に巡らせる。内外面共に良好な研磨。	高井東式	
第188回 PL.77	6	縄文土器 深鉢	87区 田層 口縁片				F	口縁部が「く」字状に内折し、無施文。内外面共に良好な研磨。	高井東式	
第188回 PL.77	7	縄文土器 深鉢	87区 1号溝 口縁片				F	口唇外端に凹形の貼付文を付す。内外面共に横・斜位の軌いへう撫で調整痕を残す。	高井東式	
第188回 PL.77	8	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区 1号住居 口縁片			重	16.5	G	口縁部が強く内湾。断面蒲鉾状の浮線によりレンズ状文を構成。内面は研磨。色調は灰黄色。	千瀬式
第188回 PL.77	9	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区 フク上 口縁片	口	(26.0)	重	162.3	G	断面蒲鉾状の浮線により網状文を構成。外面は極めて丁寧な研磨後に赤色塗彩し、下部に煤状炭化物付着。色調は鈍い橙色。	千瀬式
第188回 PL.77	10	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区 1号住居 口縁片			重	10.2	G	口唇外端に小突起を付し、断面蒲鉾状の浮線文を横位に施文。内外面共に黒色を呈し、丁寧な研磨。	千瀬式

検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第188回 PL.77	11	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区1号住居 口縁片			重 8.2	G	断面三角形の浮線文を施し、内面に1条の横位沈線文を巡らす。色調は鈍い黄褐色。内面は丁寧な研磨。	千瀬式
第188回 PL.77	12	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区2号住居 口縁片			重 18.4	G	断面三角形の浮線文により三分岐文を千鳥状に構成。内面に横位沈線文を巡らす。内面は丁寧な研磨。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第188回 PL.77	13	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区1号住居 口縁片			重 27.9	G	小波状を呈し、口唇部は短く外反。口外帯を施し、断面三角形の浮線文により三分岐文を構成。内面は極めて丁寧な研磨。色調は鈍い黄褐色。	水1式併行
第188回 PL.77	14	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区1号住居 口縁片			重 6.9	G	口唇部が短く外反。小波頂部に刺突文を加え、口外帯を施す。幅広い凹線文下に断面三角形の浮線文を施す。内面は丁寧な研磨。色調は鈍い黄褐色。	水1式併行
第188回 PL.77	15	縄文土器 深鉢 (半精製)	87区1号住居 胴部片			重 11.9	G	頸部にやや幅広い横線文を複数段に巡らせ、その間隙に疑似縄文を施す。内面研磨。色調は暗灰黄色。	千瀬式
第188回 PL.77	16	縄文土器 壺(精製)	87区1号住居 胴部片			重 24.3	G	断面三角形の浮線文により三分岐文を多段に構成。内外面共に丁寧な研磨。外面の一部に煤状炭化物付着。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第188回 PL.77	17	縄文土器 深鉢 (半精製)	87区カクラン 口縁部片			重 232.9	G	設頂下に縦位の短沈線文を施し、小波頂部は双頭状を呈する。口唇部は細密条痕文を横位に施し、その下位は幅広い凹線文に2段に横帯で調整されて無文部を形成する。胴部は細密条痕文を横・斜位に施文。色調は鈍い黄色。	千瀬式
第188回 PL.77	18	縄文土器 深鉢 (半精製)	87区Ⅲ層 胴下半～底部	底	10.2	重 565.0	F	楕圓状工具による条痕文を縦位に施文。底外面部に裏面木葉の圧痕あり。外面は被熱風化。内面は煤状炭化物付着。色調は鈍い黄色。	千瀬式
第188回 PL.77	19	縄文土器 深鉢 (半精製)	87区1号住居 胴部片				F	R縄文を横位に施し、沈線により絞文を施す。色調は鈍い黄色。	千瀬式
第188回 PL.77	20	縄文土器 深鉢 (半精製)	87区1号住居 底部片	底	(8.7)	重 90.1	F	細密条痕文を縦位に施文。底外面部に裏面木葉の圧痕あり。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第188回 PL.77	21	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区1号住居 口縁片				G	断面鐘鉢状の浮線文によりレンズ状文を構成し、L縄文を横位に施文。外面は風化しているが、一部に赤色塗彩が残存。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第188回 PL.77	22	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区1号住居 口縁片				G	口唇上にB字状の小突起を付す。L縄文を横位に施し、沈線による変形J字文を施す。内外面の一部に煤状炭化物付着。色調は黒色。	大洞A'式併行
第188回 PL.77	23	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区1号住居 口縁片				G	横位沈線文を外面に4本、内面に1本巡らせる。体部に細密なR縄文を横位に施文。外面に煤状炭化物付着。色調は灰黄色。	千瀬式

遺構外出土の弥生土器

検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第190回 PL.78	1	弥生土器 壺	87区1号住居 胴部片				赤色粒・輝石等の粗砂多量/灰～骨/普通	胴部にコンパス文状の描法で帯彫波状文をめぐらす。施文具は幅15mm、歯数9ないし10本。内面はナデ。	後期博式
第190回 PL.78	2	弥生土器 (浅鉢)	87区1号住居 体部片				チャート・赤白 岩片の細密/粗/粒 やや軟質	縦位の細密条痕を地文に、3本単位の細沈線で横位文をめぐらし、中位に方形ないし菱形の沈線文を描く。	中期前半

遺構外出土の縄文・弥生時代の石器

検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第200回 PL.78	1	割片石器 石鏃	87区2号住居 略定形	長 幅	(2.7) (1.9)	厚 重	0.5 1.87	黒色安山岩	内面に押圧割製による二次加工を施し整形。基部と返し部右側を欠損する。	凸基有茎鏃
第200回 PL.78	2	割片石器 石鏃	87区2号住居 略定形	長 幅	1.9 1.4	厚 重	0.5 0.9	黒曜石	やや左右対称であるが、両面全面に二次加工を施している。基部欠損。	凸基有茎鏃
第200回 PL.78	3	割片石器 石鏃	87区1号住居 破片	長 幅	(3.8) 1.2	厚 重	0.8 3.08	黒色頁岩	両面全面に二次加工を施し先端部を作り出している。	
第200回 PL.78	4	割片石器 スクレイパー	87区1号住居 完形	長 幅	9.3 5.6	厚 重	2.5 128.56	黒色頁岩	素材割片の両面に二次加工を施し整形。	
第200回 PL.78	5	割片石器 スクレイパー	87区2号住居 完形	長 幅	9.7 5.5	厚 重	1.5 89.15	黒色頁岩	横長割片を素材とし、左側縁に二次加工を施している。	

遺物観察表

挿図 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第20図 PL.78	6	割片石器 スクレイパー	87区3層 略定形	長 幅	(4.0) 3.0	厚 重	0.7 7.64	黒色頁岩	小形の横長割片を素材に両面の周縁に二次加工を施している。土曜折れ。
第20図 PL.78	7	割片石器 スクレイパー	87区3層 完形	長 幅	9.5 7.5	厚 重	3.3 237.86	黒色頁岩	厚手の割片を素材に周縁に二次加工を施し、正面左側縁は歯状に作り出している。下端縁部の摩滅が顕著でこの機能部と推定される。摩滅は石器内部にも深く入り込み内腹でも観察できる。部分的に縁辺に直交する線状痕が認められる。
第20図 PL.78	8	割片石器 打製石斧	87区1号住居 完形	長 幅	7.0 4.9	厚 重	1.1 46.93	黒色頁岩	板状割片の両面に二次加工を施し整形している。裏面では縦方向の線状痕と横縁の摩滅が顕著である。
第20図 PL.78	9	割片石器 打製石斧	87区3層 略定形	長 幅	(9.7) 2.9	厚 重	1.6 46.2	黒色頁岩	正面右下部は彫理に沿った折れ面。上部に摩滅が認められ、部状の分布から接縛痕と推定される。
第20図 PL.78	10	割片石器 打製石斧	一括	長 幅	(6.0) (8.0)	厚 重	1.4 65.87	細粒輝石安山岩	上半部欠損だが、平面形は刃部に向かって広がる形状と推定される。刃部の摩滅は顕著で、内部まで広がっている。直交方向の線状痕を伴う。
第20図 PL.78	11	割片石器 打製石斧	87区2号住居 略定形	長 幅	(10.6) 5.8	厚 重	1.8 125.71	細粒輝石安山岩	両面縁辺に二次加工を施し扇形に整形。刃部と左右側縁の摩滅が著しい。
第20図 PL.78	12	割片石器 石核	87区1号住居 完形	長 幅	5.0 6.4	厚 重	2.2 81.01	黒曜石	裏面は全面自然面。自然面を打面に打点を横方向に移動させながら割片割削を行っている。
第20図 PL.78	13	礫石器 磨石	87区1号住居 完形	長 幅	6.0 5.2	厚 重	1.2 53.6	変質安山岩	扁平な楕円形の両面に非常に平滑な磨面を形成。磨面はごく浅い凹状を呈する。
第20図 PL.78	14	礫石器 多孔石	87区1号住居 完形	長 幅	21.8 20.6	厚 重	11.8 6600	粗粒輝石安山岩	断面三角形状を呈する礫底部に漏斗状の孔が2カ所見られる。明瞭ではないものの、孔周辺には平滑面が認められる。

1号住居

挿図 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第24図 PL.78	1	土師器 器台か	床面上4cm 基部				粗砂粒/良好/ ぶい/褐	外面は縦位のへら削り。脚部内面もへら削り。	器面摩滅。	
第24図 PL.78	2	土師器 器台	床面上2cm 胴部上位片				粗砂粒/良好/ ぶい/赤褐色	上位に3カ所、円形の透孔を配する。外面は縦位のへら磨き。内面はへら削り。		
第24図	3	土師器 高坏	床面上21cm 坏部片 (口縁部欠)				粗砂粒少/良好/ 浅黄褐色	口縁部外面は斜横位のへら磨き。内面は縦位のへら磨き。受け部外面にはへら削り。	器面は部分的に 摩滅顕著。	
第24図 PL.78	4	土師器 高坏	床面上51cm 脚部上半片				粗砂粒/良好/ ぶい/黄褐色	3カ所に円形の透孔を配する。外面はハケ目の上に斜位のへら磨き。内面はへら削り。	外面に炭素吸着。	
第24図 PL.78	5	土師器 鉢か	床面上34cm 胴部下位〜底部	底	4.9		粗砂粒/良好/ ぶい/黄褐色	つまみ出したような高台部が付く。外面はへらナデ。内面は磨きに近いへらナデ。		
第24図 PL.78	6	土師器 壺	床面上45cm 口縁部片	口	10.9		粗砂粒/良好/ ぶい/黄	口縁部外面は上半部に粘土を貼付し、段をなす。2本1単位の棒状浮文が配される。		
第24図 PL.78	7	土師器 甕	床面上36cm 口縁部〜胴部上位片	口	17.4		粗砂粒/白色 粉粒/良好/橙	口縁部上半部は横ナデ。下半部は縦位のナデ。胴部外面はハケ状工具によるへら削り。内面は横位のナデ。	被熱。	
第24図 PL.78	8	土師器 甕	床面上36cm 口縁部〜胴部上位片	口	15.5		粗砂粒/良好/ ぶい/褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のへら削り。内面も横位のへら削り。		
第24図	9	土師器 甕	口縁部片	口	13.7		粗砂粒少/良好/ ぶい/黄褐色	口縁部は横ナデ。外面頸部にハケ目。内面も下半部にハケ目。頸部にへら削り。		
第24図	10	土師器 甕	口縁部〜胴部上位片	口	14.4		粗砂粒/良好/ ぶい/橙	口縁部を横ナデ後、外面に縦位のへら削り。内面は斜横位・横位のナデ。		
第24図	11	土師器 甕か	口縁部片				粗砂粒/良好/橙	口縁部の先端のみ残存。いわゆる折返し口縁で、外面側が肥厚する。内外ともナデ。		
第24図	12	土師器 甕	床面上10cm 胴部上位片				粗砂粒/良好/ ぶい/黄褐色	外面は斜位にハケ目(7・8本/1cm)。内面は横位のハケ目。	外面に炭素吸着。	
第24図	13	土師器 台付甕	床面上20cm 基部片				粗砂粒/良好/ ぶい/黄褐色	外面・胴部・台部ともへら削り。内面は指ナデ。		
第24図 PL.78	14	土製品 支脚	床面上3cm 上部一部欠	底	14.3	高	11.5	粗砂粒/良好/ ぶい/黄褐色	粗雑な形状。上端には平坦面を有し、截円錐状を呈する。鉢状に整形。倒立して使用している。外面はナデ。粘土層の接合痕を消しきれず。器面は凹凸のまま。内面はナデ・へら削り。	被熱。器面は炭素吸着。

2号住居

挿図 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第26図	1	土師器 器台	床面上16cm 受け部片	口	8.4			粗砂粒少/良好/ ぶい/褐	外面は縦位の、内面は横位のへら磨き。

検出 PL No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第26図 PL.78	2	土師器 高坏	床面上15cm 坏部片				細砂粒/良好/ ぶい赤褐色	外面先端は横位、以下は縦位のへら磨き。内面は横位のへら磨き	内外面とも赤色 塗彩。
第26図	3	土師器 高坏	床面上17cm 坏部片	口	13.7		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。以下の外面はへらナデか。器面が摩耗し詳細不明。	器面は被熱のためか摩滅。
第26図	4	土師器 高坏	床面上20cm 坏部片	口	13.9		粗砂粒/良好/ ぶい黄褐色	口縁部先端は横ナデ。以下外面は縦位のへらナデか。	器面は被熱のためか摩滅。
第26図	5	土師器 高坏?	床面上20cm 坏部片	口	14.5		粗砂粒少/良好/ ぶい橙	内外面とも横位のへら磨き。	
第26図	6	土師器 高坏	床面上20cm 坏部片	底	20.1		粗砂粒/良好/ ぶい黄橙	残存部上部に円形と考えられる透孔の一部が見られる。外面は縦位のへら磨き。内面は横位のナデ。	
第26図 PL.78	7	土師器 甕	床面上14cm 胴部上位~中位 1/3				細砂粒/良好/橙	外面上位は斜縦位の、中位はナデの上に横位のへら磨き。内面は斜横位のへらナデ。後合痕を残す。	被熱か。器面や 摩滅。
第26図 PL.79	8	土師器 甕	床面上15cm 頸部~胴部上位				粗砂粒・軽石/良 好/ぶい黄橙	頸部に10本1単位、5進止めの櫛歯状文がめぐる。胴部上位から中位には櫛歯状文と同じ工具による波高の低い波状文が2段めぐる。この間には斜方向の櫛歯状文が配され上段の波状文をさきみ羽状文をなしている。	外面の口縁部及び 胴部の無文部分・内面・口縁部に 赤彩が施されて いる。
第26図 PL.78	9	土師器 小型甕	床面上22cm 口縁部~胴部下 位片	口	7.9		粗砂粒/良好/ ぶい濁	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のナデに近いへら削り。内面は横位のへらナデ。	外面に炭素吸着。 摩滅。
第26図 PL.79	10	土師器 甕	床面上11cm 胴部中位~底部	底	5.0		粗砂粒・軽石/良 好/ぶい黄橙	胴部外面は2・3回に分けて斜位のへら削り。底部外面もへら削り。内面はへらナデ。	被熱。炭素吸着。 摩滅。
第26図	11	土師器 台付甕	床面上11cm 台部片	底	8.8		粗砂粒・白色鉱 物粒/良好/ぶい 黄橙	外面は縦位のハケ目。ナデ。端部は横位のハケ目。内面には斜横位のハケ目。	
第26図	12	土師器 不明	床面上7cm 破片				粗砂粒/良好/ ぶい黄橙	全体形状・部位は不明。先端は角状に尖る。一部に割離。破断面が見られる。	天地左右不明。
第26図 PL.79	13	礫石器 不明	完形	長 幅	31.0 11.4	厚 重	7.9 4564.56	石英閃緑岩	大形の精門礫。分節面周辺の加工痕から人為的に平截されたかと推定される。用途不明。

遺物出土上の古墳時代の遺物

検出 PL No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第29図	1	土師器 坏	口縁部片	口	10.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。
第29図	2	土師器 甕	口縁部片	口	17.4			粗砂粒/良好/ ぶい橙	内外面とも横ナデ。
第29図	3	土師器 甕	胴部下位~底部 片	底	10.0			粗砂粒/良好/明 赤褐色	胴部外面はへらナデ。底部外面はへら削り。内面はナデ。
第29図	4	土師器 甕	胴部下位~底部 片	底	7.8			粗砂粒/良好/ ぶい黄橙	胴部外面は横位のへら削り。内面はナデ。底部外面に木炭痕。

第25表 青柳宿上道跡遺物観察表

旧石器時代

検出 PL No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第30図 PL.79	1	礫石器 割片	完形	長 幅	5.1 8.2	厚 重	2.8 99.23	黒色頁岩	扁平な礫の一端を打撃して割離。	旧石器時代
第30図 PL.79	2	礫石器 割片	完形	長 幅	9.3 5.6	厚 重	2.9 136.99	黒色頁岩	自然面を打面として割離。	旧石器時代

30号住居

検出 PL No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第32図 PL.79	1	縄文土器 深鉢	フケ土 胴部片				B	細い糸痕文を斜位に施文。内面は横化により施文の有無不明。微量の繊維を含む可能性あり。	早期糸痕
第32図 PL.79	2	縄文土器 深鉢	床面上4cm 胴部片				B	やや粗い糸痕文を斜位に施文。内面は横化により施文の有無不明。微量の繊維を含む可能性あり。	早期糸痕
第32図 PL.79	3	縄文土器 深鉢	床直 胴部片				B	絡糸体圧痕文を斜位に施す。内面は横化により施文の有無不明。微量の繊維を含む可能性あり。	子母口式
第32図 PL.79	4	縄文土器 深鉢	床面上24cm 胴部片				B	原体不明瞭だが絡糸体圧痕文を斜位に施す。内面は横化により施文の有無不明。微量の繊維を含む可能性あり。	子母口式
第32図 PL.79	5	縄文土器 深鉢	床面上19cm 胴部片				B	やや粗い糸痕文を斜位に施文。内面は横化により施文の有無不明。微量の繊維を含む可能性あり。	早期糸痕

遺物観察表

採回 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第32回 PL.79	6	縄文土器 深鉢	床面上4cm 胴部片				B	細かい条痕文を内外面に斜位施文。微量の繊維を含む可能性あり。	早期条痕	
第32回 PL.79	7	割片石器 石鏃	床面上24cm 完形	長 幅	3.0 (2.7)	厚 重	0.7 4.6	チャート	大形。平面形が非対称で、素材割片のバルブを残すことから未成品と推定される。	
第32回 PL.79	8	割片石器 打製石斧	床面上6cm 完形	長 幅	8.5 4.9	厚 重	2.2 111	黒色頁岩	横長割片を素材とし、背面全面と腹面両側縁に二次加工を施す。刃部は片刃状で、腹面左側縁には摩滅と光沢が内眼で認められる。	
4号集石										
採回 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第34回 PL.79	1	縄文土器 深鉢	床面上2cm 胴部片				C	やや粗い条痕文を縦・斜位に施文。内面は風化により施文の有無不明。	早期条痕	
第34回 PL.79	2	縄文土器 深鉢	床面上10cm 胴部片				B	やや粗い条痕文を横位に施文。内面は風化により施文の有無不明。	早期条痕	
第34回 PL.79	3	縄文土器 深鉢	床面上6cm 胴部片				C	やや粗い条痕文を縦位に施文。内面は風化により施文の有無不明。	早期条痕	
第34回 PL.79	4	縄文土器 深鉢	床面上10cm 胴部片				C	やや粗い条痕文を縦・斜位に施文。内面は風化により施文の有無不明。	早期条痕	
第34回 PL.79	5	縄文土器 深鉢	床面上14cm 胴部片				C	やや粗い条痕文を斜位に施文。内面は風化により施文の有無不明。	早期条痕	
5号集石										
採回 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第35回 PL.79	1	割片石器 スクレイパー	底面上2cm 完形	長 幅	15.0 6.9	厚 重	2.5 249.42	変質安山岩	大形の横長割片を素材とし、縁辺に二次加工を施す。裏面右側縁では摩滅が顕著で、内眼で光沢を確認できる。	
9号集石										
採回 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第36回 PL.80	1	礫石器 石皿	フク土 破片	長 幅	24.2 14.6	厚 重	8.7 4161.35	粗粒輝石安山岩	無縁の石皿片で、磨面は浅く凹む。	
11号集石										
採回 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第36回 PL.80	1	縄文土器 浅鉢	底面上2cm 口縁-胴上半	口 径	(24.0)	高		B	幅30mm程度の原体による山形押型文を縦位に密接施文する。内外面共に風化。	早期押型文
14号集石										
採回 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第37回 PL.80	1	割片石器 石鏃	フク土 略完形	長 幅	(3.8) 1.4	厚 重	0.5 2.61	黒色頁岩	風化による表面の摩滅が著しい。先端部に種状刻溝が見られ、衝撃割離の可能性がある。	凸基有茎鏃
第37回 PL.80	2	礫石器 磨石	底直 完形	長 幅	10.1 9.7	厚 重	6.2 860.55	粗粒輝石安山岩	全面平滑で磨面の認定が困難であるが、形状より磨石とした。	
1号河道(引切塚遺跡出土土器も含む)										
採回 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第44回 PL.80	1	縄文土器 深鉢	フク土 口縁片				F	口縁部下端に刻目隆帯の区画文を施し、その内部に沈線区画文を施す。	高井東式	
第44回 PL.80	2	縄文土器 深鉢	87区G14 口縁片				F	口縁部下端に隆帯区画文を施し、その内部に横長の横溝沈線区画文を施す。口内側には厚型で段状を呈する。	高井東式	
第44回 PL.80	3	縄文土器 深鉢	87区C15(引切塚) 口縁片				F	口縁部は下端に横目隆帯を施すのみで無文部を構成。	高井東式	
第44回 PL.80	4	縄文土器 深鉢	87区G14 胴部片				F	口頸部に1線縄文を横位施文。幅広の凹線帯を推定3段に施し、類似隆起帯を構成。各縄文施文部に粘着文を縦位に3個施す。色調は黒色。	安行1式	
第44回 PL.80	5	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				F	口頸部には縄文を横位施文し、横位沈線文を多段に施す。色調は鈍い褐色。	安行1式	
第44回 PL.80	6	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片				F	横位の沈線文と粘着文を施す。	高井東式?	
第44回 PL.80	7	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区G14 口縁片	口	(19.8)	高 重	(6.0) 91.6	G	断面鐘鉢状の浮線により三分岐刷状文を施し、2本の横位直線的な浮線に刻目状の剣文を施す。外面全体に赤色塗彩。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第44回 PL.80	8	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区G14 胴部片				重 60.0	G	断面鐘鉢状の浮線により刷状文を施す。色調は鈍い褐色。	千瀬式

挿図 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第44図 PL-80	9	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区G14 口縁片			重 8.1	G	断面鐘鉢状の浮線文を施す。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第44図 PL-80	10	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区G14 口縁片			重 25.9	G	断面鐘鉢状の浮線により網状文を施す。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第44図 PL-80	11	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区G15 胴部片			重 14.1	G	断面鐘鉢状の浮線文を施す。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第44図 PL-80	12	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区G14 口縁片	底	12.1	重 26.0	G	断面鐘鉢状の浮線文を施す。体部下半は細密条痕文を縦位に施文。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第44図 PL-80	13	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区G14 口縁片			重 14.8	G	断面鐘鉢状の低平な浮線により網状文を施す。色調は褐灰色。	千瀬式
第44図 PL-80	14	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区C16(弓切塚) 胴部片			重 16.2	G	屈曲部に断面鐘鉢状浮線のレンズ状文を施す。色調は褐灰色。	千瀬式
第44図 PL-80	15	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区C15(弓切塚) 口縁片			重 8.1	G	口頸部に併行横線文と突帯文状の横帯区画文を施す。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第44図 PL-80	16	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区G15 口縁片			重 24.1	G	口唇部に山形状の小突起をもつ。平行横線文を多段施文し、一部の沈線を途切れ施文する。内面には2条の横線文、内外面共に赤色塗彩。色調は褐灰色で、内外面共に極めて丁寧な磨き。	千瀬式
第44図 PL-80	17	縄文土器 浅鉢 (精製)	フク上 口縁片	口	(22.0)	重 130.3	G	3条の平行横線文を施文。色調は褐灰色で、内外面共に極めて丁寧な磨き。	千瀬式
第44図 PL-80	18	縄文土器 浅鉢 (精製)	フク上 口縁片			重 63.1	G	平行横線文を多段施文し、内面には2条の横線文を施す。色調は褐灰色で、内外面共に極めて丁寧な磨き。補修孔的な焼成前尖孔あり。	千瀬式
第44図 PL-80	19	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区 口縁片			重 59.2	G	平行横線文を多段施文、屈曲部に横帯区画文を施し、取束部の小突起に刻目を附加する。体部下半は細密な縦線文を斜位に施文。色調は褐灰色で、内外面共に極めて丁寧な磨き。	千瀬式
第44図 PL-80	20	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区G14・15 口縁片	口	(27.0)	重 103.6	G	平行横線文に近似した低平な浮線により三分岐文を構成。口縁部内面はく字状の有段口縁。外面に赤色塗彩。色調は灰黄色。	千瀬式
第44図 PL-80	21	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区G14 口縁片	口	(12.0)	高 23.2	G	断面三角形の浮線によりレンズ状文や連繋三角文を施す。外面に赤色塗彩。色調は灰黄色で、内外面共に極めて丁寧な磨き。	千瀬式
第44図 PL-80	22	縄文土器 浅鉢 (精製)	フク上 口縁片			重 20.8	G	断面三角形の浮線文を多段に施文。色調は褐灰色で、内外面共に極めて丁寧な磨き。	千瀬式
第44図 PL-80	23	縄文土器 浅鉢 (精製)	フク上 口縁片			重 15.1	G	断面鐘鉢状の浮線文を施す。色調は褐灰色。	千瀬式
第44図 PL-80	24	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区G14 口縁片			重 14.8	G	断面鐘鉢状の低平な浮線により網状文を施す。色調は褐灰色。	千瀬式
第44図 PL-80	25	縄文土器 浅鉢 (精製)	フク上 口縁片			重 6.3	G	断面鐘鉢状の浮線により網状文を施す。色調は褐灰色で、内外面共に極めて丁寧な磨き。	千瀬式
第44図 PL-80	26	縄文土器 浅鉢 (精製)	フク上 口縁片			重 6.4	G	断面三角形の浮線によりレンズ状文を施し、内面に1条の沈線が走る。口唇外端には横位揃み状の小突起を付す。色調は黄褐色。	千瀬式
第44図 PL-80	27	縄文土器 浅鉢 (精製)	フク上 口縁片			重 30.1	G	断面三角形の浮線文を施し、内面に1条の沈線が走る。色調は黄褐色。	千瀬式
第44図 PL-80	28	縄文土器 浅鉢 (精製)	フク上 口縁片			重 5.2	G	平行横線文や途切れ沈線により横帯区画文を構成し、その内部に焼成前尖孔が1個ある。色調は灰黄色。	千瀬式
第44図 PL-80	29	縄文土器 浅鉢 (精製)	フク上 口縁片			重 7.3	G	断面鐘鉢状の浮線により網状文を施す。外面に赤色塗彩。色調は褐灰色で、内外面共に極めて丁寧な磨き。	千瀬式

遺物観察表

挿図 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第44図 Pl.-80	30	縄文土器 浅鉢 (精製)	フク上 口縁片		重 7.6	G	平行横線文を多段に施文。口唇外端に小突起を付し、斜目を施す。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第44図 Pl.-80	31	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区G14 口縁片		重 8.2	G	断面三角形の浮線により卍字文を構成。内面は極めて丁寧な磨き。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第44図 Pl.-80	32	縄文土器 浅鉢 (精製)	フク上 口縁片		重 6.0	G	断面部鉾状の浮線文を施す。口縁の内面は折返しに近似した有段口縁。内外面共に丁寧な磨きで、色調は黒色。	千瀬式
第44図 Pl.-80	33	縄文土器 浅鉢 (精製)	フク上 口縁片		重 12.9	G	口唇上に双頭状の小突起を付す。断面三角形の浮線により卍字文を構成。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第44図 Pl.-80	34	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区G14 頸部→胴部		重 21.9	G	頸部に無文帯をもち、以下に断面三角形の浮線により三分岐文を構成。色調は褐色。	千瀬式
第44図 Pl.-81	35	縄文土器 浅鉢 (精製)	フク上 口縁片		重 26.8	G	屈曲部に断面三角形の浮線文を多段に施す。色調は褐色。	千瀬式
第44図 Pl.-81	36	縄文土器 鉢(精製)	フク上 口縁片		重 22.1	G	口縁部に断面三角形の浮線によりレンズ状文を施す。無文帯を挟んで以下に細密条状文を斜めに施す。色調は褐色。	千瀬式
第44図 Pl.-81	37	縄文土器 浅鉢 (精製)	フク上 胴部片		重 4.6	G	断面三角形の浮線により三分岐文を構成。器厚が4mmと薄い。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第44図 Pl.-81	38	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区G13 口縁片		重 13.4	G	断面三角形の浮線により三分岐文を多段に構成。色調は褐色。	千瀬式
第44図 Pl.-81	39	縄文土器 深鉢	87区C15(引切塚) 口縁片			G	平行横線文を多段に施文。内面は極めて丁寧な磨き。色調は褐色。	千瀬式
第44図 Pl.-81	40	縄文土器 浅鉢 (精製)	フク上 口縁片		重 7.7	G	断面三角形の浮線により三分岐文を多段に構成。内面に1条の横線文を施す。色調は黒褐色。	千瀬式
第44図 Pl.-81	41	縄文土器 深鉢 (精製)	87区B16(引切塚) 口縁片		重 37.9	G	口唇上に双頭状の小突起を付し、その外端に連続した斜目を施す。口縁部は断面部鉾状の浮線によりレンズ状文を構成。内外面共に極めて丁寧な磨き。色調は褐色。	千瀬式
第45図 Pl.-81	42	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区G14 口縁片		重 23.3	G	断面三角形の浮線により卍字文を構成。色調は褐色。	千瀬式
第45図 Pl.-81	43	縄文土器 鉢(精製)	87区G14 口縁片	口 (21.2)	高 (9.5) 重 76.9	G	複合口縁を持つ。握状工具による浅い横位凹線を多段に施文。色調は褐色。	千瀬式
第45図 Pl.-81	44	縄文土器 深鉢 (半精製)	87区G14 口縁片	口 (19.2)	重 38.0	G	口唇下に1条の横線文を施す。内外面共に丁寧な磨きで。色調は黒褐色。	千瀬式
第45図 Pl.-81	45	縄文土器 深鉢 (精製)	フク上 口縁片		重 49.9	G	口唇下に1条の横線文を施す。内外面共に丁寧な磨き。色調は黒褐色。	千瀬式
第45図 Pl.-81	46	縄文土器 深鉢 (半精製)	87区G15 口縁片		重 41.0	G	口唇下に2条の横線文を施す。色調は褐色。	千瀬式
第45図 Pl.-81	47	縄文土器 深鉢 (精製)	フク上 口縁片		重 13.3	G	口唇上に山形状の小突起を付す。頸部の屈折部に横位の隆帯を施す。内面は磨きに近い状態。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第45図 Pl.-81	48	縄文土器 深鉢 (精製)	フク上 口縁片		重 15.8	G	口唇下に断面三角形の横位浮線文を1条施し、内面は浅い凹線状の横位沈線文を施す。色調は褐色。	千瀬式
第45図 Pl.-81	49	縄文土器 深鉢 (半精製)	フク上 胴部片		重 94.7	G	口縁部及び頸部の屈折部に平行横線文を施す。内外面は磨きに近い状態。色調は鈍い黄褐色。52と同一体。	千瀬式
第45図 Pl.-81	50	縄文土器 深鉢 (半精製)	フク上 胴部片		重 40.2	G	頸部の屈曲部に平行横線文を多段に施す。内外面は丁寧な磨きで。色調は灰黄褐色。	千瀬式
第45図 Pl.-81	51	縄文土器 深鉢 (精製)	87区G15 口縁片	口 (18.8)	高 (6.1) 重 97.5	G	口唇上に山形状の小突起を付す。屈折部下に横位文を斜位施し、平行横線文を施す。内外面は丁寧な磨きで。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式

挿図 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第45図 PL.81	52	縄文土器 深鉢 (半精製)	87区G14 胴部片		重 158.1	G	頸部下端の屈折部に平行横線文や小突起を付して横帯区画文を施す。内外面は磨きに近い黄褐色。色調は鈍い黄褐色。約と同一個体。	千瀬式
第45図 PL.81	53	縄文土器 深鉢	87区G14 口縁-胴部		重 108.0	F	口頸部に平行横線文を施し、無文帯を挟んで体部下半に細密条痕文を横位に施す。内外面共に横位で。色調は暗灰色。	千瀬式
第45図 PL.81	54	縄文土器 深鉢 (半精製)	フク上 胴部片		重 10.5	F	細密条痕文を斜位に施し、浅い凹線状の綾形文を施文。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第45図 PL.81	55	縄文土器 深鉢 (精製)	フク上 胴部片		重 23.9	G	細密なR横文を斜位に施文し、平行横線文を施す。外面に煤状炭化物付着。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第45図 PL.81	56	縄文土器 深鉢	87区G15 口縁片		重 15.4	F	複合口縁を持つ。櫛歯状工具による条線文を横・斜位に施文。内面は横位で。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第45図 PL.81	57	縄文土器 深鉢	87区G14 口縁片		重 27.2	F	複合口縁を持つ。櫛歯状工具による条線文を横・斜位に施文。内面は横位で。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第45図 PL.81	58	縄文土器 深鉢 (精製)	87区 胴部片(頸部)		重 25.2	G	櫛歯状工具による条線文を斜位に施文。内面はミガキに近い横位で。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第45図 PL.81	59	縄文土器 志(精製)	87区F15 胴部片		重 31.2	G	頸部に無文帯を構成し、体部の屈折部以下に細密なR横文を横・縦位に施文。外面は丁寧な磨き、内面は磨きに近い横位で。色調は鈍い黄褐色。65と同一個体。	千瀬式
第45図 PL.81	60	縄文土器 深鉢	フク上 胴部片		重 30.5	F	櫛歯状工具による条線文を斜位に施文。内面は横位で。色調は暗灰色。	千瀬式
第45図 PL.81	61	縄文土器 深鉢 (半精製)	フク上 胴部片		重 123.6	G	細密条痕文を斜位に施文。内面は磨きに近い横位で。色調は褐色。62と同一個体。	千瀬式
第45図 PL.81	62	縄文土器 深鉢 (半精製)	87区G14 胴部片		重 43.2	F	細密条痕文を斜位に施文。内面は磨きに近い斜位で。色調は鈍い黄褐色。61と同一個体。	千瀬式
第45図 PL.81	63	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区G14 胴部片		重 77.4	F	細密なR横文を斜位に施す。内外面共に磨きに近い横位で。色調は鈍い黄褐色。64と同一個体。	千瀬式
第45図 PL.81	64	縄文土器 深鉢 (半精製)	87区G14 胴部片		重 71.3	F	細密なR横文を斜位に施す。内外面共に磨きに近い横位で。色調は鈍い黄褐色。63と同一個体。	千瀬式
第45図 PL.81	65	縄文土器 浅鉢 (精製)	87区G14 胴部片		重 60.5	F	細密なR横文を縦・斜位に施す。内面は横位で。色調は暗灰色。	千瀬式
第45図 PL.81	66	縄文土器 志(精製)	フク上 胴部片		重 54.9	G	細密なR横文を縦・斜位に施す。内面は磨きに近い横位で。色調は鈍い黄褐色。59と同一個体。	千瀬式
第45図 PL.81	67	縄文土器 深鉢	87区G14 胴部片		重 96.2	F	細密なR横文の斜位施文後に細密条痕文を縦位に散漫施文。内面はやや粗い横位で。色調は褐色。	千瀬式
第45図 PL.81	68	縄文土器 深鉢 (精製)	87区G14 胴部片			G	細密なR横文を縦横位に施文。内面は磨きに近い横位で。色調は暗灰色。	千瀬式
第45図 PL.81	69	縄文土器 深鉢	フク上 底部片	底 (4.5)	重 44.8	F	細密なR横文を横・斜位に施文。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第45図 PL.81	70	縄文土器 深鉢 (粗製)	フク上 口縁片		重 80.0	F	無文の粗製土器。内外面共に粗い横位で。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第46図 PL.81	71	縄文土器 深鉢 (精製)	87区G15 口縁片	口 (26.0)	重 100.7	G	口縁部に櫛歯状工具による横位条痕文を施し、その下位に凹線状の浅い凹線文を巡らせる。頸部の無文帯を挟んで体部以下に条線文を縦・斜位に施文。内外面共に磨きに近い横位で。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第46図 PL.82	72	縄文土器 深鉢 (半精製)	87区G14・15 胴部片		重 119.8	F	櫛歯状工具による条線文を縦・斜位に施文。内面はミガキに近い横位で。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第46図 PL.82	73	縄文土器 深鉢 (半精製)	87区G14 胴部片		重 32.7	F	櫛歯状工具による条線文を斜位に施文。内面はミガキに近い横位で。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第46図 PL.82	74	縄文土器 深鉢 (精製)	87区G14・15 胴下半~底部		重 144.1	G	細密なR横文を斜位に施文。内面は磨きに近い横位で。色調は暗灰色。	千瀬式

遺物観察表

検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第46回 PL.82	75	縄文土器 深鉢	87区G14 胴下半～底部		重 447.7	F	轆轤状工具による条線文を縦位に施文。内外面共に被熱風化。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第46回 PL.82	76	縄文土器 深鉢 (半精製)	フク上 底部片	底 (12.5)	重 93.0	F	細密なR摺糸文を斜位に施す。内面は磨きに近い磨 擦で。色調は褐色。	千瀬式
第46回 PL.82	77	縄文土器 深鉢 (半精製)	87区G14 底部片	底 (7.0)	重 58.8	G	細密なR摺糸文を縦位に施す。内面は磨きに近い磨 擦で。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第46回 PL.82	78	縄文土器 深鉢 (半精製)	87区G14 底部片	底 6.0	重 68.8	G	細密な条線文を縦位に施文。内面は被熱風化。色調は 鈍い黄褐色。	千瀬式
第46回 PL.82	79	縄文土器 深鉢 (半精製)	87区G14 底部片	底 5.8	重 93.1	F	内外面共に磨きに近い磨擦で。色調は褐色。	千瀬式
第46回 PL.82	80	縄文土器 深鉢 (半精製)	フク上 底部片	底 (5.0)		G	内外面共に磨き。色調は褐色。	千瀬式
第46回 PL.82	81	縄文土器 浅鉢 (精製)	フク上 底部片	底 (3.6)	重 28.9	G	外面は磨きに近い磨位磨擦で、内面は磨き。色調は 鈍い黄褐色。	千瀬式
第46回 PL.82	82	縄文土器 深鉢 (半精製)	フク上 底部片	底 (10.5)	重 23.2	F	底面に朝代痕。内外面共に磨きに近い磨擦で。色調 は鈍い黄褐色。	千瀬式
第46回 PL.82	83	縄文土器 壺? (精製)	87区G14 底部片	底 (4.7)	重 18.1	G	底面に木葉痕。色調は黒色。	千瀬式
第46回 PL.82	84	縄文土器 壺? (精製)	87区G14 胴下半～底部	底 (5.2)	重 78.6	G	外面は磨位の磨き、内面は被熱風化。色調は暗灰 色。	千瀬式
第46回 PL.82	85	縄文土器 深鉢 (精製)	フク上 底部片		重 25.8	G	内外面共に丁寧な磨き。色調は暗灰色。	千瀬式
第0009回 PL.82	86	縄文土器 深鉢 (精製)	フク上 底部片	底 (5.9)	重 16.1	G	内外面共に横位磨擦で。色調は褐色。	千瀬式
第46回 PL.82	87	縄文土器 深鉢 (半精製)	87区G14 底部片	底 (7.2)		G	底面に朝代痕。外面は刷毛目状の磨位磨擦で、内面 は磨きに近い磨擦で。色調は暗灰色。	千瀬式
第46回 PL.82	88	縄文土器 深鉢 (半精製)	フク上 底部片	底 (6.0)	重 26.3	F	内外面共に丁寧な磨擦で。色調は暗灰色。	千瀬式
第46回 PL.82	89	縄文土器 深鉢 (半精製)	87区G14 底部片	底 4.2	重 67.0	F	底面に木葉痕。外面は磨位。内面は横位の磨擦で。 色調は暗灰色。	千瀬式
第46回 PL.82	90	縄文土器 深鉢 (半精製)	フク上 胴部片		重 7.7	G	細密なR摺糸文を縦位に施文し、細沈線により縞 文を施す。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第46回 PL.82	91	縄文土器 浅鉢 (精製)	フク上 胴部片		重 3.4	G	細い平行沈線により磨位沈線文に接して三角形文あ るいは絞絞文を構成。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第46回 PL.82	92	縄文土器 深鉢 (半精製)	87区G14 口縁片			F	口唇上に小突起を付す。沈線により縦横位の変形 工字文的な文様を構成。内外面共に横位磨擦で。色 調は暗灰色。	千瀬式併行
第46回 PL.82	93	縄文土器 深鉢 (精製)	87区G14 口縁片		重 9.3	G	断面鐘状の浮線により三分岐あるいは多分岐文を 構成。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第46回 PL.82	94	縄文土器 壺 (精製)	フク上 口縁片		重 4.2	G	細密な条線文を斜位に施文し、口唇下を横位に磨 り磨す。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第46回 PL.82	95	縄文土器 耳飾り	87区G14 完形	長 2.2 幅 2.1	高 1.2 重 6.3	G	滑車状の耳飾り。全体的に良好な磨き。色調は鈍い 黄褐色。	晩期
第46回 PL.82	96	割片石器 石鏃	フク上 完形	長 2.0 幅 1.2	厚 0.4 重 0.55	黒色頁岩	両面全面に押圧割離による二次加工を施し整形。	四基有墓藏
第46回 PL.82	97	割片石器 打製石斧	フク上 完形	長 15.4 幅 8.1	厚 3.7 重 396.54	黒色頁岩	大形の横長割片素材。正面右側縁に抉りをもつが、 左側縁には素材の厚みを残す。刃部の厚減顯著。	
第46回 PL.82	98	石製品 砥石	87区G14 完形	長 9.2 幅 5.7	厚 3.2 重 138.92	粗粒輝石安山岩	小形の楕円形の中央部に溝状の凹みをもつ。正面ま りも浅いもの、裏面にも溝状の凹みがある。	

6号土坑

採回 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第47回 PL.82	1	縄文土器 深鉢	フク上 口縁片	口 (30.0)	F	口縁部に細い内形竹管による平行沈線を巡らせ、同工具により刺突文を充填する。その下位には1条の横位沈線に近接して斜め下からの刺突文を施す。胴部には細い羽状沈線文を施す。内外面共に良好な研磨。	高井東式
第47回 PL.82	2	礫石器 多孔石 完形	床面上62cm	長 19.6 厚 8.4 幅 17.9 重 3690.22	粗粒輝石安山岩	表面面の平坦部に漏斗状を呈する大小の孔が多数認められる。	

14号土坑

採回 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第48回 PL.82	1	縄文土器 深鉢	底面上2cm 胴部片		B	外面は良好に研磨。内面は風化。	早期無文

15号土坑

採回 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第48回 PL.82	1	縄文土器 深鉢	底面上5cm 胴部片		B	外面は良好に研磨。内面は風化。	早期無文

16号土坑

採回 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第49回 PL.82	1	縄文土器 深鉢	底面上3cm 胴部片		B	外面は良好に研磨。内面は風化。	早期無文
第49回 PL.82	2	縄文土器 深鉢	底面上9cm 胴部片		C	原体不明瞭だが絡糸体条痕文を斜位に施す。内面風化により僅かに条痕文の施文あり。	子母口式

17号土坑

採回 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第49回 PL.82	1	縄文土器 深鉢	フク上 胴部片		B	原体不明瞭だが絡糸体条痕文を斜位に施す。内面風化により僅かに条痕文の施文あり。微量の繊維を含む可能性あり。	子母口式
第49回 PL.82	2	縄文土器 深鉢	底面上14cm 口縁片		B	内外面風化により不鮮明だが、条痕文を斜位に施す。微量の繊維を含む可能性あり。	早期条痕
第49回 PL.82	3	縄文土器 深鉢	底面上12cm 胴部片		B	内外面共に絡糸体圧痕文を斜位に施すが、内面は風化により不鮮明。微量の繊維を含む可能性あり。	子母口式
第49回 PL.82	4	縄文土器 深鉢	フク上 胴部片		B	内外面共にやや粗い条痕文を斜位に施す。微量の繊維を含む可能性あり。	早期条痕
第49回 PL.82	5	割片石器 石鏃	フク上 完形	長 3.0 厚 0.5 幅 1.8 重 2.35	珩質頁岩	内面両縁に二次加工を施し、先端部を作り出す。加工が少なく未成品の可能性あり。	凸基無茎鏃

27号ビット

採回 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第50回 PL.82	1	縄文土器 深鉢	底面上14cm 胴部片		B	やや粗い条痕文を斜位に施文。内面は風化により施文の有無不明。微量の繊維を含む可能性あり。	早期条痕
第50回 PL.82	2	縄文土器 深鉢	フク上 胴部片		B	細かい条痕文を斜位に施文。内面は風化により施文の有無不明。微量の繊維を含む可能性あり。	早期条痕
第50回 PL.82	3	縄文土器 深鉢	底面上14cm 胴部片		B	細かい条痕文を斜位に施文。内面は風化により施文の有無不明。微量の繊維を含む可能性あり。	早期条痕

28号ビット

採回 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第50回 PL.82	1	縄文土器 深鉢	底面上10cm 胴部片		B	やや粗い条痕文を斜位に施文。内面は風化により施文の有無不明。微量の繊維を含む可能性あり。	早期条痕
第50回 PL.82	2	縄文土器 深鉢	底直 胴部片		B	やや粗い条痕文を斜位に施文。内面は風化により施文の有無不明。微量の繊維を含む可能性あり。	早期条痕

32号ビット

採回 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第50回 PL.82	1	縄文土器 深鉢	底直 胴部片		B	やや粗い条痕文を斜位に施文。内面は風化により僅かな条痕文あり。微量の繊維を含む可能性あり。	早期条痕

36号ビット

採回 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第50回 PL.82	1	縄文土器 深鉢	底面上2cm 胴部片		B	やや粗い条痕文を斜位に施文。内面は風化により僅かな条痕文あり。微量の繊維を含む可能性あり。	早期条痕

遺物観察表

検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第50図 PL.82	2	割片石器 磨石	底直 1/2	長 幅 (7.8) 8.1 厚 重 5.0 467.52	石英閃緑岩	表裏面および右側面に磨面が認められる。	
37号ビット							
検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第51図 PL.82	1	割片石器 磨石	底面上8cm 1/2	長 幅 (8.0) 10.5 厚 重 (4.4) 534.72	粗粒輝石安山岩	表裏面に磨面が見られるが、正面の方が非常に平滑で使用頻度が高い。	
39号ビット							
検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第51図 PL.82	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片		C	内外面共にやや粗い条痕文を斜位施文。	早期条痕
40号ビット							
検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第51図 PL.82	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片		D	丸縁文を横位に施文。	前期
1号土器集中							
検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第52図 PL.83	1	縄文土器 深鉢	97区J17 胴部片		B	やや粗い条痕文を斜位に施文。内面は風化により施文の有無不明。微量の繊維を含む可能性あり。内面の一部に煤状炭化物付着。1～4は同一個体。	早期条痕
第52図 PL.83	2	縄文土器 深鉢	97区J17 胴部片		B	やや粗い条痕文を斜位に施文。内面は風化により施文の有無不明。微量の繊維を含む可能性あり。内面の一部に煤状炭化物付着。1～4は同一個体。	早期条痕
第52図 PL.83	3	縄文土器 深鉢	97区J17 胴部片		B	やや粗い条痕文を斜位に施文。内面は風化により施文の有無不明。微量の繊維を含む可能性あり。内面の一部に煤状炭化物付着。1～4は同一個体。	早期条痕
第52図 PL.83	4	縄文土器 深鉢	97区J17 胴部片		B	やや粗い条痕文を斜位に施文。内面は風化により施文の有無不明。微量の繊維を含む可能性あり。内面の一部に煤状炭化物付着。1～4は同一個体。	早期条痕
2号土器集中							
検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第52図 PL.83	1	縄文土器 深鉢	97区M5 口縁→胴下半	口 (23.6)	C	やや粗い条痕文を外面に斜位に、内面は横位に施文。	早期条痕
3号土器集中							
検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第53図 PL.83	1	縄文土器 深鉢	97区J14・15 口縁片	口 (19.1)	B	外面は無文で、横位の遺痕で、内面は条痕文を横位に施文。	早期条痕
第53図 PL.83	2	縄文土器 深鉢	97区J14・15 胴部片		B	細かい条痕文を外面に斜位に、内面は横位に施文。	早期条痕
第53図 PL.83	3	縄文土器 深鉢	97区J15 口縁片		C	やや粗い条痕文を斜位に施文。内面は風化・剥落により施文の有無不明。	早期条痕
第53図 PL.83	4	縄文土器 深鉢	97区J14 胴部片		C	やや粗い条痕文を斜位に施文。内面は風化により僅かな条痕文あり。	早期条痕
第53図 PL.83	5	縄文土器 深鉢	97区J14 胴部片		C	内外面共に粗い条痕文を斜位施文。	早期条痕
4号土器集中							
検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第53図 PL.83	1	縄文土器 深鉢	97区M5 胴部片		B	外面はLの絡条体系条痕文を横・斜位に施文後、同円痕文を斜位・多段に施文。内面は同条痕文を横位に施す。内外面に煤状炭化物付着。微量の繊維を含む可能性あり。	子母口式
5号土器集中							
検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第54図 PL.84	1	縄文土器 深鉢	97区K7 胴部片		B	やや粗い条痕文を斜位に施文。内面は風化により施文の有無不明。微量の繊維を含む可能性あり。内外面共に煤状炭化物付着。	早期条痕
第54図 PL.84	2	縄文土器 深鉢	97区K7 胴部片		C	やや粗い条痕文を斜位に施文。内面は風化により施文の有無不明。	早期条痕

検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第54回 PL.84	3	縄文土器 深鉢	97区K7 口縁片	口	(31.6)		C	やや粗い条痕文を斜位に施文。内面は風化により施文の有無不明。	早期条痕	
6号土器集中										
検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第54回 PL.84	1	縄文土器 深鉢	97区H6 口縁片	口	(24.0)		C	やや粗い条痕文を横・斜位に施文。内面は風化により施文の有無不明。1～3は同一個体。	早期条痕	
第54回 PL.84	2	縄文土器 深鉢	97区H6 口縁片	口	(21.0)		C	やや粗い条痕文を横・斜位に施文。内面は風化により施文の有無不明。1～3は同一個体。	早期条痕	
第54回 PL.84	3	縄文土器 深鉢	97区H6 口縁片	口	(21.0)		C	やや粗い条痕文を横・斜位に施文。内面は風化により施文の有無不明。1～3は同一個体。	早期条痕	
第54回 PL.84	4	縄文土器 深鉢	97区H6 口縁片				C	やや粗い条痕文を横・斜位に施文。内面は風化により施文の有無不明。	早期条痕	
7号土器集中										
検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第54回 PL.84	1	縄文土器 深鉢	97区H7 胴部片				B	やや粗い条痕文を横・斜位に施文。内面は風化により僅かな横位条痕文あり。微量の繊維を含む可能性あり。	早期条痕	
1号土器集中										
検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第55回 PL.84	1	割片石器 スクレイパー	97区J17 完形	長 幅	(6.3) 3.8	厚 重	0.7 18.42	黒色頁岩	裏面縁辺に二次加工を施す。素材割片の形状を大きく残す。	
第55回 PL.84	2	割片石器 スクレイパー	97区J18 完形	長 幅	10.6 5.4	厚 重	2.3 128.31	黒色頁岩	裏面縁辺に二次加工を施し整形。	
第55回 PL.84	3	割片石器 磨製石斧	97区J18 破片	長 幅	(2.0) (5.9)	厚 重	(1.4) 16.25	珪質頁岩	磨製石斧の対部破片と推定。対部に直交および斜行する線状痕が明確に残る。対部に剥離痕と摩滅が見られる。	
2号土器集中										
検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第55回 PL.84	1	割片石器 打製石斧	97区J17 完形	長 幅	13.1 6.2	厚 重	2.5 166.78	黒色頁岩	正面全面に二次加工を施し扇形に整形している。対部はノッチ状を呈する。	
4号土器集中										
検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第55回 PL.84	1	割片石器 石鏃	97区O4 完形	長 幅	1.7 1.3	厚 重	0.3 0.47	黒曜石	両面ともボジ面。縁辺のみ加工。素材割片のバルブを残し。未成品と考えられる。	
第55回 PL.84	2	割片石器 石鏃	97区O4 完形	長 幅	1.6 1.2	厚 重	0.5 0.82	黒曜石	両面全面に押圧剥離を施し整形。	
5号土器集中										
検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第56回 PL.84	1	割片石器 割片	97区O4 完形	長 幅	6.1 4.8	厚 重	1.5 101.28	黒色頁岩	平坦な剥離面を打面とする。	接合資料1 (8点接合)
第56回 PL.84	2	割片石器 割片	97区O4 完形	長 幅	6.3 3.6	厚 重	1.1 16.69	黒色頁岩	平坦な剥離面を打面とする。縦長の割片。	接合資料1
第56回 PL.84	3	割片石器 割片	97区O4 完形	長 幅	6.9 6.3	厚 重	1.3 28.94	黒色頁岩	平坦な剥離面を打面とする。	接合資料1
第56回 PL.84	4	割片石器 割片	97区O4 完形	長 幅	3.5 2.4	厚 重	0.8 3.98	黒色頁岩	平坦な剥離面を打面とする。	接合資料1
第56回 PL.84	5	割片石器 割片	97区O4 完形	長 幅	2.2 2.4	厚 重	0.5 1.32	黒色頁岩	平坦な剥離面を打面とする。	接合資料1
第56回 PL.84	6	割片石器 割片	97区O4 略完形	長 幅	(2.2) 2.0	厚 重	0.5 0.8	黒色頁岩	平坦な剥離面を打面とする。	接合資料1
第56回 PL.84	7	割片石器 割片	97区O4 略完形	長 幅	(2.1) 2.9	厚 重	0.5 2.13	黒色頁岩	平坦な剥離面を打面とする。	接合資料1
第56回 PL.84	8	割片石器 割片	97区O4 完形	長 幅	3.2 3.7	厚 重	1.0 10.80	黒色頁岩	平坦な剥離面を打面とする。	接合資料1

遺物観察表

遺構外出土の縄文土器

神田 PL. No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/発色/色調 石材・素材等	成形・形状の特徴	備考	
第57Ⅷ PL. 85	1	縄文土器 深鉢	97区O16Ⅲ層 口縁片			C	丸頸状の口唇部が短く外反。R縄文を全面に施文するが、口唇部の内縁と上面が横位に、口縁部が左下斜位、以下が右下斜位に回転施文。1と同一個体。	井草Ⅰ式
第57Ⅷ PL. 85	2	縄文土器 深鉢	97区O16Ⅲ層 口縁片			C	丸頸状の口唇部が短く外反。R縄文を全面に施文するが、口唇部の内縁と上面が横位に、口縁部が左下斜位、以下が右下斜位に回転施文。1と同一個体。	井草Ⅰ式
第57Ⅷ PL. 85	3	縄文土器 深鉢	97区L18Ⅷ層 口縁片			A	絡糸体庄敷文を口唇上面や口縁に連続施文する。また口縁下に斜行する平行沈線文を施す。内面は横位により不鮮明だが、横位の条痕文を施す。	田戸Ⅰ層式?
第57Ⅷ PL. 85	4	縄文土器 深鉢	97区N19Ⅷ層 口縁片	口	(21.0)	C	丸頸状の口唇部が短く外反。R縄文を全面に施文するが、口唇部の内縁と上面が横位に、以下が右下斜位に回転施文。内面は被熱風化。	井草Ⅱ式
第57Ⅷ PL. 85	5	縄文土器 深鉢	97区P14Ⅷ層 口縁片			C	R縹糸文を口唇内縁部には横位、外面には横位に施文する。内面は被熱風化。	井草Ⅱ式
第57Ⅷ PL. 85	6	縄文土器 深鉢	97区R9ⅧB層 口縁片			C	丸棒状の口唇部が短く外反。口縁部に無文帯を構成し、以下にR縄文を縦位に施文。内面は被熱風化。	磯荷台式
第57Ⅷ PL. 85	7	縄文土器 深鉢	97区S13Ⅷ層 口縁片			C	R縹糸文を口唇上面と口縁内面が横位、外面が縦位に施文。内内面は被熱風化。	井草Ⅱ式
第57Ⅷ PL. 85	8	縄文土器 深鉢	97区F14 胴部片			C	条間隔のやや広いR縹糸文を縦位に施文。内面は横位の隆起で。	夏島式
第57Ⅷ PL. 85	9	縄文土器 深鉢	97区M10Ⅷ層 胴部片			C	R縄文を斜位に施文。内面は被熱風化。	井草式
第57Ⅷ PL. 85	10	縄文土器 深鉢	97区K7Ⅷ層 底部のみ(完成)			C	R縄文を縦位に施文。内面は被熱風化。	早期縹糸文
第57Ⅷ PL. 85	11	縄文土器 深鉢	97区M27Ⅷ層 口縁片			C	丸棒状の口唇部が僅かに外反。口唇下に無文部を持ち、L縹糸文を縦位に散見施文。外面の一部に煤状炭化物付着。	磯荷台式
第57Ⅷ PL. 85	12	縄文土器 深鉢	97区T10Ⅷ層 口縁片			C	丸棒状の口唇部が短く外反。礫面状工具により口唇内縁は横位に、外面は縦位に施文。内面は被熱風化。	井草Ⅱ式
第57Ⅷ PL. 85	13	縄文土器 深鉢	97区P16Ⅷ層 口縁～胴部片	口	(34.3)	A	細沈線により口縁～胴部にかけて帯状の横線文や縹糸文・斜行文を施す。内外面共に磨き状の態で。	三戸式
第57Ⅷ PL. 85	14	縄文土器 深鉢	97区M16Ⅷ層 口縁～胴部片			C	外削状の口唇部を持つ。口唇部や口縁部に平行状の沈線文により横・斜位に文様構成。斜位沈線文間に連続した刺突文を施す。内面はやや被熱風化。	田戸Ⅱ層式
第57Ⅷ PL. 85	15	縄文土器 深鉢	97区P16Ⅷ層 口縁片	口	(8.0)	C	単沈線により横位・縦面状の文様を構成。	田戸Ⅱ層式
第57Ⅷ PL. 85	16	縄文土器 深鉢	97区T9Ⅷ層 口縁片			C	口縁は外側へ折返し状に肥厚し、施文工具により口唇上面から口縁にかけて連続した刻目を施す。体部には3本の単沈線による縦・横・斜位方向の施文により幾何学的文様を構成。	出流原式
第57Ⅷ PL. 85	17	縄文土器 深鉢	97区O17Ⅷ層 胴部片			C	縦位・斜行の集合沈線文や連続刺突文により幾何学的文様を構成。	田戸Ⅱ層式
第57Ⅷ PL. 85	18	縄文土器 深鉢	97区N19Ⅷ層 胴部片			C	3～4本単位の浅い横位沈線文を施す。内面は被熱風化。	田戸Ⅱ層式
第57Ⅷ PL. 85	19	縄文土器 深鉢	97区K17Ⅷ層 口縁片			C	平行沈線文により口縁部は扇面状に文様構成。内面は口唇下に横位平行沈線文を1条施し、以下に条痕文を横位施文。	野島式?
第57Ⅷ PL. 85	20	縄文土器 深鉢	97区M8Ⅷ層 胴部片			C	貝殻復縁状の刺突文を多段に施文。	田戸Ⅰ層式
第57Ⅷ PL. 85	21	縄文土器 深鉢	97区N18Ⅷ層 口縁片			C	沈線文をやや乱雑に斜位施文。内面は被熱風化。	田戸Ⅱ層式
第57Ⅷ PL. 85	22	縄文土器 深鉢	97区T11Ⅷ層 胴部片			C	やや粗大な楕円押型文を横位帯状に多段施文。内面は被熱風化。	押型文
第57Ⅷ PL. 85	23	縄文土器 深鉢	97区T3Ⅷ層 胴部片			A	山形押型文を横位に密接施文。	押型文
第57Ⅷ PL. 85	24	縄文土器 深鉢	97区Q10Ⅷ層 胴部片			A	山形押型文を縦位に施文。	押型文
第57Ⅷ PL. 85	25	縄文土器 深鉢	97区T3Ⅷ層 胴部片			C	細密なR縹糸文を縦位に施文。内面は被熱風化。	早期縄文
第58Ⅷ PL. 85	26	縄文土器 深鉢	97区N9Ⅷ層 口縁片			B	口唇上に刻目を施す。口縁に竹管状工具による連続円形刺突文をV字状に配し、それに近接して斜行する平行沈線文を施す。内面は横位の条痕文を施す。口唇に山形状の小突起を付し、竹管状工具による円形刺突文を施す。波頂部下に縦位の太陽帯を附付し、同様の円形刺突文を施す。	城ノ台式?
第58Ⅷ PL. 85	27	縄文土器 深鉢	97区N8Ⅷ層 口縁片			B	同様の円形刺突文を施す。	城ノ台式?

挿図 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第58図 PL.85	28	縄文土器 深鉢	97区L15Ⅷ層 口縁片			C 口唇上に刻目を施す。口縁に浅い沈線による鋸歯状 文を施す。内面は被熱風化。	江戸上層式
第58図 PL.85	29	縄文土器 深鉢	97区K1Ⅷ層 口縁片			B 内外面共に横位の条痕文を施す。口縁に半載竹管に よる縦位の集合沈線を施文。内面はやや被熱風化す るが、横位の条痕文を施す。	子母口式
第58図 PL.85	30	縄文土器 深鉢	97区H8Ⅷ層 口縁片			C 口唇上面に刻目を、また外縁に連続円形刺突文を施 す。口縁に単沈線を巡らせ、以下に半載竹管による 斜行沈線文帯を構成。内面は被熱風化。	江戸上層式
第58図 PL.85	31	縄文土器 深鉢	2区Ⅰ層 口縁片			C 単沈線により口唇下に横位、以下に面輪状の文様を 施す。	江戸上層式
第58図 PL.85	32	縄文土器 深鉢	97区J7Ⅷ層 口縁片			B 内外面共にやや粗い条痕文を施すが、外面は斜位、 内面は横位。口縁部に半載竹管による横位平行横線 文と斜行平行沈線文帯を構成し、下位を横位平行横 線文で区画。内面は口唇下に横位平行沈線文を1条 施文。	野島式?
第58図 PL.85	33	縄文土器 深鉢	97区J7ⅧB層 胴部片			B 内外面に粗い条痕文を施す。外面に縦沈線により格子 目文を施し、各交点に円形竹管の刺突を加える。	鶴ヶ島台式
第58図 PL.85	34	縄文土器 深鉢	97区K4Ⅷ層 胴部片			B 内外面に粗い条痕文を施すが、風化により不鮮明。 外面に縦沈線により格子目文を施し、各交点に円形 竹管の刺突を加える。	鶴ヶ島台式
第58図 PL.85	35	縄文土器 深鉢	97区I4Ⅷ層 口縁片			B 内外面に粗い条痕文を施すが、内面は被熱風化。遺 状工具により浅い円形縦位の縦位沈線文を複数本施 し、空腔部に同一工具による刺突文を存置。	野島式
第58図 PL.85	36	縄文土器 深鉢	97区O6・10Ⅷ層 口縁片	口	(28.0)	C 口唇下に横位の隆帯文を巡らせ、口唇上面から体部 にかけて遺状工具による横位連続円形文を多段に施 文。口縁内面に横位の条痕文を施す。	常世式
第58図 PL.85	37	縄文土器 深鉢	97区R7Ⅷ層 口縁片			C 波状口縁。口縁以下に遺状工具による横位連続円形 文を多段に施文。内面は被熱風化のため不鮮明だが、 粗い横位条痕文を施す。	常世式
第58図 PL.86	38	縄文土器 深鉢	97区Ⅷ層 口縁片			B 推定8単位の波状口縁。内外面共に横・斜位の絡条 体条痕文を施す。口唇上面及び口縁以下に0段rの 絡条体任意文をV字状あるいは左・右斜位に方向を 違えつつ多段に施文。胴部中に縦位の短隆帯を貼 付し、絡条体条痕を施す。内面は被熱風化。	子母口式
第58図 PL.86	39	縄文土器 深鉢	97区Ⅷ層 胴部片			B 内外面に絡条体条痕文を横・斜位に施すが、被熱風 化により不鮮明。外面の一部に絡条体任意文も認め られる。	子母口式
第58図 PL.86	40	縄文土器 深鉢	97区I9Ⅷ層 口縁片			B 波状口縁。内外面に1段Lの絡条体条痕文を横位に 施す。太陽帯を波頂下に縦位貼付し、その下端に連 接して同隆帯を横位に巡らせる。また口唇上や隆帯 上には絡条体任意文を連続施文する。内面はやや被 熱風化。41と同一個体。	子母口式
第58図 PL.86	41	縄文土器 深鉢	97区N10Ⅷ層 胴部片			B 波状口縁。内外面に1段Lの絡条体条痕文を横位に 施す。太陽帯を波頂下に縦位貼付し、その下端に連 接して同隆帯を横位に巡らせる。また口唇上や隆帯 上には絡条体任意文を連続施文する。内面はやや被 熱風化。40と同一個体。	子母口式
第58図 PL.86	42	縄文土器 深鉢	97区S10Ⅷ層 胴部片			C 内外面に絡条体条痕文を施すが、内面は被熱風化に より不鮮明。太陽帯文を逆T字状に貼付し、上面に 絡条体任意文を施す。またその区画内に半載竹管の 横位平行沈線文を施文する。	出流原式?
第58図 PL.86	43	縄文土器 深鉢	97区H8Ⅷ層 口縁片			B 絡条体任意文を口唇上面から口縁にかけて左右斜位 に連続施文する。内面は横位の絡条体条痕文。	子母口式
第58図 PL.86	44	縄文土器 深鉢	97区H8 口縁片			B 内外面共に横位の絡条体条痕文を、口唇上面には絡 条体任意文を施す。口縁には縦沈線より逆V字状 の文様を構成。	子母口式
第59図 PL.86	45	縄文土器 深鉢	97区J18Ⅷ層 口縁片			B 外面に絡条体条痕文を横位施文。内面は被熱風化に より同施文は不明瞭。口唇上面から口縁にかけて0 段rの絡条体任意文を施文。	子母口式
第59図 PL.86	46	縄文土器 深鉢	97区I18Ⅷ層 口縁片			B 外面に絡条体条痕文を横位施文。内面は被熱風化に より同施文は不明瞭。口唇上面から口縁にかけて絡 条体任意文を施文。	子母口式
第59図 PL.86	47	縄文土器 深鉢	97区O6 口縁片			B 内外面共に横位の絡条体条痕文を、口唇上面には絡 条体任意文を施す。	子母口式

遺物観察表

検出 Pt.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第599R PL-86	48	縄文土器 深鉢	97区G7 口縁片				B	内外面共に横位の絡条体条痕文を、口唇上面には絡条体圧痕文を施す。	子母口式	
第599R PL-86	49	縄文土器 深鉢	97区H5 口縁片				B	内外面共に横位の絡条体条痕文を、口唇上面には絡条体圧痕文を施す。	子母口式	
第599R PL-86	50	縄文土器 深鉢	97区O5 口縁片				B	内外面共に横位の絡条体条痕文を、口唇上面には絡条体圧痕文を施す。	子母口式	
第599R PL-86	51	縄文土器 深鉢	97区R7V層 口縁片				B	内外面共に横位の絡条体条痕文を、口唇上面には絡条体圧痕文を施す。	子母口式	
第599R PL-86	52	縄文土器 深鉢	97区J5 口縁片				B	外面に斜位の絡条体圧痕文を連続施す。内面はやや被熱風化するが、条痕文の施文なし。	子母口式	
第599R PL-86	53	縄文土器 深鉢	97区 胴部片	口	(19.4)	高	(20.4)	B	内外面に絡条体条痕文を横・斜位に施文。口唇上面から体部中位にかけて1段Lの絡条体条痕文をV字状に施文。内面は被熱風化により絡条体圧痕文が不鮮明。	子母口式
第599R PL-86	54	縄文土器 深鉢	97区I11V層 口縁片				B	口唇上面から口縁にかけて0段rの絡条体圧痕文を施文。内面は絡条体条痕文の横位施文。	子母口式	
第599R PL-86	55	縄文土器 深鉢	97区Q6 口縁片				B	内外面共に横・斜位の絡条体条痕文を、口唇上面には絡条体圧痕文を施す。	子母口式	
第599R PL-86	56	縄文土器 深鉢	97区I4V層 口縁片				B	口縁に1段Lの絡条体圧痕文をV字状に施文。内面は絡条体条痕文を横位施文。	子母口式	
第599R PL-86	57	縄文土器 深鉢	97区J8V層 口縁片				B	内外面に絡条体条痕文を横位施文。口縁には連続した原形先端部圧痕によりV字状の文様を構成。	子母口式	
第599R PL-86	58	縄文土器 深鉢	97区L16V層 口縁片				B	口縁以下に絡条体圧痕文を斜位に施文。内面は無施文。	子母口式	
第599R PL-86	59	縄文土器 深鉢	97区O7V層 口縁片				B	口唇上面から口縁にかけて絡条体圧痕文を施文。内面は絡条体条痕文の横位施文。	子母口式	
第599R PL-86	60	縄文土器 深鉢	97区P10V層 胴部片				B	内外面に絡条体条痕文を横・斜位に施文。体部に1段Lの絡条体条痕文を斜位に施文し、破片上端に隆帯の痕跡あり。内面は絡条体条痕文の横位施文。	子母口式	
第599R PL-86	61	縄文土器 深鉢	97区I9V層 胴部片				B	内外面に絡条体条痕文を横位施文。口縁には1段Lの絡条体圧痕文を斜位に施文。	子母口式	
第599R PL-86	62	縄文土器 深鉢	97区O8V層 胴部片				B	内外面に絡条体条痕文を横位施文。体部上平には絡条体圧痕文を密集施文。内外面共にやや被熱風化。	子母口式	
第599R PL-86	63	縄文土器 深鉢	97区J7V層 胴部片				B	内外面に絡条体条痕文を斜位施文。1段Lの絡条体圧痕文をV字状に施文。内面はやや被熱風化。	子母口式	
第599R PL-87	64	縄文土器 深鉢	97区O9V層 胴部片				B	絡条体圧痕文や絡条体条痕文を施す。内面にも絡条体条痕文を施すが、被熱風化により不鮮明。	子母口式	
第599R PL-87	65	縄文土器 深鉢	25号住居 胴部片				B	内外面に絡条体条痕文を横・斜位に施文。外面には1段Lの絡条体圧痕文を斜位に施文。	子母口式	
第599R PL-87	66	縄文土器 深鉢	97区M11V層 胴部片				B	内外面に絡条体条痕文を横・斜位に施文。外面には0段rの絡条体圧痕文をV字状かつ多段に施文し、内面の一部にも絡条体圧痕文が見られる。	子母口式	
第600R PL-87	67	縄文土器 深鉢	97区O16V層 胴部片				B	内外面に絡条体条痕文を施文し、外面に1段Lの絡条体圧痕文を斜位に施す。	子母口式	
第600R PL-87	68	縄文土器 深鉢	97区N18V層 胴部片				B	内外面に絡条体条痕文を施文し、外面に1段Lの絡条体圧痕文を斜位に施す。	子母口式	
第600R PL-87	69	縄文土器 深鉢	97区J8V層 胴部片				B	内外面に絡条体条痕文を施文し、外面に1段Lの絡条体圧痕文を斜位に施す。	子母口式	
第600R PL-87	70	縄文土器 深鉢	97区I5V層 胴部片				B	内外面に絡条体条痕文を施文し、外面に1段Lの絡条体圧痕文を斜位に施す。	子母口式	
第600R PL-87	71	縄文土器 深鉢	97区M9V層 胴部片				B	内外面に絡条体条痕文を施文し、外面に1段Lの絡条体圧痕文を斜位に施す。	子母口式	
第600R PL-87	72	縄文土器 深鉢	97区 底部(尖底)				B	内外面共に被熱風化するが、外面に縦位の絡条体条痕文。内面に横位の絡条体条痕文を施文。	子母口式	
第600R PL-87	73	縄文土器 深鉢	97区K4V層 口縁片				C	丸頭状の口縁が細く外反する無文土器。右下端の破断面近くには径2mmの補修孔がある。内面は被熱風化。	早期無文	
第600R PL-87	74	縄文土器 深鉢	97区J3V層 口縁片				B	丸頭状の口縁が細く外反する無文土器。	早期無文	
第600R PL-87	75	縄文土器 深鉢	97区P14V層 口縁片				C	丸頭状の口縁が細く外反する無文土器。内面はやや被熱風化。	早期無文	
第600R PL-87	76	縄文土器 深鉢	97区M-88V層 口縁片				B	内外面共に条痕文を横位に施す。内面はやや被熱風化。	早期条痕	
第600R PL-87	77	縄文土器 深鉢	97区N8V層 口縁片	口	(19.3)	高	(11.0)	B	波状口縁を持つ。内外面に絡条体条痕文を横・斜位に施文。口唇上面に絡条体圧痕文を施す。内面は被熱風化。	子母口式

挿図 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第60図 PL.87	78	縄文土器 深鉢	97区B6 胴部片		B	内外面に絡条体条痕文を斜位施文。	早期条痕
第60図 PL.87	79	縄文土器 深鉢	97区Q14V層 口縁片		B	口唇部は内頸状。外面は無文で、内面に条痕文を横位施文するが、被熱風化により不鮮明。	早期条痕
第60図 PL.87	80	縄文土器 深鉢	97区H9V層 胴部片		B	内外面に絡条体条痕文を横位施文。内面は被熱風化により施文が不鮮明。	子母口式
第60図 PL.87	81	縄文土器 深鉢	97区 口縁片		B	口唇上面に絡条体圧痕文を施し、外面は横位の絡条体条痕文を施文。内面は被熱風化により施文が不明瞭。	子母口式
第60図 PL.87	82	縄文土器 深鉢	97区P9V層 底部(実底)		C	無文土器で、外面に縦位の襷摺で痕がある。内面は被熱風化。	早期無文
第60図 PL.87	83	縄文土器 深鉢	97区O17V層 胴下半1/3・底部 欠損		C	無文土器で、外面に縦位の襷摺で痕が明瞭に残る。内面はやや被熱風化。	早期無文
第60図 PL.87	84	縄文土器 深鉢	97区M10V層 口縁片		C	無文土器で、外面は縦位の襷摺き。内面はやや被熱風化。	早期無文
第60図 PL.87	85	縄文土器 深鉢	97区M9V層 胴部片		B	内外面に横・斜位の条痕文を施すが、内面は被熱風化により不鮮明。	早期条痕
第60図 PL.87	86	縄文土器 深鉢	97区K5 胴部片		B	内外面に横・斜位の絡条体条痕文を施すが、内面は被熱風化により不鮮明。外面に絡条体圧痕文を斜位・散漫に施文。	子母口式
第60図 PL.87	87	縄文土器 深鉢	97区O6・9V層 口縁片		B	内外面に条痕文を横位施文。破断面に径5mmの補修孔を1対穿つ。内面はやや被熱風化。	早期条痕
第60図 PL.87	88	縄文土器 深鉢	97区 口縁片		B	内外面に条痕文を斜位施文。内面は被熱風化により施文が不明瞭。外面に煤状炭化物付着。	早期条痕
第61図 PL.87	89	縄文土器 深鉢	97区Q13・14V層 口縁片		C	口唇部は内頸状で外反しつづ開口。外面に横位襷摺での押痕がある。内面は被熱風化。	早期無文
第61図 PL.87	90	縄文土器 深鉢	97区 口縁片		B	外面は斜位。内面は横位の条痕文を施す。	早期条痕
第61図 PL.87	91	縄文土器 深鉢	97区M10V層 口縁片		B	口唇上面に絡条体条痕文を施文。内外面に絡条体条痕文を横・斜位に施文。	子母口式
第61図 PL.87	92	縄文土器 深鉢	97区R6V層 口縁片		B	波状口縁。口唇上面の一部に絡条体圧痕文を施文。内外面に絡条体条痕文を横・斜位に施文するが、内面は被熱風化により不鮮明。	早期条痕
第61図 PL.87	93	縄文土器 深鉢	97区N8・9V層 口縁片		B	内外面に粗い条痕文を横・斜位に施文。	早期条痕
第61図 PL.87	94	縄文土器 深鉢	97区I4V層 口縁片		B	口唇上面に絡条体圧痕文を施文。内外面に絡条体条痕文を横・斜位に施文。	子母口式
第61図 PL.87	95	縄文土器 深鉢	97区 口縁片		B	外面に横位の条痕文を施すが、内面は被熱風化により施文が不明瞭。	早期条痕
第61図 PL.87	96	縄文土器 深鉢	97区K14V層 口縁片		B	外面に横位の条痕文を施すが、内面は被熱風化により施文が不明瞭。	早期条痕
第61図 PL.87	97	縄文土器 深鉢	97区J1 口縁片		B	外面に横位の条痕文を施すが、内面は被熱風化により施文が不明瞭。	早期条痕
第61図 PL.87	98	縄文土器 深鉢	97区T10 口縁片		B	内外面に条痕文を横位施文。内面はやや被熱風化。	早期条痕
第61図 PL.88	99	縄文土器 深鉢	97区O6 口縁片		B	口唇上面に絡条体圧痕文を施文。内外面に絡条体条痕文を横・斜位に施文。内面はやや被熱風化。	子母口式
第61図 PL.88	100	縄文土器 深鉢	97区L9V層 胴部片		B	外面斜位、内面横位の条痕文を施す。	早期条痕
第61図 PL.88	101	縄文土器 深鉢	97区Q6V層 胴部片		B	外面斜位、内面横位の条痕文を施す。	早期条痕
第61図 PL.88	102	縄文土器 深鉢	97区I17V層 胴部片		B	外面斜位、内面横位の条痕文を施す。	早期条痕
第61図 PL.88	103	縄文土器 深鉢	97区I18V層 胴部片		B	外面斜位、内面横位の条痕文を施す。	早期条痕
第61図 PL.88	104	縄文土器 深鉢	97区N10V層 胴部片		B	外面斜位、内面横位の条痕文を施す。	早期条痕
第61図 PL.88	105	縄文土器 深鉢	97区I4V層 胴部片		B	外面に斜位の条痕文を施す。内面は被熱風化により、施文が不明瞭。外面の一部に煤状炭化物付着。	早期条痕
第61図 PL.88	106	縄文土器 深鉢	97区N8V層 胴部片		B	外面斜位、内面横位の条痕文を施す。内面はやや被熱風化。	早期条痕
第61図 PL.88	107	縄文土器 深鉢	97区K8V層 胴部片		B	外面斜位、内面横位の条痕文を施す。内面はやや被熱風化。	早期条痕

遺物観察表

挿図 PL No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第61図 PL-88	108	縄文土器 深鉢	97区P16V層 胴部片		B	外面斜位、内面横位の条痕文を施す。内面はやや被熱風化。	早期条痕
第62図 PL-88	109	縄文土器 深鉢	97区K10V層 胴部片		B	外面に縦・斜位の条痕文を施す。内面は被熱風化により施文が不明瞭。	早期条痕
第62図 PL-88	110	縄文土器 深鉢	97区H3V層 胴部片		B	外面に縦・斜位の条痕文を施す。内面は被熱風化により施文が不明瞭。	早期条痕
第62図 PL-88	111	縄文土器 深鉢	97区K7V層 胴部片		B	外面に縦・斜位の条痕文を施す。内面は被熱風化により施文が不明瞭。	早期条痕
第62図 PL-88	112	縄文土器 深鉢	97区N9V層 胴部片		B	外面は斜位、内面は横位の条痕文を施す。	早期条痕
第62図 PL-88	113	縄文土器 深鉢	97区O6V層 胴部片		B	外面に斜位の条痕文を施す。内面は被熱風化により施文が不明瞭。外面に煤状炭化物付着。	早期条痕
第62図 PL-88	114	縄文土器 深鉢	28号住居 胴部片		B	外面に斜位の条痕文を施す。内面は被熱風化により施文が不明瞭。外面に煤状炭化物付着。	早期条痕
第62図 PL-88	115	縄文土器 深鉢	97区 胴部片		B	外面は斜位、内面は横位の条痕文を施す。	早期条痕
第62図 PL-88	116	縄文土器 深鉢	97区N9V層 胴部片		B	外面は縦・斜位の条痕文を施すが、内面は被熱風化により施文が不明瞭。	早期条痕
第62図 PL-88	117	縄文土器 深鉢	97区R6V層 胴部片		B	外面は縦・斜位の条痕文を施すが、内面は被熱風化により施文が不明瞭。	早期条痕
第62図 PL-88	118	縄文土器 深鉢	97区I3V層 胴部片		B	外面は縦・斜位の条痕文を施すが、内面は被熱風化により施文が不明瞭。	早期条痕
第62図 PL-88	119	縄文土器 深鉢	97区L1 胴部片		B	外面斜位、内面横・斜位の条痕文を施す。	早期条痕
第62図 PL-88	120	縄文土器 深鉢	97区L18V層 胴部片		B	外面斜位、内面横・斜位の条痕文を施す。	早期条痕
第62図 PL-88	121	縄文土器 深鉢	97区 胴部片		B	外面に斜位の条痕文を施す。内面は被熱風化により、施文が不明瞭。	早期条痕
第62図 PL-88	122	縄文土器 深鉢	97区O7V層 胴部片		B	外面は斜位、内面は横位の条痕文を施す。	早期条痕
第62図 PL-89	123	縄文土器 深鉢	97区Q6V層 胴部片		B	外面に斜位の条痕文を施すが、内面は被熱風化により施文が不明瞭。	早期条痕
第62図 PL-89	124	縄文土器 深鉢	97区L10V層 胴部片		B	外面に斜位の条痕文を施すが、内面は被熱風化により施文が不明瞭。	早期条痕
第62図 PL-89	125	縄文土器 深鉢	97区C9V層 胴部片		B	外面に斜位の条痕文を施すが、内面は被熱風化により施文が不明瞭。	早期条痕
第62図 PL-89	126	縄文土器 深鉢	97区 胴部片		B	外面斜位、内面横位の条痕文を施す。内面はやや被熱風化。	早期条痕
第62図 PL-89	127	縄文土器 深鉢	97区Q6V層 胴部片		B	外面斜位、内面横位の条痕文を施す。内面はやや被熱風化。	早期条痕
第62図 PL-89	128	縄文土器 深鉢	97区K14V層 胴部片		B	外面斜位、内面横位の条痕文を施す。内面はやや被熱風化。	早期条痕
第62図 PL-89	129	縄文土器 深鉢	97区M9V層 胴部片		B	外面斜位、内面横位の条痕文を施す。内面はやや被熱風化。	早期条痕
第62図 PL-89	130	縄文土器 深鉢	97区A16V層 胴部片		B	外面斜位、内面横位の条痕文を施す。内面はやや被熱風化。	早期条痕
第62図 PL-89	131	縄文土器 深鉢	97区I7V層 胴部片		B	外面は縦・斜位、内面は横位の条痕文を施す。	早期条痕
第63図 PL-89	132	縄文土器 深鉢	97区G10V層 胴部片		B	外面に斜位の条痕文を施すが、内面は被熱風化により施文が不明瞭。	早期条痕
第63図 PL-89	133	縄文土器 深鉢	97区K11V層 胴部片		B	外面に斜位の条痕文を施すが、内面は被熱風化により施文が不明瞭。外面一部に煤状炭化物付着。	早期条痕
第63図 PL-89	134	縄文土器 深鉢	97区O7V層 胴部片		B	外面に斜位の条痕文を施すが、内面は被熱風化により施文が不明瞭。	早期条痕
第63図 PL-89	135	縄文土器 深鉢	97区H4V層 胴部片		B	外面斜位、内面横位の条痕文を施す。内面はやや被熱風化。	早期条痕
第63図 PL-89	136	縄文土器 深鉢	97区N10V層 胴部片		B	外面斜位、内面横位の条痕文を施す。内面はやや被熱風化。	早期条痕
第63図 PL-89	137	縄文土器 深鉢	97区P12V層 胴部片		B	外面斜位、内面横位の条痕文を施す。内面はやや被熱風化。	早期条痕
第63図 PL-89	138	縄文土器 深鉢	97区V層 胴部片		B	外面斜位、内面横位の条痕文を施す。内面はやや被熱風化。	早期条痕
第63図 PL-89	139	縄文土器 深鉢	97区 胴部片		B	外面斜位、内面横位の条痕文を施す。内面はやや被熱風化。	早期条痕

検出 PL No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第63R PL. 80	140	縄文土器 深鉢	97区R5 胴部片		B	外面斜位、内面横位の条痕文を施す。内面はやや被熱風化。内外面に煤状炭化物付着。	早期条痕
第63R PL. 89	141	縄文土器 深鉢	97区R6V層 底部のみ(尖底)		C	沈降文系土器の尖底部。内面は被熱風化。	早期無文
第63R PL. 89	142	縄文土器 深鉢	97区R6V層 底部のみ(尖底)		B	条痕文系土器の尖底部。外面に条痕文を施すが、内面は被熱風化により不鮮明。	早期条痕
第63R PL. 89	143	縄文土器 深鉢	97区Q10V層 底部のみ(尖底)		B	条痕文系土器の尖底部。外面に条痕文を施すが、内面は被熱風化により不鮮明。	早期条痕
第63R PL. 89	144	縄文土器 深鉢	97区 底部のみ(尖底)		B	条痕文系土器の尖底部。外面に条痕文を施すが、内面は被熱風化により不鮮明。	早期条痕
第63R PL. 89	145	縄文土器 深鉢	II層 I口縁片		D	閉端部環付きの0段多条R縄文を横位多段に施文。内面は横位の捲磨き。波状I口縁。	関山式
第63R PL. 89	146	縄文土器 深鉢	11号住居 I口縁片		D	閉端部環付きの0段多条R縄文を横位多段に施文。内面は横位の捲磨き。	関山式
第63R PL. 89	147	縄文土器 深鉢	4区耕作痕 I口縁片		D	0段多条R縄文を横位に施文。内面は横位の捲磨き。	関山式
第63R PL. 89	148	縄文土器 深鉢	4区II層 I口縁片		D	0段多条R縄文を横位に施文。内面は横位の捲磨き。	関山式
第63R PL. 89	149	縄文土器 深鉢	4区 I口縁片		D	0段多条R縄文を横位に施文。内面は横位の捲磨き。	関山式
第63R PL. 89	150	縄文土器 深鉢	11号住居 I口縁片		D	0段多条R縄文を横位に施文。内面は横位の捲磨き。波状I口縁。	関山式
第63R PL. 89	151	縄文土器 深鉢	10号住居 胴部片		D	0段多条R縄文を横位に施文。内面は横位の捲磨き。	関山式
第63R PL. 89	152	縄文土器 深鉢	4区 胴部片		D	0段多条のRとL縄文を交互に横位施文。	前期縄文
第63R PL. 89	153	縄文土器 深鉢	カクラン 胴部片		D	0段多条のRとL縄文を交互に横位施文。菱形のモチーフを構成。内面は横位の捲磨き。	前期縄文
第63R PL. 89	154	縄文土器 深鉢	97区I13III層 胴部片		D	L縄文を横位に施文。内面は横位の捲磨き。	前期縄文
第63R PL. 89	155	縄文土器 深鉢	2号住居 I口縁片		D	幅広平截竹管の平行沈線文により、菱形のモチーフを構成。内面は横位の捲磨き。	有尾式
第63R PL. 89	156	縄文土器 深鉢	97区L8V層 胴部片		F	L縄文を横位に施文。外面に煤状炭化物付着。内面は被熱風化。	講義a式
第63R PL. 89	157	縄文土器 深鉢	97区R18 胴部片		G	体部の屈曲部に幅狭の平截竹管による横位連続爪形文を施し、以下にR縄文を横位施文する。	講義a式
第63R PL. 89	158	縄文土器 深鉢	表土 胴部片		G	体部の屈曲部に幅狭の平截竹管による横位連続爪形文を施し、以下にR縄文を横位施文する。	講義a式
第63R PL. 89	159	縄文土器 深鉢	1区 I口縁片		F	R縄文を横位施文し、朝日浮線文を横・斜位に施す。波状I口縁。	講義b式
第63R PL. 89	160	縄文土器 深鉢	1号溝 胴部片		F	R縄文を横位施文し、朝日浮線文を横・斜位に施す。内面は被熱風化。	講義b式
第63R PL. 89	161	縄文土器 深鉢	4区 胴部片		F	幅広平截竹管の連続爪形文により、横・斜位のモチーフを構成。内面は横位の捲磨き。	講義b式
第63R PL. 89	162	縄文土器 深鉢	97区I18V層 胴部片		F	幅広平截竹管の横位連続爪形文を施し、以下にR縄文を横位施文。	講義b式
第63R PL. 89	163	縄文土器 深鉢	1区 胴部片		F	R縄文を横位施文。外面に煤状炭化物付着。	講義b式
第63R PL. 89	164	縄文土器 深鉢	4区II層 胴部片		F	L縄文を横位施文。幅広平截竹管による横位連続爪形文の施文間に平行横線文による弧状のモチーフを構成。外面の一部に煤状炭化物付着。内面はやや被熱風化。	講義b式
第63R PL. 89	165	縄文土器 深鉢	6区 I口縁片		F	R縄文を横位施文。閉端部の白濁白癖と思われるL結節縄文も認められる。	講義c式
第63R PL. 89	166	縄文土器 深鉢	21号住居 I口縁片		F	波状I口縁。I口縁部にR縄文を横位施文し、幅広沈降による区画文を施す。	加曾利E3式
第63R PL. 89	167	縄文土器 深鉢	1号溝 胴部片		G	目録復縁文を全面に施文し、平截竹管の横位平行沈線文を施す。内面の一部に煤状炭化物付着。	浮島式
第63R PL. 89	168	縄文土器 深鉢	1区 胴部片		G	R縄文を横位施文。内面は研磨。	講義b式
第63R PL. 89	169	縄文土器 深鉢	4区 胴部片		E	R縄文を横位施文し、閉端にL結節縄文を縦位に施文。	五箇ヶ台式
第63R PL. 89	170	縄文土器 深鉢	4区 胴部片		F	L縄文を縦位に施文し、沈降懸垂区画文内を磨り消す。	加曾利E3式

遺物観察表

検出 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第64図 PL.90	171	縄文土器 深鉢	97区N19Ⅲ層 口縁~底部2/3	底	5.0	G	突起を3単位に付した波状口縁。口縁下に波底部の縦位S字状隆帯文に連接する横位の縦帯文が認められる。頭部には対弧文や入り組み状に方向する区切り文による横帯文が構成され、L縄文が充填される。胴部下半は無文。内外面共に極めて丁寧な磨きが施される。	加曾利2式
第64図 PL.90	172	縄文土器 浅鉢	表土 胴部片			G	横帯文内に8字状の陪付文やL縄文が充填される。外面は極めて丁寧な磨き。内面はやや被熱風化。	加曾利2式
第64図 PL.90	173	縄文土器 深鉢	研作痕 胴部片			G	対弧文や区切り文による横帯文内にL縄文を充填する。	加曾利2式
第64図 PL.90	174	縄文土器 深鉢	20号住居 口縁片			G	対弧文や区切り文による横帯文内にL縄文を充填する。	加曾利2式
第64図 PL.90	175	縄文土器 浅鉢	97区 口縁片			G	口縁部に弧線文や「」の字状の区切り文を施し、繊密なL縄文を充填。内外面共に丁寧な磨き。	加曾利2式
第64図 PL.90	176	縄文土器 深鉢	11号住居 胴部片			G	複数段の横帯文を施し、L縄文を充填。外面の一部に煤状炭化物付着。	加曾利2式
第64図 PL.90	177	縄文土器 深鉢	2区Ⅱ層 口縁片			G	口縁部に平行状の横線文を施し、棒状工具による連続した縦刻みを施す。また、やや大振りな円形陪付文を施す。内外面共に磨き。	高井東式
第64図 PL.90	178	縄文土器 深鉢	2区表土 口縁片			G	内面側への折返し口縁。口縁下に浅い横位沈線文を施し、口唇までの上位部に横位磨きを施し、下部は磨かずに削り痕を残す。	加曾利3式
第64図 PL.90	179	縄文土器 深鉢	縄文拡張区 胴部片			G	細沈線により斜線文を施す。内面は磨きに近い状態。	加曾利3式
第64図 PL.90	180	縄文土器 深鉢	縄文拡張区 胴部片			G	細沈線により斜線文を施す。内面は磨きに近い状態。	加曾利3式
第64図 PL.90	181	縄文土器 深鉢	縄文拡張区 胴部片			G	細沈線により斜線文を施す。内面は磨きに近い状態。	加曾利3式
第64図 PL.90	182	縄文土器 深鉢	2区Ⅱ層 胴部片			G	細沈線により斜線文を施す。内面は磨きに近い状態。	加曾利3式
第64図 PL.90	183	縄文土器 深鉢	2号住居 口縁片			G	細い平截竹管の平行沈線文を斜行気味に施す。口唇上面にも同沈線を施文。	加曾利3式
第64図 PL.90	184	縄文土器 深鉢	3号住居 胴部片			G	胴括れ部に横位沈線文を施し、その上下に異方向の斜線文を施す。	加曾利3式
第64図 PL.000	185	縄文土器 深鉢(粗製)	縄文拡張区 口縁片			F	粗製深鉢土器。右から左斜位方向の磨削り痕を残す。内面は横位磨き。	加曾利2式
第64図 PL.90	186	縄文土器 深鉢	2区表土 口縁片			G	く字状に内折する口縁部に凹線状の横位沈線文を施し、口唇外端と屈折部に刻目を施す。頭部は磨削り後に横位磨き。	高井東式
第64図 PL.90	187	縄文土器 浅鉢	4区表土 口縁片			G O	口縁部がく字状に内折。口縁・頸部共に無文で、丁寧な研磨を施す。	加曾利3式
第64図 PL.90	188	縄文土器 深鉢	1区 口縁片			G	波状口縁。内折する口縁部に3本の横位沈線文を施し、L縄文を充填。内外面共に丁寧な磨き。	高井東式
第64図 PL.90	189	縄文土器 深鉢	2区Ⅳ層 胴部片			G	単沈線により羽状文を構成する。内外面共に磨研。	高井東式
第64図 PL.90	190	縄文土器 深鉢	6号住居 口縁片			F	波状口縁。口縁部に凹線状の横位沈線文を施し、下部に刻目を持つ隆帯文を施文。	高井東式
第64図 PL.90	191	縄文土器 深鉢	2区Ⅱ層 口縁片			F	波状口縁。口縁部に刻目隆帯による杵状文を構成し、区内に3本の横位沈線文を施す。頸部には斜線文を施す。	高井東式
第64図 PL.90	192	縄文土器 深鉢	2区表土 口縁片			F	波状口縁。緩く内折する口縁部に横位沈線文や刺突文を施し、4個の円形陪付文を施す。内外面共に磨き。	高井東式
第64図 PL.90	193	縄文土器 深鉢	縄文拡張区 口縁片			F	波状口縁。口縁部は短く内折し、無文部を形成。頭部は磨削り痕を残す。内面は磨きに近い横位磨き。	高井東式
第64図 PL.90	194	縄文土器 深鉢(粗製)	1号河辺 口縁片			F 横線文	口唇下に幅広い横位沈線文を施す。外面は粗い状態。内面は磨きに近い横位磨き。	後期後半無文
第64図 PL.90	195	縄文土器 深鉢 (粗製)	97区N19Ⅲ層 口縁片			F	粗製的な無文土器。内外面共に磨き。	後期後半無文
第64図 PL.90	196	縄文土器 深鉢 (粗製)	2区表土 口縁片			F	粗製的な無文土器。内外面共に磨き。	後期後半無文

挿図 Pl. No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第64図 PL.90	197	縄文土器 深鉢 (粗製)	1号河瀬 口縁片			F	口唇下にやや幅広い横位沈線文を施す。内外面共に横位施撫で。	後期後半無文
第64図 PL.90	198	縄文土器 深鉢 (粗製)	2区II層 口縁片			F	無文土器。外面口唇下のみ丁寧な横位の撫でを施し、以下は澁削り痕を残すような横位施撫で。内面は横位施撫で。	後期後半無文
第64図 PL.90	199	縄文土器 深鉢	97区T14V層 口縁片			F	口縁部が内折する無文土器。口縁部は横位の澁磨きを施し、以下は施撫で。内面は横位の施撫で。	高井東式
第64図 PL.90	200	縄文土器 深鉢	表上 口縁片			F	口縁部が内折する無文土器。口縁部は横位の施撫でを施し、以下は澁削り痕を残す。内面は横位の施撫で。	高井東式
第64図 PL.90	201	縄文土器 深鉢	2号住居 口縁片			F	やや深い幅広い横位凹線文を施し、その上・下位の隆起帯状に作出された部分に連続した刻目を施文する。	安行2式?
第64図 PL.90	202	縄文土器 浅鉢 (精製)	13住 口縁片			G	断面鐘鉢状の浮線によりレンズ状文を構成。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第64図 PL.90	203	縄文土器 深鉢 (粗製)	87区黒色土 胴部片			F	断面三角形の浮線により文様構成。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第65図 PL.90	204	縄文土器 深鉢 (粗製)	4区 口縁片			G	細密条痕文を斜位に施文し、複数本の横線文を施す。色調は灰黄褐色。	千瀬式
第65図 PL.90	205	縄文土器 浅鉢 (粗製)	87区黒色土 口縁片			G	細密条痕文を斜位に施文し、複数本の横線文を施す。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第65図 PL.90	206	縄文土器 鉢(精製)	87区G13 口縁片			G	細密条痕文を斜位に施文し、複数本の横線文を施す。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第65図 PL.90	207	縄文土器 浅鉢 (粗製)	97区K5V層 胴部片			G	断面三角形の浮線により多分岐線文を施し、横線文内に径4mmの焼成前尖孔がある。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第65図 PL.90	208	縄文土器 浅鉢 (粗製)	28号住居 口縁片			G	断面鐘鉢状の浮線により文様構成。部分的に斜位の刻目を施す。外面は赤色塗彩。	千瀬式
第65図 PL.90	209	縄文土器 浅鉢 (粗製)	5区 口縁片			G	2本の横線文を施す。外面は赤色塗彩。内外面共に丁寧な研磨。色調は褐灰色。	千瀬式
第65図 PL.90	210	縄文土器 浅鉢 (粗製)	97区K5V層 口縁片			G	口外帯を施し、頸部無文部の下に断面三角形の浮線により文様構成。色調は褐灰色。	水1式併行
第65図 PL.90	211	縄文土器 深鉢 (粗製)	87区黒色土 口縁片			G	山形状の突起頂部に押圧面を持つ。Rの細密条痕文を施し、波頂下の縦位沈線に連続して横線文を施文する。内面は丁寧な澁磨き。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第65図 PL.90	212	縄文土器 深鉢 (粗製)	87区黒色土 口縁片			G	山形状の小突起を付した複合波状口縁。細密な横線文を横位に施文し、以下に複数本の横線文を施す。内面は丁寧な澁磨き。色調は褐灰色。	千瀬式
第65図 PL.90	213	縄文土器 深鉢 (粗製)	13号住居 口縁片			F	複合口縁を持ち、櫛歯状工具による条痕文を口縁部は横位、以下は斜位に施す。内面は磨きに近い横位施撫で。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第65図 PL.90	214	縄文土器 鉢(粗製)	87区黒色土 胴部片			F	櫛歯状工具による条痕文を横位に施文。内面は磨きに近い横位施撫で。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式
第65図 PL.90	215	縄文土器 浅鉢 (粗製)	97区 口縁片			G	小突起状の波状口縁を持ち、その上面に沈線文を施文。口縁部は沈線により変形工字文を施す。色調は鈍い黄褐色。	大洞A式併行
第65図 PL.90	216	縄文土器 深鉢 (粗製)	4区表土 胴部片			F	体部下平に細密条痕文を斜位に施す。外面の体部下平に煤状灰化物付着。内面は横位の澁磨き。色調は褐灰色。	千瀬式
第65図 PL.90	217	縄文土器 ミニチュア深鉢	97区L3 底部片	底	(3.8)	F	底面端部がやや突出する。内外面共に施撫で。色調は灰黄褐色。	千瀬式
第65図 PL.90	218	縄文土器 深鉢 (半精製)	27号トレンチ 底部片	底	(4.5)	F	細密条痕文を縦・斜位に施文。底面に木葉痕。内面は磨きに近い施撫で。色調は鈍い黄褐色。	千瀬式

遺物観察表

平円形の窪地

神岡 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	底	高				
第70回 PL.91	1	弥生土器 壺	18～29cm 口縁～胴上半	口	(15.0)			口唇には縄文を施す。口縁文様は、4単位の重四角文を配し1カ所の空隙を設けて小さな重四角文を嵌め込む。頸部は文様帯を3条の縦位沈線で上下に区画し、上位には4カ所に横位穿孔した耳状貼付突起を配し、その間を重四角文で埋める。頸部下位には、3単位の重四角文とヒョウタン形2条横線が両したなかに2条沈線による連続山形文をめぐらす。地文は全体に縄文LRを施し、胴部下半は無文でミガキ。内面整形はヘラナデとナデ。	中期中葉	
第70回 PL.91	2	弥生土器 壺	4cm 胴～肩部片					チャート、白岩片、輝石の粗～細砂目立つ/にふい/縞～黒/普通、黒斑多い	中期中葉	
第70回 PL.91	3	弥生土器 壺	21cm 胴～肩部片					チャート、白岩片、輝石の粗～細砂目立つ/にふい/縞～黒/普通、黒斑多い	中期中葉	
第70回 PL.91	4	弥生土器 広口短頸壺	16cm 口縁～底部一部 欠	口 底	14.6 5.8	高 17.3		石英・輝石等細砂/暗褐/普通	口縁下から頸部に4条、胴部に2条の沈線を描き織ぎによりめぐらし、口唇及び沈線施文部には地文として縄文LRを施す。肩部と胴下半は無文帯とする。頸部の沈線内と胴部文様帯には赤彩を施す。口縁には体面する2孔一對の蓋結縛用孔を穿つ。孔縁はわずかに縛紐によると思われる割縁が見られる。肩無文帯と胴下半は粗いミガキ、内面は全体にナデ。底面は平織り布目圧痕。	煮炊きに使用した2次的蒸熱煎やス・コゲの付着は見られない。中期中葉
第70回 PL.91	5	弥生土器 壺	21cm 肩部片					チャート、白岩片の粗砂目立つ/灰黒/普通、黒斑	三角連続文と思われる沈線区画内に刺突を充填する。内面はナデ。	中期中葉か
第70回 PL.91	6	弥生土器 壺か甕	21cm 胴部片					輝石の粗砂多い/にふい/縞/普通	カナムグラ回転によると思われる縦帯文を地文に、細い沈線で同心状の椀口文を描く。内面はナデ。	中期前半
第70回 PL.91	7	弥生土器 壺	21cm 胴部片					輝石の粗～細砂多い/暗褐/普通	曲線と直線の組み合わせによる沈線内面文様を描き内区にカナムグラ回転による縦帯文を重点する。内面はナデ。	中期前半
第70回 PL.91	8	弥生土器 (甕)	21cm 胴部片					岩片粗砂目立つ/明褐色/やや軟質	縄文LRを地文に3条単位の櫛状具で大振りな波状文と横線文をめぐらす。	中期中葉
第70回 PL.91	9	弥生土器 壺	21cm 口縁片	口	(14.5)			安山岩片、輝石の粗砂多い/暗褐/普通	2帯の粘土紐をめぐらし、折返し口縁とする。頸部は削り、内面は粗いミガキ。	後期後半、古ヶ谷式系
第70回 PL.91	10	弥生土器 小形壺	21cm 胴下半～底部	底	(4.6)			石英・白岩片の粗細砂/黒褐/普通、ムラ	外面は無文で、ミガキと思われるが割縁により不明。底面ミガキ、内面ナデ。	中期前半か
第70回 PL.91	11	弥生土器 (甕)	21cm 底部片	底	(7.0)			輝石粗砂目立つ/縞/普通	底面に布目痕。体部下外面は縦位ヘラナデ、内面はナデ。	中期前半～中葉
第70回 PL.91	12	弥生土器 壺か甕	21cm 底部片					黒色鉱物、白岩片の粗砂/縞/普通	底面に平織り布目痕を残す。内面はナデ。	中期か
第70回 PL.91	13	弥生土器 壺	21cm 底部片	底	(12.4)			安山岩細礫、輝石粗砂を含む/黒灰/普通、黒斑	やや突出気味の底部から胴部へ大きく開く。底面に布目圧痕、内面はナデ。	後期ないし古墳前期か
第71回 PL.91	14	割片石器 スクレイパー	4cm 完形	長 幅	8.6 5.3	厚 重	1.9 95.08	黒色頁岩	背面自然面の割片を素材に再縁に二次加工を施し整形。	
第71回 PL.91	15	割片石器 スクレイパー	21cm 完形	長 幅	9.2 3.9	厚 重	1.6 64.48	黒色頁岩	内面両縁に二次加工を施し整形。正面左縁線中央部での摩滅が顕著で、推定痕と推定される。	
第71回 PL.91	16	割片石器 スクレイパー	トレンチ 完形	長 幅	3.0 4.5	厚 重	0.9 12.60	チャート	背面全面および腹面縁辺に二次加工を施し整形。対向する縁辺に抉りをもつことから石造の可能性もある。	

挿図 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第71図 PL-92	17	割片石器 スクレイパー	97区R6 完形	長 幅	9.2 6.2	厚 重	2.5 131.63	珪質頁岩	厚手の割片を素材に、主として腹面に二次加工を施し刃部を作出。
第71図 PL-92	18	割片石器 打製石斧	3cm 完形	長 幅	12.8 7.8	厚 重	3.4 305.99	黒色頁岩	内面に二次加工を施し整形。左右側縁には持ちが入り、刃部に向かって広がる形状である。
第71図 PL-92	19	礫石器 磨石	97区P5 完形	長 幅	14.7 6.7	厚 重	8.0 1138.58	粗粒輝石安山岩	正面および上部小口面、左側面に磨面が形成されている。
第71図 PL-92	20	礫石器 石皿?	97区Q4 破片	長 幅	(22.0) (17.3)	厚 重	9.6 4744.43	粗粒輝石安山岩	自然面との区別が困難であるが、平坦面をもつ形状から石皿の可能性を考えた。

遺構外出土の赤土土器

挿図 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第72図 PL-92	1	赤土土器 壺	14号住居 口縁片					チャート、白岩片の細礫粗砂目立つ/黒灰/やや硬質	薄い粘土層をめぐるして折返し口縁とし、口唇部と口縁から頸部外面に縄文しを施す。内面はナデ。	中期中葉か
第72図 PL-92	2	赤土土器 甕	4区耕作痕 頸部片					チャート細礫が目立つ/赤褐/硬質	頸部下位に反時計回りで縄文文を1帯めぐらす。施文具は幅10mm、歯数5本。無文部と内面は丁寧な横ミガキ。	中期中葉、栗林式
第72図 PL-92	3	赤土土器 甕	1号河道 腹部片					雲母含む細砂/暗褐～灰褐/普通	目の細かいハケ目を縦位に施す。内面は横位ミガキ。	中期中葉
第72図 PL-92	4	赤土土器 甕	97区G15 口縁～体上半片					チャート、白岩片の粗砂目立つ/暗灰/やや硬質	外面はへう状具による粗いナデ、体部に縦位ハケ目。内面は横位ミガキ。	中期中葉か
第72図 PL-92	5	赤土土器 深鉢	1号河道 口縁片					石英・輝石等粗～細砂/橙/普通	口縁は内湾する平縁。外面に繊維質束による粗い条痕、内面は削り。	晩期末～中期前半
第72図 PL-92	6	赤土土器 壺	1号河道 口縁～胴部片					白色鉱物、岩片の粗砂/灰褐/硬質	口唇面にハケ目、体部外面に縦位、内面全体に横位のハケ目。口縁上位に粘土細粒接合を僅かに残し横ナデ。	中期中葉か
第72図 PL-92	7	赤土土器 甕	1号河道 腹部～体部片					輝石を含む岩片、粗砂多い/灰褐色/焼ムラあり	口縁直下から体部下端まで縄文しを縦横斜位に施す。内面は横位削りとナデ。	前期末～中期前半、スス付着痕や被熱痕は不明瞭。
第72図 PL-92	8	赤土土器 甕	1号河道 口縁片					石英・輝石等粗～細砂/赤橙/普通	粘土層付合による折返し口縁。口縁から頸部にかけて4段の縞縞波状文をめぐる。施文具は幅13mm、歯数9、中央で歯欠け。内面はミガキ。	後期後半、樽式
第72図 PL-92	9	赤土土器 小形壺	1号河道 口縁～胴部片					赤色粒・白色鉱物等粗～細砂/黄橙～黒/普通、黒灰	口縁から胴部にかけて4段の縞縞波状文をめぐる。施文は上→下、時計回り。施文具は、幅13mm、歯数9。内面は丁寧な横位ミガキ。	後期後半、樽式
第72図 PL-92	10	赤土土器 壺	31号トレンチ 胴部片					白鉱物粗砂含む/灰～橙/普通	胴部にコンパス文状の縞縞波状文をめぐる。	後期樽式
第72図 PL-92	11	赤土土器 壺	1号河道 胴部片					細砂含む/明橙/普通	縞縞による斜線文で、下端はコンパス文状に反転する。無文部はミガキ、内面はナデ。	後期樽式
第72図 PL-92	12	赤土土器 壺	1号河道 底部片	底	7.4			白色安山岩片多い/不い赤褐/硬質	体部外面は繊維質用具によるので、内面と底面は削り。	底突出部外面が赤変。
第72図 PL-92	13	赤土土器 甕	表上 底部片	底	(10.0)			安山岩片、輝石の粗砂多い/灰褐/普通	底面に木葉痕。内面は丁寧なナデ。外面にハケ目状の縞縞条痕を施す。	木葉痕
第72図 PL-92	14	赤土土器 壺か甕	1号河道 底部片	底	(6.0)			安山岩片の細礫～粗砂多い/橙～灰褐/普通	底面に朝代痕(3本越え2本滑り1本送り)。内面はナデ。	中期

遺構外出土の縄文・赤土時代の石器

挿図 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第73図 PL-93	1	割片石器 石礫	97区N18V層 完形	長 幅	2.2 1.6	厚 重	0.5 0.98	黒曜石	内面全面に押圧割離を施す。先端部が尖る形状。	凹基無茎礫
第73図 PL-93	2	割片石器 石礫	97区N18V層 完形	長 幅	2.0 1.4	厚 重	0.5 0.99	黒曜石	内面全面に押圧割離を施し整形。	凹基無茎礫
第73図 PL-93	3	割片石器 石礫	97区Q10V層 略定形	長 幅	(2.0) (1.6)	厚 重	0.5 0.97	黒曜石	内面全面に二次加工を施し整形。先端部および右返し部欠損。	
第73図 PL-93	4	割片石器 石礫	97区O5V層 完形	長 幅	2.3 1.8	厚 重	0.8 2.10	黒曜石	先端部および全体の形状から、石礫未成品と判断した。左右非対称で基部に厚みを残す。	

遺物観察表

検出 Pt. No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第738回 PL-93	5	割片石器 石鏃	97区N8V層 完形	長 幅 厚 (2.7) (1.7) 0.7 2.31	チャート	両面全面に二次加工を施し先端部を作り出す。左右非対称で厚みを残すことから、石鏃未成品または石鏃の可能性が高い。	
第738回 PL-93	6	割片石器 石鏃	97区N6V層 完形	長 幅 厚 (2.1) (1.4) 0.3 0.79	黒色頁岩	先端部は二次加工が多く施され厚みをもつが、基部は加工が少なく薄い。	
第738回 PL-93	7	割片石器 石鏃	97区K5V層 完形	長 幅 厚 2.2 1.6 0.6 1.55	黒曜石	平面形および先端部の作り出しから、石鏃の未成品と判断した。	
第738回 PL-93	8	割片石器 石鏃	97区J5V層 完形	長 幅 厚 1.7 1.3 0.4 0.58	黒曜石	両面全面に二次加工を施し整形。	円基無茎鏃
第738回 PL-93	9	割片石器 石鏃	97区J4V層 完形	長 幅 厚 2.0 1.7 0.4 0.97	チャート	両面全面に押圧割離を施し整形。	円基無茎鏃
第738回 PL-93	10	割片石器 石鏃	97区I4V層 略完形	長 幅 厚 (1.6) (1.2) 0.3 0.46	黒曜石	両面全面に二次加工を施す。	円基無茎鏃
第738回 PL-93	11	割片石器 石鏃	97区I4V層 略完形	長 幅 厚 (2.5) (1.4) 0.4 1.05	珪質頁岩	両面に押圧割離による二次加工を施し整形。先端部欠損。	円基無茎鏃
第738回 PL-93	12	割片石器 石鏃	97区N19層 略完形	長 幅 厚 (2.0) (1.5) 0.4 1.12	黒色安山岩	両面全面に押圧割離を施す。先端部欠損。	円基無茎鏃
第738回 PL-93	13	割片石器 石鏃	14号住居 略完形	長 幅 厚 (2.7) (1.1) 0.3 0.85	黒色頁岩	両面全面に押圧割離を施す。基部欠損。	円基有茎鏃
第738回 PL-93	14	割片石器 磨製石鏃	8号住居 略完形	長 幅 厚 (3.3) (2.0) 0.3 1.77	珪質準片岩	縁辺に斜行および直交の線状痕が明瞭に残る。中央部下平直径2mmの孔を両側から穿孔。返し部欠損。両面両縁に二次加工を施し先端部を作り出す。石鏃未成品の可能性もある。	
第738回 PL-93	15	割片石器 尖頭器	97区O9V B層 完形	長 幅 厚 4.6 2.3 0.7 6.95	黒色頁岩	横型。握み部は対部に対し斜めに作り出されている。	
第738回 PL-93	16	割片石器 石鏃	97区I16層 完形	長 幅 厚 5.8 7.1 1.2 34.00	黒色頁岩	横型。幅広の握み部をもつ。両面両縁に二次加工を施し整形。右端部欠損。	
第738回 PL-93	17	割片石器 石鏃	97区N10V層 2/3	長 幅 厚 4.2 (5.8) 1.2 26.29	黒色頁岩	横型。幅広の握み部をもつ。両面両縁に二次加工を施し整形。右端部欠損。	
第738回 PL-93	18	割片石器 石鏃	97区M9V層 完形	長 幅 厚 10.1 5.7 1.5 54.14	黒色頁岩	平面形が左右非対称で、幅広の握み部をもつ。	
第738回 PL-93	19	割片石器 石鏃	97区M10V層 完形	長 幅 厚 5.5 9.0 1.5 57.72	黒色頁岩	横型。横長割片素材。握み部の幅が広い形状。	
第738回 PL-93	20	割片石器 石鏃	97区S7V層 完形	長 幅 厚 11.1 4.9 2.1 73.49	黒色頁岩	縦型。幅広の握み部をもつ。自然面打面の割片を素材とし、両面両縁に二次加工を施し整形。	
第748回 PL-93	21	割片石器 石鏃	97区Q6V層 完形	長 幅 厚 9.2 2.8 0.8 16.29	黒色頁岩	表面全体が摩滅している。対向する左右縁辺に挟りが認められたため石鏃とした。	
第748回 PL-93	22	割片石器 石鏃	97区K8V層 完形	長 幅 厚 6.5 6.7 1.1 48.13	黒色頁岩	握み部は明瞭でないが、対向する挟りが認められたため石鏃と判断した。片面のみ二次加工を施す。	
第748回 PL-93	23	割片石器 石鏃	97区K7V層 完形	長 幅 厚 4.3 7.9 0.9 23.19	黒色頁岩	横型。薄手の横長割片を素材とし、握み部は器体に対しやや傾いている。	
第748回 PL-93	24	割片石器 石鏃	97区J3V層 完形	長 幅 厚 5.2 7.4 1.5 42.69	黒色頁岩	裏面に素材割片のバルブを残す。横型で握み部の幅が広い。ノッチ部の作り出しは粗い。	
第748回 PL-93	25	割片石器 石鏃	97区K5V層 略完形	長 幅 厚 3.6 (5.3) 0.7 10.21	黒色頁岩	薄手の横長割片素材。裏面縁辺を中央に二次加工を施し整形。素材割片の打面およびバルブを残す。	
第748回 PL-93	26	割片石器 石鏃	97区N7V層 完形	長 幅 厚 5.9 10.4 1.0 41.61	黒色頁岩	両側縁および括れ部の二次加工は鋭角割離をなす。	
第748回 PL-93	27	割片石器 石鏃	97区I6V層 2/3	長 幅 厚 5.3 (6.3) 1.0 27.91	黒色頁岩	横型。対部は裏面側のみ二次加工を施し作出。	
第748回 PL-93	28	割片石器 石鏃	97区I5V層 完形	長 幅 厚 7.7 4.1 1.0 30.34	黒色頁岩	縦型。握み部は幅広で、素材割片の打面、バルブ、未端部を残す。	
第748回 PL-93	29	割片石器 石鏃	97区H8V層 完形	長 幅 厚 3.7 (5.4) 0.9 13.55	黒色安山岩	横型。対部が直線的。器体に比べて握み部が大きいことから、対部再生を行っている可能性がある。	
第748回 PL-93	30	割片石器 石鏃	97区H4V層 完形	長 幅 厚 10.4 5.6 1.5 92.62	黒色頁岩	縦型。幅広の握み部をもつ。二次加工は背面側から裏面側に施しているものが多いが、握み部左側は裏面から加撃しノッチを作り出している。	
第748回 PL-93	31	割片石器 石鏃	97区H5V層 完形	長 幅 厚 5.4 7.6 1.1 30.25	砂岩	横型。握み部は裏面側に、対部は背面側に二次加工が施されている。	
第748回 PL-93	32	割片石器 石鏃	97区G8V層 完形	長 幅 厚 6.2 5.4 1.7 45.35	黒色頁岩	素材割片の打面およびバルブを残す。背面両縁に二次加工を施し整形。	
第748回 PL-94	33	割片石器 石鏃	集石西古墳 完形	長 幅 厚 7.5 4.7 1.3 37.58	黒色頁岩	縦型。背面両縁に二次加工を加え、スクレイパー状の刃部を作出。裏面側には平坦な割離を施す。	
第748回 PL-94	34	割片石器 石鏃	97区L9V層 略完形	長 幅 厚 (7.8) 3.0 2.2 40.71	黒色頁岩	両面に二次加工を施し、厚みのある対部を作り出している。	
第748回 PL-94	35	割片石器 石鏃	97区J9V層 略完形	長 幅 厚 6.6 6.6 1.5 33.96	黒色頁岩	左右非対称で握み部が大きい形状である。先端部は折れているが、摩滅と微小割離が見られることから、折れた後も使用している可能性が高い。	

挿図 Pl. No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第758 Pl. 94	36	割片石器 石鏃	97区Q7V層 完形	長 幅	6.7 (3.2)	厚 重	1.0 17.41	黒色頁岩	正面右側面の折れ面は二次加工に切られていることから完形と推定される。刃部は両面からの二次加工により整形。先端部摩滅。
第758 Pl. 94	37	割片石器 石鏃	97区K7V層 略完形	長 幅	5.2 4.0	厚 重	1.5 23.70	黒色頁岩	両面縁辺に二次加工を施し先端部を作り出す。先端部欠損。
第758 Pl. 94	38	割片石器 石鏃	97区I6V層 完形	長 幅	5.3 3.8	厚 重	1.7 20.62	黒色頁岩	裏面にのみ二次加工を施し刃部を作り出している。先端部摩滅。
第758 Pl. 94	39	割片石器 石鏃	97区L6V層 完形	長 幅	2.9 1.7	厚 重	1.0 3.46	黒色頁岩	正面内側縁に急斜度の二次加工を施し刃部を作り出す。刃部摩滅。
第758 Pl. 94	40	割片石器 石鏃	97区G7V層 完形	長 幅	5.5 6.2	厚 重	1.7 30.47	黒色頁岩	両面縁辺に二次加工を施し先端部を作り出す。先端部摩滅。
第758 Pl. 94	41	割片石器 完形	97区K8V層 完形	長 幅	9.3 3.7	厚 重	2.3 51.75	黒色頁岩	縦長割片の末端部に加工を加え先端部を作り出している。先端部は稜線を中心に摩滅している。
第758 Pl. 94	42	割片石器 石鏃	97区N7V B層 略完形	長 幅	(4.1) 2.0	厚 重	0.8 5.08	黒色頁岩	両面全面に二次加工を施し先端部を作り出す。先端部欠損。
第758 Pl. 94	43	割片石器 楔形石器	97区O5V層 完形	長 幅	2.2 2.0	厚 重	1.0 4.44	黒曜石	上下端部に階段状の割離面をもつ。
第758 Pl. 94	44	割片石器 楔形石器	97区K7V B層 完形	長 幅	2.1 1.8	厚 重	0.9 3.22	黒曜石	上下端部に階段状の割離面をもつ。
第758 Pl. 94	45	割片石器 スクレイパー	97区N16V層 完形	長 幅	6.7 4.5	厚 重	1.1 35.22	黒色頁岩	両面両縁に二次加工を施し整形。
第758 Pl. 94	46	割片石器 スクレイパー	97区L16V層 略完形	長 幅	(11.0) 7.7	厚 重	2.0 153.46	黒色頁岩	裏面縁辺にのみ二次加工を施す。
第758 Pl. 94	47	割片石器 スクレイパー	97区L16V層 完形	長 幅	8.6 4.9	厚 重	1.0 38.1	黒色頁岩	横長割片素材。ノッチ部は両面からの加工で作られている。
第758 Pl. 94	48	割片石器 スクレイパー	97区P10V層 完形	長 幅	14.1 8.3	厚 重	3.2 436.53	黒色頁岩	大形厚手の割片を素材とする。裏面縁辺に急斜度の二次加工を施し刃部を作出。
第758 Pl. 94	49	割片石器 スクレイパー	97区P11V層 完形	長 幅	6.2 4.4	厚 重	1.3 25.73	黒曜石	両面縁辺に二次加工を施し刃部を作り出している。
第758 Pl. 94	50	割片石器 スクレイパー	97区O9V層 完形	長 幅	4.8 2.6	厚 重	0.8 10.81	黒色安山岩	対向する左右縁辺に狭りをもつ。
第758 Pl. 94	51	割片石器 スクレイパー	97区R9V層 完形	長 幅	7.7 6.0	厚 重	1.7 74.43	黒色頁岩	素材割片の形状を大きく残し、割片末端に二次加工を施している。
第768 Pl. 94	52	割片石器 スクレイパー	97区N12V層 完形	長 幅	12.3 8.3	厚 重	3.4 437.94	細粒輝石安山岩	裏面に自然面の大型割片を素材とし、左側縁に二次加工を施し刃部としている。
第768 Pl. 94	53	割片石器 スクレイパー	97区N10V層 完形	長 幅	6.0 3.9	厚 重	0.9 23.19	黒色頁岩	横長割片を素材。裏面端部に二次加工を施し刃部を作出。
第768 Pl. 94	54	割片石器 スクレイパー	97区M13V層 完形	長 幅	6.3 4.4	厚 重	1.5 51.48	黒色頁岩	背面縁辺を中心に二次加工を施し、刃部を作り出している。素材割片の打面とバルブを残す。
第768 Pl. 94	55	割片石器 スクレイパー	97区M9V層 略完形	長 幅	2.0 2.0	厚 重	0.7 2.26	黒曜石	裏面縁辺には平坦な割離、背面には比較的急斜度の割離を施す。
第768 Pl. 94	56	割片石器 スクレイパー	97区Q6V層 完形	長 幅	5.6 3.6	厚 重	0.9 17.59	黒色安山岩	両面左右縁辺に二次加工を施しノッチを作り出している。
第768 Pl. 94	57	割片石器 スクレイパー	97区R5V層 完形	長 幅	(7.6) 5.1	厚 重	1.7 53.98	黒色頁岩	横長割片素材。正面左側縁にノッチ状の加工を施す。
第768 Pl. 94	58	割片石器 スクレイパー	97区O8V層 完形	長 幅	8.3 2.9	厚 重	1.2 31.93	黒色頁岩	左右側縁に二次加工を施し刃部を作り出す。
第768 Pl. 94	59	割片石器 スクレイパー	97区P6V層 完形	長 幅	9.0 5.0	厚 重	1.7 68.18	黒色頁岩	両面両縁に二次加工を施し整形。比較的小形のためスクレイパーとした。

遺物観察表

挿図 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第76図 PL.95	60	割片石器 スクレイパー	97区K11V8層 完形	長 幅	4.3 2.6	厚 重	1.0 12.32	黒色安山岩	正面右側縁にノッチを作り出す。	
第76図 PL.95	61	割片石器 スクレイパー	97区O7V8層 完形	長 幅	(6.9) 4.6	厚 重	1.5 30.13	黒色頁岩	左右縁辺の加工は鉋向剝離をなす。先端部に厚減が見られ、石鏃の可能性もある。	
第76図 PL.95	62	割片石器 スクレイパー	97区O5V8層 完形	長 幅	8.4 4.3	厚 重	1.3 50.52	黒色安山岩	対向する左右縁辺に抉りをもつ。上端は薄く、下端は厚みがある。	
第76図 PL.95	63	割片石器 スクレイパー	97区N7V8層 完形	長 幅	5.7 2.8	厚 重	1.4 12.54	黒色安山岩	両面周縁に二次加工を施し抉りを作り出す。	
第76図 PL.95	64	割片石器 スクレイパー	97区N5V8層 略完形	長 幅	4.3 3.3	厚 重	1.3 13.86	黒色安山岩	両面全面に二次加工を施し、L字状に整形している。上端折れ。	
第76図 PL.95	65	割片石器 スクレイパー	97区K7V8層 完形	長 幅	6.9 3.7	厚 重	1.1 30.73	黒色安山岩	横長割片素材。両面縁辺に二次加工を施し、両側縁がやや括れた長方形に整形。	
第76図 PL.95	66	割片石器 スクレイパー	97区K6V8層 完形	長 幅	8.4 5.6	厚 重	1.9 61.47	黒色頁岩	横長割片素材。裏面を中心に二次加工を加え、対部は片刃状である。	
第76図 PL.95	67	割片石器 スクレイパー	97区K7V8層 完形	長 幅	10.1 6.2	厚 重	2.4 165.99	黒色頁岩	正面左側縁に二次加工を施し対部を作出している。	
第76図 PL.95	68	割片石器 スクレイパー	97区J8V8層 完形	長 幅	3.6 2.7	厚 重	1.0 8.78	黒色安山岩	背面にのみ二次加工を施す。右側縁に抉りを有し、左側縁には素材の厚みを残す。	
第76図 PL.95	69	割片石器 スクレイパー	97区I6V8層 完形	長 幅	6.2 4.9	厚 重	1.0 31.46	黒色頁岩	素材割片の裏面縁辺に二次加工を施し対部を作出。	
第77図 PL.95	70	割片石器 スクレイパー	97区K5V8層 完形	長 幅	11.3 6.0	厚 重	1.9 104.39	黒色頁岩	横長割片素材。正面左側縁を中心に二次加工を施し対部を作出している。	
第77図 PL.95	71	割片石器 スクレイパー	97区K4V8層 完形	長 幅	16.8 5.8	厚 重	3.1 291.20	黒色頁岩	大形割片を素材とし、周縁に二次加工を施し急斜度の対部を作り出している。裏面に自然面を大きく残す。	
第77図 PL.95	72	割片石器 スクレイパー	97区I6V8層 完形	長 幅	9.1 4.2	厚 重	1.9 78.91	黒色頁岩	両面周縁に二次加工を施し整形。対部は片刃状である。裏面に自然面を残す。	
第77図 PL.95	73	割片石器 スクレイパー	97区I5V8層 完形	長 幅	8.6 5.2	厚 重	2.2 83.97	黒色頁岩	素材割片の裏面を中心に二次加工を施し、対部は片刃状になっている。	
第77図 PL.95	74	割片石器 スクレイパー	97区I5V8層 完形	長 幅	6.4 6.2	厚 重	2.0 52.80	黒色頁岩	平面形がL字形で左右非対称である。素材は比較的小形で厚手の割片である。	
第77図 PL.95	75	割片石器 スクレイパー	97区I5V8層 完形	長 幅	12.9 4.2	厚 重	1.6 84.16	黒色頁岩	横長割片を素材とし、裏面側面にのみ二次加工を施す。右側縁の一部に摩耗と横方向の線状痕が見られる。	
第77図 PL.95	76	割片石器 スクレイパー	97区H5V8層 完形	長 幅	9.2 3.8	厚 重	1.1 34.61	黒色頁岩	横長割片を素材として、両面周縁に二次加工を施し整形。	
第77図 PL.95	77	割片石器 スクレイパー	97区D8V B層 完形	長 幅	7.1 5.0	厚 重	1.5 54.43	黒色頁岩	両面縁辺に二次加工を施し、楕円に整形している。	
第77図 PL.95	78	割片石器 スクレイパー	97区L4V B層 完形	長 幅	8.4 4.3	厚 重	1.4 46.41	黒色頁岩	正面周縁にのみ二次加工を施す。鈍み部が明確でなかったためスクレイパーとしたが、石鏃の可能性もある。	
第77図 PL.95	79	割片石器 スクレイパー	97区J6V B層 完形	長 幅	10.6 5.5	厚 重	1.4 89.09	黒色頁岩	横長割片を素材とし、バルブ部を中心に二次加工を施す。裏面に自然面を大きく残す。	
第77図 PL.95	80	割片石器 スクレイパー	97区I4V B層 完形	長 幅	3.0 2.7	厚 重	1.2 8.96	珪質頁岩	両面に二次加工を施し楕円に整形。	
第77図 PL.95	81	割片石器 スクレイパー	97区H5V B層 3/4	長 幅	5.3 (3.1)	厚 重	0.5 9.09	黒色頁岩	縁辺に二次加工を施しノッチ状の対部を作り出している。	

挿図 Pl. No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第77図 PL.95	82	割片石器 スクレイパー	97区H5VⅧB層 完形	長 幅	4.5 2.5	厚 重	1.0 9.05	黒色安山岩	左右縁辺に対向する抉りを作成。下端部は素材割片の厚みを残し、未成品と推定される。	
第77図 PL.95	83	割片石器 スクレイパー	97区G8VⅧB層 完形	長 幅	13.6 10.2	厚 重	2.3 364.81	黒色頁岩	背面自然面の大形割片を素材とし、正面周縁に粗い二次加工を施す。	
第77図 PL.95	84	割片石器 スクレイパー	24号住居 1/2	長 幅	(8.8) 8.0	厚 重	1.7 150.46	黒色頁岩	大形の横長割片を素材とし、周縁に二次加工を施す。縁辺に厚減が認められる。	
第77図 PL.95	85	割片石器 スクレイパー	8号住居 完形	長 幅	10.0 3.8	厚 重	1.6 58.16	黒色頁岩	両面とも対部周辺と縁線上の厚減が顕著。	
第77図 PL.95	86	割片石器 スクレイパー	97区N6VⅧ層 完形	長 幅	9.4 7.8	厚 重	1.5 119.86	黒色頁岩	両面縁辺に二次加工を施し錯向割離をなす。両面ともボシ面。	
第78図 PL.95	87	割片石器 スクレイパー	97区M7VⅧ層 完形	長 幅	11.6 4.7	厚 重	1.7 85.33	黒色頁岩	横長割片素材。正面縁辺を中心に二次加工を施し対部を作り出す。	
第78図 PL.95	88	割片石器 スクレイパー	97区Q12VⅧ層 完形	長 幅	17.2 8.9	厚 重	4.6 915.88	粗粒輝石安山岩	扁平を素材とし、長辺に粗い二次加工を施し対部としている。	
第78図 PL.95	89	割片石器 スクレイパー	97区N9VⅧ層 完形	長 幅	7.5 4.7	厚 重	1.5 67.60	黒色安山岩	割片素材。左右側縁には対向する位置にノッチを作り出している。	
第78図 PL.95	90	割片石器 スクレイパー	97区H5VⅧ層 完形	長 幅	9.1 4.0	厚 重	1.7 60.82	黒色頁岩	縦長割片を素材。正面左側縁には急斜度の加工を施す。	
第78図 PL.96	91	割片石器 スクレイパー	97区15VⅧ層 完形	長 幅	10.3 4.9	厚 重	1.9 104.28	黒色頁岩	横長割片を素材とする。左側縁に二次加工を施し対部を作成する。裏面には自然面を大きく残す。	
第78図 PL.96	92	割片石器 スクレイパー	97区K5VⅧ層 完形	長 幅	13.7 8.3	厚 重	1.5 224.57	黒色頁岩	背面が自然面の大形縦長割片を素材とし、背面および版面の一部に二次加工を施す。	
第78図 PL.96	93	割片石器 スクレイパー	22号住居 完形	長 幅	11.3 4.0	厚 重	1.4 67.45	黒色頁岩	左右縁辺を中心に二次加工を施し知州状に整形。	
第78図 PL.96	94	割片石器 異形石器	97区N18VⅧ層 完形	長 幅	6.0 4.0	厚 重	1.0 21.85	黒色安山岩	両面縁辺に二次加工を施し、抉り部を複数作り出す。形状より異形石器としたが、スクレイパーの一種の可能性もある。	
第78図 PL.96	95	割片石器 異形石器	97区N8VⅧ層 略完形	長 幅	(6.0) (4.0)	厚 重	0.7 6.15	黒色安山岩	両面に二次加工を施し、細長い湾曲した先端部を作り出している。上部一部欠損。	
第78図 PL.96	96	割片石器 異形石器	97区J8VⅧ層 2/3	長 幅	4.6 2.6	厚 重	0.7 3.81	黒色安山岩	両面に二次加工を施し整形。形状から異形石器と判断した。	
第78図 PL.96	97	割片石器 打製石斧 ??	14号土坑 略完形	長 幅	6.1 4.8	厚 重	1.9 55.98	黒色安山岩	右側面および上部は折れ面である。スクレイパーの可能性もある。	
第78図 PL.96	98	割片石器 打製石斧	97区O14VⅧ層 完形	長 幅	9.8 5.2	厚 重	2.6 120.23	ホルンフェルス	裏面周縁に平坦な割離を加えた後、正面に二次加工を施し楕形に整形。正面中央部の縁線上に厚減あり。	
第78図 PL.96	99	割片石器 打製石斧	97区M17VⅧ層 完形	長 幅	9.8 4.5	厚 重	2.1 98.22	黒色頁岩	裏面に平坦な割離を加えた後、正面に二次加工を施し整形。	
第78図 PL.96	100	割片石器 打製石斧	97区K18VⅧ層 完形	長 幅	8.6 5.2	厚 重	2.6 109.79	黒色頁岩	横長割片素材。両面に二次加工を施し楕形。裏面左側に厚みが残る。	
第79図 PL.96	101	割片石器 打製石斧	97区K18VⅧ層 完形	長 幅	15.6 6.2	厚 重	4.0 390.88	黒色頁岩	石器幅に比して厚みがある。裏面に自然面を大きく残すが、自然面を打面として急斜度の二次加工を施し整形。	
第79図 PL.96	102	割片石器 打製石斧	97区K16 完形	長 幅	19.5 9.2	厚 重	3.5 618.38	黒色頁岩	大形の横長割片を素材とする。背面全面および版面縁辺に二次加工を施し整形。	
第79図 PL.96	103	割片石器 打製石斧	97区J16VⅧ層 完形	長 幅	9.8 5.8	厚 重	2.1 111.53	黒色頁岩	裏面は全面自然面で、自然面を打面に二次加工を施し楕形に整形。	
第79図 PL.96	104	割片石器 打製石斧	97区O9VⅧ層 完形	長 幅	9.1 4.9	厚 重	1.4 62.93	黒色頁岩	横長割片素材。両面に二次加工を施し楕形に整形。	
第79図 PL.96	105	割片石器 打製石斧	97区L10VⅧ層 完形	長 幅	11.2 6.1	厚 重	2.6 180.38	黒色頁岩	楕形。両面縁辺に二次加工を施し整形。対部厚減。	
第79図 PL.96	106	割片石器 打製石斧	97区E13VⅧ層 完形	長 幅	15.0 5.9	厚 重	3.3 302.53	黒色頁岩	大形割片を素材とし、周縁に二次加工を施している。裏面には大きく自然面を残す。	

遺物観察表

検出 PL No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第798号 PL-96	107	割片石器 打製石斧	97区R6V層 完形	長 11.8 厚 2.7 幅 7.1 重 207.1	黒色頁岩	版面側を中心に二次加工を施し整形。表面に自然面を大きく残す。	
第798号 PL-96	108	割片石器 打製石斧	97区R7V層 略定形	長 12.6 厚 4.2 幅 7.7 重 321.05	粗粒輝石安山岩	内面に粗い二次加工を施し整形。左側縁には挟りが認められる。	
第798号 PL-96	109	割片石器 打製石斧	97区R7V層 略定形	長 13.0 厚 3.7 幅 6.1 重 380.87	黒色頁岩	左右側縁は縁返し打撃し潰れが認められる。対角が鈍く、背面には大きく自然面が残ることから、未成品と推定される。	
第798号 PL-96	110	割片石器 打製石斧	97区R8V層 完形	長 11.4 厚 2.7 幅 5.5 重 181.04	黒色頁岩	扇形。素材割片の版面側を中心に二次加工を施し整形。	
第808号 PL-97	111	割片石器 打製石斧	97区K5V層 1/2	長 10.5 厚 3.2 幅 8.9 重 336.88	黒色頁岩	表面には自然面を大きく残り、そこを打面として正面全面に二次加工を施している。左側縁上部に挟りが認められる。	
第808号 PL-97	112	割片石器 打製石斧	97区15V層 完形	長 11.4 厚 2.3 幅 3.0 重 71.50	黒色安山岩	棒状を呈する。左右側縁は縁返し打撃され、潰れている。	
第808号 PL-97	113	割片石器 打製石斧	97区G6V層 完形	長 10.2 厚 2.7 幅 5.1 重 138.37	黒色頁岩	扇形。厚手の横長割片を素材とし、周縁を中心に二次加工を施し整形。	
第808号 PL-97	114	割片石器 打製石斧	97区R11V B層 完形	長 12.2 厚 2.9 幅 10.3 重 362.78	黒色頁岩	表面にはほぼ全面自然面である。対角が急斜度で、対面再生を行っている可能性がある。	
第808号 PL-97	115	割片石器 打製石斧	97区J7V B層 完形	長 15.0 厚 5.7 幅 9.4 重 855.31	黒色頁岩	大形で厚手であるが、両側縁に挟りが入っていることから打製石斧と判断される。	
第808号 PL-97	116	割片石器 打製石斧	97区16V層 略定形	長 (20.0) 厚 2.8 幅 10.9 重 606.36	黒色頁岩	大形。対面および内部に著しい摩滅が見られる。	
第808号 PL-97	117	割片石器 打製石斧	1号住居 完形	長 11.7 厚 2.2 幅 5.4 重 134.70	黒色頁岩	扇形。対面および内部に摩滅が見られる。	
第808号 PL-97	118	割片石器 打製石斧	2号住居 完形	長 10.8 厚 1.8 幅 4.7 重 109.26	珉質頁岩	左右縁辺中央部の摩滅が著しく、磨蝕痕と推定される。対面は両対面である。	
第818号 PL-97	119	割片石器 打製石 斧?	25号住居 2/3	長 13.0 厚 3.5 幅 6.5 重 318.73	変質玄武岩	左右側縁に挟りが入っていることから打製石斧の可能性を考えた。右側縁の一部と表面中央部に摩滅が認められる。	
第818号 PL-97	120	割片石器 打製石斧	97区耕作痕一括 完形	長 7.5 厚 1.2 幅 5.3 重 63.09	黒色頁岩	対面周辺の摩滅が顕著で、対面に直交方向の線状痕を伴う。表面では摩滅面が側方からの剥離に切られている。	
第818号 PL-97	121	割片石器 打製石斧	27号トレンチ 完形	長 9.3 厚 2.3 幅 6.0 重 128.73	黒色頁岩	両側縁に挟りを出し対面に向かって広がる形状である。対面は表面に自然面を残し片状を呈する。	
第818号 PL-97	122	割片石器 石核	97区一括 完形	長 17.1 厚 6.0 幅 10.1 重 1278.80	黒色頁岩	20cm大の礫を素材とし、平坦な側面を打面とする。	
第818号 PL-97	123	割片石器 石核	97区R13V層 完形	長 6.7 厚 6.0 幅 8.1 重 337.90	黒色頁岩	上面および下面の平坦面を打面とし、上下両方からの剥離が認められる。	
第818号 PL-97	124	割片石器 石核	97区R10V層 完形	長 7.7 厚 4.2 幅 (10.6) 重 429.31	黒色頁岩	扁平礫を分割し、自然面を打面に加撃している。大形のスクレイパーの可能性もある。	
第818号 PL-97	125	礫石器 凹石	97区16V層 完形	長 8.8 厚 3.0 幅 6.5 重 199.29	粗粒輝石安山岩	小形扁平礫の表裏面中央部に断面漏斗状の凹みが見られる。	
第818号 PL-97	126	礫石器 凹石	97区N10V層 完形	長 14.1 厚 4.8 幅 9.5 重 753.17	粗粒輝石安山岩	正面中央部に断面漏斗状の浅い凹みをもつ。凹みの周囲には磨面が認められる。	
第818号 PL-97	127	礫石器 磨石	97区N18V層 完形	長 11.1 厚 5.1 幅 9.6 重 807.05	粗粒輝石安山岩	表裏面に磨面が形成されている。側面および表面の一部に敲打痕が認められる。	
第828号 PL-97	128	礫石器 磨石	97区M17V層 完形	長 10.4 厚 4.6 幅 7.6 重 592.41	粗粒輝石安山岩	表裏面と左右側面に磨面を形成しているが、幅の狭い左右側面の方が平滑で使用頻度が高い。	
第828号 PL-97	129	礫石器 磨石	97区J16V層 完形	長 15.3 厚 7.2 幅 5.7 重 853.01	粗粒輝石安山岩	幅の狭い正面に磨面が形成されている。右側面の一部にも磨面が認められる。	
第828号 PL-97	130	礫石器 磨石	97区K5V層 完形	長 13.9 厚 4.4 幅 9.5 重 658.45	粗粒輝石安山岩	表裏面および左右側面に磨面を形成するほか、表面に敲打痕が見られる。	
第828号 PL-98	131	礫石器 磨石	97区R6V層 完形	長 10.4 厚 3.2 幅 9.7 重 478.61	粗粒輝石安山岩	表裏面の周辺部に非常に平滑な磨面を形成している。	
第828号 PL-98	132	礫石器 磨石	97区J8V層 完形	長 4.4 厚 3.9 幅 5.3 重 125.51	石英閃緑岩	小形礫を素材とし、表裏面および右側面、下面に磨面をもつ。	
第828号 PL-98	133	礫石器 磨石	97区J4V層 完形	長 12.2 厚 6.0 幅 9.2 重 860.25	石英閃緑岩	全体的に表面が平滑であるが、下面および両側面の磨面が顕著である。	
第828号 PL-98	134	礫石器 磨石	97区R14V層 完形	長 16.9 厚 5.8 幅 4.7 重 677.69	石英閃緑岩	棒状礫の側面に幅1cm程度の磨面を形成するほか左側面にも平滑面が見られる。	
第828号 PL-98	135	礫石器 磨石	97区H5V層 完形	長 10.5 厚 5.5 幅 7.8 重 526.63	粗粒輝石安山岩	正面の一部に磨面が認められる。	
第828号 PL-98	136	礫石器 磨石	97区O12V層 完形	長 6.3 厚 5.0 幅 5.4 重 240.30	粗粒輝石安山岩	形状はサイコロ状で、表裏面および左右側面の4面に磨面を形成。上面には敲打痕が残る。	
第828号 PL-98	137	礫石器 磨石	97区J7V層 略定形	長 11.7 厚 4.4 幅 8.3 重 549.31	粗粒輝石安山岩	表裏面と左側面に磨面を形成するほか、敲打痕も認められる。	

検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第82回 PL-96	138	礫石器 磨石	97区J6V層 2/3	長 幅	(9.2) 7.1	厚 重	4.1 420.78	粗粒輝石安山岩 表裏面および左側面に磨面を形成。上端部には敲打痕が認められる。
第82回 PL-98	139	礫石器 敲石	97区L19 完形	長 幅	14.1 5.9	厚 重	4.8 659.85	粗粒輝石安山岩 棒状礫の正面および右側面、上面に敲打痕と剝離痕が認められる。
第83回 PL-98	140	礫石器 石皿	97区J7V層 破片	長 幅	(12.1) (13.0)	厚 重	(5.6) 908.51	粗粒輝石安山岩 無縁石面の破片。正面は浅い凹み状の磨面をもつ。表面は全面破損している。
第83回 PL-98	141	礫石器 石皿	97区J17V層 完形	長 幅	24.2 15.3	厚 重	5.6 3706.13	粗粒輝石安山岩 正面全体が平滑で、磨面は中心に向かって狭く凹んでいる。
第83回 PL-98	142	割片石器 三角錐形 石器	97区S10V層 完形	長 幅	13.3 8.0	厚 重	5.9 528.17	黒色頁岩 裏面の一部に自然面を残す。大形の分割礫を素材とし、分割面を打面として内側面に二次加工を施す。下面は分割面からの剝離痕が見られ、下面および下面周縁部の摩滅面著。
第83回 PL-98	143	礫石器 スタンプ 形石器	97区R10V層 完形	長 幅	11.7 4.8	厚 重	3.7 307.30	変質安山岩 下面縁部の摩滅が顕著。
第83回 PL-98	144	割片石器 スタンプ 形石器	97区R12V層 完形	長 幅	(12.0) 7.4	厚 重	4.8 598.68	変質安山岩 下面の折れ面以外は表面が平滑であるが、自然によるものか磨面なのか判断するのが困難である。下面に摩滅等は認められないが、形状からスタンプ形石器未成品と判断した。
第83回 PL-98	145	礫石器 スタンプ 形石器	97区Q12V層 略完形	長 幅	(10.3) 5.5	厚 重	3.6 338.16	変質玄武岩 下面は縁部を中心に摩滅面著。
第83回 PL-98	146	礫石器 石錘	97区H5V層 完形	長 幅	6.4 8.0	厚 重	1.8 150.28	黒色頁岩 扁平な楕円礫を素材とし、対向する位置に抉りをもつ。抉り部は摩滅・潰れが顕著。
第83回 PL-98	147	石製品 不明 破片	97区P16V層 破片	長 幅	(4.6) (3.3)	厚 重	1.5 29.06	凝灰質砂岩 表裏面および上面、右側面は平滑面をなす。表面が赤色に変化し焼熟の可能性がある。
第83回 PL-98	148	石製品 不明	97区N9V層 完形?	長 幅	4.9 5.2	厚 重	2.8 115.21	粗粒輝石安山岩 表面および裏面は平滑である。右側面に敲打と推定される痕跡がある。
第83回 PL-98	149	礫石器 多孔石	97区L11 破片	長 幅	(33.3) 23.5	厚 重	20.1 2100.0	粗粒輝石安山岩 大形で円柱形を呈する。上面は斜めの平滑面をもち、研磨による可能性がある。側面の円柱部分には敲打痕と断面漏斗状の孔2カ所が認められる。下端は破損。
PL-98	150	礫石器 磨石	97区J17V層 完形	長 幅	(9.4) (8.1)	厚 重	5.6 541.67	粗粒輝石安山岩
PL-98	151	一 原石	97区I7V層 完形	長 幅	3.7 5.7	厚 重	2.8 74.39	石英 小形の亜円礫。
PL-98	152	割片石器 割片	97区I4V層 完形	長 幅	6.7 4.5	厚 重	1.8 46.96	赤碧玉 背面に自然面が大きく残る。原石は小形と推定される。

1号住居

検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第86回 PL-99	1	土師器 杯	P1 1/3	口	11.7			粗砂粒少/良好/ 明赤褐 口縁部は内傾して立ち上がる。口縁部は横ナデ。底部との間に稜を有する。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第86回 PL-99	2	土師器 杯	床面上 3cm 1/3	口	11.8	高	6.8	粗砂粒/良好/ にぶい赤褐 口縁部は横ナデ。体部から底部はナデ後、手持ちへら削り。内面は全面にへら削り。	内面に黒色処理。 底部外面に木炭痕。
第86回 PL-99	3	礫石器 磨石	床直 完形	長 幅	12.3 11.1	厚 重	7.9 1561.5	粗粒輝石安山岩 正面中央部に磨面が認められ、周辺に敲打痕が見られる。	

2号住居

検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第88回 PL-99	1	土師器 杯	床面上 4cm 3/4	口	11.2	高	4.3	粗砂粒少/良好/ にぶい赤褐 口縁部は内傾して立ち上がる。杯身微楕。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	焼成時の器面に 炭素吸着。
第88回 PL-99	2	土師器 杯	床直 1/3	口	13.9			粗砂粒少/良好/ にぶい赤褐 口縁部は中位と底部との間に稜を有する。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。
第88回 PL-99	3	土師器 甕	カマド 口縁部～胴部中 位1/3	口	19.6			粗砂粒・軽石/良 好/にぶい赤褐 口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のへら削り。内面は斜縦位のへらナデ。	焼熟。
第88回 PL-99	4	石製品 砥石	フク土 破片	長 幅	(4.3) (3.9)	厚 重	1.9 50.24	砥沢石 4面使用。正面は研ぎ減りにより砥面が凹状になっている。上端破断面に穿孔の痕跡が残る。	
第88回 PL-99	5	石製品 垂飾品	フク土 完形	長 幅	3.7 3.7	厚 重	0.6 11.51	黒色頁岩 扁平礫を素材とし、研磨により不整な菱形に整形している。上部に直径4mmの孔が認められる。さらに上端部には穿孔の痕跡が見られ、作り直しの可能性がある。	

遺物観察表

3号住居

検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第92図 PL.99	1	土師器 坏	カマド 口縁1/2欠	口 14.0 高 4.2	粗砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部は中位に強い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへう削り。内面はナデ。	割れ口含む内面に 煤付着。
第92図	2	土師器 坏	床面上9cm 破片	口 11.8	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部との間に強い稜を有する。底部外面は手持ちへう削り。内面はナデ。	器面摩滅。
第92図 PL.99	3	土師器 坏	床面上9cm 口縁部～底部 1/4	口 12.8	赤色粘土粒少/ 良好/にぶい、橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへう削り。内面はナデ。	器面やや摩滅。
第92図 PL.99	4	土師器 高坏	床面上36cm 坏部底部～脚部 中位		粗砂粒/良好/明 赤褐色	坏部外面はへう削り。内面はへう磨き。脚部外面上 位は縦位のへう削り。以下は縦位のへうナデ。内面 は横位のへう削り。	坏部内面は黒色 処理。
第92図 PL.99	5	土師器 高坏	床面上6cm 基部片		粗砂粒/良好/に ぶい、橙	坏部下端を棒状に形づく。脚部と接合した部分か ら割れている。外面はへうナデ。内面もへうナデ。	
第92図 PL.99	6	土師器 費	カマド 完形	口 17.6 高 38.5 底 5.2	粗砂粒/良好/明 赤褐色	口縁部は横ナデ。脚部外面は縦位のへう削り。下半 部は粘土付着の為、不明。最下位は斜位のへう削り。 内面は横位のへうナデ。	外面被熱。炭素 吸着。
第92図 PL.99	7	土師器 費	カマド 完形	口 17.2 高 39.4 底 5.0	粗砂粒・軽石/良 好/橙	口縁部は横ナデ。脚部外面は4回ほどに分けて縦位 にへう削り。一部にナデ。内面は横位のへうナデ。 下半部を中心に粘土付着。	被熱。外面全面 に煤付着。
第92図 PL.99	8	土師器 費	カマド 口縁部～脚部上 位片	口 17.8	粗砂粒・角閃石/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。脚部外面はへう削り後、横位・縦 位のへう磨き。内面は横位のへうナデ。	
第92図 PL.99	9	須恵器 費	床面上24cm 胴部片		白色鉱物粒/還元 元焼・軟質/灰	結びくり後、叩き整形。外面の叩き目の上にカキ目。 内面は青黄波状文の当て具焼。	
第92図 PL.99	10	須恵器 提瓶か	フク上 胴部(把手)		白色鉱物粒/還元 元焼/濁灰	環状の把手。本体を整形後、横に倒して把手を嵌付 していることから、提瓶の一部と考えられる。	外面に自然融付 着。
第92図 PL.99	11	礫石器 敲石	床面上7cm 完形	長 14.5 厚 5.4 幅 6.4 重 708.88	粗粒輝石安山岩	正面左上部に摩滅と割離痕が見られたため敲石とし た。上面には磨面と割離痕が認められる。	

4号住居

検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第96図 PL.100	1	土師器 坏	床面上30cm 1/3	口 13.4 高 3.4	粗砂粒/良好/灰 黄褐色	口縁部は横ナデ。底部との間に強い稜を有する。底 部外面は手持ちへう削り。内面はナデ後、底部中央 から口縁部に向けてへう磨き。口縁部と底部との境 に棒状の工具が削きつけた痕跡あり。	内外面に黒色 処理。
第96図 PL.100	2	土師器 坏	床直 1/4	口 10.9	粗砂粒少/良好/ 明赤褐色	口縁部は内傾して立ち上がる。底部との間に稜を有 する。横ナデ。底部外面は手持ちへう削り。内面は ナデ。	外面の一部に炭 素吸着。
第96図	3	土師器 坏	カマド 破片	口 13.9	細砂粒/良好/橙	口縁部は直立きみで、わずかに内傾して立ち上がる。 横ナデ。底部との間に稜を有する。底部外面は手持 ちへう削り。内面はナデ。	
第96図	4	土師器 坏	床面上15cm 破片	口 13.3	粗砂粒少/良好/ 黒褐色	口縁部は直立きみで、わずかに内傾して立ち上がる。 横ナデ。底部との間に稜を有する。底部外面は手持 ちへう削り。内面はナデ。	焼成時の器面に 炭素吸着。
第96図	5	土師器 高坏	床直 坏部底部～脚部 上位片		粗砂粒/良好/に ぶい、橙	坏部内面はへう磨き。脚部外面は削りに近い強い タッチのへうナデ。内面は指ナデ。	坏部内面は黒色 処理。
第96図	6	須恵器 小型壺	フク上 口縁部～胴部片	口 9.9	白色鉱物粒少/ 還元元焼/灰	口ロコ整形(右回転)。口縁部中位に沈輪を巡らし区 画、その上段に波状文を配す。	
第96図 PL.100	7	土師器 費	カマド 口縁部～脚部下 位片	口 17.8	粗砂粒・軽石/良 好/明赤褐色	口縁部は横ナデ。脚部外面は縦位のへう削り。内面 は横位のへうナデ。	
第96図 PL.100	8	石製品 紡輪	床面上2cm 完形	長 4.0 径 0.9 径 1.9 重 45.27	軟靱岩	上面縁辺の摩滅が顕著。側面では整形痕と線状痕が 明瞭に見られる。下面の孔付近に直径4mmの浅い凹 みをもつ。	

5号住居

検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第98図	1	土師器 坏	フク上 口縁部片	口 13.3	細砂粒/良好/黒	口縁部は横ナデ。底部との間に稜を有する。	器面に炭素吸着。 黒色。
第98図	2	須恵器 横瓶か	床面上19cm 胴部片		粗砂粒/還元元焼/ 灰黄褐色	結びくり後、叩き整形。外面は粗雑なカキ目。内面 は当て具痕の上にナデを垂る。	
第98図 PL.100	3	土師器 費	床直 口縁部～脚部上 位片	口 17.9	粗砂粒・軽石多/ 良好/暗黄褐色	口縁部は横ナデ。脚部外面は縦位のへう削り。内面 は横位のへうナデ。	被熱。変色。

検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第989図 PL.100	4	礫石器 磨石	床面上22cm 完形	長 13.2 厚 4.7 幅 8.3 重 698.56	粗粒輝石安山岩	表面および上面、側面の一部に最打痕が認められる。	
第989図 PL.100	5	礫石器 磨石	床面上5cm 完形	長 15.6 厚 4.3 幅 6.6 重 626.45	デイサイト	表裏面に磨面が形成されている。左側面の一部に最打痕、上端小口部に割離痕が認められる。上端の一部が赤色変化した可能性がある。	

6号住居

検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第102図	1	土師器 杯	床面上16cm 1/2	口 13.2		赤黒色粘土粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部との間に稜を有する。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面やや厚減。
第102図	2	土師器 杯	フク上 1/4	口 13.0		粗砂粒少/良好/にぶい赤褐	口縁部は内傾して立ち上がる。底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	焼成時の器面に炭素吸着。やや厚減。
第102図	3	土師器 杯	床直 1/4	口 13.8 高 5.1		小礫・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。底部との間に稜を有する。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はやや粗粒な横位のヘラ磨き。	内面は黒色処理。
第102図	4	土師器 杯	フク上 破片	口 13.8		細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は中段に段をなす。底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。
第102図	5	土師器 杯	床面上11cm 破片	口 14.6		細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は中段に段をなす。底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。
第102図 PL.100	6	土師器 甕	貯蔵穴 3/5(底部欠)	口 19.0		粗砂粒多・軽石/良好/にぶい黄褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は2・3回に分けて斜位にヘラ削り。底部寄りには斜位のヘラ削り。内面は縦横位・横位のヘラナデ。	被熱。外面の頸部直下を隆く胴部に窪付着。炭素吸着。黒斑状。
第102図 PL.100	7	礫石器 磨石	貯蔵穴 完形	長 15.2 厚 7.4 幅 7.1 重 1099.44		粗粒輝石安山岩	正面に磨面を有し、その中央部は非常に平滑である。	
第102図 PL.100	8	礫石器 石皿?	床面上22cm 破片	長 15.6 厚 (6.8) 幅 (8.6) 重 1298.85		粗粒輝石安山岩	自然面との区別が困難であるが、正面平坦部を作業面と考え石皿とした。	

8号住居

検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第107図 PL.101	1	土師器 杯	床面上10cm 完形	口 13.7 高 3.8		粗砂粒少/良好/にぶい橙	口縁部は中位に弱い段をなす。底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面の口縁部と内面全面に炭素吸着。
第107図 PL.101	2	土師器 杯	床面上35cm 3/4	口 14.5 高 4.3		粗砂粒少/良好/黒褐	口縁部は中位及び底部との間に稜を有する。先端は平坦面を形づくる。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面厚粒。焼成時の器面に炭素吸着。
第107図 PL.101	3	土師器 甕	床面上25cm 口縁部・胴部下 位1/2	口 7.6		粗砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面はナデの後に横位のヘラナデを重ねるが、輪植み痕を残す。内面もヘラナデ削り。一部は指押さえ。外面と比べ輪植み痕を一段と残す。	外面は炭素吸着。黒色の付着物。
第107図 PL.101	4	土師器 甕	床直 口縁部・胴部上 位1/2	口 18.0		粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ後、斜横位のヘラ削り。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は縦位のヘラナデ。	外面は炭素吸着。内面は灰黒色味。
第107図 PL.101	5	土師器 甕	床面上19cm 口縁部・胴部上 位1/3	口 18.2		粗砂粒多/良好/にぶい橙	口縁部先端のみ横ナデ。以下は横位のヘラ削り。内面も先端のみ横ナデ。以下はヘラナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第107図 PL.101	6	礫石器 磨石	床面上7cm 完形	長 14.6 厚 4.3 幅 6.0 重 561.47		粗粒輝石安山岩	上端小口部に最打痕が認められたため磨石とした。表裏面の一部に磨面が見られる。	
第107図 PL.101	7	礫石器 磨石	フク上 完形	長 5.9 厚 4.0 幅 6.1 重 151.65		粗粒輝石安山岩	正面中央部に磨面が見られる。	

9号住居

検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第109図	1	土師器 杯	フク上 破片	口 11.7		細砂粒/良好/にぶい赤褐	小破片から復元。口縁部は横ナデ。底部との間に稜を有する。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	焼成時の器面に炭素吸着。
第109図	2	土師器 杯	フク上 破片	口 12.9		細砂粒/良好/暗灰黄	小破片から復元。口縁部は横ナデ。底部との間に稜を有する。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第109図 PL.100	3	礫石器 磨石	床面上3cm 完形	長 14.5 厚 5.2 幅 9.2 重 978.42		溶結凝灰岩	正面中央部および上端小口部に最打痕が認められる。	

10号住居

検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第112図 PL.101	1	土師器 杯	フク上 3/4	口 14.0 高 6.2		粗砂粒/良好/黒褐	口縁部は内傾して立ち上がる。底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面全面と外面の半分ほど黒色処理。

遺物観察表

種図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第112図 PL.101	2	土師器 環	床面上9cm 3/5	□ 12.5 高 3.9	粗砂粒・軽石/良好/褐色	口縁部は内傾して立ち上がる。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面の底部中央に砂粒の多い粘土を整形時に貼付か。	焼成時に内外面とも炭素吸着。
第112図	3	土師器 環	床面上4cm 1/3	□ 12.8 高 4.2	粗砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面に全面へら磨き。	焼成時の内面に炭素吸着。
第112図 PL.101	4	土師器 費	床面上4cm 2/3	□ 20.4 底 6.3	粗砂粒/良好/にぶい黄褐色	口縁部は横ナデ。胴部外面上から中位上平は縦位にハケ状工具によるナデ。中位下平は横位の、下位は縦位のヘラナデ。内面は横位のヘラナデ。	胴部外面被熱。広い範囲に煤付着。

11号住居

種図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第116図 PL.101	1	土師器 環	貯蔵穴 完形	□ 12.5 高 4.3	赤黒色粘土粒/良好/にぶい褐色	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	内面の摩耗顕著。
第116図 PL.101	2	土師器 環	フク上 2/3	□ 13.9 高 4.1	粗砂粒/良好/明赤褐色	口縁部は横ナデ。底部との間に強い稜を有する。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	外面に炭素吸着。
第116図	3	土師器 環	床面上58cm 破片	□ 12.8	粗砂粒少/良好/黒	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。
第116図	4	土師器 環	フク上 破片	□ 11.6	細砂粒/良好/灰褐色	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。
第116図	5	土師器 環	床面上2cm 1/2		粗砂粒・軽石粒/良好/灰黄褐色	器内厚く粗雑なつくり。口縁部は横ナデ。体部外面はナデ後、底部赤りにヘラナデ。底部は不安定な平底。木炭痕が残る。	器面に炭素吸着。
第116図 PL.101	6	高坏 高坏	床直 胴部下平	底 13.7	粗砂粒少/良好/にぶい赤褐色	外面はナデ後、縦位のへら磨き。胴部は横ナデ。内面は磨ナデ。	内面の一部に炭素吸着。
第116図 PL.101	7	須恵器 環	床面上46cm 4/5	□ 11.8 高 4.2	黒色鉱物粒/還元焰/灰黄	口縁部は内傾して立ち上がる。小さな受け部を経て底部に続く。ロクロ整形(右回転)。底部は中央寄りに回転へら削り。底部内面中央にナデ。	
第116図	8	須恵器 高坏	床面上50cm 胴部1/4	底 18.8	粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(左回転)。長方形の透孔を3カ所に配していると考えられる。透孔直下の胴部に沈積をめぐらす。	
第116図 PL.101	9	土師器 壺	床面上8cm 胴部～底部	底 5.0	粗砂粒・軽石・黒色鉱物粒/良好/にぶい赤褐色	外面の頸部直下に横ナデ。以下上半部に横位のヘラナデ。下半部に横位のへら削り。内面は木炭痕か。内面はナデ後、中心から外方に向けてへら磨き。底部中央に焼成後の穿孔。直径2.5×2.0cm。頸部の割れ口は二次調整をしている可能性が高い。	器面に炭素吸着
第116図 PL.101	10	土師器 費	床面上5cm 口縁部～胴部 1/2	□ 18.2	粗砂粒・雲母・軽石/良好/にぶい褐色	口縁部は横ナデ。胴部外面はへら削り。ナデ。内面は横位のヘラナデ。	
第116図 PL.101	11	土師器 費	床直 口縁部～胴部下 位1/3	□ 13.2	粗砂粒・軽石多/良好/にぶい赤褐色	全体に器内は厚い。口縁部は横ナデ。胴部外面上半部は斜位のヘラナデ。下半部は縦位のへら削り。中に工具の当たった痕跡あり。内面に斜横位のへら削りを全面に施す。	器面の一部に炭素吸着。
第116図 PL.101	12	礫石器 磨石	貯蔵穴 完形	長 14.8 厚 7.1 重 719.94	粗粒輝石安山岩	表裏両面および左側面の3面に磨面が形成されている。上端小口部に磨打痕あり。	

12号住居

種図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第118図 PL.102	1	土師器 環	床面上2cm 1/3	□ 12.1 高 4.4	粗砂粒・赤黒色粘土粒少/良好/にぶい褐色	口縁部は底部との間に稜を有する。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面摩滅。
第118図 PL.102	2	土師器 環	床面上24cm 破片	□ 15.0	粗砂粒・赤色粘土粒/良好/褐色	口縁部は横ナデ。下半部は工具が強く当たった。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第118図	3	土師器 環	カマド 1/4	□ 12.5	粗砂粒・赤色粘土粒/良好/褐色	口縁部は横ナデ。底部との間に稜を有する。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面摩滅。
第118図 PL.102	4	土師器 小型壺	床面上2cm 胴部一部欠	□ 12.2 高 11.9	粗砂粒少/良好/褐色	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のへら削り。内面は横位のヘラナデ。	器面やや摩滅。破損後、一部破片は被熱か。

13号住居

種図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第122図	1	土師器 環	フク上 1/4	□ 10.9 高 3.0	細砂粒・赤色粘土粒/良好/褐色	口縁部は横ナデ。底部との間に稜を有する。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	底部外面に炭素吸着。黒炭痕。
第122図 PL.102	2	土師器 環	床直 1/2	□ 14.1 高 5.4	粗砂粒/良好/褐色	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面は全面へら磨き。	内外面に炭素吸着。内面は黒色処理後、二次過熱か。

検体 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第1228 PL-102	3	土師器 土坏	床面上3cm 底部欠	□ 15.4		粗砂粒・軽石/良好/にぶい 黄橙	口縁部外面は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。口縁部との間にナデの部分を残す。内面の口縁部は横位の下、以下は斜位へのヘラ磨き。
第1228 PL-102	4	土師器 鉢	床直 4/5	□ 13.2	高 7.8	粗砂粒/良好/にぶい 黄橙	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は不定向へのヘラ磨き。内面下半は不定向へのヘラ磨き。
第1228 PL-102	5	土師器 甕	床直 口縁部～胴部下 位	□ 14.8		粗砂粒・軽石/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。中位以下は縦位・斜位のヘラナデ。器面の乾燥が不十分のうち整形している。内面は横位・斜位のヘラナデ。
第1228 PL-102	6	土師器 甕	床面上2cm 口縁部～胴部中 位1/2	□ 18.6		粗砂粒・軽石多/ 良好/にぶい 黄橙	口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部外面は数回に分けて斜位へのヘラ削り。内面は横位のヘラ削り。
第1228 PL-102	7	土師器 甕	床面上23cm 口縁部1/2	□ 14.1		粗砂粒少/良好/ にぶい 橙	口縁部先端は外側に折り返し肥厚する。横ナデ・ナデ。下半部には斜位のハケ目。内面は頸部に横位のヘラ削り。
第1228 PL-102	8	土師器 甕	床面上7cm 胴部中位～底部	底 6.1		粗砂粒・軽石・赤 黒色粘土粒/良 好/にぶい 黄橙	外面最下位はナデ。これより上位は縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。底部外面はナデ。
第1228 PL-102	9	土師器 甕	カマド 胴部中位～底部	底 7.3		粗砂粒・軽石・赤 黒色粘土粒/良 好/明赤褐色	胴部外面はナデ後、縦位・斜位へのヘラ磨き。内面はヘラナデ。

14号住居

検体 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第1278 PL-103	1	土師器 杯	床面上4cm 2/3	□ 12.8	高 4.2	粗砂粒・チャート /良好/にぶい 橙	口縁部は直上に立ち上がる。外面は弱い弧を描く。横ナデ。底部との間に稜を有する。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。
第1278 PL-103	2	土師器 土坏	フク上 破片	□ 11.0		粗砂粒少/良好/ 灰褐色	口縁部は内傾して立ち上がり、底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。
第1278 PL-103	3	土師器 杯	床面上31cm 破片	□ 11.6		粗砂粒/良好/に ぶい 橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。工具の当たった痕跡が見られる。
第1278 PL-103	4	土師器 高杯	床面上11cm 胴部下位片	底 14.6		粗砂粒・チャート か/良好/にぶ い 橙	腹部は横ナデ後、外面は縦位、内面は横位へのヘラ削り。
第1278 PL-103	5	土師器 甕	床直 完形	□ 19.4 底 5.6	高 38.0	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ削りと考えられるが、器面摩滅。粘土細の接合痕はよく観察できる。底部外面に木葉痕。内面は横位のヘラナデ。
第1278 PL-103	6	土師器 甕	カマド 口縁部～胴部下 位	□ 19.5		粗砂粒・軽石・角 閃石/良好/浅黄 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面上位・中位は斜位のヘラ削り。下位は斜位のヘラ削り。内面下位と頸部直下は横位の、その間は縦位のヘラナデ。
第1278 PL-103	7	土師器 甕	床面上4cm 口縁部～胴部 1/3	□ 22.1		粗砂粒・軽石多/ 良好/にぶい 黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。

15号住居

検体 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第1308 PL-103	1	土師器 土坏	床面上33cm 1/4	□ 12.3		粗砂粒/良好/に ぶい 黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面は横位へのヘラ磨き。
第1308 PL-103	2	土師器 土坏	フク上 1/3	□ 11.6 底 6.0	高 5.2	粗砂粒・白色部 物粒/良好/に ぶい 黄橙	器内は厚い。口縁部は横ナデ。体部外面はナデ。底部は狭小な平底。木葉痕が見られる。内面もナデ。
第1308 PL-103	3	土師器 土坏	床面上11cm 2/3	□ 14.1	高 6.6	粗砂粒少/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。底部外面下位へのヘラ削り。他はナデ。内面は横位を主体としたヘラ磨き。
第1308 PL-103	4	土師器 高杯	床面上17cm 脚部上半片			粗砂粒・軽石/良 好/にぶい 黄橙	胴部外面は縦位へのヘラナデ。内面はヘラナデ・指ナデ。
第1308 PL-103	5	土師器 高杯	床面上8cm 脚部上位片			粗砂粒/良好/に ぶい 黄橙	外面はナデ後、縦位へのヘラ磨き。内面残存の上位は縦位のナデ。下位は横位のヘラ削り。
第1308 PL-103	6	土師器 甕	床面上7cm 口縁部～胴部中 位	□ 19.2		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は丁寧にナデの上に斜格子目状へのヘラ磨き。あまり規則性は無い。内面は横位のヘラナデ。
第1318 PL-104	7	土師器 甕	床面上16cm 口縁部～胴部			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は全面に丁寧にナデを施した後に縦位・斜位に粗雑なヘラ磨きを重なる。下位の一部へのヘラ削りの部分が見られる。内面もナデ後、斜位・横位のヘラ磨き。

遺物観察表

種図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第131図 PL.104	8	土師器 費	床面上8cm 胴部~底部3/4	底 6.0		粗砂粒/良好/明赤褐 口縁部は横ナデ。胴部外面はナデ後、縦位に規則性の無いへう磨き。内面も横位のヘラナデの上に縦位のへう磨きを重ねる。	外面は部分的に炭素吸着。底部外面は厚減顯著。
第131図 PL.104	9	土師器 費	床面上9cm 口縁部~胴部中位1/4	口 19.8		粗砂粒・白色軽石/良好/明赤褐 口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のへう削り。内面は横位のヘラナデ。	
第131図 PL.104	10	土師器 費	床面上18cm 口縁部~胴部上位1/2	口 15.8		粗砂粒・雲母/良好/にぶい赤褐 口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のへう削り。内面は横位のヘラナデ。	
第131図 PL.103	11	土師器 費	床面上6cm 口縁部~胴部中位	口 17.6		粗砂粒/良好/明赤褐 口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラナデ。内面は横位のヘラナデ後、一部にへう状工具が重なり磨き状になる。	外面の一部に炭素吸着。
第131図 PL.102	12	須臾器 費	床面上19cm 胴部破片			白色鉱物粒/還元塩/黄灰 紐づくり後、叩き整形。外面は平行叩き目。内面は青海波文状の当て具痕。	内面に自然釉付着。
16号住居							
種図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第133図 PL.104	1	土師器 環	床直 完形	口 11.0 高 4.5		粗砂粒少/良好/粗 器形は著しく歪んでいる。口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへう削り。内面はナデ。	器面摩滅。
第133図 PL.104	2	土師器 小型壺	床面上14cm 口縁部~胴部下位片	口 10.3		粗砂粒・細砂粒/良好/灰褐 口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のへう削り。内面は横位のヘラナデ。	
第133図 PL.104	3	土師器 費	床直 胴部中位~底部1/3	底 4.0		粗砂粒・軽石/良好/灰黄褐 胴部外面はへう削りと考えられるが粘土付着のため詳細不明。内面は横位のヘラナデ。ナデ。	被熱。
17号住居							
種図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第135図 PL.104	1	土師器 環	カマド 3/4	口 13.8 高 5.4		粗砂粒/良好/にぶい黄褐 口縁部は内傾して立ち上がる。底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへう削り。内面はナデ。	内外面の一部に炭素吸着。
第135図 PL.104	2	土師器 環	床面上4cm 完形	口 11.6 高 5.2 底 4.8		粗砂粒少/良好/にぶい黄褐 狭小な平底。口縁部は歪んでいる。横ナデ。体部はナデ。内面はへう磨き。	内面は黒色処理。口縁部先端は厚減顯著。内面摩滅。
18号住居							
種図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第136図 PL.104	1	土師器 環	フク上 口縁部1/4	口 11.8		細砂粒・赤色粘土粒少/良好/粗 口縁部は横ナデ。底部は手持ちへう削り。	器面摩耗。
第136図 PL.104	2	土師器 費	床面上7cm 口縁部~胴部上位	口 16.6		粗砂粒/良好/明赤褐 口縁部外面は横ナデ。内面の一部は棒状工具によるナデ。胴部外面は縦位のへう削り。内面は横位のヘラナデ。	
19号住居							
種図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第137図 PL.104	1	土師器 環	床面上3cm 1/3	口 11.9 高 4.8		粗砂粒少/良好/粗 口縁部は内傾して立ち上がる。底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへう削り。内面はナデ。	口縁部内面は摩滅。
21号住居							
種図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第140図 PL.104	1	土師器 鉢	フク上 口縁部~体部	口 19.6		粗砂粒・白色鉱物粒/良好/にぶい黄褐 口縁部外面は横ナデ。以下は横位・縦位のナデに近いへう削り。内面は横位のへう磨き。	高環の環部の可能性もあるか。
22号住居							
種図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第142図 PL.105	1	土師器 費	床面上3cm 口縁部~胴部中位1/4	口 17.0		粗砂粒・軽石多・雲母/良好/にぶい黄褐 口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のへう削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。変質。
23号住居							
種図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第143図 PL.104	1	土師器 高環	フク上 脚部片	底 16.8		細砂粒/良好/明赤褐 内外面とも横ナデ。	

24号住居

神図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第14600 PL.105	1	土師器 杯	フク土 3/5	□ 13.4 高 4.4	粗砂粒/良好/ ぶい赤褐色	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	内外面とも炭素吸着。
第14600 PL.105	2	土師器 杯	フク土 2/5	□ 12.1 高 3.9	粗砂粒少/良好/ 褐色	口縁部は横ナデ。底部との間に稜を有する。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面やや摩耗。
第14600 PL.105	3	土師器 杯	床面上3cm 1/4	□ 12.8 高 3.9	粗砂粒少/良好/ ぶい赤褐色	口縁部は横ナデ。底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	焼成時の器面に炭素吸着。
第14600 PL.105	4	土師器 杯	フク土 1/3	□ 13.1	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/褐色	口縁部は横ナデ。底部との間に稜を有する。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第14600 PL.105	5	土師器 杯	フク土 1/4	□ 12.5	粗砂粒/良好/灰 褐色	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	焼成時の器面に炭素吸着。
第14600 PL.105	6	土師器 鉢か	床面上2cm 口縁部～胴部 中位片	□ 17.5	粗砂粒/良好/明 褐色	口縁部は横ナデ。体部外面は横位・斜横位のへら削り。内面は横位のナデ。	
第14600 PL.105	7	須恵器 蓋	床面上4cm 1/4	□ 13.7 高 4.3	粗砂粒・白色鉱 物粒/還元焰/灰 褐色	口縁部は天井部との間に稜を有する。ロクロ整形(左回転)。天井部中心寄りに回転へら削り。	
第14600 PL.105	8	須恵器 小型壺	床直 口縁部～胴部上 位片	□ 16.8	粗砂粒・角閃石/ 良好/明赤褐色	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のへら削りの上に斜横位の細かへら削り。内面に横位のへら削り。	
第14600 PL.105	9	須恵器 磨石?	フク土 完形	長 4.9 厚 2.1 幅 4.6 重 41.93	デイスait	小形の扁平礫素材。正面中央部に平滑面をもつ。	

25号住居

神図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第14900 PL.105	1	土師器 杯	貯蔵穴 1/4	□ 10.7	細砂粒/良好/褐色	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面やや摩減。
第14900 PL.105	2	土師器 杯	フク土 破片	□ 11.0	細砂粒/良好/褐色	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第14900 PL.105	3	土師器 杯	カマド 口縁部一欠	□ 14.3 高 6.6	粗砂粒少/良好/ ぶい黄褐色	口縁部は横ナデ。底部外面は斜横位のへら削り。内面も不定向のへら削り。	内外面の一部に炭素吸着。黒炭状。
第14900 PL.105	4	土師器 高杯	カマド 脚部のみ	底 16.7	粗砂粒・軽石・角 閃石/良好/浅黄 褐色	外面の柱状部には縦位のへら削り。裾部は横ナデの上に上位からのへら削りが残る。内面柱状部は横位にへら削り。	
第14900 PL.105	5	土師器 皿	フク土 口縁部～胴部下 位片	□ 6.1	粗砂粒・白色鉱 物粒/良好/浅黄 褐色	口縁部は短く、胴部は下ぶくれとなる。口縁部はナデ。胴部外面はへら削り。ナデ。内面は横位のへら削り。	
第14900 PL.105	6	須恵器 瓶	フク土 口縁部上位1/4	底 8.7	黒色鉱物粒少/ 還元焰/灰 褐色	ロクロ整形(右回転)。	
第14900 PL.105	7	土師器 杯	床直 3/5	□ 11.2 高 19.6 底 6.2	粗砂粒・角閃石/ 軽石/良好/ぶ い黄褐色	口縁部は横ナデ。胴部外面下位に横位のへら削り。これより上は磨き状のへら削り。一部を除きほぼ縦位。内面は横位のへら削り。	器面の一部に炭素吸着。黒炭状。
第14900 PL.105	8	土師器 鉢	貯蔵穴 胴部～底部2/3	底 6.2	粗砂粒/良好/ ぶい褐色	胴部外面はへら削り後、縦横にへら磨き。内面は横位のへら磨き。	器面の一部に炭素吸着。黒炭状。
第14900 PL.105	9	須恵器 磨	フク土 口縁部片	□ 21.5	白色鉱物粒/還 元焰/灰 褐色	研づくり後、ロクロ整形(右回転)。外面は縦位のハケ目後、横ナデ。	

26号住居

神図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第15200 PL.105	1	土師器 杯	床直 1/4	□ 11.4	細砂粒・赤色粘 土柱/良好/褐色	口縁部は底部との間に稜を有する。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面摩減。
第15200 PL.105	2	土師器 杯	フク土 4/5	□ 12.2 高 4.7 底 3.2	粗砂粒/良好/ ぶい黄褐色	狭小な平底の底部を有する。口縁部は横ナデ。体部は底部寄りに横位のへら削り。他はナデ。内面もナデ。	
第15200 PL.105	3	土師器 杯	床面上2cm 1/3	□ 13.2	粗砂粒/良好/黒 褐色	口縁部は中段に段をなす。底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。
第15200 PL.105	4	土師器 鉢	フク土 完形	□ 12.5 高 7.3 底 6.3	粗砂粒/良好/ ぶい褐色	口縁部は横ナデ。体部最下位にへら削り。他は斜横位のへら削り。内面もへら削り。工具が器面に強く当たると見られる。	
第15200 PL.105	5	土師器 鉢	床面上3cm 1/3	□ 18.8 高 13.0 底 7.6	粗砂粒・軽石・角 閃石/良好/ぶ い黄褐色	口縁部は横ナデ。外面全面は斜位のへら削り。内面はへら削り。	外面やや摩減。
第15200 PL.105	6	土師器 小型壺	床面上11cm 4/5	□ 8.2 高 8.9	粗砂粒少/良好/ ぶい黄褐色	口縁部以下は横位、あるいは斜横位のへら磨き。内面も横位のへら磨き。	内外面に炭素吸着。黒炭状。

遺物観察表

検体 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第152号 PL.106	7	土師器 費	カマド 口縁部～胴部下 位	口 21.2		粗砂粒多/良好/ 赤褐色	全体形状は大きく歪み一方に傾いている。横断面も長円形を呈する。口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は斜横位・横位のヘラ削り。	被熱。器面摩滅。
第152号 PL.106	8	土師器 費	フク上 口縁部～胴部中 位	口 20.8		粗砂粒多・軽石/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面上位は斜横位の、中位は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラ削り。輪積痕が消しきらずに残る。	
第152号 PL.106	9	土師器 費	カマド 口縁部～胴部下 位	口 18.8		粗砂粒多/良好/ 橙	全体に整形は粗雑。口縁部は横ナデ。胴部外面上半部は横位の、下半部は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラ削り。	被熱。
第153号 PL.106	10	土師器 費	カマド 胴部～底部1/2	底 6.7		粗砂粒/良好/灰 褐色	胴部外面は斜横位のヘラ削りを施すが、器面の摩滅と粘土の付着により詳細不明。内面はヘラ削り。	被熱の為、摩滅、変色。
第153号 PL.106	11	土師器 費	貯蔵六 口縁部～胴部中 位1/2	口 16.0		粗砂粒・赤黒色 粘土粒/良好/に ぶい・黄褐色	胴部から頸部直下まで横ナデ。以下の胴部外面に縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラ削り。	被熱。外面の一部に炭素吸着。
第153号 PL.106	12	土師器 費	カマド 口縁部片	口 21.7		粗砂粒・軽石・角 閃石/良好/にぶ い・橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ削り。内面も横位のヘラ削り。	
第153号 PL.106	13	須恵器 小型費	床面上3cm 断面片			黒色鉱物粒少/ 還元焼/やや軟 質/陶灰	口縁部整形(右回転)。組つて後か、外面頸部に辻輪を巡らし、その上位に波状文を配す。	
第153号 PL.106	14	土製品 土玉	直造 完形	1.1 1.2	1.1 0.1～0.2	細砂粒少/酸化 焼か/黒	器面は丁寧な仕上げ。孔はX線撮影の状況から、内部でやや歪を帯びて貫通していることがわかった。扁平部の幅状面と内側面、上端小口面に磨面をもち、幅状面が最も平滑である。縁後部には敲打痕が認められる。	器面に炭素吸着。 重さ1.18g
第153号 PL.106	15	礫石器 磨石	フク上 完形	長 14.4 幅 5.4	厚 6.5 重 774.12	石英閃緑岩		

27号住居

検体 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第155号 PL.106	1	土師器 費	床面上3cm 口縁部～胴部下 位	口 14.3		粗砂粒・角閃石・ 軽石/良好/にぶ い・橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラ削り。	外面に炭素吸着。 やや摩滅。内面 胴部下半は摩滅。
第155号 PL.106	2	土師器 費	フク上 口縁部～胴部上 位	口 14.6		粗砂粒・白色鉱 物粒/良好/赤 褐色	口縁部は横ナデ。胴部外面はナデ後、一部にヘラ削り。内面は横位のヘラ削り。	胴部外面に煤付 着。

28号住居

検体 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第156号 PL.106	1	土師器 杯	カマド 2/3	口 11.7 高 4.1		粗砂粒少・赤色 粘土粒少/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面摩滅。
第156号 PL.106	2	土師器 杯	フク上 破片	口 12.4		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部との間に稜を有する。底部外面は手持ちヘラ削り。	外面に炭素吸着。
第156号 PL.106	3	土師器 小型費	フク上 胴部下位～底部	底 4.5		粗砂粒・白色鉱 物粒/良好/黒	胴部外面は斜横位に寄ってヘラ削り。内面はヘラ削り。底部外面は木炭灰の上へヘラ削り。	器面に炭素吸着。 黒色。
第156号 PL.106	4	礫石器 磨石	フク上 完形	長 12.8 幅 9.8	厚 6.1 重 908.39	粗粒輝石安山岩	上端小口部と左側面の一部に磨面が形成されている。上端小口部の磨面は非常に平滑である。	

29号住居

検体 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第160号 PL.106	1	土師器 杯	フク上 1/3	口 13.7 高 5.2		粗砂粒/良好/に ぶい・黄褐色	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。
第160号 PL.106	2	土師器 杯	床直 1/2	口 11.1 高 6.0		粗砂粒・軽石/良 好/にぶい・赤 褐色	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面は横位のヘラ削り。	器面に炭素吸着。
第160号 PL.106	3	土師器 費	P1 口縁部～胴部上 位1/4	口 19.4		粗砂粒・軽石/良 好/にぶい・黄 褐色	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラ削り。	被熱。変色。

1号型穴遺構

検体 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm・g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第161号 PL.106	1	土師器 杯	床面上23cm 破片	口 13.8		粗砂粒/良好/陶 灰	口縁部は横ナデ。底部との間に稜を有する。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	焼成時の内外面に 炭素吸着。

1号溝

神田 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第1659区 PL_106	1	土師器 鉢	98-A-6 1/2	□ 11.8 底 5.0	高 5.2	粗砂粒/良好/ にぶい橙	口縁部は横ナデ。体部との間に稜を有する。体部外面は丁寧なナデ。内面もナデ。底部外面はヘラ削り。	器面の一部に炭素吸着。
第1659区	2	土師器 鉢	87-A-19・20 3/4	□ 20.6		粗砂粒少/良好/ 明橙	口縁部は横ナデ。体部は縦位の手持ちヘラ削り。口縁部との間にナデの部分を残す。内面はナデ。	
第1659区	3	土師器 台付費	97-5-4 台部片			粗砂粒/良好/ にぶい橙	器面摩滅。底部と台部天井部に砂目粘土を貼付している。S字状口縁台付費と考えられる。	

15号集石

神田 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第1679区	1	土師器 杯	底面上27cm 1/3	□ 9.6	高 3.3	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面摩滅。
第1679区 PL_107	2	土師器 杯	底面上22cm	□ 9.8	高 3.1	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第1679区	3	土師器 杯	フク上 1/3	□ 9.8	高 3.3	粗砂粒少/良好/ 橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第1679区	4	土師器 杯	底面上13cm 1/2	□ 10.0	高 3.6	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第1679区	5	土師器 杯	底面上26cm 1/4	□ 10.0	高 3.3	粗砂粒少/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面摩滅。
第1679区	6	土師器 杯	フク上 1/3	□ 10.2		粗砂粒少/良好/ 橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面や中摩滅。
第1679区 PL_107	7	土師器 杯	フク上 1/3	□ 10.3		粗砂粒/良好/ にぶい橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面摩滅。
第1679区 PL_107	8	土師器 杯	底面上17cm 2/3	□ 10.4	高 3.4	粗砂粒少/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第1679区 PL_107	9	土師器 杯	底面上30cm 3/4	□ 10.8	高 3.6	粗砂粒少/良好/ 明赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。 摩滅。
第1679区	10	土師器 杯	底面上12cm 1/2	□ 10.9	高 3.3	粗砂粒少/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面摩滅。
第1679区 PL_107	11	土師器 杯	底面上16cm 1/4	□ 11.1	高 3.3	小礫・粗砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。下半部は工具が強く当たった。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面摩滅。底部 外面の一部に炭 素吸着。
第1679区 PL_107	12	土師器 杯	フク上 1/2	□ 11.3		粗砂粒少/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第1679区	13	土師器 杯	フク上 破片	□ 11.6		粗砂粒少/良好/ 橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第1679区 PL_107	14	土師器 杯	底面上44cm 1/4	□ 13.0		粗砂粒少/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。底部との間に稜を有する。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。底部中央から放射状にヘラ書き。	外面の底部に炭 素吸着。
第1679区 PL_107	15	土師器 杯	底面上 8 cm 3/4	□ 13.7		粗砂粒少/良好/ にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部との間に弱い稜を有する。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。底部に中央から口縁部に向けてヘラ書き。	器面に炭素吸着。
第1679区 PL_107	16	土師器 杯	底面上 6 cm 3/4	□ 15.6	高 5.4	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面摩滅。
第1679区 PL_107	17	土師器 高杯	フク上 杯部下位～脚部 上位			粗砂粒/良好/ にぶい黄橙	杯部の内外面ともヘラ書き。脚部外面は縦位のヘラナデ。内面はヘラ削り。	杯部内面は黒色 処理か。器面摩 滅。
第1679区	18	須恵器 甕	底面上 9 cm 胴部下位～底部			細砂粒/還元焼 灰黄	組つくり後、叩き整形。外面は疑似格子目状の叩き目。内面は青濁文状の当て具痕の上にナデ調整。	内面磨耗。
第1679区 PL_107	19	土師器 台付費	底面上16cm 台部	底 8.9		粗砂粒/良好/ にぶい黄橙	外面上位は縦位の、それ以下は横位のヘラナデ。内面はナデ。	
第1679区 PL_107	20	土師器 台付費	フク上 台部上位～中位 1/3			粗砂粒少/良好/ 橙	器内は厚い。外面は縦位のヘラ削り。胴部寄りにはナデ。内面はナデ。	胴部欠損後、割 れ口を二次加工 しているか。
第1679区	21	土師器 費	底面上11cm 口縁部～胴部上 位1/4	□ 15.6		粗砂粒・軽石/良 好/にぶい黄褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。炭素吸着。
第1679区	22	土師器 費	底面上24cm 口縁部～胴部上 位1/4	□ 16.0		粗砂粒・軽石/良 好/浅黄	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第1679区	23	土師器 費	底面上19cm 口縁部～胴部上 位片	□ 16.8		粗砂粒・軽石多/ 良好/にぶい黄 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。

遺物観察表

挿図 Pl. No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第167図 PL. 108	24	土師器 費	底面上31cm 口縁部片	口 17.0		粗砂粒/良好/灰 黄褐色	口縁部は大きく歪んでいる。胴部外面はヘラ削り。 内面は横位のヘラナデ。	
第167図 PL. 108	25	土師器 費	底面上5cm 1/2	口 17.2 底 4.9	高 24.7	粗砂粒・軽石多/ 良好/にぶい黄 褐色	口縁部は横ナデ。胴部外面上位・中位は縦位ヘラ削り。 下位は斜縦位・斜位のヘラ削り。内面は横位の ヘラナデ。	被熱。
第168図 PL. 26	26	土師器 費	底面上10cm 2/3	口 17.3	高 22.9	粗砂粒・軽石・赤 黒色粘土貼/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。最下 位はやや斜位。内面下半部は斜縦位。上半部は横位 のヘラナデ。	被熱。変色。変 質。
第168図	27	土師器 費	フク上 口縁部～胴部上 位	口 17.8		粗砂粒・角閃石/ 雲母/良好/にぶ い褐色	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面 は横位のヘラナデ。	
第168図	28	土師器 費	フク上 口縁部片	口 18.2		粗砂粒・角閃石/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部はヘラ削り時に整形時のヘラ が当たっている。	
第168図	29	土師器 費	底面上5cm 口縁部片	口 18.8		粗砂粒・軽石/良 好/にぶい黄褐色	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面 は横位のヘラナデ。	
第168図 PL. 107	30	土師器 費	底面上5cm 口縁部～胴部中 位2/3	口 18.9		粗砂粒/良好/に ぶい褐色	口縁部は横ナデ。胴部外面に縦位のヘラ削り。内面 は縦位のヘラナデ。	被熱。
第168図	31	土師器 費	底面上12cm 口縁部～胴部上 位片	口 19.2		粗砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面 は横位のヘラナデ。	被熱。炭素吸着。
第168図	32	土師器 費	フク上 口縁部～胴部上 位片	口 19.4		粗砂粒・軽石/良 好/灰黄褐色	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面 は横位のヘラナデ。	被熱。炭素吸着。
第168図	33	土師器 費	フク上 口縁部片	口 19.8		粗砂粒/良好/灰 褐色	口縁部は横ナデ。	器面に炭素吸着。
第168図	34	土師器 費	底面上13cm 口縁部～胴部片	口 20.2		粗砂粒・軽石/良 好/暗赤褐色	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面 は横位のヘラナデ。	被熱。変色。変 質。
第168図	35	土師器 費	底面上8cm 口縁部～胴部上 位片	口 20.5		粗砂粒・軽石多/ 良好/にぶい褐色	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面 は横位のヘラナデ。	被熱。変色。
第168図	36	土師器 費	底面上11cm 口縁部～胴部上 位1/4	口 20.5		粗砂粒・軽石多/ 良好/にぶい黄 褐色	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面 は横位のヘラナデ。	被熱。変色。
第168図	37	土師器 費	底面上10cm 口縁部～胴部上 位1/4	口 20.9		粗砂粒・軽石・雲 母/良好/にぶい 褐色	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面 は横位のヘラナデ。	被熱。変色。
第169図 PL. 107	38	土師器 費	底面上3cm 口縁部～底部 1/2	口 21.2	高 36.9	粗砂粒/良好/橙	口縁部は2・3回に分けて横ナデ。胴部外面上半部 は斜縦位のヘラ削り。下位の底部寄りは縦位のヘラ 削り。内面は横位のヘラナデ。底部外面はヘラ削り。	外面下半部に炭 素吸着。黒斑状。 外面摩滅。
第169図	39	土師器 費	フク上 口縁部～胴部上 位片	口 21.2		粗砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面 は横位のヘラナデ。	被熱。変色。
第169図	40	土師器 費	底面上11cm 口縁部～胴部上 位片	口 21.5		粗砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部は横ナデ。胴部外面に縦位のヘラ削り。内面 は横位のヘラナデ。	被熱。
第169図	41	土師器 費	フク上 口縁部～胴部上 位1/4	口 21.6		粗砂粒・軽石/良 好/にぶい黄 褐色	口縁部は横ナデ。胴部外面に横位のヘラ削り。内面 は横位のヘラナデ。	
第169図 PL. 107	42	土師器 費	底直 1/2	口 21.8 底 7.8	高 33.0	粗砂粒・角閃石/ 良好/にぶい黄 褐色	口縁部は横ナデ。胴部外面は大きく4回に分けてヘ ラ削り。上位は縦位。中位は方向の異なる斜位。下 位は斜縦位。内面は横位のヘラナデ。	器面に炭素吸着。 やや摩滅。
第169図	43	土師器 費	フク上 口縁部～胴部上 位片	口 21.8		粗砂粒/良好/灰 黄褐色	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面 は横位のヘラナデ。	被熱。外面に炭 素吸着。
第169図	44	土師器 費	フク上 口縁部～胴部上 位	口 22.6		粗砂粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部は受け口状に立ち上がる。横ナデ。胴部外面 は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第169図	45	土師器 費	フク上 口縁部～胴部上 位片	口 22.6		粗砂粒・軽石/良 好/にぶい黄褐色	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面 は横位のヘラナデ。	被熱。炭素吸着。
第170図	46	土師器 費	底面上7cm 口縁部～胴部上 位1/2	口 24.0		粗砂粒・軽石多/ 良好/橙	口縁部は歪んでおり、胴部はもう少し歪める可能性 がある。口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。 内面は横位のヘラナデ。	被熱。変色。

検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第17006	47	土師器 費	直底 口縁部→胴部 1/3	口 24.8		胎形は大きく歪み、口縁部の平面形は長円形を呈す。胴部も胴部で弱く括れ、少し張り出すか、口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面は炭素吸着。黒色味。	
第17007	48	土師器 費	底面上5cm 口縁部片	口 27.2		口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。	
第17008	49	土師器 費	底面上24cm 胴部片			接合痕が良好に観察できる。粘土層の上端に刻みを入れている。外面はヘラ削り。内面はヘラナデ。		
第17009	50	須恵器 費	底面上8cm 胴部片			黒色鉱物粒/還元焼/灰	結つき後、叩き整形。外面は平円叩き目。内面は同心円文状の当て痕。一部にナデを重ねる。	外面に自然釉付着。
第17010 PL.108	51	礫石器 礫石	底面上4cm 完形	長 13.3 幅 8.3 厚 4.2 重 688.65		粗粒舞石安山岩	全体的に表面が滑らかであるが、表裏両面がより平滑であることから磨石とした。	

2号河道

検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第17209 PL.108	1	土師器 坏	フクス 1/3	口 11.3 高 3.1		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部との間に弱い稜を有する。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第17210 PL.108	2	土師器 費	口縁部片	口 23.4		粗砂粒/軽石多/ 良好/にぶい/黄 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。変色。

遺構外出土の古墳時代の遺物

検出 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第17609 PL.108	1	土師器 器台	87区北東部 受け部1/2	口 7.2		粗砂粒少/良好/ にぶい/橙	外面は丁寧なナデか。器面平滑。内面は2方向にヘラ磨き。	内面に炭素吸着。
第17610 PL.108	2	土師器 器台か	87区北東部 脚部上位→中位			粗砂粒/良好/ にぶい/橙	脚部は円形の透孔を4カ所に配す。外面はヘラ磨き。内面はヘラナデ。	
第17611 PL.108	3	土師器 器台	87区北東部 脚部上半部			粗砂粒/良好/ にぶい/黄褐	受け部から脚部に向けて小孔が貫通する。脚部中位には円形の透孔を3カ所に配す。外面縦位のヘラ磨き。内面は横位のヘラ削り。	
第17612	4	土師器 器台	87区北東部 脚部下位片	底 7.9		粗砂粒/良好/明 褐	円形の透孔の一部が残存する。外面は斜横位のヘラ磨き。内面はヘラナデ。脚部は横ナデ。	
第17613	5	土師器 高坏か	87区北東部 口縁部片	口 13.0		粗砂粒少/良好/ 橙	内外面とも斜横位、横位のヘラ磨き。	内外面とも赤色 塗彩。
第17614	6	土師器 高坏か	87区北東部 口縁部片	口 15.0		粗砂粒/良好/褐 灰	内外面とも横位のヘラ磨き。	内外面とも赤色 塗彩。
第17615	7	土師器 高坏	87区北東部 坏下半部			粗砂粒少/良好/ にぶい/橙	外面残存上位はヘラ磨き。内面もヘラ磨き。下端は脚部との接合のための凹凸状の突起が残り。	
第17616	8	土師器 高坏	87区北東部 坏部片			粗砂粒/良好/ にぶい/黄橙	外面は縦位に、内面は横位にヘラ磨きを充填。	
第17617	9	土師器 高坏	87区北東部 破部破片			粗砂粒少/良好/ 灰黄褐	外面の文様は横線文と短線文により構成される。	東海系。
第17618 PL.108	10	土師器 壺	87区北東部 口縁部下平			粗砂粒/良好/ にぶい/褐	二重口縁部の口縁部下平から頸部の残存。内外面はナデ。一部にハケ目を消しきれずに残す。	
第17619 PL.108	11	土師器 費	87区北東部 口縁部→胴部 1/4	口 15.9		粗砂粒/良好/明 赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位にヘラナデ。内面頸部に横位のヘラ削り。他は横位のヘラナデ。	
第17620	12	土師器 費	87区北東部 口縁部→頸部片	口 15.0		粗砂粒少/良好/ 黄灰	口縁部上半は横ナデ、以下はナデ。	
第17621	13	土師器 費	87区北東部 口縁部→頸部片	口 12.8		粗砂粒/白色鉱 物粒/良好/黒褐	内外面とも横ナデ。	
第17622	14	土師器 費	87区北東部 口縁部→頸部片	口 13.8		粗砂粒/良好/褐	外面は横位、斜横位のヘラ削り。内面は横ナデ。	
第17623	15	土師器 費	87区北東部 口縁部→胴部上 位片	口 13.5		粗砂粒/良好/ にぶい/褐	口縁部は内外面とも弱い屈曲点を有し、S字状口縁の名残を留める。横ナデ。胴部外面は左上から右下に1cmあたり7～8本の当たりの強いハケ目。内面は横位のナデ。	
第17624	16	土師器 費	87区北東部 胴部片			粗砂粒/良好/黒 褐	外面は斜横位に1cmあたり8本のハケ目。内面はナデ。	外面に炭素吸着。
第17625 PL.108	17	土師器 費	87区 底部			粗砂粒多/良好/ 灰黄褐	胴部外面にハケ目。底部外面に木炭層。	
第17626	18	土師器 台付費	97区33号トレン チ 胴部→胴部上位 片			粗砂粒/良好/明 褐	S字状口縁台付費の一部と考えられる。外面の右上から左下に1cmあたり5本のハケ目。その後、横位のハケ目を重ねる。内面はナデ。	

遺物観察表

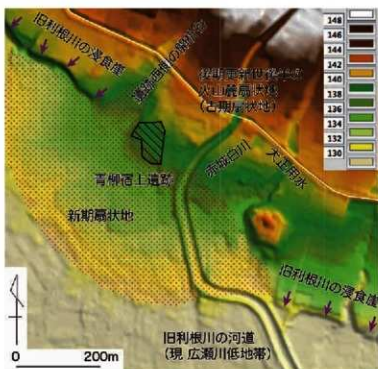
挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第178図 PL.108	19	土師器 台付甕	87区北東部 台部1/4	底	8.0		粗砂粒/白色底 物粒/良好/灰黄	外面は縦位のハケ目とヘラ削り。内面は横位のハケ目。天井部寄りと下端部寄りにナデ。	被熱。
第178図 PL.108	20	土師器 台付甕	87区北東部 台部1/3	底	9.3		細砂粒/良好/灰白	脚部外面は縦位のヘラナデ。内面は斜横位のヘラナデ。	
第178図	21	土師器 環	97区カクラン 2/5	口	12.1	高 3.8	粗砂粒少/良好/ 黄灰	口縁部は内傾して立ち上がり、先端は内側に削がれ面をなす。底部との間に稜を有する横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面とも炭素吸着。黒色味。
第178図	22	土師器 環	97区28号トレン チ 破片	口	11.8		粗砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第178図 PL.108	23	土師器 環	97区28号トレン チ 1/4	口	12.6		粗砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。
第178図	24	土師器 環	97区 破片	口	12.8		粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。底部との間に弱い稜を有する。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	口縁部外面に黒色の付着物。漆か。
第178図	25	土師器 環	97区34号トレン チ 破片	口	12.9		粗砂粒少/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。底部との間に弱い稜を有する。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第178図	26	土師器 環	97区32号トレン チ 1/4	口	12.2		粗砂粒・軽石少/ 良好/にぶい黄 橙	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちヘラ削り。内面は全面にヘラ磨き。	
第178図	27	土師器 環	97区27号トレン チ 破片	口	11.7		粗砂粒少/良好/ 明赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面の一部に炭素吸着。
第178図	28	須恵器 環	97区R4 破片	口	11.4		粗砂粒/還元焼/ 灰黄	ロウコ型(右回転)。底部外面は回転ヘラ削り。	
第177図 PL.108	29	石製品 不明	97区33号トレン チ 完形	長 幅	9.1 6.7	厚 重	5.8 409.02	粗粒輝石安山岩	縦横楕円形の礫で、上部1/3と下部では石質が異なる。上部は下部よりも表面が平滑で、磨石として利用した可能性がある。
第177図 PL.108	30	礫石器 石皿	97区33号トレン チ 略完形	長 幅	20.6 16.6	厚 重	8.7 3196.6	粗粒輝石安山岩	無縁の石皿で、磨面は浅く凹む。

遺構外出土の中世・近世以降の遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第180図 PL.108	1	鉄製品 ヤスリ	5号住居					断面狭菱形で中央に僅かに稜を有する。ヤスリ目が筋ひのなかに僅かに残る。先端側は破損錆化する。	
第180図 PL.108	2	鉄製品 不詳	16号住居					幅1.5cm厚さ1mm程の板状鉄製品で、一端部平円形に孔がありその部分でおり面が破損したとみられる。孔端部から2.5cmの部分にも径0.5cm程の円孔が見られるが、使途名称等詳細は不明。	
第180図 PL.108	3	鉄製品 不詳	II層一括					断面狭三角形板状の鉄製品で両端は劣化破損する。狭三角形の頂点近くでは薄くなるものの破損し刃部となるかは不明。この端部に沿って径2.5mmの小孔が1cmおきに4カ所見られる。	
第180図 PL.108	4	鉄製品 鏝	フク上一一括					雁又の鉄鏝。刃先の一方は分岐近くで劣化破損する。某との境に一層する段差を有しその境で破損し基を消失している。	
第180図 PL.108	5	銅製品 銭貨	フク上					(新)寛永通宝。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭。裏面も同様に彫深く明瞭。上部に長の文字あり(背長)。	

参考文献

- 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『上町・時沢西組屋谷戸遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『年報31』
- 群馬県史編さん委員会1990『群馬県史通史編1 原始古代1』
- 前橋市史編さん委員会1971『前橋市史第1巻』
- 守屋以智雄1968『赤城火山の地形及び地質』
- 守屋以智雄1983『日本の火山地形』
- 町田洋・新井朋夫1992『火山灰アトラス[日本列島とその周辺]』
- 新井朋夫1996『火山灰考古学』
- 群馬県林務部自然保護対策室1982『ぐんまの地形と地質』
- 赤城山編集委員会1988『探訪ガイド 赤城山』
- 竹本弘幸1999『北関東北西部における第四紀古環境変動と火山活動』
- 栗原久 2007『なるほど 赤城学』
- 栗原久 2009『榛名学』
- 天野一男、秋山雅彦2004『フィールドジオロジー1 フィールドジオロジー入門』
- 遠藤邦彦、小林哲夫2012『フィールドジオロジー9 第四紀』
- 『ぐんまの大地』編集委員会2009『ぐんまの大地—生いたちをたずねて—』
- 日代邦康2010『見方のポイントがよくわかる地層の基本』
- 富士見村役場1954『富士見村誌』
- 富士見村役場1979『富士見村誌 続編』
- 南橋村誌編纂委員会1955『南橋村誌』
- 群馬県教育委員会1963『群馬県の遺跡』
- 群馬県教育委員会1971『群馬県遺跡台帳1(東毛編)』
- 群馬県教育委員会1973『群馬県遺跡台帳2(西毛編)』
- 群馬県史編さん委員会1981『群馬県史資料編3 原始古代3 古墳』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1999『群馬県遺跡大辞典』
- 山崎一 1971『群馬県古城址の研究』上巻
- 山崎一 1979『群馬県古城址の研究』補遺篇上巻
- 山崎一 1979『日本城郭大系第4巻』
- 群馬県教育委員会1988『群馬県中世城館址』
- 大川清、鈴木公雄、工業普通1996『日本土器事典』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『第3収蔵庫収蔵展示室展示解説 時代が変わる 道具も変わる』
- 富士見村教育委員会1966『田中道跡窪谷戸遺跡(見取遺跡)』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1993『神保富士塚遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1997『神保松遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『群馬の道跡1 旧石器時代』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『群馬の道跡2 縄文時代』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2004『群馬の道跡3 弥生時代』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『群馬の道跡5 古墳時代II【集鳥】』
- 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『上藤井中島遺跡』
- 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『関根赤城遺跡』
- 岩宿博物館2004『第39回企画展 底の尖った土器』
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査1988『柳久保遺跡群Ⅱ』
- 小田卓也2008『群馬県における縄文時代早期後半の一種相—横川大林遺跡出土資料を中心として—』『群馬考古学手帳18』
- 橋本淳2009『「流出原土器」の検討—北関東における縄文時代早期中葉の土器様相—』『上毛野の考古学Ⅱ』
- 北橋村教育委員会1989『城山遺跡』
- 北橋村教育委員会1999『箱田遺跡群(上原・三角遺跡)真壁諏訪遺跡—泉央第二水道浄水場建設等に伴う発掘調査報告書—』
- 北橋村教育委員会2001『鏡神遺跡 箱田遺跡群補遺 一泉央第二水道浄水場建設等に伴う発掘調査報告書—』
- 設楽博己1984『前橋市上沖町西新井遺跡の表面採集資料(上)』『群馬考古通信第9号』
- 設楽博己2013『群馬県前橋市上沖町西新井遺跡の土製耳飾り』『日本先史学考古学論集—市原壽文先生卒寿記念—』
- 杉原荘介・戸沢充明1972『神奈川県川原村田遺跡および柱台遺跡の研究』『考古学集刊』第2巻上
- 岩宿博物館2007『第44回企画展 千瀬谷戸遺跡発掘60年』
- 『総覧縄文土器』刊行委員会2008『総覧縄文土器』
- 埴保己一『群馬朝展 巻第九 神風抄』1978複製版『新校 群馬朝展 第一巻 神風抄(全)』



第200図 青柳宿上遺跡周辺の地形
 地表のDEMデータは、国土地理院の基礎地図情報の5mメッシュデータに用いて作成



第201図 遺跡内の地形・液状化跡・観察トレンチ断面の位置
 等高線は、液状化跡が認められた縄文時代早期の地表の高さを示す

写真図版



1. 道跡遠景(○印 引切塚遺跡・青柳宿上遺跡 南西から)



2. 道跡遠景(○印 引切塚遺跡・青柳宿上遺跡 北から)



1. 引切塚遺跡全景(東から)



2. 引切塚遺跡全景(真上から上が東)



1. 青柳宿上遺跡全景(西から)



2. 青柳宿上遺跡全景(真上から上が北)



1. 縄文早期遺物包含層出土状況(北から)



3. 縄文早期土層断面B-B' (南から)



2. 縄文早期遺物包含層出土状況(北から)



4. 縄文早期包含層南壁土層断面(北から)



5. 縄文早期土層断面D-D' (西から)



6. 縄文早期土層断面1-1' (西から)



7. 縄文早期包含層40端 赤崎川河口(南から)



8. 縄文早期遺物包含層調査風景(南西から)



1. 縄文早期遺物包含層出土遺物(南から)



2. 縄文早期遺物包含層出土遺物(北から)



3. 縄文早期遺物包含層出土遺物(東から)



4. 縄文早期遺物包含層出土遺物(東から)



5. 縄文早期遺物包含層出土遺物(南から)



6. 縄文早期遺物包含層調査風景(東から)



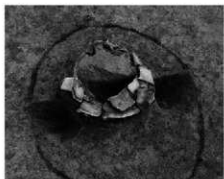
7. 縄文早期遺物包含層出土状況(南から)



8. 縄文早期遺物包含層調査風景(北から)



9. 縄文早期遺物包含層調査風景(北から)



10. 4号ビット注口土器出土状況(北から)



11. 4号ビット注口土器出土状況(東から)



12. 4号ビット土層断面A-A' (北から)



1. 1号河道全景(北東から)



3. 1号河道遺物出土状況(東から)



2. 1号河道土層断面A-A' (東から)



4. 1号河道遺物出土状況(東から)



5. 1号河道遺物出土状況(北東から)



6. 1号河道調査風景(北から)



7. 13号トレンチ土層断面B-B' (西から)



8. 13号トレンチテフラ採取状況(北西から)



1. 1号住居全景(北から)



2. 1号住居掘方全景(南から)



3. 1号住居土層断面A-A' (南から)



4. 1号住居土層断面B-B' (西から)



5. 1号住居土層断面C-C' (西から)



6. 1号住居遺物出土状況(北から)



7. 1号住居遺物出土状況(北から)



8. 1号住居遺物出土状況(北から)



1. 2号住居全景(西から)



2. 2号住居南方全景(南から)



3. 2号住居土層断面A-A' (西から)



4. 2号住居土層断面B-B' (南から)



5. 2号住居遺物出土状況(西から)



6. 2号住居遺物出土状況(南から)



7. 2号住居遺物出土状況(南から)



8. 2号住居調査風景(南から)



1. 1号・2号住居掘方全景(北東から)



2. 1号住居As-C混土土確認状況(南から)



3. 1号住居調査風景(南西から)



4. 1号溝全景(南東から)



5. 1号溝土層断面A-A' (南から)



6. 1号溝遺物出土状況(南東から)



7. 1号井戸全景(南から)



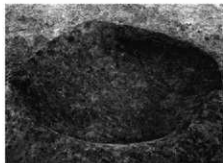
8. 1号井戸土層断面A-A' (東から)



9. 1号井戸全景(南東から)



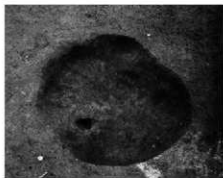
1. 1号土坑土層断面A-A' (西から)



2. 1号土坑全景(西から)



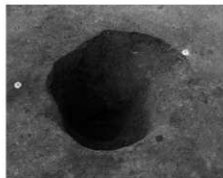
3. 2号土坑土層断面A-A' (北から)



4. 2号土坑全景(西から)



5. 1号ピット土層断面A-A' (西から)



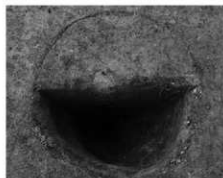
6. 1号ピット全景(南から)



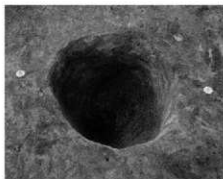
7. 2号ピット土層断面A-A' (南から)



8. 2号ピット全景(南から)



9. 3号ピット土層断面A-A' (南から)



10. 3号ピット全景(南から)



12. 引切塚遺跡全景(東から)



11. 引切塚遺跡北側全景(南から)



1. T-10グリッド旧石器出土状況(南から)



2. T-10グリッド旧石器出土状況(南から)



3. S859510F09F09F09グリッド旧石器トレンチ全景(南から)



4. T-10グリッド旧石器トレンチ土断面図(南から)



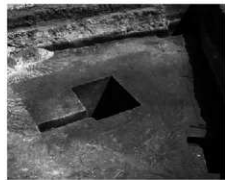
5. T-10グリッド旧石器トレンチ土断面図(北から)



6. 旧石器調査風景(南西から)



7. K10-017-P15グリッド旧石器トレンチ全景(南から)



8. R-12グリッド旧石器トレンチ全景(南から)



9. E10E10F16C11F18グリッド旧石器トレンチ全景(南から)



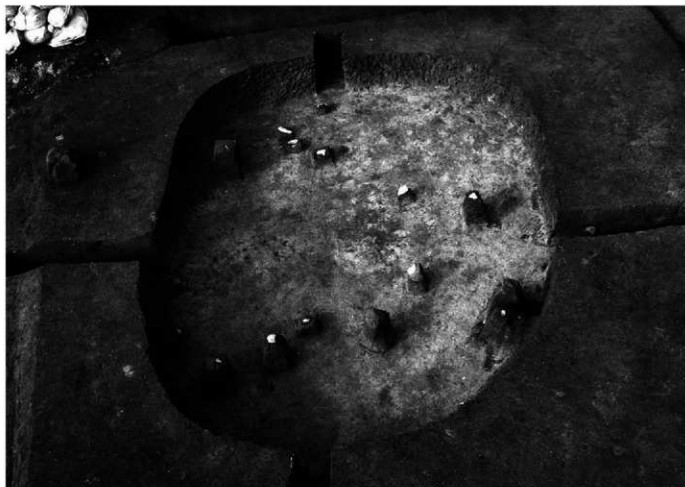
10. L-10-N8グリッド旧石器トレンチ全景(南から)



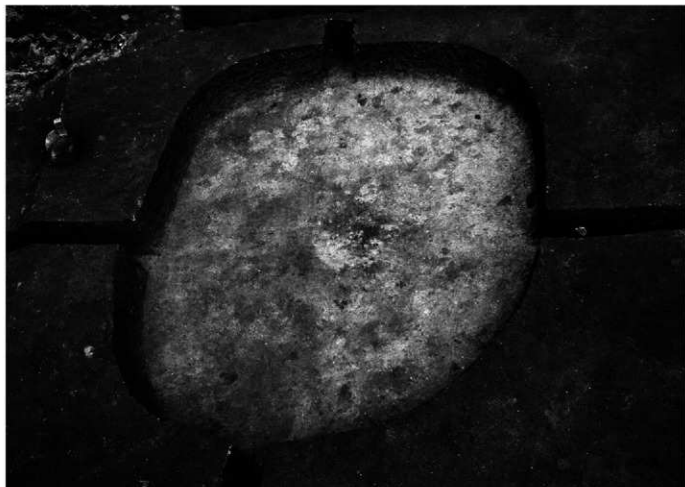
11. F6F10G8H6グリッド旧石器トレンチ全景(南から)



12. F-4グリッド旧石器トレンチ全景(南から)



1. 30号住居遺物出土状況(南から)



2. 30号住居全景(南から)



1. 30号住居土層断面A-A' (南から)



2. 30号住居遺物出土状況(東から)



3. 30号住居遺物出土状況(南から)



4. 30号住居遺物出土状況(南から)



5. 30号住居調査風景(南から)



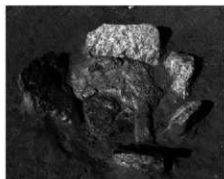
6. 30号住居調査風景(南から)



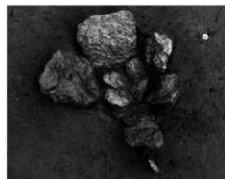
7. 10号・11号集石全景(南から)



8. 12号・13号集石全景(東から)



1. 1号集石土層断面A-A' (南から)



2. 1号集石全景(南から)



3. 2号集石全景(南から)



4. 3号集石全景(南から)



5. 4号集石全景(南から)



6. 4号集石土層断面A-A' (南から)



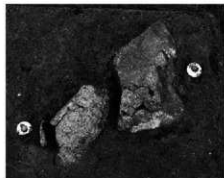
7. 4号集石全景(西から)



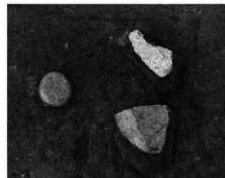
8. 5号集石土層断面A-A' (西から)



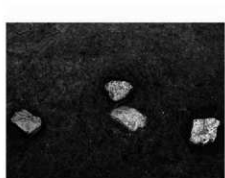
9. 5号集石全景(西から)



10. 6号集石全景(南から)



11. 7号集石全景(南から)



12. 8号集石全景(南から)



13. 9号集石全景(南から)



14. 10号集石全景(南から)



15. 10号集石土層断面A-A' (西から)



1. 11号集石全景(南から)



2. 11号集石土層断面A-A' (西から)



3. 11号集石全景(南から)



4. 12号集石全景(南から)



5. 12号集石全景(北から)



6. 13号集石全景(北から)



7. 14号集石全景(南から)



8. マゴトレンチ(基本土層)土層断面A-A' (西から)



9. 1号河道遺物出土状況(西から)



10. 1号河道遺物出土状況(北から)



11. 1号河道遺物出土状況(西から)



1. 耳飾り出土状況(西から)



2. 1号河道遺物出土状況(西から)



3. 1号河道遺物出土状況(西から)



4. 1号河道遺物出土状況(西から)



5. 1号河道遺物出土状況(西から)



6. 1号河道調査風景(北から)



7. 1号河道遺物出土状況(西から)



8. 1号河道遺物出土状況(西から)



9. 1号河道遺物出土状況(西から)



10. 1号河道遺物出土状況(西から)



11. 1号河道全景(西から)



12. 1号河道調査風景(西から)



1. 6号土坑周辺遺物出土状況(南から)



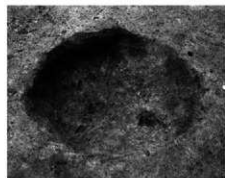
2. 6号土坑確認状況(南から)



3. 6号土坑土層断面A-A' (南から)



4. 6号土坑遺物出土状況(南から)



5. 6号土坑全景(南から)



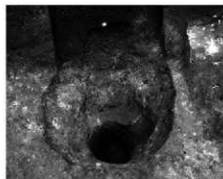
6. 7号土坑土層断面A-A' (西から)



7. 7号土坑全景(東から)



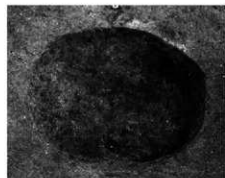
8. 8号土坑土層断面A-A' (西から)



9. 8号土坑全景(西から)



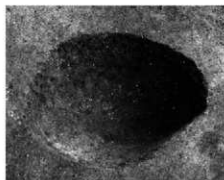
10. 9号土坑土層断面A-A' (南西から)



11. 9号土坑全景(北西から)



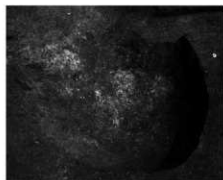
12. 10号土坑土層断面A-A' (西から)



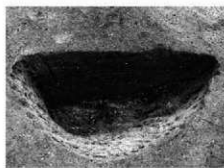
1. 10号土坑全景(南から)



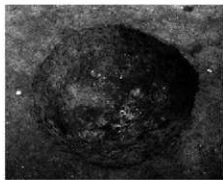
2. 11号土坑土層断面A-A' (南から)



3. 11号土坑全景(南から)



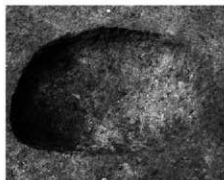
4. 12号土坑土層断面A-A' (南から)



5. 12号土坑全景(南から)



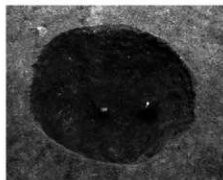
6. 13号土坑土層断面A-A' (西から)



7. 13号土坑全景(南から)



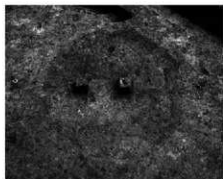
8. 14号土坑土層断面A-A' (南西から)



9. 14号土坑遺物出土状況(南から)



10. 15号土坑土層断面A-A' (南西から)



11. 15号土坑遺物出土状況(南西から)



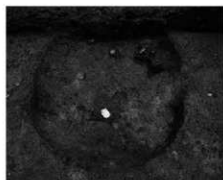
12. 16号土坑土層断面A-A' (北西から)



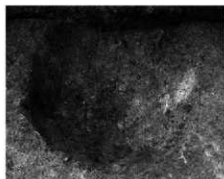
13. 16号土坑遺物出土状況(北西から)



14. 17号土坑土層断面A-A' (北から)



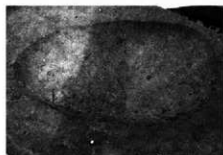
15. 17号土坑遺物出土状況(北から)



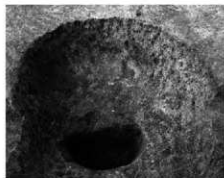
1. 17号土坑全景(北から)



2. 18号土坑土層断面A-A' (南西から)



3. 18号土坑全景(南から)



4. 19号土坑土層断面A-A' (南から)



5. 19号土坑全景(南から)



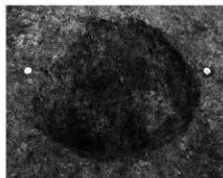
6. 27号ピット土層断面A-A' (西から)



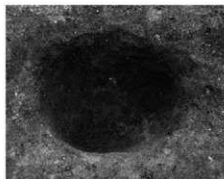
7. 27号ピット全景(西から)



8. 28号ピット土層断面A-A' (西から)



9. 28号ピット全景(西から)



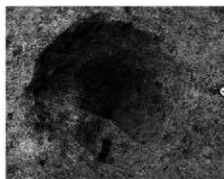
10. 29号ピット全景(南から)



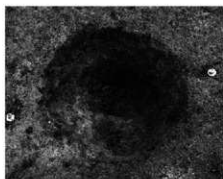
11. 30号・31号ピット土層断面A-A' (南西から)



12. 30号・31号ピット全景(南西から)



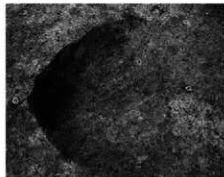
13. 32号ピット遺物出土状況(北から)



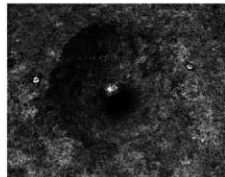
14. 32号ピット全景(北から)



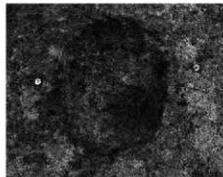
15. 33号ピット土層断面A-A' (南から)



1. 33号ピット全景(北東から)



2. 34号ピット遺物出土状況(北から)



3. 34号ピット全景(北から)



4. 35号ピット土層断面A-A' (東から)



5. 35号ピット全景(東から)



6. 36号ピット土層断面A-A' (西から)



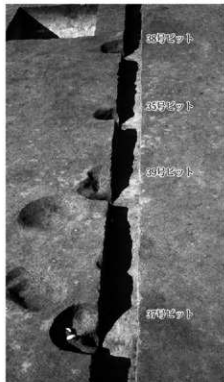
7. 36号ピット遺物出土状況(東から)



8. 37号ピット土層断面A-A' (東から)



9. 37号ピット遺物出土状況(東から)



10. 37号・39号・35号・38号ピット全景(南から)



11. 38号ピット土層断面A-A' (東から)



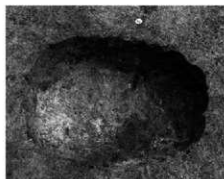
12. 38号ピット全景(東から)



13. 39号ピット土層断面A-A' (東から)



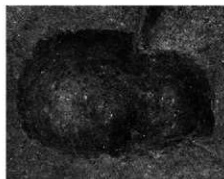
14. 39号ピット全景(東から)



1. 40号ピット全景(南西から)



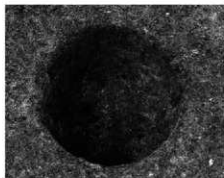
2. 41号ピット土層断面A-A' (南から)



3. 41号ピット全景(西から)



4. 42号ピット土層断面A-A' (南西から)



5. 42号ピット全景(南西から)



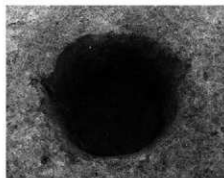
6. 43号ピット土層断面A-A' (西から)



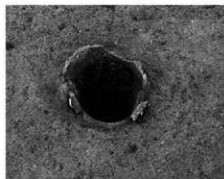
7. 43号ピット全景(南から)



8. 44号ピット土層断面A-A' (西から)



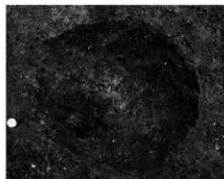
9. 44号ピット全景(西から)



10. 45号ピット遺物出土状況(南から)



11. 45号ピット土層断面A-A' (西から)



12. 45号ピット全景(西から)



13. 1号土器集中(南から)



14. 2号土器集中(南から)



15. 3号土器集中(南から)



1. 4号石器集中(南西から)



2. 5号石器集中(南から)



3. 6号石器集中(南から)



4. 7号石器集中(南から)



5. 1号石器集中(南から)



6. 2号石器集中(南から)



7. 3号石器集中(南から)



8. 4号石器集中(東から)



9. 4号石器集中石礫出土状況(東から)



10. 4号石器集中石礫出土状況(東から)



11. 5号石器集中(東から)



12. 4号～7号石器集中(東から)



2. 97区北西部縄文早期遺物出土状況(南から)



3. 97区北西部縄文早期遺物出土状況(南から)

1. 97区北西部縄文早期遺物出土状況(南から)



4. 97区北東部縄文早期遺物出土状況(南から)



5. 97区北東部縄文早期遺物出土状況(南から)



6. 97区北東部縄文早期遺物出土状況(南から)



7. 97区北東部縄文早期遺物出土状況(南から)



8. 縄文早期調査風景(南西から)



1. 97区西南部縄文早期遺物出土状況(南から)



2. 97区北東部縄文早期遺物出土状況(西から)



3. 縄文早期調査風景(北から)



4. 97区中央部縄文早期遺物出土状況(南西から)



5. 縄文早期調査風景(西から)



6. 97区中央部縄文早期遺物出土状況(南から)



7. 97区東部縄文早期遺物出土状況(南から)



8. 97区東部縄文早期遺物出土状況(南西から)



9. 縄文早期調査風景(南から)



1. 97区西部縄文早期遺物出土状況(南から)



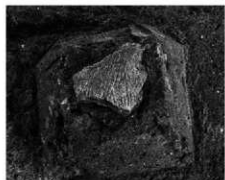
3. 縄文早期調査風景(南西から)



4. 97区南東部縄文早期遺物出土状況(西から)



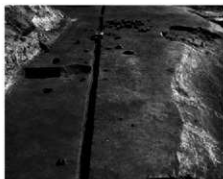
2. 97区南東部縄文早期遺物出土状況(西から)



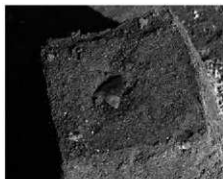
5. 97区南東部縄文早期遺物出土状況(西から)



6. 97区南東部縄文早期遺物出土状況(西から)



7. 97区南東部縄文早期遺物出土状況(西から)



8. 97区南東部縄文早期遺物出土状況(西から)



9. 97区南東部縄文早期遺物出土状況(西から)



1. 97区西南部縄文早期遺物出土状況(北から)



3. 97区西南部縄文早期遺物出土状況(南から)



4. 97区西南部縄文早期遺物出土状況(南から)



2. 97区西南部縄文早期遺物出土状況(南東から)



5. 97区西南部縄文早期遺物出土状況(南から)



6. 97区西南部縄文早期遺物出土状況(南から)



7. 97区西南部縄文早期遺物出土状況(南から)



8. 97区西南部縄文早期遺物出土状況(南から)



9. 調査風景(南から)



1. 半円形の窪地遺物出土状況(南から)



2. 弥生土器出土状況(北から)



3. 半円形の窪地土層断面A-A' (東から)



4. 半円形の窪地土層断面B-B' (南から)



5. 半円形の窪地土層断面B-B' (北から)



6. 半円形の窪地土層確認状況(南から)



7. 半円形の窪地遺物出土状況(南から)



8. 半円形の窪地土層断面B-B' (西から)



1. 半円形の窪地遺物出土状況(南から)



5. 弥生土器壺・広口短頸壺出土状況(南から)



6. 弥生土器壺出土状況(南から)



2. 弥生土器壺出土状況(東から)



7. 弥生土器広口短頸壺出土状況(南から)



8. 弥生土器・炭化材出土状況(北から)



3. 弥生土器壺出土状況詳細(東から)



4. 弥生土器壺出土状況詳細(東から)



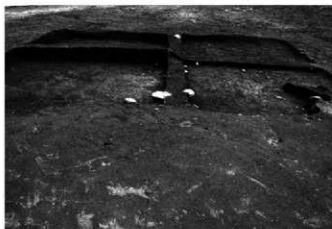
9. 半円形の窪地焼土確認状況(南から)



1. 1号住居全景(南西から)



2. 1号住居掘方全景(南西から)



3. 1号住居土層断面A-A' (南東から)



4. 1号住居土層断面B-B' (南西から)



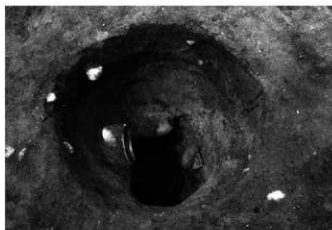
5. 1号住居カマド全景(西から)



6. 1号住居カマド掘方全景(西から)



7. 1号住居貯蔵穴土層断面G-G' (南から)



8. 1号住居貯蔵穴遺物出土状況(南から)



1. 1号住居遺物出土状況(西から)



2. 2号住居全景(西から)



3. 2号住居掘方全景(西から)



4. 2号住居土層断面A-A' (南から)



5. 2号住居土層断面B-B' (西から)



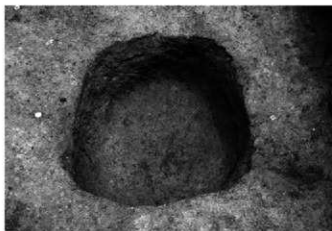
6. 2号住居カマド遺物出土状況(西から)



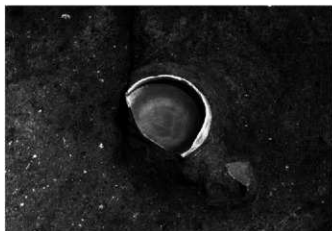
7. 2号住居カマド土層断面F-F' (西から)



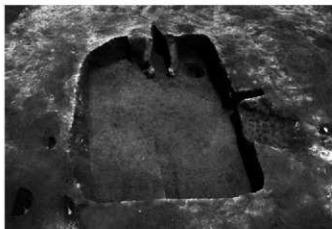
8. 2号住居貯蔵穴土層断面I-I' (西から)



1. 2号住居貯蔵穴全景(西から)



2. 2号住居遺物出土状況(南西から)



3. 3号住居全景(南西から)



4. 3号住居掘方全景(南西から)



5. 3号住居土層断面A-A' (南から)



6. 3号住居土層断面B-B' (西から)



7. 3号住居カマド土層断面D-D' (西から)



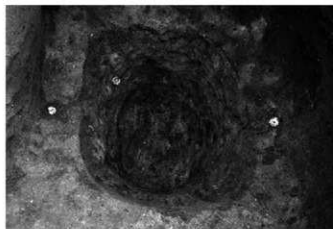
8. 3号住居カマド全景(西から)



1. 3号住居カマド掘方全景(西から)



2. 3号住居貯蔵穴土層断面F-F' (西から)



3. 3号住居貯蔵穴全景(西から)



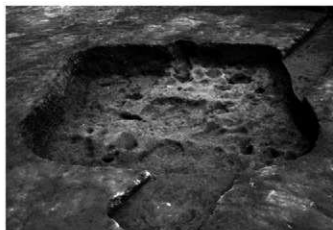
4. 3号住居調査風景(東から)



5. 3号住居遺物出土状況(西から)



6. 4号住居全景(南西から)



7. 4号住居掘方全景(南西から)



8. 4号住居土層断面A-A' (南から)



1. 4号住居土層断面B-B' (南西から)



2. 4号住居カマド全景(南西から)



3. 4号住居カマド土層断面D-D' (南西から)



4. 4号住居貯蔵穴土層断面E-E' (南西から)



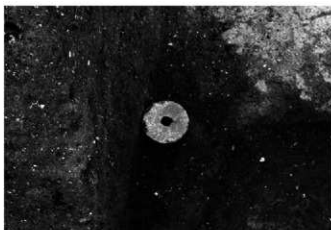
5. 4号住居貯蔵穴全景(南西から)



6. 4号住居遺物出土状況(南西から)



7. 4号住居カマド遺物出土状況(南西から)



8. 4号住居紡輪出土状況(南西から)



1. 5号住居全景(南西から)



2. 5号住居掘方全景(南西から)



3. 5号住居土層断面A-A' (南から)



4. 5号住居土層断面B-B' (南西から)



5. 5号住居遺物出土状況(南西から)



6. 5号住居調査風景(北から)



7. 6号住居全景(西から)



8. 6号住居掘方全景(西から)



1. 6号住居土層断面A-A' (西から)



2. 6号住居土層断面B-B' (南から)



3. 6号住居カマド土層断面C-C' (南から)



4. 6号住居カマド土層断面D-D' (西から)



5. 6号住居カマド全景(西から)



6. 6号住居貯蔵穴土層断面E-E' (西から)



7. 6号住居貯蔵穴遺物出土状況(西から)



8. 6号住居遺物出土状況(西から)



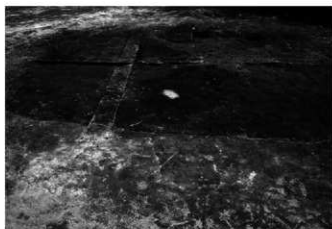
1. 7号住居全景(南西から)



2. 7号住居掘方全景(南西から)



3. 7号住居土層断面A-A' (南東から)



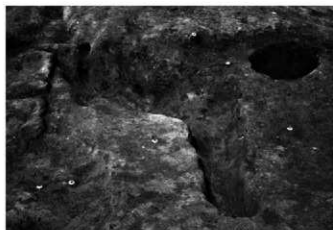
4. 7号住居土層断面B-B' (南西から)



5. 7号住居カマド掘方全景(南西から)



6. 7号住居溝状遺構土層断面H-H' (南西から)



7. 7号住居溝状遺構全景(南西から)



8. 調査風景(東から)



1. 8号住居全景(南西から)



2. 8号住居全景(南西から)



3. 8号住居掘方全景(南西から)



4. 8号住居掘方全景(南西から)



5. 8号住居土層断面A-A' (南西から)



6. 8号住居掘方土層断面A-A' (南西から)



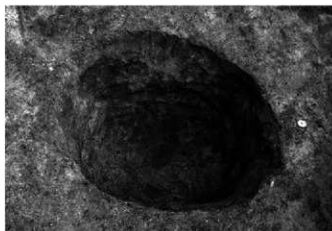
7. 8号住居カマド土層断面C-C' (南西から)



8. 8号住居カマド全景(南西から)



1. 8号住居貯蔵穴土層断面-F' (南西から)



2. 8号住居貯蔵穴全景(南西から)



3. 8号住居遺物出土状況(南西から)



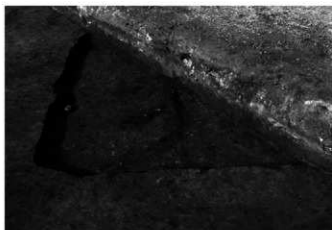
4. 8号住居遺物出土状況(南西から)



5. 8号住居遺物出土状況(北から)



6. 8号住居遺物出土状況(南西から)



7. 9号住居全景(南西から)



8. 9号住居掘方全景(南西から)



1. 9号住居土層断面A-A' (南西から)



2. 9号住居土層断面B-B' (北西から)



3. 10号住居全景(南西から)



4. 10号住居掘方全景(南西から)



5. 10号住居土層断面A-A' (南西から)



6. 10号住居土層断面B-B' (南東から)



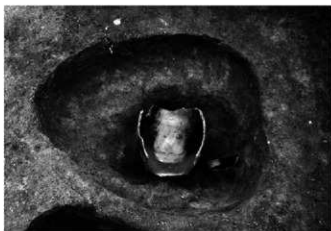
7. 10号住居カマド全景(南西から)



8. 10号住居カマド掘方全景(南西から)



1. 10号住居貯蔵穴土層断面E-E' (南西から)



2. 10号住居貯蔵穴全景(南西から)



3. 10号住居遺物出土状況(南西から)



4. 10号住居遺物出土状況(南西から)



5. 11号住居全景(南西から)



6. 11号住居掘方全景(南西から)



7. 11号住居土層断面A-A' (南西から)



8. 11号住居カマド全景(南西から)



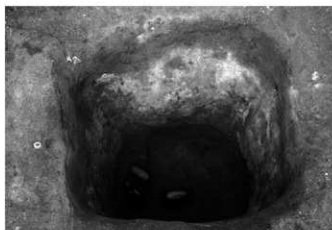
1. 11号住居カマド土層断面B-B' (南東から)



2. 11号住居カマド土層断面C-C' (南西から)



3. 11号住居カマド掘方全景(南西から)



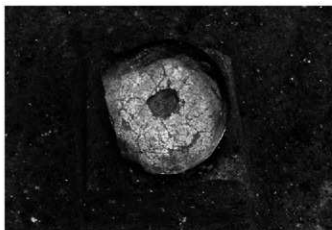
4. 11号住居貯蔵穴遺物出土状況(南西から)



5. 11号住居遺物出土状況(南西から)



6. 11号住居遺物出土状況(南から)



7. 11号住居遺物出土状況(南から)



8. 12号住居全景(北西から)



1. 12号住居掘方全景(北西から)



2. 12号住居土層断面A-A'(南西から)



3. 12号住居土層断面B-B'(北西から)



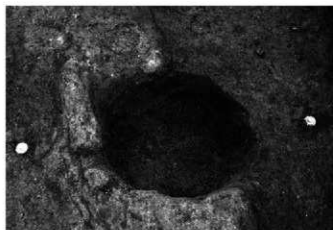
4. 12号住居カマド全景(北西から)



5. 12号住居カマド掘方全景(北西から)



6. 12号住居貯蔵穴土層断面E-E'(北西から)



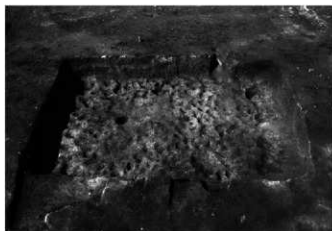
7. 12号住居貯蔵穴全景(北西から)



8. 12号住居遺物出土状況(北西から)



1. 13号住居全景(南西から)



2. 13号住居掘方全景(南西から)



3. 13号住居土層断面A-A' (南西から)



4. 13号住居土層断面B-B' (北東から)



5. 13号住居カマド土層断面C-C' (南東から)



6. 13号住居カマド土層断面D-D' (南西から)



7. 13号住居カマド煙道(南西から)



8. 13号住居カマド煙道検出(南西から)



1. 13号住居貯蔵穴土層断面J-J' (南西から)



2. 13号住居貯蔵穴全景(南東から)



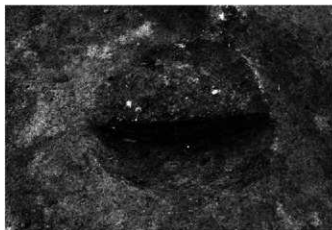
3. 13号住居貯蔵穴土層断面K-K' (北西から)



4. 13号住居カマド、貯蔵穴全景(南西から)



5. 13号住居遺物出土状況(南西から)



6. 13号住居P 2土層断面M-M' (南西から)



7. 13号住居居床下土層断面(南東から)



8. 13号住居居床下硬化面(南西から)



1. 14号住居全景(南西から)



2. 14号住居掘方全景(南西から)



3. 14号住居土層断面A-A' (北西から)



4. 14号住居土層断面B-B' (南西から)



5. 14号住居1号カマド土層断面C-C' (南東から)



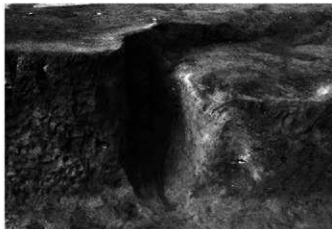
6. 14号住居1号カマド土層断面D-D' (南西から)



7. 14号住居カマド遺物出土状況(南西から)



8. 14号住居1号カマド全景(南西から)



1. 14号住居1号カマド掘方全景(南西から)



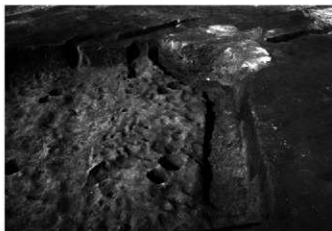
2. 14号住居2号カマド掘方全景(南西から)



3. 14号住居遺物出土状況(南西から)



4. 14号住居遺物出土状況(南西から)



5. 14号住居床下溝状遺構全景(南西から)



6. 15号住居第1床面全景(東から)



7. 15号住居第2床面全景(東から)



8. 15号住居掘方全景(東から)



1. 15号住居土層断面A-A' (南から)



2. 15号住居土層断面B-B' (西から)



3. 15号住居カマド土層断面C-C' (北から)



4. 15号住居カマド土層断面C-C' (北から)



5. 15号住居カマド土層断面D-D' (東から)



6. 15号住居カマド遺物出土状況(東から)



7. 15号住居カマド全景(東から)



8. 15号住居カマド掘方全景(東から)



1. 15号住居貯蔵穴土層断面F-F' (東から)



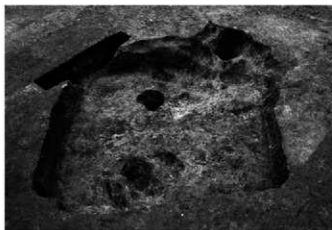
2. 15号住居貯蔵穴全景(東から)



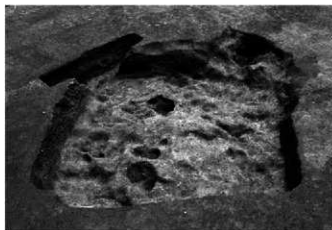
3. 15号住居遺物出土状況(東から)



4. 15号住居遺物出土状況(北から)



5. 16号住居全景(南西から)



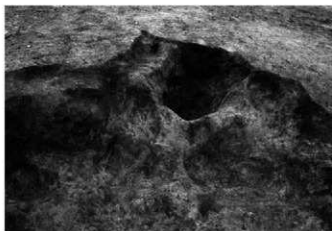
6. 16号住居掘方全景(南西から)



7. 16号住居土層断面A-A' (南東から)



8. 16号住居土層断面B-B' (南西から)



1. 16号住居カマド全景(南西から)



2. 16号住居カマド掘方全景(南西から)



3. 16号住居遺物出土状況(南西から)



4. 16号住居遺物出土状況(南東から)



5. 17号住居全景(西から)



6. 17号住居掘方全景(西から)



7. 17号住居土層断面A-A' (西から)



8. 17号住居カマド土層断面C-C' (南から)



1. 17号住居カマド遺物出土状況(西から)



2. 17号住居カマド全景(西から)



3. 17号住居カマド掘方全景(西から)



4. 17号住居貯蔵穴土層断面F-F' (南から)



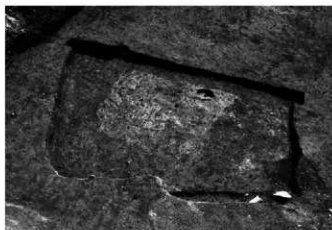
5. 17号住居貯蔵穴全景(南から)



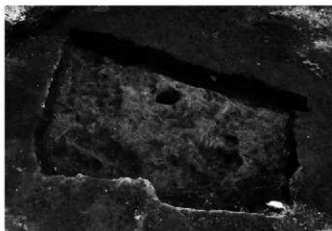
6. 17号住居遺物出土状況(西から)



7. 17号住居遺物出土状況(南から)



8. 18号住居全景(西から)



1. 18号住居掘方全景(西から)



2. 18号住居土層断面A-A'(西から)



3. 18号住居遺物出土状況(南から)



4. 19号住居全景(西から)



5. 19号住居掘方全景(西から)



6. 19号住居土層断面A-A'(西から)



7. 19号住居遺物出土状況(西から)



8. 19号住居遺物出土状況(西から)



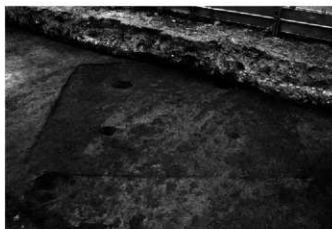
1. 20号住居全景(南西から)



2. 20号住居掘方全景(南西から)



3. 20号住居土層断面A-A'(西から)



4. 21号住居全景(南西から)



5. 21号住居掘方全景(南西から)



6. 21号住居土層断面A-A'(南西から)



7. 22号住居全景(南西から)



8. 22号住居掘方全景(南西から)



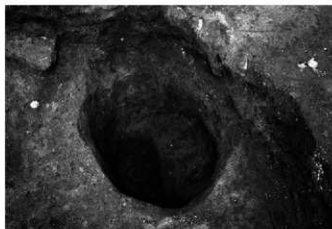
1. 22号住居土層断面A-A' (南西から)



2. 22号住居カマド土層断面B-B' (南から)



3. 22号住居貯蔵穴土層断面E-E' (西から)



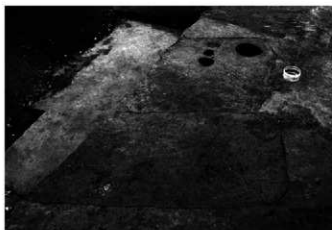
4. 22号住居貯蔵穴全景(南西から)



5. 22号住居遺物出土状況(南西から)



6. 22号住居遺物出土状況(南西から)



7. 23号住居全景(西から)



8. 23号住居掘方全景(西から)



1. 23号住居掘方土層断面A-A' (西から)



2. 23号住居遺物出土状況(西から)



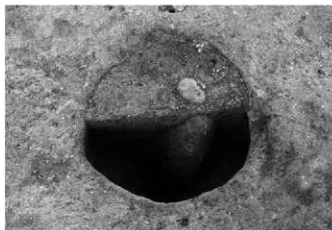
3. 23号住居貯蔵穴土層断面B-B' 全景(西から)



4. 23号住居貯蔵穴全景(西から)



5. 23号住居遺物出土状況(西から)



6. 23号住居P 3土層断面E-E' 全景(西から)



7. 24号住居全景(西から)



8. 24号住居掘方全景(西から)



1. 24号住居土層断面A-A' (南から)



2. 24号住居土層断面B-B' (西から)



3. 24号住居カマド土層断面C-C' (南から)



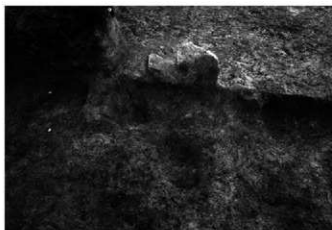
4. 24号住居カマド土層断面C-C' (南から)



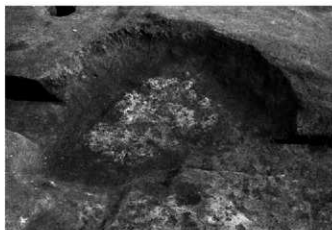
5. 24号住居カマド土層断面D-D' (西から)



6. 24号住居カマド全景(西から)



7. 24号住居カマド掘方全景(西から)



8. 24号住居土坑全景(西から)



1. 24号住居掘方土層断面B-B' (西から)



2. 24号住居床下土坑土層断面B-B' (西から)



3. 24号住居床下土坑全景(西から)



4. 24号住居遺物出土状況(西から)



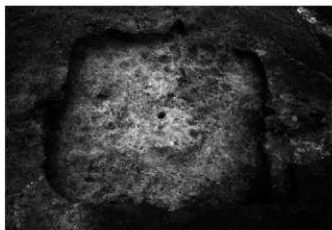
5. 24号住居遺物出土状況(西から)



6. 24号住居遺物出土状況(西から)



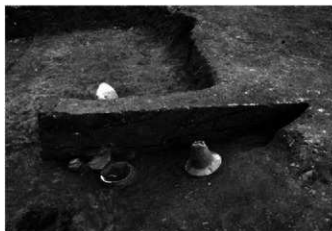
7. 25号住居全景(北西から)



8. 25号住居掘方全景(北西から)



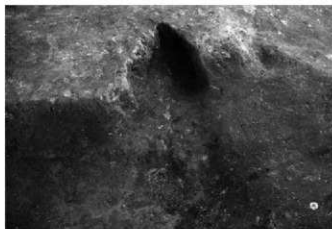
1. 25号住居土層断面A-A' (西から)



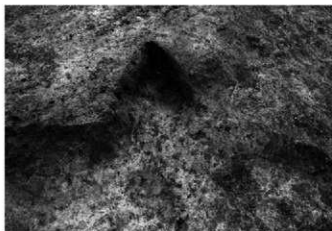
2. 25号住居カマド土層断面C-C' (南から)



3. 25号住居カマド遺物出土状況(北西から)



4. 25号住居カマド全景(北西から)



5. 25号住居カマド掘方全景(北西から)



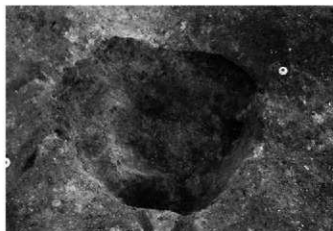
6. 25号住居掘方土層断面B-B' (北西から)



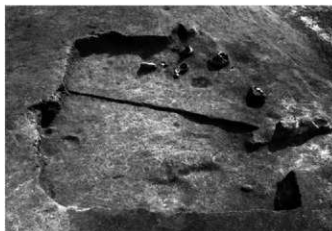
7. 25号住居掘方土層断面B-B' (北西から)



8. 25号住居P 1土層断面D-D' (西から)



1. 25号住居P 1 全景(西から)



2. 25号住居遺物出土状況(北西から)



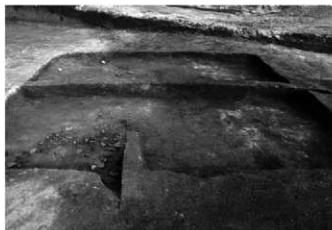
3. 25号住居遺物出土状況接写(西から)



4. 26号住居全景(東から)



5. 26号住居掘方全景(東から)



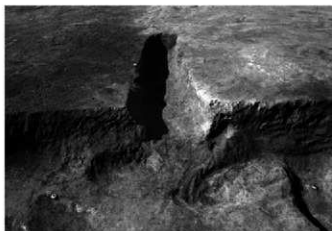
6. 26号住居土層断面A-A' (西から)



7. 26号住居カマド土層断面C-C' (北から)



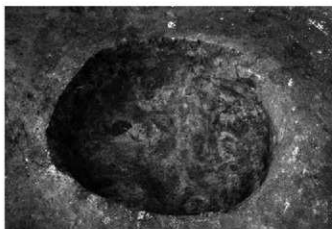
8. 26号住居カマド全景(東から)



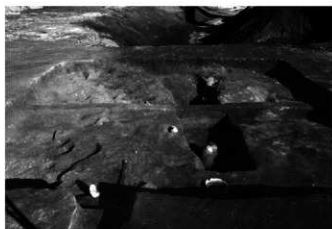
1. 26号住居カマド掘方全景(東から)



2. 26号住居貯蔵穴土層断面-E' (北から)



3. 26号住居貯蔵穴全景(東から)



4. 26号住居掘方土層断面A-A' (西から)



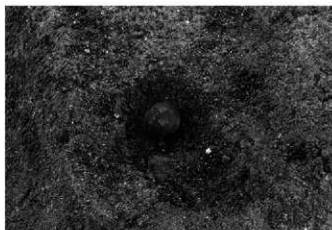
5. 26号住居遺物出土状況(東から)



6. 26号住居遺物出土状況(東から)



7. 26号住居掘方遺物出土状況(東から)



8. 26号住居土玉出土状況(南から)



1. 26号住居溝状遺構土層断面(西から)



2. 26号住居溝状遺構遺物出土状況(西から)



3. 26号住居溝状遺構遺物出土状況(南から)



4. 27号住居全景(南西から)



5. 27号住居掘方全景(南西から)



6. 27号住居土層断面A-A'(南から)



7. 27号住居カマド土層断面B-B'(南から)



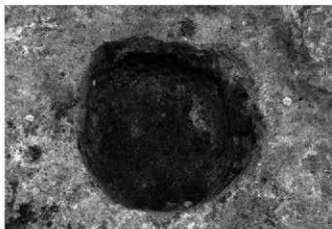
8. 27号住居カマド全景(南西から)



1. 27号住居カマド掘方全景(南西から)



2. 27号住居貯蔵穴土層断面D-D' (南西から)



3. 27号住居貯蔵穴全景(南西から)



4. 27号住居遺物出土状況(南西から)



5. 28号住居遺物出土状況(南西から)



6. 28号住居掘方全景(南西から)



7. 28号住居土層断面A-A' (南から)



8. 28号住居カマド土層断面B-B' (南東から)



1. 28号住居カマド土層断面B-B' (南から)



2. 28号住居カマド土層断面B-B' (北西から)



3. 28号住居カマド土層断面C-C' (南から)



4. 28号住居カマド土層断面C-C' (南から)



5. 28号住居カマド全景(南西から)



6. 28号住居カマド掘方全景(南西から)



7. 29号住居確認状況(北から)



8. 29号住居全景(西から)



1. 29号住居掘方全景(西から)



2. 29号住居土層断面A-A' (東から)



3. 29号住居土層断面B-B' (西から)



4. 29号住居カマド土層断面C-C' (南から)



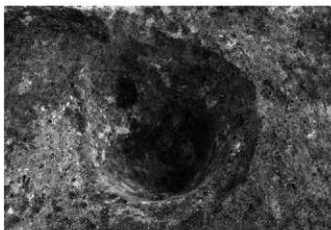
5. 29号住居カマド全景(西から)



6. 29号住居カマド掘方全景(西から)



7. 29号住居貯蔵穴土層断面D-D' (南から)



8. 29号住居貯蔵穴全景(西から)



1. 29号住居遺物出土状況(西から)



2. 29号住居遺物出土状況(西から)



3. 29号住居遺物出土状況(西から)



4. 27号・28号住居土層断面(南から)



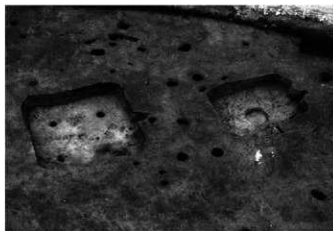
5. 27号・28号住居全景(南東から)



1. 97区鑿穴住居全景(南から)



2. 1号住居周辺(南から)



3. 2号・3号住居周辺(南から)



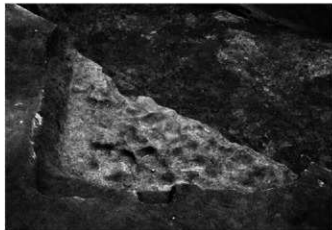
4. 4号・5号・6号住居周辺(南から)



5. 7号・9号・10号住居周辺(南から)



1. 1号竪穴状遺構全景(南西から)



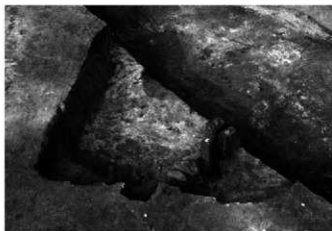
2. 1号竪穴状遺構掘方全景(南西から)



3. 1号竪穴状遺構土層断面A-A' (北西から)



4. 1号竪穴状遺構土層断面B-B' (北から)



5. 1号竪穴状遺構遺物出土状況(南西から)



6. 1号竪穴状遺構遺物出土状況(西から)



7. 1号溝全景(北西から)



8. 1号溝全景(南東から)



1. 1号溝全景(北から)



2. 1号溝全景(北東から)



3. 1号溝全景(北東から)



4. 1号溝全景(東から)



5. 1号溝全景(北から)



6. 1号溝全景(南から)



7. 1号溝全景(南から)



8. 1号溝全景(北から)



9. 1号溝・貯水池全景(東から)



1. 貯水池全景(南から)



2. 1号溝土層断面A-A' (東から)



3. 1号溝土層断面B-B' (東から)



4. 1号溝土層断面E-E' (西から)



5. 1号溝土層断面G-G' (東から)



6. 1号溝土層断面H-H' (南東から)



7. 1号溝土層断面I-I' (南から)



8. 1号溝土層断面J-J' (北から)



9. 1号溝土層断面K-K' (東から)



10. 1号溝土層断面L-L' (南から)



11. 1号溝土層断面M-M' (東から)



12. 1号溝土層断面N-N' (東から)



1. 1号溝南端部円礫出土状況(南から)



2. 1号溝南端部円礫出土状況(東から)



3. 1号溝遺物出土状況(北から)



4. 15号集石遺物出土状況(南から)



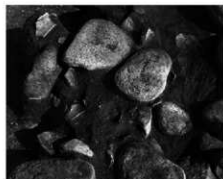
6. 15号集石遺物出土状況(南西から)



7. 15号集石遺物出土状況(南西から)



5. 15号集石土層断面A-A' (西から)



8. 15号集石遺物出土状況(南西から)



9. 15号集石調査風景(東から)



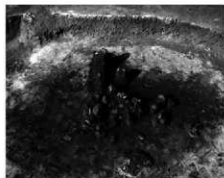
1. 15号集石遺物出土状況(南西から)



2. 15号集石遺物出土状況(南西から)



3. 15号集石遺物出土状況(南西から)



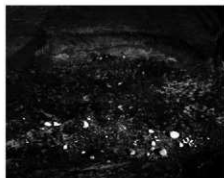
4. 15号集石下層遺物出土状況(南から)



5. 15号集石下層遺物出土状況(南から)



6. 15号集石下層遺物出土状況(南から)



7. 15号集石完掘状況(南から)



8. 15号集石構築石材



9. 15号集石構築石材



10. 15号集石調査風景(南から)



11. 15号集石構築石材



12. 15号集石構築石材



1. 2号河道土層断面A-A' (西から)



2. 2号河道確認状況(北東から)



3. 2号河道調査風景(北から)



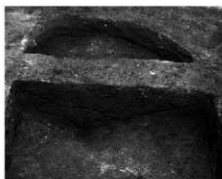
4. 2号河道調査風景(西から)



5. 2号河道調査風景(南から)



6. 調査風景(北東から)



7. 1号土坑土層断面A-A' (西から)



8. 1号土坑全景(北西から)



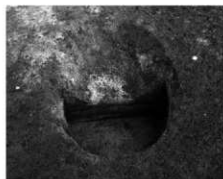
9. 2号土坑土層断面A-A' (南から)



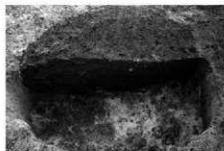
1. 2号土坑全景(西から)



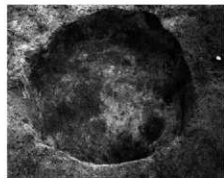
2. 3号土坑土層断面A-A' (南西から)



3. 3号土坑全景(南西から)



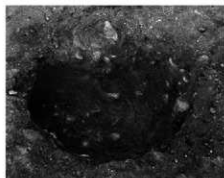
4. 4号土坑土層断面A-A' (西から)



5. 4号土坑全景(西から)



6. 5号土坑土層断面A-A' (西から)



7. 5号土坑全景(南から)



8. 1号～8号ピット全景(南から)



9. 1号ピット土層断面A-A' (南から)



10. 2号ピット土層断面A-A' (南から)



11. 3号ピット土層断面A-A' (南から)



12. 4号ピット土層断面A-A' (南から)



1. 5号ピット土層断面A-A' (南から)



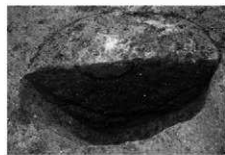
2. 6号ピット土層断面A-A' (南西から)



3. 7号ピット土層断面A-A' (南西から)



4. 8号ピット土層断面A-A' (南西から)



5. 9号ピット土層断面A-A' (南西から)



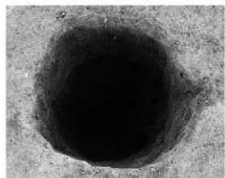
6. 10号ピット土層断面A-A' (西から)



7. 10号ピット全景(西から)



8. 11号ピット土層断面A-A' (西から)



9. 11号ピット全景(西から)



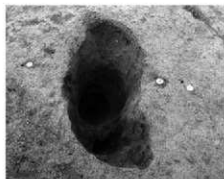
10. 12号ピット土層断面A-A' (西から)



11. 12号ピット全景(西から)



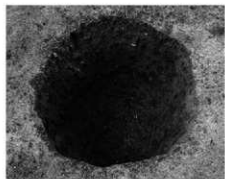
12. 13号ピット土層断面A-A' (南西から)



13. 13号ピット全景(南から)



14. 14号ピット土層断面A-A' (南から)



15. 14号ピット全景(南西から)



1. 15号ビット土層断面A-A' (南から)



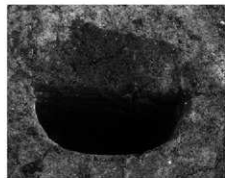
2. 15号ビット全景(南から)



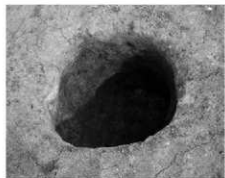
3. 16号ビット土層断面A-A' (南から)



4. 16号ビット全景(南から)



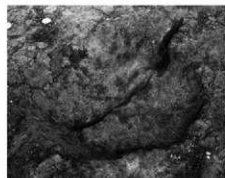
5. 17号ビット土層断面A-A' (南から)



6. 17号ビット全景(南から)



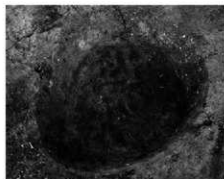
7. 18号ビット全景(南から)



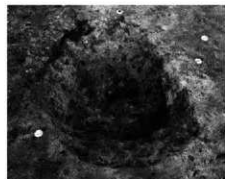
8. 19号ビット全景(南から)



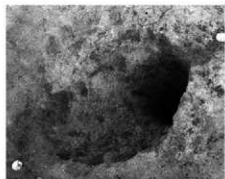
9. 20号ビット全景(南から)



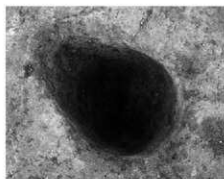
10. 21号ビット全景(南から)



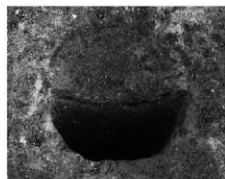
11. 22号ビット全景(南から)



12. 23号ビット全景(南から)



13. 24号ビット全景(南から)



14. 25号ビット土層断面A-A' (南から)



15. 25号ビット全景(南から)



1. 26号土層断面A-A' (南から)



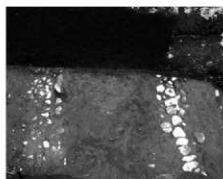
2. 26号ピット全景(西から)



4. 1号道土層断面A-A' (南から)



3. 1号道北側全景(南から)



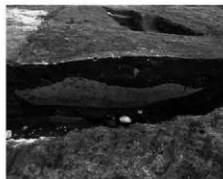
5. 1号道石散き検出状況(南から)



6. 1号道土層断面B-B' (南から)



7. 1号道南側全景(南から)



8. 1号道土層断面C-C' (南から)



9. 1号道南側全景(南から)



1. 32号トレンチ土層断面A-A' (北から)



2. 10号トレンチ噴砂確認状況(北から)



3. 33号トレンチ土層断面A-A' (東から)



4. 35号トレンチ地割れ噴砂(西から)



5. 24号住居調査風景(西から)

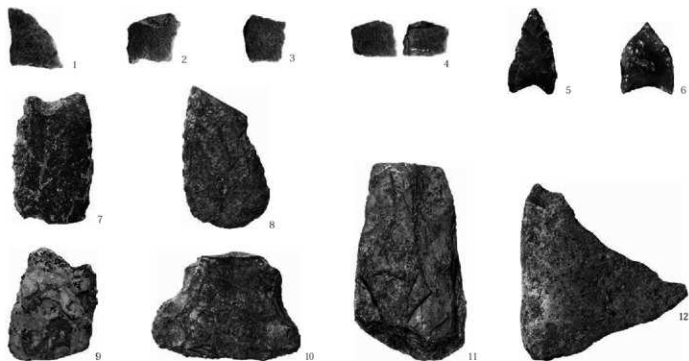


6. 25号住居調査風景(西から)

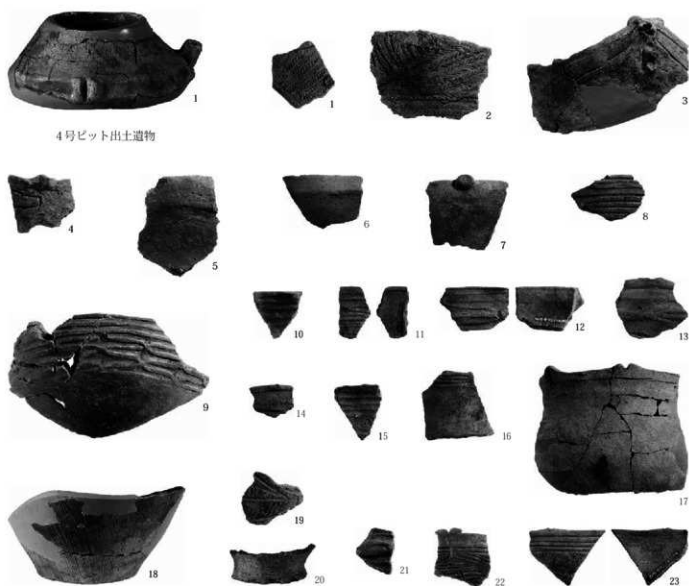


7. 26号住居調査風景(東から)

引切塚遺跡



縄文時代早期確認面出土遺物



4号ピット出土遺物

遺構外出土の縄文土器



遺構外出土の弥生土器



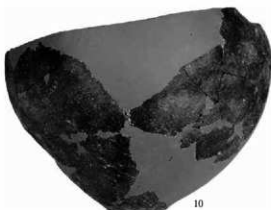
遺構外出土の縄文・弥生時代の石器



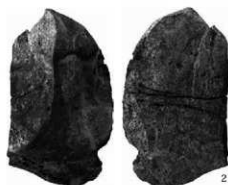
1号住居出土遺物



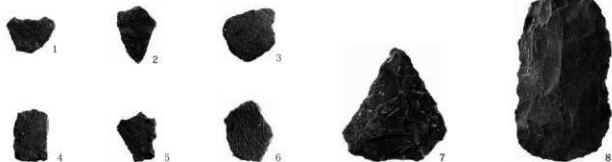
2号住居出土遺物(1)



2号住居出土遺物(2)



旧石器トレンチ出土遺物



30号住居出土遺物



集石出土遺物(1)



9集石1



11集石1

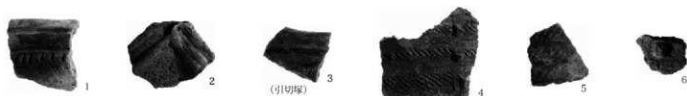


14集石1



14集石2

集石出土遺物(2)

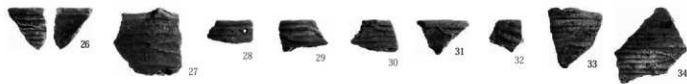
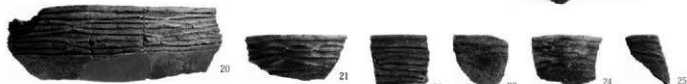


(引切塚)

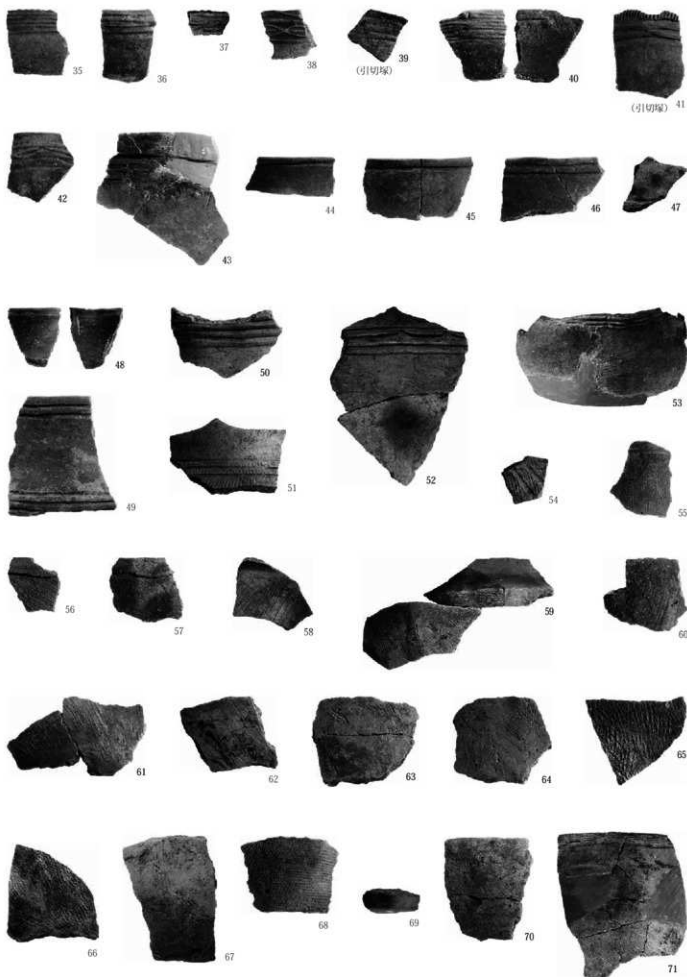


(引切塚)

(引切塚)



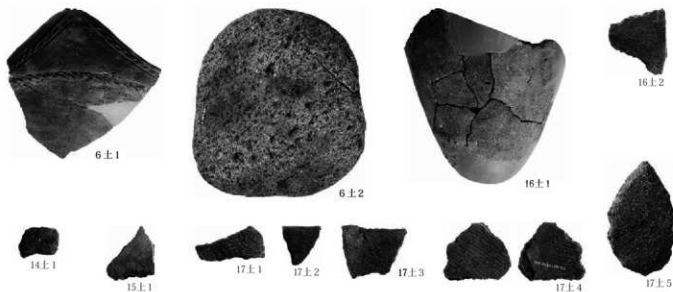
1号河道出土遺物(1)



青柳宿土遺跡



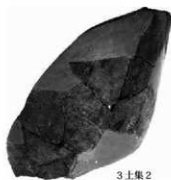
1号河道出土遺物(3)



縄文土坑出土遺物



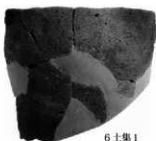
縄文ビット出土遺物



青柳宿上遺跡



5土集1



6土集1



6土集2



6土集3



5土集2



6土集4



7土集1



5土集3

土器集中出土遺物(2)



1石集1



1石集2



2石集1



4石集1



1石集3



4石集2



5石集1



5石集1-1



5石集1-2



5石集1-3



5石集1-4



5石集1-5



5石集1-6



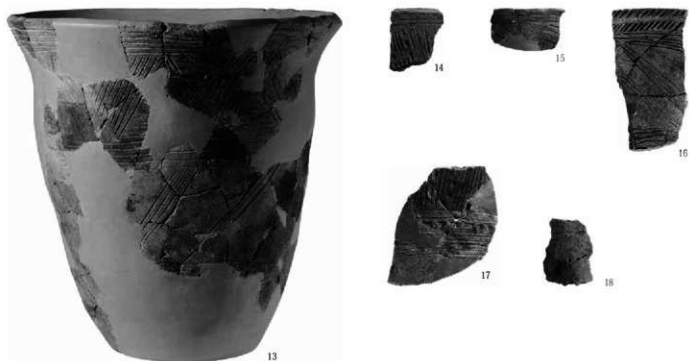
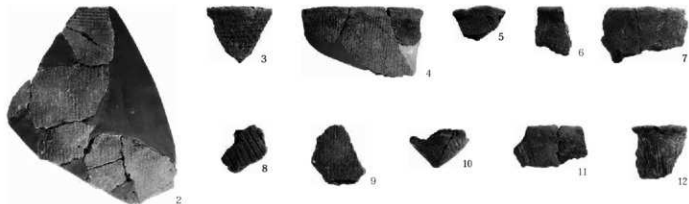
5石集1-7

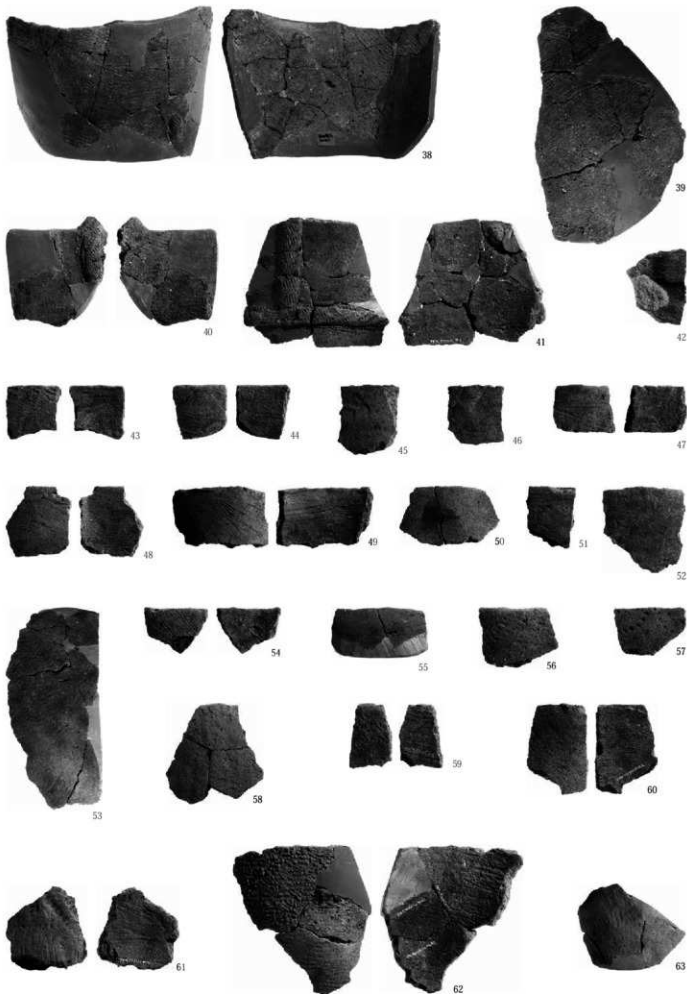


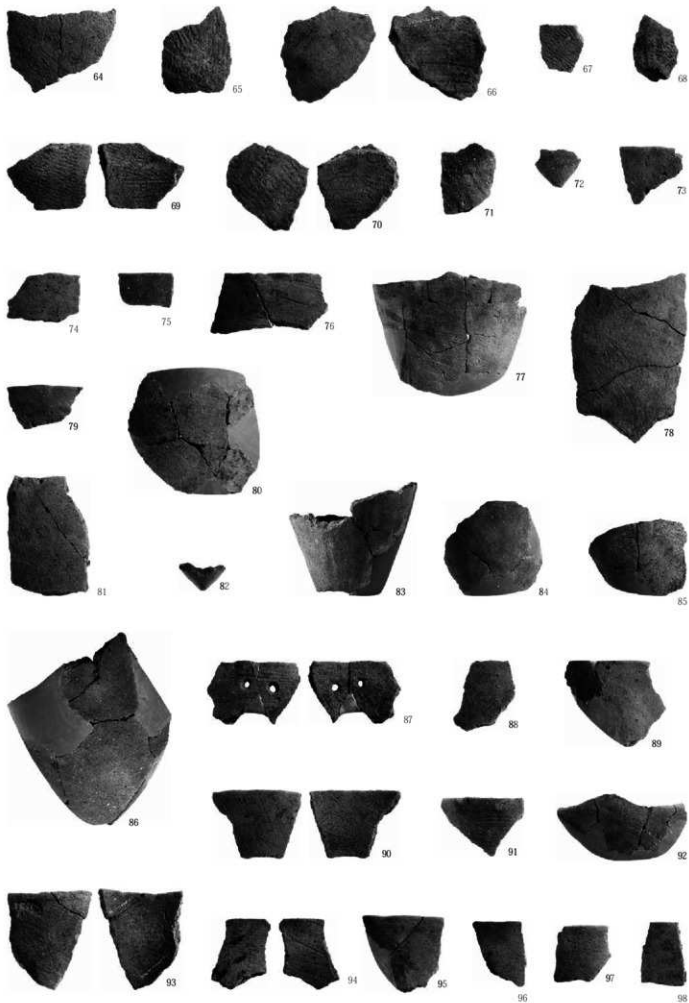
5石集1-8

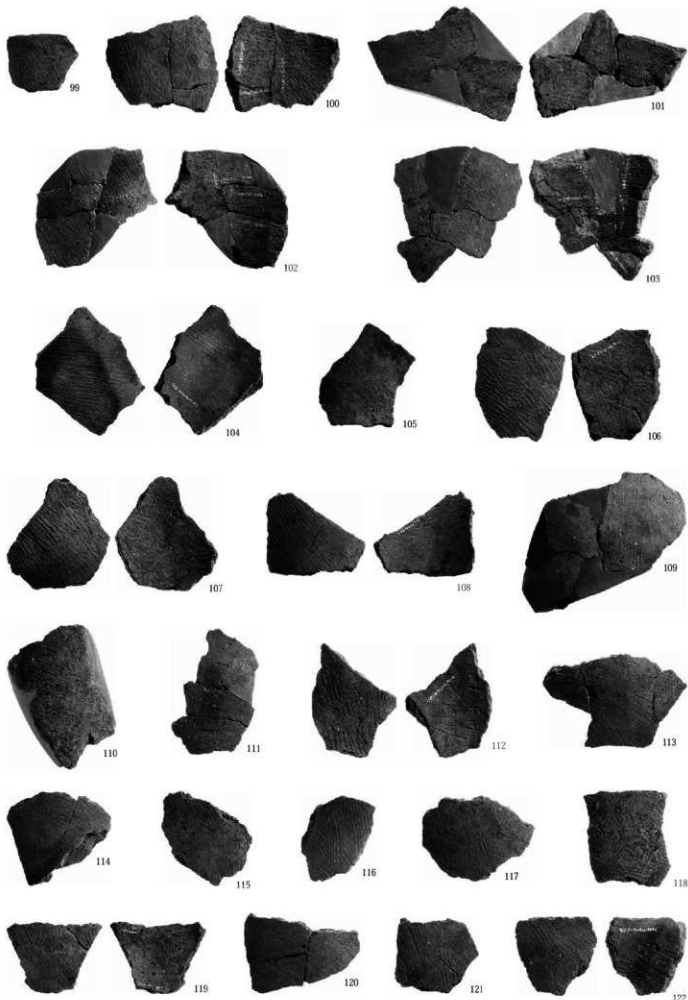
石器集中出土遺物

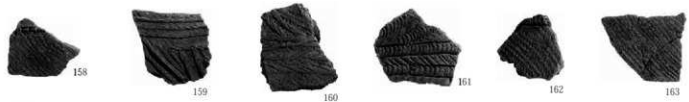
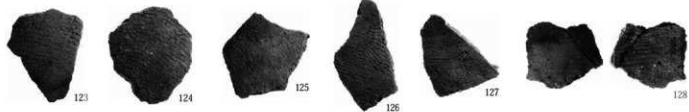
青柳宿上遺跡













172



173



174



175



176



177



178



179



180



181



182



183



184



185



186



187



188



189



190



191



192



193



194



195



196



197



198



199



200



201



202



203



204



205



206



207



208



209



210



211



212



213



214



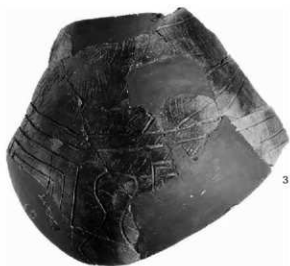
215



216

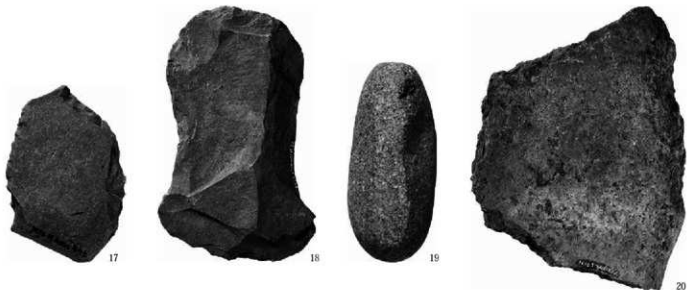


218



半円形の窪地出土遺物(1)

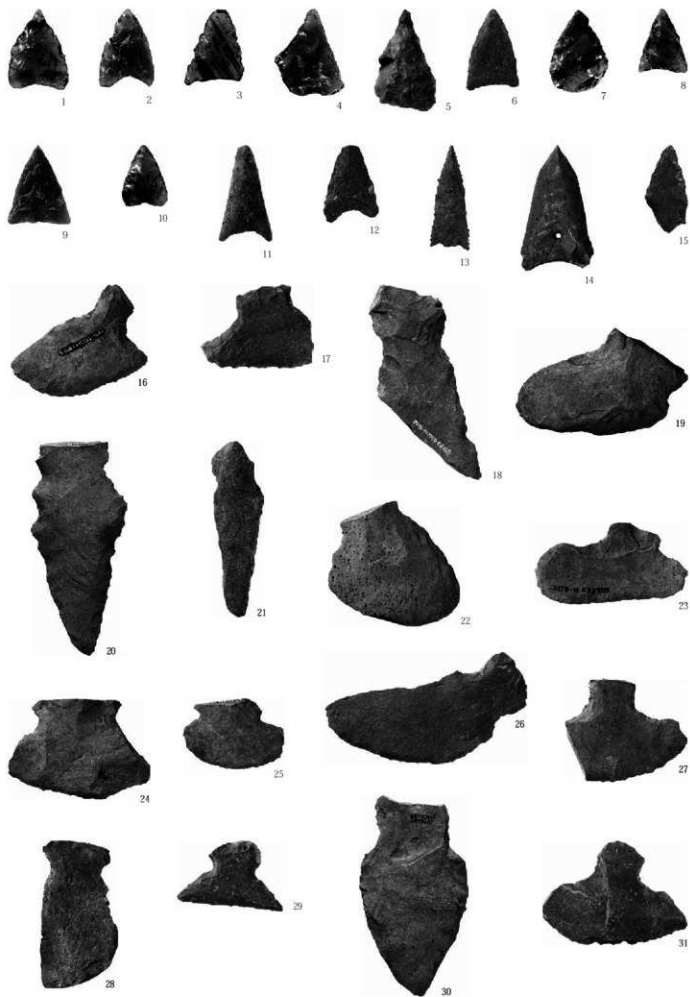
青柳宿上遺跡



半円形の窪地出土遺物(2)

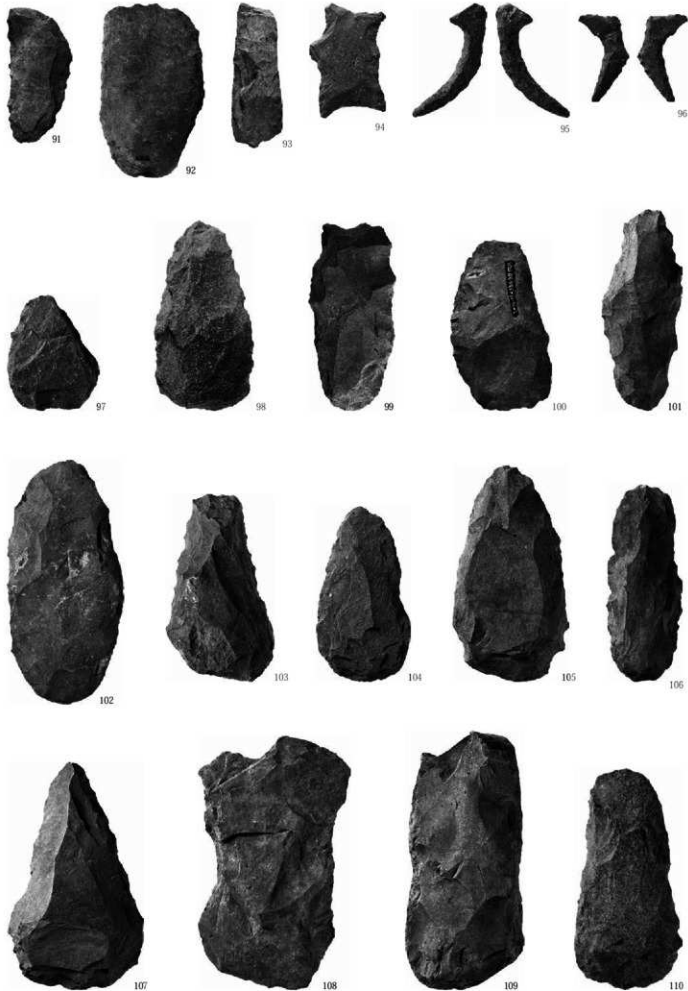


遺構外出土の弥生土器











111



112



113



114



115



116



117



118



119



120



121



122



123



124



125



126



127



128



129



130



131



132



133



134



135



136



137



138



139



140



141



142



143



144



145



146



147



148



149



150



151



152



1号住居出土遺物



2号住居出土遺物



3号住居出土遺物



4号住居出土遺物



5号住居出土遺物

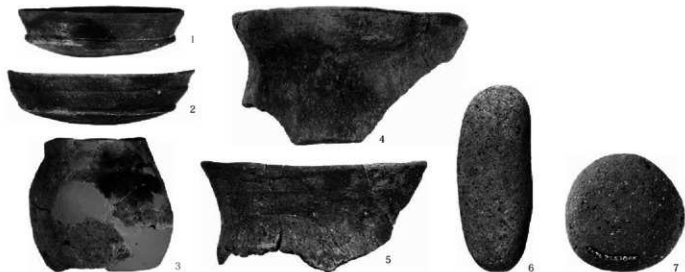


9号住居出土遺物



6号住居出土遺物

青柳宿上遺跡



8号住居出土遺物



10号住居出土遺物

11号住居出土遺物

青柳宿上遺跡



1



2

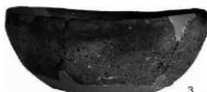


4

12号住居出土遺物



2



3



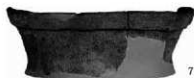
4



5



6



7



8



9

13号住居出土遺物

青柳宿上遺跡



1



2



6



5

14号住居出土遺物



1



2



3



4



6



11

15号住居出土遺物(1)



15号住居出土遺物(2)



18号住居出土遺物



16号住居出土遺物



17号住居出土遺物

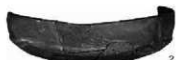


19号住居出土遺物

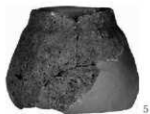
青柳宿上遺跡



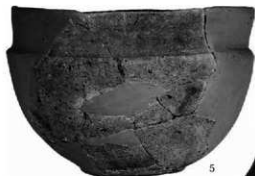
22号住居出土遺物



24号住居出土遺物



25号住居出土遺物



26号住居出土遺物(1)



26号住居出土遺物(2)



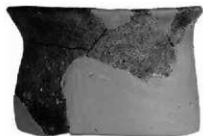
27号住居出土遺物



28号住居出土遺物



29号住居出土遺物



1号竪穴状遺構出土遺物



1号溝出土遺物



15号集石出土遺物(1)



25



26



51

15号集石出土遺物(2)



1



2

2号河道出土遺物



1



3



10



2



11



17



20



23



29



30

遺構外出土の古墳時代の出土遺物



1



2



3



4



5

遺構外出土の中世・近世の出土遺物

報告書抄録

書名ふりがな	ひききりづかいせき・あおやぎしゅうくうえいせき
書名	引切塚遺跡・青柳宿上遺跡
副書名	一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第602集
編著者名	長澤典子
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20150313
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

遺跡名ふりがな	ひききりづかいせき(しんいせきめい：まえばし0013いせき)
遺跡名	引切塚遺跡(新遺跡名：前橋市0013遺跡)
所在地ふりがな	ぐんまけんまえばしあおやぎちょう
遺跡所在地	群馬県前橋市青柳町
市町村コード	10201
遺跡番号	0013
北緯(世界測地系)	362545
東経(世界測地系)	1390405
調査期間	20120401-20121130
調査面積	1543.12㎡
調査原因	道路建設
種別	集落
主な時代	縄文/弥生/古墳
遺跡概要	縄文—河道1+ピット1+縄文包含層+縄文土器+石器/弥生+弥生土器+石器/集落—古墳—竪穴住居2+井戸1+溝1+土坑2+ピット3+土師器
特記事項	縄文時代早期の遺物包含層、縄文時代晩期の河道、古墳時代前期の竪穴住居2軒(覆土にAs-C堆積)を検出した。
要約	引切塚遺跡は、赤城南西麓にある赤城白川が氾濫し、扇状地を形成した地点に立地する。縄文時代～古墳時代にかけての遺跡である。縄文時代では、隣りの青柳宿上遺跡につながる晩期の河道を検出した。古墳時代では、覆土にAs-C堆積のある前期の竪穴住居を検出した。

遺跡名ふりがな	あおやぎしゅうくうえいせき(しんいせきめい：まえばし0013いせき)
遺跡名	青柳宿上遺跡(新遺跡名：前橋市0013遺跡)
所在地ふりがな	ぐんまけんまえばしあおやぎちょう・にちりんじちょう
遺跡所在地	群馬県前橋市青柳町・日輪寺町
市町村コード	10201
遺跡番号	0013
北緯(世界測地系)	362545
東経(世界測地系)	1390401
調査期間	20120401-20121130
調査面積	11490.39㎡
調査原因	道路建設
種別	集落
主な時代	旧石器/縄文/弥生/古墳/中世/近世以降
遺跡概要	旧石器—割片2点/集落—縄文—竪穴住居1+河道1+土坑14+ピット19+集石14+縄文土器+石器/弥生—半円形の窪地+弥生土器+石器/集落—古墳—竪穴住居29+竪穴状遺構1+溝1+河道1+土坑5+ピット26+土師器+須恵器/中世+畿1/近世以降—道1+陶磁器類+銭貨+鉄製品
特記事項	縄文時代早期の竪穴住居1軒・早期の集石14基・晩期千瀧式期の河道、古墳時代後期6世紀後半の竪穴住居29軒を検出した。弥生中期中葉の土器の残された半円形の窪地では、地震痕跡(液状化痕・地割れ)が確認された。
要約	青柳宿上遺跡は、赤城南西麓にある赤城白川が氾濫し、扇状地を形成した地点に立地する。旧石器～古墳時代の集落遺跡である。縄文時代では、遺跡北半分に広がる縄文早期包含層の中に早期の竪穴住居1軒・集石14基を検出した。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第602集

引切塚遺跡・青柳宿上遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

平成27 (2015)年3月4日 印刷

平成27 (2015)年3月13日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／松本印刷工業株式会社

引切塚遺跡 青柳宿上遺跡

付図 引切塚遺跡・青柳宿上遺跡全体図（1：400）

